

志木市遺跡調査会調査報告 第17集

城山遺跡第 58・60 地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

2 0 0 8

埼玉県志木市遺跡調査会

はじめに

志木市遺跡調査会

会長 白砂 正明

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、面積 9.06km² を有し、人口約 7 万人を擁する自然と文化の調和する都市です。地勢的に概観してみますと、市域中央を流れる新河岸川を境に、南西側が武蔵野台地、北東部が荒川が形成した沖積地（低地）となっています。

こうした環境の中、台地縁辺部や沖積地の自然堤防上には、我々の先人たちが遺した足跡とも言うべき埋蔵文化財包蔵地（遺跡）が 14 ヶ所確認されています。こうした埋蔵文化財包蔵地は、近年の増加傾向にある開発行為によって破壊や消滅の危機にさらされています。

埋蔵文化財は、国民共通の財産であるため、これらを保護し後世に伝えていくことは、私たちに課せられた責務であるということ言うまでもありませんが、本来は“地域の歴史と文化に根ざした歴史的遺産”はその地域で守ることに意味があるものと考えられます。

さて、本書は、平成 18・19 年度に発掘調査が実施された城山遺跡第 58 地点と第 60 地点の発掘調査報告書です。この調査は、元々は、福祉施設建設に伴うものですが、その施設を建設する上で必要な取り付け道路に対しても発掘調査を実施しました。第 58 地点が取り付け道路部分であり、第 60 地点が福祉施設本体の調査です。

調査の内容ですが、この両地点からは、縄文時代から近世にかけての多くの遺構・遺物が発見されました。中でも、古墳時代後期～奈良・平安時代と中・近世の時代については、2 大特色と言うべき貴重な資料が発見されました。前者では、52 軒を超える多くの住居跡が調査区域内のほぼ全域に密集し、膨大な土器なども出土しました。特に、古墳時代後期の 1 軒の住居跡からは、祭祀に関わる遺物として、市内初の土製品の鏡・勾玉が発見されました。中・近世からは、地下室・井戸跡・溝跡・土坑などを中心に、「柏の城関連」に関わる貴重な資料も発見されています。

以上、ここではほんの数例でしか紹介できませんが、本報告の両地点からの貴重な発見により、志木市の歴史にまた新たなる 1 ページが追加されたことは大変喜ばしいことであり、同時に本書が郷土の歴史研究のために広く活用されますよう切に願っております。

最後になりましたが、本書の刊行にあたり、格別のご理解とご協力を頂いた事業主体者、そして深いご理解とご協力を賜りました地元の多くの方々並びに関係者に対し、心から感謝申し上げます。

例 言

1. 本書は、埼玉県志木市に所在する城山遺跡（県No.09-003）の第58地点・第60地点の発掘調査報告書である。
2. 発掘調査及び整理作業は、志木市教育委員会の斡旋により、開発主体者の個人2名から志木市遺跡調査会が委託を受け実施した。
3. 本書の作成において、執筆は以下のとおりに尾形則敏・鈴木 徹（有限会社アルケリサーチ）が行った。
尾形則敏 第1・2章
鈴木 徹 第3章の遺構 遺物
4. 自然科学分析については、パリノ・サーヴェイ株式会社に依頼し、その結果を付編に併載するものとする。
5. 遺物の実測は、鈴木 徹、遺構・遺物のトレースは田中 歩・三上加奈子、写真撮影は中村いわね、編集は中村真理が行った（以上有限会社アルケリサーチ）。
6. 各遺跡の発掘調査及び整理作業・報告書作成には、以下の諸機関・諸氏のご教示・ご援助を賜った。記して感謝する次第である（敬称略）。

埼玉県教育局市町村支援部生涯学習文化財課・（財）埼玉県埋蔵文化財調査事業団・埼玉県立埋蔵文化財センター・朝霞市教育委員会・朝霞市博物館・新座市教育委員会・和光市教育委員会・富士見市教育委員会・富士見市立水子貝塚資料館・志木市立志木第四小学校

荒井幹夫・石井 寛・上田 寛・江原 順・大久保 淳・尾野善裕・加藤秀之・片平雅俊・隈本健介・栗原和彦・小出輝雄・肥沼正和・小滝 勉・小宮恒雄・齋藤欣延・笹森健一・笹森紀巳子・斯波 治・渋谷寛子・鈴木一郎・高崎直成・高橋 学・照林敏郎・鍋島直久・新里 康・根本 靖・野沢 均・長谷川 渉・早坂廣人・福田 聖・堀 善之・松本 完・松本富雄・柳井彰宏・山田尚友・山本 龍・和田晋治

開発主体者（個人2名）

凡 例

1. 本報告書で使用した地図は以下のとおりである。
第1図 1：10,000「志木市全図」アジア航測株式会社調製 平成9年3月志木市1：2,500をデジタルマップにより縮図編集
第2図 1：2,500 ゼンリン電子住宅地図 デジタウン「埼玉県志木市」平成15年8月発行株式会社ゼンリン
2. 挿図版の縮尺は、それぞれに明記した。
3. 遺構挿図版中の水系レベルは、海拔標高を示す。
4. ピット・掘り込み内の数値は、床面もしくは確認面からの深さを示し、単位はcmである。また、同一遺構内にあるピットでも、おそらく後世のピットと思われるものには、数値を省略した。
5. 遺構挿図版中のドットは遺物出土位置を示し、その番号は遺物挿図版中の遺物番号と一致する。
6. 遺構挿図版中のスクリーントーンについては以下に示す。出土状態の●は掲載、●は非掲載遺物を示す。
■ 焼土範囲 ■ 粘土範囲 ■ 柱痕 ■ 炭化材
遺物挿図版中のスクリーントーンは土器の場合は赤彩（黒彩）範囲を、石器の場合は使用痕を示す。遺物断面の・は胎土に繊維を含んでいることを示す。
7. 遺構の略記号は、以下のとおりである。
J = 縄文時代の住居跡 D = 土坑 F P = 炉穴 S = 集石
Y = 弥生時代末葉～古墳時代前期の住居跡 H = 古墳時代～平安時代の住居跡
M = 溝跡 W = 井戸跡 P = ピット

志木市遺跡調査会組織

〈役員〉

会長	柚木 博 (志木市教育委員会教育長) (平成 17 年 10 月～平成 20 年 3 月)
	白砂正明 (”) (平成 20 年 4 月～)
副会長	新井 茂 (志木市教育委員会教育政策部長 (平成 17 年 10 月～)
理事	神山健吉 (志木市文化財保護審議会会長)
	井上國夫 (志木市文化財保護審議会委員)
	高橋長次 (”)
	高橋 豊 (”)
	内田正子 (”)
理事兼事務局長	宮川 英夫 (志木市教育委員会教育政策部参事兼生涯学習課長)
	(平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)
	吉田 洋 (志木市教育委員会教育政策部生涯学習課長) (平成 19 年 4 月～)

〈監査〉

監事	原田隆一 (志木市教育委員会教育総務課長) (平成 18 年 4 月～平成 20 年 3 月)
	菊原龍治 (”) (平成 20 年 4 月～)
	鈴木幸治郎 (志木市会計課長) (平成 18 年 4 月～)

〈事務局〉

担当課	志木市教育委員会教育政策部生涯学習課
理事兼事務局長	宮川 英夫 (教育政策部参事兼生涯学習課長) (平成 18 年 4 月～平成 19 年 3 月)
	吉田 洋 (志木市教育委員会教育政策部生涯学習課長) (平成 19 年 4 月～)
事務局	土岐隆一 (生涯学習課副課長) (平成 20 年 4 月～)
	醍醐一正 (生涯学習課主幹) (平成 18 年 8 月～平成 19 年 3 月)
	内田 誠 (”) (平成 18 年 4 月～7 月)
	今野美香 (”) (平成 19 年 4 月～11 月)
	大熊克之 (”) (平成 19 年 12 月～)
	佐々木保俊 (生涯学習課主査) (昭和 61 年～)
	尾形則敏 (生涯学習課主任) (昭和 62 年～)
	松永真知子 (”) (平成 18 年 4 月～)
	高野雅也 (”) (平成 20 年 4 月～)

〈発掘調査〉

調査担当者	尾形則敏
調査員	藤波啓容・鈴木 徹・新堀 哲 (第 60 地点)
調査協力員	松原賢治 新井孝典 石村 崇 大津美衣里 小山佐知子 齊藤京子 櫻井弘晃
	清水広幸 高橋豊治 中島良太 中村雅美 早坂雅義 本間建一 宮本和野 本山真一
	(以上第 58 地点)
	岡田大輔 熊坂正史 石崎興亜 市川 弥 市瀬俊一 伊藤啓子 今井幸雄
	岩森愛子 宇野典夫 奥田康子 小高真理子 木村善幸 小池一好 佐藤美津子
	島田博樹 城本勝眞 鈴木ひとみ 鈴木浩子 高杉朝子 高橋利行 竹内紀子
	田中俊光 田中雅代 谷口 陸 塚田和枝 土屋富子 永井真理 中林恵澄
	中山繁樹 成田しのぶ 二階堂美知子 野崎省二 浜野ミス 原口盛広 原口由美子
	樋口和子 肥后幸子 福井 茂 星野恵美子 松崎陽子 松村 環 松本 栄
	柳谷克実 矢部亮司 山口俊一 横山健治 渡辺文雄 (以上第 60 地点)

〈整理作業〉

調査員	藤波啓容・鈴木 徹・稲村太郎・大賀秀実・中村智美・中村真理
整理協力員	菊池厚子・小林佐恵子・田中 歩・中村いわね・三上加奈子・三須光子

目 次

はじめに

例 言／凡 例／志木市遺跡調査会組織／目 次／挿図目次／表 目 次／図版目次

第1章 遺跡の立地と環境	1
第1節 市域の地形と遺跡	1
第2節 城山遺跡の概要	11
第2章 発掘調査の概要	18
第1節 調査に至る経緯	18
第2節 調査の方法と経過	22
第3節 基本層序	28
第3章 検出された遺構と遺物	29
第1節 縄文時代	29
(1) 概 要	29
(2) 土 坑	29
(3) 集 石	39
(4) 炉 穴	41
第2節 古墳時代	45
(1) 概 要	45
(2) 住居跡	45
(3) ピット	198
第3節 奈良・平安時代	224
(1) 概 要	224
(2) 住居跡	224
(3) 掘立柱建築遺構	250
(4) 溝 跡	252
(5) ピット	252
第4節 中世以降	259
(1) 概 要	259
(2) 土 坑	259
(3) 井戸跡	306
(4) 溝 跡	308
(5) 道路状遺構	319
(6) ピット	322
第5節 遺構外出土遺物	342
引用・参考文献	355
[付 編] 城山遺跡第58・60地点の自然科学分析	356

図 版

報告書抄録

挿図目次

第 1 図	市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)	2
第 2 図	城山遺跡の調査地点 (1/5,000)	13
第 3 図	第 58・60 地点試掘調査 (1/500)	20・21
第 4 図	基本層序	28
第 5 図	遺構分布図 (1/500)	30・31
第 6 図	第 58 地点 遺構分布図 (1/250)	32・33
第 7 図	第 60 地点 遺構分布図 (1/250)	34・35
第 8 図	縄文時代の遺構分布図 (1/500)	36・37
第 9 図	土坑 1 (1/30)	38
第 10 図	400 号土坑出土遺物 (1/3)	38
第 11 図	集石 (1/30)	40
第 12 図	5 号集石出土遺物 (1/3)	40
第 13 図	土坑 2・炉穴 1 (1/60)	42
第 14 図	453 号土坑出土遺物 (1/3)	42
第 15 図	炉穴 2	43
第 16 図	5 号炉穴出土遺物 (1/3)	44
第 17 図	6 号炉穴出土遺物 (1/3)	44
第 18 図	古墳時代の遺構分布図 (1/500)	46・47
第 19 図	120 号住居跡 (1/60)	48
第 20 図	120 号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)	48
第 21 図	165 号住居跡 1 (1/60)	50
第 22 図	165 号住居跡 2 (1/60)	51
第 23 図	165 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	52
第 24 図	165 号住居跡カマド A (1/30)	53
第 25 図	165 号住居跡カマド B・カマド C (1/30)	54
第 26 図	165 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	55
第 27 図	165 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/4)	56
第 28 図	167 号住居跡 (1/60)	57
第 29 図	167 号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	57
第 30 図	171 号住居跡 (1/60)	58
第 31 図	171 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	59
第 32 図	171 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	60
第 33 図	172 号住居跡 (1/60)	61
第 34 図	172 号住居跡出土遺物 (1/4)	62
第 35 図	173 号住居跡 1 (1/60)	63
第 36 図	173 号住居跡 2 (1/60)	64
第 37 図	173 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	64
第 38 図	173 号住居跡カマド (1/30)	65
第 39 図	173 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	66
第 40 図	173 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/4)	67
第 41 図	174 号住居跡 (1/60)	68
第 42 図	174 号住居跡出土遺物 (1/4)	68
第 43 図	175 号住居跡 (1/60)	69
第 44 図	176 号住居跡 (1/60)	70
第 45 図	176 号住居跡出土遺物 (1/4)	71
第 46 図	177 号住居跡 (1/60)	72
第 47 図	177 号住居跡カマド (1/30)	73
第 48 図	177 号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)	73
第 49 図	178 号住居跡 (1/60)	75
第 50 図	178 号住居跡カマド (1/30)	76
第 51 図	178 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	76
第 52 図	179 号住居跡 (1/60)	77
第 53 図	180 号住居跡 (1/60)	78
第 54 図	181 号住居跡 (1/60)	79

第 55 図	181 号住居跡出土遺物 (1/4)	79
第 56 図	182 号住居跡 (1/60)	80
第 57 図	182 号住居跡カマド (1/30)	81
第 58 図	182 号住居跡出土遺物 (1/4)	82
第 59 図	183 号住居跡 (1/60)	83
第 60 図	183 号住居跡出土遺物 (1/4)	83
第 61 図	184 号住居跡 (1/60)	84
第 62 図	184 号住居跡カマド (1/30)	84
第 63 図	184 号住居跡出土遺物 (1/4)	85
第 64 図	185 号住居跡 (1/60)	86
第 65 図	185 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	87
第 66 図	185 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	88
第 67 図	185 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/4)	89
第 68 図	186・187 号住居跡住居跡 (1/60)	90
第 69 図	186 号住居跡出土遺物 (1/4)	90
第 70 図	187 号住居跡出土遺物 (1/4)	90
第 71 図	188 号住居跡 1 (1/60)	92
第 72 図	188 号住居跡 2 (1/60)・188 号住居跡カマド (1/30)	93
第 73 図	188 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	94
第 74 図	189 号住居跡 1 (1/60)	96
第 75 図	189 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	97
第 76 図	189 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	98
第 77 図	189 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	99
第 78 図	190 号住居跡 (1/60)	100
第 79 図	190 号住居跡カマド (1/30)	100
第 80 図	190 号住居跡出土遺物 (1/4)	101
第 81 図	191 号住居跡 (1/60)	102
第 82 図	191 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	103
第 83 図	191 号住居跡カマド (1/30)	103
第 84 図	191 号住居跡出土遺物 (1/4)	104
第 85 図	192 号住居跡 (1/60)	105
第 86 図	192 号住居跡カマド (1/30)	106
第 87 図	192 号住居跡出土遺物 (1/4)	107
第 88 図	193 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	108
第 89 図	193 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	109
第 90 図	193 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	110
第 91 図	194 号住居跡 (1/60)	111
第 92 図	194 号住居跡出土遺物 (1/4)	111
第 93 図	196 号住居跡 (1/60)	112
第 94 図	196 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	113
第 95 図	196 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	114
第 96 図	196 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/3・1/4)	115
第 97 図	197 住居跡 (1/60)	116
第 98 図	197 号住居跡出土遺物 (1/4)	116
第 99 図	200 号住居跡 (1/60)	117
第 100 図	200 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	118
第 101 図	200 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	119
第 102 図	200 号住居跡出土遺物 2 (1/3・1/4)	120
第 103 図	203 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)	122
第 104 図	203 号住居跡カマド (1/30)	123
第 105 図	203 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	124
第 106 図	204 号住居跡 (1/60)	125
第 107 図	204 号住居跡カマド (1/30)	126
第 108 図	204 号住居跡出土遺物 (1/4)	127
第 109 図	207 号住居跡 (1/60)	128
第 110 図	207 号住居跡出土遺物 (1/4)	129
第 111 図	209 号住居跡 (1/60)	130

第 112 図	209 号住居跡カマド (1/30)	131
第 113 図	209 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	132
第 114 図	209 号住居跡出土遺物 2 (1/3・1/4)	133
第 115 図	211 号住居跡 (1/60)	135
第 116 図	211 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・住居跡カマド (1/30)	136
第 117 図	211 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	137
第 118 図	211 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	138
第 119 図	211 号住居跡出土遺物 3 (1/3・1/4)	139
第 120 図	213 号住居跡 (1/60)	140
第 121 図	213 号住居跡カマド (1/30)	141
第 122 図	213 号住居跡出土遺物 (1/4)	142
第 123 図	214 号住居跡 (1/60)	144
第 124 図	214 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	145
第 125 図	214 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	146
第 126 図	214 号住居跡出土遺物 2 (1/3・1/4)	147
第 127 図	215 号住居跡 1 (1/60)	148
第 128 図	215 号住居跡 2 (1/60)	149
第 129 図	215 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	150
第 130 図	215 号住居跡カマド (1/30)	151
第 131 図	215 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	152
第 132 図	215 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	153
第 133 図	216 号住居跡 (1/60)	154
第 134 図	216 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	155
第 135 図	216 号住居跡出土遺物 (1/4)	156
第 136 図	217 号住居跡 1 (1/60)	157
第 137 図	217 号住居跡 2 (1/60)・カマド (1/30)	158
第 138 図	217 号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)	159
第 139 図	218 号住居跡 (1/60)	161
第 140 図	218 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)	162
第 141 図	218 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	163
第 142 図	218 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	164
第 143 図	218 号住居跡出土遺物 3 (1/4)	165
第 144 図	218 号住居跡出土遺物 4 (1/2・1/4)	166
第 145 図	219 号住居跡 (1/60)	167
第 146 図	219 号住居跡出土遺物 (1/4)	168
第 147 図	220 号住居跡 (1/60)・カマド (1/30)	169
第 148 図	220 号住居跡出土遺物 (1/4)	170
第 149 図	221 号住居跡 (1/60)・出土遺物 (1/4)	171
第 150 図	222 号住居跡 (1/60)	172
第 151 図	222 号住居跡カマド (1/30)	173
第 152 図	222 号住居跡出土遺物 (1/4)	174
第 153 図	223 号住居跡 (1/60)	176
第 154 図	223 号住居跡カマド (1/30)	177
第 155 図	223 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	178
第 156 図	223 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/3・1/4)	179
第 157 図	224 号住居跡 1 (1/60)	180
第 158 図	224 号住居跡 2 (1/60)	181
第 159 図	224 号住居跡遺物出土状態 (1/60)	182
第 160 図	224 号住居跡カマド (1/30)	183
第 161 図	224 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	184
第 162 図	224 号住居跡出土遺物 2 (1/4)	185
第 163 図	224 号住居跡出土遺物 3 (1/4)	186
第 164 図	224 号住居跡出土遺物 4 (1/2)	187
第 165 図	225 号住居跡 (1/60)	188
第 166 図	225 号住居跡カマド (1/30)	189
第 167 図	225 号住居跡出土遺物 (1/4)	189

第 168 図	226 号住居跡 (1/60)	190
第 169 図	226 号住居跡カマド (1/30)	191
第 170 図	226 号住居跡出土遺物 (1/4)	192
第 171 図	227 号住居跡 (1/60)	193
第 172 図	227 号住居跡カマド (1/30)	194
第 173 図	227 号住居跡出土遺物 (1/4)	194
第 174 図	228 号住居跡 1 (1/60)	195
第 175 図	228 号住居跡 2 (1/60)	196
第 176 図	228 号住居跡出土遺物 (1/4)	196
第 177 図	229 号住居跡 (1/60)	197
第 178 図	229 号住居跡出土遺物 (1/4)	198
第 179 図	第 60 地点 94 号ピット (1/60)・出土遺物 (1/4)	198
第 180 図	奈良・平安時代の遺構分布図 (1/500)	222・223
第 181 図	195 号住居跡 (1/60)	225
第 182 図	195 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	225
第 183 図	198 号住居跡 (1/60)	226
第 184 図	198 号住居跡カマド (1/30)	226
第 185 図	198 号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	227
第 186 図	199 号住居跡 (1/60)	228
第 187 図	199 号住居跡カマド (1/30)	229
第 188 図	199 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	230
第 189 図	201 号住居跡 (1/60)	231
第 190 図	201 号住居跡出土遺物 (1/4)	232
第 191 図	202 号住居跡 (1/60)	233
第 192 図	202 号住居跡カマド A (1/30)	234
第 193 図	202 号住居跡カマド B (1/30)	235
第 194 図	202 号住居跡出土遺物 1 (1/4)	235
第 195 図	202 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/3・1/4)	236
第 196 図	205 号住居跡 (1/60)	237
第 197 図	205 号住居跡カマド (1/30)	237
第 198 図	205 号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	238
第 199 図	206 号住居跡 (1/60)	239
第 200 図	206 号住居跡カマド (1/30)	240
第 201 図	206 号住居跡出土遺物 (1/4)	240
第 202 図	208 号住居跡 (1/60)	241
第 203 図	208 号住居跡カマド (1/30)	241
第 204 図	208 号住居跡出土遺物 (1/4)	242
第 205 図	210 号住居跡 (1/60)	244
第 206 図	210 号住居跡カマド (1/30)	245
第 207 図	210 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)	246
第 208 図	212 号住居跡 (1/60)	247
第 209 図	212 号住居跡カマド (1/30)	248
第 210 図	212 号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)	249
第 211 図	4 号掘立柱建築遺構 (1/60)	250
第 212 図	6 号掘立柱建築遺構 (1/60)	251
第 213 図	6 号掘立柱建築遺構出土遺物 (1/2・1/4)	252
第 214 図	38 号溝跡 (1/60)	253
第 215 図	38 号溝跡出土遺物 (1/4)	253
第 216 図	第 60 地点 49 号ピット出土遺物 (1/4)	253
第 217 図	中世以降遺構分布図 (1/500)	260・261
第 218 図	土坑 A 群 1 類 (1/60)	262
第 219 図	土坑 B 群 1 類 1 (1/60)	265
第 220 図	土坑 B 群 1 類 2 (1/60)	266
第 221 図	土坑 B 群 1 類 3 (1/60)	267
第 222 図	土坑 B 群 1 類 4 (1/60)	268
第 223 図	土坑 B 群 1 類 5 (1/60)	269

第 224 図	土坑B群1類6 (1/60)	270
第 225 図	土坑B群1類7 (1/60)	271
第 226 図	土坑B群1類8 (1/60)	272
第 227 図	土坑B群2類1 (1/60)	274
第 228 図	土坑B群2類2 (1/60)	275
第 229 図	土坑B群2類3 (1/60)	276
第 230 図	土坑B群2類4 (1/60)	277
第 231 図	土坑B群2類5 (1/60)	278
第 232 図	土坑B群3類1 (1/60)	280
第 233 図	土坑B群3類2 (1/60)	281
第 234 図	土坑B群3類3 (1/60)	282
第 235 図	土坑B群3類4 (1/60)	283
第 236 図	土坑B群3類5 (1/60)	284
第 237 図	土坑C群1 (1/60)	285
第 238 図	土坑C群2 (1/60)	286
第 239 図	土坑D群1 (1/60)	289
第 240 図	土坑D群2 (1/60)	290
第 241 図	土坑D群3 (1/60)	291
第 242 図	土坑D群4 (1/60)	292
第 243 図	土坑D群5 (1/60)	293
第 244 図	土坑D群6 (1/60)	294
第 245 図	土坑D群7 (1/60)	295
第 246 図	土坑D群8 (1/60)	296
第 247 図	土坑E群1類 (1/60)	300
第 248 図	土坑E群2類1 (1/60)	302
第 249 図	土坑E群2類2 (1/60)	303
第 250 図	土坑E群2類3 (1/60)	304
第 251 図	土坑E群2類4 (1/60)	305
第 252 図	井戸跡 (1/60)	307
第 253 図	溝跡1 (1/60)	309
第 254 図	溝跡2 (1/60)	311
第 255 図	溝跡3 (1/60)	312
第 256 図	溝跡4 (1/120・1/60)	314
第 257 図	溝跡5 (1/60)	315
第 258 図	溝跡6 (1/120・1/60)	316
第 259 図	溝跡7 (1/60)	318
第 260 図	溝跡8 (1/120・1/60)	320
第 261 図	1号道路状遺構 (1/60)	321
第 262 図	ピット (1/60)	323
第 263 図	土坑出土遺物 1 (1/4・1/2・4/5)	330
第 264 図	土坑出土遺物 2 (1/4・1/2・1/3・4/5)	331
第 265 図	土坑出土遺物 3 (1/4・1/2・1/3・4/5)	332
第 266 図	土坑出土遺物 4 (1/4・1/3・4/5)	333
第 267 図	土坑出土遺物 5 (1/4)	334
第 268 図	井戸跡・溝跡出土遺物 (1/4・1/2)	335
第 269 図	井戸跡・溝跡出土遺物 (1/4・1/2・1/3・2/3・4/5)	336
第 270 図	第60地点 ピット出土遺物 (1/4・4/5)	337
第 271 図	遺構外出土遺物1 (1/3)	343
第 272 図	遺構外出土遺物2 (1/3)	344
第 273 図	遺構外出土遺物3 (1/3)	345
第 274 図	遺構外出土遺物4 (1/3・1/4)	346
第 275 図	遺構外出土遺物5 (1/4・1/3・2/3)	347
第 276 図	遺構外出土遺物6 (2/3)	348
第 277 図	遺構外出土遺物7 (1/3・2/3)	349
第 278 図	遺構外出土遺物8 (1/2・1/3・4/5)	350
第 279 図	ウマ上顎骨の概念図	358
第 280 図	ウマの骨格	358

表 目 次

第 1 表	志木市埋蔵文化財包蔵地一覧	1
第 2 表	志木市の時代別にみた考古資料一覧 (1)	6
第 2 表	志木市の時代別にみた考古資料一覧 (2)	7
第 2 表	志木市の時代別にみた考古資料一覧 (3)	8
第 2 表	志木市の時代別にみた考古資料一覧 (4)	9
第 3 表	志木市の発掘調査報告書一覧	10
第 4 表	城山遺跡調査一覧 (1)	14
第 4 表	城山遺跡調査一覧 (2)	15
第 5 表	城山遺跡第 58 地点の発掘調査工程表 (1)	23
第 5 表	城山遺跡第 58 地点の発掘調査工程表 (2)	24
第 6 表	城山遺跡第 60 地点の発掘調査工程表 (1)	25
第 6 表	城山遺跡第 60 地点の発掘調査工程表 (2)	26
第 6 表	城山遺跡第 60 地点の発掘調査工程表 (3)	27
第 7 表	縄文時代出土遺物	44
第 8 表	120 号住居跡出土遺物一覧	199
第 9 表	165 号住居跡出土土器一覧	199
第 10 表	167 号住居跡出土土器一覧 (1)	199
第 10 表	167 号住居跡出土土器一覧 (2)	200
第 11 表	171 号住居跡出土土器一覧	200
第 12 表	172 号住居跡出土土器一覧	201
第 13 表	173 号住居跡出土土器一覧 (1)	201
第 13 表	173 号住居跡出土土器一覧 (2)	202
第 14 表	174 号住居跡出土土器一覧	202
第 15 表	176 号住居跡出土土器一覧	202
第 16 表	177 号住居跡出土土器一覧	202
第 17 表	178 号住居跡出土土器一覧	202
第 18 表	181 号住居跡出土土器一覧	203
第 19 表	182 号住居跡出土土器一覧	203
第 20 表	183 号住居跡出土土器一覧	203
第 21 表	184 号住居跡出土土器一覧	203
第 22 表	185 号住居跡出土土器一覧 (1)	203
第 22 表	185 号住居跡出土土器一覧 (2)	204
第 23 表	186 号住居跡出土土器一覧	204
第 24 表	187 号住居跡出土土器一覧	204
第 25 表	188 号住居跡出土土器一覧	205
第 26 表	189 号住居跡出土土器一覧	205
第 27 表	190 号住居跡出土土器一覧 (1)	205
第 27 表	190 号住居跡出土土器一覧 (2)	206
第 28 表	191 号住居跡出土土器一覧	206
第 29 表	192 号住居跡出土土器一覧	206
第 30 表	193 号住居跡出土土器一覧 (1)	206
第 30 表	193 号住居跡出土土器一覧 (2)	207
第 31 表	194 号住居跡出土土器一覧	207
第 32 表	196 号住居跡出土土器一覧 (1)	207
第 32 表	196 号住居跡出土土器一覧 (2)	208
第 33 表	197 号住居跡出土土器一覧	208
第 34 表	200 号住居跡出土土器一覧 (1)	208
第 34 表	200 号住居跡出土土器一覧 (2)	209
第 35 表	203 号住居跡出土土器一覧	209
第 36 表	204 号住居跡出土土器一覧	210
第 37 表	207 号住居跡出土土器一覧	210
第 38 表	209 号住居跡出土土器一覧 (1)	210
第 38 表	209 号住居跡出土土器一覧 (2)	211
第 39 表	211 号住居跡出土土器一覧 (1)	211

第 39 表	211 号住居跡出土土器一覧 (2)	212
第 40 表	213 号住居跡出土土器一覧	212
第 41 表	214 号住居跡出土土器一覧	213
第 42 表	215 号住居跡出土土器一覧 (1)	213
第 42 表	215 号住居跡出土土器一覧 (2)	214
第 43 表	216 号住居跡出土土器一覧	214
第 44 表	217 号住居跡出土土器一覧	215
第 45 表	218 号住居跡出土土器一覧 (1)	215
第 45 表	218 号住居跡出土土器一覧 (2)	216
第 46 表	219 号住居跡出土土器一覧	216
第 47 表	220 号住居跡出土土器一覧	216
第 48 表	221 号住居跡出土土器一覧	216
第 49 表	222 号住居跡出土土器一覧 (1)	216
第 49 表	222 号住居跡出土土器一覧 (2)	217
第 50 表	223 号住居跡出土土器一覧	217
第 51 表	224 号住居跡出土土器一覧 (1)	217
第 51 表	224 号住居跡出土土器一覧 (2)	218
第 51 表	224 号住居跡出土土器一覧 (3)	219
第 52 表	225 号住居跡出土土器一覧	219
第 53 表	226 号住居跡出土土器一覧	219
第 54 表	227 号住居跡出土土器一覧	219
第 55 表	228 号住居跡出土土器一覧	219
第 56 表	229 号住居跡出土土器一覧	219
第 57 表	第 60 地点 94 号ピット出土土器一覧	219
第 58 表	第 58 地点遺構出土の土製品一覧	220
第 59 表	第 60 地点遺構出土の土製品一覧	220
第 60 表	第 58 地点遺構出土の石器一覧	221
第 61 表	第 60 地点遺構出土の石器一覧	221
第 62 表	第 58 地点遺構出土の金属製品一覧	221
第 63 表	第 60 地点遺構出土の金属製品一覧	221
第 64 表	195 号住居跡出土土器一覧	254
第 65 表	198 号住居跡出土土器一覧	254
第 66 表	199 号住居跡出土土器一覧 (1)	254
第 66 表	199 号住居跡出土土器一覧 (2)	255
第 67 表	201 号住居跡出土土器一覧	255
第 68 表	202 号住居跡出土土器一覧	255
第 69 表	205 号住居跡出土土器一覧	256
第 70 表	206 号住居跡出土土器一覧	256
第 71 表	208 号住居跡出土土器一覧 (1)	256
第 71 表	208 号住居跡出土土器一覧 (2)	257
第 72 表	210 号住居跡出土土器一覧	257
第 73 表	212 号住居跡出土土器一覧 (1)	257
第 73 表	212 号住居跡出土土器一覧 (2)	258
第 74 表	第 58 地点遺構出土土器一覧	258
第 75 表	第 60 地点遺構出土土器一覧	258
第 76 表	第 60 地点遺構出土土製品一覧	258
第 77 表	第 60 地点遺構出土石器一覧	258
第 78 表	第 60 地点遺構出土の金属製品一覧	258
第 79 表	土坑集計表	262
第 80 表	第 58 地点 土坑 A 群一覧	324
第 81 表	第 58 地点 土坑 B 群一覧	324
第 82 表	第 60 地点 土坑 B 群一覧 (1)	324
第 82 表	第 60 地点 土坑 B 群一覧 (2)	325
第 83 表	第 58 地点 土坑 C 群一覧	325
第 84 表	第 60 地点 土坑 C 群一覧	325
第 85 表	第 58 地点 土坑 D 群一覧	326
第 86 表	第 60 地点 土坑 D 群一覧	326

第 87 表	第 58 地点	土坑 E 群一覧	326
第 88 表	第 60 地点	土坑 E 群一覧	327
第 89 表	第 60 地点	井戸跡一覧	327
第 90 表	第 58 地点	溝跡一覧	327
第 91 表	第 60 地点	溝跡一覧 (1)	327
第 91 表	第 60 地点	溝跡一覧 (2)	328
第 92 表	第 58 地点	道路状遺構一覧	328
第 93 表	第 58 地点	ピット一覧	328
第 94 表	第 60 地点	ピット一覧 (1)	328
第 94 表	第 60 地点	ピット一覧 (2)	329
第 95 表	遺構出土陶磁器・土器一覧 (1)		338
第 95 表	遺構出土陶磁器・土器一覧 (2)		339
第 96 表	第 58 地点	遺構出土土製品一覧	339
第 97 表	第 60 地点	遺構出土土製品一覧	339
第 98 表	第 58 地点	遺構出土石器一覧	340
第 99 表	第 60 地点	遺構出土石器一覧	340
第 100 表	第 58 地点	遺構出土金属製品一覧	340
第 101 表	第 60 地点	遺構出土金属製品一覧	340
第 102 表	第 58 地点	遺構出土銭貨一覧	340
第 103 表	第 60 地点	遺構出土銭貨一覧	341
第 104 表	第 58 地点	遺構外出土縄文土器遺物一覧	351
第 105 表	第 60 地点	遺構外出土縄文土器遺物一覧 (1)	351
第 105 表	第 60 地点	遺構外出土縄文土器遺物一覧 (2)	352
第 106 表	第 58 地点	遺構外出土土器一覧	353
第 107 表	第 60 地点	遺構外出土土器一覧	353
第 108 表	第 60 地点	遺構外出土土製品一覧	353
第 109 表	第 58 地点	遺構外出土石器一覧	353
第 110 表	第 60 地点	遺構外出土石器一覧 (1)	353
第 110 表	第 60 地点	遺構外出土石器一覧 (2)	354
第 111 表	第 60 地点	遺構外出土金属製品一覧	354
第 112 表	第 60 地点	遺構外出土銭貨一覧	354
第 113 表	種実同定結果		357
第 114 表	検出分類群一覧		357
第 115 表	骨貝類同定結果		358

図版目次

図版 1	第 60 地点	調査区全景
図版 2	第 60 地点	調査区遠景 第 60 地点 調査区遠景
図版 3	調査区近景	表土剥ぎ状況 基本土層 1 基本土層 2 400 号土坑セクション 452 号土坑セクション 453 号土坑 5 号炉穴 (手前が炉床)
図版 4	120 号住居跡	165 号住居跡貯蔵穴 1 セクション 165 号住居跡貯蔵穴 2 遺物出土状況 165 号住居跡 カマド 3 遺物出土状況 1 165 号住居跡カマド 3 遺物出土状況 2 165 号住居跡 167 号住居跡 171 号住居跡遺物出土状況 1
図版 5	171 号住居跡遺物出土状況 2	171 号住居跡貯蔵穴セクション 171 号住居跡 172 号住居跡 172 号 住居跡カマド 173 号住居跡遺物出土状況 173 号住居跡遺物出土状況 (部分 1) 173 号住居跡遺物出 土状況 (部分 2)
図版 6	173 号住居跡カマド	173 号住居跡貯蔵穴 173 号住居跡 174 号住居跡遺物・炭化材出土状況 174 号住居跡 175 号住居跡 176 号住居跡遺物出土状況 1 176 号住居跡遺物出土状況 2
図版 7	176 号住居跡遺物出土状況 3	176 号住居跡 177 号住居跡遺物出土状況 177 号住居跡貯蔵穴セクショ ン 177 号住居跡カマド 177 号住居跡 178 号住居跡貯蔵穴 178 号住居跡
図版 8	178 号住居跡カマド	179 号住居跡 180 号住居跡 181 号住居跡 181 号住居跡カマド 182 号住居 跡カマド 182 号住居跡 183 号住居跡
図版 9	184 号住居跡	185 号住居跡遺物出土状況 (焼土上) 185 号住居跡遺物出土状況 (床面上) 185 号住 居跡遺物出土状況 (貯蔵穴上) 185 号住居跡貯蔵穴セクション 185 号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 185 号住居跡 P1 セクション 185 号住居跡 P3 セクション

- 図版 10 185号住居跡カマド 185号住居跡 185号住居跡P2(貯蔵穴) 186・187号住居跡 4号掘立柱建築遺構 6号掘立柱建築遺構(36・37Pは未掘) A群1類434号土坑 B群1類438・439・440・444号土坑
- 図版 11 B群1・2類403・420・422・432号土坑 B群2類392号土坑 B群3類381号土坑 381号土坑セクション B群3類390号土坑 B群3類413号土坑 B群3類421号土坑 C群399号土坑
- 図版 12 D群404号土坑 D群414・415号土坑 D群416号土坑 D群435号土坑 E群1類397号土坑入口竪坑部 397号土坑入口竪坑部足掛け穴 397号土坑主体部埋没状況 E群1類398号土坑
- 図版 13 E群1類401号土坑 E群2類433号土坑入口竪坑部 34号溝跡 35号溝跡北半部 35号溝跡南半部 35号溝跡セクションB北半部 35号溝跡セクションB南半部 36号溝跡
- 図版 14 36号溝跡セクションB 36号溝跡土鍋出土状況 1区南半部全景 37号溝跡 38号溝跡 38号溝跡セクションA 1号道路状遺構第3面全景(2区)
- 図版 15 1号道路状遺構セクション(2区) 1号道路状遺構第4面全景(2区) 1号道路状遺構第4面全景(2区) 1号道路状遺構(3区) 調査風景(165号住居跡) 調査風景(173号住居跡) 調査風景(185号住居跡)
- 図版 16 周辺の状況(右上が柳瀬川と流域低地) 第60地点調査区全景(H~Jグリッドは一部未掘) 調査区全景(西側・グリッドA~E) 調査区全景(中央・グリッドF・G) 調査区全景(東側・グリッドH~J) 調査区近景 基本土層1 基本土層2
- 図版 17 基本土層3 基本土層4 6~8号炉穴 6号炉穴(右が炉床) 7号炉穴(左が炉床) 8号炉穴セクション 3~5号集石 3号集石セクション
- 図版 18 3号集石土坑底面被熱状況 4号集石セクション 5号集石セクション 502号土坑セクション 182号住居跡貯蔵穴1セクション 182号住居跡 184号住居跡貯蔵穴セクション 184号住居跡カマド
- 図版 19 188号住居跡カマド 188号住居跡 189号住居跡遺物出土状況 189号住居跡貯蔵穴 189号住居跡カマド 189号住居跡 190号住居跡カマド 190号住居跡
- 図版 20 191号住居跡遺物・炭化材出土状況 191号住居跡貯蔵穴セクション 191号住居跡カマド 191号住居跡 192号住居跡カマド 192号住居跡 193号住居跡遺物出土状況 193号住居跡
- 図版 21 194号住居跡 195号住居跡 196号住居跡貯蔵穴 196号住居跡カマド1 196号住居跡 197号住居跡 198号住居跡カマド 198号住居跡
- 図版 22 199号住居跡カマド 199号住居跡 200号住居跡遺物出土状況 200号住居跡カマド 200号住居跡貯蔵穴 200号住居跡 201号住居跡炉?跡 201号住居跡
- 図版 23 202号住居跡鉄鏃出土状況 202号住居跡セクション 202号住居跡炭化材出土状況 202号住居跡カマドB 202号住居跡カマドA 203号住居跡遺物出土状況 203号住居跡カマド 203号住居跡
- 図版 24 204号住居跡カマド 204号住居跡 205号住居跡カマド 205号住居跡 206号住居跡カマド 206号住居跡 207号住居跡 208号住居跡
- 図版 25 208号住居跡カマド 209号住居跡遺物出土状況 209号住居跡貯蔵穴 209号住居跡カマド 209号住居跡 209号B住居跡貯蔵穴セクション 209号B住居跡カマドセクション 209号住居跡掘方と209号B住居跡
- 図版 26 210号住居跡カマド 210号住居跡カマド掘方 210号住居跡 211号住居跡遺物出土状況 211号住居跡貯蔵穴 211号住居跡P1セクション 211号住居跡カマド 211号住居跡
- 図版 27 212号住居跡カマド 212号住居跡 213号住居跡カマド 213号住居跡 214号住居跡遺物出土状況 214号住居跡カマド 214号住居跡カマド袖部芯材 214号住居跡(カマドは掘方)
- 図版 28 214号住居跡壁面ピット(西壁) 214号住居跡壁面ピット(東壁) 214号住居跡壁面ピット(南壁) 215号住居跡カマド 215号住居跡 215号B住居跡(228号住居跡周溝既掘) 216号住居跡遺物出土状況 216号住居跡カマド
- 図版 29 216号住居跡 217号住居跡カマド 217号住居跡 218号住居跡遺物出土状況1 218号住居跡遺物出土状況2(P4付近) 218号住居跡カマド(右脇に土製支脚出土) 218号住居跡 219号住居跡炉セクション
- 図版 30 219号住居跡 220号住居跡遺物出土状況1 220号住居跡遺物出土状況2 220号住居跡貯蔵穴セクション 220号住居跡カマド 220号住居跡 221号・229号住居跡 222号住居跡遺物出土状況
- 図版 31 222号住居跡カマド 222号住居跡(貯蔵穴(旧)は未掘) 223号住居跡貯蔵穴 223号住居跡カマド 223号住居跡 224号住居跡セクション西半部 224号住居跡土製模造品出土状況 224号住居跡カマド脇土器群出土状況1
- 図版 32 224号住居跡カマド脇土器群出土状況2 224号住居跡カマド 224号住居跡カマド転用支脚出土状況 224号住居跡 225号住居跡カマド 225号住居跡 226号住居跡遺物出土状況 226号住居跡カマド
- 図版 33 226号住居跡 227号住居跡カマド 228号住居跡 228号住居跡貯蔵穴セクション 228号住居跡 94号ピット遺物出土状況 B群1類510~517号土坑 B群2類547号土坑
- 図版 34 B群3類553号土坑 553号土坑セクション 553号土坑P1 553号土坑P2 553号土坑P3 553号土坑P4 553号土坑P5 553号土坑P6

- 図版 35 C群 454号土坑 D群 459号土坑 E群 1類 483・554号土坑 E群 1類 518号土坑 E群 1類 518号土坑入口竪坑部連結状況 E群 1類 518号土坑入口竪坑部足掛け穴 E群 1類 554号土坑 E群 2類 461号土坑
- 図版 36 E群 2類 461号土坑内部(入口と正面主体部C) E群 2類 496号土坑 E群 2類 496号土坑主体部A・B E群 2類 496号土坑主体部B・C E群 2類 496号土坑主体部D 31号井戸跡礫堆積状況 31号井戸跡 32号井戸跡
- 図版 37 33号井戸跡 34号井戸跡 35号井戸跡 39号溝跡 40号溝跡セクションB 40号溝跡セクションD 40号溝跡セクションE 40号溝跡セクションH
- 図版 38 40号溝跡セクションF 40号溝跡全景1 40号溝跡全景2 40号溝跡全景3 40号溝跡西辺部 40号溝跡南辺部 40号溝跡東辺部 41号溝跡
- 図版 39 42号溝跡 43・44号溝跡 45号溝跡 46号溝跡 27号ピット緞銭検出状況 27号ピット緞銭状態調査風景(213号住居跡ほか) 宗岡小学校児童の現場見学
- 図版 40 400号土坑出土遺物 453号土坑出土遺物 5号炉穴跡出土遺物 5号集石出土遺物 6号炉穴出土遺物 120号住居跡出土遺物 165号住居跡出土遺物 1
- 図版 41 165号住居跡出土遺物 2 167号住居跡出土遺物 171号住居跡出土遺物 1
- 図版 42 171号住居跡出土遺物 2 172号住居跡出土遺物 173号住居跡出土遺物 1
- 図版 43 173号住居跡出土遺物 2
- 図版 44 174号住居跡出土遺物 176号住居跡出土遺物 177号住居跡出土遺物
- 図版 45 178号住居跡出土遺物 181号住居跡出土遺物 182号住居跡出土遺物
- 図版 46 183号住居跡出土遺物 184号住居跡出土遺物 185号住居跡出土遺物
- 図版 47 186号住居跡出土遺物 187号住居跡出土遺物 第60地点 188号住居跡出土遺物 189号住居跡出土遺物 1
- 図版 48 189号住居跡出土遺物 2 190号住居跡出土遺物
- 図版 49 191号住居跡出土遺物 192号住居跡出土遺物
- 図版 50 193号住居跡出土遺物
- 図版 51 194号住居跡出土遺物 196号住居跡出土遺物 1
- 図版 52 196号住居跡出土遺物 2 197号住居跡出土遺物 200号住居跡出土遺物 1
- 図版 53 200号住居跡出土遺物 2 203号住居跡出土遺物 1
- 図版 54 203号住居跡出土遺物 2 204号住居跡出土遺物
- 図版 55 207号住居跡出土遺物 209号住居跡出土遺物 1
- 図版 56 209号住居跡出土遺物 2 211号住居跡出土遺物 1
- 図版 57 211号住居跡出土遺物 2
- 図版 58 213号住居跡出土遺物 214号住居跡出土遺物 1
- 図版 59 214号住居跡出土遺物 2
- 図版 60 215号住居跡出土遺物
- 図版 61 216号住居跡出土遺物 217号住居跡出土遺物
- 図版 62 218号住居跡出土遺物 1
- 図版 63 218号住居跡出土遺物 2
- 図版 64 219号住居跡出土遺物 220号住居跡出土遺物 221号住居跡出土遺物 222号住居跡出土遺物 1
- 図版 65 222号住居跡出土遺物 2 223号住居跡出土遺物
- 図版 66 224号住居跡出土遺物
- 図版 67 224号住居跡出土遺物 225号住居跡出土遺物
- 図版 68 226号住居跡出土遺物 227号住居跡出土遺物 228号住居跡出土遺物 229号住居跡出土遺物
- 図版 69 94号ピット出土遺物 195号住居跡出土遺物 198号住居跡出土遺物
- 図版 70 199号住居跡出土遺物
- 図版 71 205号住居跡出土遺物 206号住居跡出土遺物
- 図版 72 208号住居跡出土遺物 210号住居跡出土遺物
- 図版 73 第60地点 212号住居跡出土遺物 第58地点 6号掘立柱建築遺構出土遺物 38号溝跡出土遺物 第60地点 49号ピット出土遺物 第58地点 381号土坑出土遺物 390号土坑出土遺物 392号土坑出土遺物 398号土坑出土遺物 399号土坑出土遺物 401号土坑出土遺物
- 図版 74 403号土坑出土遺物 404号土坑出土遺物 414号土坑出土遺物 415号土坑出土遺物 416号土坑出土遺物 413号土坑出土遺物 1
- 図版 75 413号土坑出土遺物 2
- 図版 76 第58地点 433号土坑出土遺物 434号土坑出土遺物 435号土坑出土遺物 439号土坑出土遺物 第60地点 459号土坑出土遺物 465号土坑出土遺物 483号土坑出土遺物 496号土坑出土遺物 511号土坑出土遺物 512号土坑出土遺物 513号土坑出土遺物 515号土坑出土遺物
- 図版 77 518号土坑出土遺物 547号土坑出土遺物 553号土坑出土遺物 554号土坑出土遺物 561号土坑

- 出土遺物 31号井戸跡出土遺物
- 図版 78 第58地点 34号溝跡出土遺物 35号溝跡出土遺物 36号溝跡出土遺物 37号溝跡出土遺物 第60地点 39号溝跡出土遺物 40号溝跡出土遺物 42号溝跡出土遺物 43号溝跡出土遺物 45号溝跡出土遺物 46号溝跡出土遺物
- 図版 79 第58地点 27号ピット出土遺物 第60地点 69号ピット出土遺物
- 図版 80 第58地点 遺構外出土遺物1
- 図版 81 第60地点 遺構外出土遺物2
- 図版 82 第60地点 遺構外出土遺物3
- 図版 83 第60地点 遺構外出土遺物4 遺構外出土遺物5 遺構外出土遺物6
- 図版 84 第60地点 遺構外出土石器1 第58地点 遺構外出土石器2
- 図版 85 第60地点 遺構外出土石器3
- 図版 86 第60地点 遺構外出土石器4 第60地点 遺構外出土金属製品 第60地点 遺構外出土銭貨
- 図版 87 モモ核・種子
- 図版 88 出土骨貝類

第1章 遺跡の立地と環境

第1節 市域の地形と遺跡

(1) 地理的環境と遺跡分布

志木市は、埼玉県の南西部に位置し、市域はおおよそ南北4.71km、東西4.73kmの広がりを持ち、面積は9.06km²、人口約7万人の自然と文化の調和する都市である。

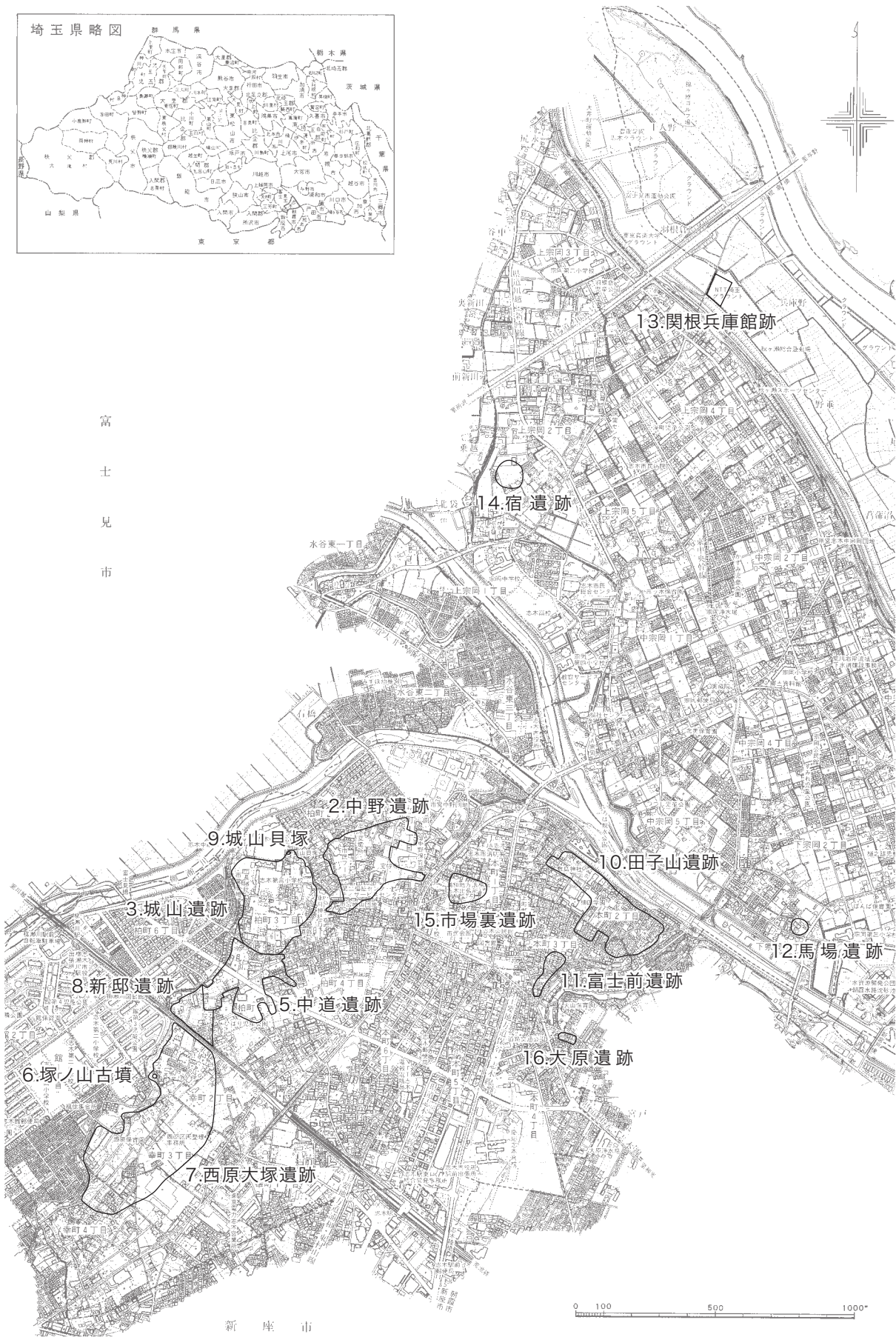
地理的景観を眺めて見ると、市域東部の宗岡地区は、荒川（旧入間川）の形成した沖積低地が広がり、市域西部の本町・柏町・幸町地区は、古多摩川によって形成された武蔵野台地の上にある。また、市内には東部に荒川、中央に古くは舟運で利用された新河岸川、そして西部から中央に新河岸川と合流する柳瀬川の3本の川が流れている。

こうした自然環境の中で、市内遺跡の大部分は、柳瀬川・新河岸川右岸流域の台地縁辺部に帯状に分布している。遺跡は柳瀬川上流から順に、西原大塚遺跡（7）、中道遺跡（5）、新邸遺跡（8）、城山遺跡（3）、中野遺跡（2）、市場裏遺跡（15）、田子山遺跡（10）、富士前遺跡（11）、大原遺跡（16）と名付けられている。また、荒川・新河岸川が形成した沖積低地でも、馬場遺跡（12）、宿遺跡（14）、関根兵庫館跡（13）のように自然堤防上に存在する遺跡も明らかにされつつあり、将来的には新たな遺跡が相次いで発見される可能性がある。なお、現在市内の遺跡総数は、現在前述した12遺跡に塚ノ山古墳（6）、城山貝塚（9）を加えた14遺跡である（第1図）。

No.	遺跡名	遺跡の規模	地目	遺跡の種類	遺跡の時代	主な遺構	主な遺物
2	中野	60,990 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～晩）弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器等
3	城山	79,280 m ²	畑・宅地	城館跡・集落跡	旧石器、縄（草創～晩）弥（後）、古（前～後）、奈平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、土坑墓、地下室、井戸跡、溝跡、柏城跡関連、鋳造関連等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、鋳造関連遺物等
5	中道	45,860 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（早～後）弥（後）、古（前～後）、平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、土坑墓、地下式坑、溝跡、道路状遺構等	石器、縄文土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭、人骨等
6	塚ノ山古墳	800 m ²	林	古墳？	古墳？	古墳？	なし
7	西原大塚	163,930 m ²	畑・宅地	集落跡	旧石器、縄（前～晩）弥（後）、古（前～後）、奈平、中・近世	石器集中地点、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡等	石器、縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、古銭等
8	新邸	16,400 m ²	畑・宅地	貝塚・集落跡	縄（早～中）、古（前～後）、中・近世、近代	貝塚、住居跡、土坑、方形周溝墓、井戸跡、溝跡、段切状遺構、ピット群等	石器、貝、縄文・弥生土器、土師器、陶磁器、古銭等
9	城山貝塚	900 m ²	林	貝塚	縄（前）	斜面貝塚	石器、縄文土器、貝
10	田子山	62,200 m ²	畑・宅地	集落跡	縄（草創～晩）弥（後）、古（後）、奈平、中・近世、近代	住居跡、土坑、方形・円形周溝墓、ローム採掘遺構、溝跡等	縄文・弥生土器、土師器、須恵器、陶磁器、炭化種子等
11	富士前	7,100 m ²	宅地	集落跡	弥（後）～古（前）	住居跡	弥生土器、土師器
12	馬場	2,800 m ²	畑	集落跡	古（前）	住居跡？	土師器
13	関根兵庫館跡	4,900 m ²	グラウンド	館跡	中世	不明	なし
14	宿	7,700 m ²	田	館跡	中世	溝跡・井桁状構築物	木・石製品
15	市場裏	10,700 m ²	宅地	集落跡・墓跡	弥（後）～古（前）、近代	住居跡・方形周溝墓	弥生土器、土師器、かわらけ
16	大原	1,700 m ²	宅地	不明	近世以降？	溝跡	なし
合計		465,260 m ²					

平成20年10月30日現在

第1表 志木市埋蔵文化財包蔵地一覧



第1図 市域の地形と遺跡分布 (1/20,000)

(2) 歴史的環境

ここでは、市内の遺跡を時代順に概観してみることにする。

1. 旧石器時代

旧石器時代の遺跡は、柳瀬川右岸の中野・城山・中道・西原大塚遺跡で確認されている。

中道遺跡では、昭和62(1987)年の富士見・大原線(現ユリノキ通り)の工事に伴う発掘調査により、立川ローム層のIV層上部・VI層・VII層で文化層が確認されており、礫群、石器集中地点が検出されている。これにより、黒曜石製のスクレイパーやナイフ形石器、安山岩や凝灰岩の石核や剥片などが発見されている。

西原大塚遺跡では、西原特定土地地区画整理事業に伴う発掘調査により、石器集中地点が検出されている。石器集中地点は、平成6(1994)年度には2ヶ所、平成7年(1995)度には1ヶ所が検出され、ナイフ形石器・剥片などが発見されている。

平成11～14(1999～2002)年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からも立川ローム層の第IV層下部から、黒曜石・頁岩の石核・剥片が約60点出土している。

平成13(2001)年に発掘調査が実施された城山遺跡第42地点では、立川ローム層の第IV層上部と第VII層の2ヶ所で石器集中地点が確認され、黒曜石・安山岩・チャート・頁岩などの挟入石器・剥片など32点が出土している。

2. 縄文時代

縄文時代では、西原大塚遺跡を中心に中期後葉の遺跡が集中し、城山貝塚の周辺の城山遺跡からは、前期末葉(諸磯式期)の住居跡や土器がやや多く検出される傾向にある。

ここでは、時代の推移に従って説明することにする。まず、草創期では、平成4(1992)年に発掘調査が実施された城山遺跡第16地点から爪形文系土器1点と平成10(1998)年に発掘調査が実施された田子山遺跡第51地点から有茎尖頭器1点が出土しているのみである。

早期では、遺構の検出例はまだ少ないが、住居跡としては、平成18(2007)年に発掘調査が実施された中道遺跡第65地点で検出された前期末葉(条痕文系)の10号住居跡1軒が最古のものと言える。土器としては、田子山遺跡で撚糸文・沈線文・条痕文系土器が出土しているが、御嶽神社を中心とする東側でやや多く出土する傾向がある。また、富士前・新邸・城山遺跡からは、撚糸文系土器が数点出土し、条痕文系土器は、中野・田子山遺跡では炉穴に伴い出土している。

前期では、西原大塚・新邸遺跡で黒浜式期の住居跡、城山遺跡では諸磯式期の住居跡3軒が検出されている。そのうち、新邸遺跡のものは貝層をもつ住居跡である。また、平成2年度に市指定文化財に認定された城山貝塚も縄文海進期にあたるこの頃の時代に形成された斜面貝塚と考えられる。

中期になると遺跡が最も増加する。特に、中期中葉から後葉の勝坂式～加曾利E式期にはその傾向が強くなり、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で住居跡を中心に土坑が検出されている。特に西原大塚遺跡では、住居跡が環状に配置していることが判明しつつある。

中期末葉からは遺跡が減少し、現在のところ西原大塚遺跡から敷石をもつ住居跡が1軒確認されるのみである。

後期では、西原大塚遺跡から堀之内式期の住居跡1軒と加曾利B式期の住居跡1軒、遺物集中地点1ヶ所が検出されている。また、その他の遺構としては、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点で、土坑1基が検出され、下層から称名寺I式期の土器、上層からII式の特徴をもつ土器が出土している。西原大塚遺跡第54地点でも2基の土坑が検出されている。

晩期では、中野・田子山遺跡から安行ⅢC式・千網式の土器片が少量発見されるにとどまり、以降市内では弥生時代後期まで空白の時代となる。

3. 弥生時代～古墳時代前期

弥生時代では、現時点において、前・中期の遺跡は検出されていないが、後期末葉から古墳時代前期と考えられる遺跡が数多く検出されている。中でも、平成6（1994）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点の21号住居跡は後期中葉に比定される可能性があり、その住居跡からは、多数の土器をはじめ、大量の炭化種子（イネ・アワ・ダイズなど）、炭化材が出土し、当時の食糧事情を考える上で重要である。富士前遺跡では、志木市史にも掲載されているが、不時の発見に伴い、籠目痕をもつ壺形土器をはじめとした多くの土器が発見されている。

西原大塚遺跡では後期末葉から古墳時代前期にかけての住居跡が500軒以上確認されており、市内最大の集落跡であることが判明している。特に、122号住居跡からは全国的にも稀な「イヌ」を象ったと思われる動物形土製品が出土している。

昭和62（1987）年以降、西原大塚・田子山・市場裏遺跡の3遺跡において、方形周溝墓が検出されてきたが、最新では、平成15（2003）年に発掘調査が実施された新邸遺跡第8地点と平成18（2006）年に実施された中道遺跡第65地点でも、それぞれ1基が確認されている。これにより当時の墓域が、集落と単位的なまとまりをもって存在していたことが明らかになってきたと言えるであろう。

市内で最も多く方形周溝墓が検出されている西原大塚遺跡では、10号方形周溝墓の溝底から一括出土した中に畿内系の庄内式の長脚高環が出土していることに注目される。また、平成11（1999）年に発掘調査が実施された西原大塚遺跡第45地点では、一辺20mを超える市内最大規模の17号方形周溝墓が発見されている。この方形周溝墓の溝からは、珍しい鳥形土器をはじめ、畿内系の有段口縁壺、吉ヶ谷式系の壺、在地系の壺などと大きく畿内・比企地域・在地の3要素の特徴を示す壺が出土している、こうした地域に関わる被葬者の人物像が浮き彫りにされたことで、当地域の弥生時代後期から古墳時代前期の歴史を紐解く手がかりになったことは重要である。

4. 古墳時代中・後期

古墳時代でも前期末葉から中期になると、遺跡が減少する傾向にある。その中で、西原大塚遺跡に隣接する新邸遺跡で検出されている第2地点の1号住居跡と平成15（2003）年に発掘調査が実施された第8地点の2～8号住居跡は、古墳時代前期でも比較的新しい段階に比定される可能性がある。このことから、新邸遺跡で検出された住居跡は、隣接する西原大塚遺跡から継続して広がった集落跡ではないかと推測される。

中期の遺跡では、中道・城山・中野遺跡から住居跡が発見されている。その中でも、平成7（1995）年に発掘調査が実施された中道遺跡第37地点19号住居跡は、5世紀中葉に比定され、カマドをもつ

住居跡としては市内最古のものである。

5世紀末葉になると、遺跡が増加傾向にあり、特に6世紀後半から7世紀後半にかけては、縄文中期を越えるほどの爆発的な増加をみる。こうした集落跡は現在、中道・城山・中野遺跡に比較的古い5世紀代の住居跡が確認されていることから、柏町地区を中心に存在した集落が、6世紀後半以降、周辺の地域に拡散するという動きを読み取ることができる。

なお、新邸遺跡では第8地点で初めて古墳時代後期（7世紀中葉）の住居跡が1軒検出されている。この住居跡は、3×3.5 mの小型の長方形を呈するもので、焼失住居であり、床面上からは土器・炭化材の他ベンガラ塊が出土している。

現在、5世紀後半から7世紀後半にかけての時期に比定できる住居跡の軒数は、最も多い城山遺跡で120軒を越え、次いで中野遺跡で約50軒、中道遺跡で約15軒、田子山遺跡で約10軒、新邸遺跡で1軒を数える。

また住居跡以外では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第24地点から、6世紀後半以降のものと考えられる4.1×4.7 mの不整形円で2ヶ所にブリッジをもつ小型の円形周溝墓が1基確認されている。さらに、平成14（2002）年に発掘調査された田子山遺跡第81地点を契機に御嶽神社を取り囲むように外周で推定約33 mの巨大な溝跡の存在が明らかになり、現時点では古墳の周溝ではないかという見方が浮上している。

5. 奈良・平安時代

奈良・平安時代の遺跡は、古墳時代後期以降に拡散した集落内で確認される傾向にあり、現在のところ、中野・城山・中道・西原大塚・田子山遺跡で検出されている。中でも城山・田子山遺跡はこの時代を代表とする遺跡として挙げることができる。城山遺跡では、平成8（1996）年に発掘調査が実施された第35地点の128号住居跡から、印面に「冨」1文字が書かれた完形品の銅印が出土しているが、これは県内でも稀少な例で貴重な資料である。この住居跡からはその他、須恵器坏や猿投産の緑釉陶器の小破片1点、布目瓦の小破片2点などが出土している。

田子山遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された第24地点からは、住居跡の他、掘立柱建築遺構・溝跡そして100基を越える土坑群が検出されている。平成6（1994）年に発掘調査が実施された第31地点の44号住居跡からは、腰帯の一部である銅製の丸鞆が出土している。さらにカマド右横の床面上からは、東金子窯跡群の前内出製品と鳩山製品の須恵器坏が1点ずつ出土し、土器編年の基本資料として貴重であると言える。

6. 中・近世

中・近世の遺跡は、「柏の城」を有する城山遺跡と千手堂関連である新邸・中道遺跡、そして関根兵庫館跡・宿遺跡が代表的な遺跡と言える。

城山遺跡では、数次にわたる発掘調査により、『館村旧記』（註1）にある「柏之城落城後の屋敷割の図」に相当する堀跡などが多数発見されている。最新では、『廻回雑記』（註2）に登場する「大石信濃守館」が「柏の城」に相当し、「大塚十玉坊」についても市内の「大塚」に由来があるという説が有力と言えるであろう（神山 1988・2002）。また、平成7（1995）年に発掘調査が実施された第29地点

第1章 遺跡の立地と環境

1. 旧石器時代

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧及び資料索引
2	中野	第49地点	石器集中地点1ヵ所、ナイフ形石器、角錐状石器など	志木市遺跡調査会調査報告第7集
3	城山	第42地点	石器集中地点2ヵ所、石器・礫	志木市遺跡調査会調査報告第10集
7	西原大塚	区画整理	石器集中地点2ヵ所	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報
		市史掲載	ナイフ形石器、尖頭器など	1984『志木市史 原始・古代資料編』
		第110地点	石器集中地点2ヵ所、ナイフ形石器・剥片・石核	志木市遺跡調査会調査報告第9集

2. 縄文時代

2	中野	第2地点	包含層出土石器	中期	志木市遺跡調査会調査報告第1集		
		第16地点	集石1基	不明	志木市の文化財第24集		
		第25地点	住居跡1軒、土坑9基、炉穴5基、土器、石器	早～晩期	志木市の文化財第31集		
		第43地点	包含層出土石器	早～後期	志木市の文化財第27集		
		第49地点	住居跡1軒、土坑10基、炉穴1基、遺物包含層	早期～後期	志木市遺跡調査会調査報告第7集		
3	城山	A地点	住居跡1軒	前期	『志木市史 原始・古代資料編』		
		第3地点	包含層出土石器	早～後期	志木市の文化財第11集		
		第4地点	埋甕1基	中期	志木市の文化財第13集		
		第9地点	土坑1基	不明	志木市の文化財第15集		
		第11地点	住居跡1軒、土坑3基、炉穴1基、土器	前・中期	志木市の文化財第17集		
		第12地点	包含層出土石器	早～晩期	志木市の文化財第24集		
		第16地点	包含層出土石器、集石1基、土器（瓜形文系など）、石器	草創～後期	志木市の文化財第34集		
		第29地点	土坑1基	早～後期	志木市の文化財第25集		
		第32地点	包含層出土石器	早～中期	志木市の文化財第25集		
		第34地点	包含層出土石器	早～中期	志木市の文化財第27集		
		第35地点	包含層出土石器	早～後期	志木市の文化財第27集		
		第42地点	土坑21基、炉穴1基、土器・石器	早～中期	志木市遺跡調査会調査報告第10集		
		第46地点	住居跡1基、土坑1基、土器・石器	前期・不明	志木市の文化財第38集		
		第49地点	土坑1基、土器	不明	志木市の文化財第39集		
5	中道	第2地点	住居跡3軒、土坑8基、集石2基、土器、石器	中期	志木市遺跡調査会調査報告第5集		
		第12地点	住居跡2軒、土器	中期	志木市の文化財第18集		
		第13地点	住居跡1軒、土坑1基、土器	中期	志木市の文化財第18集		
		第21地点	包含層出土石器	前期	志木市の文化財第24集		
		第27地点	包含層出土石器	前～後期	志木市の文化財第29集		
		第41地点	包含層出土石器	早～後期	志木市の文化財第27集		
		第44地点	包含層出土石器	早～後期	志木市の文化財第28集		
		第65地点	住居跡2軒、炉穴1基、集石1基、土器、石器、陶磁器・土器、土製品、瓦	早・中期	志木市遺跡調査会調査報告第12集		
		7	西原大塚	第1地点	住居跡4軒、土坑8基、土器、石器	中期	志木市の文化財第4集
				第3地点	住居跡5軒、土坑2基、土器	中期	志木市遺跡調査会調査報告第1集
				第8地点	住居跡1軒、土坑24基、土器、石器	中期	志木市の文化財第14集
第34地点	住居跡3軒、土坑6基、土器、石器			中期	志木市の文化財第25集		
第39地点	住居跡3軒、土器、石器			中期	志木市の文化財第28集		
第43地点	住居跡10軒、土坑22基、土器、石器			中期	志木市の文化財第30集		
第47地点	土坑1基、遺構外出土石器			中期	志木市の文化財第32集		
第54地点	土坑7基、土器			中・後期	志木市の文化財第35集		
第65地点	遺構外出土石器・石器			前～後期	志木市の文化財第36集		
第67地点	住居跡8軒、土坑8基、集石1基、土器・石器多数			中期	志木市の文化財第37集		
第110地点	土坑1基、集石1基、土器片			中期	志木市遺跡調査会調査報告第9集		
第113地点	炉穴1基、土器			早期	志木市の文化財第39集		
8	新邸	第1地点	住居跡1軒（貝塚）、土坑2基、包含層出土石器	前・中期	志木市遺跡調査会調査報告第2集		
		第2地点	住居跡1軒（第1地点と同一）、土器、石器、貝類	前期	志木市遺跡調査会調査報告第3集		
		第3地点	包含層出土石器	早・前期	志木市の文化財第15集		
		第8地点	土坑21基、土器小片	不明	志木市遺跡調査会調査報告第11集		
10	田子山	第4地点	土坑1基	不明	志木市の文化財第18集		
		第10地点	住居跡1軒、土器	中期	志木市の文化財第24集		
		第19地点	土坑2基、遺構外出土石器	早～後期	志木市の文化財第29集		
		第21地点	遺構外出土石器片	早～後期	志木市の文化財第29集		
		第25地点	炉穴1基、遺構外出土石器	早～後期	志木市の文化財第29集		
		第32地点	土坑1基、遺構外出土石器	早～中期	志木市の文化財第23集		
		第37地点	遺構外出土石器	早期	志木市の文化財第23集		
		第39地点	土坑3基、集石2基、炉穴2基、土器	早期	志木市の文化財第25集		
		第47地点	遺構外出土石器	早・前期	志木市の文化財第27集		
		第49地点	遺構外出土石器	早期	志木市の文化財第27集		
		第69地点	集石1基	中期	志木市の文化財第32集		
		第78地点	集石1基、土器	前期	志木市の文化財第35集		
		第81地点	遺構外出土石器・石器	早期～中期	志木市の文化財第36集		

第2表 志木市の時代別にみた考古資料一覧（1）

3. 弥生時代

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧及び資料索引	
2	中野	第2地点	住居跡2軒、土器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第1集
		第9地点	住居跡1軒、土器	後期	志木市の文化財第13集
		第25地点	住居跡1軒、土坑1基、土器	後期	志木市の文化財第31集
		第49地点	住居跡6軒、土器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第7集
3	城山	B地点	住居跡1軒	後期	『志木市史 原始・古代資料編』
		第4地点	住居跡2軒、土器	後期	志木市の文化財第13集
		第35地点	住居跡1軒、土器、砥石	後期	志木市の文化財第27集
5	中道	第65地点	方形周溝墓1器、土器	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第12集
7	西原大塚	第1地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第4集
		第2地点	住居跡3軒、土器	後期～古墳	『志木市史 原始・古代資料編』
		第3地点	住居跡2軒、土器	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第1集
		第4地点	住居跡3軒、土器、砥石	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第3集
		第6地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第13集
		第7地点	小竪穴状遺構1基	後期～古墳	志木市の文化財第15集
		第8地点	住居跡13軒、方形周溝墓1基、掘立柱建物跡1基	後期～古墳	志木市の文化財第14集
		第9地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第14集
		第10地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第14集
		第14地点	住居跡4軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第24集
		第21地点	方形周溝墓1基、土器	後期～古墳	志木市の文化財第29集
		第32地点	住居跡2軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第23集
		第36地点	住居跡4軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第27集
		第37地点	住居跡7軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第28集
		第39地点	住居跡1軒、方形周溝墓1基、土器、石器	後期～古墳	志木市の文化財第28集
		第43地点	住居跡9軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第30集
		第45地点	住居跡72軒、方形周溝墓1基、土器（鳥型土器）	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第6集
		第47地点	溝跡1本	後期～古墳	志木市の文化財第32集
		第54地点	方形周溝墓1基、土器	後期～古墳	志木市の文化財第35集
		第65地点	住居跡3軒、土器、土師器、石器	後期～古墳	志木市の文化財第36集
		第67地点	住居跡8軒、掘立柱建築遺構1棟、土器・石器	後期～古墳	志木市の文化財第37集
		第120地点	住居跡4軒、方形周溝墓1基、土器	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第15集
		第124地点	住居跡3軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第39集
第131地点	住居跡2軒、方形周溝墓5基、土器	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第15集		
第138地点	溝跡1軒、土器小片	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第14集		
第154地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市遺跡調査会調査報告第14集		
		区画整理	住居跡30軒、方形周溝墓4基（記述のみ）	後期～古墳	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報
10	田子山	第1地点	住居跡1軒、土器	後期	志木市の文化財第14集
		第4地点	住居跡1軒、土器	後期	志木市の文化財第18集
		第10地点	住居跡5軒、土器	後期	志木市の文化財第24集
		第19地点	遺構外出土土器	後期	志木市の文化財第29集
		第31地点	住居跡17軒（21号住居跡記述のみ）	後期	『田子山富士』文化財第22集
		第32地点	方形周溝墓1基	後期～古墳	志木市の文化財第23集
15	市場裏	第1地点	住居跡1軒、土器	後期～古墳	志木市の文化財第24集
		第2地点	方形周溝墓2基、土器小片	後期～古墳	志木市の文化財第24集
		第3地点	方形周溝墓1基、土器小片	後期～古墳	志木市の文化財第20集

4. 古墳時代

2	中野	第2地点	住居跡1軒、土師器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第1集
		第7地点	住居跡1軒	後期	志木市の文化財第15集
		第12地点	住居跡1軒、土師器多数	後期	志木市の文化財第17集
		第16地点	住居跡1軒、土師器	後期	志木市の文化財第24集
		第18地点	住居跡1軒、土師器、鉄鏃多数	後期	志木市の文化財第20集
		第25地点	住居跡10軒、土師器多数	後期	志木市の文化財第31集
		第31地点	住居跡1軒、土師器、鉄鏃、砥石	後期	志木市の文化財第21集
		第41地点	住居跡1軒、土師器多数、紡錘車	後期	志木市の文化財第25集
		第49地点	住居跡1軒、土坑2基、土師器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第7集
		第50地点	住居跡1軒	後期	志木市の文化財第30集
3	城山	B地点	住居跡2軒、土師・須恵器	後期	『志木市史 原始・古代資料編』
		第1・2地点	住居跡54軒、土師器多数、須恵器、鉄・土製品	前・後期	志木市遺跡調査会調査報告第4集
		第3地点	住居跡4軒、土師器	前・後期	志木市の文化財第11集
		第4地点	住居跡1軒、土師器多数	後期	志木市の文化財第13集
		第6地点	住居跡2軒、土坑1基、土師器多数	後期	志木市の文化財第15集
		第7・9地点	住居跡7軒、土師器多数、鉄製品	中・後期	志木市の文化財第16集
		第11地点	住居跡3軒、土師器	前・後期	志木市の文化財第17集
		第13地点	住居跡1軒、土師器	後期	志木市の文化財第24集
		第15地点	住居跡6軒、土師器	後期	志木市の文化財第34集
		第25地点	住居跡2軒、土師器、初期須恵器	中・後期	志木市の文化財第23集
		第29地点	住居跡1軒、土師・須恵器	後期	志木市の文化財第25集
		第34地点	住居跡3軒、土師器	後期	志木市の文化財第27集

第2表 志木市の時代別にみた考古資料一覧（2）

第1章 遺跡の立地と環境

No.	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧及び資料索引	
				後期	志木市の文化財第 27 集
3	城山	第 35 地点	住居跡 1 軒、土師器多数	後期	志木市の文化財第 27 集
		第 42 地点	住居跡 16 軒、土師・須恵器、土製品、鉄製品多数	後期	志木市遺跡調査会調査報告第 10 集
		第 46 地点	住居跡 5 軒、土師・須恵器、ミニチュア土器、ガラス小玉	中・後期	志木市の文化財第 38 集
		第 49 地点	住居跡 2 軒、土師器	後期	志木市の文化財第 39 集
		第 55 地点	住居跡 3 軒、土師・須恵器、土製品、炭化種実	後期	志木市の文化財第 38 集
		第 57 地点	住居跡 2 軒、土師器	不明	志木市の文化財第 39 集
		第 61 地点	住居跡 2 軒、土師器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第 16 集
5	中道	第 2 地点	住居跡 5 軒、土師器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第 5 集
		第 12 地点	住居跡 3 軒、土師器	後期	志木市の文化財第 18 集
		第 13 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	志木市の文化財第 18 集
		第 21 地点	住居跡 2 軒、溝跡 1 本、土師器、鉄製品（鎌完形 1 点）	後期	志木市の文化財第 24 集
		第 33 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器	後期	志木市の文化財第 23 集
		第 36 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	志木市の文化財第 25 集
		第 37 地点	住居跡 1 軒、土師器多数、須恵器小片、土製品	中期	志木市の文化財第 25 集
7	西原大塚	市史掲載	土師器	前期	『志木市史 原始・古代資料編』
		第 11 地点	方形周溝墓 1 基、壺棺 1 基、土師器	前期	志木市の文化財第 16 集
		第 43 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	志木市の文化財第 30 集
		第 45 地点	住居跡 2 軒、土師器	後期	志木市遺跡調査会調査報告第 6 集
		第 111 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	志木市遺跡調査会調査報告第 8 集
		第 110 地点	住居跡 7 軒、壺・甕・高坏・鉢形土器	前期	志木市遺跡調査会調査報告第 9 集
8	新邸	第 2 地点	住居跡 1 軒、土師器	前期	志木市遺跡調査会調査報告第 3 集
		第 8 地点	住居跡 9 軒、方形周溝墓 1 基、土坑 2 基、土師器、ガラス小玉、ベンガラ塊	前・後期	志木市遺跡調査会調査報告第 11 集
10	田子山	第 5 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、炭化種子（ヤマモモ多数）	後期	志木市の文化財第 18 集
		第 13 地点	住居跡 1 軒、土師器（暗文土器 1 点あり）	後期	志木市の文化財第 24 集
		第 29 地点	住居跡 2 軒、土師・須恵器	後期	志木市の文化財第 21 集
		第 48 地点	住居跡 1 軒、土師器（統比企型坏あり）	後期	志木市の文化財第 27 集
		第 69 地点	住居跡 1 軒、土師器	後期	志木市の文化財第 32 集
11	富士前	市史掲載	土師器多数	前期	『志木市史 原始・古代資料編』
		第 15 地点	住居跡 1 軒、土師器（元屋敷系高坏あり）	前期	志木市の文化財第 27 集
12	馬場	市史掲載	土師器（S 字甕か）	前期	『志木市史 原始・古代資料編』

5. 奈良・平安時代

2	中野	第 2 地点	住居跡 1 軒、須恵器	8c 後半	志木市遺跡調査会調査報告第 1 集
		第 16 地点	住居跡 3 軒、須恵器	9c 中葉	志木市の文化財第 24 集
		第 25 地点	住居跡 2 軒	平安時代	志木市の文化財第 31 集
		第 41 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、鉄製品、転用紡錘車	9c 後半	志木市の文化財第 25 集
		第 43 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、鉄滓	9c 前半	志木市の文化財第 27 集
		第 49 地点	住居跡 1 軒、土坑 5 基、土師・須恵器、礫石	9c 中葉～後葉	志木市遺跡調査会調査報告第 7 集
3	城山	第 1・2 地点	住居跡 6 軒、灰釉陶器、土師・須恵器多数、鉄・石製品	8～10c	志木市遺跡調査会調査報告第 4 集
		第 4 地点	土坑 2 基、灰釉陶器、須恵器（新開・栗谷ツ産）	10c 前半	志木市の文化財第 13 集
		第 7 地点	住居跡 1 軒、灰釉陶器	9c か？	志木市の文化財第 16 集
		第 11 地点	住居跡 1 軒	平安時代	志木市の文化財第 17 集
		第 16 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器	平安時代	志木市の文化財第 34 集
		第 29 地点	住居跡 1 軒	平安時代	志木市の文化財第 25 集
		第 35 地点	住居跡 2 軒、銅印、布目瓦、緑釉陶器片、土師・須恵器	9c 後半	志木市の文化財第 27 集
		第 42 地点	住居跡 5 軒、土坑 13 基、ビット 4 本、土師器、須恵器、布目瓦、偏向唐草文の軒平瓦、鉄製品、	8c 代 9c 後半	志木市遺跡調査会調査報告第 10 集
		第 46 地点	住居跡 1 軒、溝跡 1 本、土師・須恵器小片、鉄製品	9c 中～末葉	志木市の文化財第 38 集
		第 55 地点	溝跡 1 本、土師・須恵器小片、第 46 地点と同一溝跡	9c 中～末葉	志木市の文化財第 38 集
第 61 地点	住居跡 2 軒、土師・須恵器	8c 後半～9c	志木市遺跡調査会調査報告第 16 集		
5	中道	第 12 地点	住居跡 2 軒、土師・須恵器	9c 後半	志木市の文化財第 18 集
		第 21 地点	住居跡 1 軒、溝跡 1 本、灰釉陶器片、土師・須恵器	9c 後半	志木市の文化財第 24 集
		第 41 地点	住居跡 1 軒、溝跡 1 本、灰釉陶器片、須恵器、炭化米	9～10c	志木市の文化財第 27 集
		第 44 地点	土坑 1 基	平安～中世	志木市の文化財第 28 集
		第 65 地点	住居跡 1 軒、土坑 3 基、掘立柱建築遺構 1 棟、土師・須恵器	奈良・平安	志木市遺跡調査会調査報告第 12 集
7	西原大塚	第 8 地点	住居跡 3 軒	平安時代	志木市の文化財第 14 集
		第 34 地点	住居跡 1 軒	平安時代	志木市の文化財第 25 集
		第 67 地点	土坑 1 基、溝跡 1 本、土師器・須恵器小片	平安時代	志木市の文化財第 37 集
		第 154 地点	住居跡 1 軒、ビット 1 本、土師・須恵器	8c 前葉	志木市遺跡調査会調査報告第 14 集
10	田子山	第 4 地点	住居跡 9 軒、土師・須恵器	8～10c	志木市の文化財第 18 集
		第 5 地点	住居跡 4 軒、土師・須恵器	8～10c	志木市の文化財第 18 集
		第 6 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、刀子、土錘	9c 後半	志木市の文化財第 17 集
		第 7 地点	住居跡 1 軒、布目瓦小片 2 点、格子目叩き瓦小片 1 点	8c 後半	志木市の文化財第 17 集
		第 19 地点	住居跡 1 軒、土師・須恵器、鉄製品	9～10c	志木市の文化財第 29 集
		第 21 地点	住居跡 3 軒、土坑 1 基、土師・須恵器、鉄製品	9c 代	志木市の文化財第 29 集
		第 25 地点	住居跡 5 軒、土師・須恵器、礫石	9c 後半	志木市の文化財第 29 集
		第 29 地点	住居跡 1 軒、須恵器・布目瓦 1 点	9～10c	志木市の文化財第 21 集
第 37 地点	土坑 2 基、須恵器	9～10c	志木市の文化財第 23 集		

第 2 表 志木市の時代別にみた考古資料一覧（3）

No	遺跡名	地点名	掲載された主な遺構・遺物	報告書一覧No及び資料索引	
10	田子山	第39地点	溝跡3本、土師・須恵器小片	9c代	志木市の文化財第25集
		第41・42地点	住居跡1軒、土坑1基、土師・須恵器、鉄・銅製品	9～10c	志木市の文化財第25集
		第47地点	住居跡2軒、土坑1基、土師・須恵器、鉄・石製品	9c中頃	志木市の文化財第27集
		第49地点	住居跡2軒、土師・須恵器	10c代	志木市の文化財第27集
		第69地点	住居跡1軒、溝跡1本、土師・須恵器	9c中頃	志木市の文化財第32集
		第78地点	住居跡2軒、土師・須恵器	9c前～後半	志木市の文化財第35集
		第81地点	住居跡1軒、土坑1基、溝跡1本、須恵器、鉄製品	9c後半、1Mは古墳か？	志木市の文化財第36集
	第97地点	住居跡2軒、溝跡1本、掘立柱建築遺構1本、土師・須恵器	9c後半	志木市遺跡調査会調査報告第15集	

6. 中・近世

2	中野	第2地点	溝跡1本	不明	志木市遺跡調査会調査報告第1集
		第6地点	溝跡1本	不明	志木市の文化財第13集
		第8地点	土坑1基	不明	志木市の文化財第15集
		第11地点	土坑1基、陶磁器小片	18～19c	志木市の文化財第24集
		第25地点	土坑15基、陶磁器・瓦器小片	近世	志木市の文化財第31集
		第43地点	井戸跡1基	不明	志木市の文化財第27集
		第49地点	段切状遺構1カ所、井戸跡4基、土坑12基、人骨、陶磁器、鉄製品、石製品、板碑など	中・近世	志木市遺跡調査会調査報告第7集
3	城山	A地点	溝跡1本	中世	『志木市史 原始・古代資料編』
		C地点	柏城跡の大堀跡1本、陶磁器	中・近世	『志木市史 中世資料編』
		第1・2地点	柏城跡関連の堀跡5本、土坑32基、井戸跡10基、掘立柱建築跡・ピット群、陶磁器多数、銅鏡、鉄・石製品	中・近世	志木市遺跡調査会調査報告第4集
		第3地点	土坑16基、溝跡2本	中・近世	志木市の文化財第11集
		第4地点	土坑1基	14～15c	志木市の文化財第13集
		第6地点	土坑7基	中・近世	志木市の文化財第15集
		第7・9地点	土坑3基、土製品	中・近世	志木市の文化財第16集
		第11地点	土坑3基、井戸跡1基、陶磁器、板碑、馬歯	中・近世	志木市の文化財第17集
		第12地点	土坑2基、井戸跡1基、溝跡5本、陶磁器、古銭	中・近世	志木市の文化財第24集
		第15地点	溝跡2本（柏城関連）、陶磁器、かわらけ	中・近世	志木市の文化財第34集
		第16地点	井戸跡2基、溝跡2本（柏城関連）、陶磁器、かわらけ、鉄製品（火打金・釘）、板碑	中・近世	志木市の文化財第34集
		第25地点	土坑2基	中・近世	志木市の文化財第23集
		第29地点	土坑11基、溝跡1本、ピット群、板碑、陶磁器、馬歯、古銭など	中・近世	志木市の文化財第25集
		第35地点	土坑15基（铸造土坑1基・溶解炉1基）、井戸跡1基、鋳型、土・鉄製品、陶磁器、古銭など	中・近世	志木市の文化財第27集
		第42地点	土坑151基、井戸跡8基、溝跡4本（柏城関連）、ピット群、陶磁器・かわらけ・瓦・鉄製品・銅製品・板碑	中世以降	志木市遺跡調査会調査報告第10集
第46地点	土坑23基、地下室2基、井戸跡4基、道路状遺構1基、ピット群、陶磁器、土器、銅鏡	中世以降	志木市の文化財第38集		
第49地点	土坑5軒、地下室1基、井戸跡1基、陶磁器・土器、土製品	中世以降	志木市の文化財第39集		
第55地点	土坑1基、地下室1基、陶磁器、土器、土製品・石製品、瓦	中世以降	志木市の文化財第38集		
第57地点	土坑6基、土坑墓1基、地下室1基、陶磁器・土器、骨片	中世以降	志木市の文化財第39集		
第61地点	土坑28軒、地下室1基、井戸跡1基、溝跡2本、陶磁器、銅鏡	中世以降	志木市遺跡調査会調査報告第16集		
5	中道	第2地点	土坑4基、土坑墓2基、地下式坑2基、溝跡14本、掘立柱建物跡4棟、古銭、陶磁器	中・近世	志木市遺跡調査会調査報告第5集
		第6地点	土坑1基、陶磁器小片	15c代	志木市の文化財第13集
		第26地点	土坑6基（土坑墓2基）、掘立柱建物跡、人骨、古銭など	17c代	志木市の文化財第24集
		第27地点	土坑2基、土坑2基、陶磁器	14～15c	志木市の文化財第24集
		第36地点	溝跡2本、ピット群、陶磁器小片	中・近世	志木市の文化財第25集
		第37地点	土坑墓1基、道路遺構1本、人骨、青磁盤、古銭	中世	志木市の文化財第25集
		第44地点	溝跡2本	中・近世	志木市の文化財第28集
第65地点	土坑16基、ピット、陶磁器、土器、土製品、瓦	近世遺構	志木市遺跡調査会調査報告第12集		
7	西原大塚	第65地点	遺構外出土陶磁器・土器	中・近世	志木市の文化財第14集
		第154地点	土坑1基	中世以降	志木市遺跡調査会調査報告第14集
8	新邸	第1地点	土坑17基、井戸跡1基、溝跡2本	中・近世	志木市遺跡調査会調査報告第2集
		第3地点	土坑1基、溝跡2本、陶磁器	中・近世	志木市の文化財第15集
		第8地点	火葬墓2基、土坑1基、人骨、陶磁器、土器、石製品、銅鏡	中・近世	志木市遺跡調査会調査報告第11集
10	田子山	第25地点	遺構外出土陶磁器	中・近世	志木市の文化財第29集
		第81地点	遺構外出土陶磁器・土器、泥面子	近世	志木市の文化財第36集
16	大原	第1地点	溝跡1本	近世	志木市の文化財第29集

7. 近代以降

3	城山	第35地点	かわらけ2点	19c後半	志木市の文化財第27集
8	新邸	第8地点	土坑1基、井戸跡1基、溝跡（野火止水跡）2本、陶磁器、土器、石製品、煉瓦、銅鏡	近・現代	志木市遺跡調査会調査報告第11集
10	田子山	第31地点	ローム採掘遺構2カ所	19c後半	『田子山富士』文化財第22集
		第49地点	土坑1基	近・現代	志木市の文化財第27集
15	市場裏	第3地点	かわらけ2点	19c代	志木市の文化財第20集

第2表 志木市の時代別にみた考古資料一覧（4）

第1章 遺跡の立地と環境

No	報告書名	刊行年	シリーズ名	発刊者	執筆者
1	西原・大塚遺跡発掘調査報告	1975	志木市の文化財第4集	志木市教育委員会	井上國夫・落合静男・谷井 彪・宮野和明
2	西原大塚遺跡第3地点 中野遺跡第2地点発掘調査報告書	1985	志木市遺跡調査会調査報告第1集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
3	新邸遺跡発掘調査報告書	1986	志木市遺跡調査会調査報告第2集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
4	新邸遺跡第2地点 西原大塚遺跡第4地点発掘調査報告書	1987	志木市遺跡調査会調査報告第3集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
5	城山遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第4集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏・神山健吉
6	中道遺跡発掘調査報告書	1988	志木市遺跡調査会調査報告第5集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・尾形則敏
7	城山遺跡長勝院地点発掘調査報告書	1987	志木市の文化財第11集	志木市教育委員会 志木市遺跡調査会 志木ロータリークラブ	佐々木保俊
8	志木市遺跡群Ⅰ	1989	志木市の文化財第13集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
9	志木市遺跡群Ⅱ	1990	志木市の文化財第14集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
10	西原大塚遺跡第7地点 新邸遺跡第3地点 中野遺跡第7地点 中野遺跡第8地点 城山遺跡第6地点発掘調査報告書	1991	志木市の文化財第15集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
11	志木市遺跡群Ⅲ	1991	志木市の文化財第16集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
12	志木市遺跡群Ⅳ	1992	志木市の文化財第17集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
13	中道遺跡第12地点 中道遺跡第13地点 田子山遺跡第4地点 田子山遺跡第5地点発掘調査報告書	1992	志木市の文化財第18集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
14	志木市遺跡群Ⅴ	1993	志木市の文化財第20集	志木市教育委員会	尾形則敏
15	志木市遺跡群Ⅵ	1995	志木市の文化財第21集	志木市教育委員会	尾形則敏
16	志木市遺跡群Ⅶ	1996	志木市の文化財第23集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・深井恵子
17	城山遺跡第12地点 城山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第14地点 中野遺跡第11地点 中野遺跡第16地点 市場裏遺跡第1地点 田子山遺跡第10地点 中道遺跡第21地点 田子山遺跡第13地点 西原大塚遺跡第21地点 市場裏遺跡第2地点 中道遺跡第26地点発掘調査報告書	1996	志木市の文化財第24集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏
18	志木市遺跡群Ⅷ	1997	志木市の文化財第25集	志木市教育委員会	佐々木保俊・尾形則敏・深井恵子
19	西原大塚の遺跡 西原特定土地区画整理事業に伴う発掘調査概報	1998	—	志木市遺跡調査会 西原特定土地区画整理組合	佐々木保俊
20	志木市遺跡群9	1999	志木市の文化財第27集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
21	志木市遺跡群10	2000	志木市の文化財第28集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
22	埋蔵文化財調査報告書1	2000	志木市の文化財第29集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
23	西原大塚遺跡第45地点発掘調査報告書	2000	志木市遺跡調査会調査報告第6集	志木市遺跡調査会 小松フォークリフト株式会社	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳・上田 寛
24	志木市遺跡群11	2001	志木市の文化財第30集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・内野美津江
25	埋蔵文化財調査報告書2	2001	志木市の文化財第31集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
26	志木市遺跡群12	2002	志木市の文化財第32集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・深井恵子
27	埋蔵文化財調査報告書3	2002	志木市の文化財第34集	志木市教育委員会	尾形則敏・佐々木保俊・深井恵子・佐々木 潤
28	志木市遺跡群13	2003	志木市の文化財第35集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
29	中野遺跡第49地点—東京電力志木変電所の埋蔵文化財発掘調査報告—	2004	志木市遺跡調査会調査報告第7集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
30	志木市遺跡群14	2004	志木市の文化財第36集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
31	西原大塚遺跡第111地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第8集	志木市遺跡調査会	
32	西原大塚遺跡第110地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第9集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
33	城山遺跡第42地点	2005	志木市遺跡調査会調査報告第10集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
34	志木市遺跡群15	2006	志木市の文化財第37集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子
35	新邸遺跡第8地点	2007	志木市遺跡調査会調査報告第11集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
36	中道遺跡第65地点	2007	志木市遺跡調査会調査報告第12集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・藤波啓容・青柳美雪
37	志木市遺跡群16	2008	志木市の文化財第38集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
38	西原大塚遺跡第138地点 西原大塚遺跡第154地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第14集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
39	西原大塚遺跡第120地点 西原大塚遺跡第131地点 田子山遺跡第97地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第15集	志木市遺跡調査会	佐々木保俊・内野美津江・宮川幸佳
40	志木市遺跡群17	2008	志木市の文化財第39集	志木市教育委員会	尾形則敏・深井恵子・青木 修
41	城山遺跡第61地点 埋蔵文化財発掘調査報告書	2008	志木市遺跡調査会調査報告第16集	志木市遺跡調査会	尾形則敏・深井恵子・青木 修

第3表 志木市の発掘調査報告書一覧

の127号土坑からは、馬の骨が検出されている。この土坑からは、板碑と土師質土器の他、炭化種子（イネ・オオムギ・コムギなど）も出土しており、イネの塊状のものは「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものであるという分析結果が報告されている。さらに、第35地点では、鑄造関連の遺構も検出されている。130号土坑については鑄造遺構、134号土坑については溶解炉に該当し、遺物としては、大量の鉄滓（スラッグ）、鑄型、三叉状の土製品、砥石などが出土している。また平成13年の第42地点からは、多くの土坑・地下室・井戸跡が検出される中、234号土坑から、鉄鍋の完形品が出土したことは特筆すべきである。この鉄鍋は、土坑の坑底面に伏せてある状況で出土しており、「鍋被り葬」と呼ばれる風習が志木市でも実在していた可能性が高い。

平成11～14（1999～2002）年度にかけて発掘調査が実施された中野遺跡第49地点からは、頭を北に向け横臥屈葬された人骨を出土した67号土坑が検出されている。その他、ピット列・土坑・溝跡などが検出されていることから、この一帯が『館村旧記』に記載がある「村中の墓場」関連に相当する施設ではないかと考えられる。

中道遺跡では、昭和62（1987）年の第2地点から人骨を伴う地下式坑、掘立柱建築遺構が検出され、平成7（1995）年の中道遺跡第37地点からは、人骨と古銭5枚を出土した土坑墓1基と13世紀に比定される青磁盤1点を出土した道路状遺構1本が検出されている。

新邸遺跡では、昭和60（1985）年の第1地点から段切状遺構の平場から多数の土坑・地下式坑が検出され、平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、人骨と六文銭を伴う火葬墓2基が検出されている。おそらく、この新邸遺跡から中道遺跡一帯は、『館村旧記』に記載がある「大塚千手堂」であり、古くは天台宗の「七堂大伽藍」を誇る「松林山観音寺大受院」関連遺構として、今後は体系的な究明が必要とされるであろう。

7. 近代以降

近代以降の遺跡では、平成5（1993）年に発掘調査が実施された田子山遺跡第31地点から、敷島神社境内に存在する富士塚の築造（明治2～5年）に関連するローム採掘遺構が検出されている。この遺構の坑底面からは、鋤・鍬などの無数の工具痕が観察され、採掘作業がかなり組織的な単位で行われていたこともわかり、地域研究の重要な資料と言える。

平成15（2003）年の新邸遺跡第8地点からは、野火止用水跡が検出され、市内初の発掘調査例となった。用水路の基盤面からは水付きの銹着面が確認され、底面からは大量の陶磁器が出土した。

第2節 城山遺跡の概要

ここで、今回本書で報告する城山遺跡について概観することにする。

城山遺跡は、志木市柏町3丁目を中心に広がる遺跡で、東武東上線志木駅の北西約1.2kmに位置している。遺跡は、柳瀬川右岸の台地上に立地しており、標高は約12m、低地との比高差は約5mである。

遺跡の周辺を眺めると、現況は住宅地を主としているが、小学校・神社・墓地などが存在すること

第1章 遺跡の立地と環境

から、市内の台地上では比較的緑地を多く残している地区と言える。しかし、平成13(2001)年度の第42地点、そして今回の第58・60地点により、大規模開発は一段落し、今後は個人住宅建設の新築及び建て替え等を中心とする小規模開発の増大が予想される。

さて、城山遺跡は、これまでに61回の調査(平成20年9月まで)が実施され、縄文時代草創・前・中期、弥生時代後期、古墳時代前・中・後期、奈良・平安時代、中・近世に至る複合遺跡であることが判明している。そこで、これまでに城山遺跡からどのような遺構・遺物が検出されたかを今までの発掘調査の成果から代表的な例を挙げ、大まかに振り返ってみることにしたい(第4表)。

まず、城山遺跡における最初の発掘調査は、昭和49(1974)年に実施されたA地点に始まる。この調査は、市史編さん事業の一環で志木市立志木第3小学校の校庭内を発掘調査したものである。この調査により、縄文時代前期の諸磯a式期の住居跡1軒と弥生時代後期の住居跡1軒、中世の溝跡1本が検出されている。特に、この地区から縄文時代前期の住居跡が検出されたことは、同遺跡に存在する城山貝塚との関連で注目されるものとなった。

昭和55(1980)年には、柏城の大堀の実体を解明する目的で、市史編さん室によるトレンチ発掘が実施され、上幅9.02m・下幅1.6m・深さ4.7mの大堀跡の細部形態が明らかになった。

昭和60(1985)年には、志木市遺跡調査会により、城山遺跡第1地点の発掘調査が実施された。この調査は、面積約5,000㎡という市内では初の大規模調査となり、古墳時代前期の住居跡1軒、後期の住居跡53軒、奈良・平安時代の住居跡6軒、中・近世では柏城の大堀跡を含め、土坑・井戸跡・溝跡・ピット群など多くの遺構・遺物が検出された。同時にこの調査を契機に志木市では、本格的に発掘調査体制が整備されたことは重要であろう。

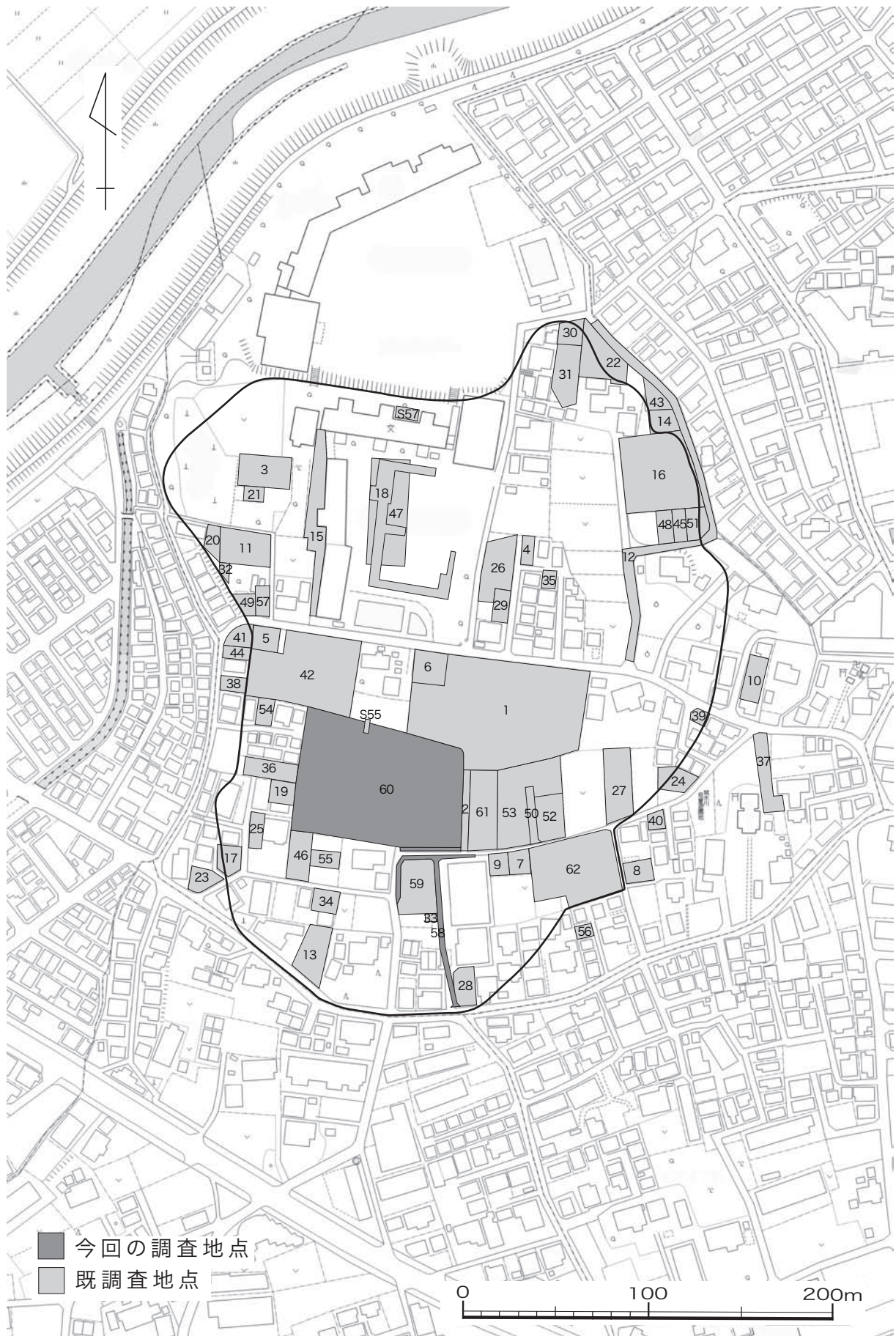
昭和61(1986)年、志木ロータリークラブのボランティア事業の一環として、市教育委員会が主体となり、発掘調査が行われ、弥生時代末葉から古墳時代初頭の住居跡1軒、古墳時代後期の住居跡3軒、中・近世の土坑17基が検出された。

昭和62(1987)年、本市では、国庫及び県費の補助金を導入し、個人専用住宅建設等に伴う発掘調査を開始した。この年は城山遺跡では第4地点の発掘調査が実施され、縄文時代中期の埋甕1基、弥生時代末葉から古墳時代初頭の住居跡1軒、平安時代の土坑2基、中・近世の地下室1基が検出された。

平成元(1989)年、第7・9地点の発掘調査が実施され、古墳時代後期の住居跡7軒、平安時代の住居跡1軒、中・近世の土坑5基が検出された。この調査は、第1地点よりも台地の奥まった地区ではあったが、古墳時代後期の住居跡が密集して分布することが判明し、改めて集落の広がりを理解するのに重要であったと言える。

平成2(1990)年の第12地点の調査では、中・近世に比定される地下室・井戸跡・溝跡が検出されている。これらについては、『館村旧記』の屋敷割之図では表記されていないが、柏城関連の遺構と考えられる。

平成4(1992)年には、第15・16地点の調査が実施された。第15地点は志木市立志木第3小学校の西校舎裏の道路工事に伴うもので、この調査では、柏城の本丸を囲む大堀と考えられる遺構が検出されたことに注目される。第16地点は、第15地点から東方向に150m程の近距離に位置しており、



第2図 城山遺跡の調査地点 (1/5,000)

第1章 遺跡の立地と環境

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺構の概要	報告書No.
A地点	90.00		昭和49年7月29日 ～8月4日	学術調査	(縄文前期)住居跡1軒(弥生後期)住居跡1軒(中世)溝跡1本	1984 『志木市史 原始・古代編』
C地点	30.00		昭和55年7月20日 ～8月21日	学術調査	(中世)柏城大堀跡	1986 『志木市史 中世資料編』
B地点	50.00		昭和57年3月25日 ～3月31日	学術調査	(古墳後期)住居跡2軒(中世)溝跡1本	1984 『志木市史 原始・古代編』
第1・2地点	4,964.39		昭和60年4月8日 ～11月26日	共同住宅建設	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡53軒(奈良・平安)住居跡6軒(中・近世)土坑31基・溝跡5本・井戸跡9基・ビット	No.5
第3地点	300.00		昭和61年7月21日 ～8月30日	学術調査	(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡3軒(中・近世)土坑16基、溝跡2本	No.7
第4地点	92.28		昭和62年6月19日 ～7月1日	個人住宅建設	(縄文中期)埋甕1基(弥生後期)住居跡1軒(平安)土坑2基(中世)土坑1基(不明)土坑1基	No.8
第5地点	125.00	昭和63年 6月10日		共同住宅建設	検出されなかった	No.9
第6地点	166.08		昭和62年12月12日 ～12月28日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒、土坑1基(中・近世)土坑7基	No.10
第7地点	130.00	平成元年 11月17日	11月20日 ～12月4日	宅地造成	(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡1軒	No.11
第8地点	132.13	11月23日		共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第9地点	115.71	12月4日	12月4日～18日	宅地造成	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)土坑5基	No.11
第10地点	330.49	平成2年 3月16日		共同住宅建設	検出されなかった	No.11
第11地点	192.00	4月6日	4月7日～20日	個人住宅建設	(縄文早期)炉穴2基(縄文前期)土坑1基(縄文中期)住居跡1軒、土坑2基(古墳前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑3基、井戸跡1基	No.12
第12地点	1,074.00	4月19日 ～24日	4月25日～5月22日	道路改良工事	(中・近世)土坑2基、溝跡4基、井戸跡1基	No.17
第13地点	400.44	5月7日	5月8日～17日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒	No.17
第14地点	181.90	平成4年 5月1日		個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第15地点	560.00		平成4年7月21日 ～8月21日	道路工事	(古墳後期)住居跡6軒(中・近世)溝跡2本・土坑1基	No.27
第16地点	1,556.00		平成4年10月2日 ～12月11日	共同住宅建設	(縄文)遺物包含層、集石1基(古墳後期)住居跡1軒(中・近世)土坑1基、井戸跡2基、溝跡2本	No.27
第17地点	130.56	平成5年 3月22日	6月3日～8月28日	個人住宅建設	検出されなかった	No.15
第18地点	115.45	6月3日	6月3日～8月28日	雨水流水抑制工事	(縄文)土坑1基(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡8軒(中・近世)土坑6基、溝跡6本	未
第19地点	361.93	10月28日	11月1日～15日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	未
第20地点	100.38	12月24日	平成6年1月13日 ～17日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡1軒(不明)土坑2基	No.15
第21地点	48.00		2月18日～2月24日	樹木土壌改良	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡2軒(近世)土坑3基	未
第22地点	498.13	平成6年 3月2日	3月9日～30日	共同住宅建設	(縄文早期)炉穴1基(古墳後期)住居跡1軒	未
第23地点	157.94	5月31日		個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第24地点	277.68	7月6日		個人住宅建設	検出されなかった	No.16
第25地点	127.38	7月15日	7月15日～29日	個人住宅建設	(古墳中期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(近世)土坑1基、溝跡1本(不明)土坑1基	No.16
第26地点	410.00	8月18日	8月22日～10月14日	共同住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡7軒(平安)住居跡4軒、土坑1基(中・近世)土坑6基、溝跡4本(不明)土坑1基	未
第27地点	371.52	平成7年 1月30日	2月27日～4月7日	共同住宅建設	(古墳後期)住居跡2軒(中・近世)土坑15基、溝跡2本、井戸跡1基	未

第4表 城山遺跡調査一覧(1)

調査地点	面積 (㎡)	確認調査日	発掘調査期間	調査原因	遺 構 の 概 要	報告書No.
第28地点	233.30	平成6年 12月13日	平成7年1月10 ～2月17日	事務所建設	(縄文前期)土坑1基(古墳後期)住居跡5軒(不明)土坑1基	未
第29地点	146.41	平成7年 4月5日	4月11日～28日	個人住宅建設	(縄文早期)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡1軒(中・近世)土坑11基、溝跡1本、ピット群	No.18
第30地点	200.85	4月24日		分譲住宅建設	検出されなかった	No.18
第31地点	164.27	6月6日		個人住宅建設	検出されなかった	No.18
第32地点	59.62	11月14日	11月15日	倉庫建設	(中世)ピット1本(不明)土坑1基	No.18
第33地点	30.00	平成8年 6月12日		防火水槽設置工事	検出されなかった	No.20
第34地点	162.00	7月12日	7月15日～8月1日	個人住宅建設	(古墳後期)住居跡3基(平安)土坑1基	No.20
第35地点	84.40	11月15日	11月18日～12月25日	個人住宅建設	(弥生後期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡1軒(平安)住居跡2軒(中・近世)鋳造土坑1基、溶解炉1基、土坑13基、井戸跡1基、ピット	No.20
第37地点	430.00	平成11年 11月5日		駐車場建設	検出されなかった	No.24
第38地点	120.38	平成12年 7月25日		分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26
第39地点	94.97	8月21日		個人住宅建設	盛土保存適用	No.26
第40地点	76.32	12月7日		個人住宅建設	検出されなかった	No.26
第41地点	140.33	12月12日		個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26
第42地点	2,173.79	12月18日	平成13年2月23日 ～6月29日	共同住宅建設	(旧石器)石器集中地点2ヶ所(縄文)土坑21基、炉穴1基(古墳後期)住居跡16軒(平安)住居跡5軒、土坑13基(中世以降)土坑151基、溝跡4本、井戸跡8基、ピット群	本報告
第43地点	117.00	平成13年 5月29日		分譲住宅建設	検出されなかった	No.26
第44地点	132.30	6月20日		分譲住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.26
第45地点	100.00	平成15年 1月31日		個人住宅建設	検出されなかった	No.30
第46地点	348.29	2月18日	平成15年2月28日 ～4月30日	個人住宅建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳中・後期)住居跡5軒(平安)住居跡1軒、溝跡1本(中世以降)土坑23基、地下室1基、井戸跡4基、道路状遺構1本	No.37
第47地点	1,200.00	2月21日		仮設校舎建設	検出されなかった(現地踏査)	No.30
第48地点	100.00	3月14日		個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.30
第49地点	232.23	8月26日	平成17年1月11日 ～2月1日	個人住宅建設	(縄文)土坑1基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑5基、地下室1基、井戸跡1基	No.40
第50地点	199.54	9月5日		道路新設工事	工事立会い	No.37
第51地点	200.19	9月16日		個人住宅建設	検出されなかった(現地踏査)	No.37
第52地点	300.42	10月14日		分譲住宅建設	盛土保存適用	No.37
第53地点	771.53	11月12日		宅地造成	盛土保存適用	No.37
第54地点	122.70	平成16年 8月11日		個人住宅建設	盛土保存適用	No.37
第55地点	115.10	10月8日	平成16年10月12日 ～11月30日	個人住宅建設	(縄文)土坑2基(古墳後期)住居跡3軒(平安)溝跡1本(近世)土坑2基	No.37
第56地点	80.01	平成17年 4月11日		個人住宅建設	検出されなかった	No.40
第57地点	165.30	平成15年 8月26日	平成17年8月29日 ～9月24日	個人住宅建設	(縄文)土坑3基(古墳後期)住居跡2軒(中世以降)土坑6基、土坑墓1基、地下室1基	No.40
第58地点	880.77	平成18年 4月18～21日	平成18年6月29日 ～8月28日	道路新設工事	本報告書参照	本報告
第59地点	496.94	4月6日	平成18年4月10日 ～6月22日	個人住宅及び 倉庫建設	(縄文前期)住居跡1軒(古墳後期)住居跡4軒(平安)住居跡2軒、掘立柱建築遺構2棟(近世)土坑1基	未
第60地点	5,332.66	平成18年 12月20 ～22日	平成19年2月15日 ～6月12日	福祉施設建設	本報告書参照	本報告
第61地点	710.96	平成19年 7月18・19日	平成19年8月27日 ～10月9日	分譲住宅建設	(縄文)土坑4基(古墳後期)住居跡2軒(平安)住居跡2基(中世以降)土坑28基、地下室1基、井戸跡1基、溝跡2本	No.41

第4表 城山遺跡調査一覧(2)

第1章 遺跡の立地と環境

ここでも柏城関連の溝跡等が検出されている。また、第16地点は縄文時代の遺物包含層が発達しており、多くの縄文土器が出土している。中でも草創期の爪形文土器が1点検出されたことには注目される。

平成5（1993）年には、志木市立志木第3小学校の雨水抑制工事に伴う調査により、縄文時代の土坑1基、弥生時代後期の住居跡1軒、古墳時代の住居跡8軒、中・近世の土坑6基・溝跡6本が検出された。中・近世の溝跡については、柏城関連の堀跡に相当するものと考えられる。

平成6（1994）年、第25地点の発掘調査が実施され、古墳時代中期の住居跡1軒・後期の住居跡1軒、近世の地下室1基・溝跡1本が検出された。古墳時代中期の住居跡については、屋内炉を有するもので、遺物には土師器・須恵器が出土している。特に須恵器は、陶邑産の大型器台の脚部破片の他、坏蓋の破片で、その特徴からTK216型式（5世紀前葉から中葉）に比定される可能性があり、市内では最古のものとなった。

平成7（1995）年の第29地点の調査では、縄文時代早期の土坑1基、古墳時代後期の住居跡2軒、平安時代の住居跡1軒、中・近世の土坑11基・溝跡1本・ピット群が検出されている。特筆すべきは、中世に比定される127号土坑から、馬の埋葬土坑が検出されたことである。馬は頭部及び上半部を欠くが、板碑の直下で、横臥屈葬された状態で埋葬されており、同時に土師質土器・炭化種子（イネ・オオムギ・コムギ）が出土している。中でも、イネの塊状のものは、「おにぎり」あるいは「ちまき」のようなものと分析結果が報告されている。

平成8（1996）年の第35地点の調査では、個人専用住宅という狭小な面積（84.40㎡）ではありながら、調査区全面から、弥生時代後期の住居跡1軒、古墳時代後期の住居跡1軒、平安時代の住居跡2軒、中・近世の鑄造土坑1基・溶解炉1基・井戸跡1基などが密集して検出された。この調査で特筆すべきは、平安時代の128号住居跡から、県内初の出土である「冨」印と市内初の猿投産の緑釉陶器片が出土したこと、さらに、17世紀中頃から後半に比定される鑄造遺構に関連する鑄造土坑・溶解炉、そして数多くの鑄型・鉄滓・道具類が出土したことである。

平成10・11・12年は、発掘調査は実施されなかった。

平成13（2001）年には、第42地点の調査が実施された。この調査からは、旧石器時代の石器集中地点2ヶ所、縄文時代の土坑21基・炉穴1基、古墳時代後期の住居跡16基、奈良・平安時代の住居跡5軒・土坑13基・ピット4本、中世以降の土坑151基・井戸跡8基・溝跡4本などの多くの遺構・遺物が検出された。

平成15（2003）年には、第46地点の調査が実施され、縄文時代前期諸磯期の住居跡1軒、古墳時代後期の住居跡5軒、平安時代の住居跡1軒・溝跡1本、中・近世の道路状遺構1本・土坑26基・井戸跡4本・ピット列が検出された。

平成16（2004）年度には、第49地点と第55地点の発掘調査が実施された。第49地点からは、縄文時代の土坑1基、古墳時代後期の住居跡2軒、近世の土坑6基が検出された。第55地点は、第46地点のすぐ東側に隣接し、縄文時代の土坑2基、古墳時代後期の住居跡3軒、平安時代の溝跡1本、近世の土坑2基が検出された。溝跡については、第46地点と同一遺構と思われ、東西方向に延びていることが判明した。近世の土坑のうち1基は地下坑で、主体部は通路状の横坑構造をもつ特殊タイプであった。

平成 18・19 (2006・2007) 年には、本報告である第 58・60 地点の調査が実施された (本文参照)。

また、第 59・61 地点の調査も実施され、第 59 地点からは、縄文時代前期の住居跡 1 軒、古墳時代後期の住居跡 4 軒、平安時代の住居跡 2 軒・掘立柱建築遺構 2 棟・近世の土坑 1 基が検出された。第 61 地点からは縄文時代の土坑 1 基、古墳時代後期の住居跡 2 軒、平安時代の住居跡 2 軒、中世以降の土坑 28 基・地下室 1 基・井戸跡 1 基・溝跡 2 本が検出された。

以上の調査から、城山遺跡は、旧石器時代・縄文時代・弥生時代・古墳時代・平安時代・中・近世、近代の複合遺跡であり、また、複合する密度も散在的ではなく、市内では最も濃密な地区であることが判明してきている。

最後に、本遺跡の特色を時代別にまとめると、以下のとおりである。

- 旧石器時代 石器集中地点 2 ヶ所。本地点で初めて検出される。
- 縄文時代 第 16 地点から草創期の爪形文系土器 1 点出土。
前期の城山貝塚。斜面貝塚。未調査である。
前期の諸磯式期の住居跡が 3 軒検出される。
第 4 地点から中期の住居跡 1 軒。加曾利 E II 式期。
- 弥生時代 後期の住居跡 4 軒。
- 古墳時代 前期の住居跡 2 軒。
中期から後期の大集落。5 世紀後半から 7 世紀後半にかけての住居跡が約 150 軒検出されている。
- 奈良時代 8 世紀後半の住居跡 2 軒。
第 42 地点の 1 号ピットから偏行唐草文の軒平瓦片 1 点出土。
- 平安時代 9 世紀前半から 10 世紀にかけての住居跡約 20 軒。
第 35 地点 128 号住居跡から、印面に「富」と書かれた銅印が出土。
- 中・近世 柏城関連の大堀を含めた溝跡・井戸跡・土坑。馬の埋葬土坑。鑄造関連遺構。

[註]

註 1 『館村旧記』は、館村 (現在の志木市柏町・幸町・館) の名主宮原仲右衛門仲恒が、享保 12～14 (1727～1729) 年にかけて執筆したものである。

註 2 『廻回雑記』は、左大臣近衛房嗣の子で、京都聖護院門跡をつとめた道興准后が、文明 18 年 (1486) 6 月から 10 ヶ月間、北陸路から関東各地をめぐり、駿河甲斐にも足をのぼし、奥州松島までの旅を紀行文にまとめたものである。

[引用・参考文献]

- 神山健吉 1988 「『廻回雑記』に現れる大石信濃守の館と十玉坊の所在についての一考察」『郷土志木』第 7 号
2002 「道興をめぐる二つの謬説を糾す」『郷土志木』第 31 号

第2章 発掘調査の概要

第1節 調査に至る経過

(1) 第58地点

平成17年10月、埼玉コンサルタント株式会社（以下、埼玉コンサルタント）から志木市教育委員会（以下、教育委員会）へ開発計画地内における埋蔵文化財の有無及び取り扱いについての照会があった。計画は志木市柏町3丁目2643番1外11筆（面積5322.66㎡）内に福祉施設を建設するというものである。まずは、施設本体の建設を行う前に取り付け道路の工事を平成18年の早々に実施し、その後施設本体の建設に着手したいという内容であった。

これに対し、教育委員会は当該開発予定地が周知の埋蔵文化財包蔵地である城山遺跡（コード11228-003）に該当することを説明し、発掘届・埋蔵文化財確認調査依頼書などの必要書類を渡した。埼玉コンサルタントによると現在ではまだ開発の事業計画が確定していない状況であるということから、今後は開発の事業計画が確定次第に事業計画書をもとに具体的に開発主体者及び主要関係者を交え、事前協議を行う予定とすることで、埼玉コンサルタントと教育委員会の相互で確認を行った。

埼玉コンサルタントと教育委員会との事前協議前の打ち合わせは、その後11月に1回、12月に2回実施した。そのうち、12月には実際の現地状況を把握するため、開発主体者と埼玉コンサルタントの案内で現地視察を行った。現況は敷地内に無数の大木が茂る林地であったため、更地にする際の木の伐採及び伐根作業においても埋蔵文化財が破壊されるおそれがあると判断し、教育委員会は、木の伐採作業にも立ち会いを行う必要性を説明した。

その後、平成18年3月、埼玉コンサルタントから連絡があったため、教育委員会では以後、十分に事前協議を実施することにより、工事及び調査の円滑性を重視する必要があると判断し、その後発掘調査を実施する前までに事前協議を4回実施した。

発掘調査までに至る経緯は、以下のとおりである。

第1回事前協議は、平成18年3月13日、志木市役所5階の第5会議室において実施され、工事内容の日程についての説明と質疑応答、提出書類の確認、確認調査実施日の決定と調査方法などの基本的な事項の相互確認を行った。今回の調査対象は、福祉施設の工事着手前の取り付け道路部分のみとすることに決定し、以後この調査に関する地点を城山遺跡第58地点と命名し、20日には開発主体者から埋蔵文化財発掘届、確認調査依頼者が提出された。

第2回事前協議は、平成18年4月7日、現地にて埋蔵文化財確認調査の範囲確認と日程、注意事項などの具体的な協議を行った。今回の取り付け道路工事は、工場内のアスファルト舗装された構内を縦断する計画であるため、確認調査は、まずアスファルト部分に事前にカッターを入れる必要があった。その作業については、開発主体者に依頼し事前に終了してもらうこととした。

平成18年4月18日～21日の4日間で確認調査を実施した。調査方法は、第3図に示すように取り付け道路部分の幅員6mの中央に1本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、古墳時代後期～平安時代の住居跡10軒程と近世以降の土坑あるいは溝跡8基程の遺構を調査区のほぼ全域から検出した。

平成18年4月27日には、第3回事前協議として、現地にて発掘調査を前提とした場合の表土剥ぎ作業に関わる具体的な相互確認を行った。

第4回事前協議は、平成18年6月5日、志木市役所生涯学習課において、初めて開発主体者及び主要関係者を交えての協議となった。協議内容は、まず教育委員会が、確認調査の結果報告を行い、その後保存対策についての再確認、さらに志木市遺跡調査会（以後、遺跡調査会）が実施した場合での発掘調査計画書・予算書の説明を行った。その結果、早急に工事を着手しなければならないという開発主体者側の意向があり、発掘調査は、民間の発掘調査会社の支援委託という形での導入を行うということで志木市遺跡調査会が調査を実施することに決定した。

平成18年6月14日、遺跡調査会は正式に開発主体者である土地所有者の個人2名と委託契約を締結する。

その後、遺跡調査会から埋蔵文化財発掘調査届が提出されたため、教育委員会はこの書類を埼玉県教育委員会経由で文化財長官に提出した。これにより、6月29日から志木市遺跡調査会を主体として発掘調査を実施した。なお、発掘調査通知書番号は教文第2-35号 平成18年8月4日付である。

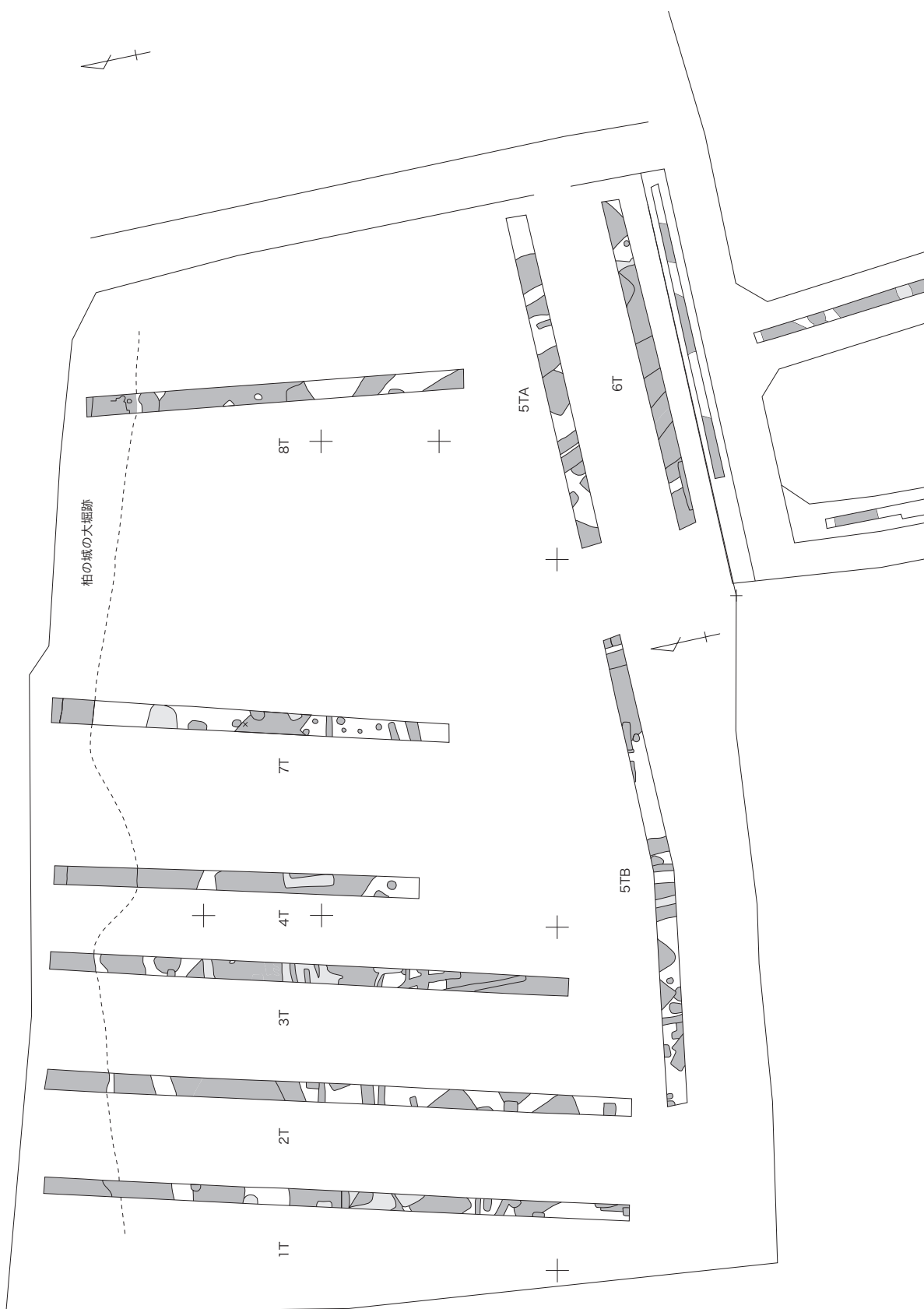
(2) 第60地点

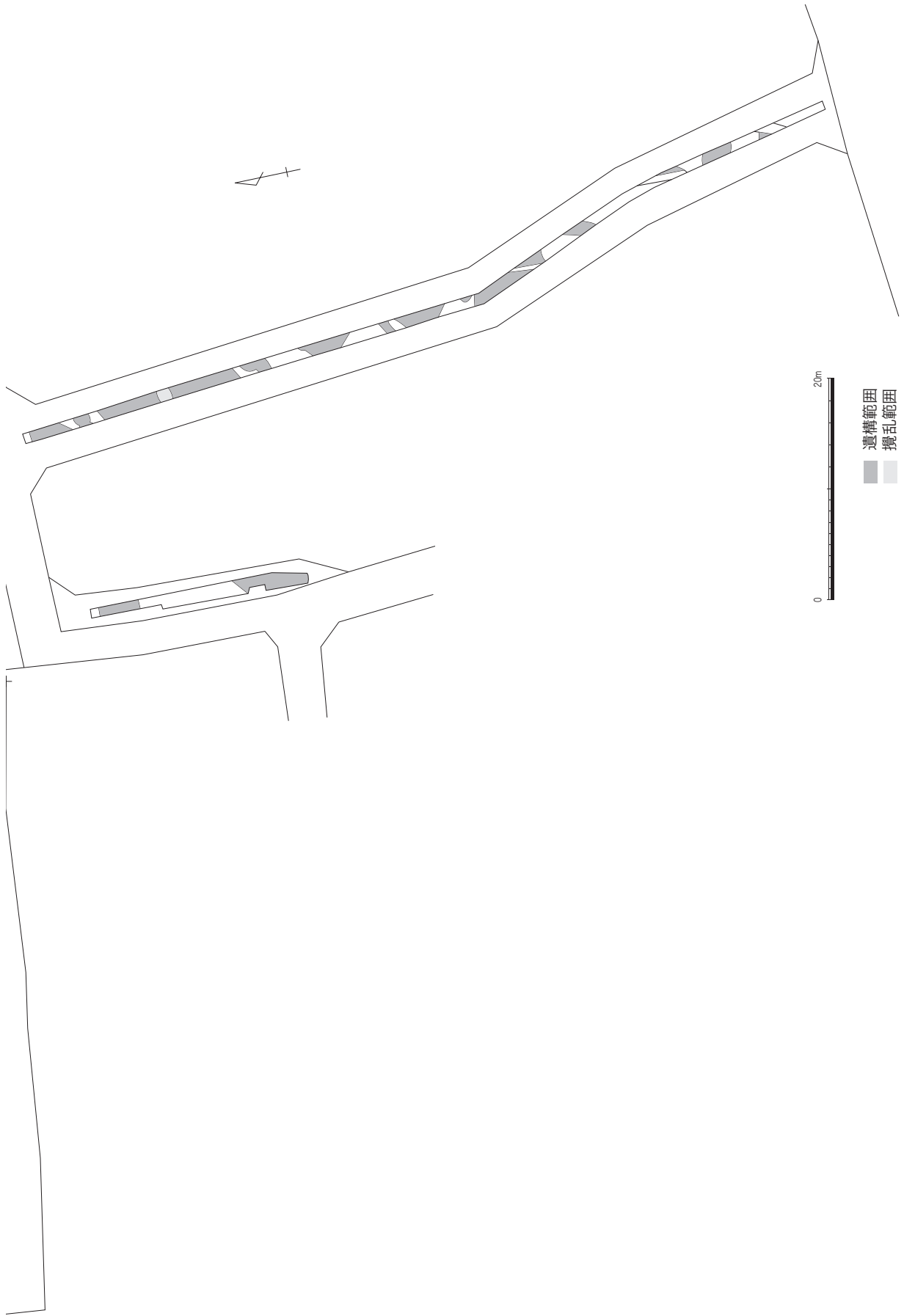
本地点の調査については、本来、平成18年度に調査を実施した城山遺跡第58地点に継続して着工の計画をしていたが、その後の開発計画の都合により、継続は不可能になったため、地点名を城山遺跡第60地点とし取り扱うことにした。本地点を含め、第58地点は福祉施設建設に伴う発掘調査であり、第58地点は本体建設の着手前の取り付け道路の新設工事部分、第60地点は本体建設部分に相当する。

第58地点の発掘調査は、平成18年6月29日から開始し、8月28日に埋戻し作業を終了し、すべての調査が完了した。

また、第60地点については、埼玉コンサルタント株式会社（以下、埼玉コンサルタント）と志木市教育委員会（以下、教育委員会）で、すでに平成18年8月から第58地点の調査に併行して調整を図っており、平成18年8月11日には第5回事前協議（第58地点からの続き）を志木市役所生涯学習課において実施している。協議内容は、本体施設部分の工事概要の説明と文化財保存対策についての確認、埋蔵文化財確認調査の実施についてなどの細かな協議を行った。特に文化財保存対策として、駐車場部分や公園用地などの箇所は、保存層を確保する条件で盛土保存を適用することとし、その他の施設部分と配管等により保存層30cm以上を確保できない箇所については、発掘調査を実施することとし、その位置の割り出しと面積の積算を示す図面の提出を依頼した。また、盆明けには木の伐採・伐根作業を開始する予定であるという説明を受けた。

実際、木の伐採・伐根作業は、9月11日から開始された。教育委員会はその作業に立ち合い、特に





第3図 第58・60地点試掘調査(1/500)

大木の伐根の際には注意を払うこととした。

その後、現地は更地になり、教育委員会は埼玉コンサルタントと開発計画の進捗状況についての調整を図ったが、11月に入っても埋蔵文化財確認調査の実施はできない状況であった。

12月8日、開発主体者から埋蔵文化財発掘届・確認調査依頼書が提出されたため、教育委員会は12月20日～22日の3日間で埋蔵文化財確認調査を実施することにした。発掘調査面積は、開発総面積5,322.66㎡に対し、2,166.00㎡と決定し、その他の3,156.66㎡は盛土保存を適用することにした。確認調査の方法は、第3図に示すように調査区内に8本のトレンチを設定し、バックホーを使用し表土を剥ぎ、同時に遺構確認作業を行った。その結果、縄文時代の土坑1基、古墳時代後期の住居跡34軒、中近世の土坑・溝跡69基、柏の城関連の大堀跡など調査区全域から多くの遺構を検出した。

第6回事前協議は、平成19年1月19日、志木市役所生涯学習課において実施した。協議内容は、まず教育委員会が、確認調査の結果報告を行い、その後保存対策についての再確認、さらに志木市遺跡調査会（以後、遺跡調査会）が実施した場合での発掘調査計画書・予算書の説明を行った。

その後、2月2日には、開発主体者と最終確認を行い、その結果、発掘調査は、民間の発掘調査会社の支援委託という形での導入を行うということで志木市遺跡調査会が調査を実施することに決定した。

2月13日、遺跡調査会は正式に開発主体者である土地所有者の個人2名と委託契約を締結する。

その後、遺跡調査会から埋蔵文化財発掘調査届が提出されたため、教育委員会は、この書類を埼玉県教育委員会経由で文化財長官に提出した。これにより、2月15日から志木市遺跡調査会を主体として発掘調査を実施した。なお、発掘調査通知書番号は教文第2-35号 平成18年8月4日付である。

第2節 調査の方法と経過

調査手法は、路面舗装及び表土を重機で掘り下げを行い、排出土は調査区域と同一所有者の隣接地に仮置きして、調査後の埋め戻しに用いた。遺構確認は一部、第Ⅱ層中で行ったが、基本的に第Ⅲ層上面である。調査記録のうち調査区及び遺構の平面図は光波測量器を用い、セクション図は手書きで図化を行った。遺物は原則、小破片の土器を除いて全点の出土地点の国家座標と標高を記録した。

(1) 第58地点

調査期間は平成18年6月29日から同年8月30日まで、実働44日。調査対象面積880.77㎡、調査面積675.44㎡である。調査区域は南北新設道路部分を1区、東西市道の拡幅部分を2区、南北市道の拡幅部分を3区とし、1区は隣接法人との協議の結果、南北に2分した。調査は1～3区の順に着手した。調査経過の詳細と各遺構の精査経過については、第5表の発掘調査工程表を参照されたい。

6月29日 発掘調査機材の搬入、基準点設置。1区北半部から舗装・表土除去、遺構確認開始。

7月3日 中世以降の遺構から精査開始。ただし、地下室に関しては事故防止のためレベル高位にある重複遺構の精査後に行った。

	平成 18 年 6 月	7 月	8 月
表土剥ぎ作業	6.29	7.20 8.3	
120H		8.2	
165H		7.20	
167H	7.6		
171H		7.11	
172H		7.11	
173H		7.6	
174H		7.10	
175H		7.7	
176H		7.7 7.27	
177H			8.2
178H			8.3
179H			8.7
180H			8.16
181H			8.16
182H			8.16
183H			8.16
184H			8.18
185H			8.23
186H			8.23
187H			8.23
379D	7.3		
380D	7.4		
381D	7.3		
382D	7.4		
383D	7.6		
384D	7.6		
385D	7.3		
386D	7.4		
387D	7.4		
388D	7.4		
389D	7.4		
390D	7.4		
391D	7.4		
392D	7.4		
393D	7.6		
394D	7.4		
395D	7.6		
396D	7.6		
397D		7.26	
398D		7.26	
399D		7.22	
400D		7.25	
401D		7.26	
402D			8.3
403D			8.10
404D			8.11
405D			8.5
406D			8.1
407D			8.1
408D			8.1
409D			8.1
410D		7.31	
411D		7.31	
412D		7.29	
413D		7.29	
414D		7.29	
415D		7.29	
416D		7.31	
417D		7.31	
418D		7.29	
419D		7.29	
420D			8.11
421D		8.2	
422D			8.11
423D			8.10
424D			8.10
425D			8.7
426D			8.10
427D			8.11
428D			8.11
429D			8.23
430D			8.11
431D			8.12
432D			8.12
433D			8.15
434D			8.14
435D			8.15

第5表 城山遺跡第58地点の発掘調査工程表(1)

第2章 発掘調査の概要

	平成 18 年 6 月	7 月	8 月
436D			8.15
437D			8.15
438D			8.15
439D			8.15
440D			8.15
441D			8.15
442D			8.15
443D			8.15
444D			8.15
445D			8.16
446D			8.16
447D			8.17
448D			8.23
449D			8.17
450D			8.19
451D			8.21
452D			8.22
453D			8.22
5FP			8.22
34M	7.4		
35M		7.7	
36M			8.2
37M		7.6	
38M			8.1
4T	7.3		
6T			8.10
道路状遺構			8.16
基本土層			8.2
埋め戻し・撤収			8.2
			8.25

第5表 城山遺跡第58地点の発掘調査工程表(2)

6日 住居跡の精査を開始(167号・173号)。

8月28日 3区を埋め戻し、現場作業終了。

30日 発掘調査機材の撤収。

(2) 第60地点

調査期間は平成19年2月15日から同年6月12日まで、実働85日である。調査対象面積5,322.66㎡、調査面積2,166.00㎡である。遺構確認や遺構外遺物の管理等のため、調査区域に合わせて10mグリッドを設定した。調査は北西部(A-1グリッド)から南東に向かって着手した。調査経過の詳細と各遺構の精査経過については、第6表の発掘調査工程表を参照されたい。期間中には多くの来訪者があり、また、5月18日には市立宗岡小学校の児童が社会科授業の一環として見学に訪れた。

2月15日 発掘調査機材の搬入、基準点設置。北西部から表土除去、遺構確認開始。

19日 建物入口予定部分(C-5グリッド)の大型溝(39号溝跡)の精査着手。

26日 中世以降の遺構から精査開始。第58地点と同様、地下室に関しては事故防止のためレベル高位にある重複遺構の精査後に行った。

3月1日 住居跡の精査を開始(191号)。

5月28日 ラジコンヘリを用いて空中写真の撮影。

30日 福祉施設建設に伴う地鎮祭が行われた。

6月5日 地下室の精査(～同月6日)。天井部は重機を用いて除去。

7日 埋め戻し、発掘調査機材の撤収(～同月12日)、現場作業終了。

	平成 19 年 2 月	3 月	4 月	5 月	6 月
表土剥ぎ作業	2.15	3.6			
182H				5.29	6.8
183H				6.1	
184H				6.1	
188H		3.20	4.6	5.31	
189H			4.26		
190H				5.14	
191H	3.1				
192H		3.7			
193H		3.16	4.6		
194H		3.19			
195H		3.22	4.9		
196H		3.28		5.7	
197H			4.5		
198H			4.2	5.12	
199H			4.2		
200H				5.8	
201H		3.26	4.12		
202H			4.6	5.12	
203H			4.17	5.8	
204H			4.26	5.16	
205H			4.23	5.16	
206H			4.24	5.11	
207H			4.24	5.9	
208H			4.24	5.12	
209H			4.26	5.18	
210H			4.30	5.11	
211H			4.30		5.26
212H			4.30	5.16	
213H			4.30	5.22	
214H				5.31	
215H				5.11	
216H				5.15	
217H				5.14	
218H				5.22	
219H				5.18	
220H				5.28	
221H					6.1
222H				5.28	6.7
223H				5.18	
224H				5.22	
225H					6.4
226H				5.22	
227H				5.28	6.7
228H				5.11	
229H					6.1
454D			4.26		
455D			4.24		
456D			4.24		
457D			4.26		
458D			4.26		
459D			4.24		
460D			4.24		
461D					6.6
462D			4.26		
463D			4.27		
464D			4.27		
465D			4.30		
466D			4.28		
467D			4.30		
468D			4.30		
469D				5.2	
470D				5.2	
471D				5.2	
472D				5.2	
473D				5.7	
474D				5.7	
475D				5.8	
476D				5.8	
477D				5.8	
478D				5.10	
479D				5.12	
480D				5.14	
481D				5.14	
482D				5.14	
483D		3.22			6.5
484D					6.6
485D					

第6表 城山遺跡第60地点の発掘調査工程表(1)

第2章 発掘調査の概要

	平成19年2月	3月	4月	5月	6月
486D	2.27				
487D	2.27				
488D	2.27				
489D	2.27				
490D	2.27				
491D	2.27				
492D	2.27				
493D	2.27				
494D	3.1				
495D	3.1				
496D	3.1	3.29			6.6
497D	3.2				
498D	3.2				
499D	3.2				
500D	3.3				
501D	3.3				
502D	3.6				
503D	3.6				
504D	3.6				
505D	3.7				
506D	3.7				
507D	3.7				
508D	3.8				
509D	3.9				
510D	3.9				
511D	3.12				
512D	3.9				
513D	3.12				
514D	3.12				
515D	3.9				
516D	3.9				
517D	3.9				
518D				5.8	6.6
519D		3.12			
520D		3.13			
521D		3.13			
522D		3.14			
523D		3.13			
524D		3.13			
525D		3.13			
526D		3.13			
527D		3.14			
528D		3.14			
529D		3.14			
530D		3.14			
531D		3.14			
532D		3.14			
533D		3.14			
534D		3.14			
535D		3.15			
536D		3.14			
537D		3.15			
538D		3.15			
539D		3.15			
540D		3.15			
541D		3.15			
542D		3.16			
543D		3.15			
544D		3.15			
545D		3.16			
546D		3.16			
547D		3.19			
548D		3.16			
549D		3.16			
550D		3.16			
551D		3.16			
552D		3.16			
553D		3.19			
554D		3.20		6.5	
555D		3.19			
556D		3.19	4.6		
557D			4.6		
558D		3.27			
559D		3.27			
560D		3.26			
561D		3.27			
562D		3.26			
563D		3.27			

第6表 城山遺跡第60地点の発掘調査工程表(2)

	平成19年2月	3月	4月	5月	6月
564D		3.27			
565D		4.4			
566D			4.6		
567D			4.6		
568D			4.6		
569D			4.6		
570D			4.9		
571D			4.9		
572D			4.9		
573D			4.11		
574D			4.11		
575D			4.11		
576D			4.13		
577D			4.17		
578D			4.18		
579D			4.19		
580D			4.19		
581D			4.18		
582D			4.19		
583D			4.19		
584D			4.20		
585D			4.19		
586D			4.20		
587D			4.20		
588D			4.20		
589D			4.20		
590D			4.20		
591D			4.21		
592D			4.21		
593D			4.21		
594D		3.19			
595D			4.21		
6FP				5.8	
7FP					6.2
8FP					6.2
39M	2.19				
40M	2.26	3.9			
41M		3.29			
42M			4.20		
43M			4.24		
44M			4.26		
45M			5.1		
46M				5.14	
31W		3.22			
32W		4.4			
33W			4.11		
34W				5.7	
35W				5.12	
3S	2.27	3.7			
4S	2.27	3.6			
5S		3.1			
基本土層				5.29	
埋め戻し・撤収					6.7

第6表 城山遺跡第60地点の発掘調査工程表(3)

第3節 基本層序

両地点の調査では、遺構外出土の旧石器はあるものの、旧石器時代の文化層を確認することはできなかった。基本層序は、第58地点では地下室の壁面を利用して2か所設定し、第X層まで確認、第60地点は4か所設定したが第IV層までにとどまった。以下、各層ごとにその特徴を記す。

第I層 表土 耕作土及びアスファルト舗装に伴う客土（採石等）。近・現代の遺物を包含する。

第II層 暗茶褐色土層 漸移層であり、縄文時代遺物包含層に相当する。下部の締まりは比較的強い。第58地点では1区北半部の一部、第60地点ではE-1・2グリッド付近と炉穴周辺（B-2・3グリッド）にわずかに確認されたのみである。

第III層 黄褐色土層 いわゆるソフトローム層である。微量の赤色・黒色スコリアを含み、粘性・締まりは比較的強くハードロームとの境界も不明瞭な部分がある。

第IV層 黄褐色土層 赤色・黒色スコリアを多く含む。粘性は弱い、締まりは強く硬い。

第V層 暗黄褐色土層 立川ローム第I黒色帯に相当する。赤色・黒色スコリアを多量に含み、青灰色のスコリアをわずかに含む。色調の差異は乏しく、第IV層との境界は非常に不明瞭である。

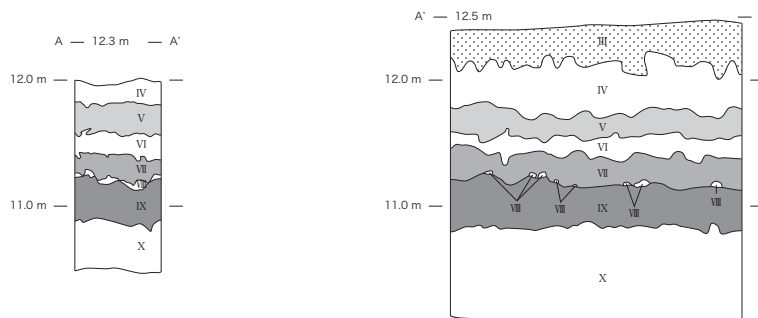
第VI層 黄褐色土層 赤色・黒色・青灰色スコリアを含み、部分的に色調の明るいところが認められる。いわゆるAT包含層準である。

第VII層 暗黄褐色土層 立川ローム第II黒色帯上半部に相当する。赤色・黒色スコリアを含み、少量の青灰色スコリアを含む。

第VIII層 黄褐色土層 第VII層と第IX層の境界付近にブロック状に存在することが多いが検出しにくい。また、第IX層内部で検出されることがある。

第IX層 暗黄褐色土層 立川ローム第II黒色帯下半部に相当する。6mm大程の赤色スコリアを多く含み、黒色・青灰色スコリアを少量含む。また、本層準から粘性が強くなる。

第X層 黄褐色土層 全体的に砂質で、いわゆるイモ石が多くなる。黒色、オレンジ色スコリアを含む。



第4図 基本層序

第3章 検出された遺構と遺物

両調査地点で確認された遺構・遺物は、旧石器時代から近世に及ぶ。しかし、旧石器時代はナイフ型石器2点のみの出土で、遺構は確認されていない。また、縄文時代は早期～後期にわたる遺物が検出されているが、遺構は早期の炉穴と前・後期の集石・土坑のみである。弥生時代は遺構・遺物ともに確認できなかった。以降、主体となるのは古墳時代中期～奈良・平安時代の集落跡、中世城館「柏城」との関連が考慮される16世紀代の遺構、17～19世紀にわたる近世の遺構である。

以下、時期ごとに記述をするが、各遺構の法量計測値と遺物の属性は各節末の一覧表を参照されたい。

第1節 縄文時代

(1) 概要

縄文時代の遺構は極めて少なく、土坑4基と集石3基、炉穴4基を数えるに過ぎない。確認された範囲も第58地点では1区北側と2区で、第60地点では調査区北西部分に偏っている。しかし、遺構外出土遺物はほぼ全域から出土しており、縄文時代遺構・遺物の分布は濃淡はあるものの両地点全域に広がるものと推察される。なお、遺構の帰属時期の認定にあたっては、出土遺物が乏しいため、特に覆土の特徴から判断している。

(2) 土坑

〈第58地点〉

400号土坑

遺構 (第9図)

[位置] 1区北半部。

[構造] 172号住居跡と381号土坑に切られる。(平面形) 不明。不整楕円形か。(断面形) 不定形。壁は緩やかに立ち上がる。(覆土) 5層。ローム粒子を含む黒褐色～暗褐色土。(規模) 不明×86cm。(深さ) 37cm。(長軸方位) N-2°-E。

[遺物] 覆土中から縄文時代前期後半、後期前半の土器小破片各1点出土。

[時期] 縄文時代後期か。

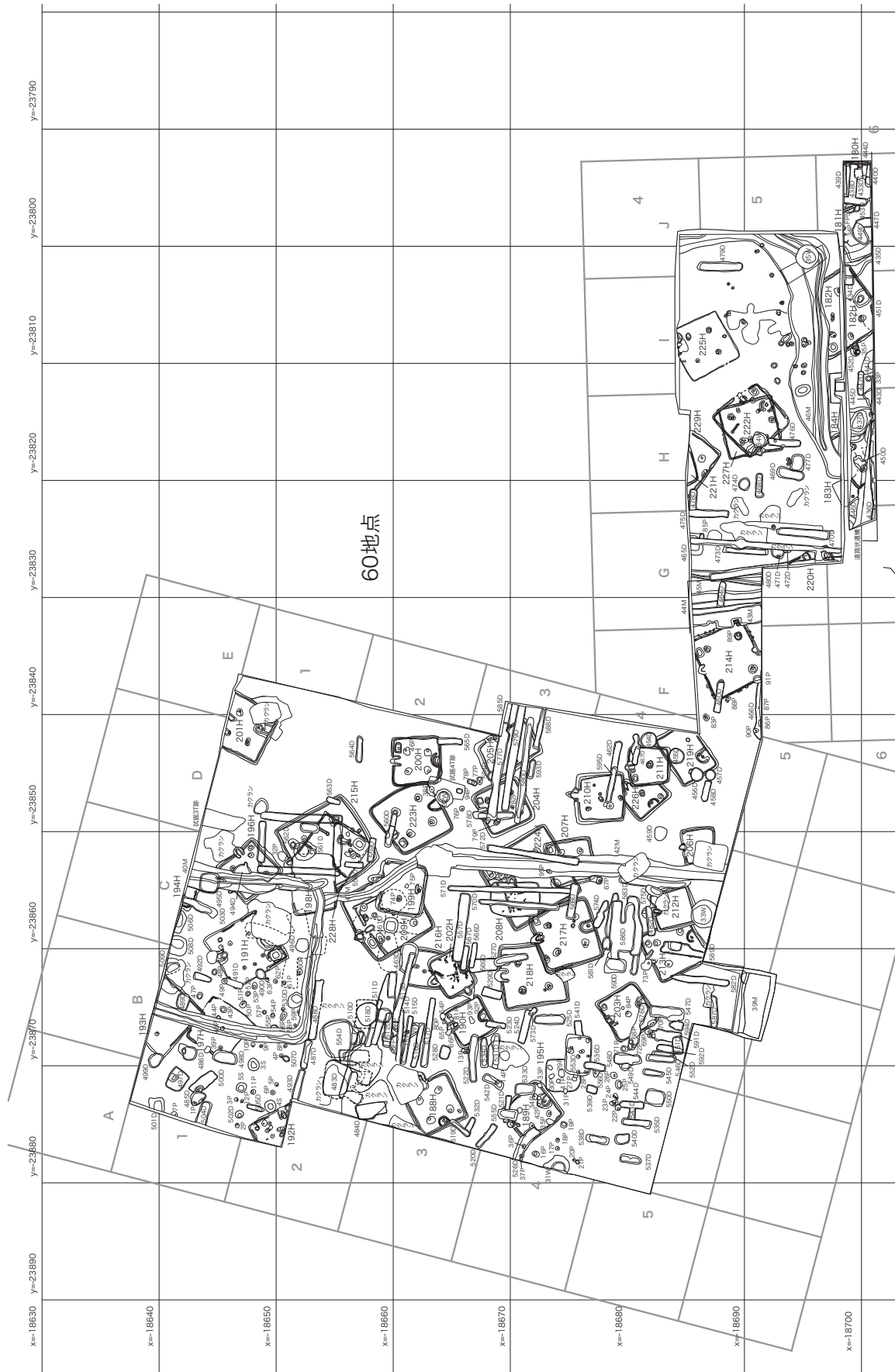
遺物 (第10図、第7表)

1は諸磯c式(古)土器、2は堀之内2式土器である。

452号土坑

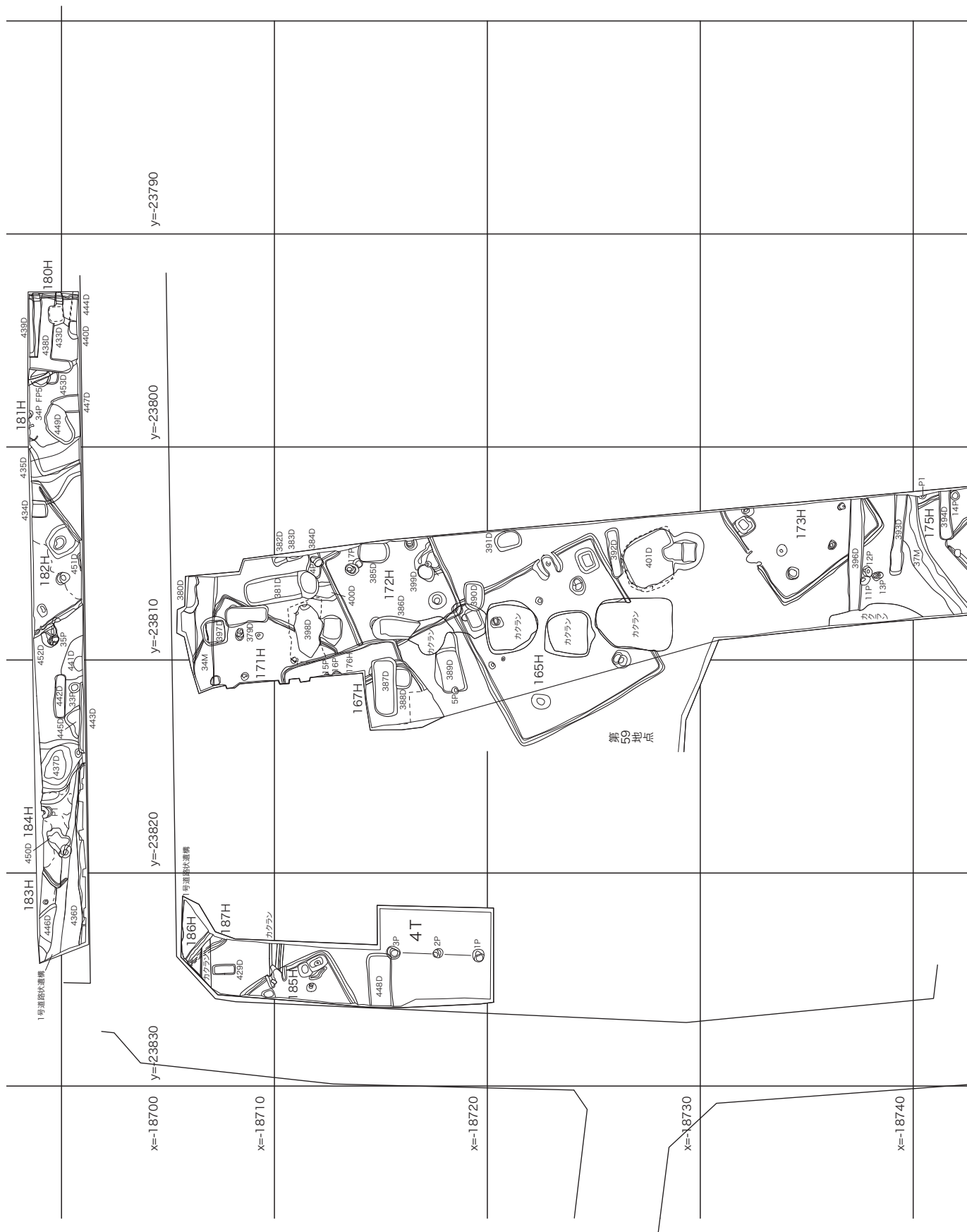
遺構 (第9図)

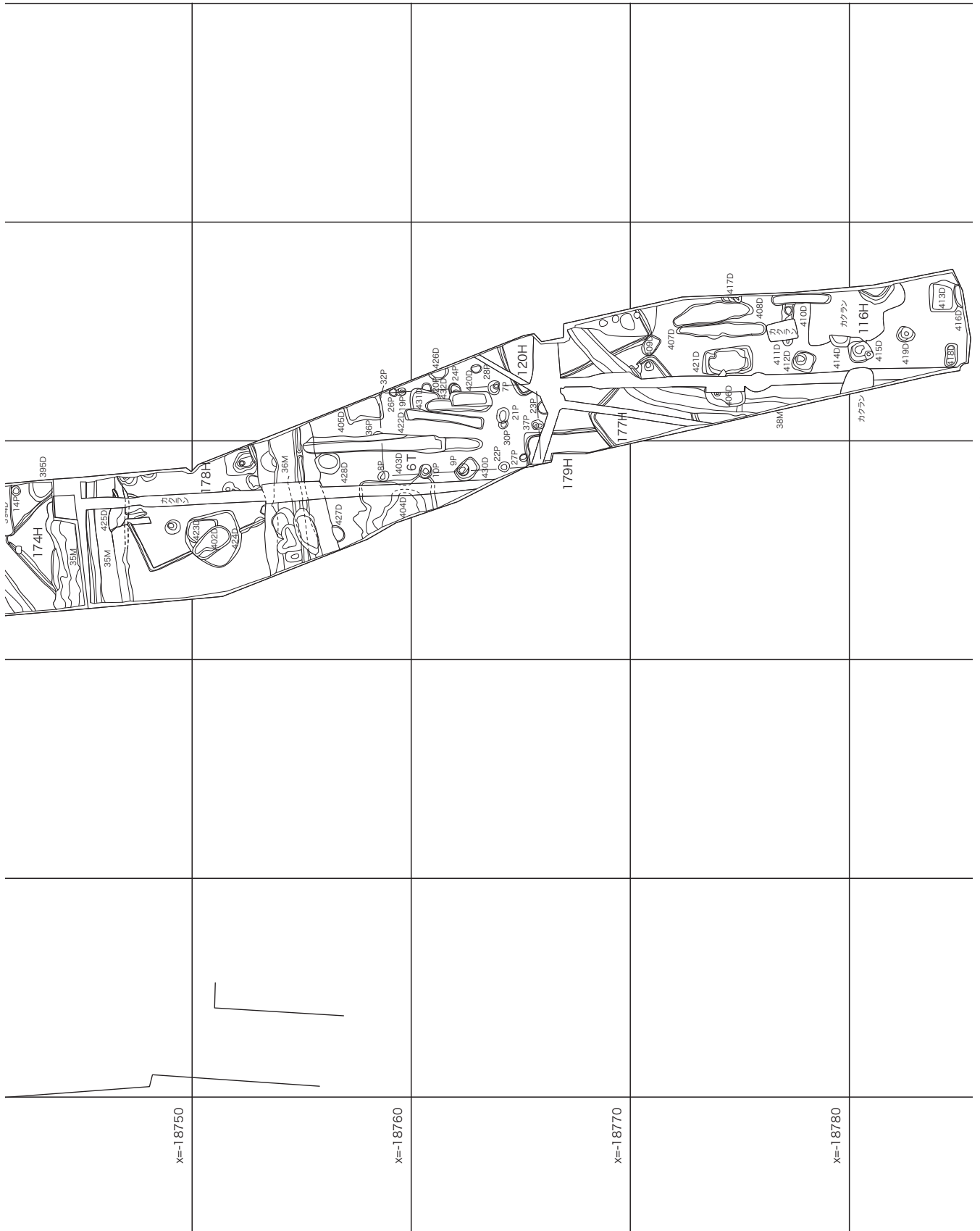
第3章 検出された遺構と遺物



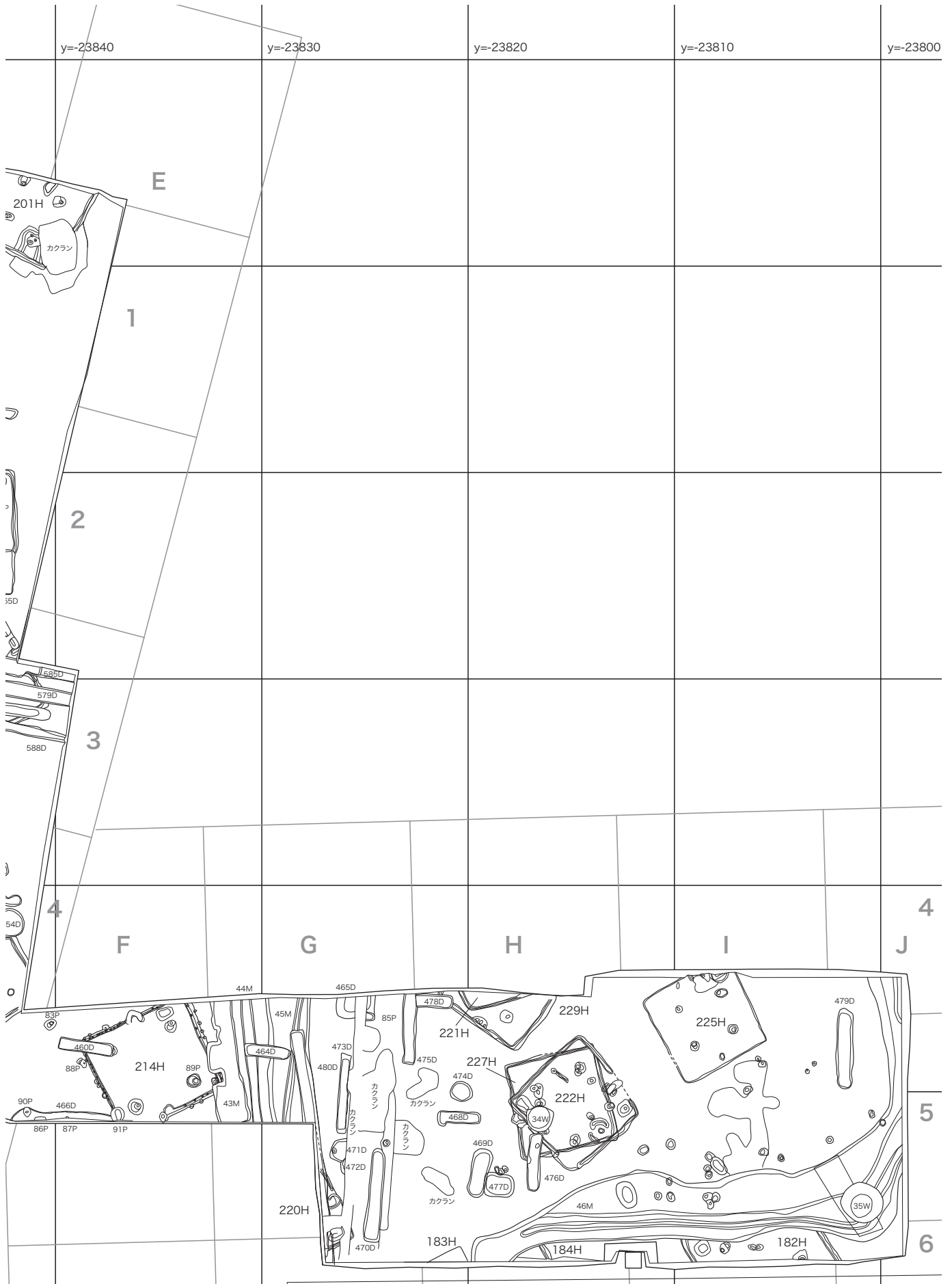


第5図 遺構分布図 (1/500)

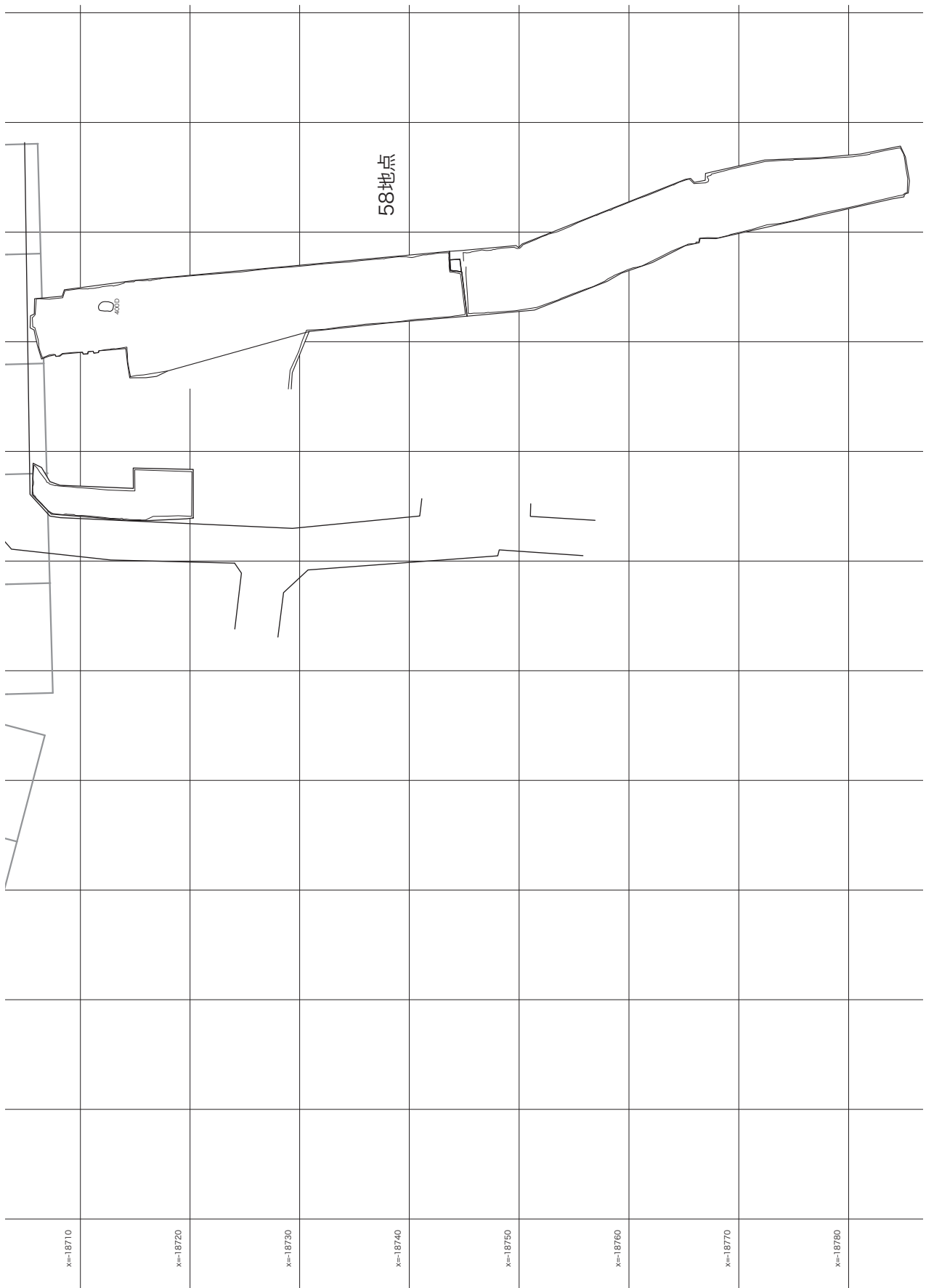




第6図 第58地点 遺構分布図 (1/250)

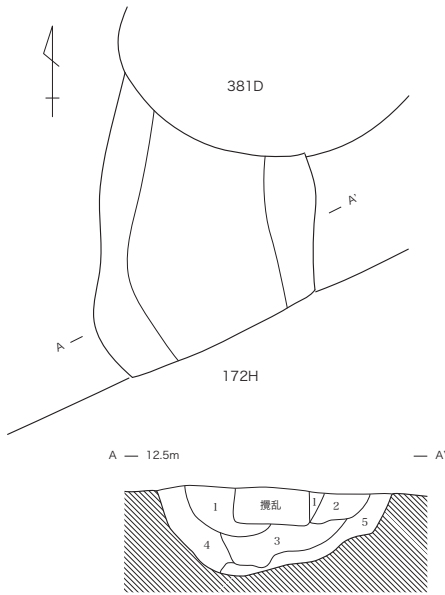






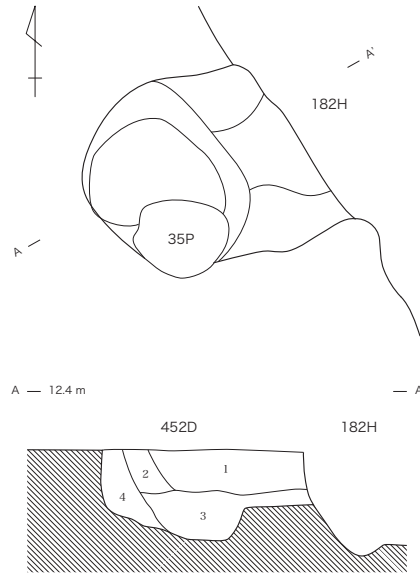
第8図 縄文時代の遺構分布図 (1/500)

第3章 検出された遺構と遺物



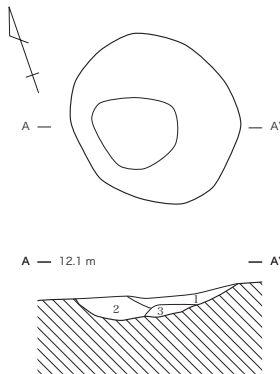
400号土坑

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中の黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中の褐色土。ローム土主体。



452号土坑

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中の黄褐色土。ローム主体。



502号土坑

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む褐色土。



第9図 土坑1 (1/30)



第10図 400号土坑出土遺物 (1/3)

[位置] 2区。

[構造] 35号ピットと182号住居跡のカマドBに切られる。(平面形)不明。不整楕円形か。(断面形)西側は一段深くなる。短軸方向は逆台形状。(規模)不明×76cm。(深さ)36cm。(長軸方位)N-65°-E。(覆土)4層。ローム粒子・焼土粒子を含む灰黄褐色～褐色土。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 縄文時代。

453号土坑

遺構 (第13図)

[位置] 2区。

[構造] 181号住居跡の床面下で確認。5号炉穴を切り、438号土坑に切られる。(平面形)不明。(断面形)皿状。(規模)不明×47cm。(深さ)10cm。(長軸方位)N-81°-W。(覆土)1層。ローム粒子・焼土粒子を含む褐色土。

[遺物] 覆土中から縄文時代早期後葉の土器小破片1点出土。

[時期] 縄文時代早期後半。

[所見] 5号炉穴とは別遺構と判断されたが、本土坑が炉穴であった可能性はある。

遺物 (第14図、第7表)

1は条痕文系土器である。

〈第60地点〉

502号土坑

遺構 (第9図)

[位置] A-1グリッド。

[構造] 集石群の北西に近在。(平面形)不整形。(断面形)皿状。(規模)69×63cm。(深さ)14cm。(覆土)3層。ローム・炭化物粒子を含む暗褐色～黄褐色土。

[遺物] 覆土中から破碎礫25点(一部被熱)を検出。

[時期] 縄文時代。集石と同時期の可能性が窺われる。

[所見] 位置関係から、集石群と関連のある遺構と思われる。本土坑における火の使用痕跡は認められない。

(3) 集石

〈第60地点〉

3号集石

遺構 (第11図)

[位置] B-1グリッド

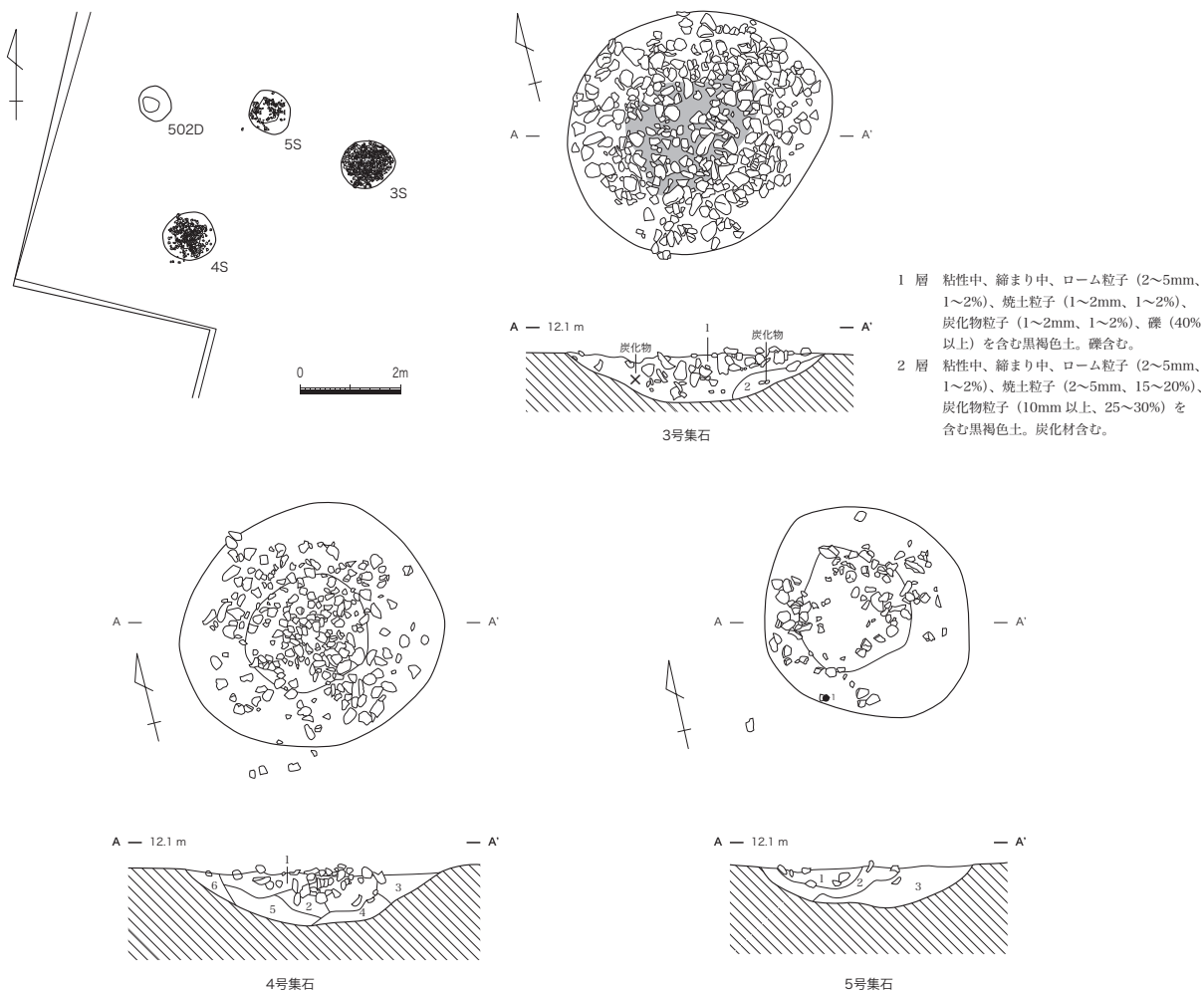
[構造] 集石群のうち、東に位置する。(掘り込み平面形)不整形。(掘り込み断面形)皿状。(規模)102×96cm・深さ20cm。(覆土)2層。炭化材、炭化物・焼土粒子を含む黒褐色土。第2層は炭化材・焼土粒子の含有量が多い。(礫の状況)ほとんどは被熱、破碎礫も多数含まれる。(礫の分布)大半は第1層上半に含まれ、平面的には掘り込み全体に広がる。

[遺物] 礫と炭化材以外は認められなかった。

[時期] 縄文時代。4・5号集石と同時期と考えられる。

[所見] 掘り込み底面は顕著に被熱しており、炭化材の存在から、焚き火がなされたことは明白。この焚き火の対象物は、礫と考えるのが妥当であろうか。

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (5~10mm、3~10%) を含む黒褐色土。礫含む。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、褐色土。ローム主体。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり強、褐色土。3 層とほぼ同じ。ローム主体。

第 11 図 集石 (1/30)



第 12 図 5 号集石出土遺物 (1/3)

4号集石

遺構 (第 11 図)

[位置] A - 2 グリッド

[構造] 集石群のうち、南西に位置する。(掘り込み平面形) 不整形円形 (掘り込み断面形) 皿状 (規模) 102×97cm・深さ 23cm。(覆土) 6 層。焼土・炭化物粒子をやや多く含む黒褐色～黒色土。(礫の状況)

ほとんどは被熱、破碎礫も多数含まれる。(礫の分布) 大半は第1層中に含まれ、平面的には第1層全面に広がる。

[遺物] 礫堆積中から縄文時代後期の土器(胴部)小破片1点出土。

[時期] 縄文時代後期か。

[所見] 掘り込み底面や覆土中の被熱痕跡は認められなかった。

5号集石

遺構(第11図)

[位置] A・B-1グリッド。

[構造] 集石群のうち、北西に位置する。(掘り込み平面形)不整円形。(掘り込み断面形)皿状。(規模)85×81cm。(深さ)18cm。(覆土)3層。焼土粒子少量と炭化物粒子をやや多く含む黒褐色～黒色土。(礫の状況)ほとんどは被熱、破碎礫も多数含まれる。(礫の分布)第1・2層中に含まれ、平面的には第1・2層範囲にまとまる。

[遺物] 礫堆積中から縄文時代前期後半の土器(口縁部)破片1点出土。

[時期] 縄文時代前期後半。

[所見] 3号・4号集石に比べ礫が少ない。また、4号集石同様、掘り込み底面や覆土中の被熱痕跡は認められなかった。

遺物(第12図、第7表)

1は諸磯c式(古)土器である。

(4) 炉穴

〈第58地点〉

5号炉穴

遺構(第13図)

[位置] 2区。

[構造] 181号住居跡の床面下及び壁面で確認。438・453号土坑に切られる。(平面形)円形。(規模)93×82cm。(深さ)41cm。(長軸方位)N-25°-W。(炉床)49～41cm。掘り込み南側の底面が被熱赤化している。(覆土)4層。4層上面が炉床面。炉床面以上の覆土は、ロームブロックを含む黒褐色～褐色土。

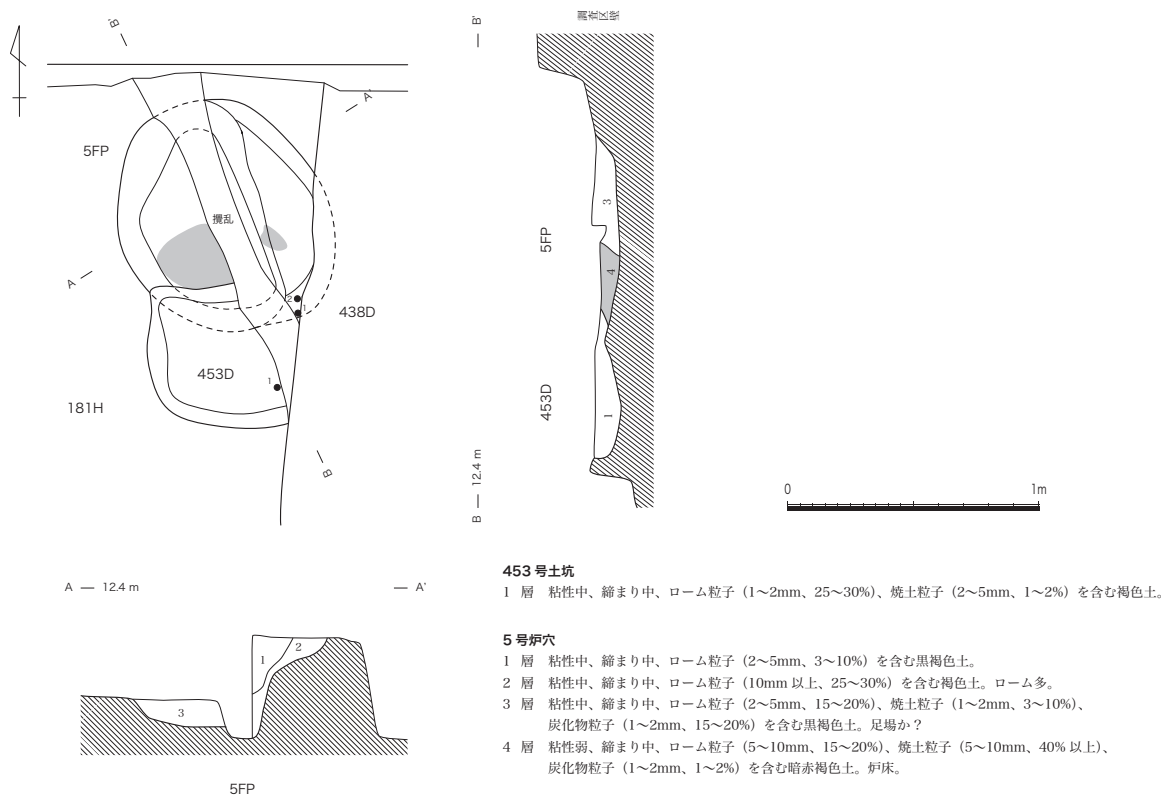
[遺物] 覆土中から縄文時代早期末葉の土器小破片2点出土。

[時期] 縄文時代早期末葉。

[所見] 181号住居跡に大きく削られているので、北西方向に延びる(足場相当部分)可能性がある。

遺物(第16図、第7表)

1と2は条痕文系土器である。



第13図 土坑2・炉穴1（1/60）



第14図 453号土坑出土遺物（1/3）

〈第60地点〉

6号炉穴

遺構（第15図）

〔位置〕 B-2・3グリッド。

〔構造〕 炉部を518号土坑に切られ、全体を512~514号土坑に切られる。調査の制約上、漸移層を掘り下げ、ローム上面で確認。（平面形）長楕円形。（規模）不明×94cm。（深さ）33cm。（長軸方位）N-45°-E。（炉床）不明×53cm。（覆土）3層。焼土・炭化物粒子を含む暗褐色~黒褐色土。

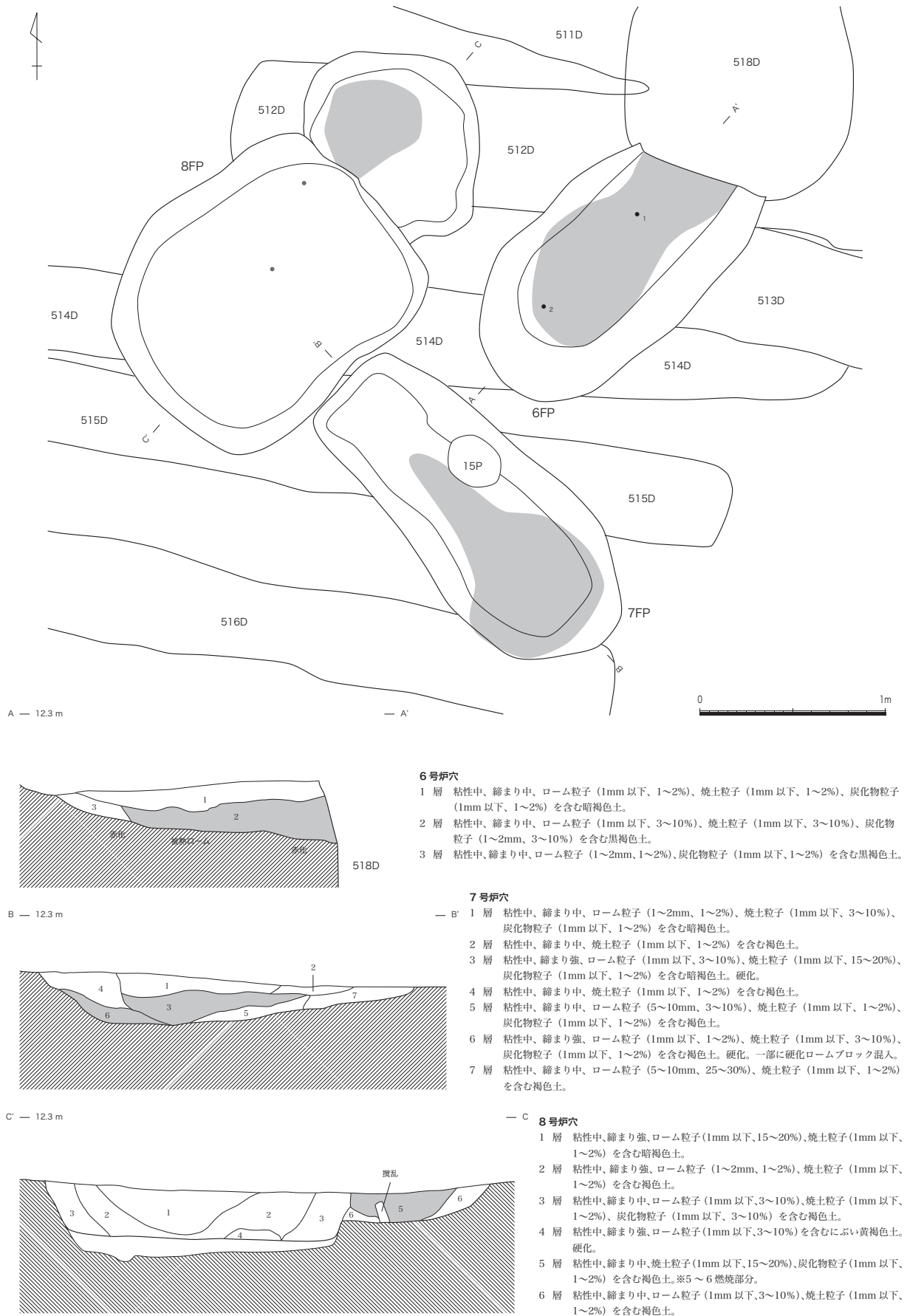
〔遺物〕 足場と炉床近くの底面付近で、縄文時代早期末葉の土器胴部破片3点出土。

〔時期〕 縄文時代早期末葉。

〔所見〕 北東側が炉部、南西側が足場。底面は足場から炉部に向けて緩やかに下がる。また、足場にも被熱痕跡が確認されているが、顕著ではない。

遺物（第17図、第7表）

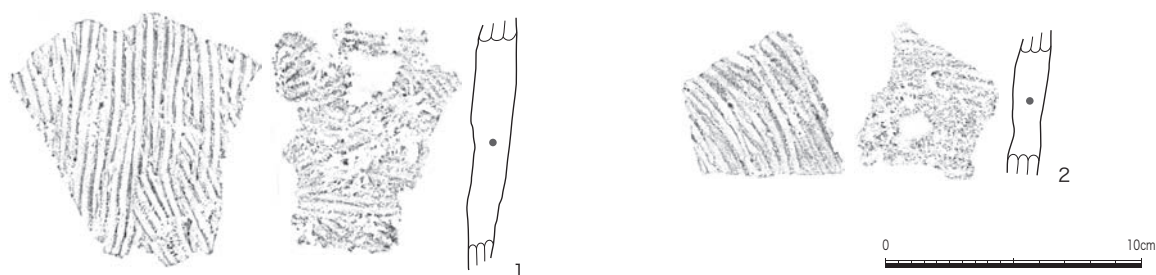
1と2は条痕文系土器である。



第15図 炉穴2



第16図 5号炉穴出土遺物 (1/3)



第17図 6号炉穴出土遺物 (1/3)

7号炉穴

遺構 (第15図)

[位置] B-3グリッド。

[構造] 515・516号土坑に切られる。(平面形)長楕円形。(規模)197×88cm。(深さ)30cm。(長軸方位)N-44°-W。(炉床)78×72cm。(覆土)7層。焼土・炭化物粒子を含む褐色土。第3層は焼土粒子を多く含み、硬化していることから、重複炉穴の炉床の可能性はある。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 縄文時代。6・8号炉穴と同一時期か。

[所見] 南東側が炉部、北西側が足場。底面は足場から炉部に向けて緩やかに下がる。

8号炉穴

遺構 (第15図)

[位置] B-2・3グリッド。

[構造] 512・514・515号土坑に切られる。(平面形)長楕円形? (規模)240×136cm。(深さ)42cm。(長軸方位)N-44°-W。(覆土)6層。焼土・炭化物粒子を含む褐色～暗褐色土。第4層は硬化している。

[遺物] 覆土上位で縄文時代早期末葉の土器小破片1点と、破碎礫(被熱?)1点出土。

[時期] 縄文時代早期末葉。

[所見] 北東側が炉部、南西側が足場。底面は足場よりも炉部が一段高くなる。

挿図番号	調査地点	遺構名	時期	型式	特徴	胎土	部位
第10図1	58	400D	前期後半	諸磯c古	集合沈線文	角閃石・長石・砂粒	胴
第10図2	58	400D	後期前半	堀之内2	LR・沈線	長石・砂粒	胴
第12図1	60	5S	前期後半	諸磯c古	貼付文・集合条線、沈線状	長石・石英・角閃石・土器状	口縁
第14図1	58	453D	前期後半	条痕文系	内:貝殻条痕	繊維・長石	胴
第16図1	58	5FP	早期末葉	条痕文系	外:貝殻条痕	繊維・長石	胴
第16図2	58	5FP	早期末葉	条痕文系	内外:貝殻条痕なし	繊維・長石	胴
第17図1	60	6FP	早期末葉	条痕文系	内外:貝殻条痕	繊維・角閃石・長石	胴
第17図2	60	6FP	早期末葉	条痕文系	内外:貝殻条痕	繊維・角閃石・石英・長石・黒雲母	胴

第7表 縄文時代遺構出土土器

第2節 古墳時代

(1) 概要

本遺跡の主体をなす時期で、現状では中期・5世紀前葉から8世紀初頭まで、連綿と集落が営まれている。今回調査の両地点では5世紀中葉から7世紀後葉までの住居跡が52軒とピット1基が確認されたが、6世紀後葉・末葉に帰属するものは認められなかった。この空白期は本遺跡の傾向とも符合する。ところどころに空閑地が認められるものの、調査区域全域に分布するものと見てよい。

(2) 住居跡

〈第58地点〉

120号住居跡

遺構 (第19図)

[位置] 1区南半部。

[住居構造] 東側半分以上は調査区域外(南東部分は第28地点で調査済み)。409号土坑と38号溝跡に切られる。(平面形) 正方形か。(規模) 6.81m×不明。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 28～47cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅19～27cm・下幅3～13cm・深さ9～14cmを測る。調査区域内(第28地点とも)では全周する。(床面) 貼床は確認できず、いわゆるタタキ床である。38号溝跡や攪乱、第28地点調査区域付近では確認できない部分があった。(床面レベル) 標高12.06～12.10m。(カマド) 未確認。(柱穴) 主柱穴は南の1基を確認(第28地点区域内)。(貯蔵穴) 南コーナー(第28地点区域内)に位置する。規模は82×61cm・深さ59cmを測る。(入口施設) 未確認。(覆土) 6層、自然堆積。南コーナー壁付近の床面直上に灰白色粘土の塊が検出された。(遺物) 土師器は破片が散在して出土。土錘と鉄製品は北半覆土中から出土。土師器坏の完形品と鞆羽口は白色粘土塊の付近で検出された。

[時期] 古墳時代中期(5世紀後葉)。

[所見] 第28地点の南東壁と、本地点南西壁においてもカマドの痕跡が確認されなかったことと、貯蔵穴の位置からカマドは北西壁に位置するものと思われる。鞆羽口の破片は単独出土で、ほかに鍛冶関連の遺構・遺物は確認されていない。

遺物 (第20図、第8・58・62表)

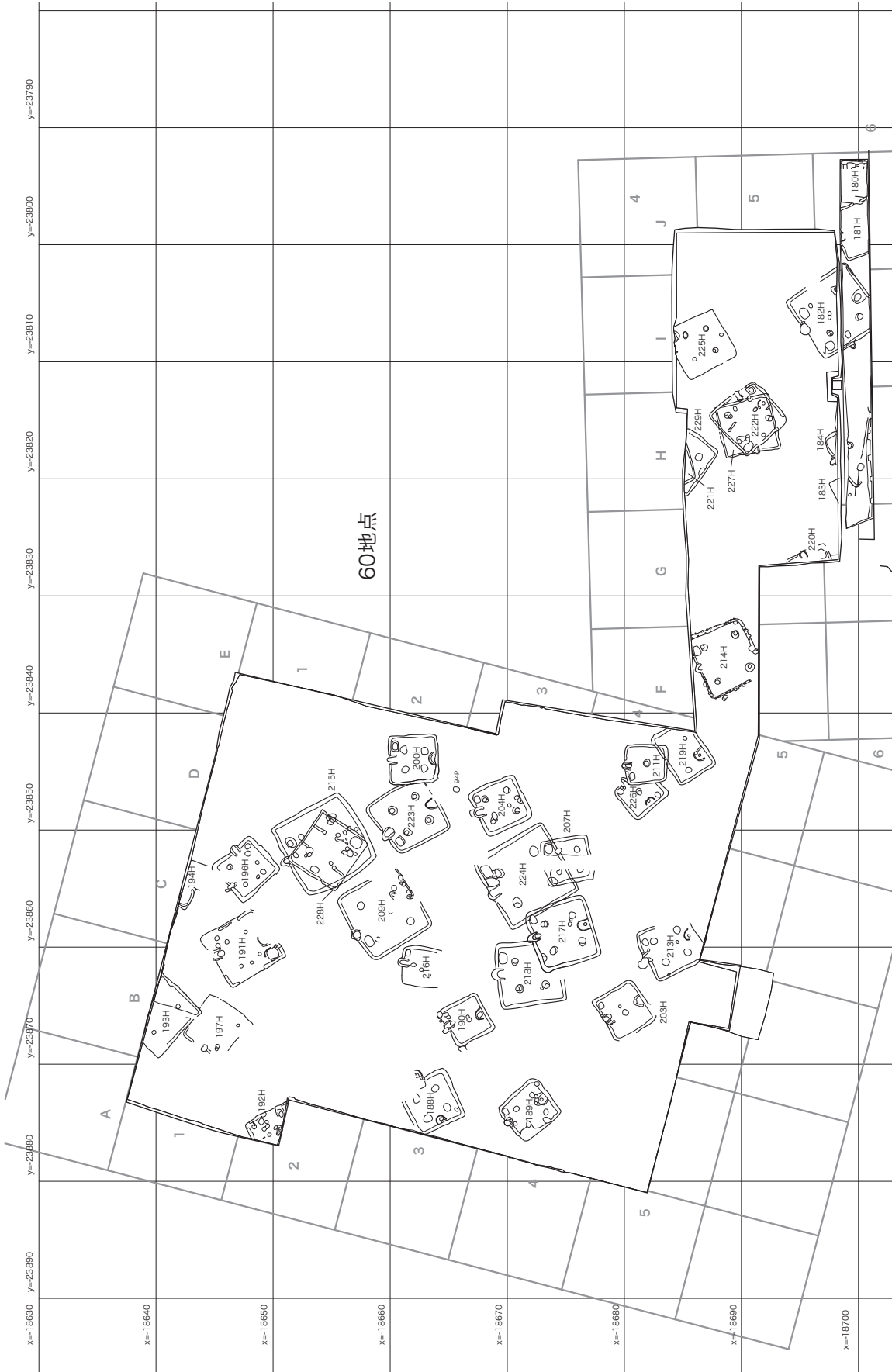
土師器坏(1)、須恵器片転用品(2)、土錘(3)、鞆羽口(4)、不明鉄製品(5)を図示した。2は破断面が磨面となっている。

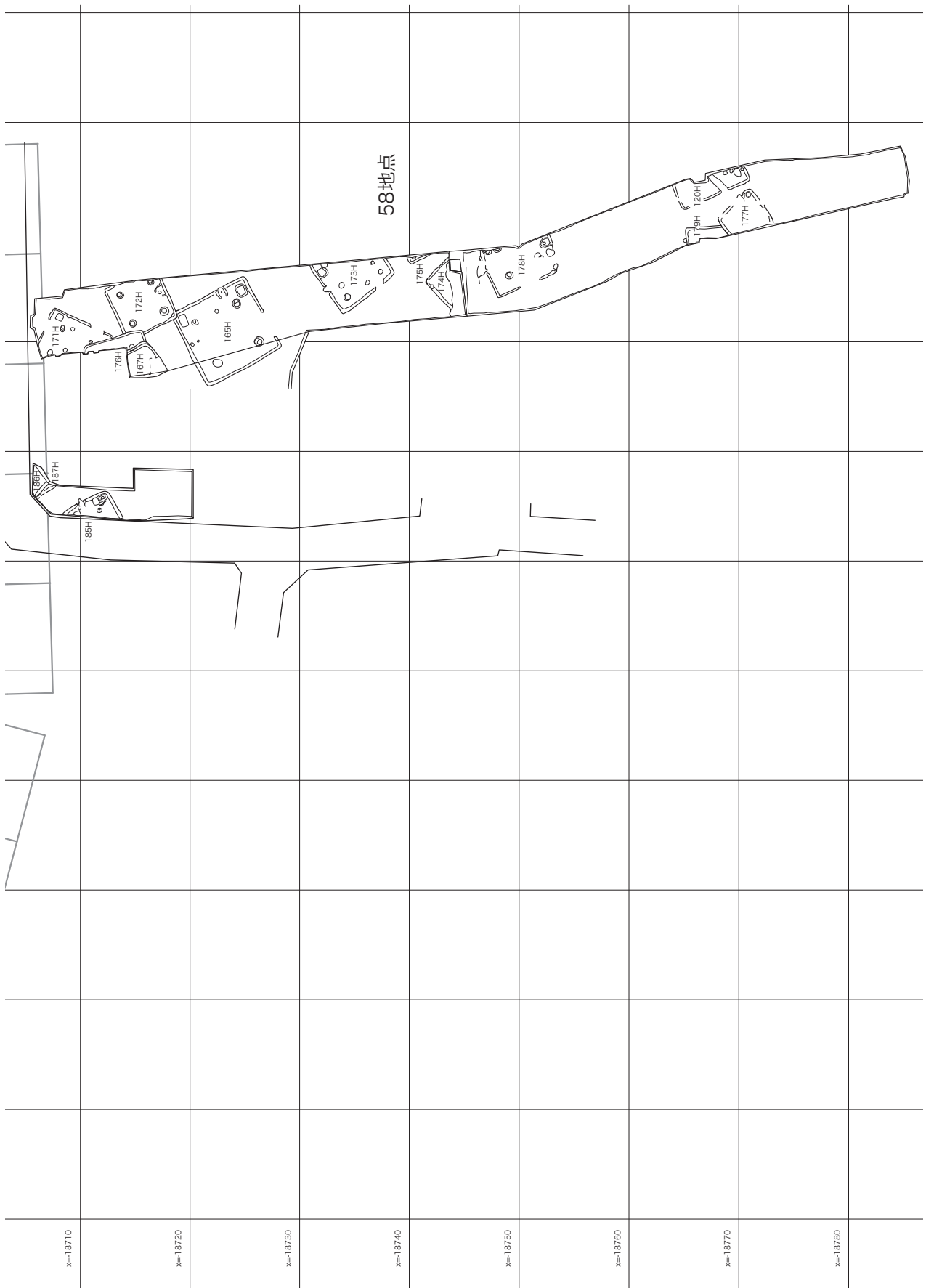
165号住居跡

遺構 (第21～25図)

[位置] 1区北半部。

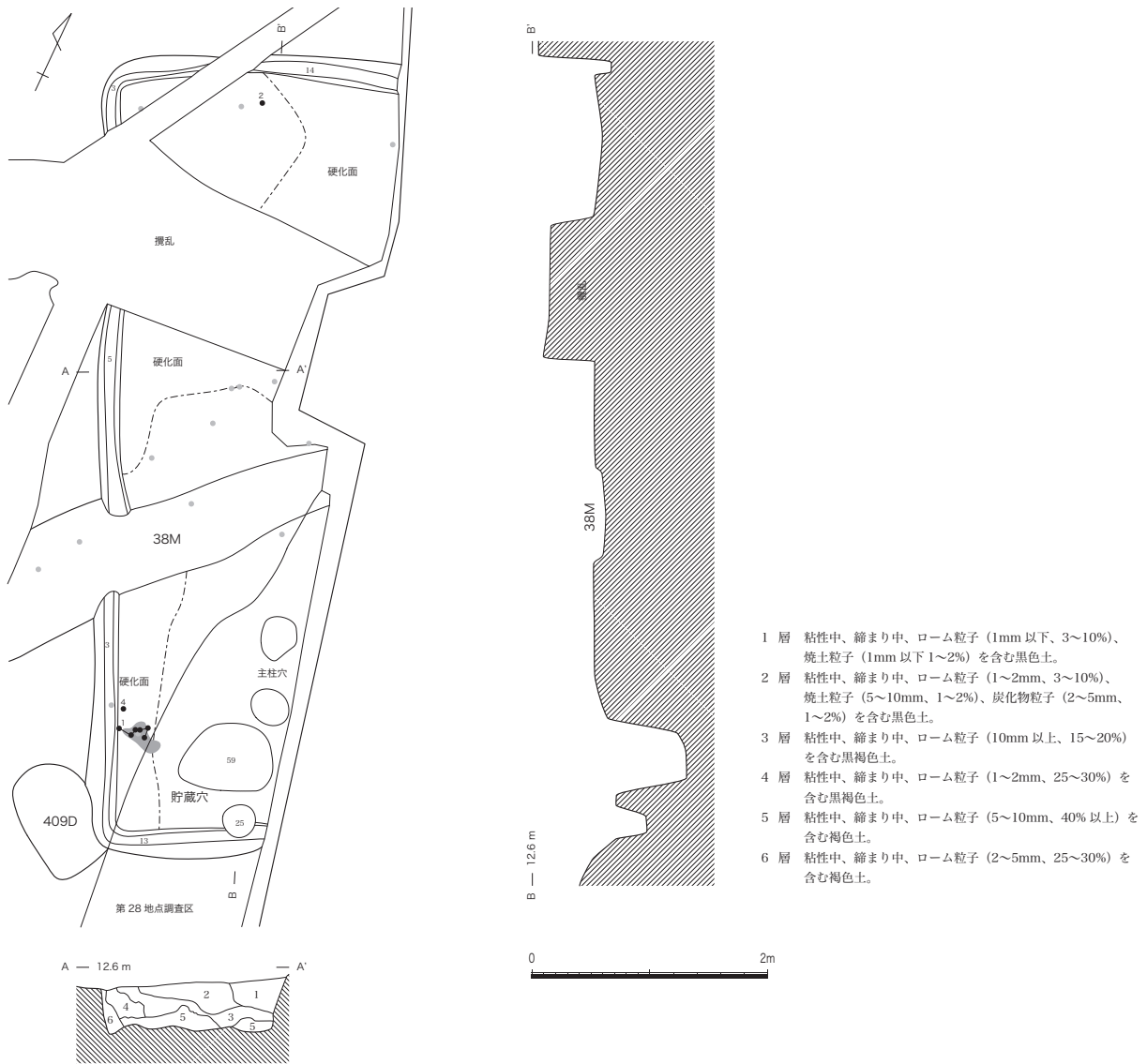
第3章 検出された遺構と遺物



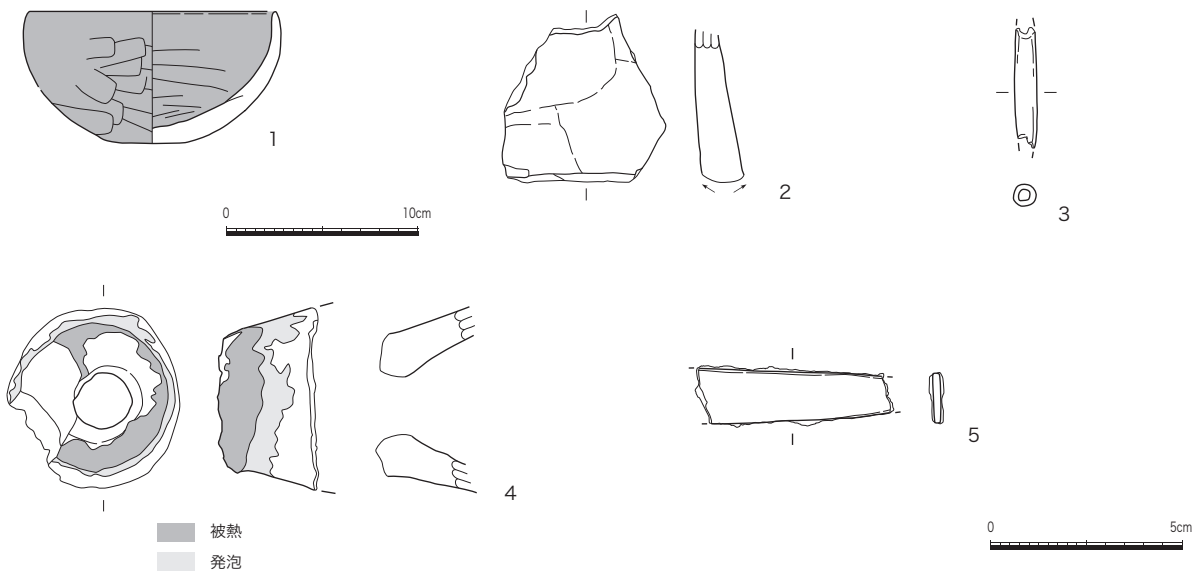


第18図 古墳時代の遺構分布図 (1/500)

第3章 検出された遺構と遺物



第19図 120号住居跡 (1/60)



第20図 120号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)

[住居構造] 東側3分の1は第59地点で調査済み。172号住居跡に切られる。(平面形)正方形。(規模)7.82×7.64m。(主軸方向)N-28°-W。(壁高)23～33cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)全周する。上幅20～39cm・下幅6～17cm・深さ24cmを測る。(床面)貼床は3～8cmの厚さで施されていた。壁際までほぼ全面硬化していた。(床面レベル)標高12.03～12.21m。

(カマド)北東壁に1基、北西壁に2基確認。〈カマドA〉北東壁の南東寄りに位置する。長さ116cm・幅138cm・壁への掘り込み14cmを測る。壁溝を褐色土で埋め戻した後に構築。両袖部はいわゆる白色粘土を基礎にしている。崩落した天井部も確認されたが、煙道部は判然としなかった。燃焼部の奥に土師器高坏を転用した(逆位)支脚が残っていた。この高坏は灰白色粘土で固定されており、高坏の上には土師器甕の胴部破片が載っていた。高坏は脚端部が打ち欠かれ、破断面は摩耗、外面には一面に粘土が付着し、脚部は被熱痕跡が認められるが著しくはない。〈カマドB〉北西壁の中央、西寄りに位置する。壁への掘り込みと燃焼部の痕跡を確認。旧カマドの一つと考えられる。〈カマドC〉北西壁の中央、東寄りに位置する。燃焼部の痕跡のみ確認。旧カマドの一つと考えられる。

(柱穴) 支柱穴4基と北東辺中央に1基の小柱穴を確認。うち、南東側の支柱穴2基は重複が確認された。深さは88～108cmを測る。

(貯蔵穴) 東コーナーと北コーナーに2基確認。〈貯蔵穴A〉カマド右脇、東コーナーに位置する。平面長方形。規模は119×98cm・深さ83cmを測る。覆土は住居跡覆土に類似する、ロームブロック・粒子を含む黒褐色土を基調とした自然堆積の状況を示す。土師器甕の口縁～胴部大破片が出土したが、ほかは小破片のみ。〈貯蔵穴B〉カマド右側、北コーナーに位置する。平面長方形。規模は115×69cm・深さ77cmを測る。覆土は下半がロームブロック主体の埋め戻し土、その上に床面直上から連続する焼土が堆積し、その上は住居跡覆土に類似する黒褐色土が堆積する。遺物は土師器小片の数点のみ。

(入口施設) 南東壁中央東寄りに位置する。凸堤に類似する高まりが存在した。柱穴は確認されなかった。(覆土)23層、自然堆積。北コーナーを中心に床面直上に焼土が薄く、広範に堆積。床面も若干被熱していた。北側下半には一定量の焼土粒が含まれていたが、全体としては含有量は少ない。また、炭化材の検出も顕著ではない。(遺物)カマド右脇と南コーナーで土師器坏が1点ずつ出土したほかは、土師器は破片が全体に散在(第5層上面ほか覆土中)。東コーナー付近の床面直上から鉄鏃茎部、15cm程上から鉄鏃が出土。また、中央覆土下層からヤマモモと思われる炭化種子が2点出土している。

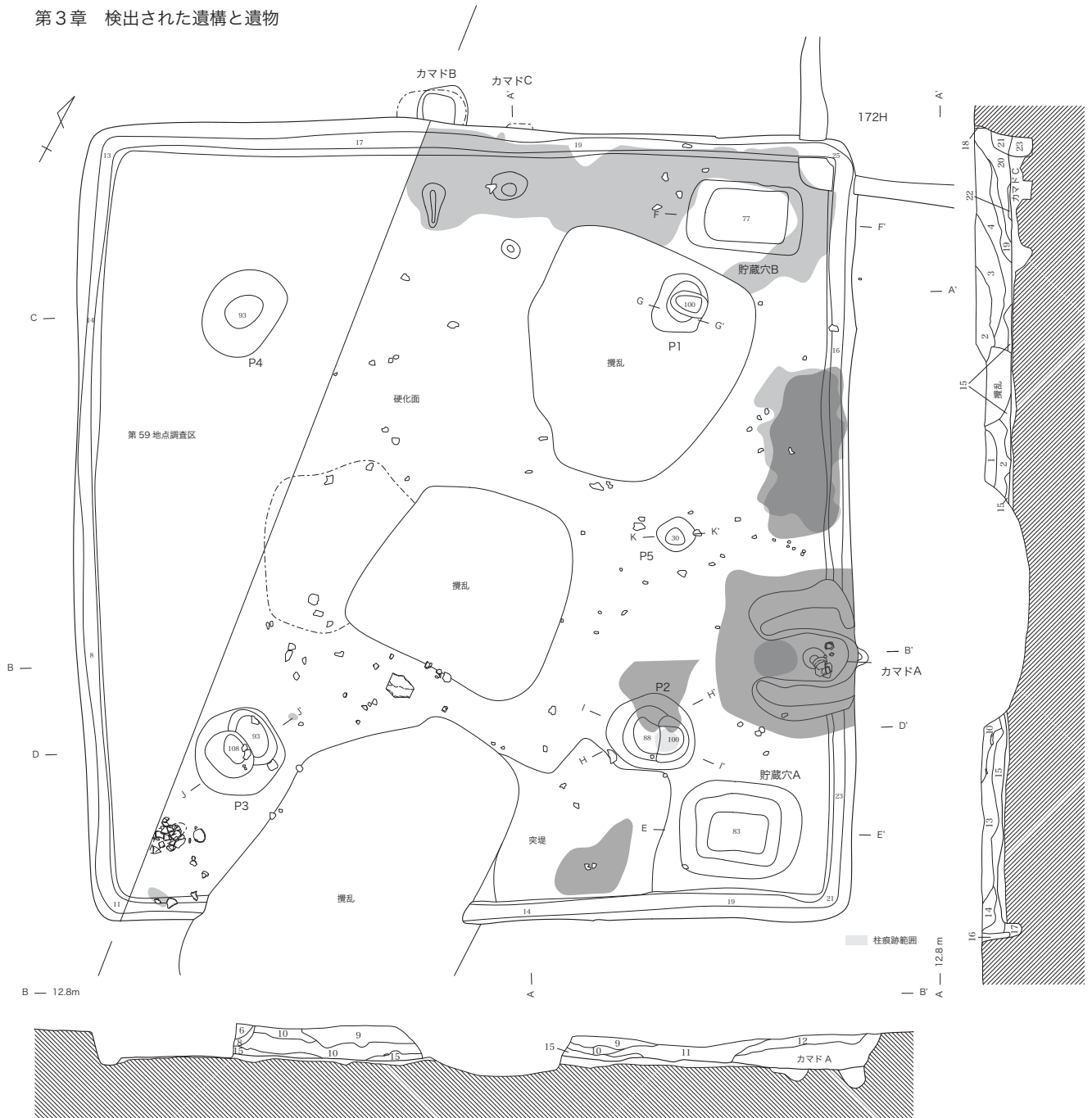
[時期] 古墳時代中期(5世紀末葉)。

[所見] 新旧のカマド、それに伴うと思われる2基の貯蔵穴、重複する支柱穴から、立て替えが行われたものと考えられる。また、最終的には、焼土の存在から本住居は焼失したものと思われる。

遺物 (第26・27図、第9・62表)

土器はすべて土師器で、坏(1～14)、高坏(15～18)、壺(19～22)、甗(23・24)、甕(25～32)がある。ほかに鉄鏃(33・34)、炭化種子(ヤマモモか。図版87-1～4)がある。

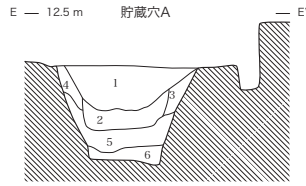
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm 1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (5~10mm 3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐灰色土。
- 6 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐灰色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm 1~2%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%)、粘土粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 12 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。
- 13 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐灰色土。この上面に土器出土。
- 14 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 15 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む灰黄褐色土。床面付近の土器は本層上面。
- 16 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐灰色土。壁板痕か。
- 17 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。ローム主体。
- 18 層 粘性強、締まり強の橙色土。カマド粘土赤化。
- 19 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 20 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 21 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 22 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 23 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。

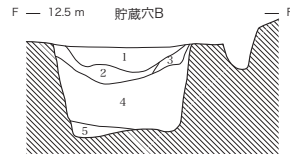


第 21 図 165 号住居跡 1 (1/60)



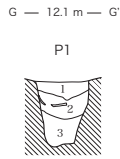
貯蔵穴 A

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (5~10mm³~10%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒色土。本層より甕出土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む黄褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm¹~2%) を含む灰黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上)、焼土粒子 (5~10mm³~10%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黄褐色土。この層上面に焼土、粘土、土器出土。



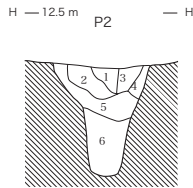
貯蔵穴 B

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm³~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (5~10mm³~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (10mm 以上 25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、1~2%) を含む黒色土。



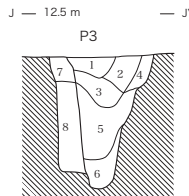
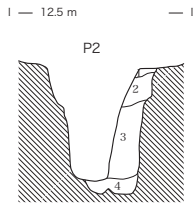
P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上)、暗褐色土粒 (1~2mm、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。
- 2 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm³~10%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上) を含む黄褐色土。



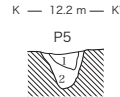
P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。ローム多。
- 6 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム主体。



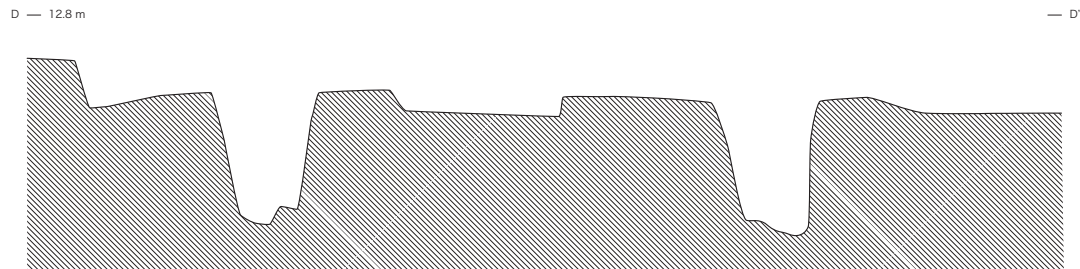
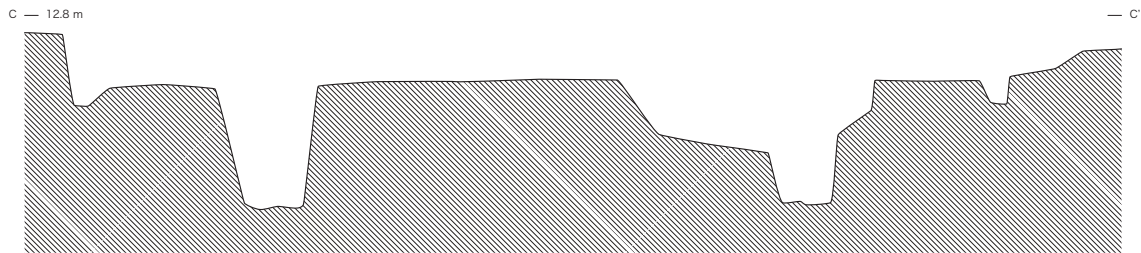
P3

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%)、黒色粒子 10mm 以上、3~10%) を含む褐色土。ローム主体、黒色土混じる。
- 6 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。ローム主体。
- 7 層 ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 8 層 ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。ローム主体、旧柱穴埋め土。

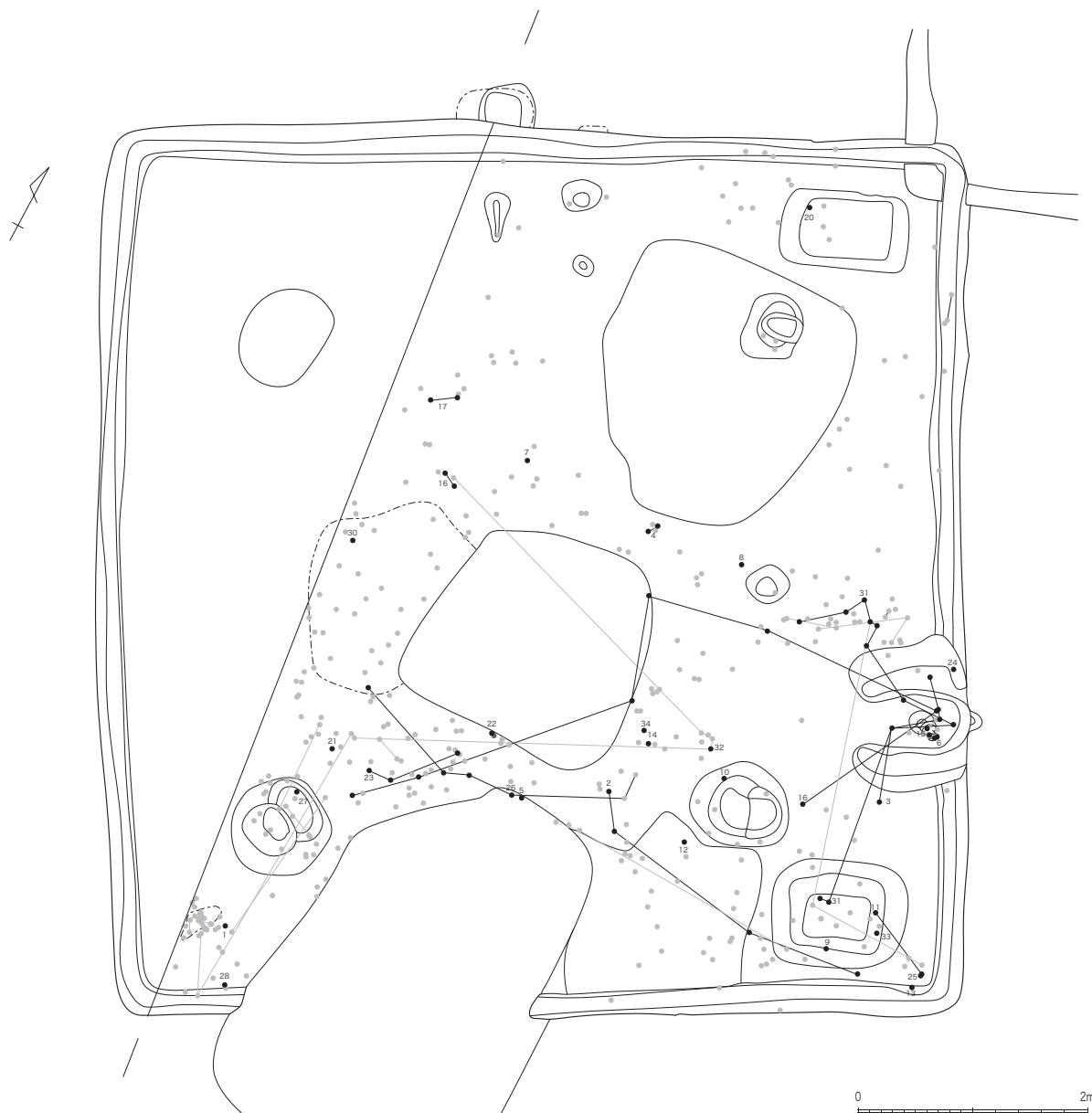


P5

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm¹~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。



第 22 図 165 号住居跡 2 (1/60)



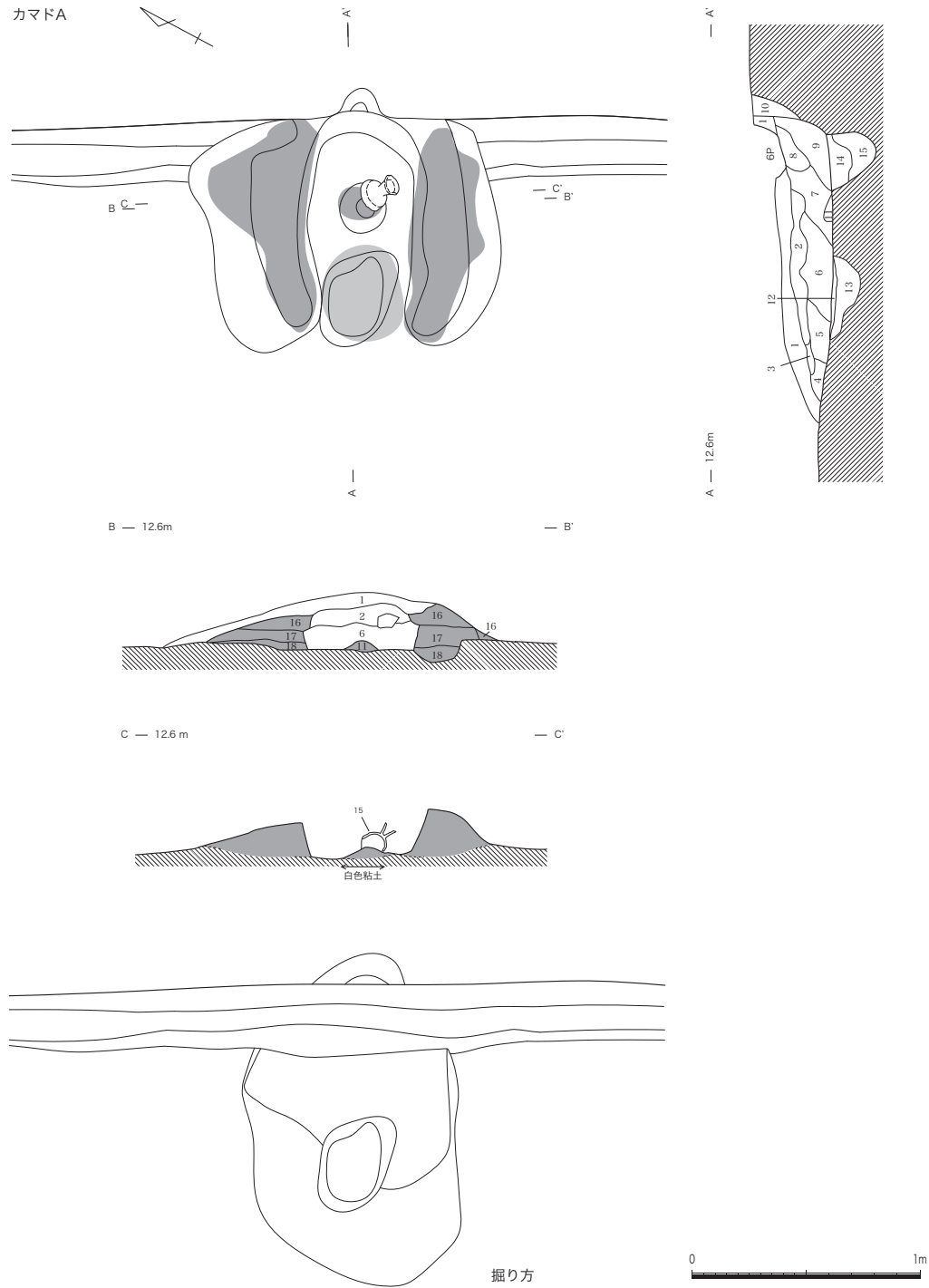
第23図 165号住居跡遺物出土状態 (1/60)

167号住居跡

遺構 (第28図)

[位置] 1区北半部。

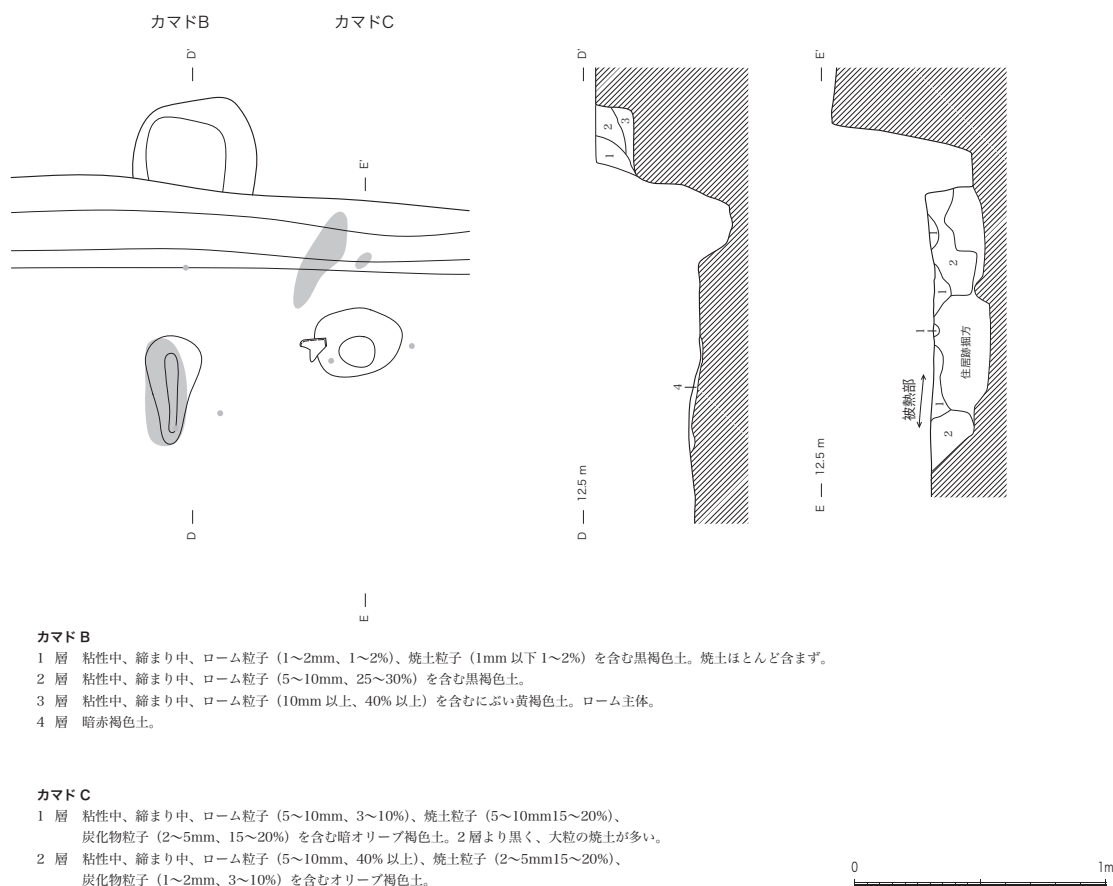
[住居構造] 東コーナー部分のみ確認。南東壁の一部は第59地点で調査済み。176号住居跡を切る。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-30°-W。(壁高) 残りのよいところで77cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅17~24cm・下幅7~13cm・深さ5~6cmを測る。調査区域内(第59地点とも)では全周する。(床面) 貼床は3~14cmの厚さで施されている。顕著な硬化面は確認できなかった。(床面レベル) 標高11.72~11.78m。(カマド) 未確認。(柱穴) 東角の主柱穴1基のみ確認。深さは61cmを測る。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 6層、自然堆積。東コーナー付近壁際に灰白色粘土塊を確認。この粘土は床面直上に薄く堆積するロームブロックを多量に含む層(覆土第6層に対応)の上に乗っている。また、床面上では炭化材を検出したが、覆土中の焼土・



- 1層 粘性強、締まり中、焼土粒子 (2~5mm3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (10mm以上、40%以上) を含む灰黄色土。流失粘土。
- 2層 粘性強、締まり弱、焼土粒子 (10mm以上40%以上)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%)、粘土粒子 (10mm以上、40%以上) を含む明赤褐色土。天井崩落。
- 3層 粘性強、締まり中、焼土粒子 (2~5mm15~20%)、粘土粒子 (5~10mm、25~30%) を含むにぶい黄橙色土。粘土、焼土混じる。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm15~20%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒色土。
- 5層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 6層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm40%以上)、炭化物粒子 (5~10mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗赤褐色土。本層上部に土器。
- 7層 粘性中、締まり強、焼土粒子 (2~5mm40%以上)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含むにぶい赤褐色土。
- 8層 粘性強、締まり強、焼土粒子 (10mm以上40%以上)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む明赤褐色土。天井崩落。
- 9層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗赤褐色土。本層中に土器出土。
- 10層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、40%以上)、焼土粒子 (10mm以上15~20%)、粘土粒子 (2~5mm) を含むにぶい黄褐色土。
- 11層 粘性強、締まり中、焼土粒子 (1~2mm1~2%) を含む灰黄色土。粘土。
- 12層 粘性弱、締まり強、焼土粒子 (2~5mm40%以上) を含む明赤褐色土。火床赤化部分。
- 13層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40%以上)、黒色粒子 (5~10mm、40%以上) を含む黄褐色土。被熱。
- 14層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む褐色土。焼土含む。
- 15層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40%以上) を含む褐色土。焼土含まず。
- 16層 粘性中、締まり強、橙色土。カマド天井粘土部分。
- 17層 粘性強、締まり強、暗灰黄色土。高坏下の粘土は表面赤化。白色粘土。
- 18層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40%以上)、焼土粒子 (2~5mm3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黄褐色土。カマド掘方。

第24図 165号住居跡カマドA (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第 25 図 165 号住居跡カマド B・カマド C (1/30)

炭化物の含有は顕著ではない。(遺物)土師器の小破片が散在する。円盤状土製品は覆土下層からの出土。

[時期] 古墳時代後期 (7世紀前半)。

[所見] 炭化材の存在から、焼失住居と思われるが、ほかに被熱の痕跡は見いだせない。

遺物 (第 29 図、第 10・58 表)

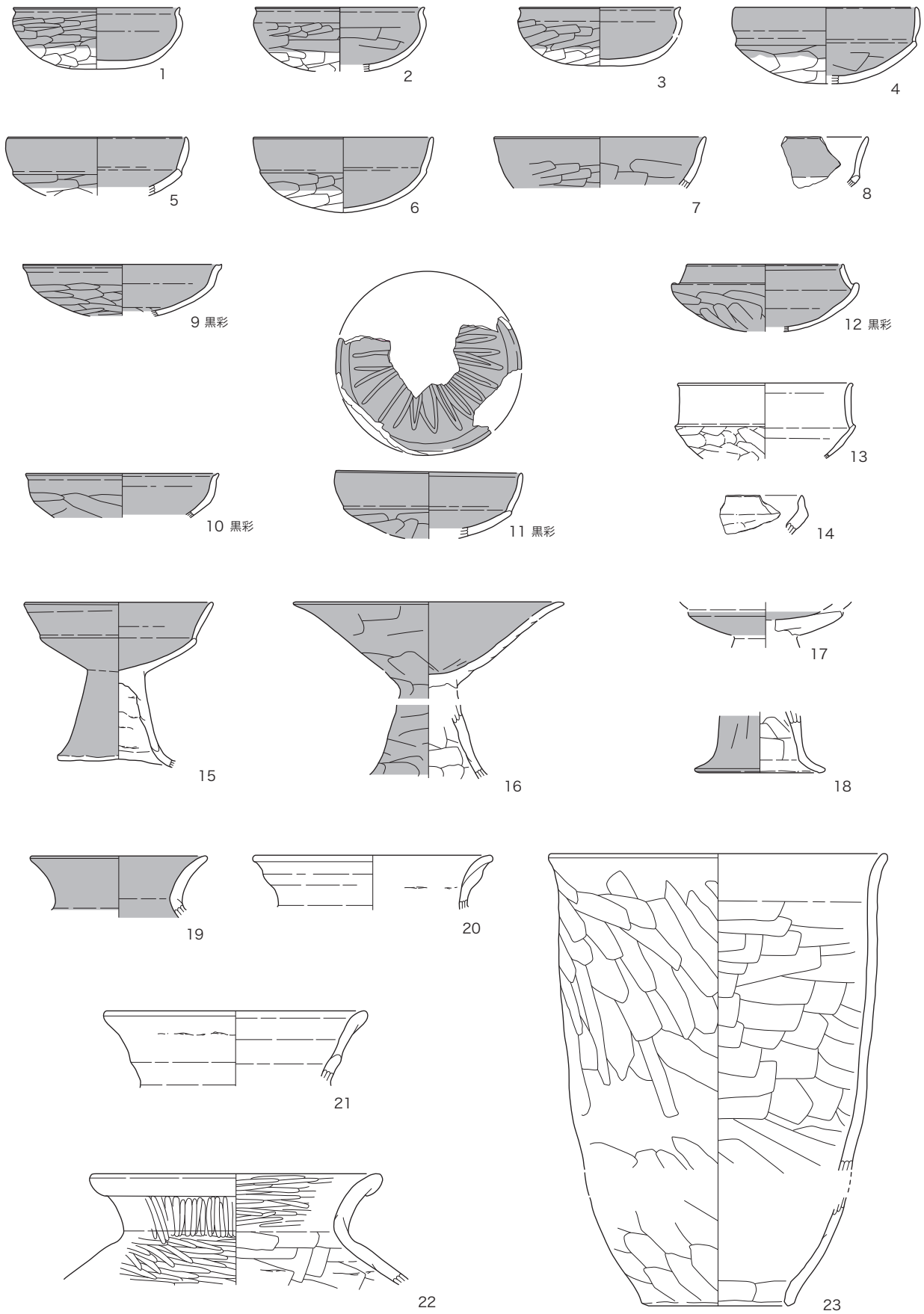
土師器坏 (1・2)、甗 (3・4)、甕 (5~11)、須恵器高坏? (12)、甕 (13)、円盤状土製品 (14) を図示した。14 は穿孔の痕跡があり、鏡形 (孔型) の土製模造品の可能性がある。

171 号住居跡

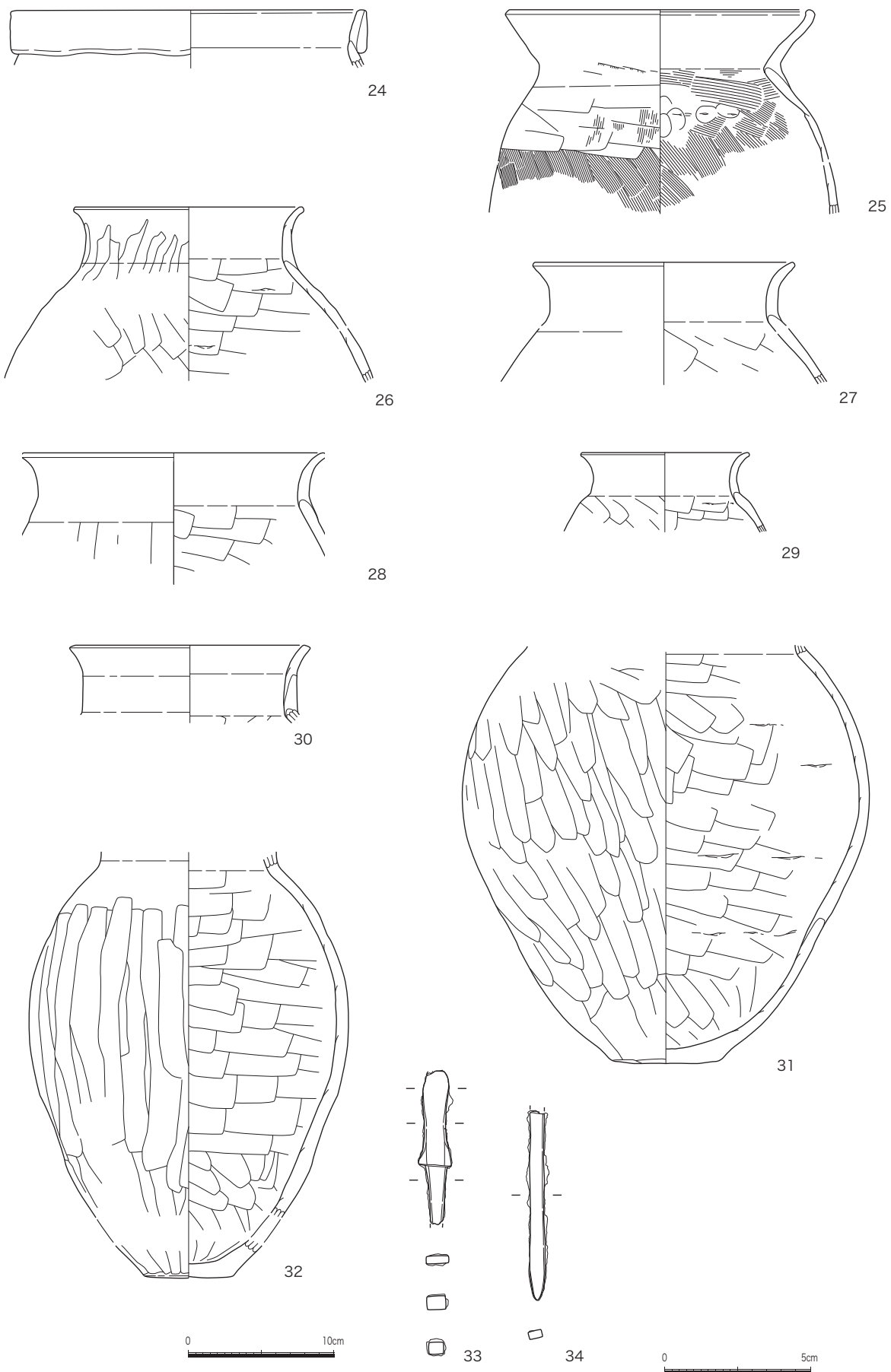
遺構 (第 30 図)

[位置] 1 区北半部。

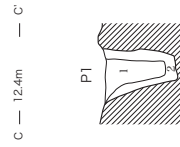
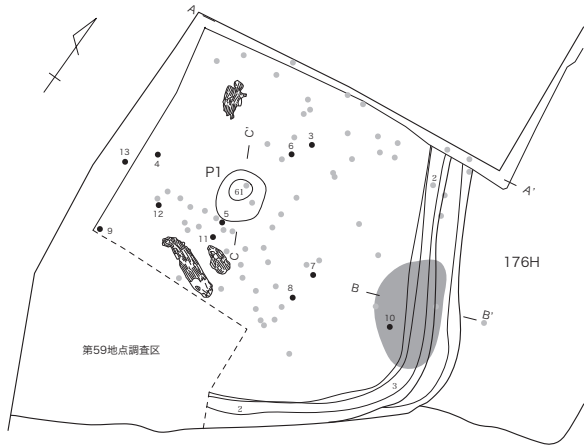
[住居構造] 東側半分のみ確認。176 号住居跡、34 号溝跡、397・398 号土坑 (地下室) に切られる。(平面形) 正方形か。(規模) 6.12m× 不明。(主軸方向) N-27° - E。(壁高) 18~20cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 10~29cm・下幅 2~13cm・深さ 8~19cm を測る。調査区域内では全周する。(床面) 貼床は 3~18cm の厚さで施されていた。支柱穴と北東壁の間の床がやや高く、硬化面もそれに対応する。(床面レベル) 標高 12.02~12.13m。(カマド) 北東壁に位置する。397 号土坑の入口竪坑部に壊され、燃焼部のみ確認。(柱穴) 支柱穴 2 基を含む 5 基を確認した



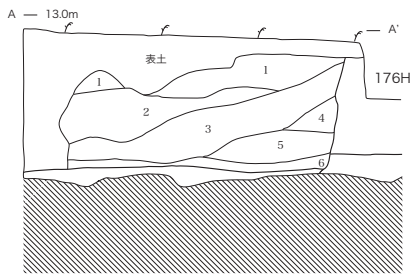
第26図 165号住居跡出土遺物1 (1/4)



第27図 165号住居跡出土遺物2 (1/4・1/2)

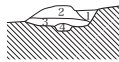


- P1**
- 1 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む灰黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下 3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。

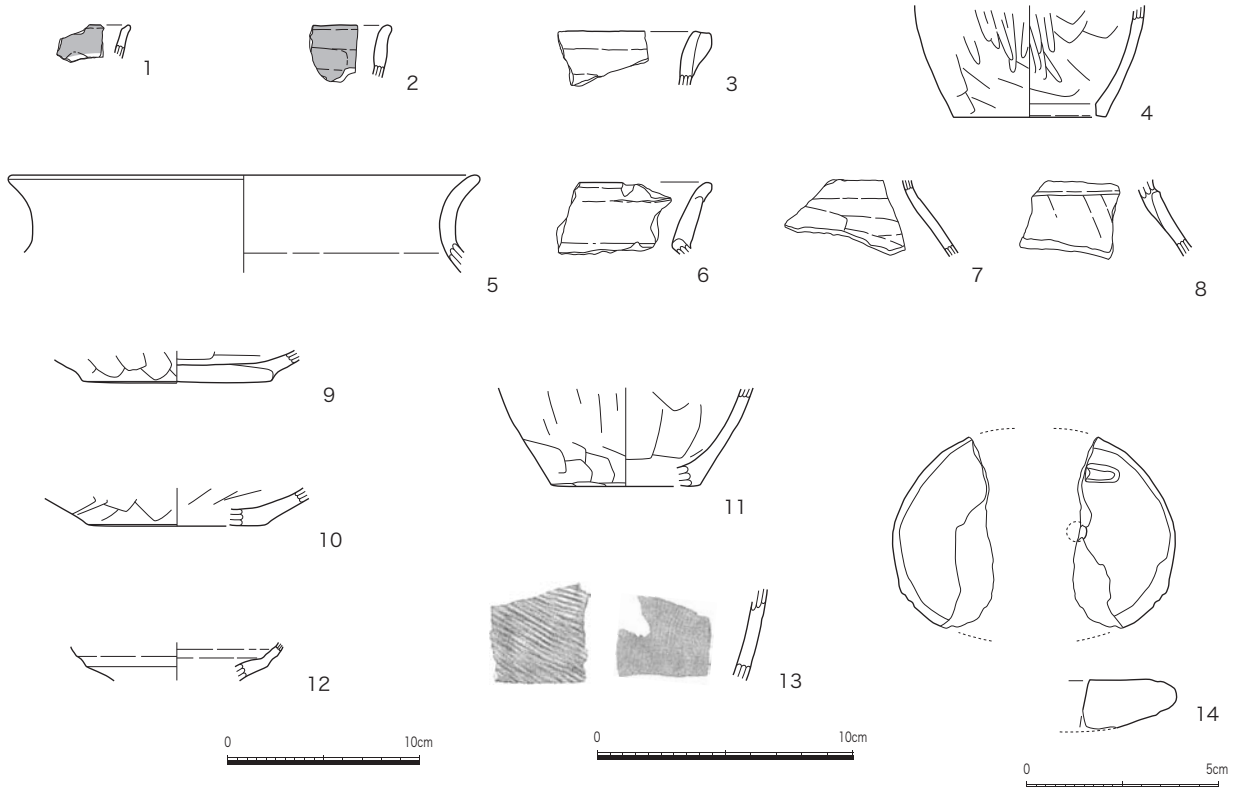
B — 12.4m — B'



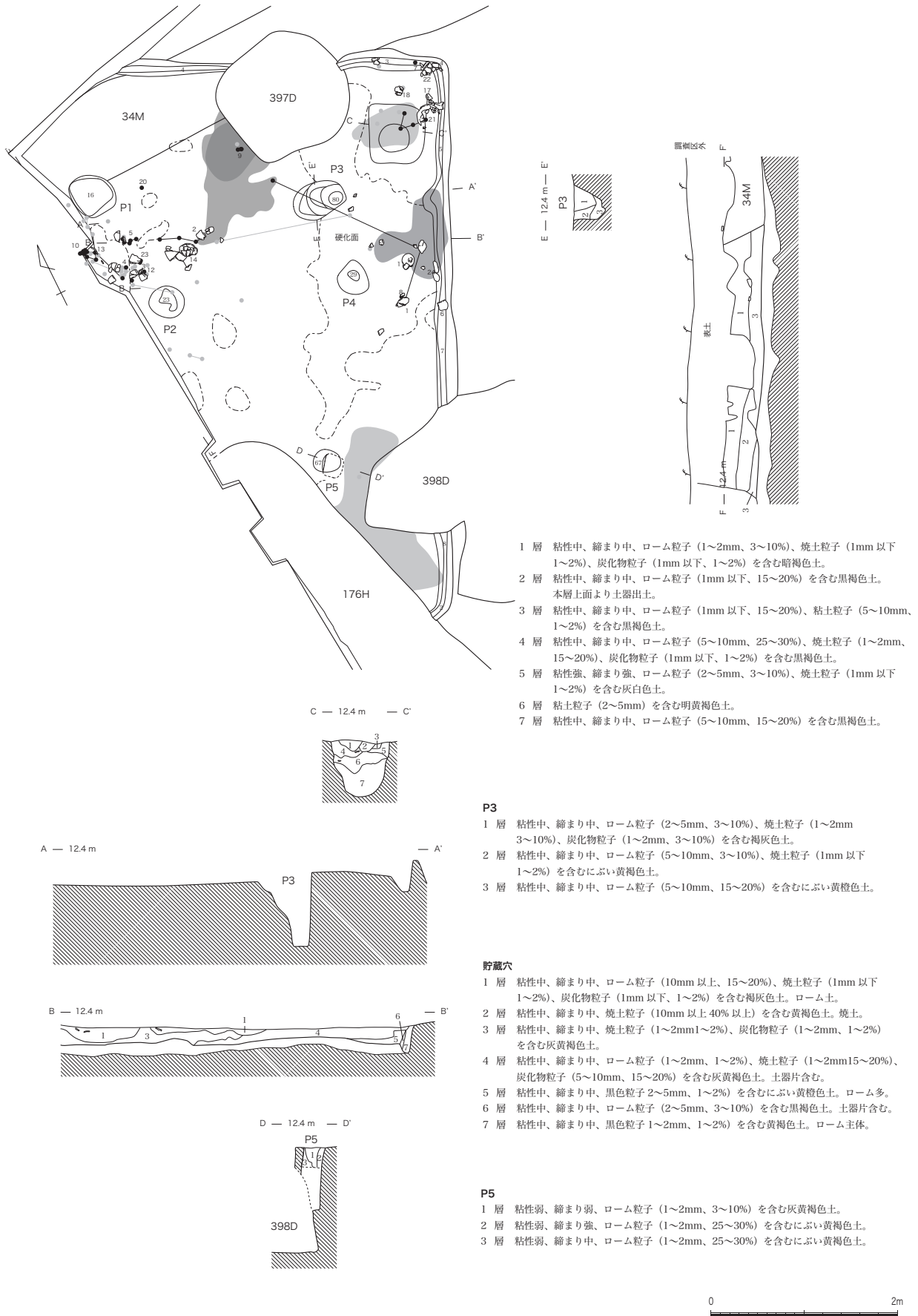
- 粘土**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。
 - 2 層 粘性強、締まり強を含むにぶい橙色土。白色粘土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む黒褐色土。
 - 4 層 粘性中、締まり中を含む黒褐色土。



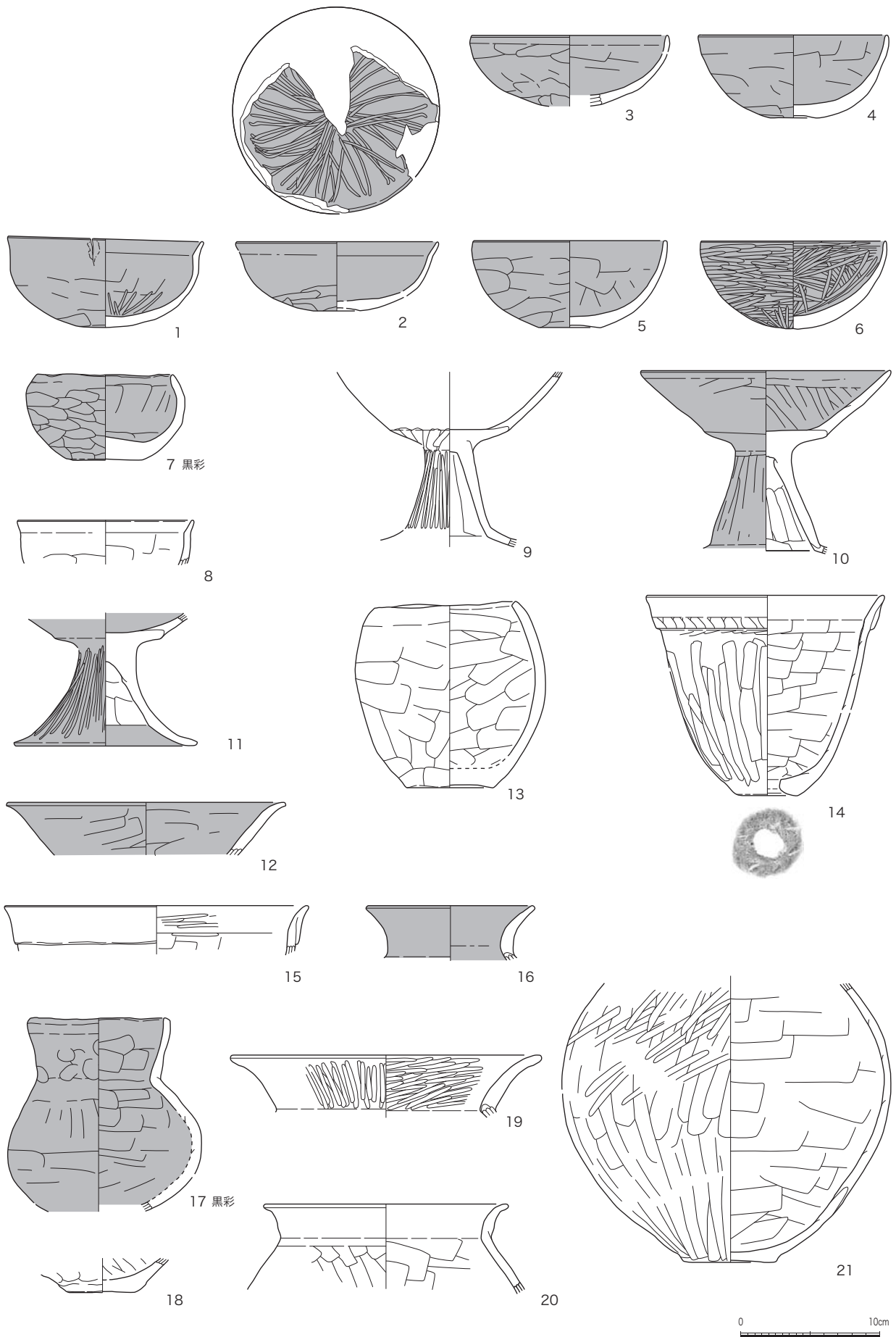
第28図 167号住居跡 (1/60)



第29図 167号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)



第30図 171号住居跡 (1/60)



第31図 171号住居跡出土遺物1 (1/4)



第32図 171号住居跡出土遺物2 (1/4)

が、P1とP2は中世以降のピットである。深さは67～80cmを測る。P5は下半部を398Dの主体部に切られている。(貯蔵穴)カマド右側、東コーナーに位置する。平面正方形。規模は65×61cm・深さ60cmを測る。覆土の下半はローム主体の埋め戻し土。上半は黒褐色土とロームの互層で、その上に床面から連続する焼土が堆積する。(入口施設)未確認。(覆土)7層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。貯蔵穴周辺と南コーナー付近に炭化材片を含む焼土が薄く堆積。また、南東壁の北寄り床面直上に灰白色粘土が堆積していた。壁面と粘土の間には黒褐色土が挟まる。(遺物)東コーナーで土師器・甕、住居中央にあたる調査区域際で坏・高坏・甌の完形あるいはほぼ完形品がややまとまるが、いずれも床面直上の検出ではない。

[時期] 古墳時代中期 (5世紀後葉)。

[所見] 焼土と炭化材の存在から焼失住居と思われる。

遺物 (第31・32図、第11表)

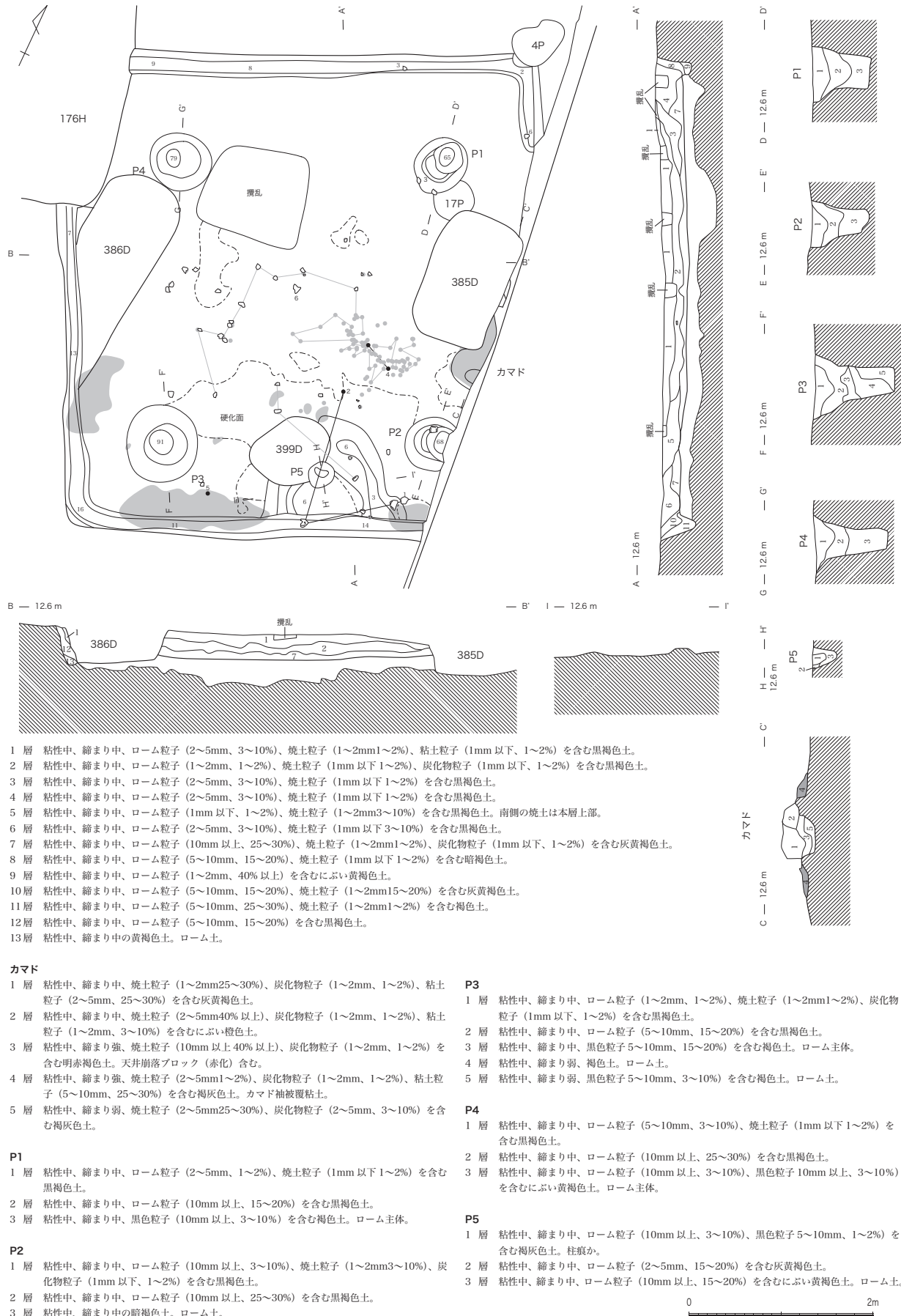
土器はすべて土師器で、坏(1～8)、高坏(9～12)、鉢(13)、甌(14・15)、壺(16～18)、甕(19～23)を図示した。

172号住居跡

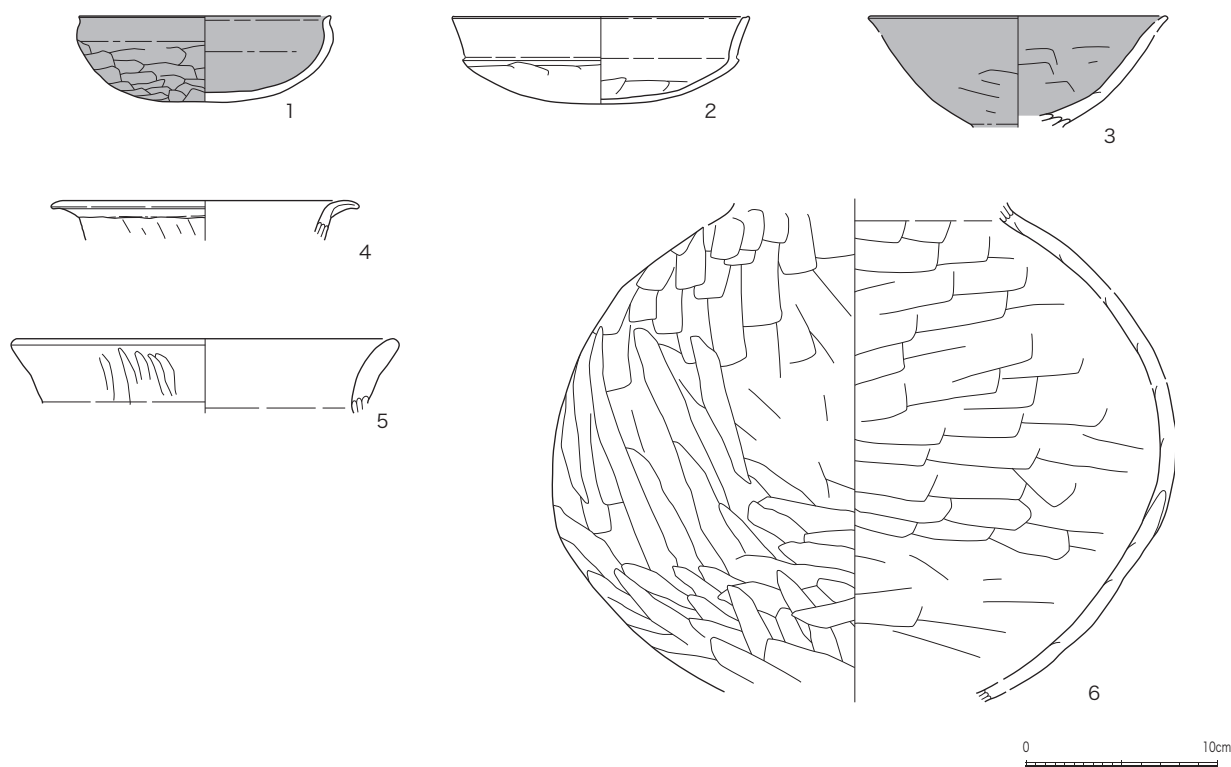
遺構 (第33図)

[位置] 1区北半部。

[住居構造] 165号住居跡を切る。東コーナーは調査区域外、西コーナーは176号住居跡に切られる。385・386・399号土坑に切られる。(平面形)正方形。(規模)5.34×5.29m。(主軸方向)N-67°-W。(壁高)20～28cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅14～29cm・下幅6～15cm・深さ10～17cmを測る。調査区域内では全周する。(床面)貼床は9～30cmの厚さで施されていた。入口付近を中心に硬化面が広がり、床面レベルも他より高い。(床面レベル)標高12.01～12.13m。(カマド)北東壁の南寄りに位置する。袖部の先端を確認したのみで、大半は調査区域外。左袖部先端は385号土坑に壊されている。袖部は地山ローム削り残しを基礎として灰白色粘土を用いて構築。(柱穴)主柱穴4基を確認。深さは65～91cmを測る。(貯蔵穴)未確認。カマド南側の東コーナーに位置するものと考えられる。(入口施設)南東壁中央に位置し、深さ28cmを測る。梯子穴P5と凸堤が伴う。(覆土)13層、自然堆積。南東側を中心に焼土が分布。特に南東壁沿いが顕著で、壁溝埋没後の床面直



第33図 172号住居跡 (1/60)



第34図 172号住居跡出土遺物(1/4)

上に堆積している。(遺物)入口付近の壁際の検出面レベルで完形に近い土師器環(1)があるものの、基本的に小破片が散在(第7層上面あるいは第2層中)。

[時期] 古墳時代後期(6世紀前半)。

[所見] 焼失住居と考えられる。遺物の出土量が少ないのは、カマド前面を土坑で壊され、貯蔵穴周辺が調査区域外であったためか。

遺物(第34図、第12表)

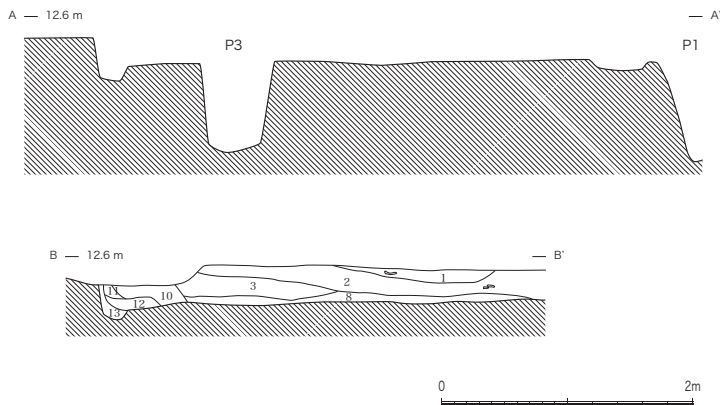
土師器環(1・2)、高杯(3)、甑(4)、甕(5・6)を図示した。

173号住居跡

遺構(第35～38図)

[位置] 1区北半部。

[住居構造] 東側2分の1は調査区域外。396号土坑に切られる。(平面形)正方形か。(規模)6.16m×不明。(主軸方向)N-38°-W。(壁高)19～28cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅18～36cm・下幅7～18cm・深さ14cmを測る。カマド部分を除き、調査区域内では全周する。(床面)貼床は確認できず、いわゆるタタキ床である。壁際を除いて全体的に良く硬化している。カマド前方から右脇にかけて床面が被熱していた。(床面レベル)標高12.19～12.27m。(カマド)北西壁のほぼ中央に位置する。長さ89cm・幅100cm・壁への掘り込み22cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。いわゆる粘土の使用は顕著ではない。(柱穴)4本主柱のうち東角の主柱穴は調査区域外。深さ50～110cmを測る。(貯蔵穴)カマド右脇、主柱穴P1寄りに位置する。平



P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、黒色粒子 (10mm 以上、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強のにぶい黄褐色土。ローム土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。ローム主体。

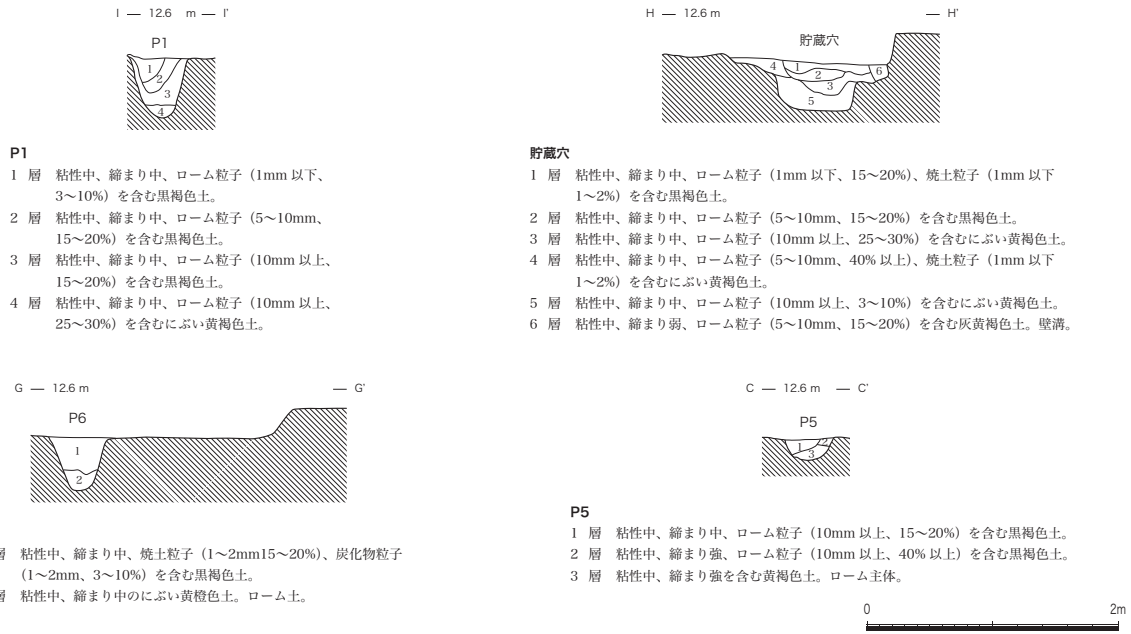
P3

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む。
- 2 層 粘性中、締まり強の土。ローム土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。柱痕。

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。11 層上面。(上部) 及び 2 層中で土器集中出土。
- 3 層 ローム粒子 (10mm 以上、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、炭化物粒子 (5~10mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%) を含む黒褐色土。
- 9 層 ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下 1~2%) を含む暗褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。11 層に黒色土混じる。
- 11 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。焼土粒目立つ。
- 12 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 13 層 ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

第 35 図 173 号住居跡 1 (1/60)

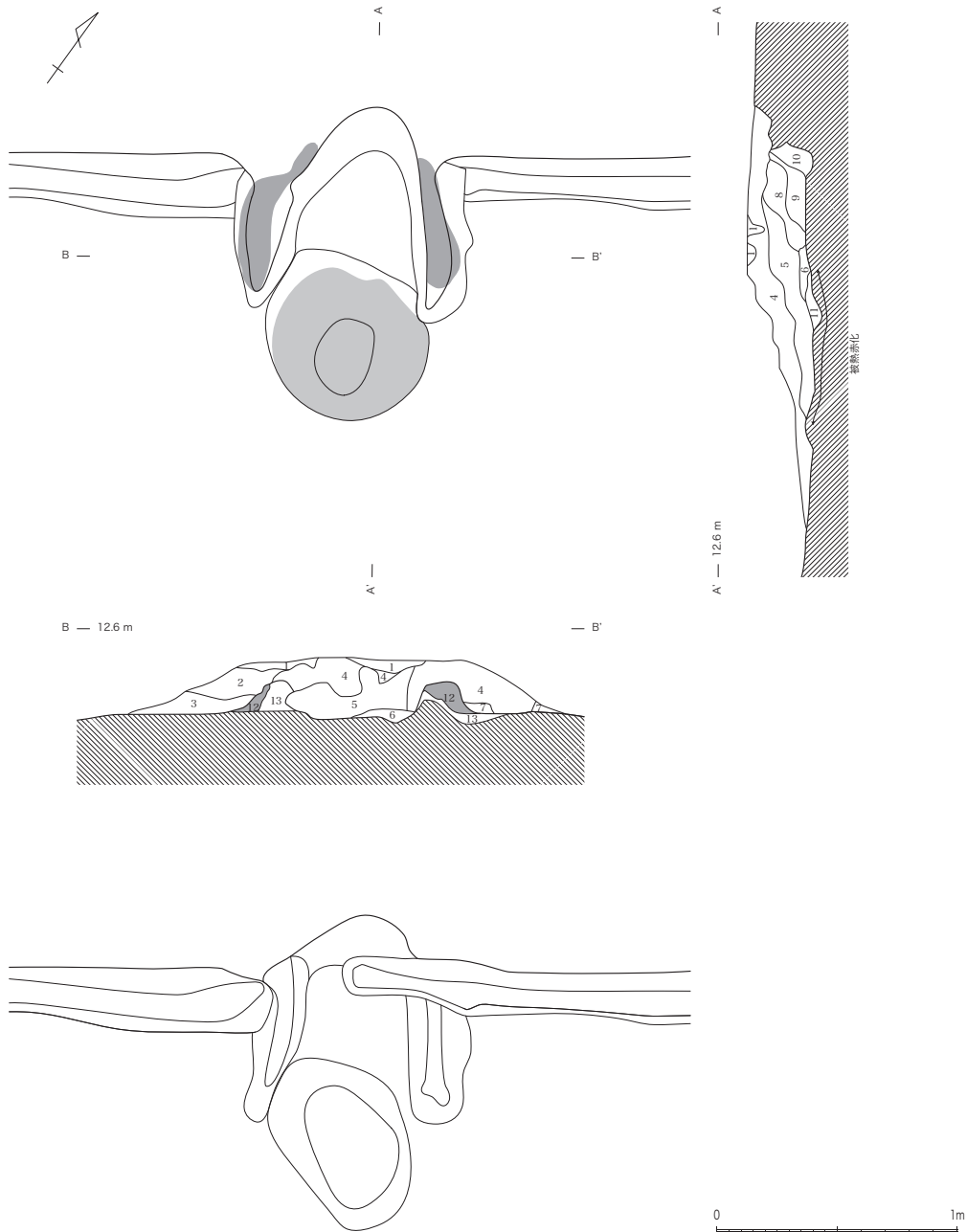
第3章 検出された遺構と遺物



第 36 図 173 号住居跡 2 (1/60)



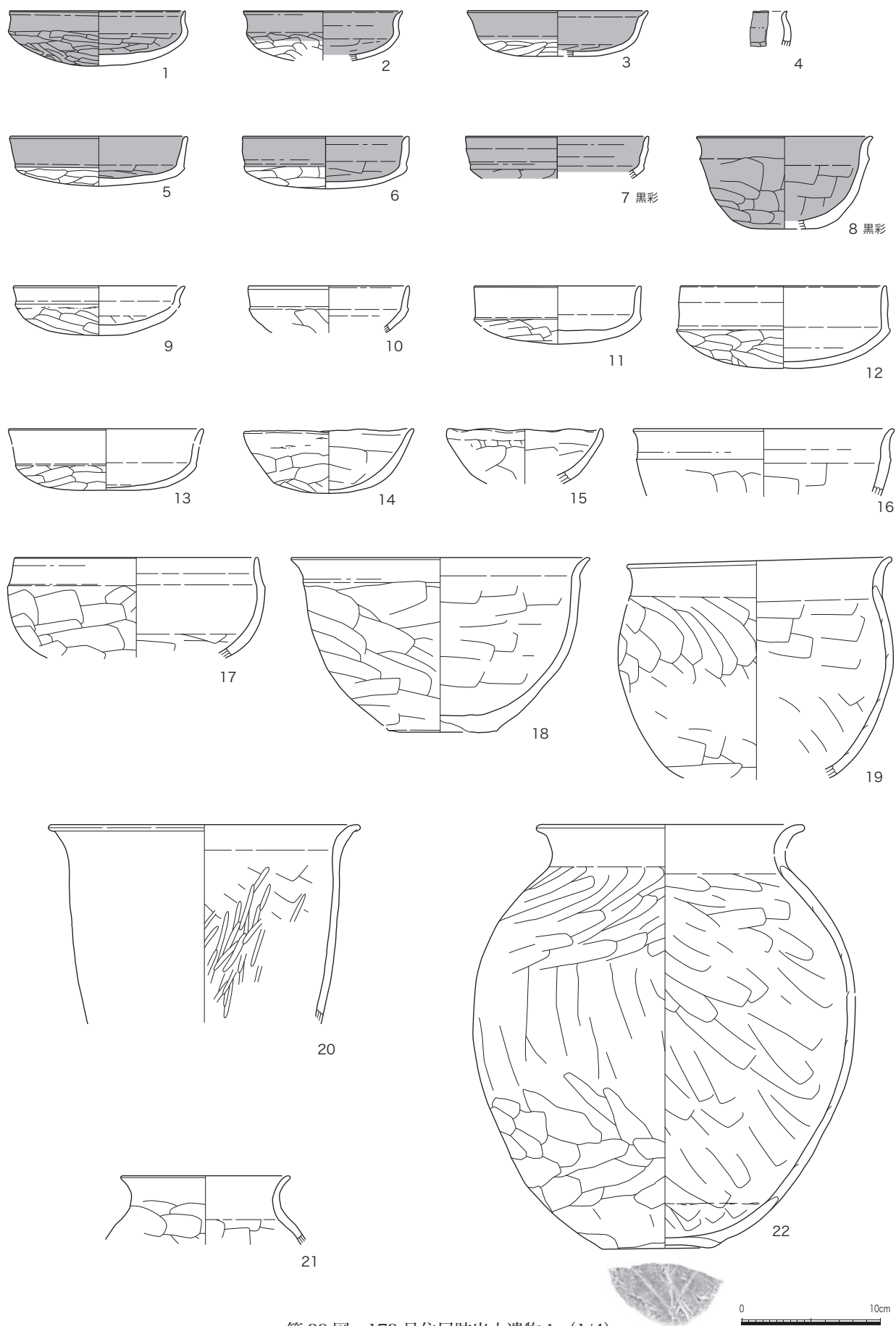
第 37 図 173 号住居跡遺物出土状態 (1/60)



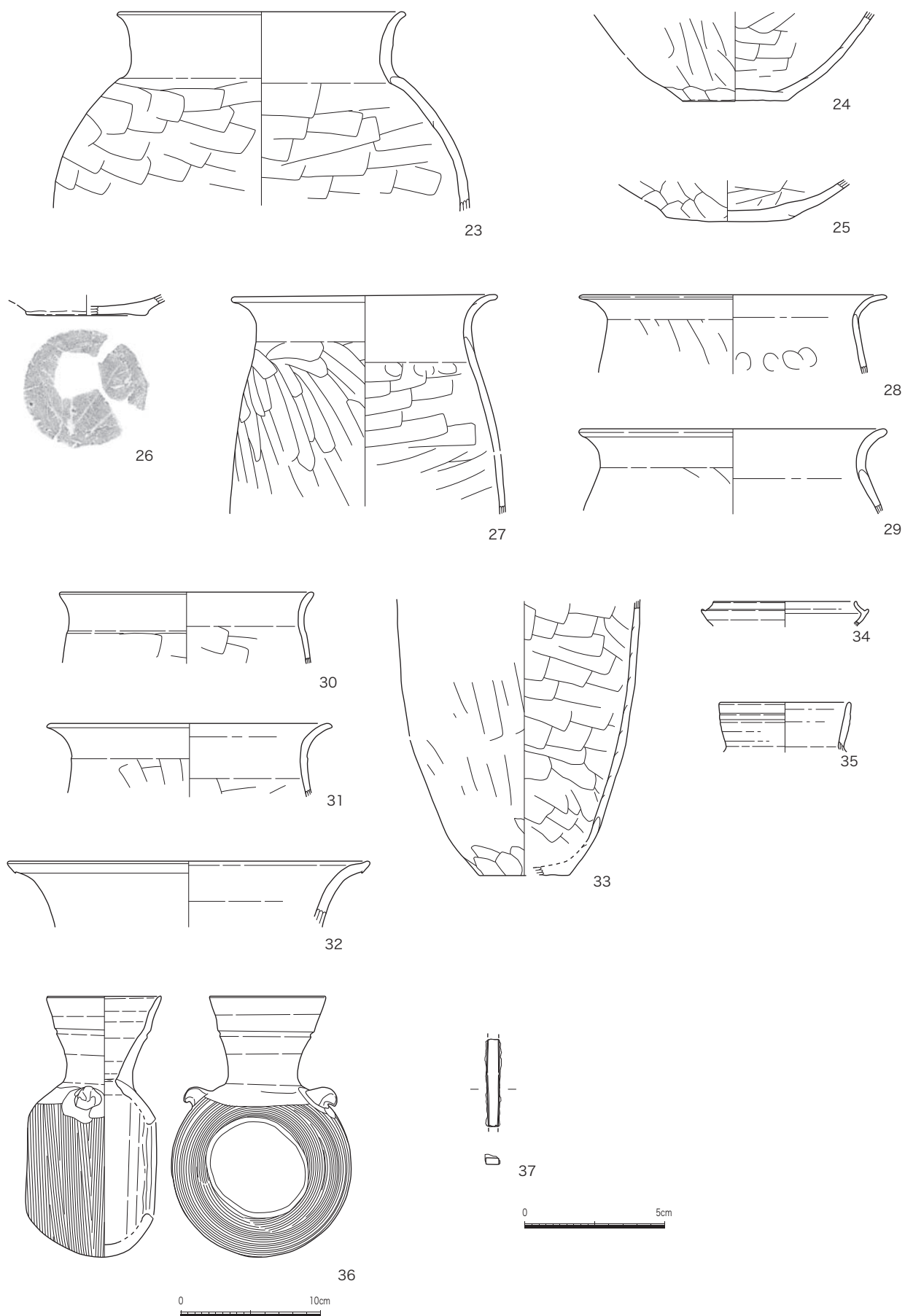
- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 強、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、40% 以上) を含むふい橙色土。粘土くずれ。
- 5 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (5~10mm、40% 以上)、炭化物粒子 (2~5mm、15~20%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。焼土多。
- 6 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む黒色土。炭化層。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。4層より焼土少ない。粘土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むオリブ褐色土。
- 11 層 粘性弱、締まり弱、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗赤褐色土。被熱。ロームの上にある。
- 12 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。カマド袖貼り付け。
- 13 層 粘性強、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む明黄褐色土。カマド軸芯 (ローム削り出し直上)。ローム主体。

第 38 図 173 号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第39図 173号住居跡出土遺物1 (1/4)



第40図 173号住居跡出土遺物2 (1/2・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

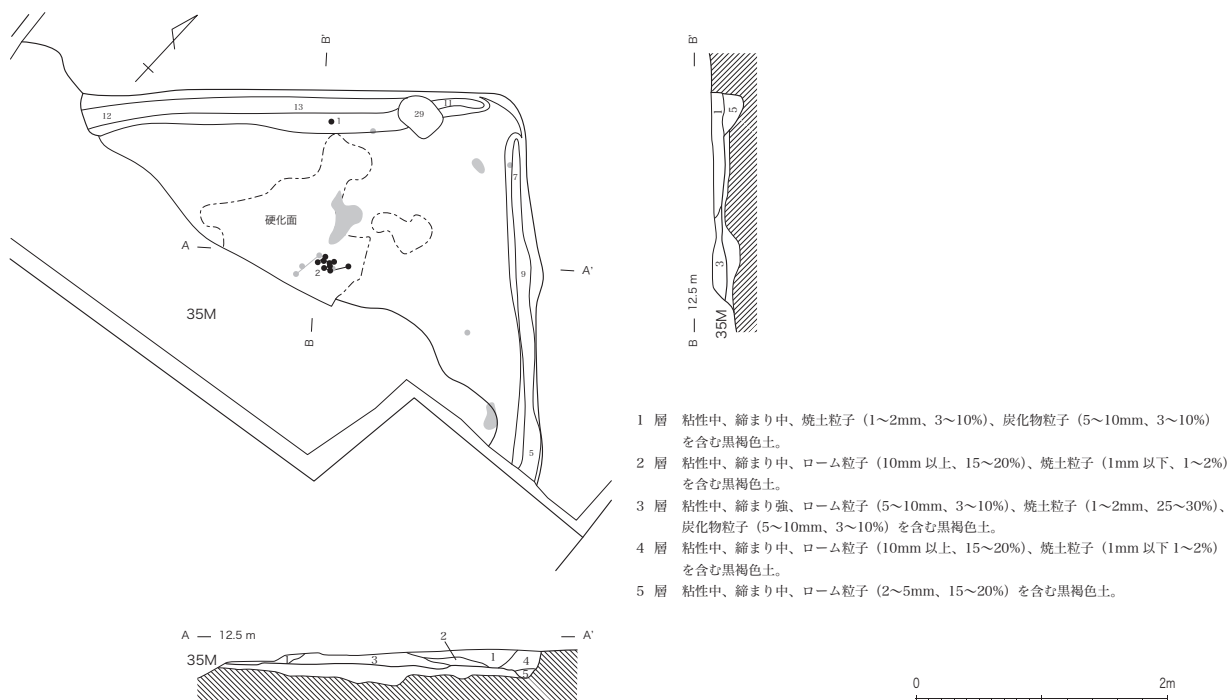
面長方形、上方は段状に掘られている。規模は79×69cm・深さ25cmを測る。覆土の下半はロームを主体とする。(入口施設)P5は入口梯子穴の可能性はあるが、凸堤は確認されていない。(覆土)13層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。(遺物)大半は床面直上堆積土(第6層ほか)の上面、あるいは第2層中に分布。平面的にはカマド左側前方に集中。土器のほとんどは破片であるが、土師器坏を中心に、完形あるいはほぼ完形品が一定量出土している。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

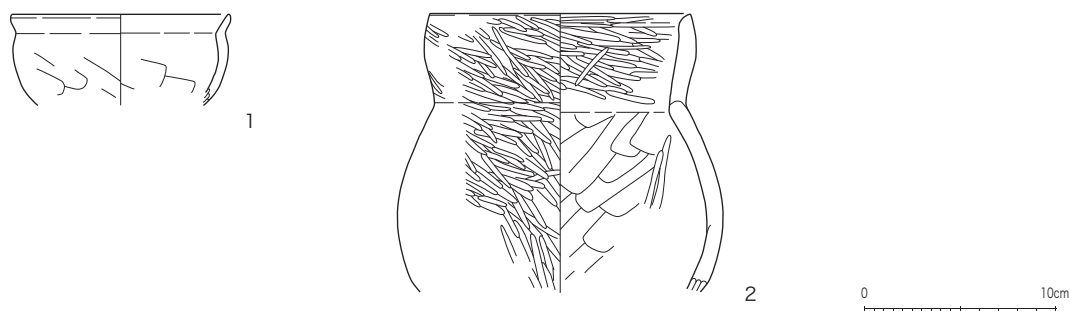
[所見] 被災の痕跡は見出せず、焼失住居ではない。遺物も床面直上出土のものではなく、埋没後に廃棄されたものと推察される。

遺物 (第39・40図、第13・62表)

土師器坏(1~15)、鉢(16~19)、甑(20)、甕(21~33)、須恵器坏(34)、壺(35)、提瓶(36)、鉄鏝(37)を図示した。36の提瓶は成形時の閉塞部分が欠損した状況で出土。37は鉄鏝の茎部と思われる。



第41図 174号住居跡(1/60)



第42図 174号住居跡出土遺物(1/4)

174号住居跡

遺構 (第41図)

[位置] 1区北半部。

[住居構造] 南側を35号溝跡に切られ、北側3分の1ほどを確認。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-45°-W。(壁高) 10～14cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅13～35cm・下幅5～14cm・深さ7～16cmを測り、北コーナーで途切れる。(床面) 貼床は2～15cmの厚さで施されていた。部分的に硬化面を確認。(床面レベル) 標高12.9～12.26m。(カマド) 確認されなかった。(柱穴) なし。掘方の下面まで探索したものの確認できなかった。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 5層、自然堆積。中央付近を中心に、焼土・炭化材が分布。(遺物) 中央付近に土師器の破片が少量集中する程度で、極めて少ない。

[時期] 古墳時代中期(5世紀後葉)。

[所見] 35号溝跡の南側で確認されなかったことから、竪穴規模は一辺5.4～5.8mと推定される。また、北東及び北西壁にはカマドを想定する余地はなく、南西壁に位置していたと思われる。

遺物 (第42図、第14表)

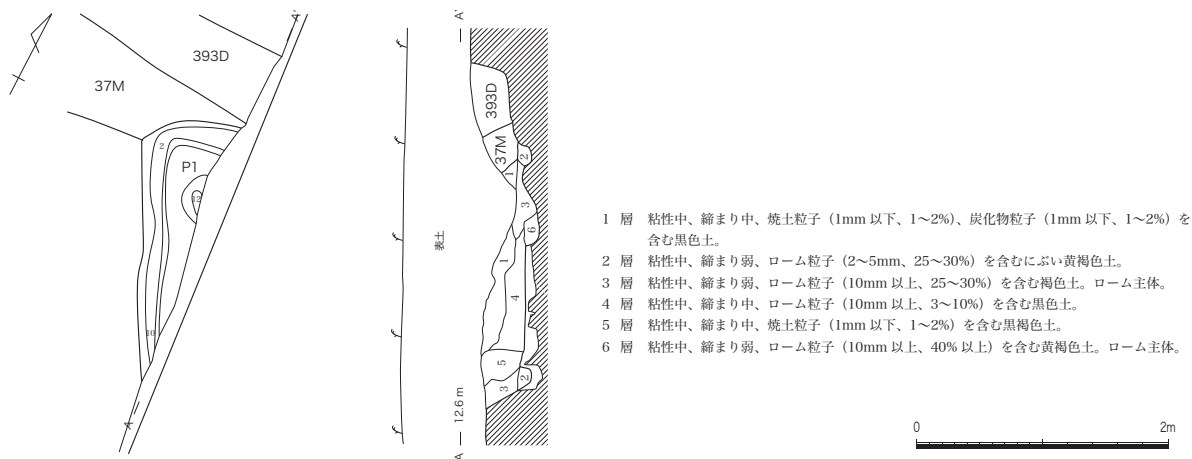
土師器坏(1)、壺(2)を図示した。

175号住居跡

遺構 (第43図)

[位置] 1区北半部。

[住居構造] 西コーナー部分を確認したのみ。ほとんどは調査区域外。37号溝跡に切られる。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 残りの良いところで27cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅17～27cm・下幅7～17cm・深さ11～13cmを測る。調査区域内では全周する。(床面) 貼床は2～18cmの厚さで施されていた。硬化面は確認できていない。(床面レベル) 標高12.05～12.07m。(カマド) 未確認。(柱穴) 1基のみ確認されたが、位置と掘方から支柱穴で



第43図 175号住居跡 (1/60)

はない。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 6層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。(遺物) 検出されなかった。

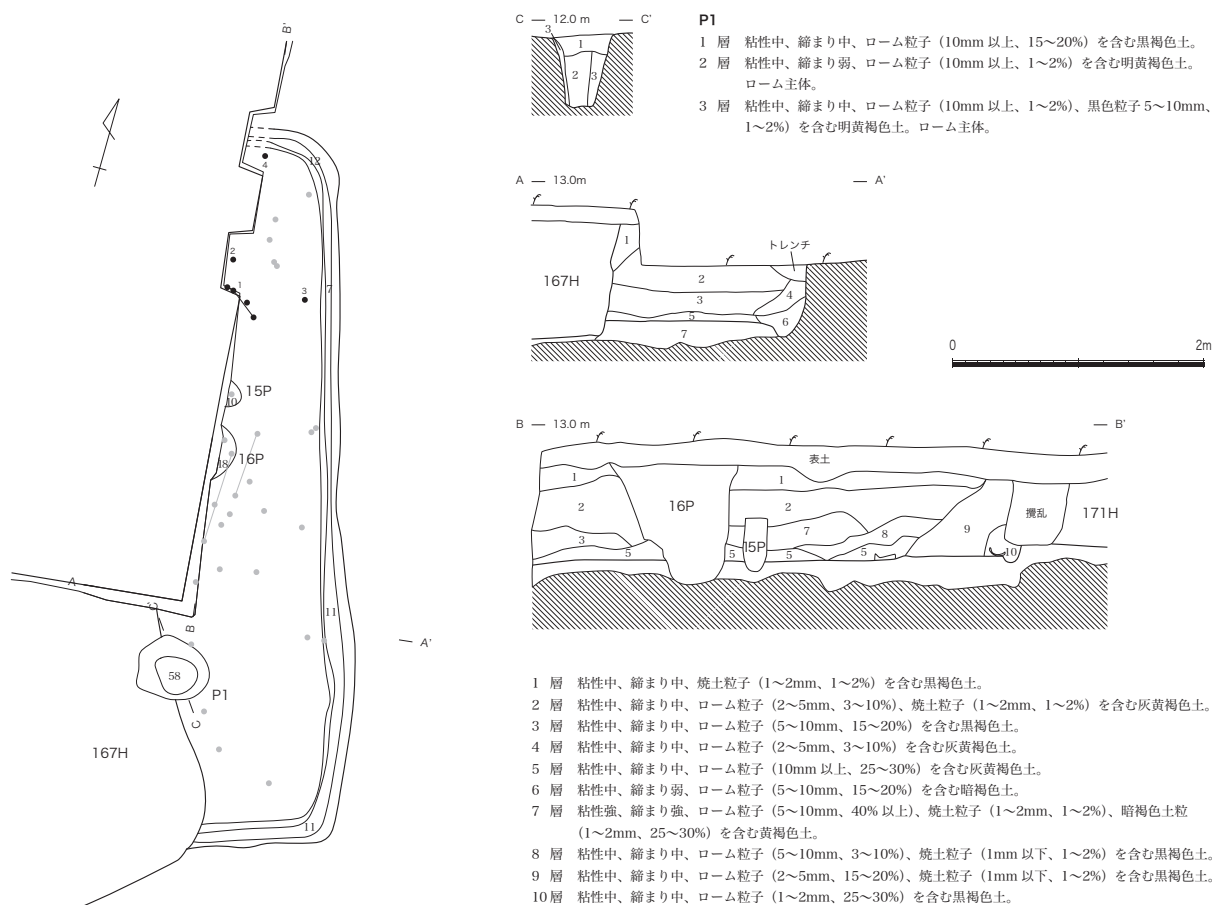
[時期] 古墳時代後期か。

176号住居跡

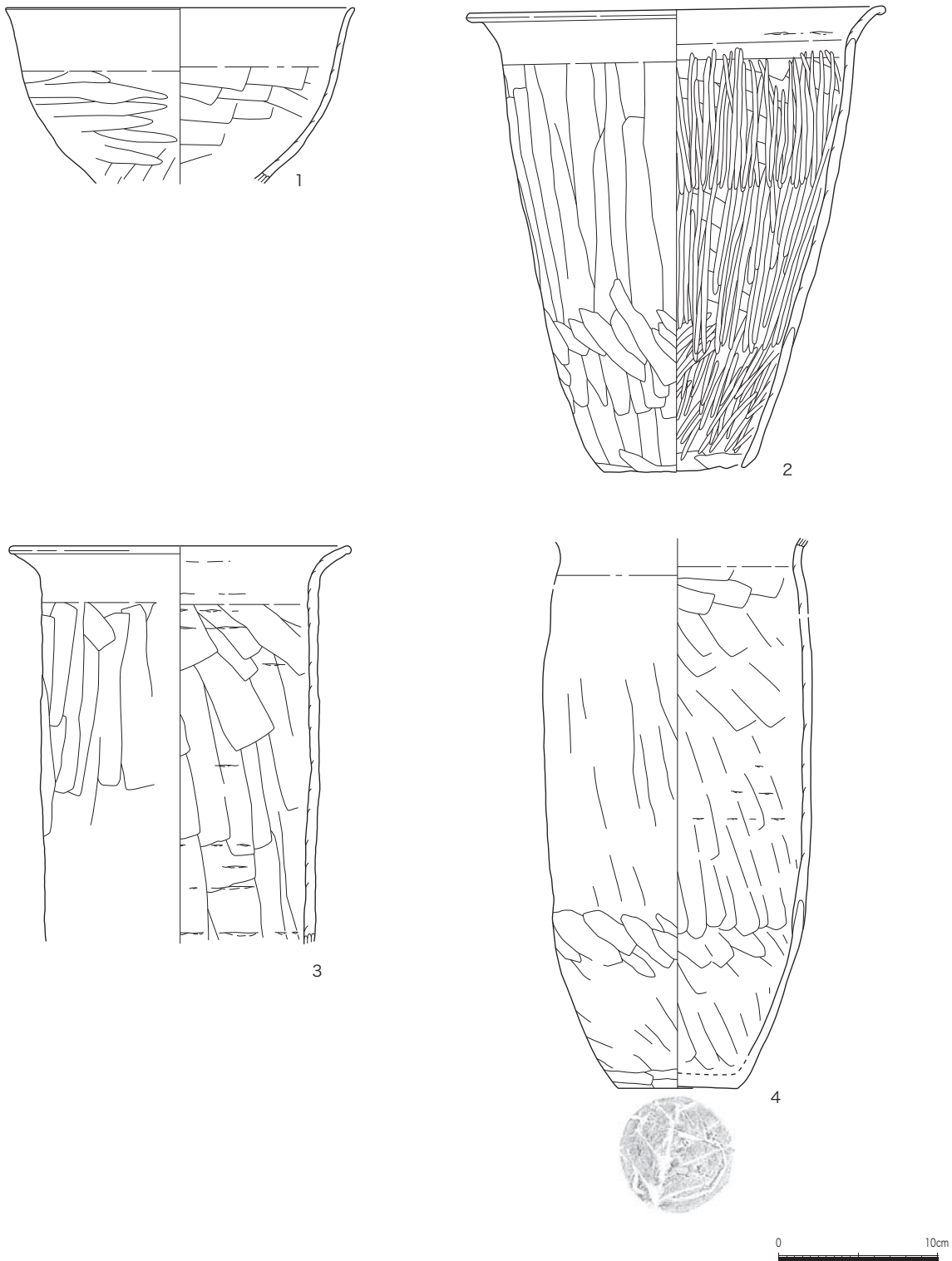
遺構 (第44図)

[位置] 1区北半部。

[住居構造] 北東壁沿いを確認したのみ。ほとんどは調査区域外。171号住居跡を切る。南西部分を167号住居跡に切られる。(平面形) 不明。(規模) 5.72m×不明。(主軸方向) N-16°-W。(壁高) 19～51cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅13～27cm・下幅2～13cm・深さ7～9cmを測る。調査区域内では全周する。(床面) 貼床は10～26cmの厚さで施されていた。調査区域内では硬化面は確認されなかった。(床面レベル) 標高11.89～11.94m。(カマド) 未確認。(柱穴) 南東角の支柱穴1基を確認。深さ58cmを測る。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 10層、自然堆積。黒褐色土を基調とし、焼土の堆積は確認されなかった。(遺物) 北東コーナー付近の床面直上で、土師器甕の完形品が出土。周辺にも集中しており、西側調査区外へ広がる状況であった。



第44図 176号住居跡 (1/60)



第45図 176号住居跡出土遺物(1/4)

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)

[所見] 遺物の分布から、北コーナー近くにカマドや貯蔵穴が位置する可能性がある。

遺物(第45図、第15表)

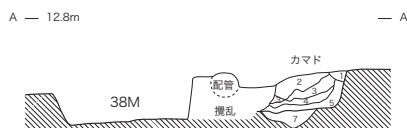
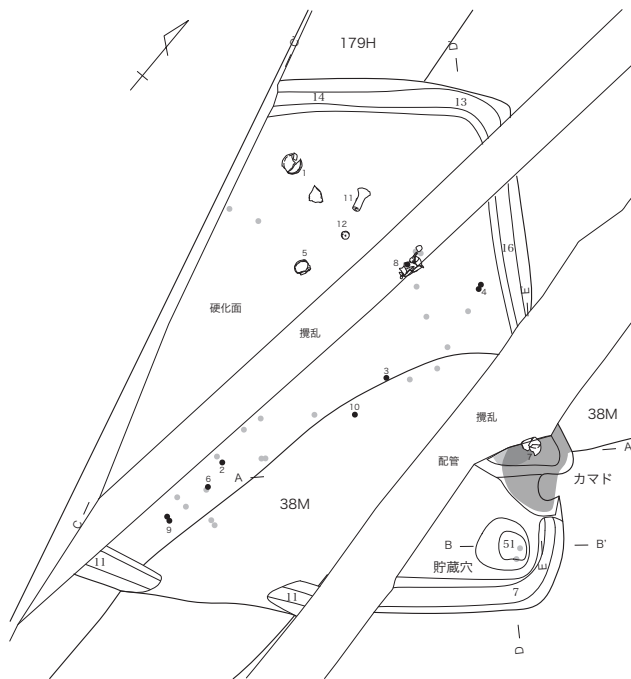
土師器鉢(1)、甌(2)、甕(3・4)を図示した。

177号住居跡

遺構 (第46・47図)

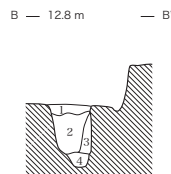
[位置] 1区南半部

[住居構造] 西側の一部は調査区域外。179号住居跡を切る。38号溝跡に切られる。(平面形) 不整形。 (規模) 4.25m×不明。(主軸方向) N-52°-E。(壁高) 23~34cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅19~28cm・下幅8~15cm・深さ2~13cmを測る。カマド部分を除き、



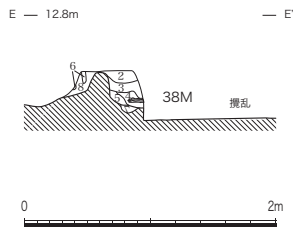
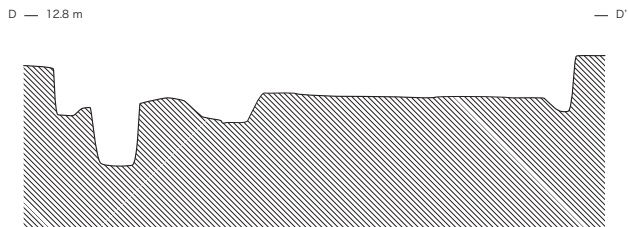
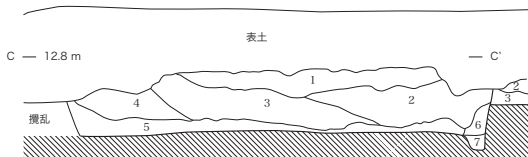
カマド

- 1層 粘性中、締まり中の黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm 1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、25~30%)、焼土粒子 (5~10mm、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。焼土、ローム多。天井くずれ。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。赤味弱い。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む褐色土。直上に土器出土。
- 6層 粘性中、締まり中にぶい黄褐色土。袖部粘土ブロック。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む褐色土。火床直下。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm) を含むにぶい黄褐色土。



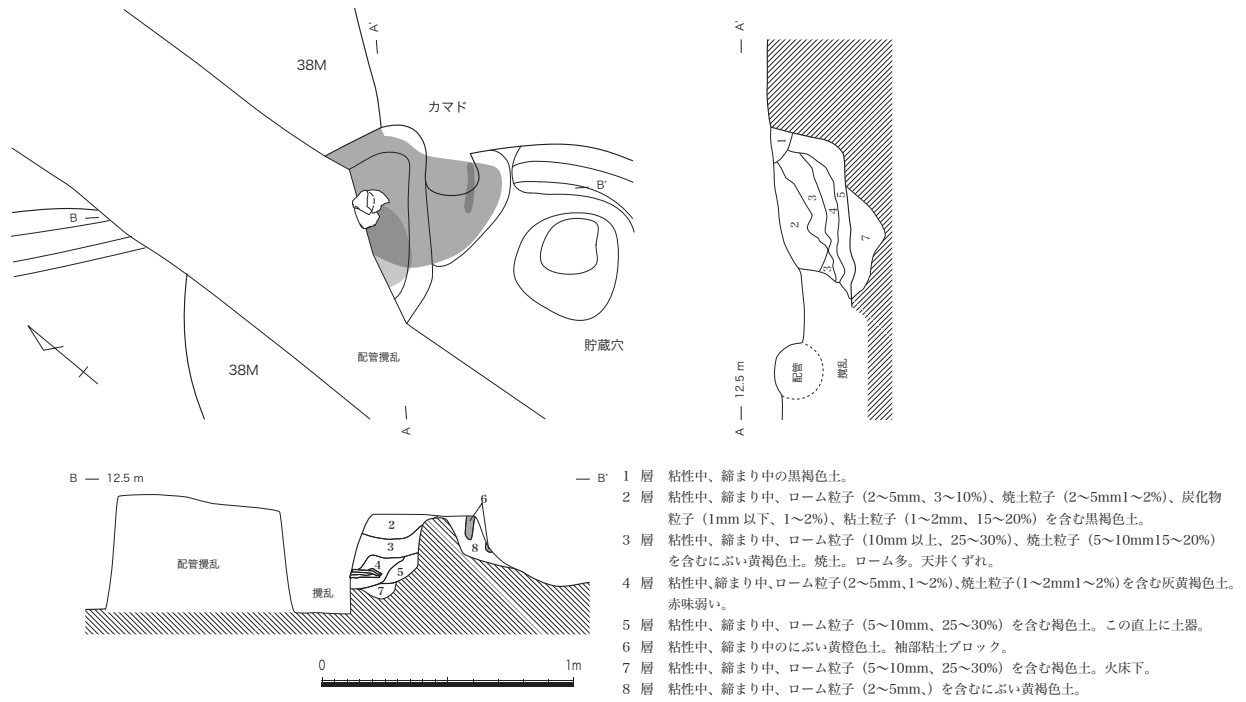
貯蔵穴

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。
- 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、40%以上)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性強、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、40%以上) を含む灰黄褐色土。

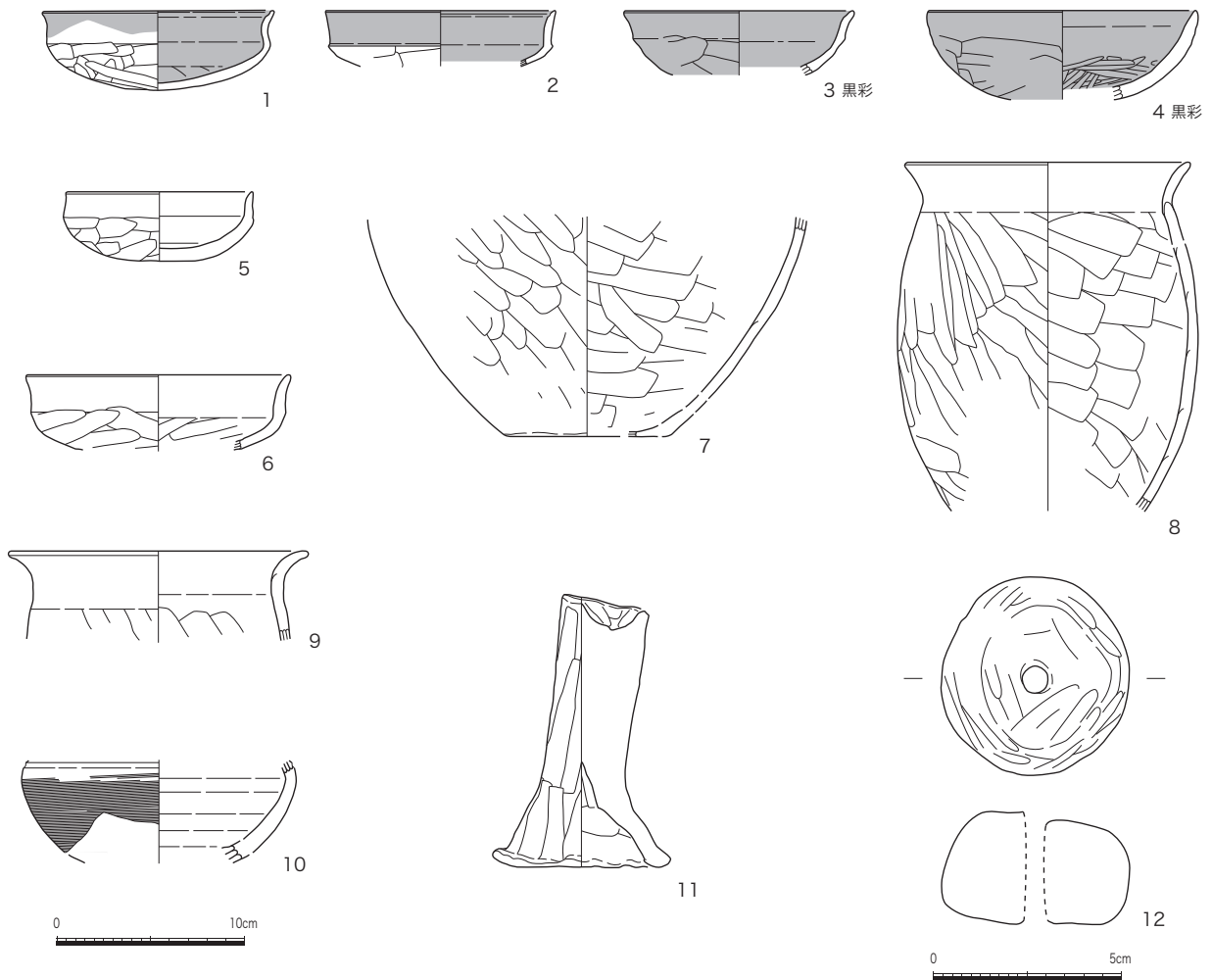


- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (5~10mm) を含む暗褐色土。上面に炭化物連続する部分あり。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、15~20%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、40%以上) を含む褐色土。ローム主体。

第46図 177号住居跡 (1/60)



第47図 177号住居跡カマド (1/30)



第48図 177号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

調査区域内では全周する。(床面) 貼床はなくタタキ床で、全体に良く硬化していた。(床面レベル) 標高 12.16～12.21m。(カマド) 北東壁の東コーナー寄りに位置する。長さ 62cm・幅不明・壁への掘り込み 12cm を測る。袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。左側は 38 号溝跡で壊されている。(柱穴) 確認されなかった。(貯蔵穴) カマド右脇、東コーナーに位置する。平面方形、柱穴状。規模は 45×44cm・深さ 51cm を測る。(入口施設) 未確認。38 号溝跡と排水管理設の攪乱で壊されているか。(覆土) 7層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。顕著な焼土は確認されなかったが、調査区域際で炭化材を検出、また、第 5 層上面には炭化材が連続する部分が観察された。(遺物) 散在する状況で、いずれも覆土中から出土。北側には土師器坏、土製紡錘車、支脚の完形品が認められる。

[時期] 古墳時代後期 (7 世紀中葉)。

[所見] 無支柱穴の小型竪穴で、カマド・貯蔵穴ともに小型である。炭化材の出土状況から、焼失住居と思われる。

遺物 (第 48 図、第 16・58 表)

土師器坏 (1～6)、甕 (7～9)、須恵器壺 (10)、支脚 (11)、土製品紡錘車 (12) を図示した。

178 号住居跡

遺構 (第 49・50 図)

[位置] 1 区南半部。

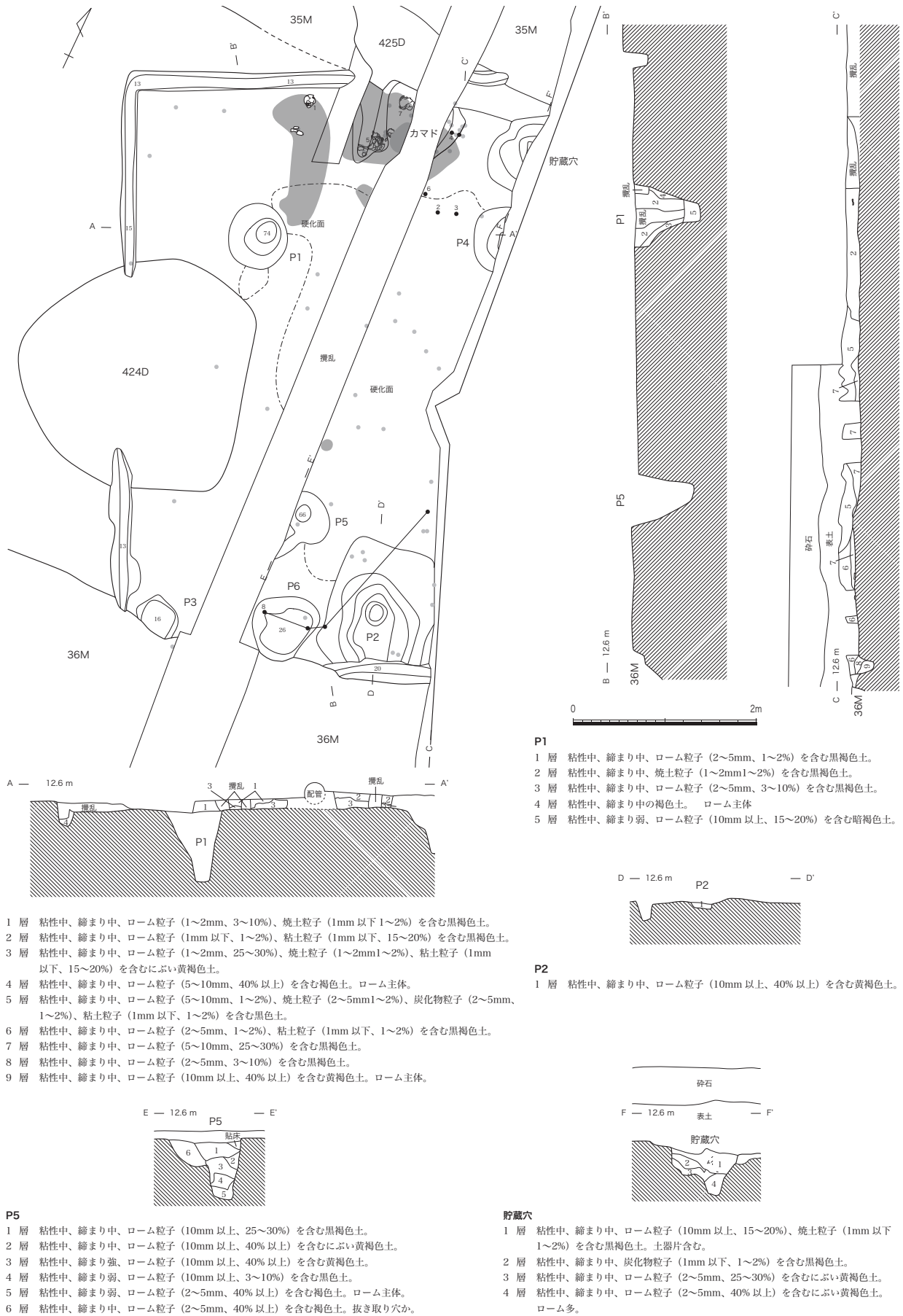
[住居構造] 東側約 2 分の 1 は調査区域外。424・425 号土坑、35・36 号溝跡に切られる。削平が著しく、遺構確認時に入口の凸堤上面が露出する状況であった。(平面形) 正方形か。(規模) 6.68m×不明。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 11～13cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 12～23・下幅 5～16cm・深さ 13～17cm を測る。カマド部分を除き、全周するものと見られる。(床面) 貼床はなく、タタキ床であり、支柱穴で囲まれる部分に硬化面を確認。(床面レベル) 標高 12.24～12.34m。(カマド) 北西壁のほぼ中央に位置する。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。左袖部の前端には土師器甕の大破片が逆位で埋設してあった。煙道部は 425 号土坑で壊されていた。(柱穴) 支柱穴 3 基を確認。深さ 66～74cm を測る。P3 と P6 はきわめて浅く、本住居に伴わないものの可能性がある。(貯蔵穴) カマド右脇、調査区域際でかろうじて存在を確認。(入口施設) 凸堤内の P2 は梯子穴であるが、掘方は極めて浅い。深さは 7cm を測る。(覆土) 9 層、自然堆積か。黒褐色土を基調とする。カマド左脇に密度は低いものの、覆土中に灰白色粘土が広範に分布。(遺物) 小破片が散在する状況。カマド左脇覆土中から土師器坏の完形品が 1 点出土。

[時期] 古墳時代後期 (7 世紀前葉)

[所見] 床面レベルが高く、覆土の残りが薄い。

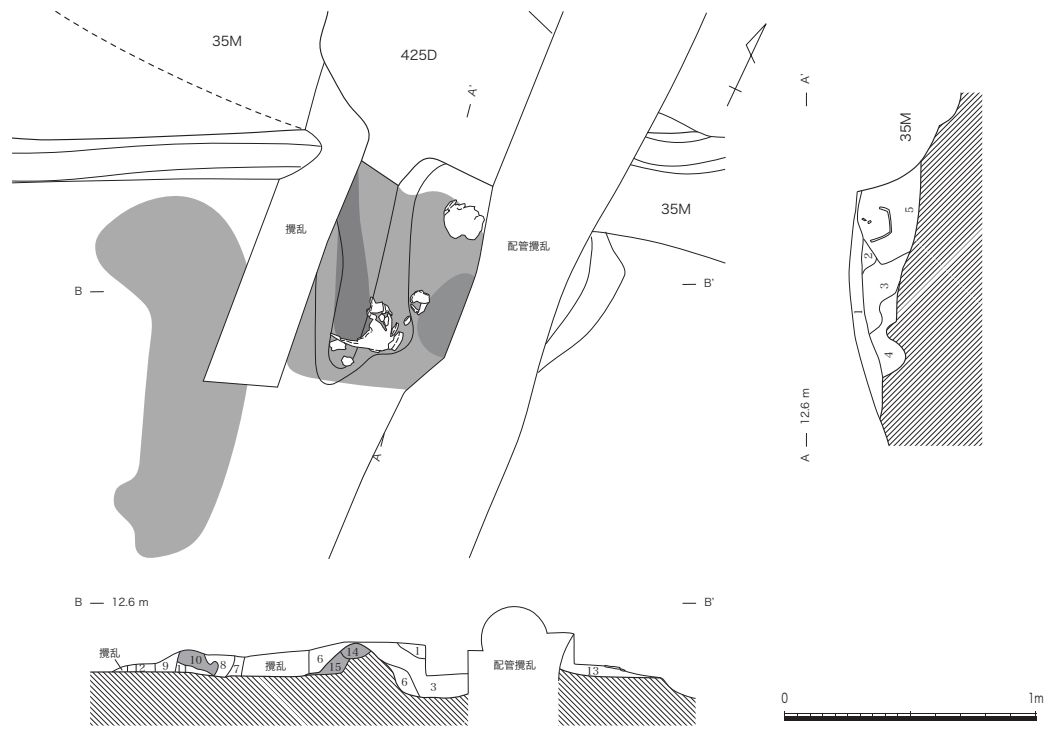
遺物 (第 51 図、第 17・60 表)

土師器坏 (1～3)、甕 (4)、甕 (5～8)、砥石 (9) を図示した。



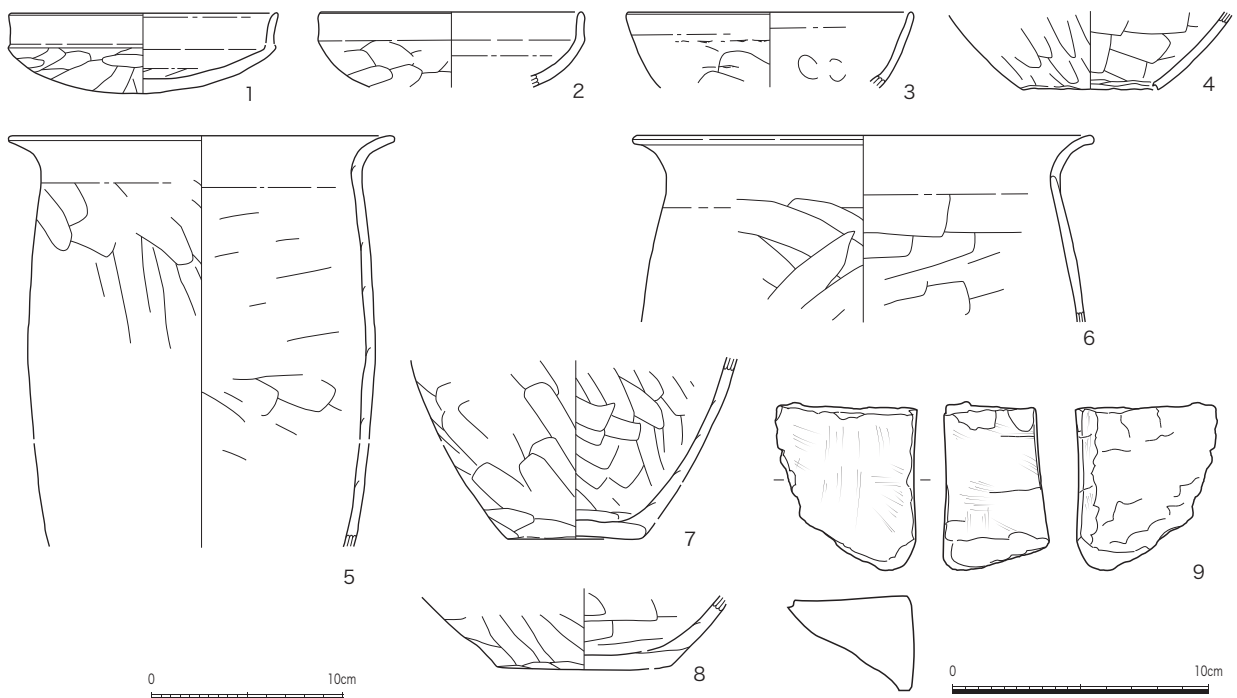
第49図 178号住居跡 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

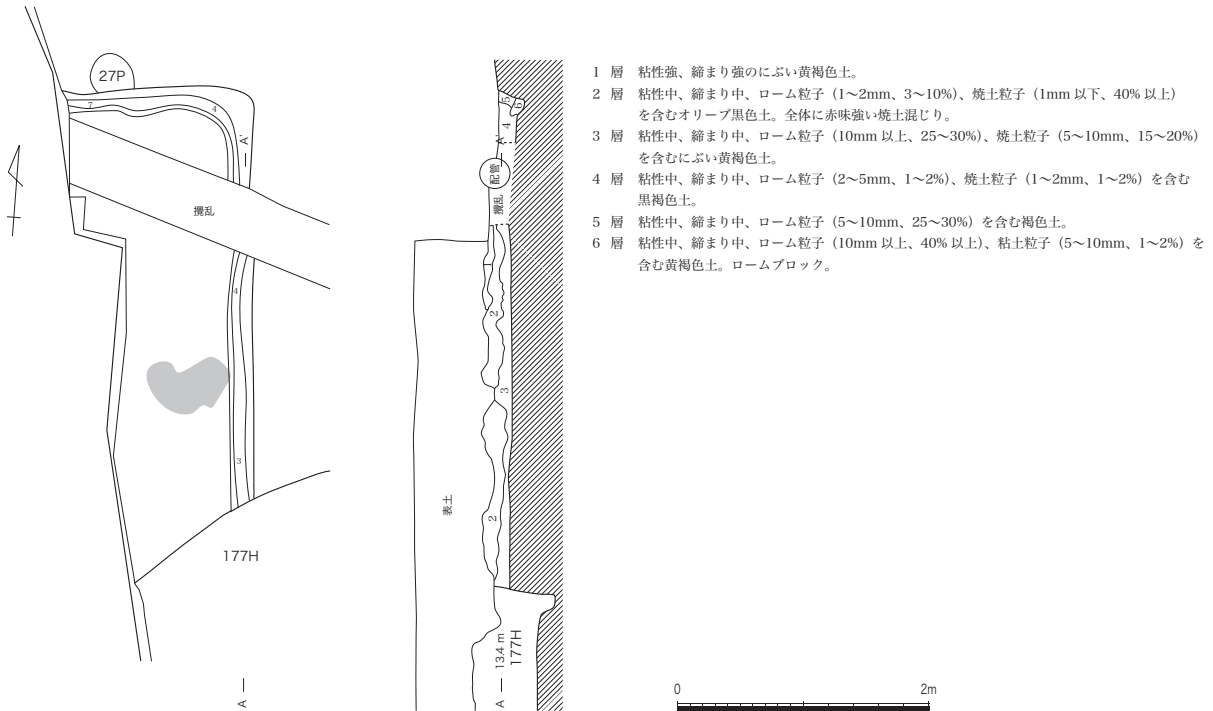


- | | |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| <p>1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒色土。</p> <p>2層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm、3~10%) を含む黒色土。</p> <p>3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む極暗褐色土。</p> <p>4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。</p> <p>5層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm) を含む暗褐色土。焼土粒やや多。土器包含。</p> <p>6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む褐色土。</p> <p>7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、25~30%) を含む褐色土。</p> | <p>8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm) を含む黒褐色土。</p> <p>9層 粘性中、締まり中の黒褐色土。8層に類似。</p> <p>10層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (10mm 以上) を含む灰白色土。粘土層に暗褐色土混じる。</p> <p>11層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、粘土粒子 (1~2mm) を含む黄褐色土。</p> <p>12層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、粘土粒子 (1~2mm) を含む黄褐色土。</p> <p>13層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。</p> <p>14層 粘性強、締まり強、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。被熱赤化粘土。</p> <p>15層 粘性強、締まり強の浅黄褐色土。粘土。</p> |
|---------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|-----------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|

第50図 178号住居跡カマド (1/30)



第51図 178号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)



第52図 179号住居跡 (1/60)

179号住居跡

遺構 (第52図)

[位置] 1区南半部。

[住居構造] 北東コーナーと東壁沿いの一部を確認、ほとんどは調査区域外で、南側は177号住居跡に切られる。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-5°-W。(壁高) 残りの良いところで17cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅15~23cm・下幅3~11cm・深さ6cmを測る。調査区域内では全周する。(床面) 貼床はなく、硬化面は確認されなかった。(床面レベル) 標高12.34~12.42m。(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 6層、自然堆積か。床面レベルが高く、覆土が薄い。東壁際に焼土塊を検出、第2層は焼土粒を多く含む赤味が強い。(遺物) 検出されなかった。

[時期] 古墳時代後期か。

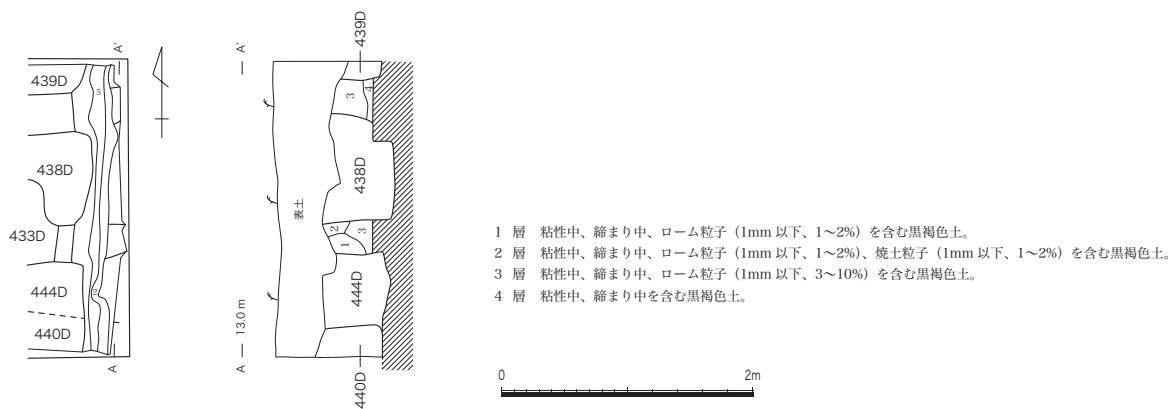
[所見] 覆土の状況から、焼失住居と考えられる。

180号住居跡

遺構 (第53図)

[位置] 2区。

[住居構造] 西壁の一部を確認したのみ。ほとんどが調査区域外。近世の438~440・444号土坑に寸断されている。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-9°-E。(壁高) 壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅26~35cm・下幅2~14cmを測る(床面) 貼床はなく、硬化面は確認され



第53図 180号住居跡 (1/60)

なかった。

(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 4層、自然堆積か。黒褐色土を基調とする。(遺物) 検出されなかった。

[時期] 古墳時代後期か。

[所見] 東隣の市道部分は第2地点として調査済みであるが、同地点南端では確認されていない。調査区域北端北側付近が北西コーナーとなると思われる。

181号住居跡

遺構 (第54図)

[位置] 2区。

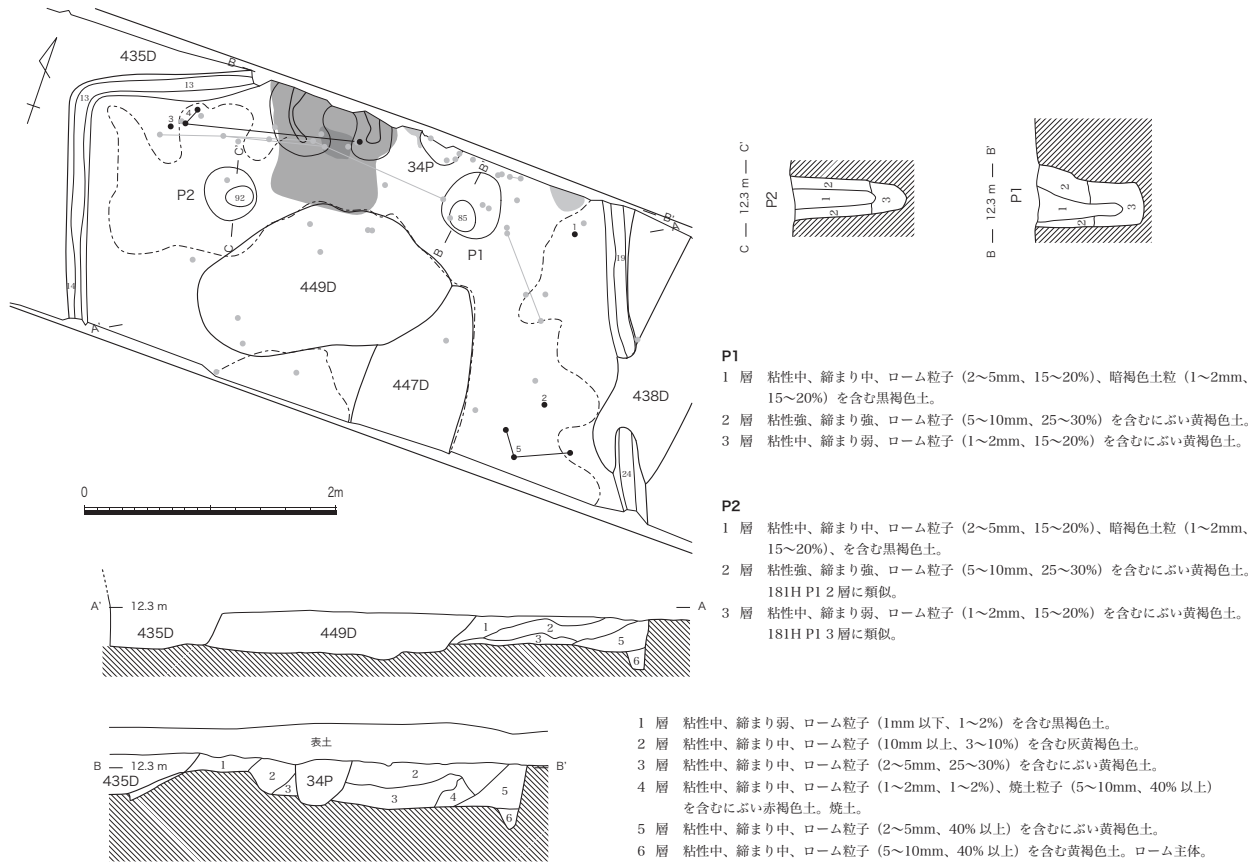
[住居構造] 北コーナーと南半部は調査区域外。中央部分を447・449号土坑に床面下まで壊され、西側は床面付近まで435号土坑に壊されている。(平面形) 不明。(規模) 不明×4.56m。(主軸方向) N-16°-W。(壁高) 25～65cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅16～22cm・下幅4～11cm・深さ14cmを測る。調査区域内では全周する。(床面) 貼床はなく、タタキ床。中世以降の土坑に壊されているものの、壁際を除いて良く硬化している。(床面レベル) 標高11.96～12.05m。(カマド) 北東壁の中央に位置する。幅102cmを測る。地山ロームの削り残しを基礎として構築。左袖部前端には土師器甕の胴部大破片を、右袖部には同口縁～胴部破片を覆い被せるように埋設。煙道部は調査区域外。(柱穴) 主柱穴2基を確認。深さ85～92cmを測る。いずれも柱痕跡の土層が認められる。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 6層、自然堆積。主柱穴P1北側、調査区域際に濃密な焼土が堆積。(遺物) 覆土中に小破片が散在。

[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

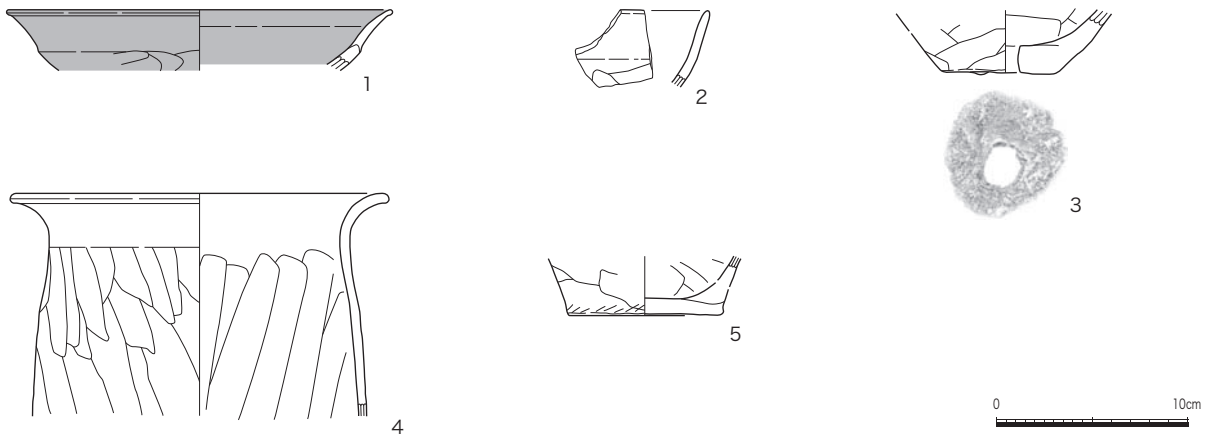
[所見] 焼土の存在から焼失住居と思われる。

遺物 (第55図、第18表)

土師器高坏 (1)、坏 (2)、甕 (3)、甕 (4・5) を図示した。



第54図 181号住居跡 (1/60)



第55図 181号住居跡出土遺物 (1/4)

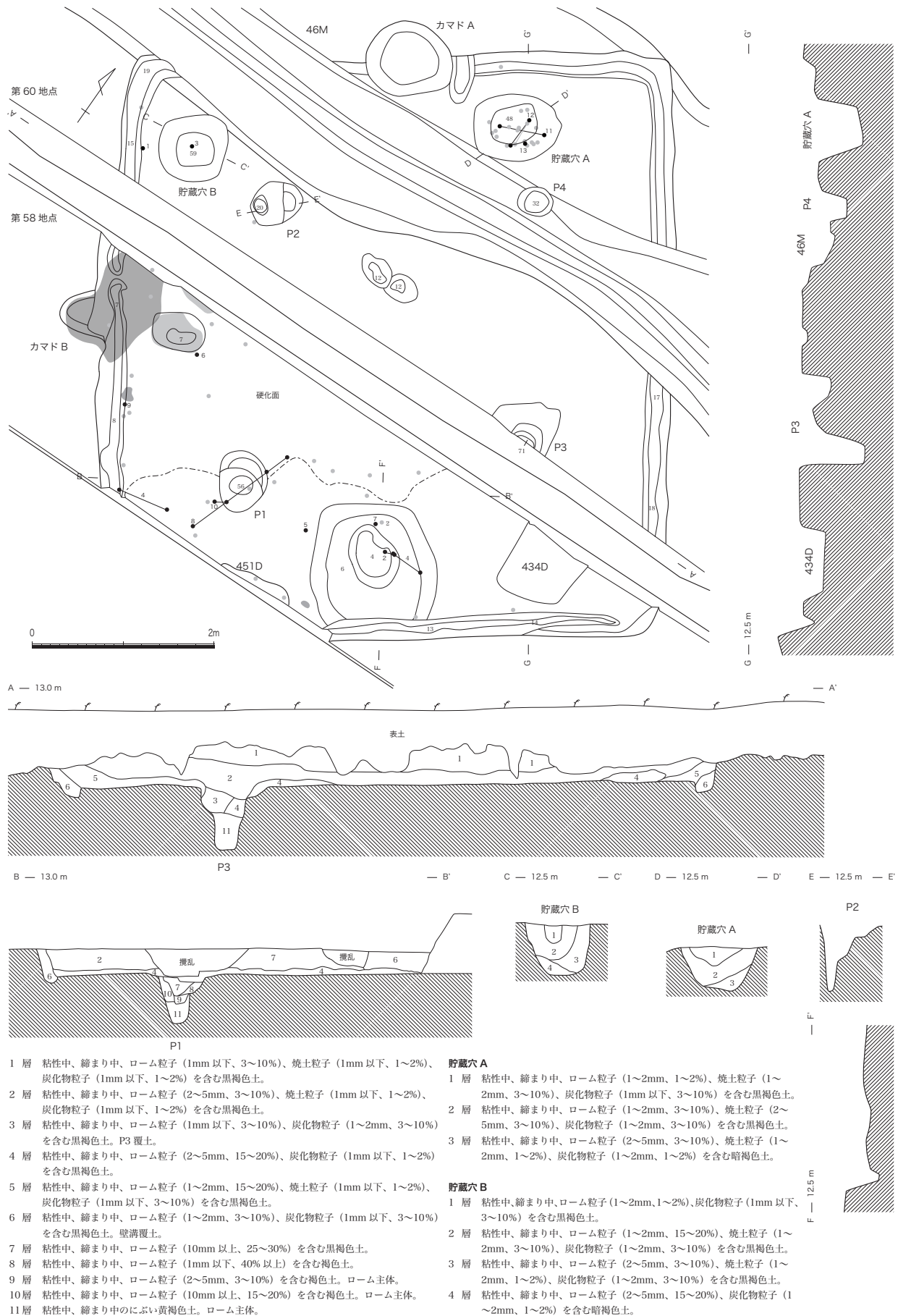
182号住居跡

遺構 (第56・57図)

[位置] 第58地点2区、第60地点I-5・6、J-6グリッド。

[住居構造] 南側3分の1を第58地点、北側3分の2を第60地点で確認。南コーナーは調査区域外。北側3分の1は46号溝跡で大きく削られている。(平面形) 正方形。(規模) 6.50×6.39m。(主軸方向) N-35°-W。(壁高) 22~31cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅12~32cm・下幅2~18cm・深さ7~12cmを測る。東コーナーで途切れるが、ほぼ全周する。(床面) 貼床はな

第3章 検出された遺構と遺物



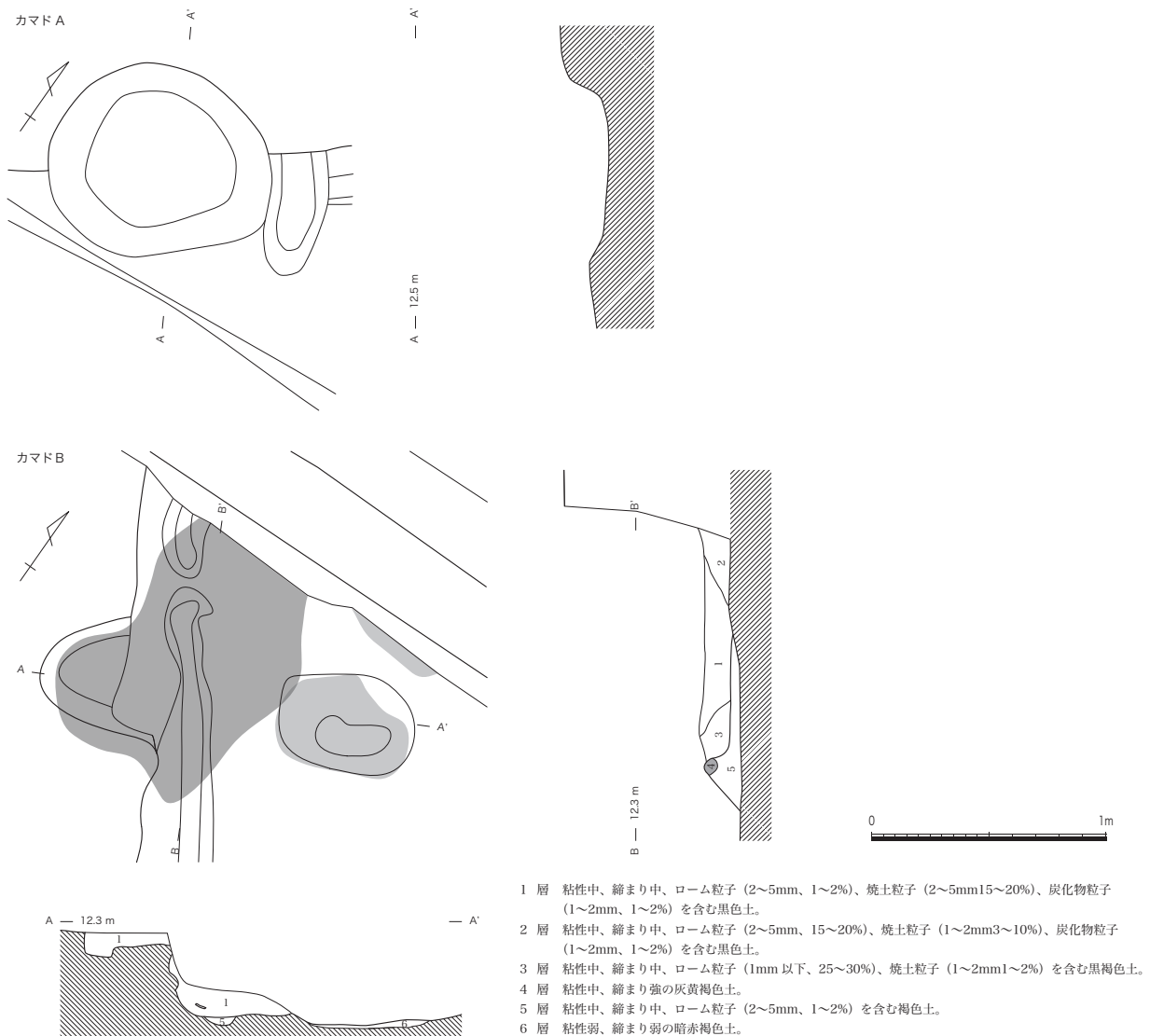
第56図 182号住居跡 (1/60)

く、タタキ床で、南東壁沿いに硬化面を確認。中央部は軟弱であった。(床面レベル) 標高 11.72 ~ 12.00m。

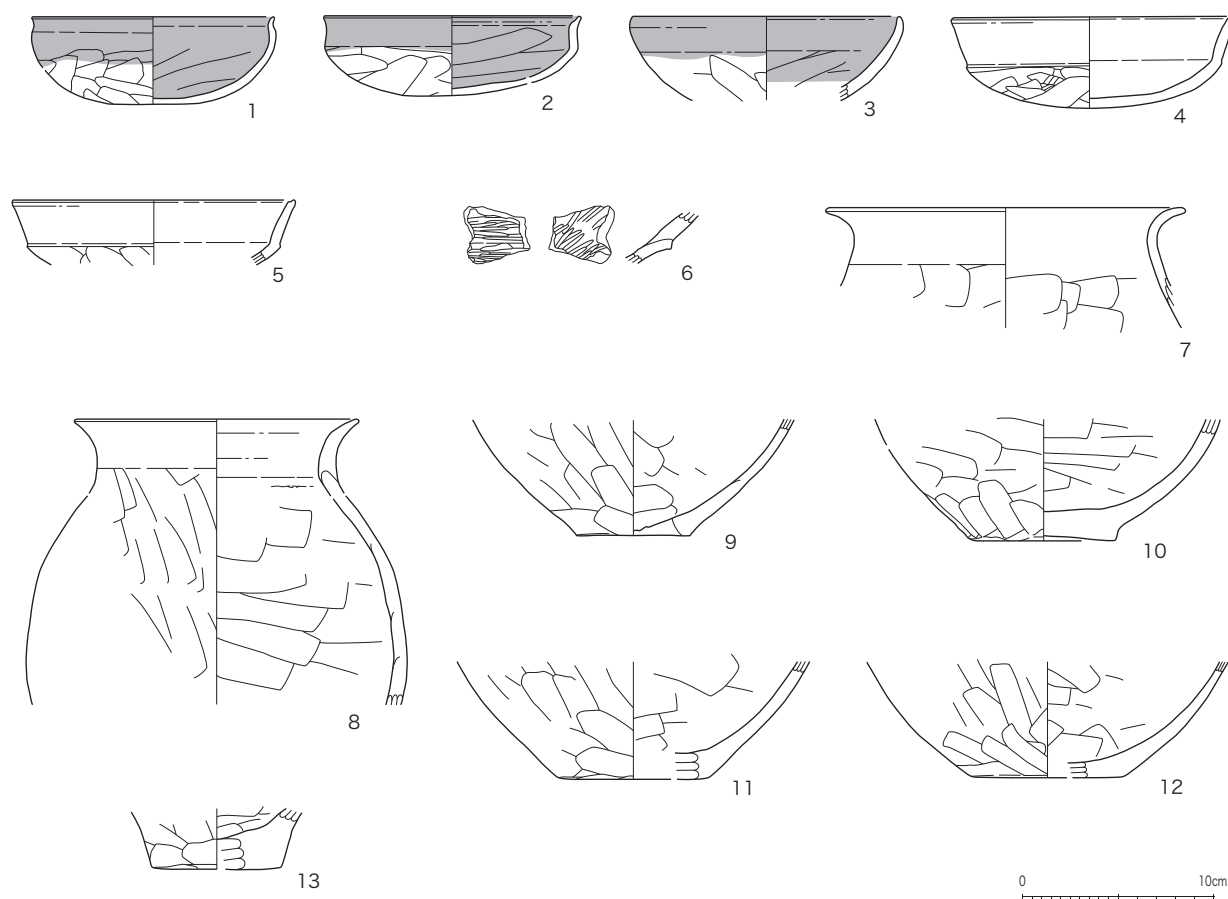
(カマド) 北西壁と南西壁に2基確認。〈カマドA〉北西壁の中央に位置する。長さ 92cm・幅不明・壁への掘り込み 33cm を測る。46号溝跡に破壊されているため、掘方の一部と右袖の痕跡を確認したに過ぎない。〈カマドB〉南西壁の中央に位置する。壁への掘り込みと燃焼部の痕跡を確認。壁への掘り込み 33cm を測る。旧カマドと考えられる。

(柱穴) 深さ 56 ~ 71cm を測る。

(貯蔵穴) 北コーナーと西コーナーに2基確認。〈貯蔵穴A〉カマド右脇、北コーナー付近に位置する。平面長方形。規模は 98×75cm・深さ 48cm を測る。覆土はロームブロック・粒子を含む黒褐色土を基調とした、自然堆積の状況を示す。〈貯蔵穴B〉カマド右側、西コーナーに位置する。平面長方形。規模は 74×75cm・深さ 59cm を測る。覆土は焼土粒子を含む黒褐色土が堆積する。土師器甕の破片がややまとまる。



第57図 182号住居跡カマド (1/30)



第58図 182号住居跡出土遺物(1/4)

(入口施設) 南東壁中央に位置する。梯子穴は確認されず、台状の凸堤の中央が凹む。(覆土) 11層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。カマドBの北東側に焼土ブロックが確認された。(遺物) 土師器破片が貯蔵穴Aに集中する以外は、覆土中に散在。

[時期] 古墳時代後期(6世紀中葉)。

[所見] カマドと貯蔵穴が2組存在するが、柱穴の重複は確認できず、柱の位置を変更せずに、カマドの造り直しに伴う改築が行われたものと思われる。焼土ブロックの存在は不明であるが、焼失住居とする積極的な痕跡は看取されなかった。

遺物 (第58図、第19表)

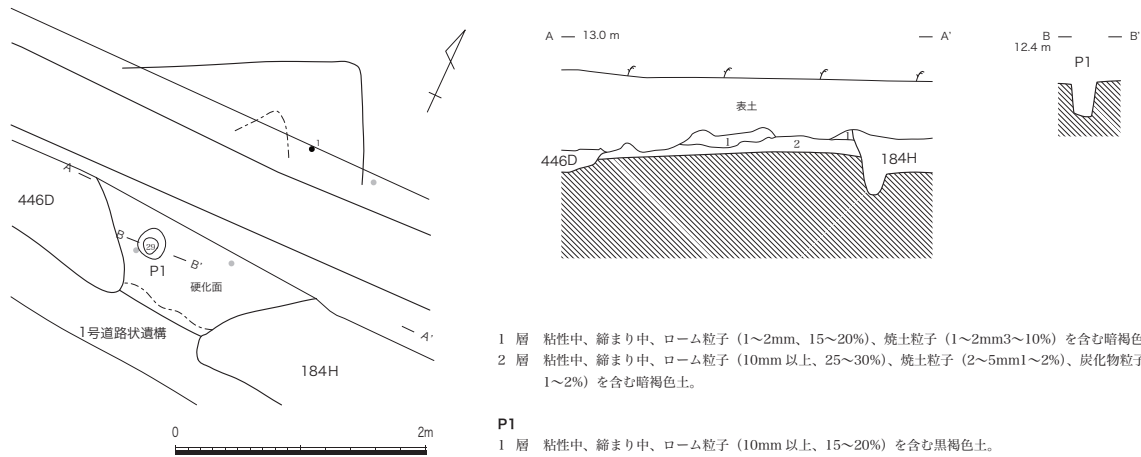
土師器坏(1~5)、高坏(6)、甕(7~13)を図示した。

183号住居跡

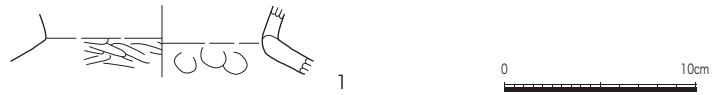
遺構 (第59図)

[位置] 第58地点2区、第60地点H-6グリッド。

[住居構造] 北コーナー付近を確認したのみ。東側を184号住居跡、西側を446号土坑、南側を道路状遺構に切られる。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 調査区域内では全周する。(床面) 貼床はなく、タタキ床。調査区域内では壁溝



第 59 図 183 号住居跡 (1/60)



第 60 図 183 号住居跡出土遺物 (1/4)

部分を除き、ほぼ全面に硬化面が認められた。(床面レベル) 標高 12.02 ~ 12.05m。(カマド) 未確認。(柱穴) 1 基確認したが、掘方が小さく、支柱穴ではないかもしれない。(貯蔵穴) 未確認。

(覆土) 2 層、自然堆積か。床面レベルが高く、削平のために残りが悪い。(遺物) 土師器小破片が数点散在していたのみ。

[時期] 古墳時代中期 (5 世紀後半か)。

[所見] 遺構の重複が著しく、一部の確認にとどまったために、不明瞭である。

遺物 (第 60 図、第 20 表)

土師器甕 (1) のみ図示し得た。

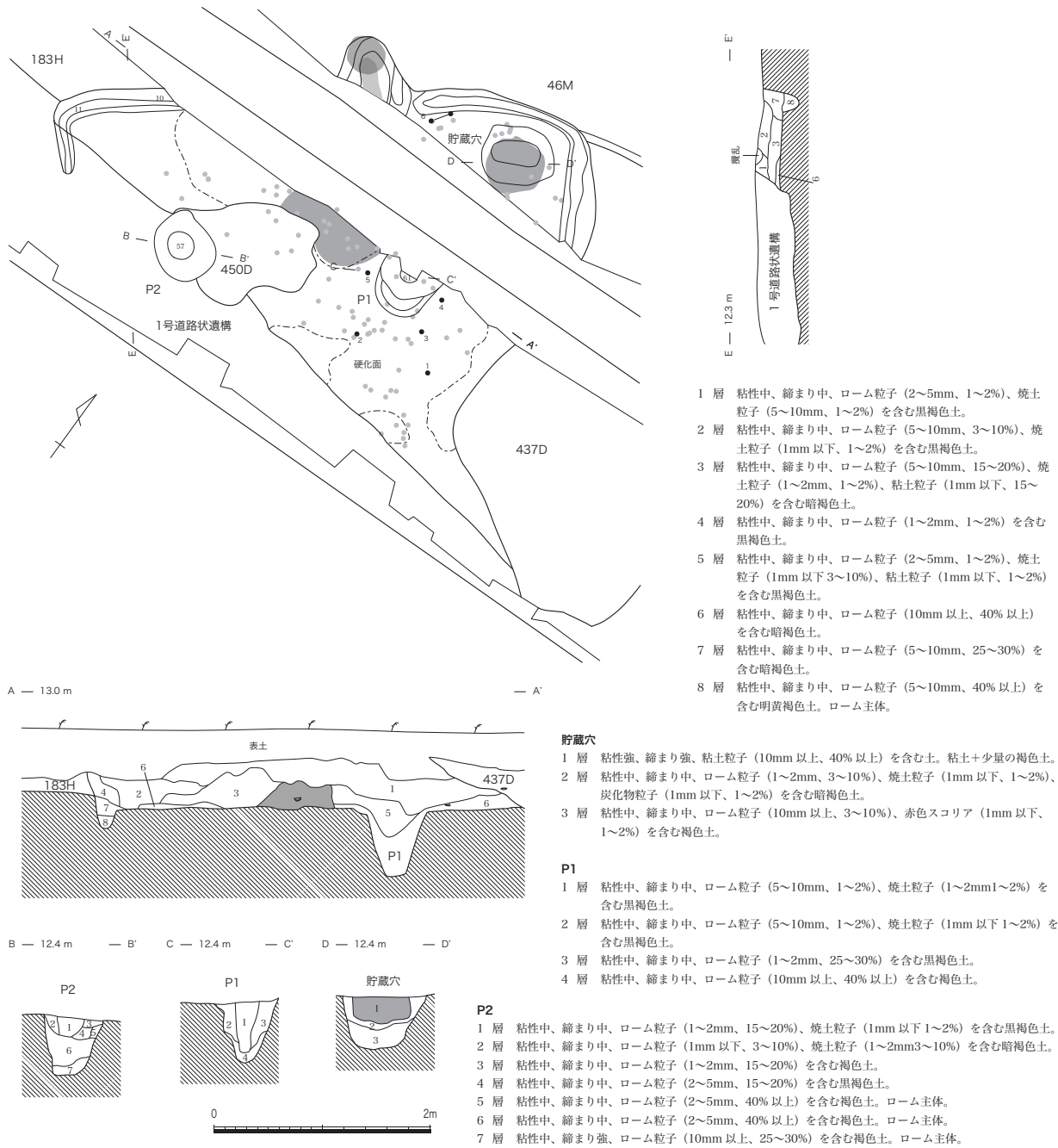
184 号住居跡

遺構 (第 61・62 図)

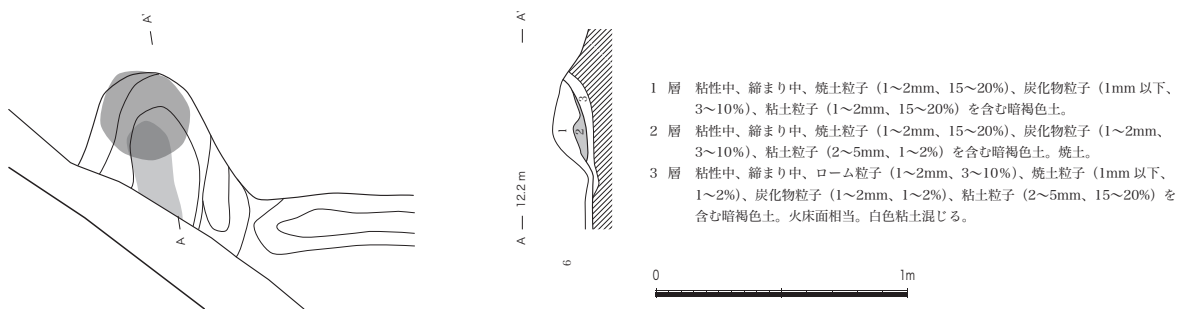
[位置] 第 58 地点 2 区、第 60 地点 H-6 グリッド。

[住居構造] 北西半分を確認したが、カマドと北西壁の一部は 46 号土坑に壊され、東側は 437 号土坑に、南側は道路状遺構と 450 号土坑に切られている。183 号住居跡を切る。(平面形) 不明。(規模) 不明×5.00m。(主軸方向) N-36°-W。(壁高) 14~18cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 11~32cm・下幅 4~14cm・深さ 11~18cm を測る。カマド部分を除き、調査区域内では全周するものと見られる。(床面) 貼床はなく、タタキ床。カマド前面から中央にかけて硬化面を確認。(床面レベル) 標高 11.84~12.07m。(カマド) 両袖部の大半は調査区域外。長さ・幅不明・壁への掘り込み 47cm を測る。地山ロームの削り残しを基礎として、構築材に灰白色粘土を用いている。(柱穴) 支柱穴 2 基を確認。深さ 57~61cm を測る。(貯蔵穴) カマド右脇、北コーナーに位置する。平面長方形。

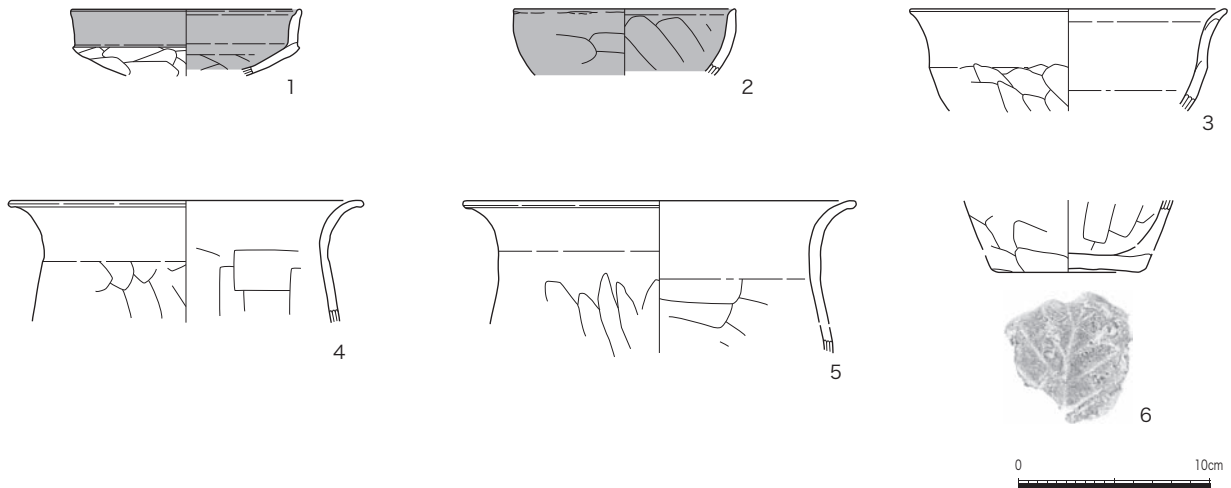
第3章 検出された遺構と遺物



第61図 184号住居跡 (1/60)



第62図 184号住居跡カマド (1/30)



第63図 184号住居跡出土遺物(1/4)

規模は68×56cm・深さ49cmを測る。覆土上半に純粋な灰白色粘土が盛り上がるほどに詰められている。下半はロームブロックを多く含む。(入口施設)未確認。(覆土)8層、自然堆積。支柱穴P1上方の粘土塊(第4層)は後世の攪乱による堆積。(遺物)覆土中に土師器破片が散在。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 本住居の特色は貯蔵穴内の灰白色粘土であるが、これとカマド構築粘土が同一ものであるか、否かは判断できない。

遺物(第63図、第21表)

土師器坏(1・2)、鉢(3)、甕(4～6)を図示した。

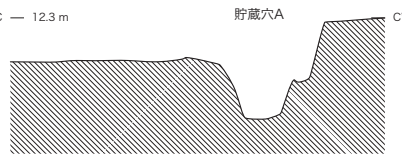
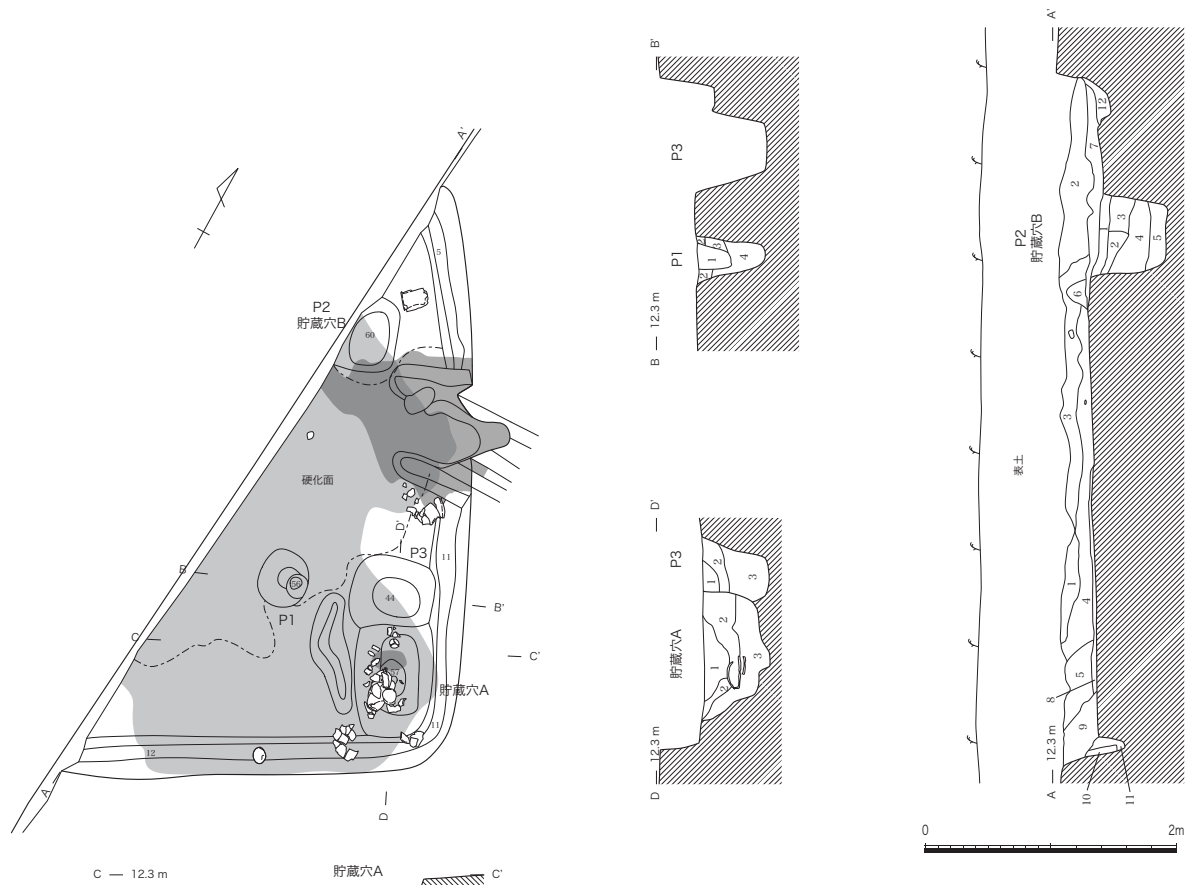
185号住居跡

遺構(第64・65図)

[位置] 3区。

[住居構造] 東側3分の1を確認。西側は調査区域外。北西端は西に向かって曲がるので、北コーナーは調査区域際に位置する。(平面形)不明。(規模)4.68m×不明。(主軸方向)N-30°-W。(壁高)29～35cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅18～35cm・下幅7～15cm・深さ12～20cmを測る。調査区域内では全周する。(床面)貼床はなく、タタキ床。カマド前面から中央部にかけて硬化面が確認された。(床面レベル)標高11.86～11.99m。(カマド)北東壁の中央に位置する。長さ98cm・幅115cm・壁への掘り込み59cmを測る。両袖部の基礎はローム(掘方掘削土か)を用いて構築。(柱穴)南東角の支柱穴1基を確認。深さ56cmを測る。柱痕の土層が認められ、第2層は柱周囲の貼床である。

(貯蔵穴) 東コーナーと北コーナーに2基確認。〈貯蔵穴A〉カマド右側、東コーナーに位置する。平面長方形。規模は90×64cm・深さ57cmを測る。覆土は下半に黒褐色土が堆積し、この上に完形の甕(18)が横たわり、焼土が流れ込んでいた。また、貯蔵穴Aに切られるP3はローム土を覆土とし、埋め戻されたものと解される。西側には凸堤がある。〈貯蔵穴B〉北コーナー付近に位置する。平面正



貯蔵穴 A

- 1 層 粘性弱、縮まり弱、黒色粒子 (5~10mm、3~10%) を含む赤褐色土。焼土。
- 2 層 粘性中、縮まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む暗褐色土。

- 1 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、25~30%) を含む暗褐色土。焼土 (暗)。
- 4 層 粘性弱、縮まり弱、焼土粒子 (2~5mm、40% 以上)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。焼土 (やや明)。
- 5 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性強、縮まり強、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、粘土粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む褐色土。カマド流出粘土。
- 7 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む褐色土。
- 8 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐色土。
- 9 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒色土。
- 10 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒色土。
- 11 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 12 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。

P1

- 1 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒色土。柱痕。
- 2 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む明黄褐色土。貼床。
- 3 層 粘性中、縮まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、縮まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む褐色土。ローム土。

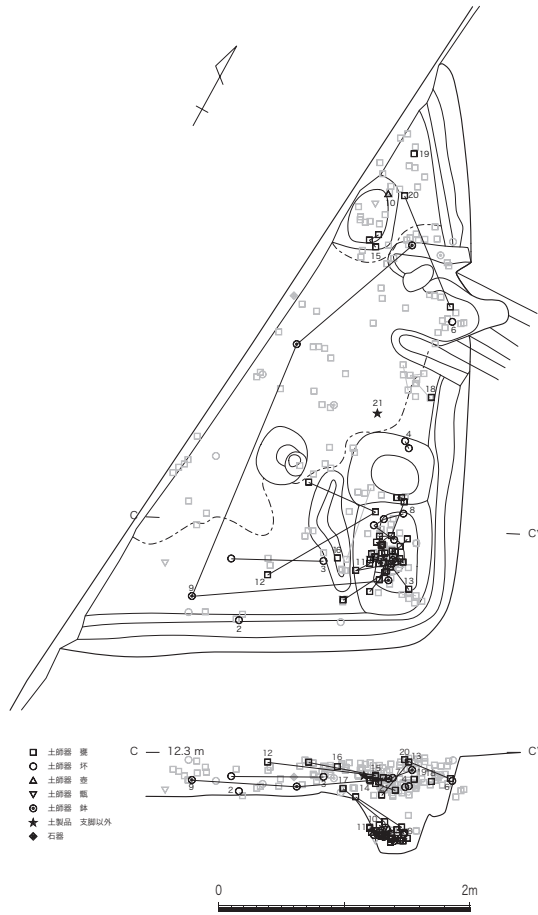
P2

- 1 層 粘性強、縮まり強、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黄褐色土。貼床。
- 2 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む褐色土。
- 4 層 粘性強、縮まり弱、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む褐色土。
- 5 層 粘性中、縮まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。

P3

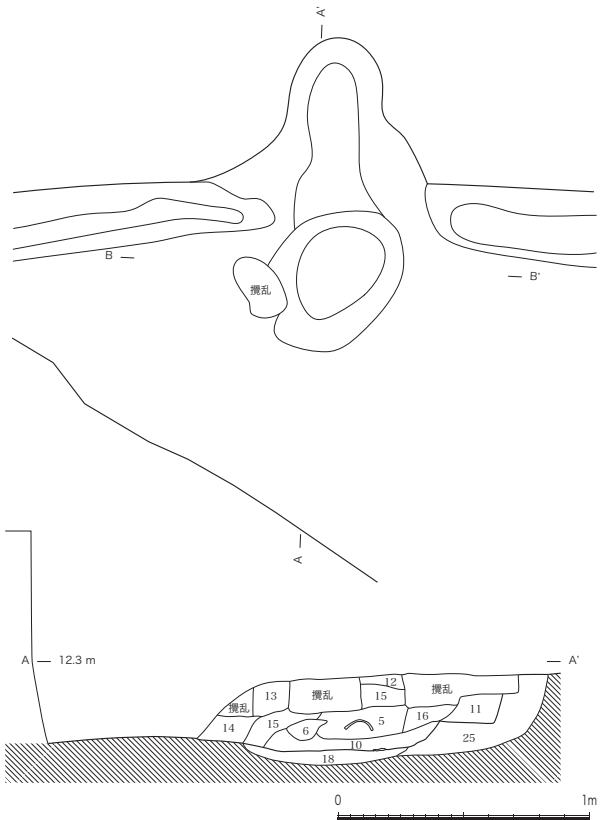
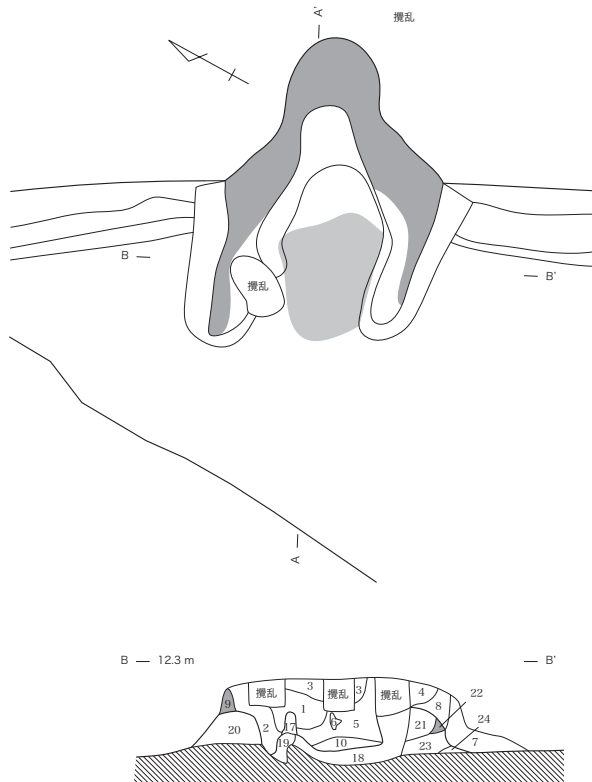
- 1 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、縮まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、暗褐色土粒 (1~2mm、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性中、縮まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。

第 64 図 185 号住居跡 (1/60)

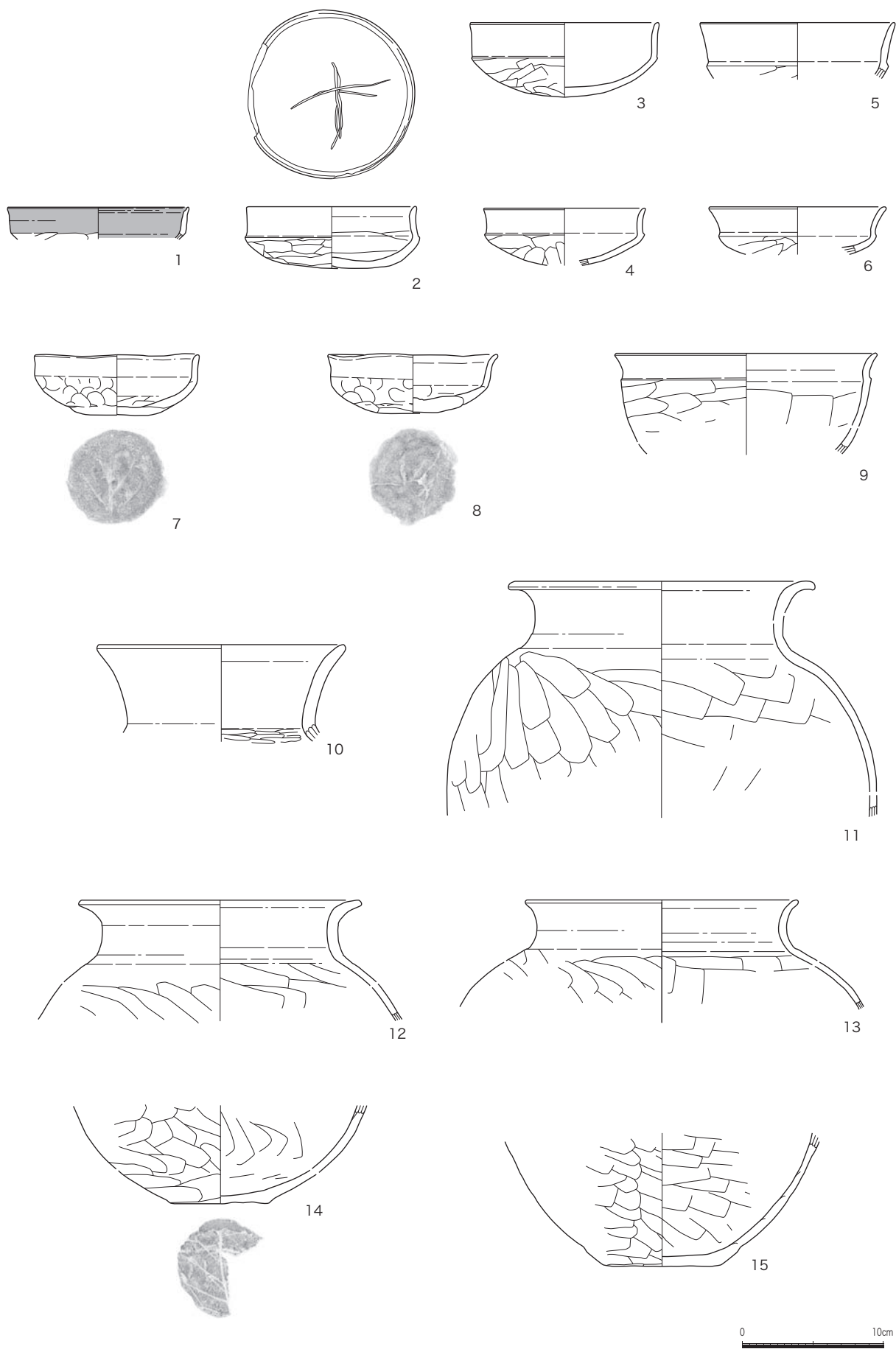


カマド

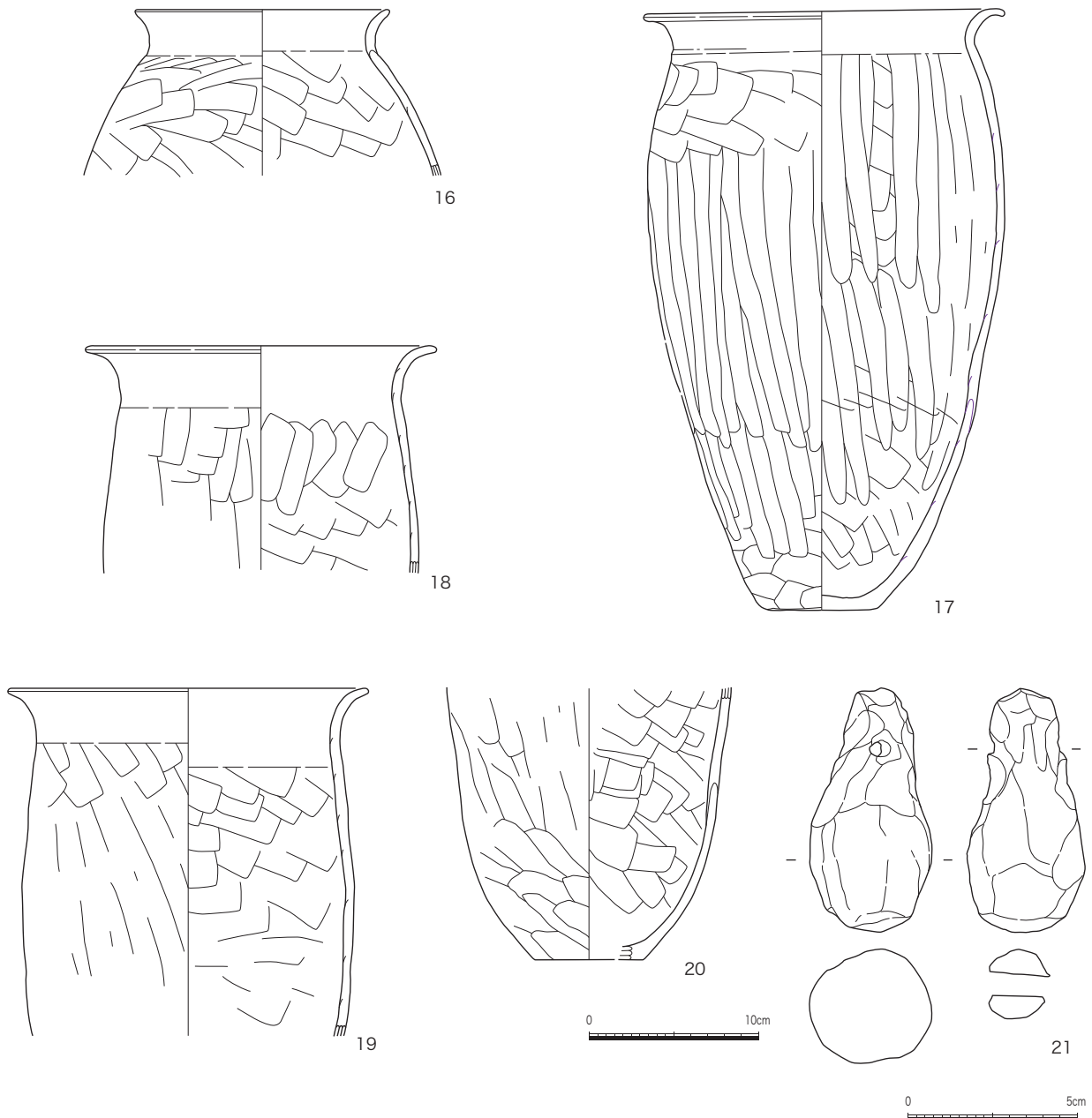
- 1層 粘性中、締まり中、焼土粒子（1~2mm、3~10%）、粘土粒子（1~2mm、25~30%）を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、焼土粒子（2~5mm、15~20%）、粘土粒子（1~2mm、）を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、焼土粒子（1mm以下、3~10%）、粘土粒子（1~2mm、）を含む褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子（2~5mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）、粘土粒子（2~5mm、15~20%）を含む黒褐色土。
- 5層 粘性弱、締まり中の暗赤灰色土。
- 6層 粘性弱、締まり強の褐色土。天井ブロックか。
- 7層 ローム粒子（2~5mm、15~20%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）、粘土粒子（1mm以下、15~20%）を含む褐色土。
- 8層 粘性中、締まり中、焼土粒子（1~2mm、15~20%）、粘土粒子（2~5mm、25~30%）を含む褐色土。
- 9層 粘性強、締まり中、粘土粒子（1mm以下）を含むふい黄褐色土。粘土。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、25~30%）を含む暗赤褐色土。
- 11層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、粘土粒子（1~2mm、25~30%）を含む黒褐色土。
- 12層 粘性強、締まり強、粘土粒子（2~5mm）を含む黄褐色土。
- 13層 粘性中、締まり中、焼土粒子（1~2mm、40%以上）、粘土粒子（1mm以下）を含むふい黄褐色土。
- 14層 粘性中、締まり中、焼土粒子（2~5mm、3~10%）、粘土粒子（1~2mm、1~2%）を含む暗赤褐色土。
- 15層 ローム粒子（2~5mm、25~30%）、粘土粒子（1~2mm、15~20%）を含む黒褐色土。
- 16層 ローム粒子（2~5mm、3~10%）、焼土粒子（1~2mm、3~10%）を含む黒褐色土。
- 17層 粘性強、締まり中、焼土粒子（5~10mm、25~30%）、粘土粒子（2~5mm、15~20%）を含む黒褐色土。
- 18層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（2~5mm、40%以上）を含む暗赤褐色土。被熱ローム。
- 19層 粘性強、締まり強の黄褐色土。支柱状。ローム土。
- 20層 粘性弱、締まり強、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1~2mm、15~20%）、粘土粒子（1~2mm）を含む暗褐色土。
- 21層 粘性弱、締まり強、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（2~5mm、40%以上）を含む暗赤褐色土。
- 22層 粘性強、締まり強、焼土粒子（1~2mm、3~10%）を含むふい黄褐色土。カマド粘土。
- 23層 粘性中、締まり中、焼土粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含むふい黄褐色土。
- 24層 粘性強、締まり強、焼土粒子（1mm以下1~2%）、暗褐色土粒（1mm以下を含む）黄褐色土。
- 25層 粘性強、締まり強、焼土粒子（5~10mm、3~10%）を含むふい黄褐色土。



第 65 図 185 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)



第66図 185号住居跡出土遺物1 (1/4)



第 67 図 185 号住居跡出土遺物 2 (1/2・1/4)

方形か。規模は 60cm×不明・深さ 60cm を測る。覆土はローム土を主体とする第 16・17 層の存在と後者は締まりが弱く、埋め戻されたものと考えられる。その上に床が貼られていた (第 14 層)。また、図化できていないが、穴の南東沿いは床面より高く、凸堤があったものと思われる。(入口施設) 未確認。(覆土) 12 層、確認範囲 (竪穴覆土下層) では自然堆積。南東壁際に黒色・黒褐色土が堆積した (第 5・9 層) のち、床面直上に、真っ赤な焼土が北に向かってなだれ込んでいる。P1 の支柱部分は焼土ではなく、丸く黒色土であった。

(遺物) 完形品は床面直上に土師器環 3 点があるのみで、他は土師器の破片が散在。また、カマド右脇の覆土中から鈴形土製模造品が出土。

[時期] 古墳時代後期 (7 世紀中葉)

[所見] 貯蔵穴 B の埋め戻しと、カマドの袖部基礎が地山削り残しではなかったことから、確認した

第3章 検出された遺構と遺物

カマドは新カマドで、貯蔵穴Bに伴う旧カマドが北西壁に位置するものと考えられる。また、大量の焼土から焼失住居であるが、炭化材は確認されなかった。

遺物 (第66・67図、第22・58表)

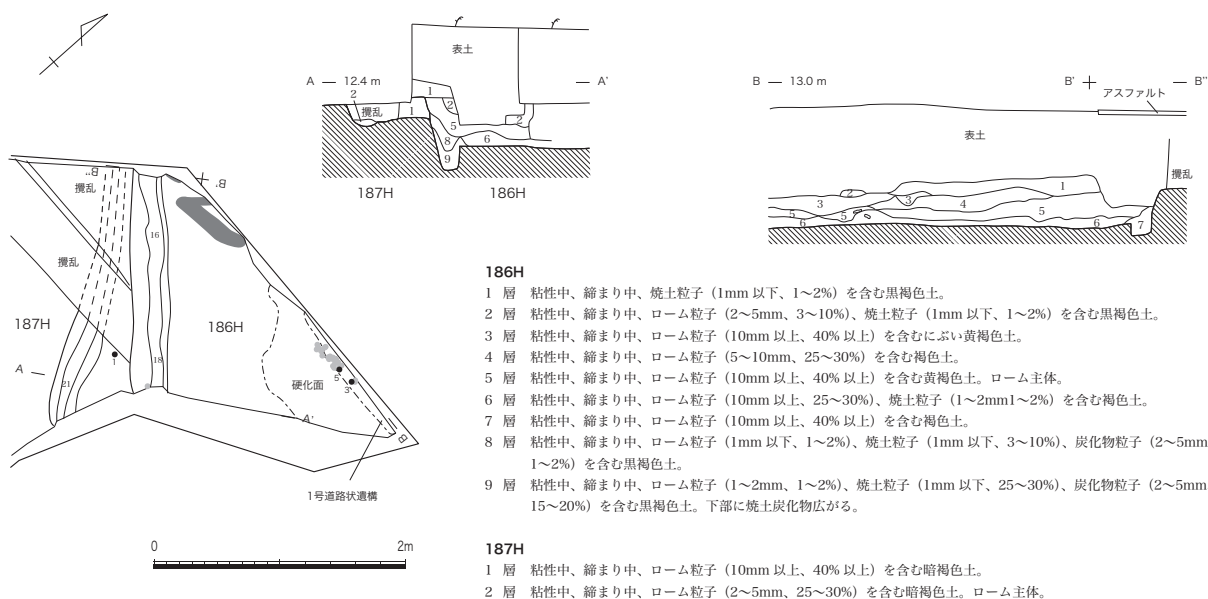
土師器坏(1~8)、鉢(9)、壺(10)、甕(11~20)のほか、土鈴(21)がある。開口部がないが、振ると複数の小石(砂粒)が入っている音がする。

186号住居跡

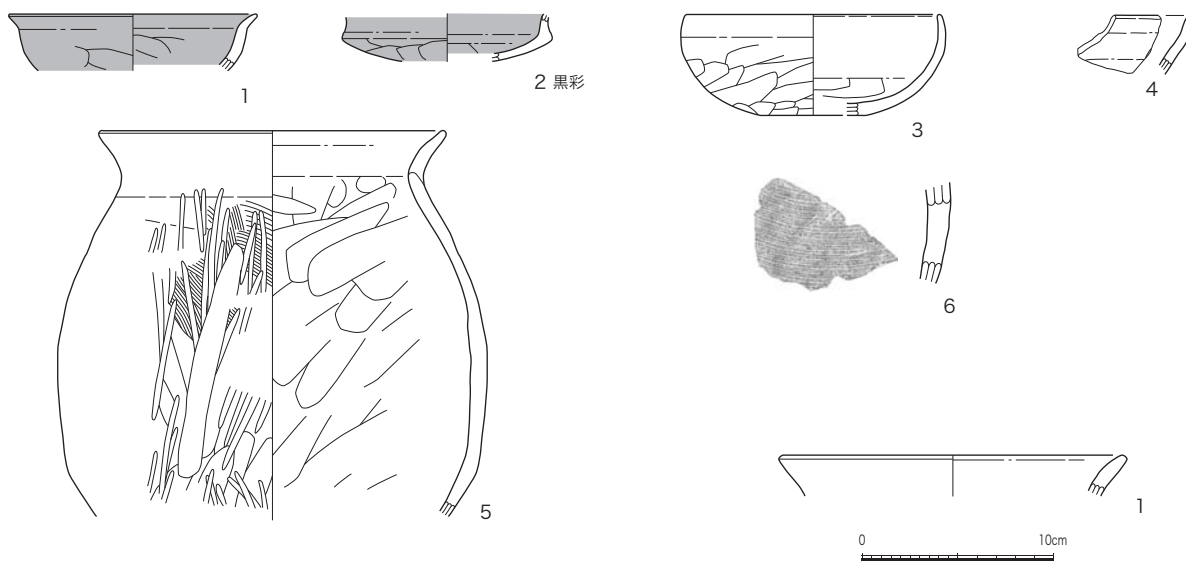
遺構 (第68図)

[位置] 3区。

[住居構造] 南西壁の一部から中央に向けての部分を確認したに過ぎない。ほとんどは調査区域外で、



第68図 186・187号住居跡住居跡(1/60)



第69図 186号住居跡出土遺物(1/4)

第70図 187号住居跡出土遺物(1/4)

北東側調査区域際には道路状遺構の硬化面が確認された。187号住居跡を切る。(平面形)不明。(規模)不明。(主軸方向) N-50°-W (壁高) 29～39cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 調査区域内では確認された。上幅 23～29cm・下幅 8～14cm・深さ 8～19cm を測る。(床面) 貼床はなく、タタキ床。竪穴中央部方向に硬化面が確認された。(床面レベル) 標高 11.83～11.89m。(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 9層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。第7層は焼土粒子を多く含み、下面には炭化材が分布。(遺物) 中央部方向の北東調査区域際に土師器破片が集中。

[時期] 古墳時代中期 (5世紀末葉)。

[所見] 覆土の特徴と、炭化材の存在から焼失住居と判断される。

遺物 (第69図、第23表)

土師器坏 (1～4)、甕 (5)、須恵器壺・瓶類 (6) を図示した。

187号住居跡

遺構 (第68図)

[位置] 3区。

[住居構造] 186号住居跡に切られ、南西壁の一部を確認したのみ。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-47°-W。(壁高) 残りの良いところで13cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 調査区域内では確認された。上幅 22～30cm・下幅 6～10cm・深さ 6cm を測る。(床面) 貼床はなく、タタキ床で、硬化面は確認されなかった。

(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 2層。(遺物) 土師器小破片が数点検出できたのみ。

[時期] 古墳時代中期 (5世紀末葉以前)

遺物 (第70図、第24表)

土師器甕 (1) のみ図示し得た。

〈第60地点〉

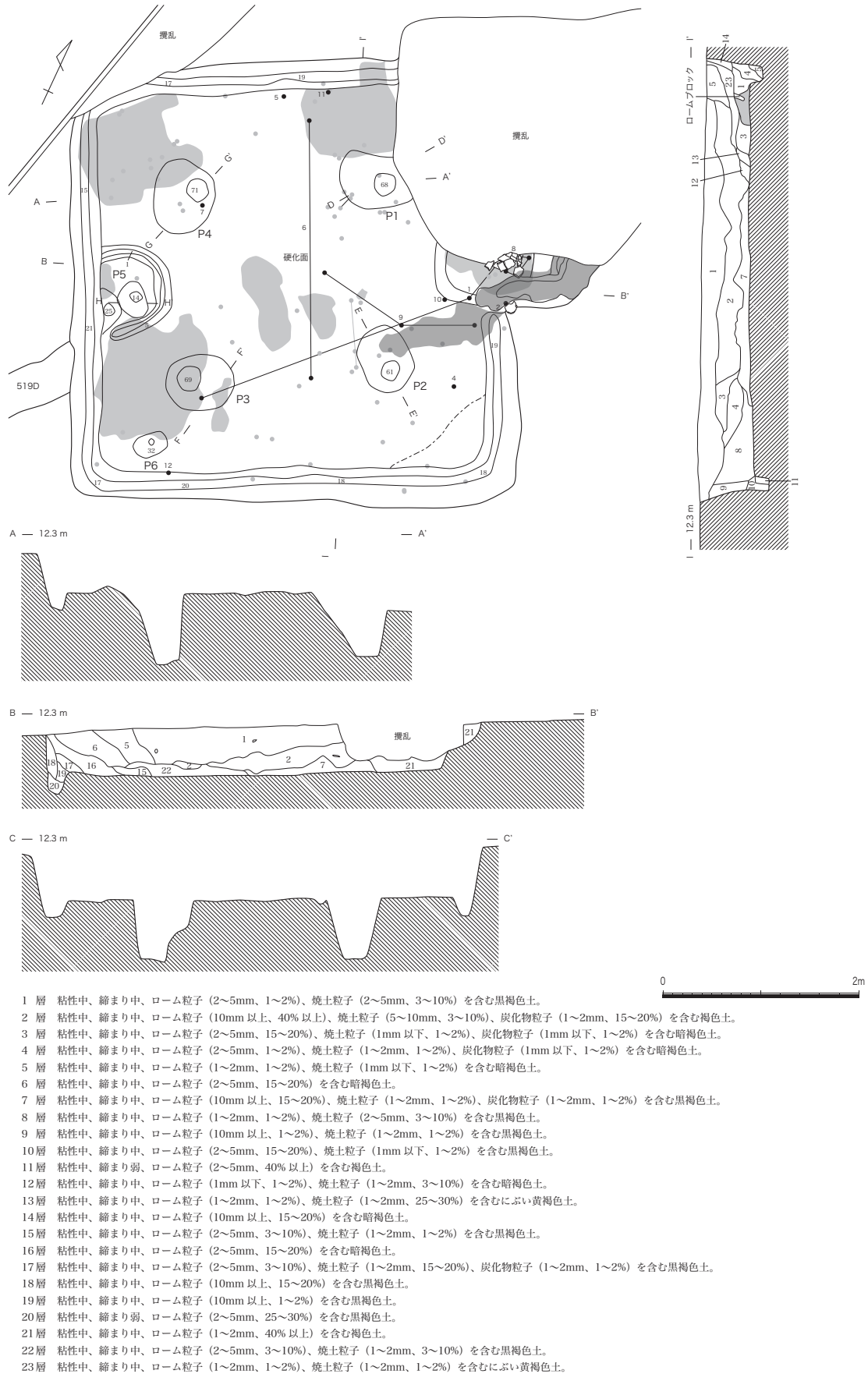
188号住居跡

遺構 (第71・72図)

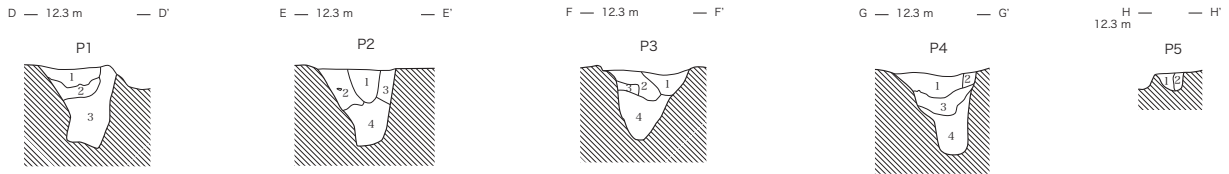
[位置] B-3グリッド。

[住居構造] 攪乱によって、西コーナーの一部と北コーナーからカマド左側を大きく壊されている。(平面形) 正方形。(規模) 4.56×4.67m。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 40～56cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 28～43cm・下幅 6～11cm・深さ 11～22cm。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。ほぼ全面良く硬化していた。(床面レベル) 標高 11.52～11.79m。(カマド) 北東壁中央に位置する。長さ 127cm・幅不明・壁への掘り込み 92cm。袖部基礎の地山ロームの削り出しはなく、構築粘土の下に地山ロームの被熱面が存在することから、ほぼ同

第3章 検出された遺構と遺物



第 71 図 188 号住居跡 1 (1/60)



P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。

P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む明黄褐色土。ローム主体。

P3

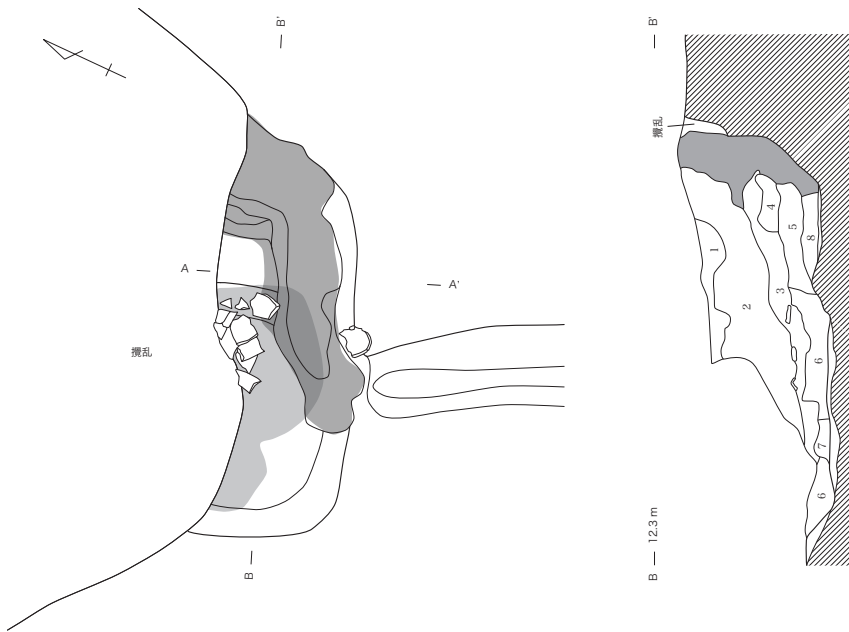
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。

P4

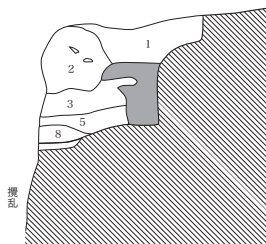
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。貼床由来。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ローム主体。

P5

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む黒褐色土。



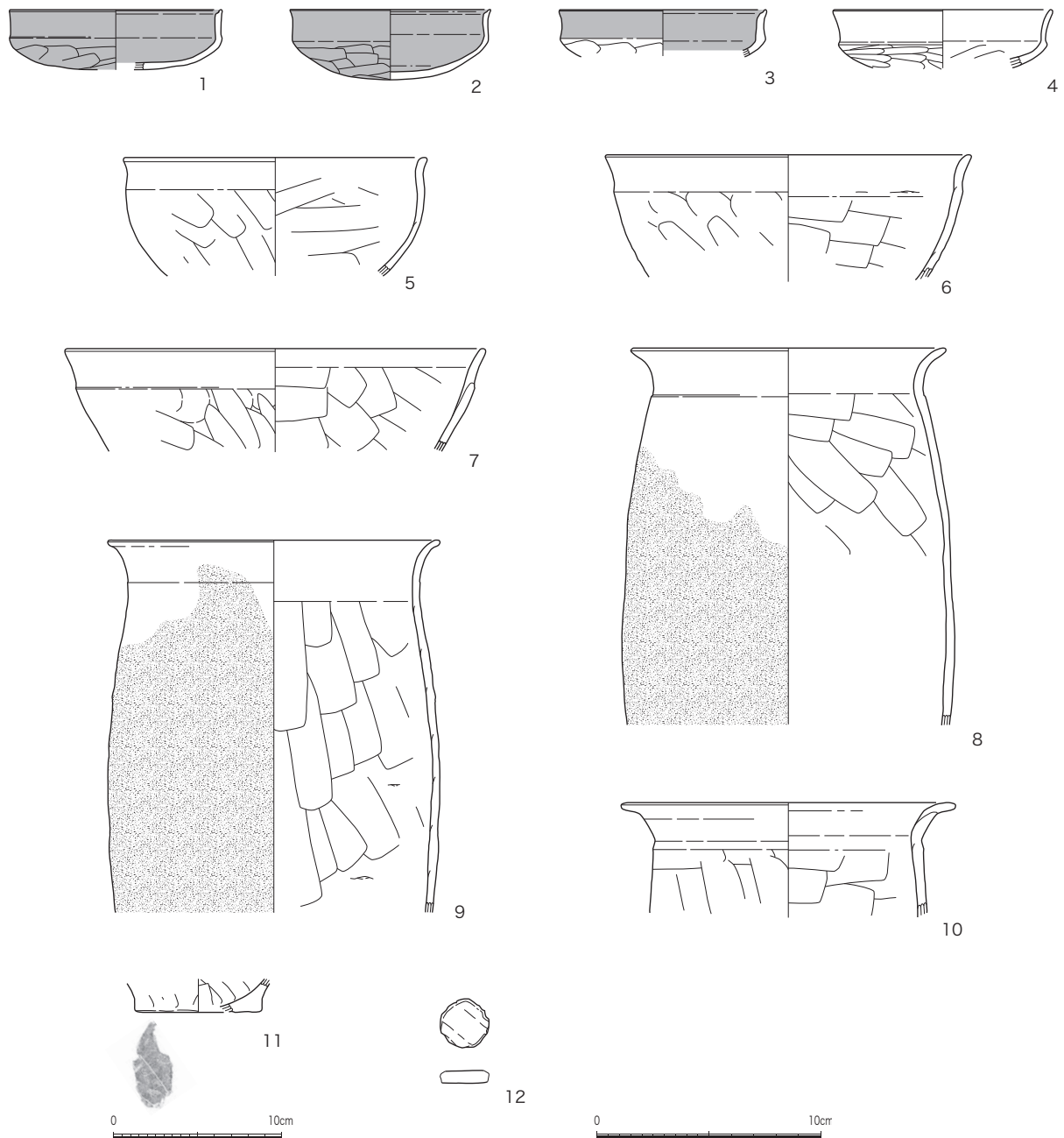
A — 12.3 m — A'



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、40% 以上) を含む黒褐色土。天井由来？
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。4層とほぼ同じ。
- 6 層 粘性中、締まり弱、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。焼土。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。

第72図 188号住居跡2 (1/60)・188号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第73図 188号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

一位置におけるカマドの造り直しが行われた可能性がある。燃焼部は壁ライン上に位置する。(柱穴) 4基の支柱穴を確認。深さ 61～71cm を測る。南コーナーに小ピット (P6) があるが、用途は不明。(貯蔵穴) 確認されなかったが、カマド左脇に存在していた可能性はある。(入口施設) 南西壁中央に位置し、深さ 14cm を測る。梯子穴 (P5) とその周囲に凸堤が巡る。(覆土) 23 層、自然堆積。北・西・南の各コーナー付近の床面直上にまとまった焼土の堆積あり。いずれも壁から流れ込む状態。

〔遺物〕カマド燃焼部上面に土師器甕の胴部破片がまとまる以外は、土師器小破片が覆土中に散在。また、南東壁の東コーナー寄りの覆土上部で 16 世紀代の土師器灯明皿が 2 点 (第 60 地点遺構外 7・8) 重なって出土している。

〔時期〕古墳時代後期 (7 世紀前葉)。

[所見] 北東壁におけるカマドの造り直しが行われた可能性がある。他の壁にカマドの痕跡はなく、壁溝もカマド部分を貫いていないことも、その傍証となるであろう。

遺物 (第73図、第25・59表)

土師器坏(1～4)、鉢(5～7)、甕(8～11)と土師器甕の胴部破片を円盤状に加工したもの(12)がある。

189号住居跡

遺構 (第74・75図)

[位置] B-4グリッド。

[住居構造] 西コーナーを526号土坑に床面下まで壊され、521・555号土坑にカマド右側を壊されている。他にも、533号土坑や複数の中世以降のピットに切られる。(平面形) 正方形。(規模) 4.44×4.08m。(主軸方向) N-38°-W。(壁高) 34～36cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅19～43cm・下幅4～16cm・深さ13～16cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 硬化面(貼床)が2面確認された。上位硬化面は入口凸堤からカマドにかけて住居の中心のみであり、この範囲外には薄くロームブロックを多く含む黄褐色土(第6層)が薄く広がる。貼床は1～3cmの厚さで施されていた。下位硬化面はタタキ床で、壁際を除いて良く硬化している。(床面レベル) 標高11.82～11.89m。(カマド) 北西壁の北コーナー寄りに位置する。長さ82cm・幅84cm・壁への掘り込み23cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築するが、削平・他遺構の壊が著しく残りが悪い。内部には土師器甕が1点横倒しの状態で出土(555号土坑で壊されている)。(柱穴) 4基の主柱穴を確認。深さ49～67cmを測る。(貯蔵穴) カマド右脇、北コーナーに位置する。平面長方形。規模は61×46cm・深さ38cmを測る。完形の甕2点が落ち込んだように出土。穴底面には接していない。覆土は住居竪穴覆土に類似。(入口施設) 南東壁中央に位置する。深さ24cmを測る。梯子穴(P5)の周囲に凸堤が巡る。(覆土) 18層、自然堆積。入口施設の直上には灰白色粘土塊が載る。梯子穴を塞ぐものではない。

[遺物] 貯蔵穴の周辺に土師器甕、貯蔵穴の手前、南東側に坏・鉢が散乱する。いずれも完形あるいはほぼ完形品で、床面直上である。

[時期] 古墳時代後期(7世紀前葉)。

[所見] 覆土に焼土の存在は顕著ではなく、焼失住居ではない。しかし、土器の出土量は多く、床面直上の完形品が特徴的である。

遺物 (第76・77図、第26表)

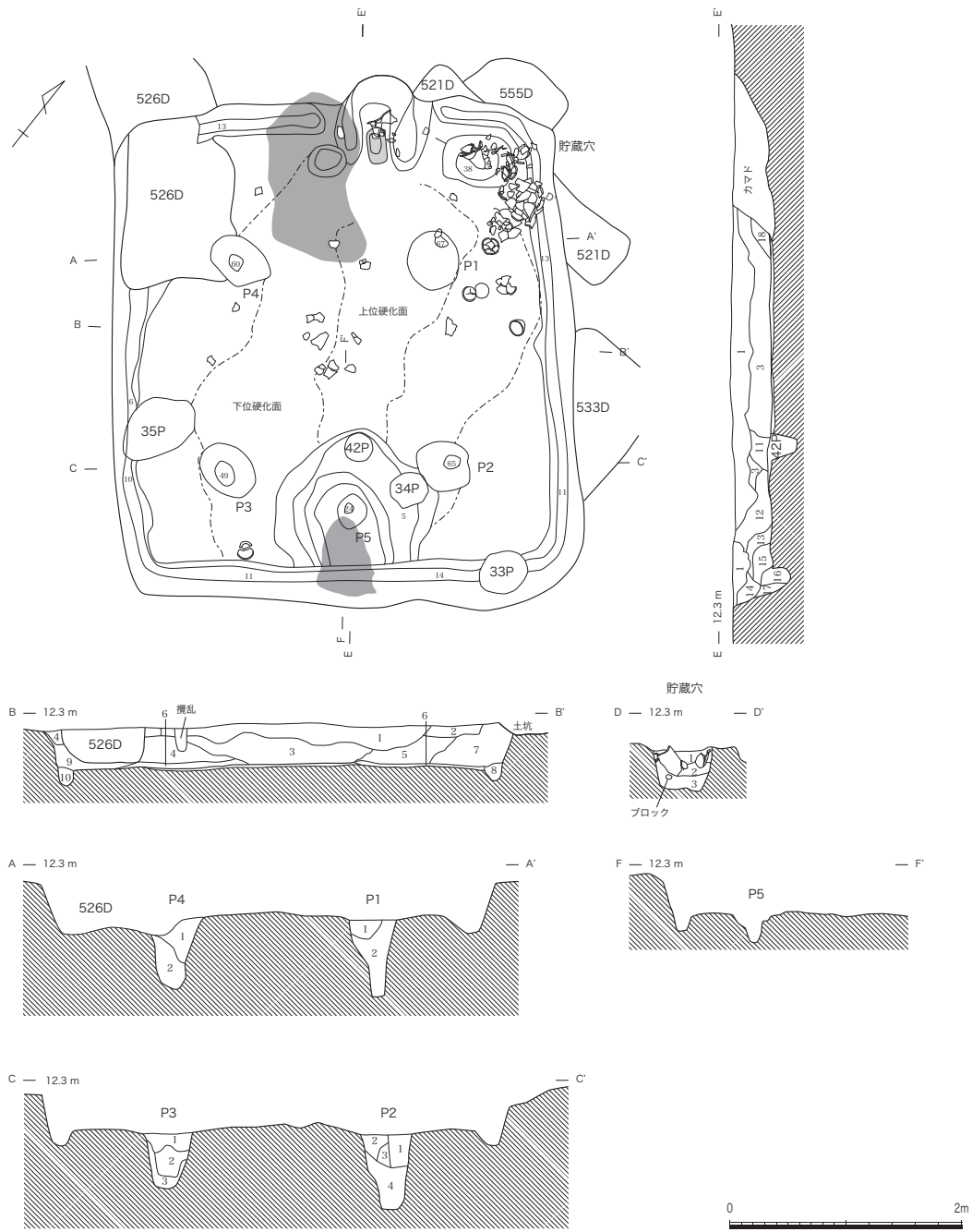
土師器坏(1～7)、鉢(8・9)、甕(10～12・16～20)、甕(13～15)を図示した。

190号住居跡

遺構 (第78・79図)

[位置] B・C-3グリッド。

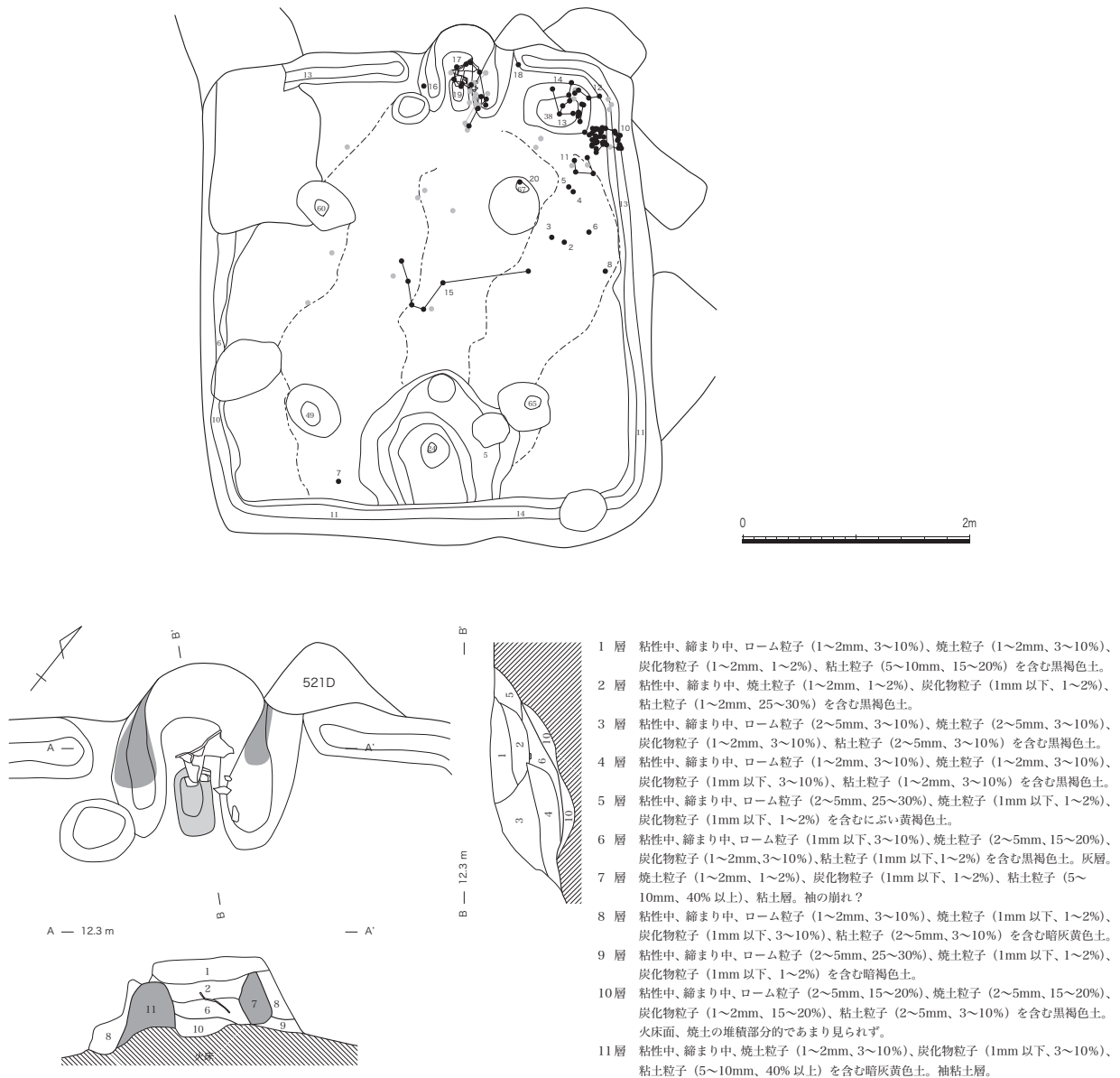
第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む灰黄褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 12 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 13 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 14 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 15 層 粘性強、締まり強、灰白色土。白色生粘土。
- 16 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 17 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。
- 18 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む黒褐色土。

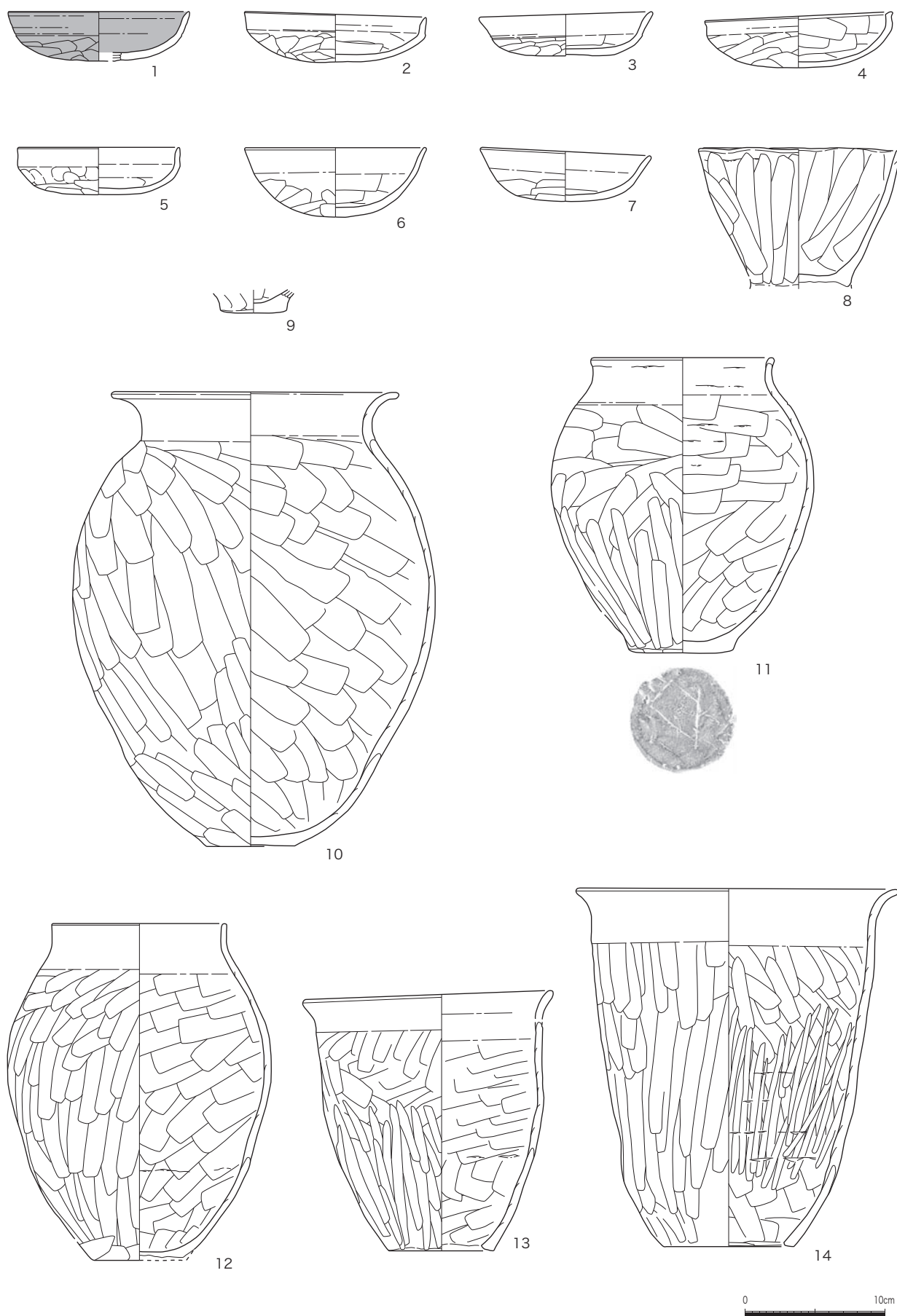
第 74 図 189 号住居跡 1 (1/60)

- P1**
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。ローム主体。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40%以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- P2**
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40%以上) を含むにぶい黄褐色土。ロームブロック。
 4層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、40%以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム主体。
- P3**
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40%以上) を含む褐色土。
 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- P4**
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、25~30%) を含む暗褐色土。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、40%以上) を含む黒褐色土。
- 貯蔵穴**
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、赤色スコリア (1mm以下、1~2%) を含む黄褐色土。ローム主体。

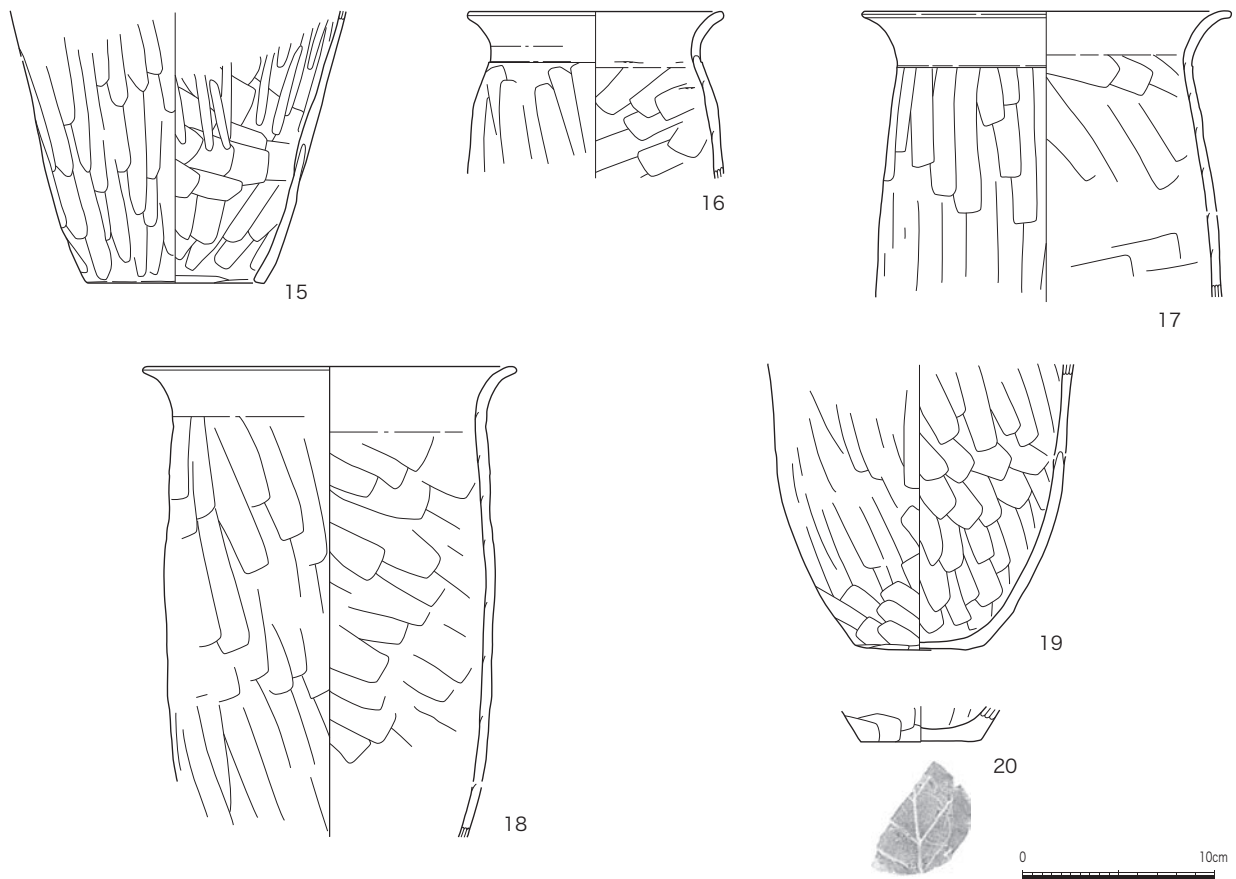


第75図 189号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第76図 189号住居跡出土遺物1 (1/4)



第77図 189号住居跡出土遺物2 (1/4)

[住居構造] 202号住居跡を切る。複数の中世以降の土坑・ピットに切られる。(平面形) 正方形。(規模) 3.77×3.70m。(主軸方向) N-28°-W。(壁高) 31～40cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅20～37cm・下幅2～14cm・深さ7～11cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 薄く貼床が施され、全体によく硬化していた。(床面レベル) 標高11.77～11.84m。(カマド) 北西壁の北コーナー寄りに位置する。長さ102cm・幅90cm・壁への掘り込み17cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。(柱穴) 本住居跡に伴う柱穴は確認されなかった。少なくとも4本支柱はないようである。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーに位置する。平面楕円形で極めて小型。覆土下半はロームブロックを多く含み、上半は住居竪穴覆土と同じ黒褐色土。(入口施設) 南東壁中央に位置する。凸堤が確認されたが、その内側は92号ピットが掘り込まれており、梯子穴は確認できなかった。(覆土) 9層、自然堆積。焼土粒・炭化物粒を少量含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] カマド周辺の床面直上に集中。カマド右脇に土師器鉢の完形品があり、甕の大破片もあるが、81号ピットに壊されている。

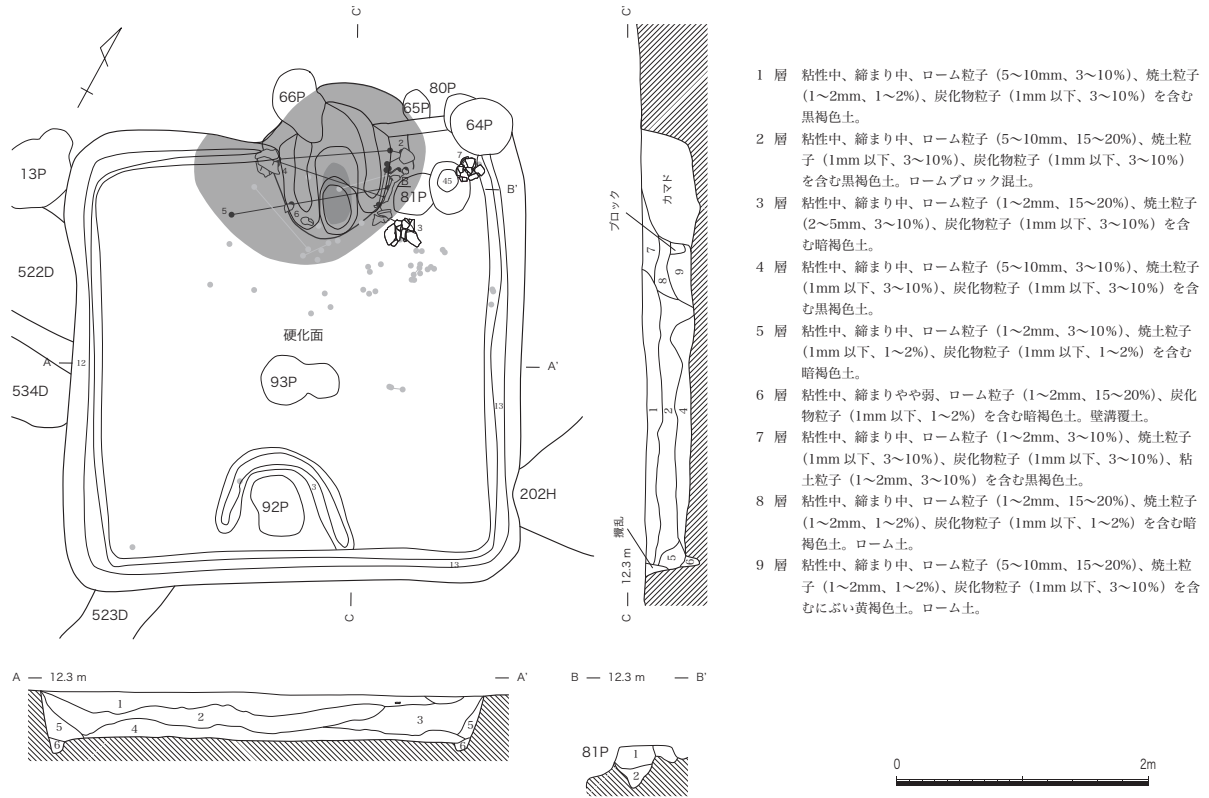
[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 無支柱穴の小型竪穴。カマド・貯蔵穴とも小型である。

遺物 (第80図、第27表)

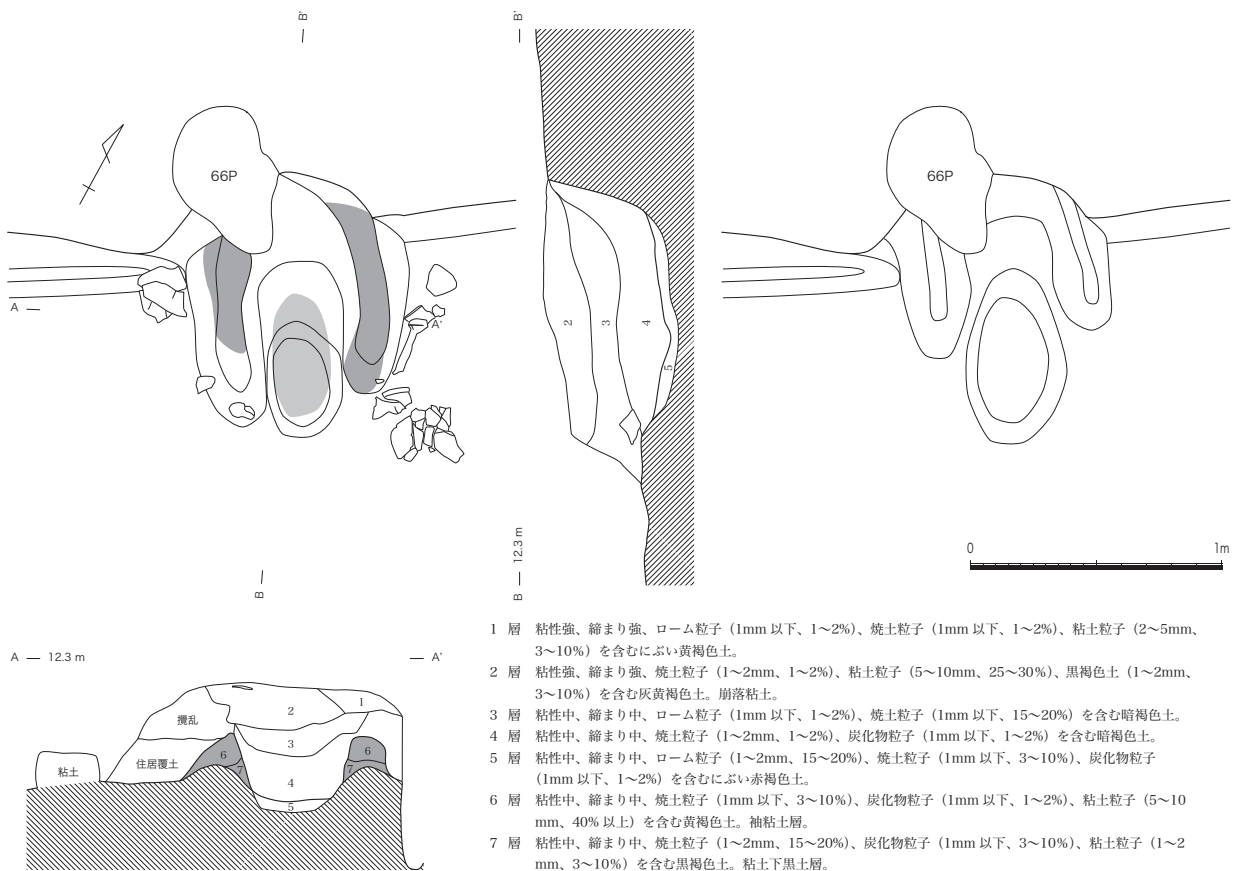
土師器坏(1)、鉢(2)、甕(3)、甕(4～7)を図示した。

第3章 検出された遺構と遺物



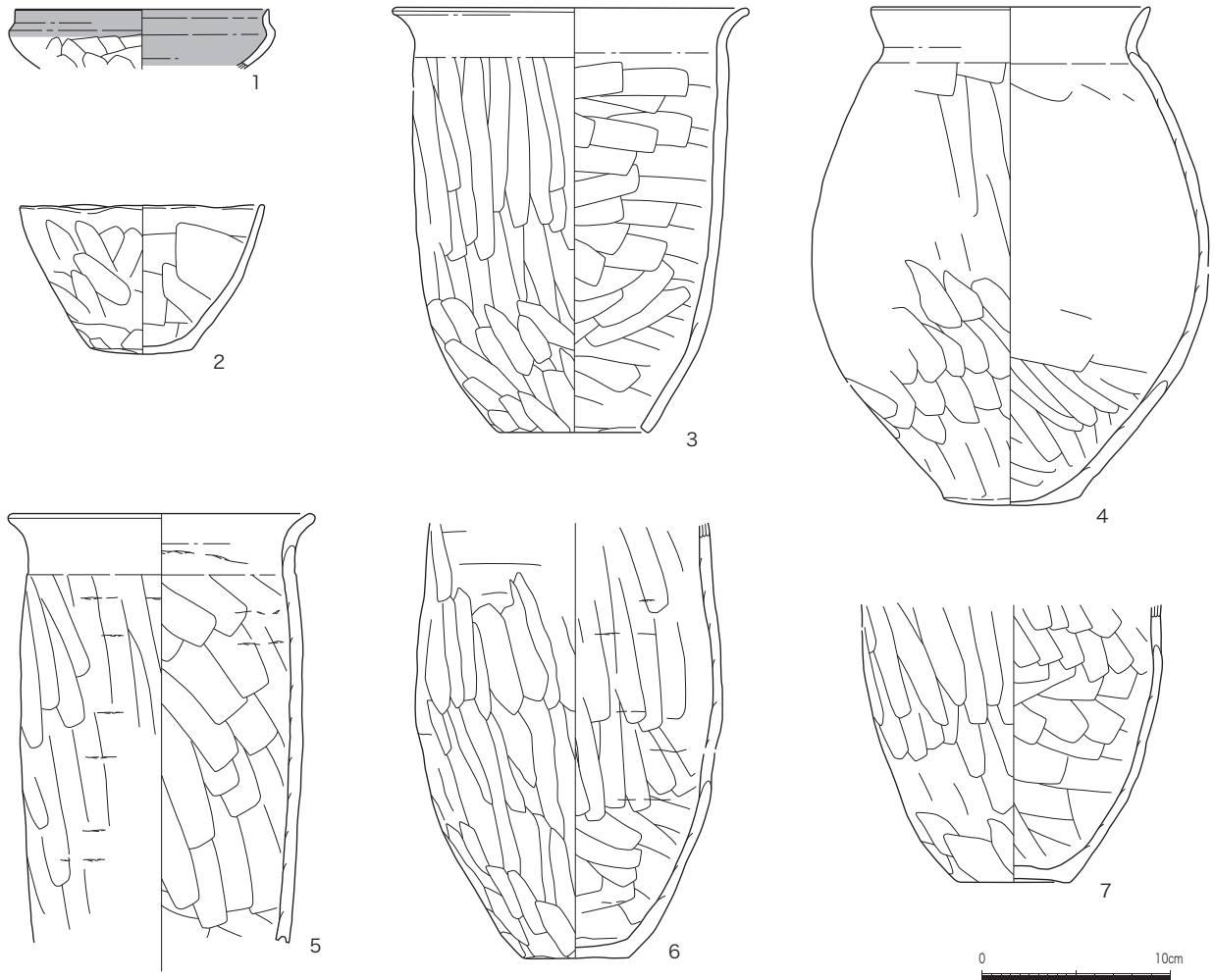
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。ロームブロック混入。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 6層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。壁溝覆土。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。ローム土。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。

第78図 190号住居跡 (1/60)



- 1層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (1mm以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。
- 2層 粘性強、締まり強、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、25~30%)、黒褐色土 (1~2mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。崩落粘土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、15~20%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含むにぶい赤褐色土。
- 6層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、40%以上) を含む黄褐色土。袖粘土層。
- 7層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。粘土下黒土層。

第79図 190号住居跡カマド (1/30)



第80図 190号住居跡出土遺物 (1/4)

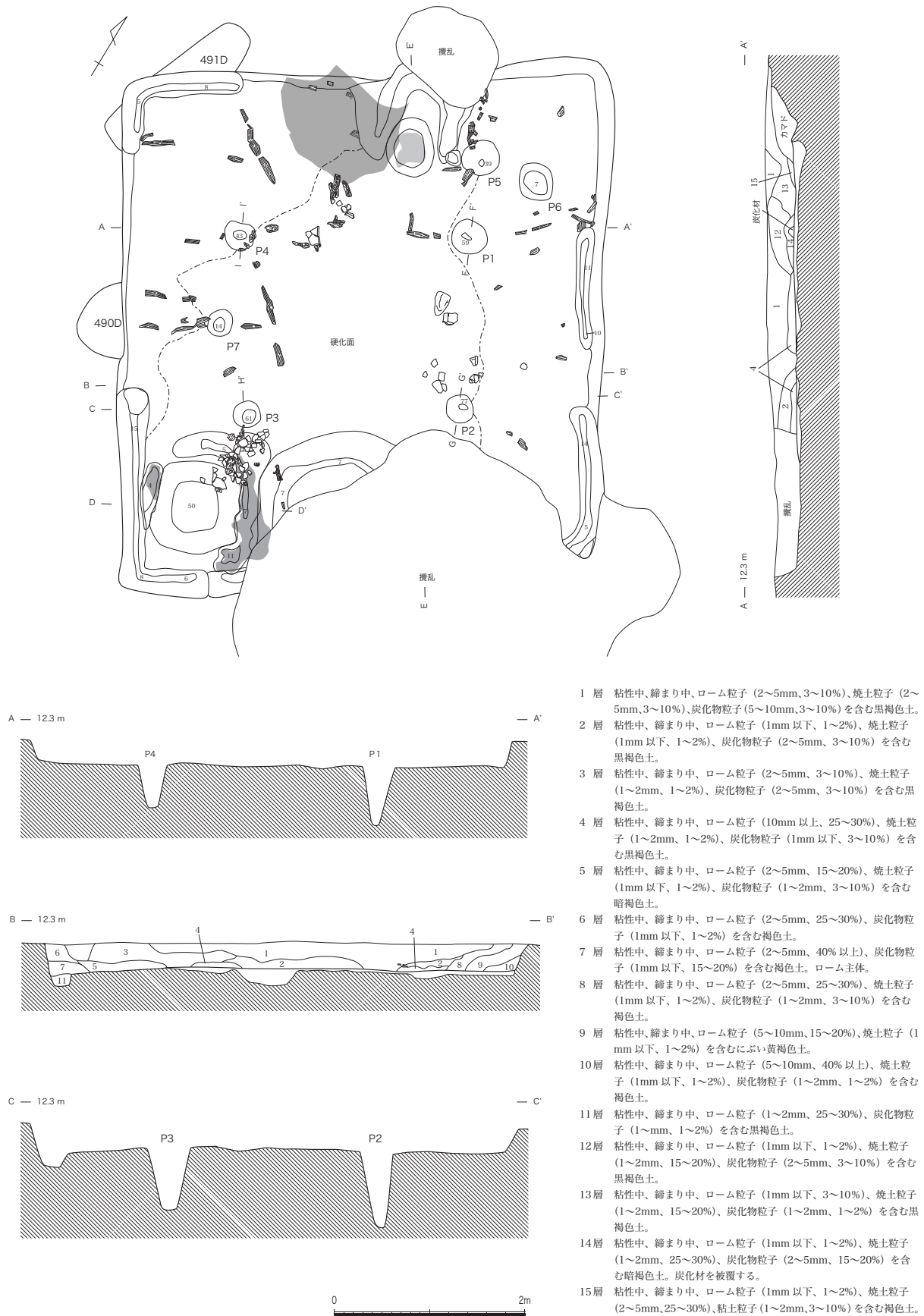
191号住居跡

遺構 (第81～83図)

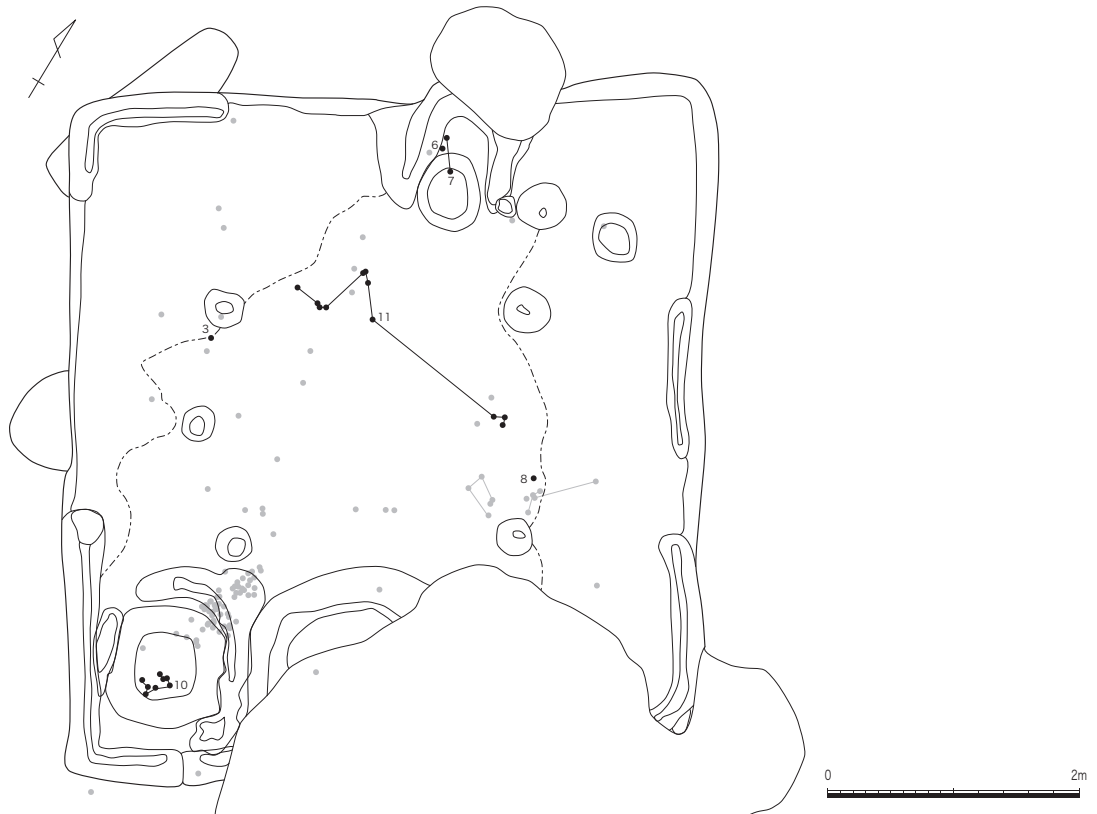
〔位置〕 B・C-1グリッド。

〔住居構造〕 東側は攪乱 (496号土坑の天井崩落) で壊されている。(平面形) 正方形。(規模) 5.64 × 5.21m。(主軸方向) N-31°-W。(壁高) 25～33cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅 22～33cm・下幅 2～9cm・深さ 4～13cmを測る。コーナーを中心に部分的に存在。全体的にはつきりしなかった。(床面) 貼床。入口・貯蔵穴からカマドにかけて中心部に硬化面を確認。(床面レベル) 標高 11.77～11.88m。(カマド) 北西壁の北コーナー寄りに位置する。長さ不明・幅 125cm。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。煙道部は攪乱により壊されていた。(柱穴) 4基の主柱穴の他に3基を確認したが、P5・6は新しい時期の掘り込みと見られる。深さ 43～77cmを測る。(貯蔵穴) 入口左脇、南コーナーに位置する。平面正方形。規模は 98×96cm・深さ 50cmを測る。周囲に凸堤が巡り、灰白色粘土が被っていた。覆土下層はロームブロックを含む傾斜堆積、上層は炭化材を含む黒褐色土である。(入口施設) 南西壁の南コーナー寄りに位置する。攪乱のため、凸堤の一部を確認したのみ。(覆土) 15層、自然堆積。全体に焼土・炭化物を多く含む。床面直上あるいは覆土中に炭化材を検出。

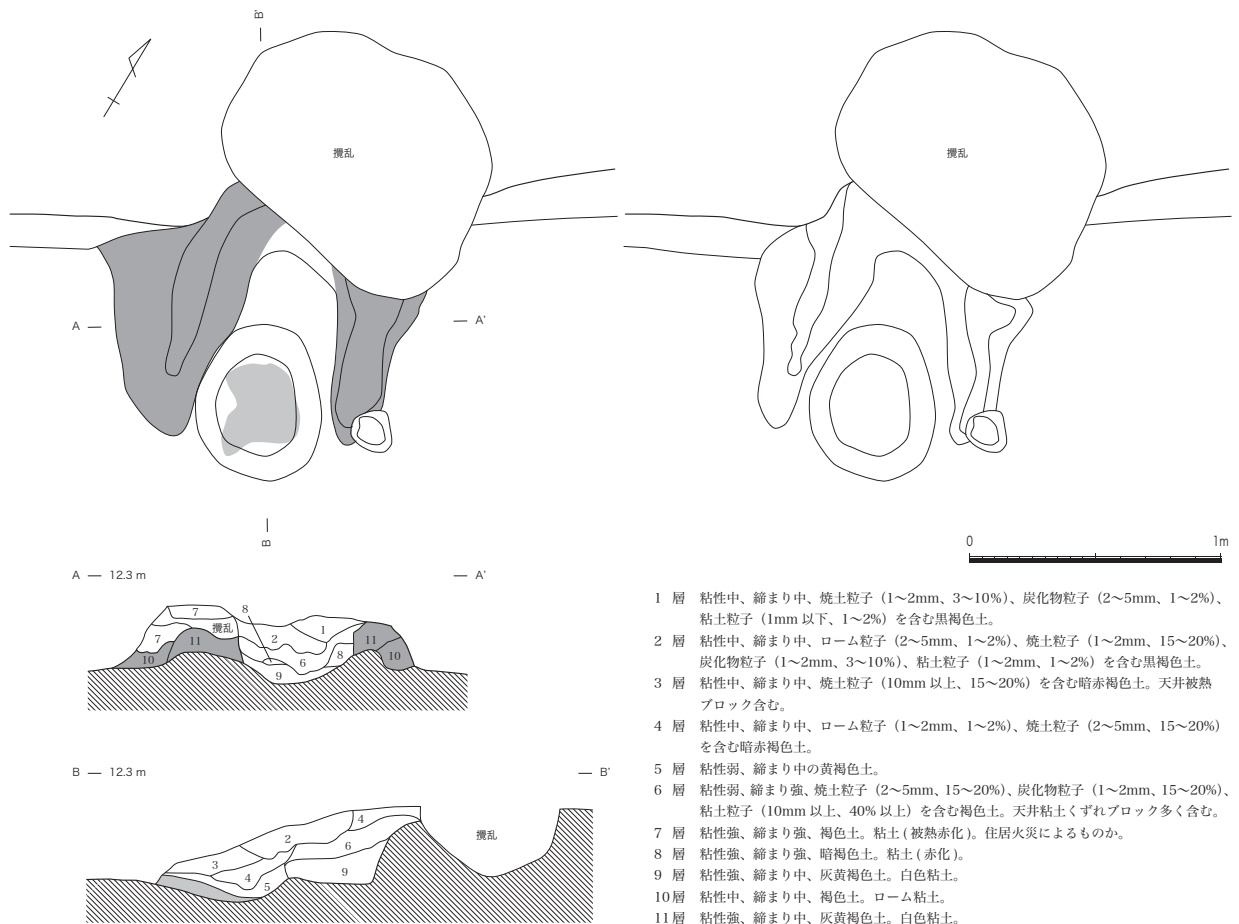
第3章 検出された遺構と遺物



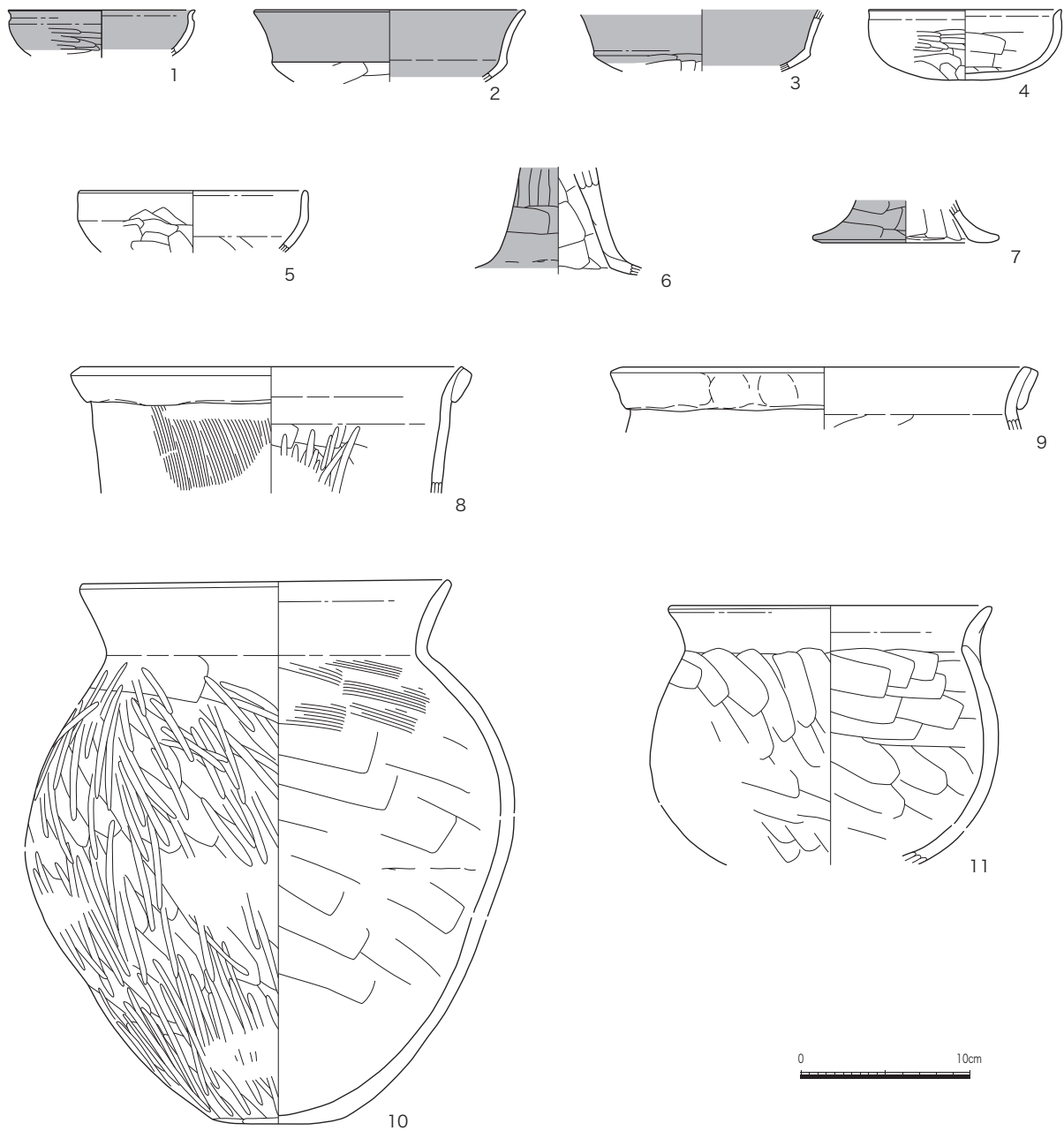
第81図 191号住居跡 (1/60)



第82図 191号住居跡遺物出土状態 (1/60)



第83図 191号住居跡カマド (1/30)



第84図 191号住居跡出土遺物(1/4)

[遺物] 貯蔵穴付近の住居竪穴覆土中に土師器甕1個体(7)があるほかは、全体に小破片が散在する状況。

[時期] 古墳時代後期(6世紀中葉)。

[所見] 多量の炭化材と焼土粒の存在から、焼失住居であることは明らか。大振りの炭化材は放射状に分布することと、直径6~7cmの丸材であることから、主に垂木材と見られる。

遺物 (第84図、第28表)

土師器坏(1~5)、高坏(6・7)、甑(8・9)、甕(10・11)を図示した。

192号住居跡

遺構 (第85・86図)

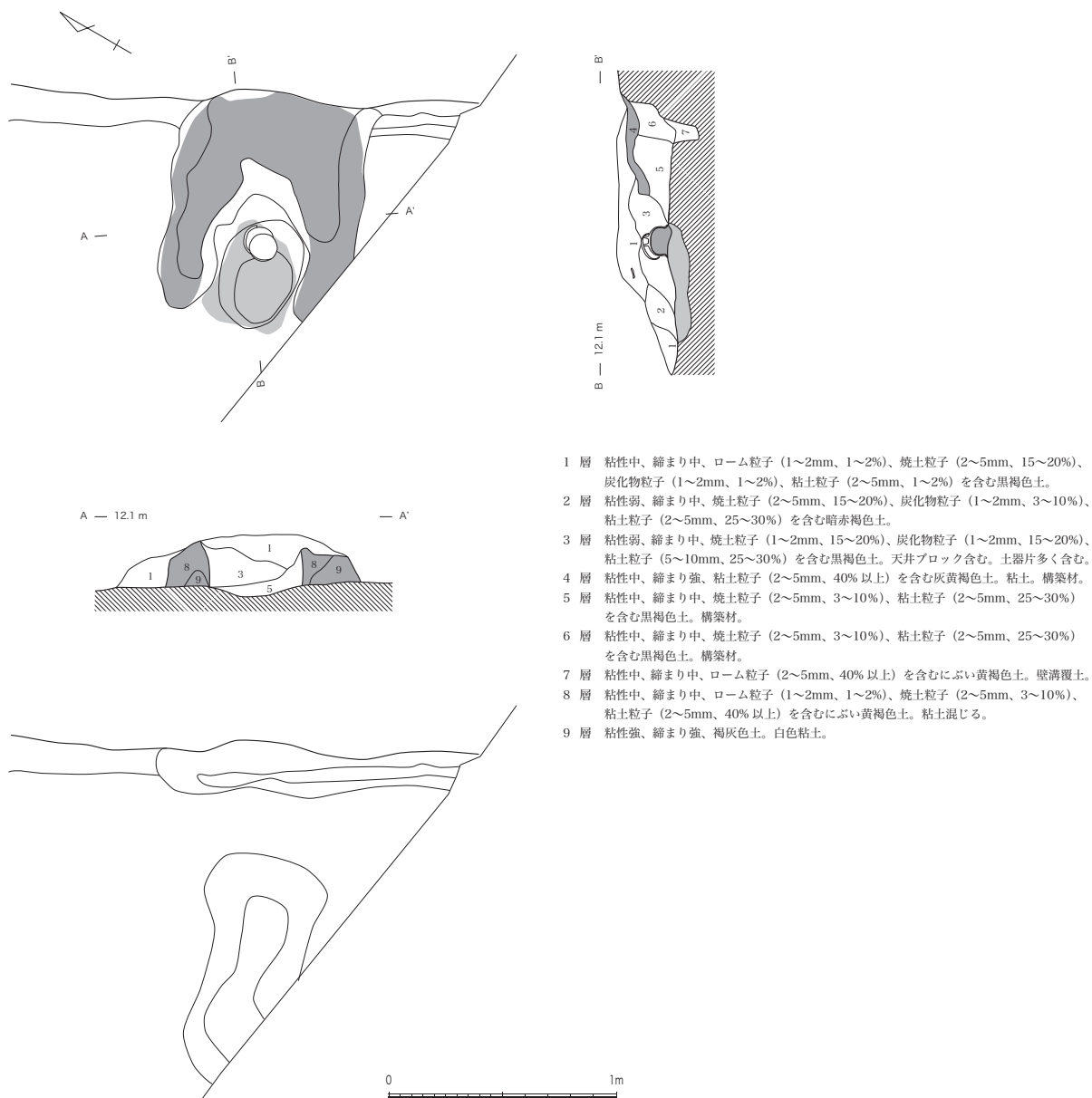
[位置] A-2グリッド。

[住居構造] 南西側3分の2は調査区域外。南東側の調査区域内に北東壁の延長が確認されなかったことから、この調査区角部分に東コーナーが存在するものと考えられる。(平面形)不明。(規模)不明。(主軸方向) N-30°-W。(壁高) 21~33cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅20~33cm・下幅4~9cm・深さ5~18cmを測る。北コーナーと北東壁中央は途切れる。(床面) 貼床は3~6cmの厚さで施されていた。北コーナー付近を除き、硬化面が確認された。また、全体的に被熱による赤化・黒化が著しい。(床面レベル) 標高11.70~11.74m。(カマド) 北東壁南東(東コーナー)寄りに位置する。長さ102cm・幅90cmを測る。壁溝を黄褐色土で埋め、両袖部は灰白色粘土を基礎として構築。燃焼部奥には土師器高坏を逆位に据え、脚部の上に坏を逆位に載せたもの検出され、支脚として転用したのと考えられる。高坏の下には灰白色粘土があり、坏部内には黒褐色土が詰まっていたので、粘土を土台に黒褐色土を載せ、高坏を固定したものと考えられる。高坏は全面に粘土が付着し、やや被熱痕跡を認めるが、著しくはない。坏は粘土の付着・被熱痕跡ともわずかに認められる。(柱穴) 9基とも覆土掘り下げ後に確認したが、支柱穴はP3と思われる。深さ70cmを測る。P8・9



第85図 192号住居跡 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第 86 図 192 号住居跡カマド (1/30)

は貼床を切るものの、カマド崩落粘土は柱穴覆土上に載る。(貯蔵穴) 未確認。東コーナーの調査区域外に存在するものと思われる。

〔覆土〕 13 層、自然堆積。焼土粒・炭化材を多量に含む。

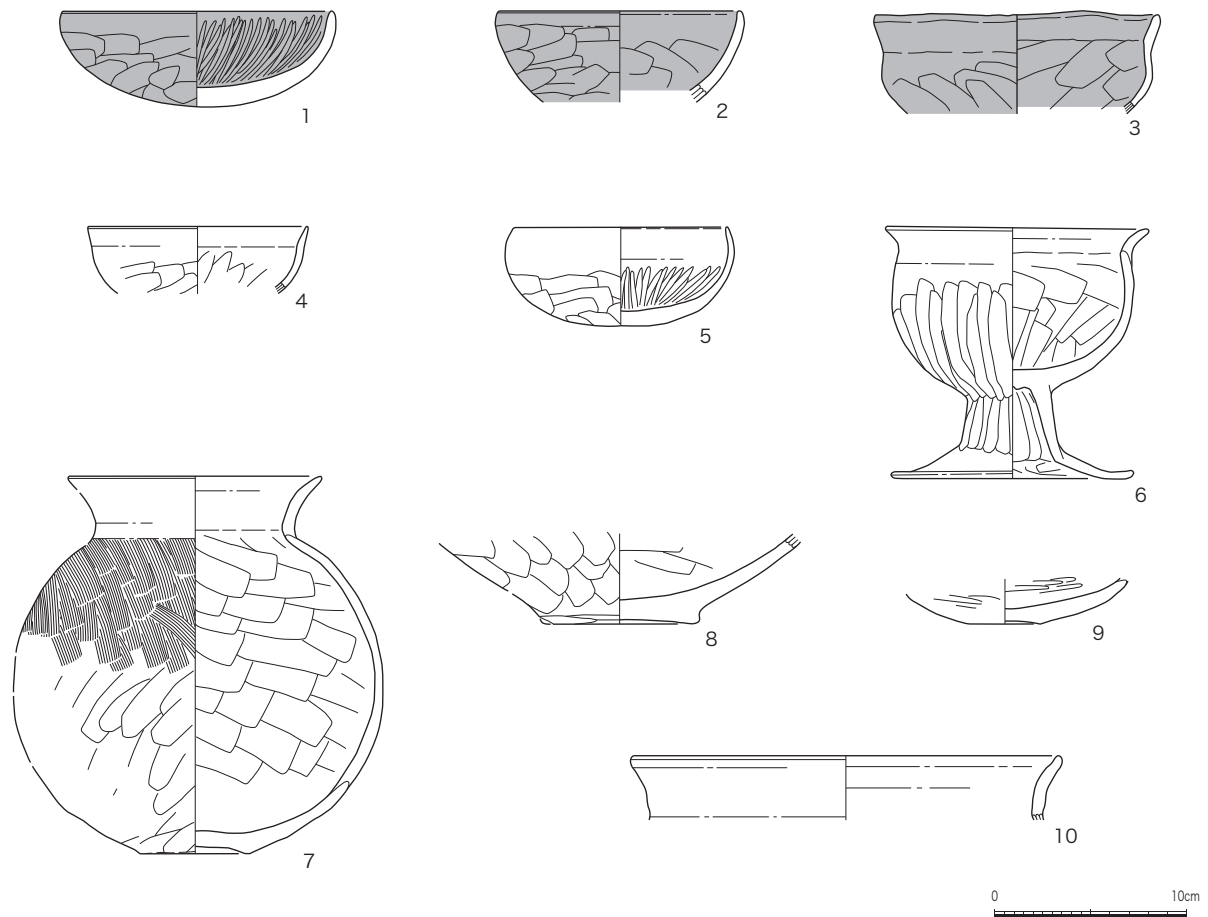
〔遺物〕 カマド左脇の覆土中で、土師器坏 (1) と壺 (7) のほぼ完形品が出土したが、他は小破片が散在する程度。

〔時期〕 古墳時代中期 (5 世紀後葉)。

〔所見〕 床面の被熱、著しい焼土粒と炭化材の存在から、焼失住居と判断できる。

遺物 (第 87 図、第 29 表)

土師器坏 (1~5)、高坏 (6)、壺 (7~9)、甕 (10) を図示した。



第87図 192号住居跡出土遺物(1/4)

193号住居跡

遺構(第88図)

[位置] B-1グリッド。

[住居構造] 北東側2分の1は調査区域外。40号溝跡が床面下まで貫き、東側は攪乱で深く削られている。197号住居跡を切る。(平面形)不明。(規模)5.75×4.83m。(主軸方向)N-48°-W。(壁高)34～38cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅15～29cm・下幅3～11cm・深さ8～15cmを測る。調査区域内では全周する(北西側は掘り下げ過ぎ)。(床面)薄く貼床が施され、中心部に硬化面を確認。貼床は3～8cmの厚さで施されていた。(床面レベル)標高11.52～11.57m。(カマド)未確認。(柱穴)支柱穴2基を確認。深さ66～72cmを測る。(貯蔵穴)未確認。(入口施設)未確認。(覆土)6層、自然堆積。第2・3層には焼土粒・炭化材・炭化物が多く含まれる。

[遺物] 南東側を中心に、覆土中で多量の土師器破片が出土しているが、完形品は壺2点のみ。

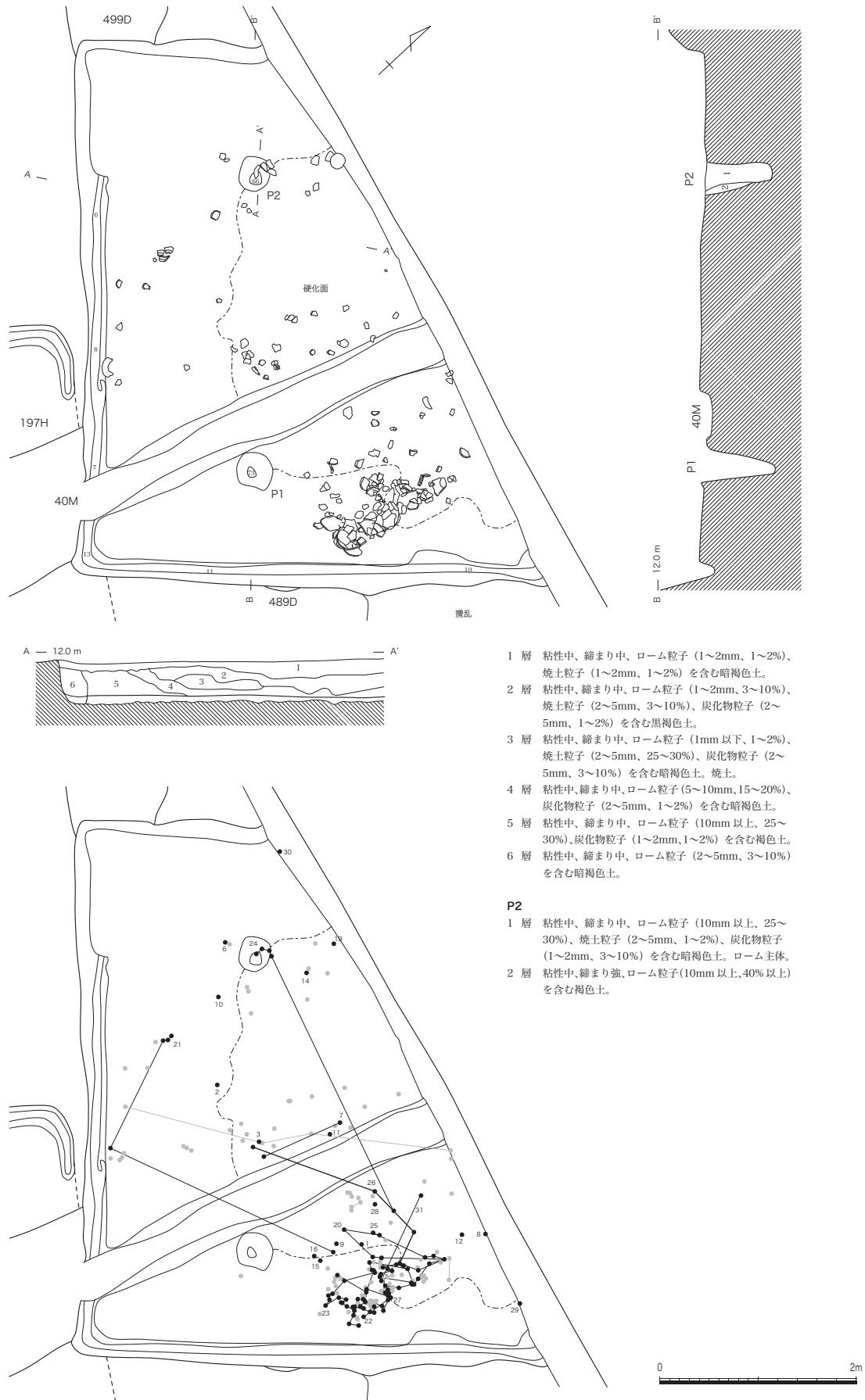
[時期] 古墳時代中期(5世紀後葉)。

[所見] 焼土・炭化材の堆積から、焼失住居と考えられる。

遺物(第89・90図、第30・59表)

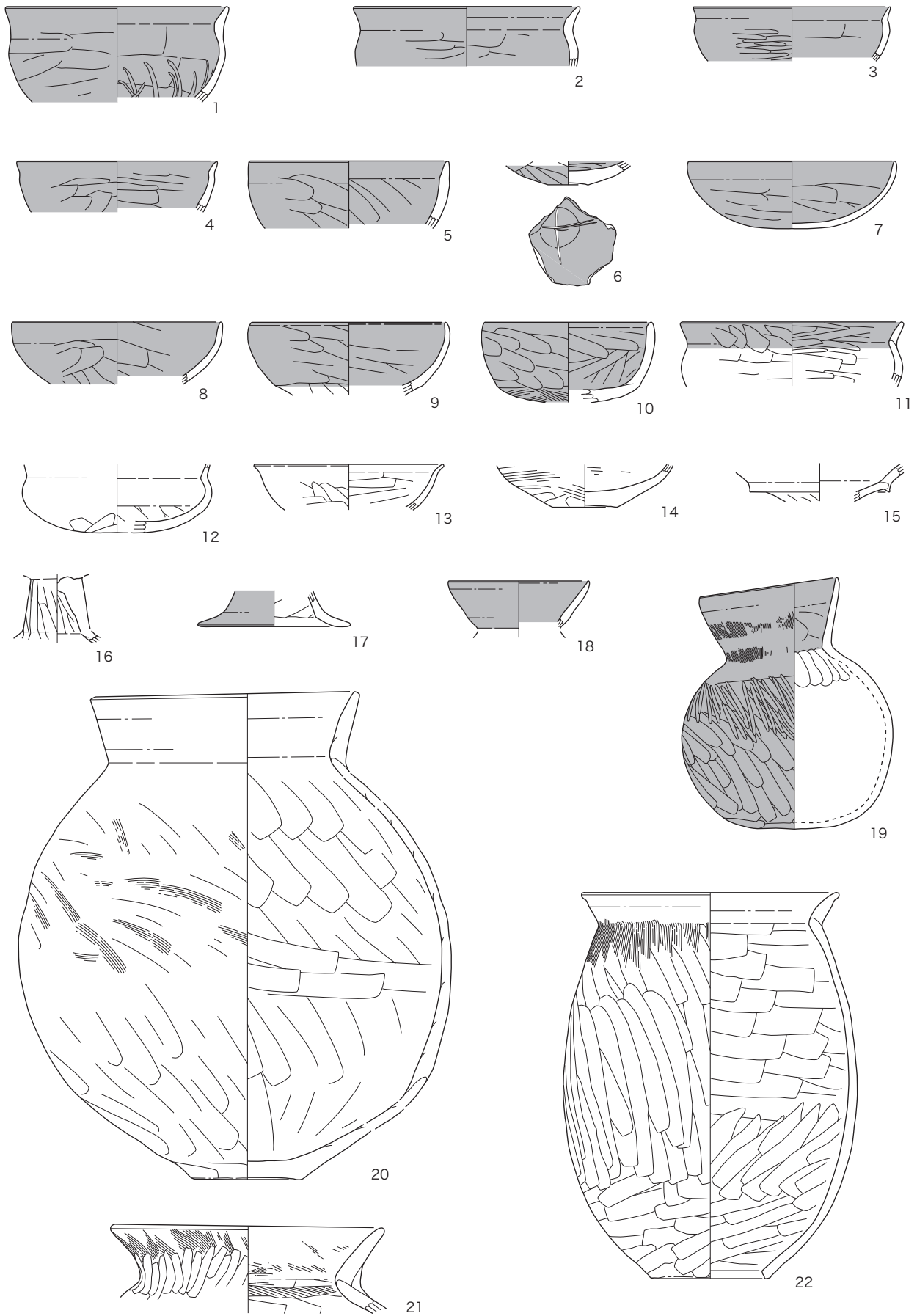
土師器坏(1～14)、高坏(15～17)、壺(18～21)、甌(22)、甕(23～28)、須恵器甕(29)、甕(30)、土製支脚(31)を図示した。

第3章 検出された遺構と遺物

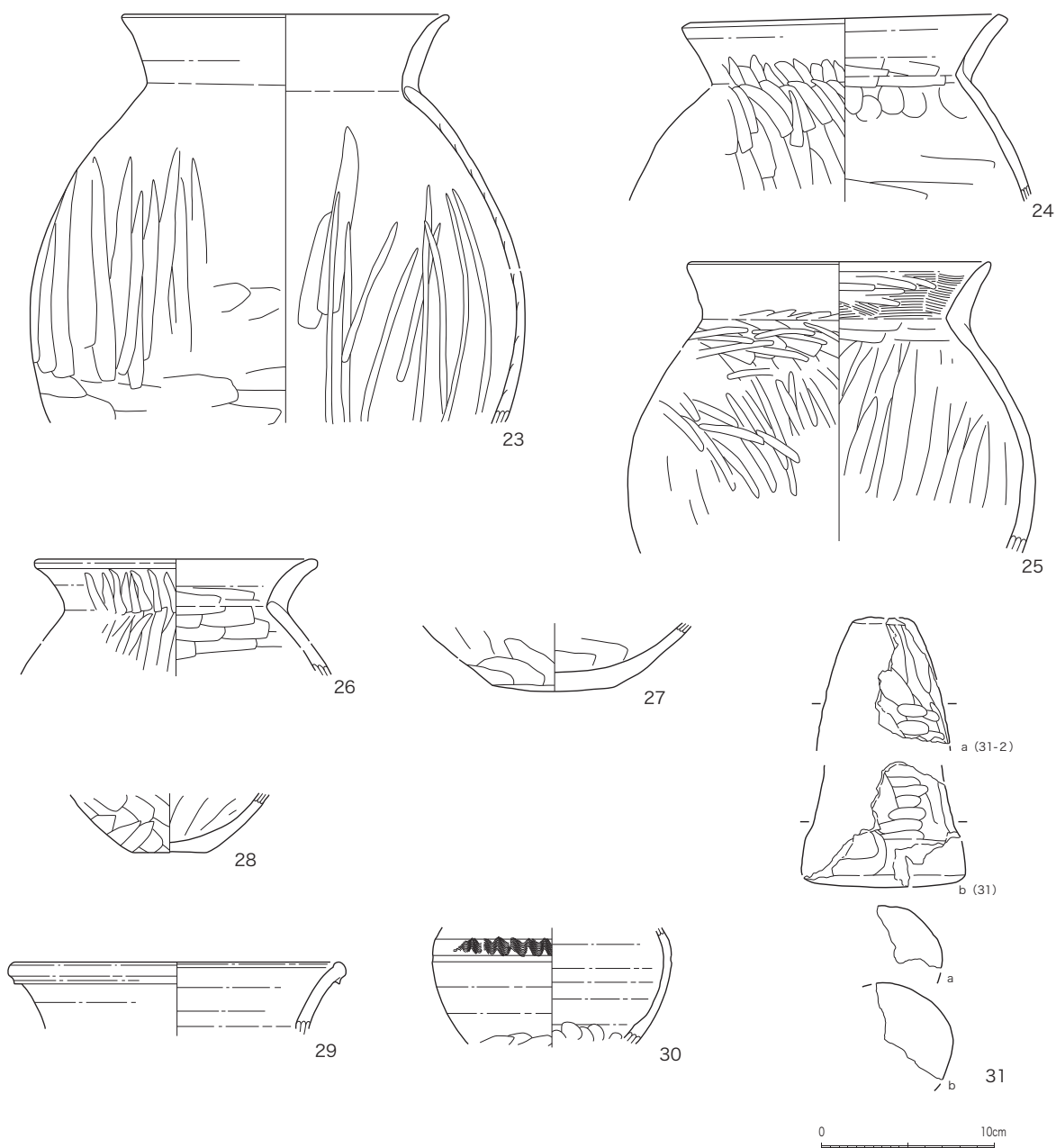


- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 - 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
 - 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。焼土。
 - 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 - 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
 - 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- P2**
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。ローム主体。
 - 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。

第 88 図 193 号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第 89 図 193 号住居跡出土遺物 1 (1/4)



第90図 193号住居跡出土遺物2 (1/4)

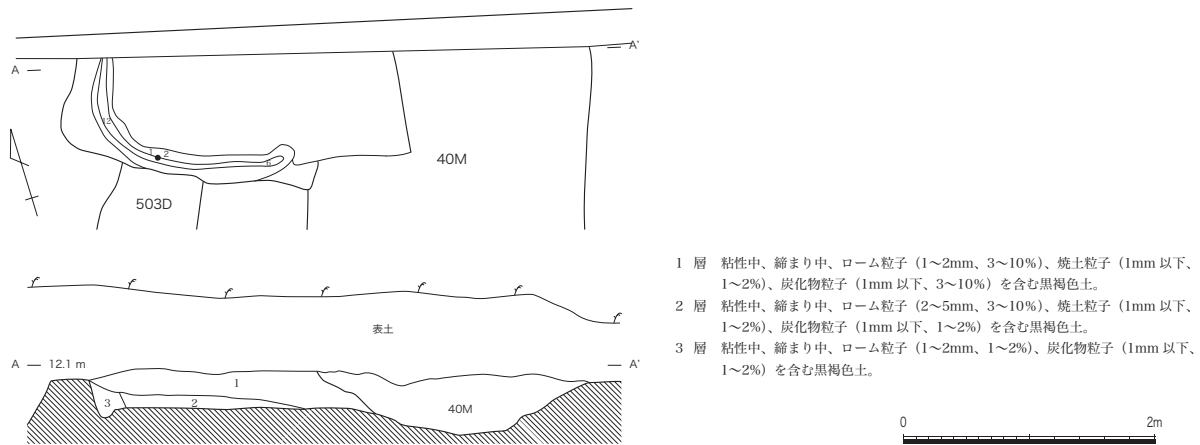
194号住居跡

遺構 (第91図)

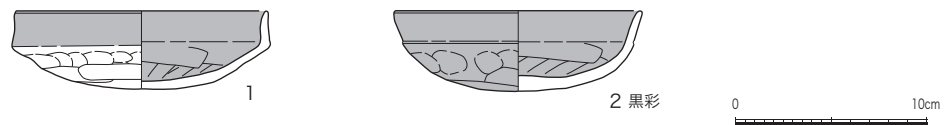
[位置] C-1グリッド。

[住居構造] 南西コーナー付近のみを確認。北側大半は調査区域外。40号溝跡に切られる。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-21°-E。(壁高) 残りの良いところで22cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅14~18cm・下幅3~7cm・深さ7cmを測る。調査区域内では確認された。(床面) 調査区域内では貼床・硬化面は確認されなかった。(床面レベル) 標高11.75~11.80m。(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 3層、自然堆積。

[遺物] 南西壁際の覆土中から、完形の土師器坏が重なった状態で出土。



第 91 図 194 号住居跡 (1/60)



第 92 図 194 号住居跡出土遺物 (1/4)

〔時期〕 古墳時代後期 (6 世紀中葉)。

遺物 (第 92 図、第 31 表)

土師器坏 (1・2) を図示した。

196 号住居跡

遺構 (第 93・94 図)

〔位置〕 C・D-1 グリッド。

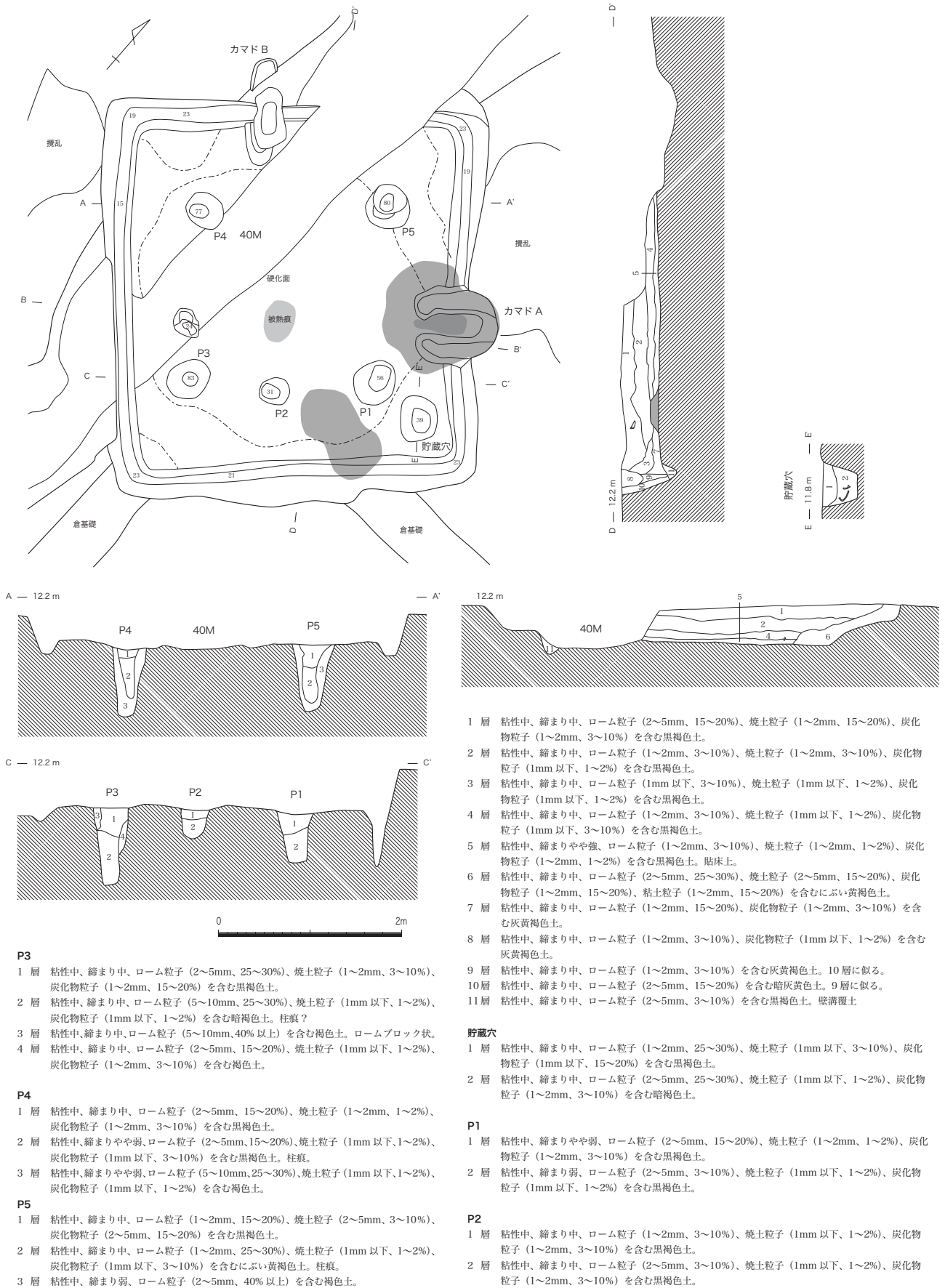
〔住居構造〕 西側半分を 40 号溝に大きく壊されている。(平面形) 正方形。(規模) 4.44×4.23m。(主軸方向) N-38°-W。(壁高) 25~43cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅 24~36cm・下幅 6~17cm・深さ 5~14cm を測る。全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。中心部と壁際はコーナー部分に硬化面を確認。中央やや南東寄りに被熱痕跡を確認。炉の可能性あるか。(床面レベル) 標高 11.72~11.78m。

(カマド) 北東壁と北西壁の 2 基確認。〈カマド A〉長さ 90cm・幅 94cm・壁への掘り込み 34cm を測る。〈カマド B〉長さ・幅不明・壁への掘り込み 43cm を測る。

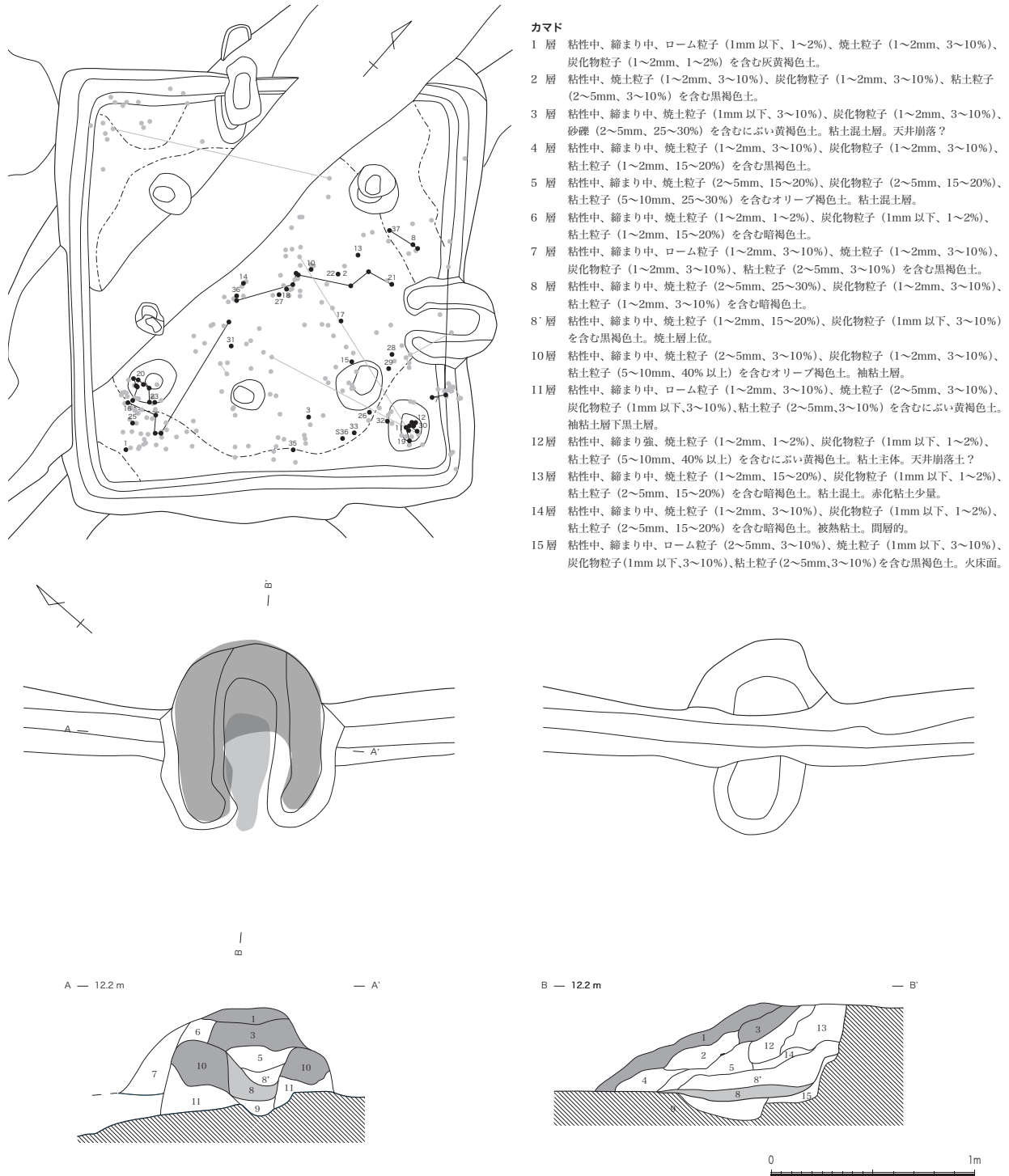
(柱穴) 4 基の支柱穴の他に、2 基の柱穴を確認。深さ 56~83cm を測る。(貯蔵穴) 東コーナーに位置する。平面隅丸長方形。規模は 52×40cm・深さ 39cm を測る。底面に土師器甕の胴下半部~底部が落ち込んでいた。(入口施設) 南東壁寄りの P2 は梯子穴の可能性はあるが、他に入口施設は確認されなかった。(覆土) 11 層、自然堆積。南東壁際の床面直上に灰白色粘土塊を検出。

〔遺物〕 覆土中にやや大振りの破片も含め、土師器破片が多量に出土。土製支脚 3 点も覆土中位から検出されたもの。また、南側覆土中から鉄刀子が出土。

第3章 検出された遺構と遺物



第 93 図 196 号住居跡 (1/60)



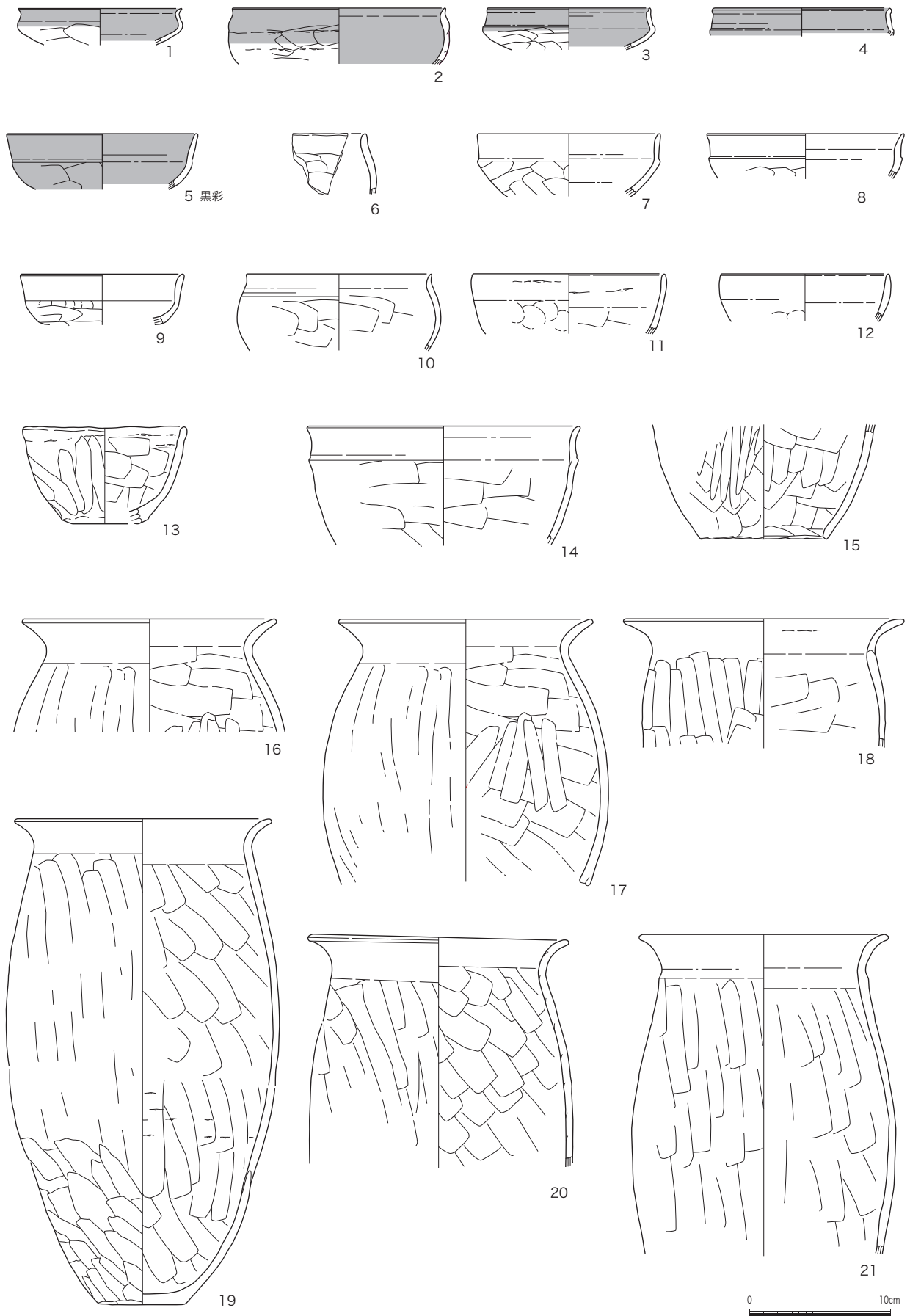
第94図 196号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)

[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

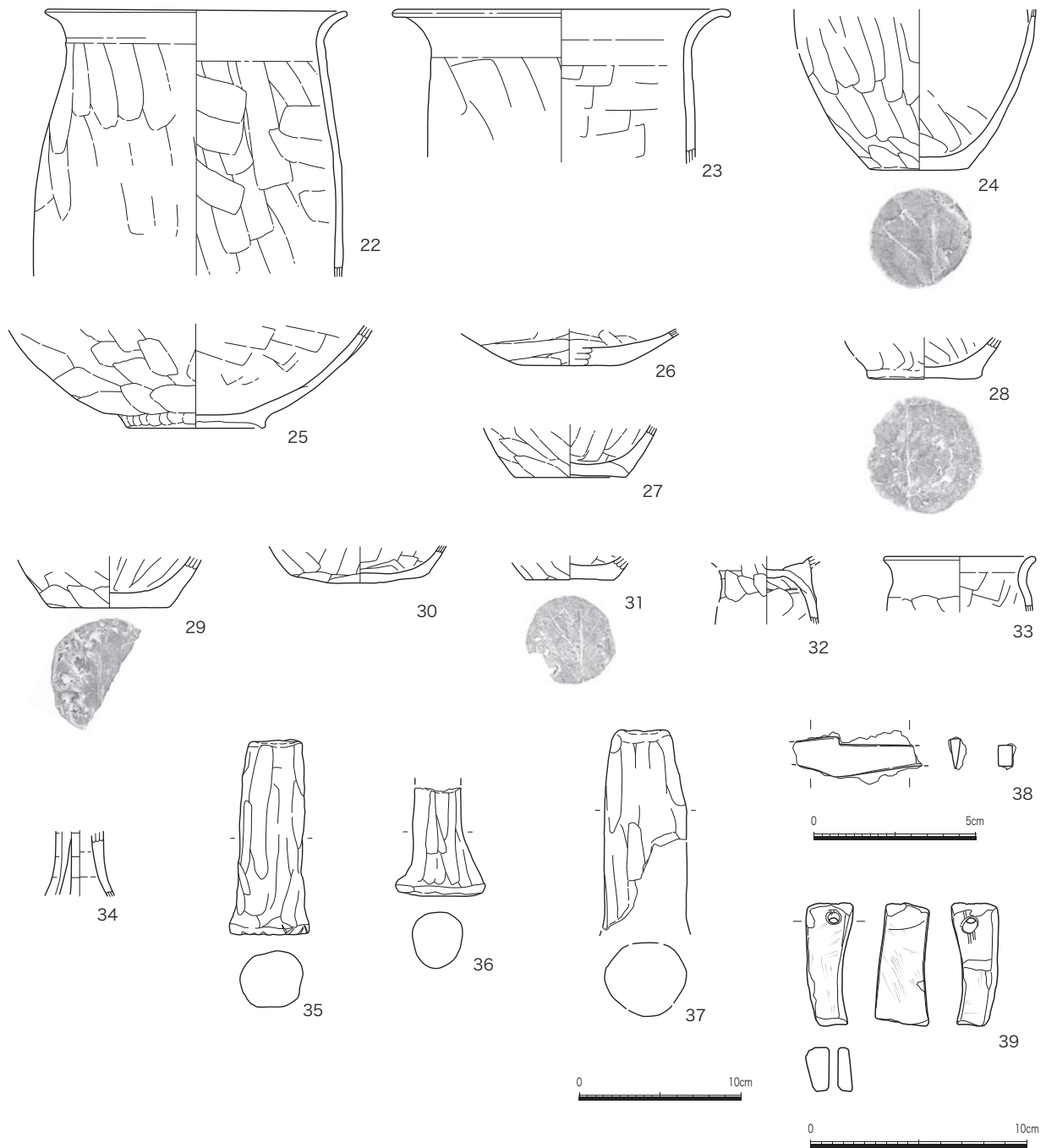
[所見] 遺物量の割に、床面直上のものはほとんどなく、中央の被熱痕跡も使用を推定する有意な状況は看取されなかった。

遺物 (第95・96図、第32・59・61・63表)

土師器坏 (1~13)、鉢 (14)、甗 (15)、甕 (16~32)、ミニチュア甕 (33)、須恵器高坏 (34)、土製支脚 (35~37)、鉄刀子 (38)、有孔砥石 (39) を図示した。



第95図 196号住居跡出土遺物1 (1/4)



第96図 196号住居跡出土遺物2 (1/2・1/3・1/4)

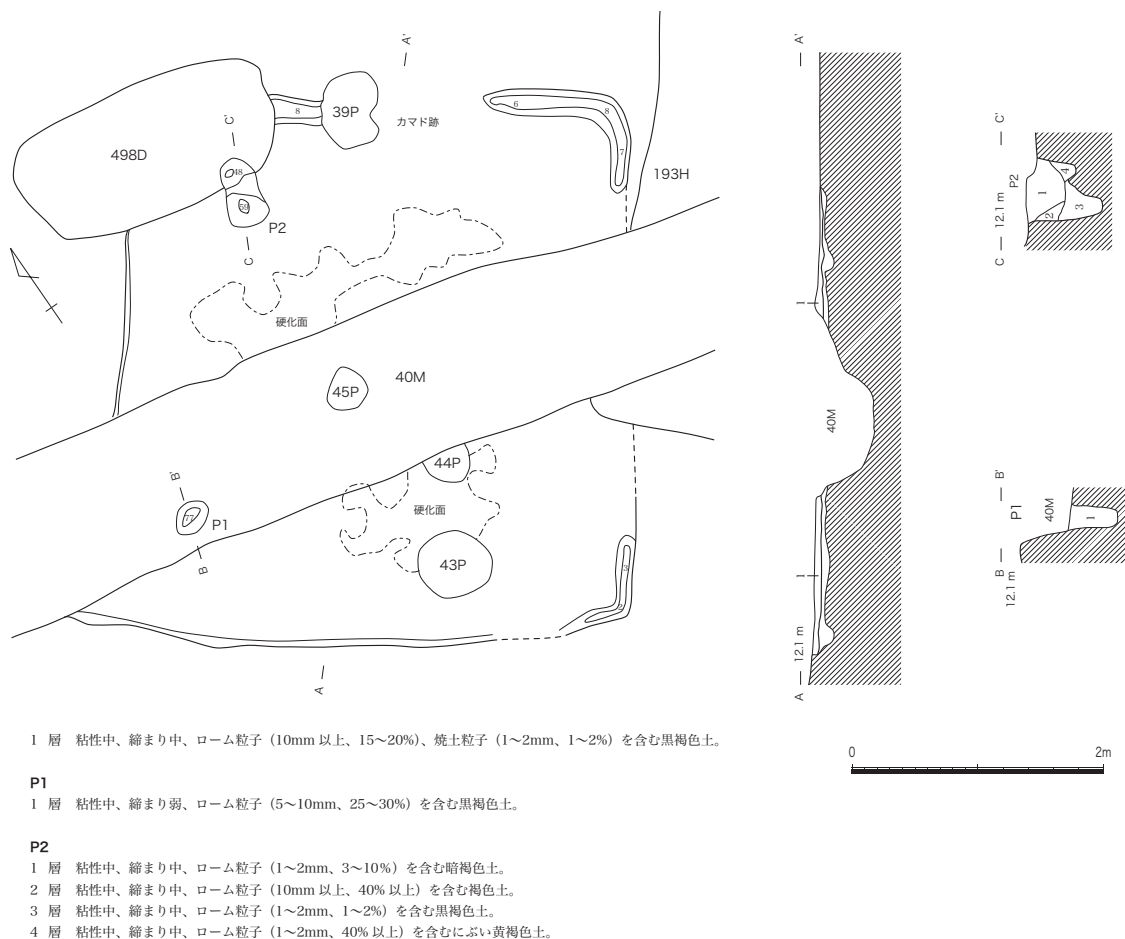
197号住居跡

遺構 (第97図)

[位置] B-1グリッド。

[住居構造] 確認時に床面のほとんどが露出。中央を40号溝跡に、北コーナーは498号土坑に切られる。また、隣接する193号住居跡に切られる。(平面形) 正方形。(規模) 4.45×4.51m。(主軸方向) N-32°-E。(壁高) 残りの良いところで6cmを測る。壁はほぼ垂直に立ち上がるか。(壁溝) 上幅13~21cm・下幅5~11cmを測る。北東壁のカマドを除く部分と南コーナーで確認。(床面) 貼床は薄

第3章 検出された遺構と遺物



第 97 図 197 住居跡 (1/60)



第 98 図 197 号住居跡出土遺物 (1/4)

く、1~7cmの厚さで施されている。中央部に硬化面を確認。(床面レベル)標高 11.81~11.96m。(カマド)北東壁中央に位置する。燃焼部の被熱痕跡がわずかに認められたのみ。(柱穴)北西側に2基確認。深さは59~77cm。配置、掘方ともに支柱穴に見合うが、南東側には確認できなかった。(貯蔵穴)確認されなかった。(入口施設)確認されなかった。(覆土)1層のみ残存。

[遺物] 土師器小破片がわずかに出土。

[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

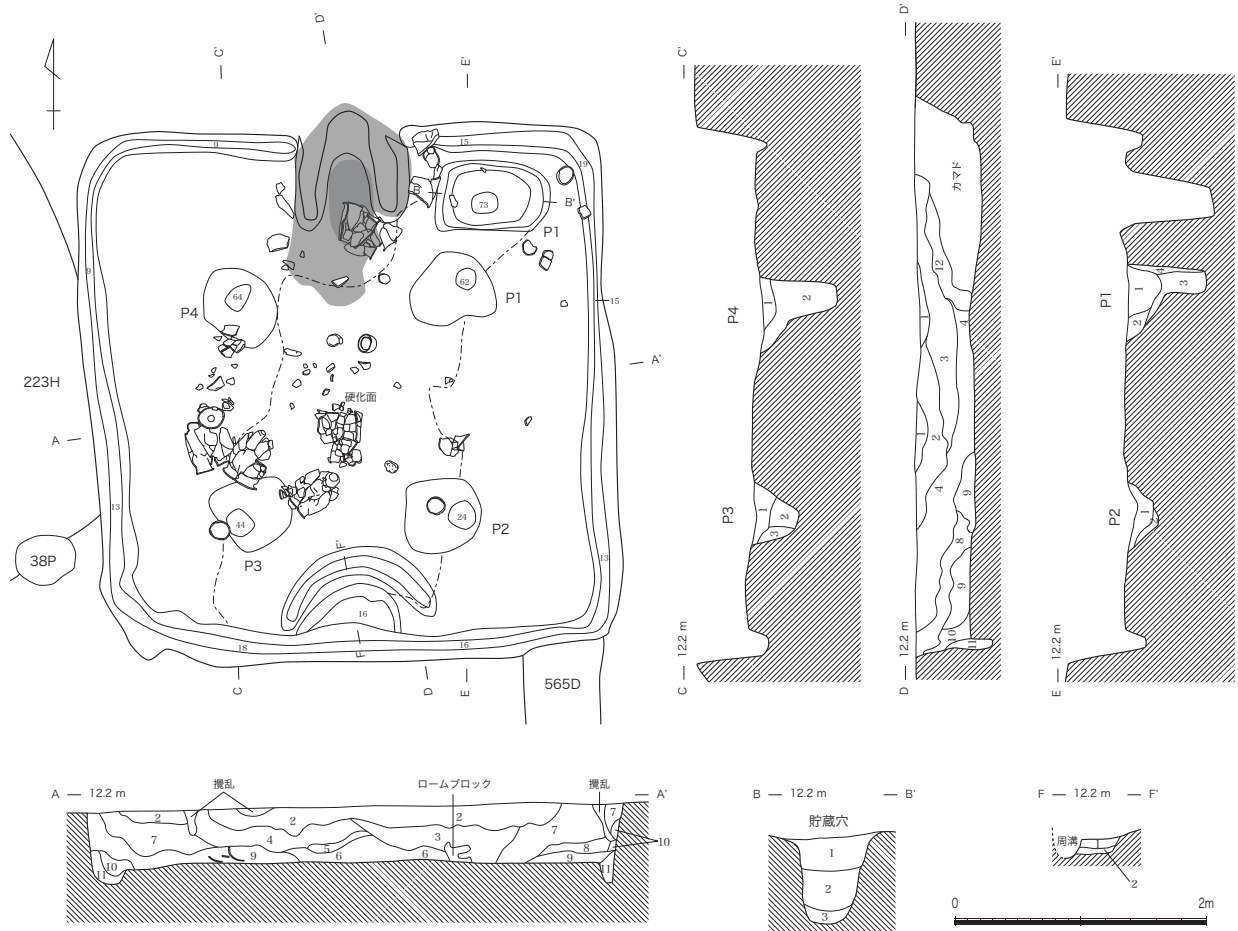
[所見] 床面レベルが高く、遺存状態がわるいために、構造的に不明瞭な部分が多い。

遺物 (第98図、第33表)

土師器坏 (1) のみ図示し得た。

200号住居跡

遺構 (第99・100図)

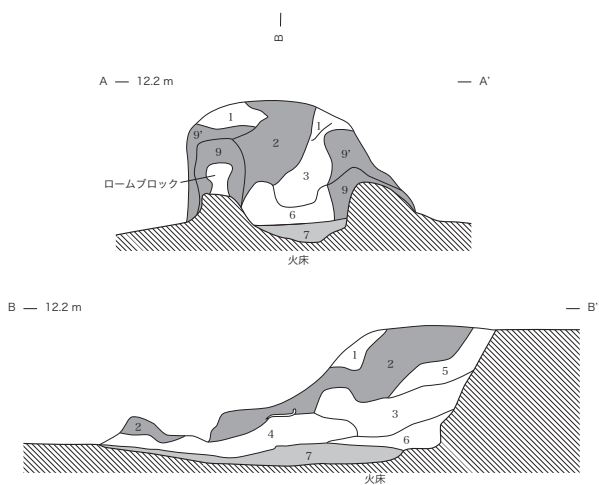
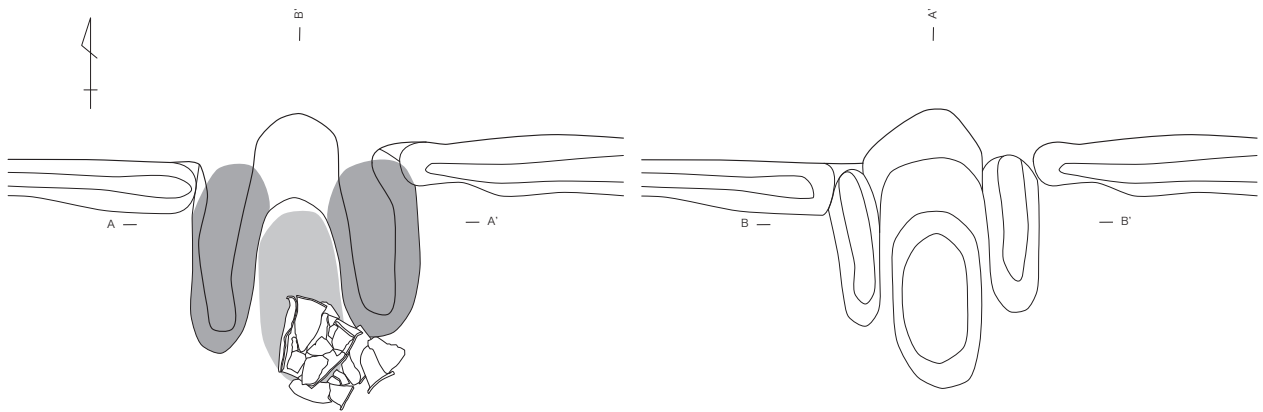
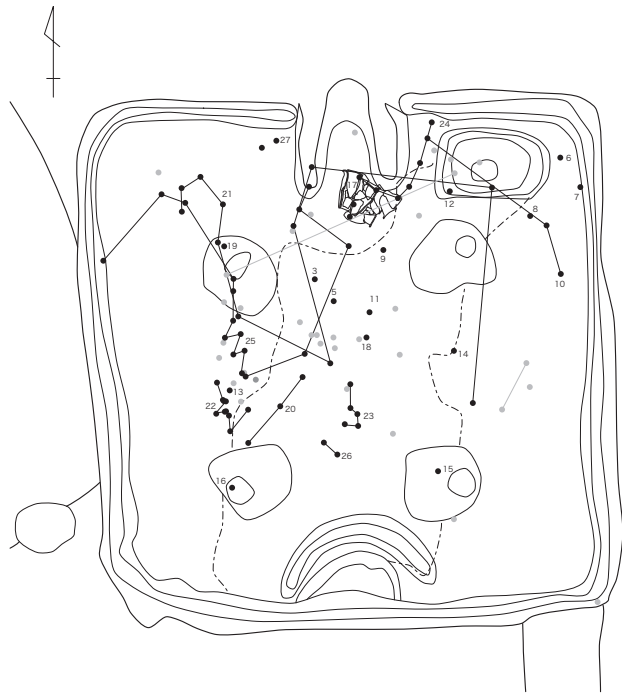


- 1 層 粘性中、締りやや弱、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。6 よりややローム粒多。
- 6 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 10 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 11 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む灰黄褐色土。壁溝覆土。
- 12 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、砂礫 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。カマド手前。

- P1**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 - 3 層 粘性中、締り弱、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐色土。柱痕。
 - 4 層 粘性中、締りやや弱、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む暗褐色土。
- P2**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む暗褐色土。
- P3**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。柱痕からややズレ。
 - 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黄褐色土。
 - 3 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黄褐色土。
- P4**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締り弱、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上) を含む黄褐色土。柱痕。
- 貯蔵穴**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 - 3 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 入口ピット**
- 1 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締り中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。

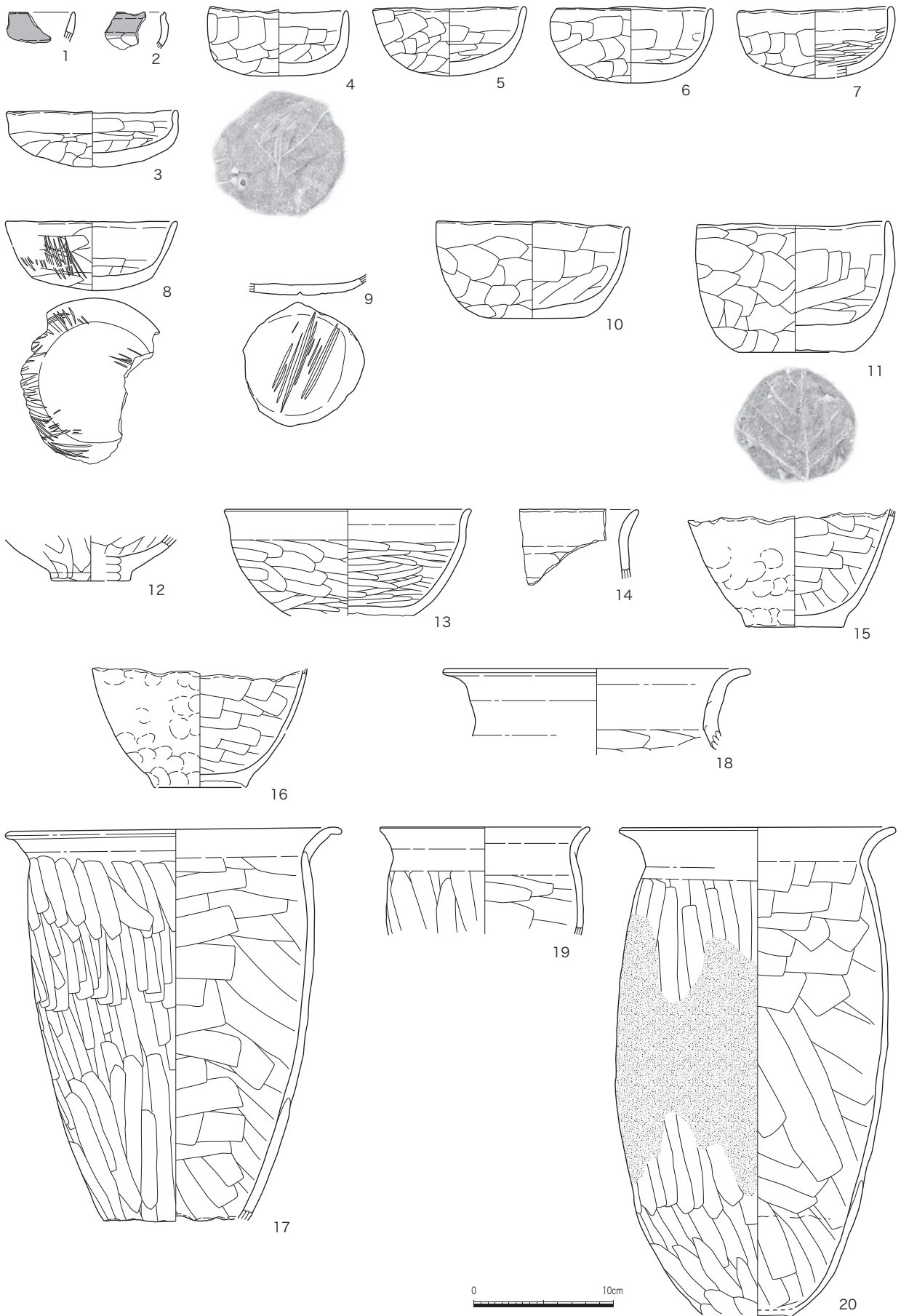
第 99 図 200 号住居跡 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

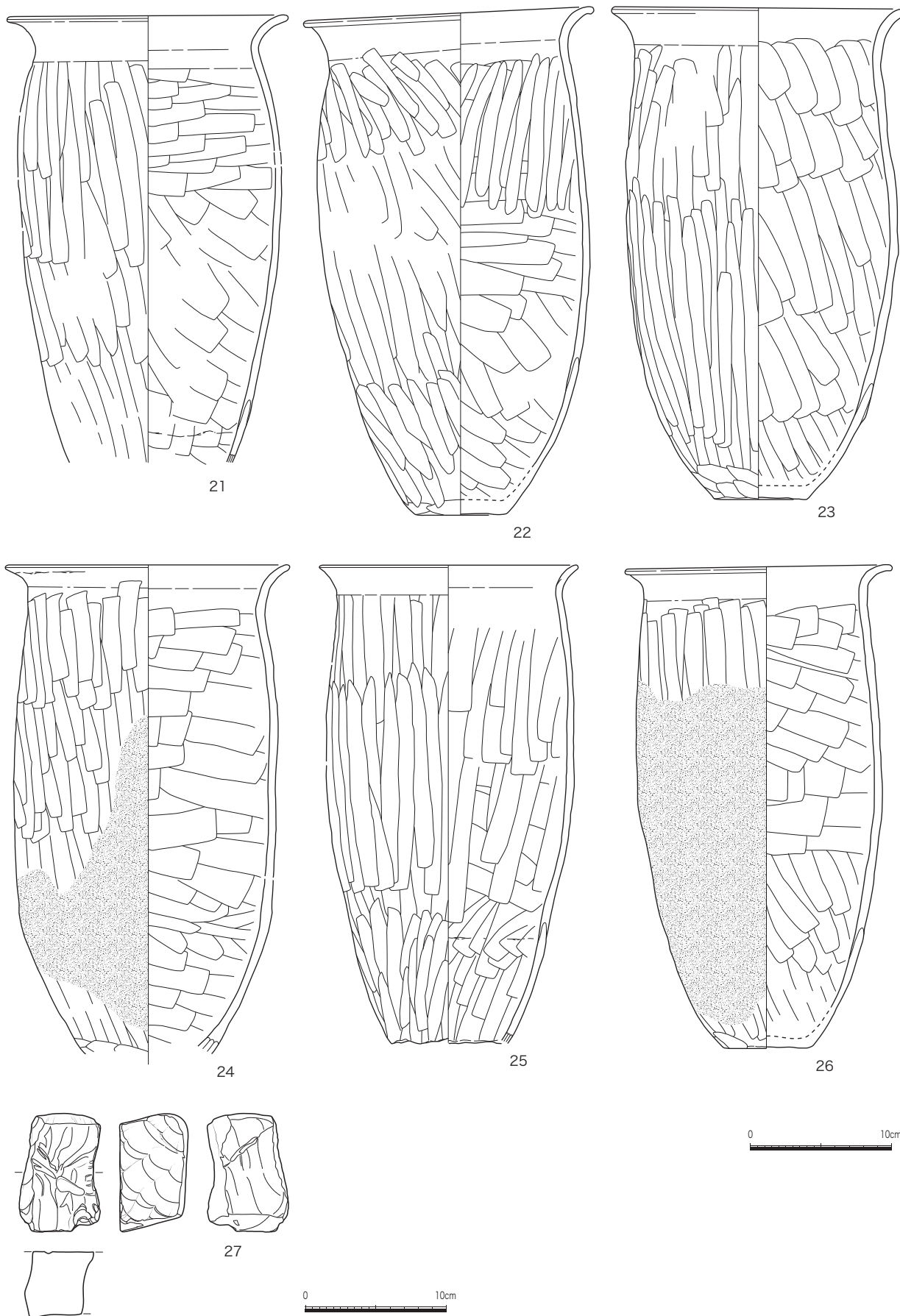


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、砂礫 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、25~30%) を含む褐色土。粘土層。天井部崩落？
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まりやや弱、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まりやや弱、焼土粒子 (5~10mm、25~30%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。焼土層。
- 9 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。袖粘土層。
- 9' 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。袖粘土。黒土混土。

第100図 200号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)



第101図 200号住居跡出土遺物1 (1/4)



第102図 200号住居跡出土遺物2 (1/3・1/4)

[位置] D・E - 2 グリッド。

[住居構造] 223号住居跡を切る。(平面形) 正方形。(規模) 4.23×4.30m。(主軸方向) N-S。(壁高) 42～44cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅9～32cm・下幅2～10cm・深さ8～17cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面・貯蔵穴にかけて良く硬化していた。(床面レベル) 標高11.62～11.71m。(カマド) 北壁ほぼ中央に位置する。長さ96cm・幅92cm・壁への掘り込み18cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。天井部は崩壊しているが、両袖部は比較的良く高さを残しているものと見られる。燃焼部前面には完形の土師器甕1個体が横たわっていたが、崩落粘土に被覆されている。(柱穴) 支柱穴4基を確認。深さ24～64cmを測る。(貯蔵穴) カマド右脇、北東コーナーに位置する。平面長方形。規模は91×55cm・深さ73cmを測る。覆土最下層はローム主体であるが、大半は住居竪穴覆土に類似する黒褐色土。(入口施設) 南壁中央に凸堤を確認。凸堤内側は柱穴はなく、大きく凹んでいる。(覆土) 12層、自然堆積。ロームブロック・粒子、焼土粒を含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 床面直上に土師器坏・鉢・甑・甕の完形品が多数点在する。中央南西寄りにやや集中する傾向あり。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 多量の焼土の存在などの焼失住居を示す状況は認められない。床面直上の完形土師器の出土を第一の特徴とする。

遺物 (第101・102図、第34・61表)

土師器坏(1～11)、鉢(12～14)、甕転用鉢(15・16)、甑(17)、甕(18～24・26)、甕転用甑(25)、砥石(27)がある。8と9の坏には刀傷のような線状痕が多数ある。

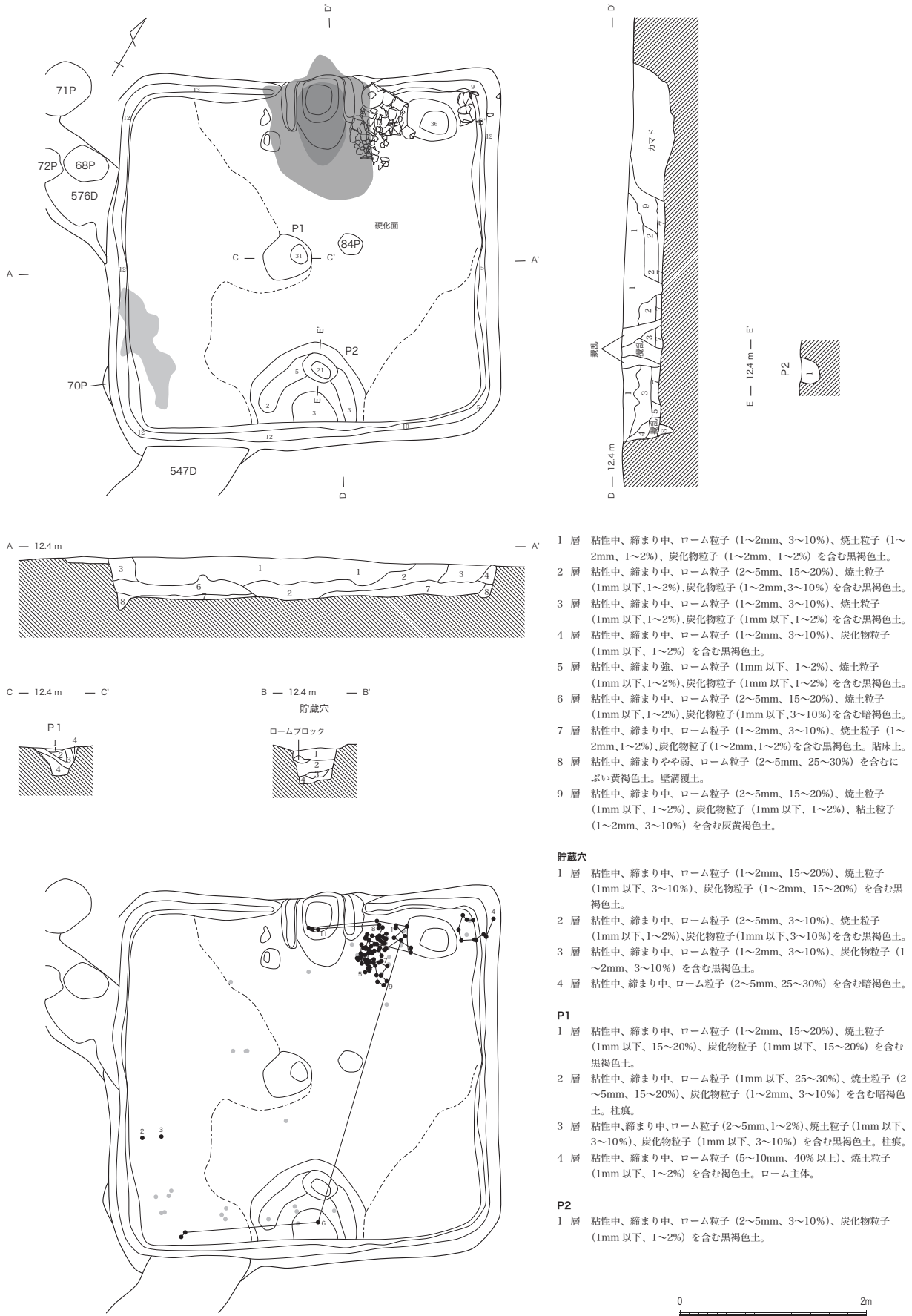
203号住居跡

遺構 (第103・104図)

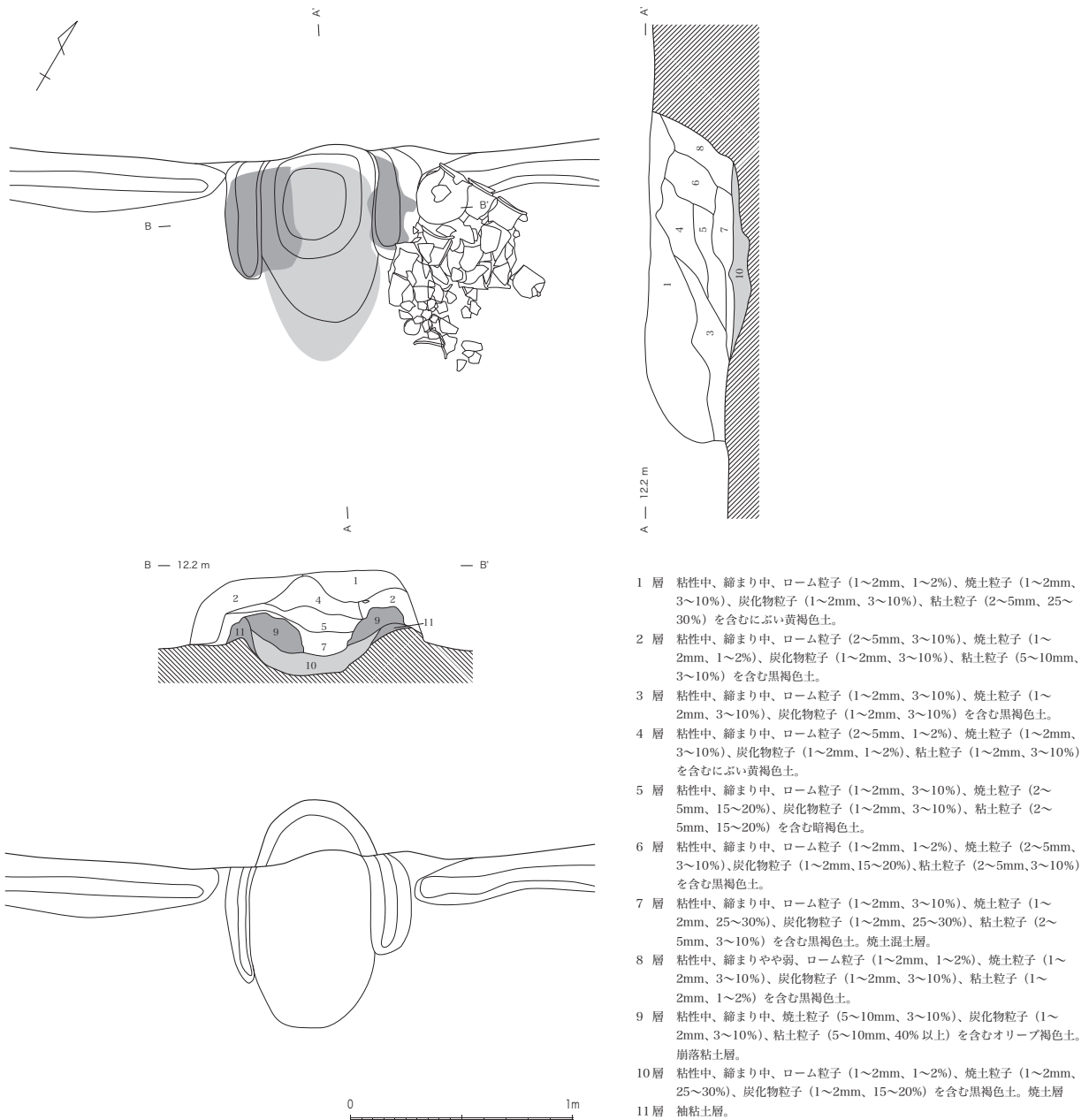
[位置] C - 4・5 グリッド。

[住居構造] 中世以降の土坑・ピットに切られるが全形を良く残している。(平面形) 正方形。(規模) 4.09×4.18m。(主軸方向) N-30°-W。(壁高) 27～42cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅16～31cm・下幅3～11cm・深さ3～13cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面・貯蔵穴にかけて良く硬化している。(床面レベル) 標高11.80～11.87m。(カマド) 北西壁中央やや北東コーナー寄りに位置する。長さ93cm・幅110cm・壁への掘り込み26cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として灰白色粘土を用いて構築。支脚破片が覆土中から出土。(柱穴) 中央に1基確認。深さ31cmを測る。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーに位置する。平面隅丸長方形。規模は52×44cm・深さ36cmを測る。覆土はロームブロックを含む黒褐色土。(入口施設) 南東壁中央に位置する。深さは21cmを測る。凸堤と凸堤上に梯子穴が位置する。(覆土) 9層、自然堆積。下層はロームブロック・粒子を含む暗褐色土、上層(第1層)は黒褐色土。南側南西壁寄りの下層(第6層)上面に焼土の堆積と炭化材が見られた。

第3章 検出された遺構と遺物



第103図 203号住居跡・遺物出土状態 (1/60)



第 104 図 203 号住居跡カマド (1/30)

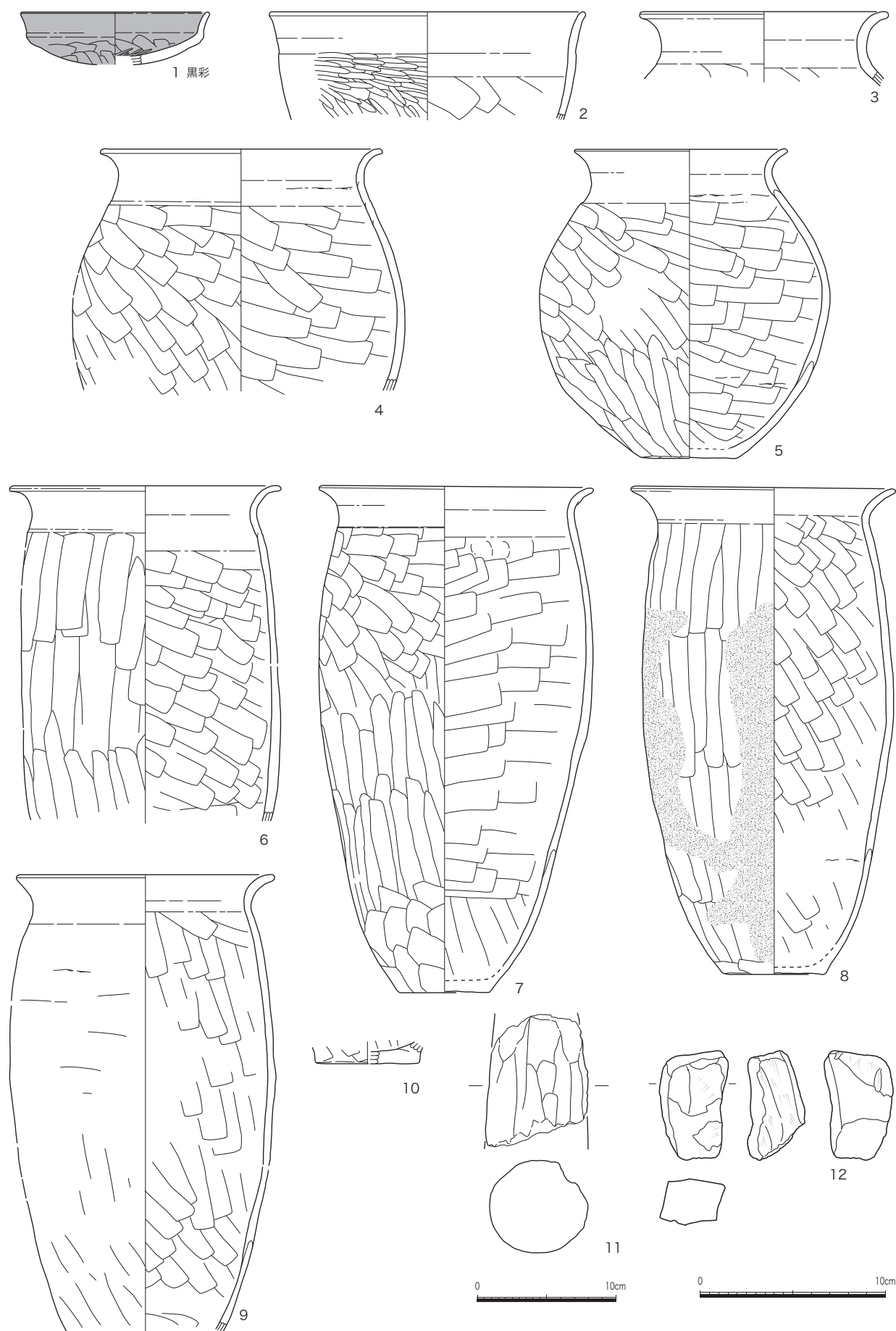
[遺物] カマド右脇、床面直上に完形の土師器甕 3 個体 (5・7・8) が出土。他は覆土中に土師器破片が散在。南側覆土中からは 9 世紀代の土師器・須恵器破片が検出されている。

[時期] 古墳時代後期 (7 世紀中葉)。

[所見] 1 本支柱の小型住居か。覆土中の焼土・炭化物粒子の含有は顕著ではないが、焼土の堆積と炭化材から焼失住居の可能性がある。

遺物 (第 105 図、第 35・59・61 表)

土師器坏 (1)、鉢 (2)、甕 (3~10)、土製支脚 (11)、砥石 (12) を図示した。



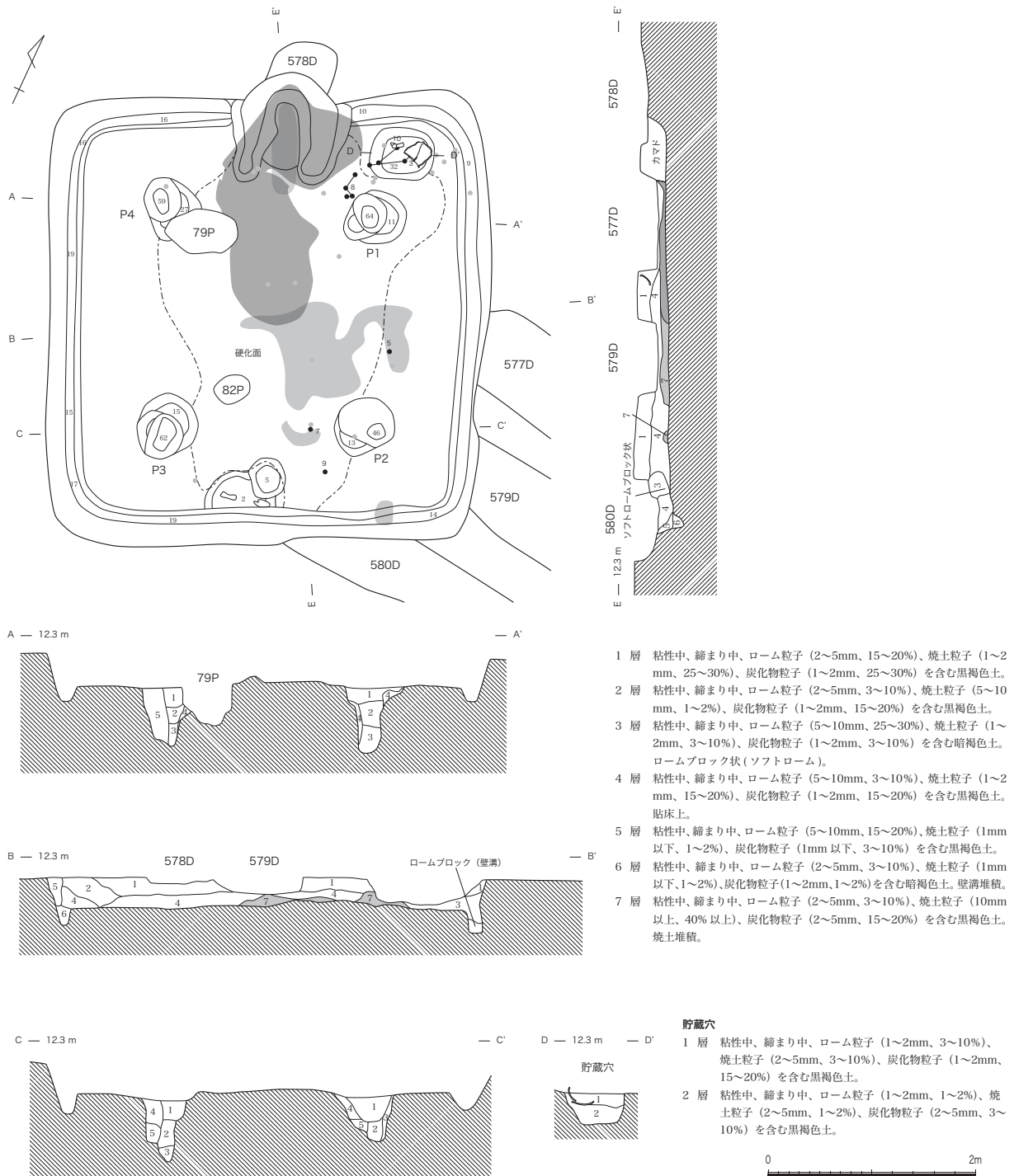
第105図 203号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

204号住居跡

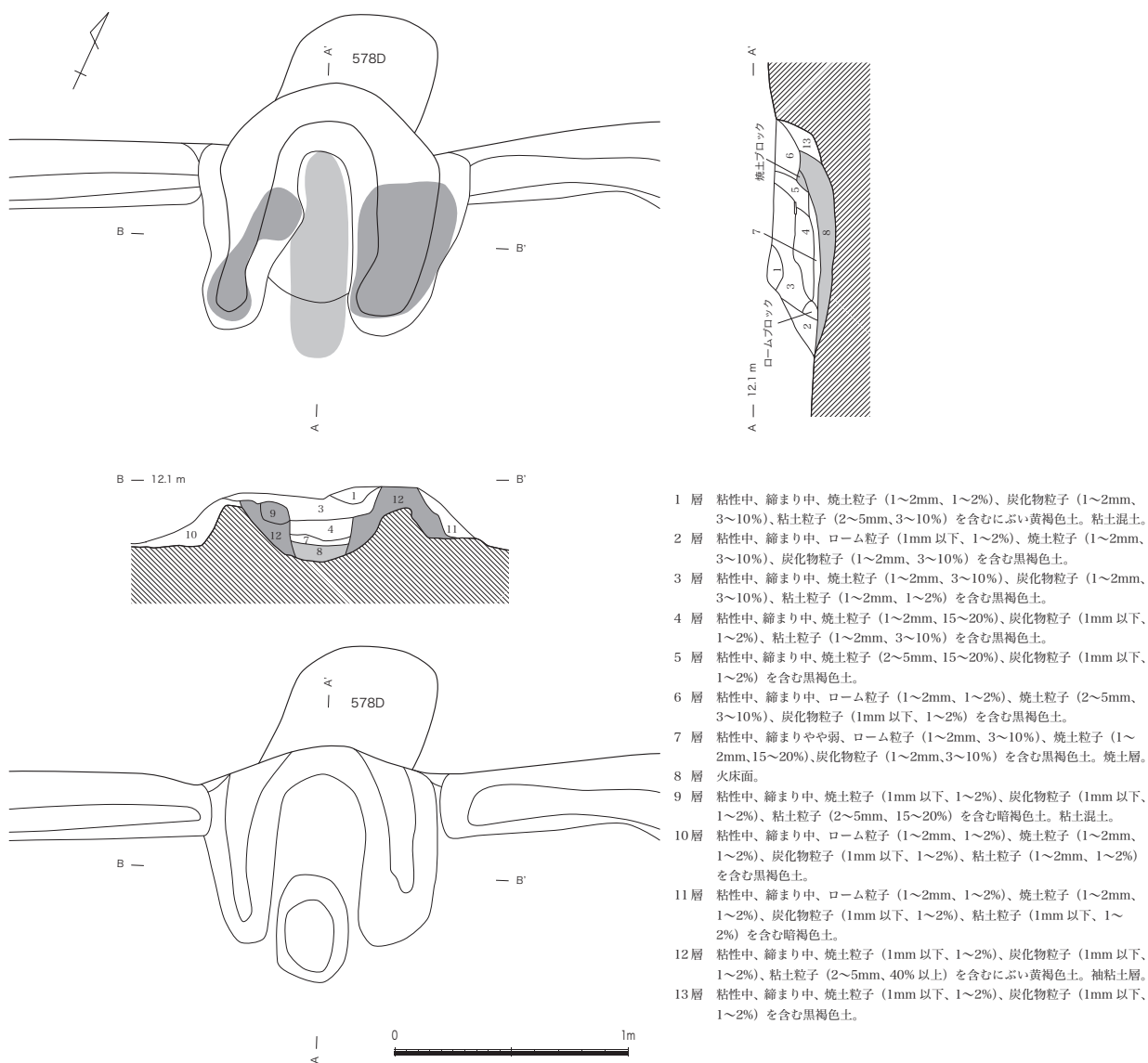
遺構 (第106・107図)

[位置] D・E - 3グリッド。

[住居構造] 近世の土坑に覆土中位まで切られるが、全形を良く残している。(平面形) 正方形。(規模) 4.41 ~ 4.30m。(主軸方向) N-23°-W。(壁高) 26 ~ 32cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅19 ~ 35cm・下幅6 ~ 13cm・深さ13 ~ 18cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床



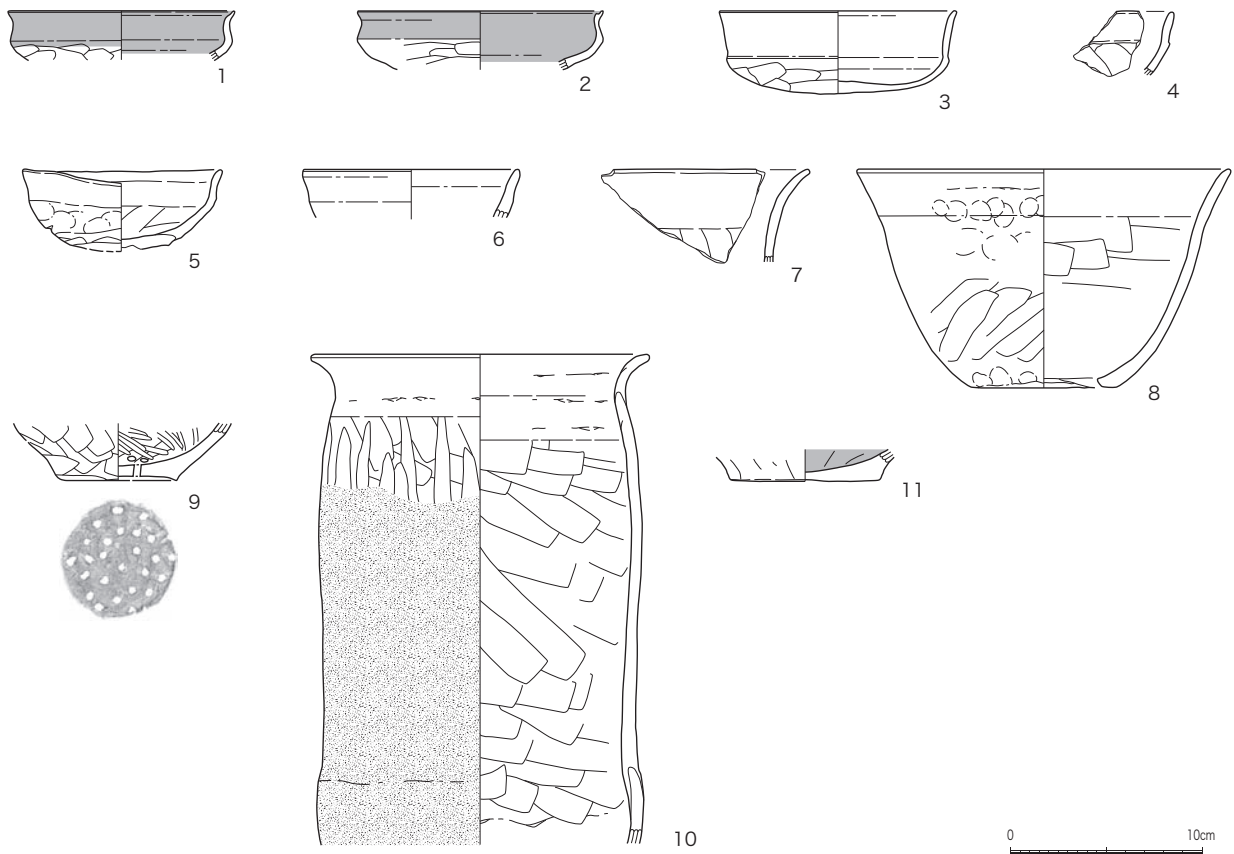
第106図 204号住居跡 (1/60)



第107図 204号住居跡カマド (1/30)

面) 貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面・貯蔵穴にかけて良く硬化している。(床面レベル) 標高 11.78 ~ 11.85m。(カマド) 北西壁ほぼ中央に位置する。長さ 108cm・幅 117cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として灰白色粘土を用いて構築。削平が著しいために、構築粘土の残りは悪い。左袖の粘土は崩落による張り出しと見られる。(柱穴) 支柱穴 4 基を確認。深さ 46 ~ 64cm を測る。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーに位置する。規模は 63×52cm・深さ 32cm を測る。覆土は黒褐色土を基調とする。上層出土の土師器甕破片は、周辺の床面直上出土土器と一連の埋没過程によるものと見られる。(入口施設) 南東壁中央に梯子穴を確認。深さ 5cm を測る。これに絡む窪みがあるが、はっきりとした凸堤は確認できなかった。(覆土) 7層、自然堆積。全体にロームブロックと焼土・炭化物粒子を多く含む黒褐色土を基調とする。東側床面直上には焼土の堆積が確認され、カマド前方には粘土(灰色粘土)が広範に堆積。

[遺物] 貯蔵穴周辺の床面直上に土師器の大破片がややまとまるが、完形品はない。他は覆土中に土師器破片が散在する程度。



第108図 204号住居跡出土遺物(1/4)

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 焼土の堆積と、覆土の特徴から、焼失住居と考えられる。

遺物 (第108図、第36表)

土師器坏(1~6)、甕(10・11)、甑(7~9)を図示した。

207号住居跡

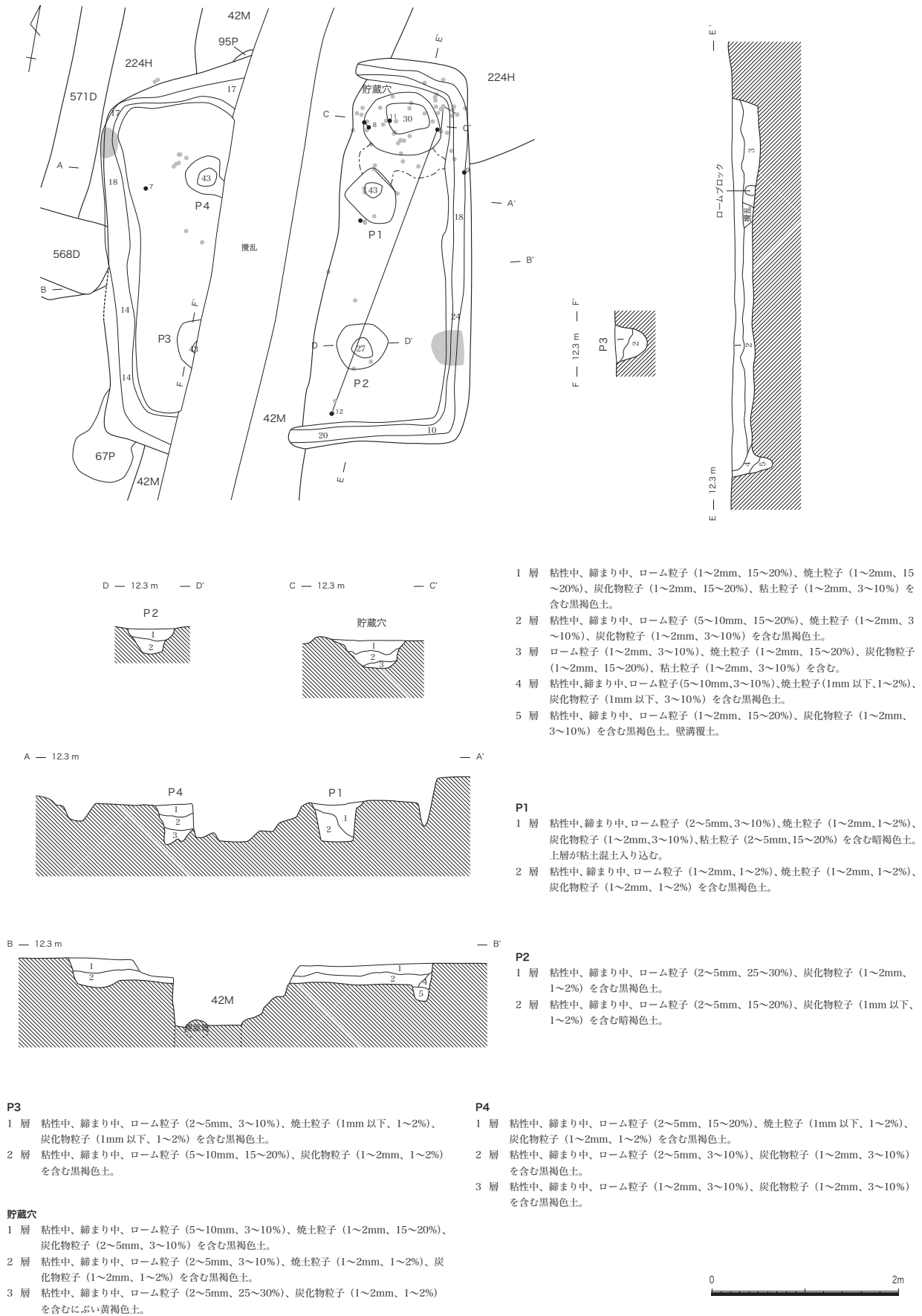
遺構 (第109図)

[位置] D-3・4グリッド。

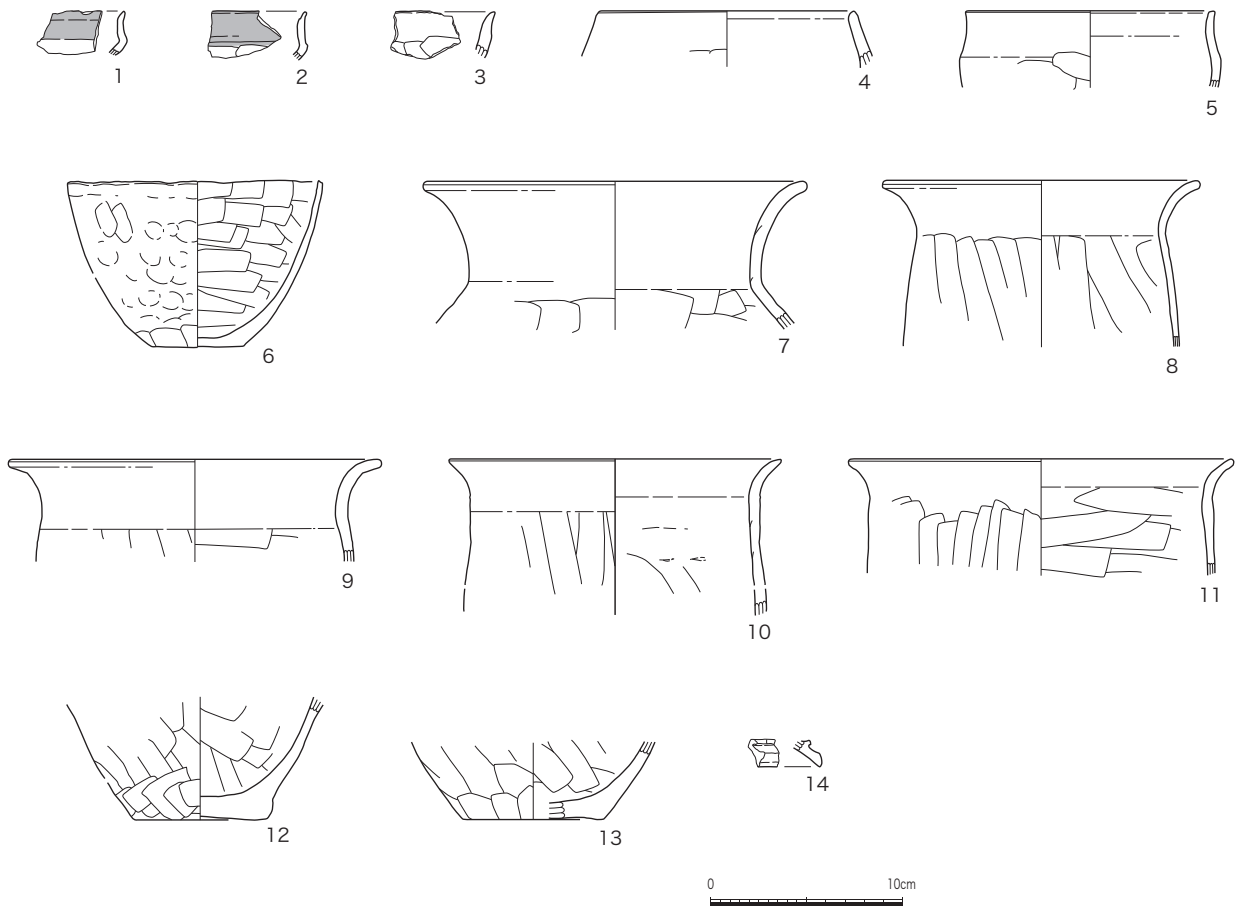
[住居構造] 中央を南北に現代の排水管理設と近世の42号溝跡・572号土坑に壊されている。224号住居跡を切る。(平面形) 正方形。(規模) 4.24×3.91m。(主軸方向) N-10°-W。(壁高) 24~27cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅20~31cm・下幅4~19cm・深さ15~23cmを測る。確認された範囲では全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。硬化面は貯蔵穴や支柱穴の周辺にわずかに確認できたのみ。(床面レベル) 標高11.80~11.87m。(カマド) 確認されなかった。(柱穴) 支柱穴4基を確認。深さ27~43cmを測る。(貯蔵穴) 北東コーナーに位置する。平面不整長方形。規模は83×66cm・深さ30cmを測る。覆土は住居竪穴覆土に類似する黒褐色土。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 5層、自然堆積。北西・南東コーナー付近の壁際に焼土の堆積が見られた。

[遺物] 完形の鉢1個体以外は土師器・須恵器の破片で、いずれも覆土中から出土。

第3章 検出された遺構と遺物



第109図 207号住居跡 (1/60)



第110図 207号住居跡出土遺物(1/4)

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] カマド・入口施設ともに中央部の攪乱によって失われているものと思われる。部分的な焼土の堆積は確認されたものの、焼失住居である積極的な痕跡は他に認められなかった。

遺物 (第110図、第37表)

土師器坏(1~3)、鉢(4~6)、甕(7~13)、須恵器高坏(14)を図示した。

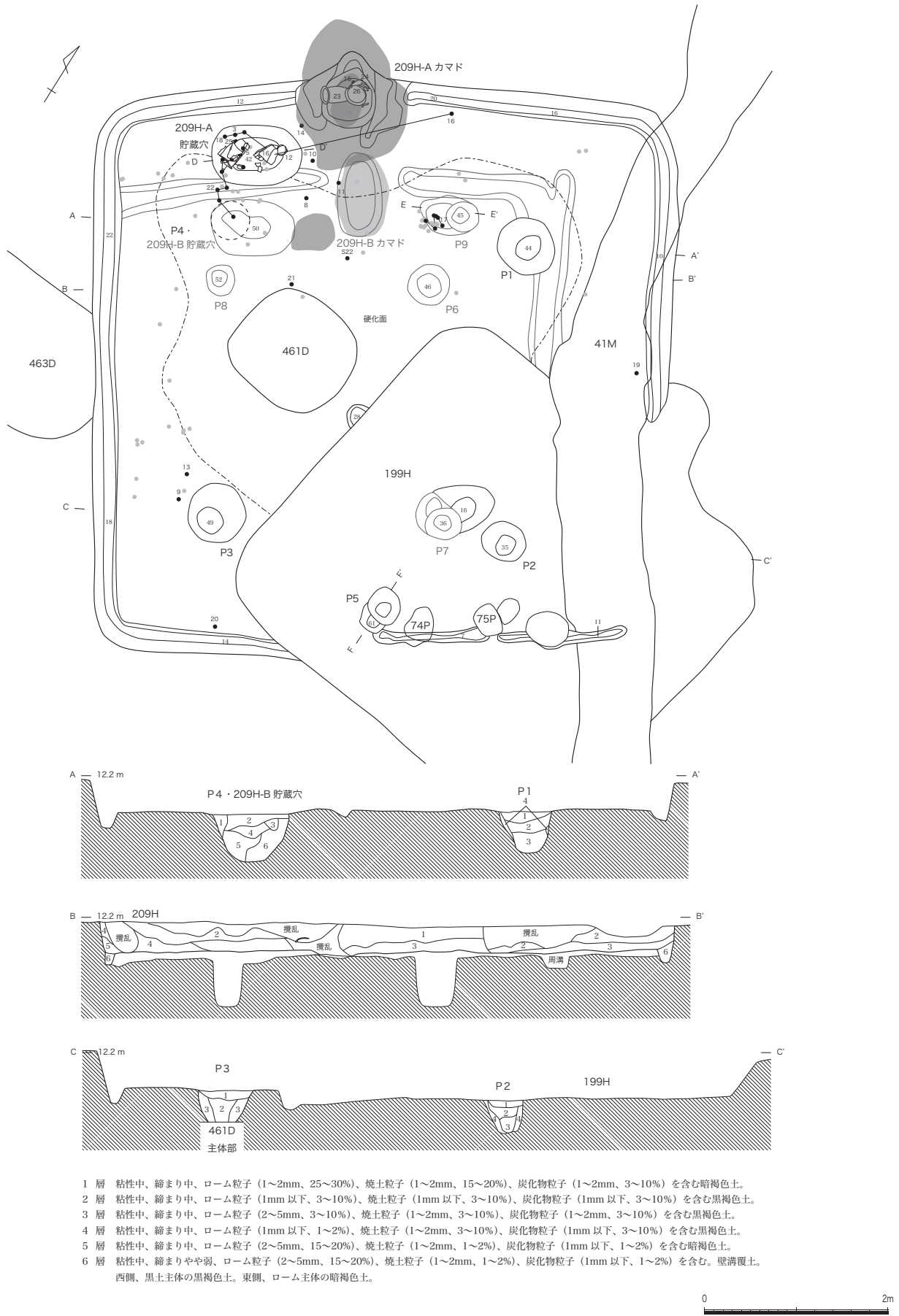
209号住居跡

遺構 (第111・112図)

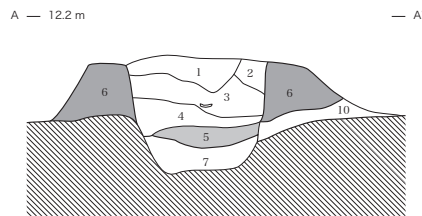
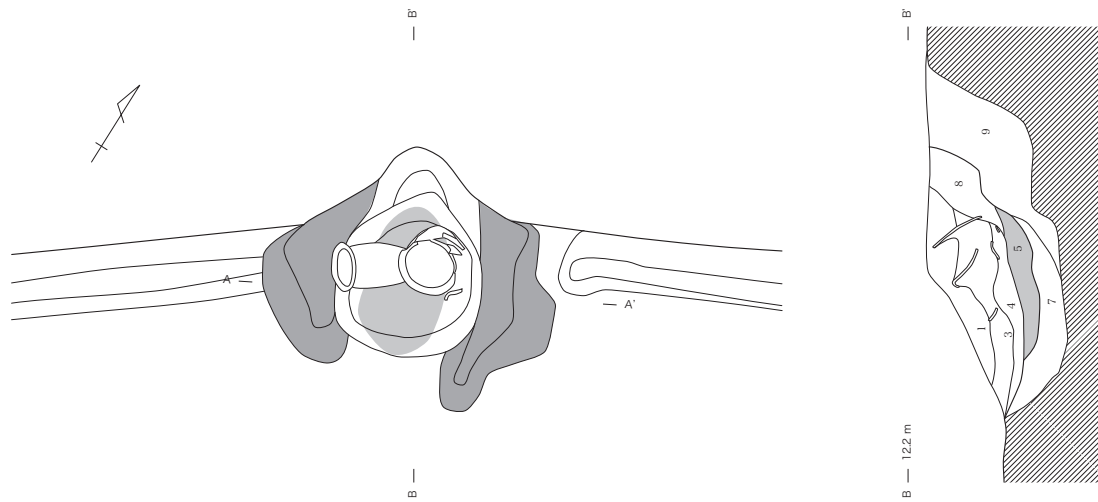
[位置] C-2・3、D-2グリッド。

[住居構造] 東側を199号住居跡と41号溝跡に切られる。貼床下から壁溝が確認されたことから、住居プランの拡張が行われたものと思われる。拡張後をA、拡張前をBとする。中央部に地下室461号土坑の入口が開口、床面下80cm程で同土坑の主体部に達する。(平面形)A・Bともに正方形。(規模)A:6.38×6.48m。B:5.32×5.21m。(主軸方向)N-32°-W。(壁高)A:25~39cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。B:不明。(壁溝)A:上幅20~31cm・下幅6~13cm・深さ12~16cmを測る。B:上幅23~35cm・下幅6~13cm・深さ13cmを測る。A・Bともにカマド部分を除いて全周するものと見られる。(床面)A:貼床は4~12cmの厚さで施されている。壁際を除いて硬化

第3章 検出された遺構と遺物

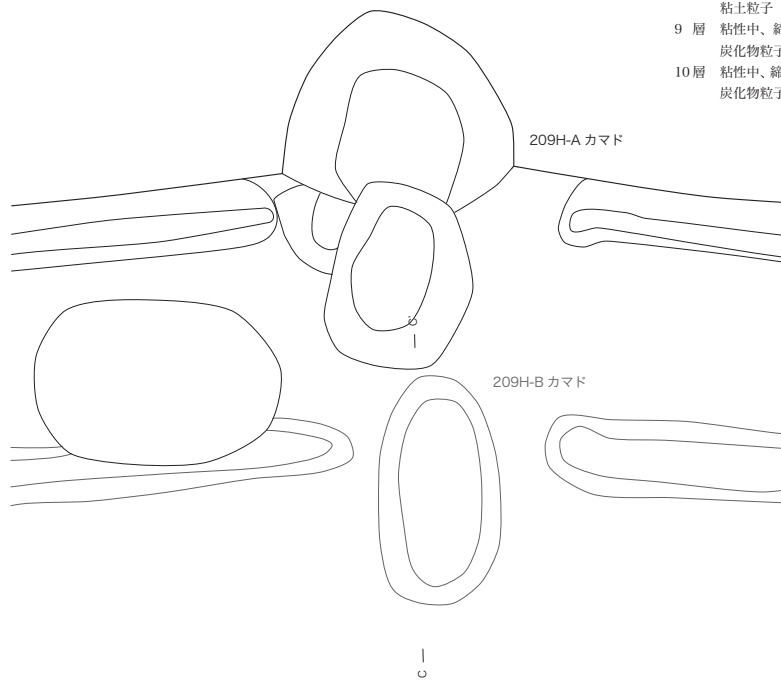


第 111 図 209 号住居跡 (1/60)



209H-A カマド

- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含むぶい黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含むぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。焼土層。
- 6 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む黄褐色土。袖粘土層。
- 7 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。火床。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。赤化粘土ブロック混土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。袖粘土下黒土層。



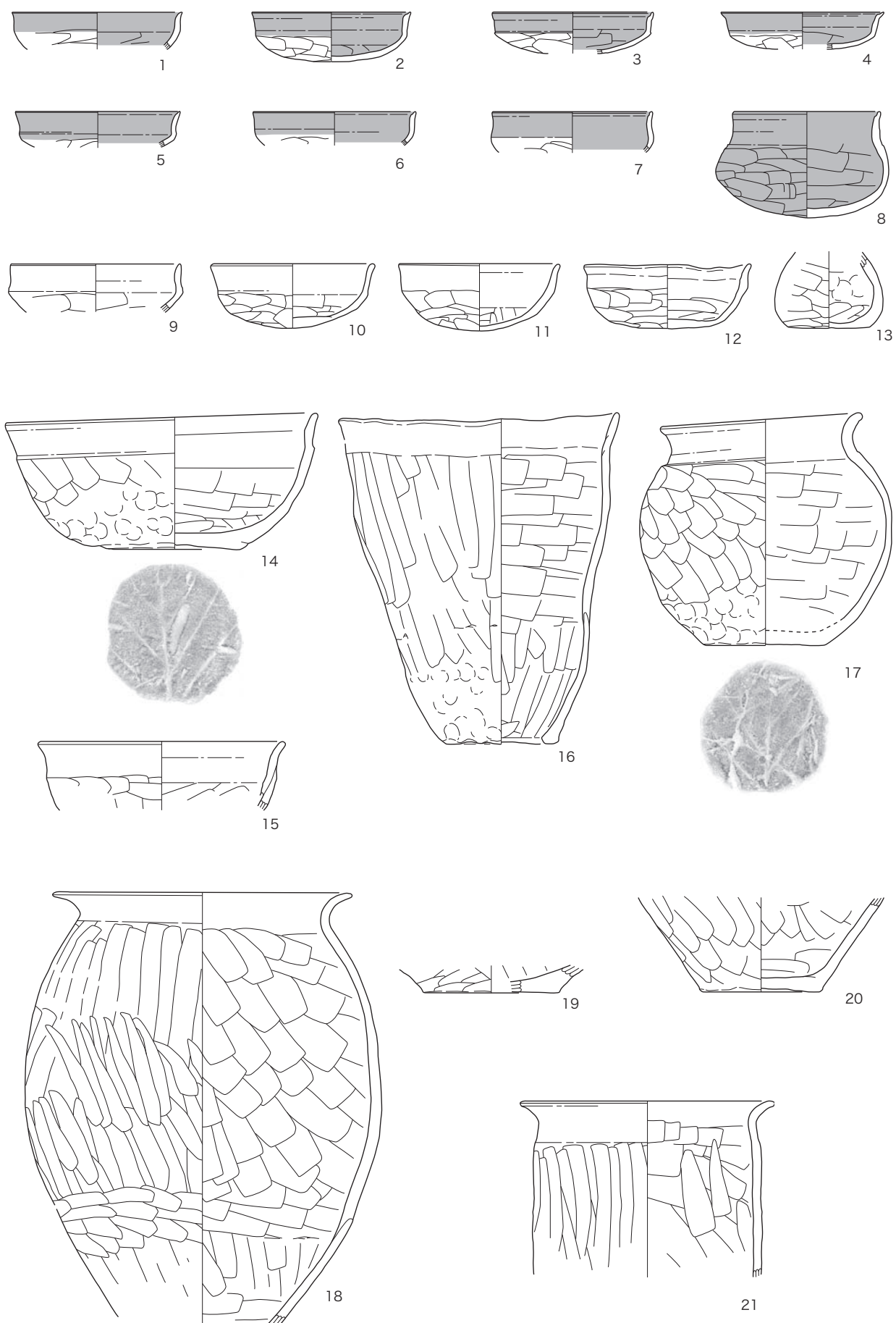
209H-B カマド

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (5~10mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、3~10%) を含む暗褐色土。209H-B カマド火床部。
- 2 層 粘性中、締まり強、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。209H-B カマド掘方。



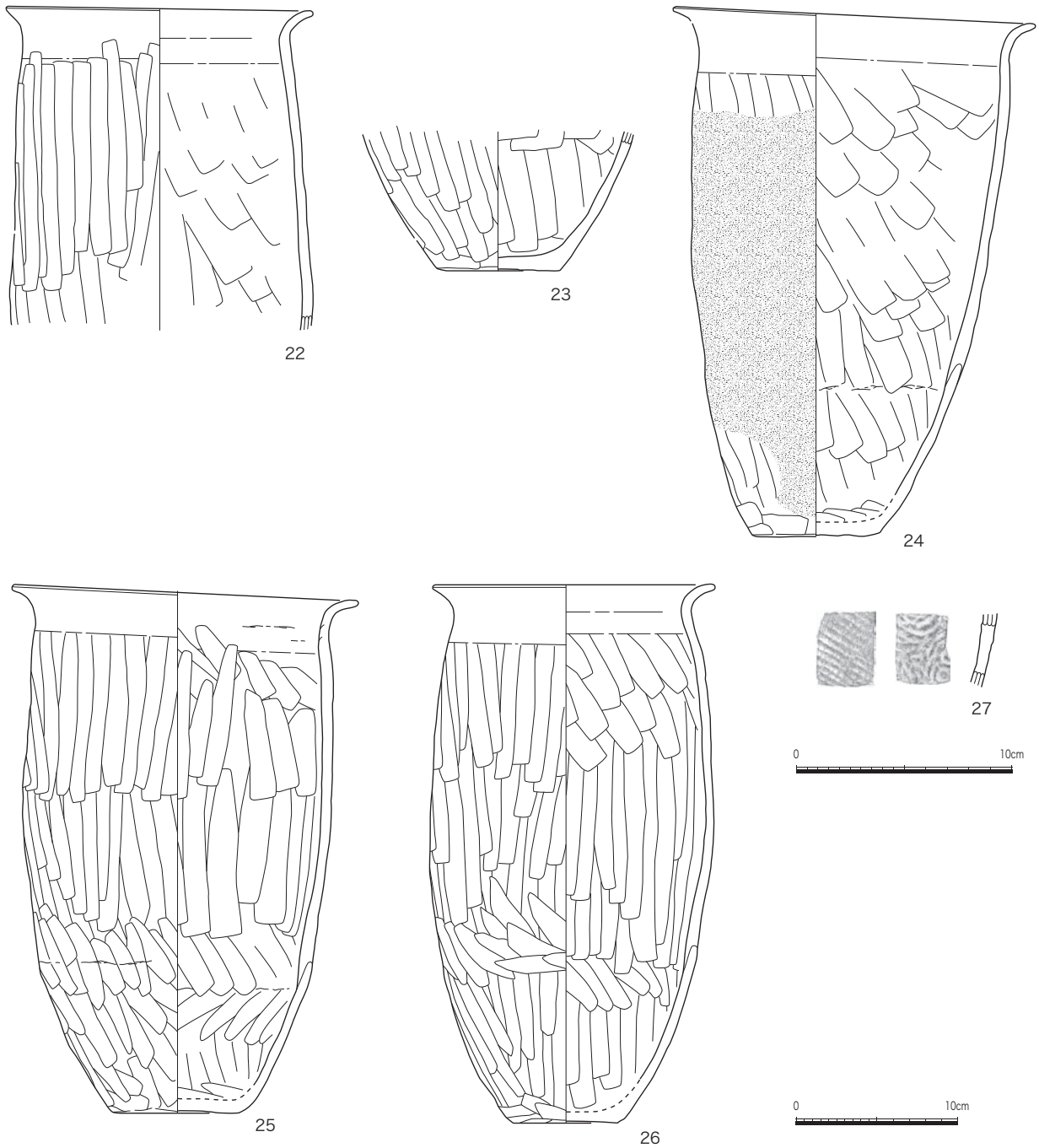
第112図 209号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第113図 209号住居跡出土遺物1 (1/4)

0 10cm



第114図 209号住居跡出土遺物2 (1/3・1/4)

面を確認。B：床面残らず。(床面レベル) A：標高 11.78～11.86m。B：標高 11.70～11.84m。(カマド) A：北西壁中央やや西寄りに位置する。長さ 104cm・幅 108cm・壁への掘り込み 65cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。燃烧部奥の両袖部内に完形の土師器甕 (38・40) が並んで出土。天井部は残っておらず、2個の甕はカマド内堆積土に含まれる。甕の下から支脚は出土していない。B：北西壁ほぼ中央に位置する。壁への掘り込み 10cm を測る。土坑状の掘方と燃烧部の痕跡が確認されたのみ。(柱穴) A：支柱穴4基 (P1～4) を確認。深さ 35～49cm を測る。P4 はB住居の貯蔵穴と重複。B：貼床下から支柱穴3基を確認。もう1基はA住居のP3と同じ位置か器

群と一連のものであろう。B：カマド左脇に位置する。平面楕円形。規模は93×59cm・深さ50cmを測る。覆土は黒褐色土を基調とする。(入口施設) A：南東壁中央に位置する。199号住居跡の貼床下で梯子穴(P5)を確認。深さ61cmを測る。B：確認されなかった。(覆土)6層、自然堆積。黒褐色土を。(貯蔵穴) A：カマド左脇に位置する。平面楕円形。規模は98×65cm・深さ42cmを測る。覆土は黒褐色土を基調とし、上半には完形の土師器坏・甑・甕が出土しているが、周辺の床面直上に分布する完形土師基調とする。

[遺物] カマド左側、貯蔵穴A周辺の床面直上に完形の土師器坏・鉢・甑・甕が分布。B住居に伴う遺物は付属遺構の覆土中出土の土師器小破片を得たのみ。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] A住居はB住居を南コーナーを固定して北方向に引き延ばした格好で、カマドを設置する北西壁と北東壁を新たに設定して拡張。カマドと貯蔵穴の配置と、南角の支柱穴の位置もそのまま、両住居の連続性(改築)を示唆していよう。カマド内から出土した甕2個体は、カマド天井部・掛け口が崩壊していることから、カマド稼働時の状態ではないことは確かであろう。

遺物(第113・114図、第38表)

土師器坏(1～12)、壺(13)、鉢(14・15)、甑(16)、甕(17～27)を図示した。7の坏はB住居の貯蔵穴覆土出土。

211号住居跡

遺構(第115・116図)

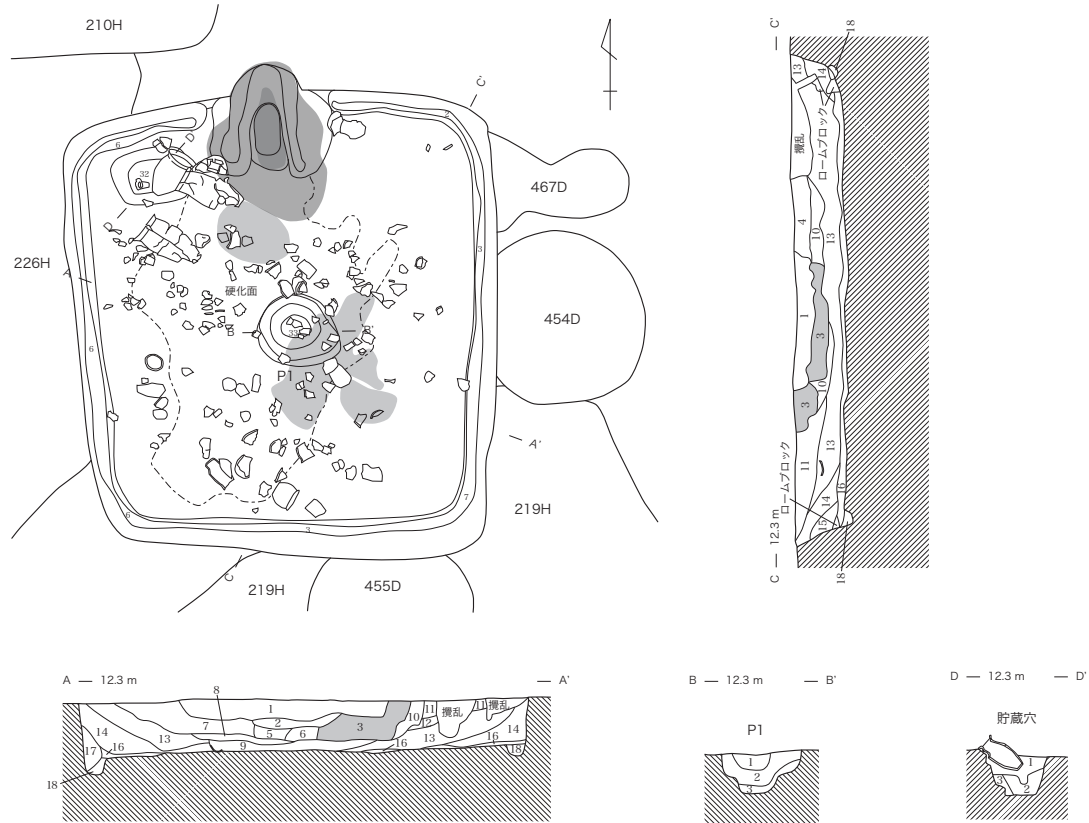
[位置] E-4グリッド。

[住居構造] 219・226号住居跡を切る。(平面形) 隅丸不整形。(規模) 3.72×3.47m。(主軸方向) N-S。(壁高) 29～42cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅18～32cm・下幅2～11cm・深さ7～13cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。中心部からカマド前面にかけて良く硬化している。(床面レベル) 標高11.60～12.13m。(カマド) 北壁中央に位置する。長さ90cm・幅98cm・壁への掘り込み20cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎とし、灰白色粘土を用いて構築。右袖部から中軸にかけて天井部粘土が残っていたが、原形を保つ部分は少ないと見られる。(柱穴) 中央のP1は柱穴ではなく、下層にローム主体土、上層に焼土粒子・炭化物を含む黒褐色土が堆積する小型土坑。深さ33cmを測る。(貯蔵穴) カマド左脇、北西コーナーに位置する。平面長方形。規模は66×44cm・深さ32cmを測る。覆土下層はローム主体土、上層は住居竪穴覆土と類似し、完形の土師器甕が流れ込む。周辺の床面直上出土の甕と一連の分布と見られる。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 18層、自然堆積。焼土はいずれも覆土中位に堆積。

[遺物] 大量の土師器破片のほとんどは(42の土製支脚も)、中央の焼土堆積後の窪み?(第18層)に含有されている。貯蔵穴周辺の土師器甕3個体は床面直上出土。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 中央の焼土の堆積から、火災住居と思われる。多量の土師器は焼失後に廃棄されたものであ



- 1 層 粘性、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含む暗褐色土。粘土層。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 12 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 13 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 14 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 15 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 16 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。床面漸移。
- 17 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 18 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。壁溝覆土。

P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (5~10mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、黒褐色土 (5~10mm、15~20%) を含む褐色土。ローム主体。
- 3 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、黒褐色土 (2~5mm、1~2%) を含む黄褐色土。

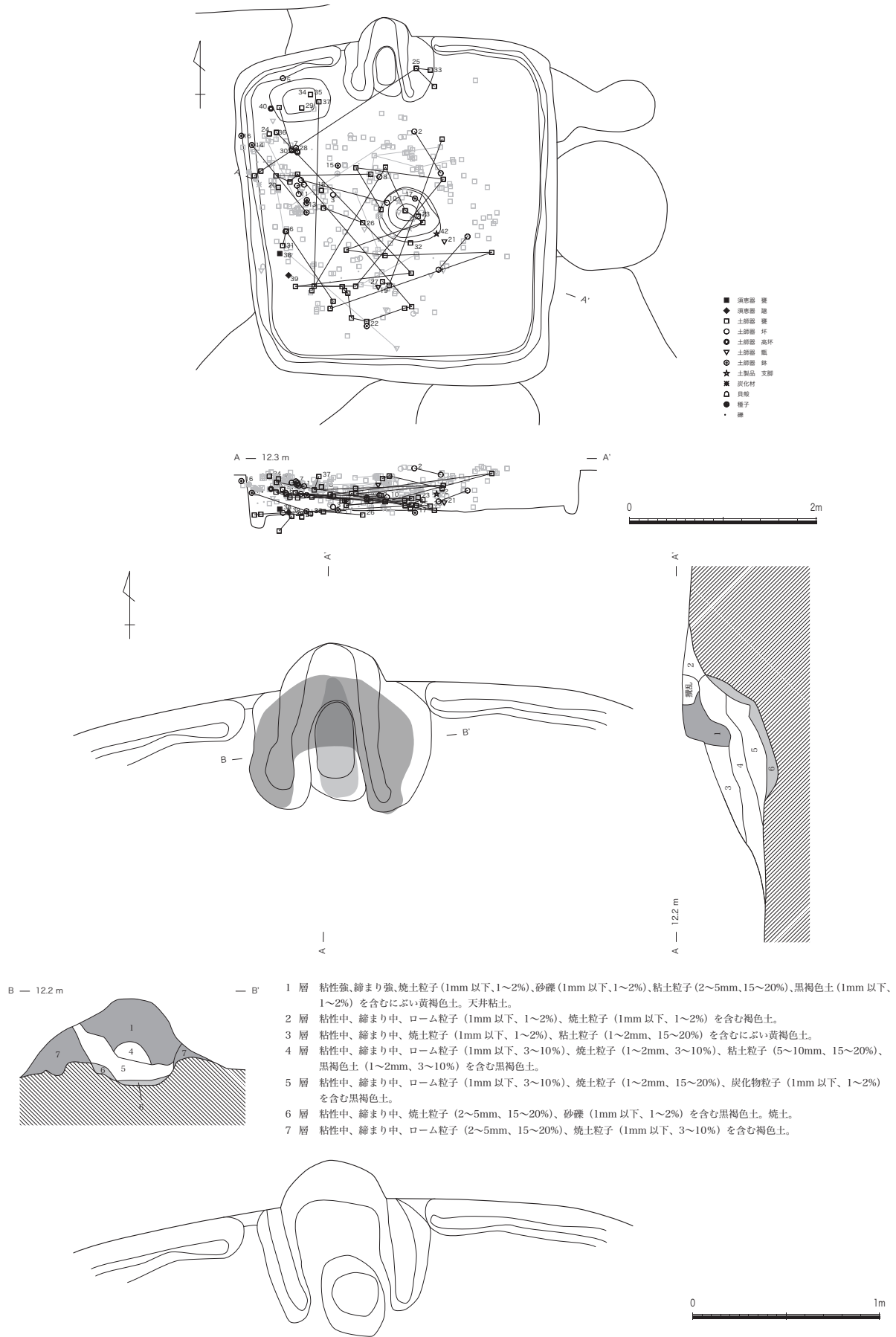
貯蔵穴

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、黒褐色土 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 2 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%)、黒褐色土 (1mm 以下、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。粘土質。
- 3 層 粘性強、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む明黄褐色土。

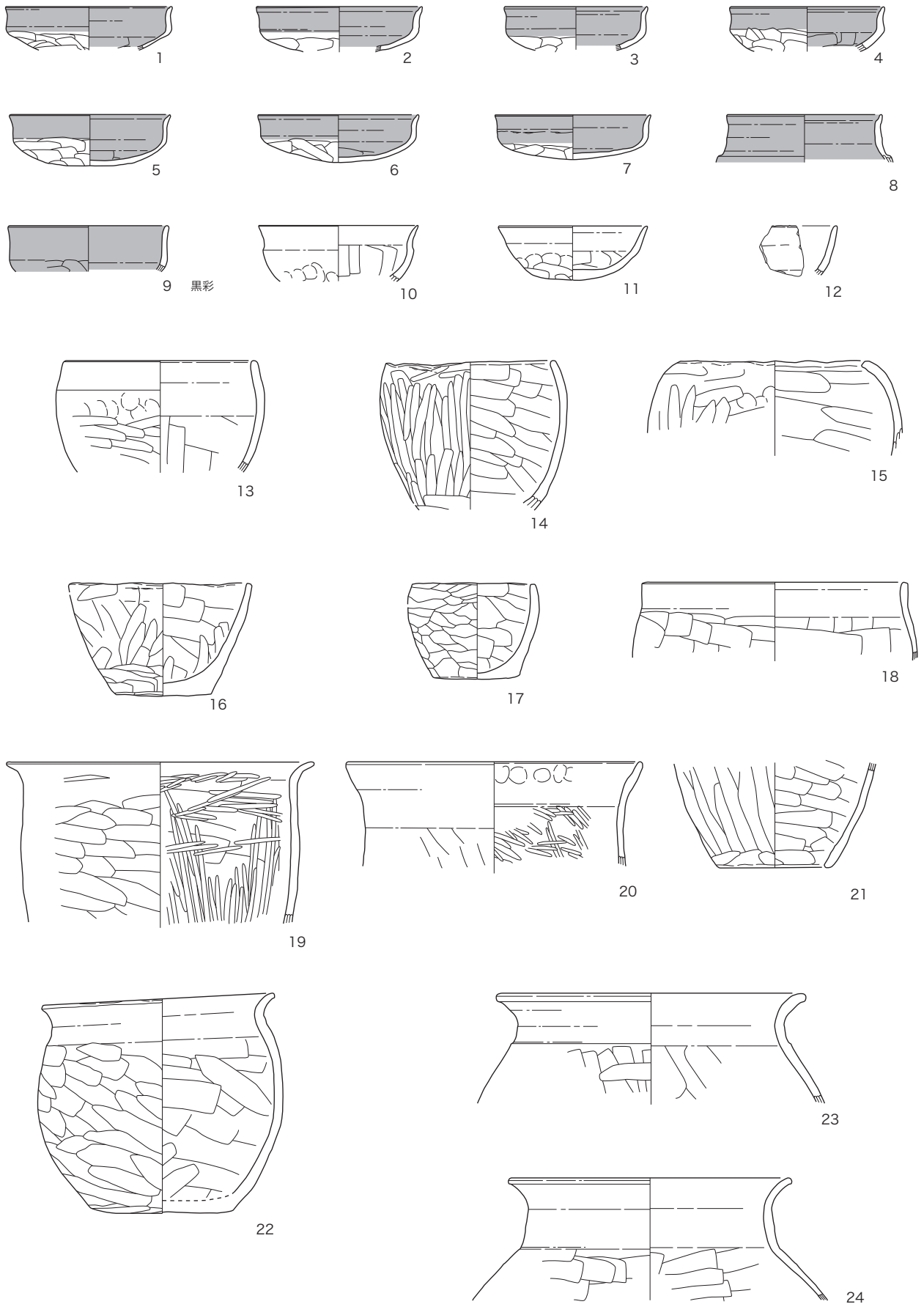


第 115 図 211 号住居跡 (1/60)

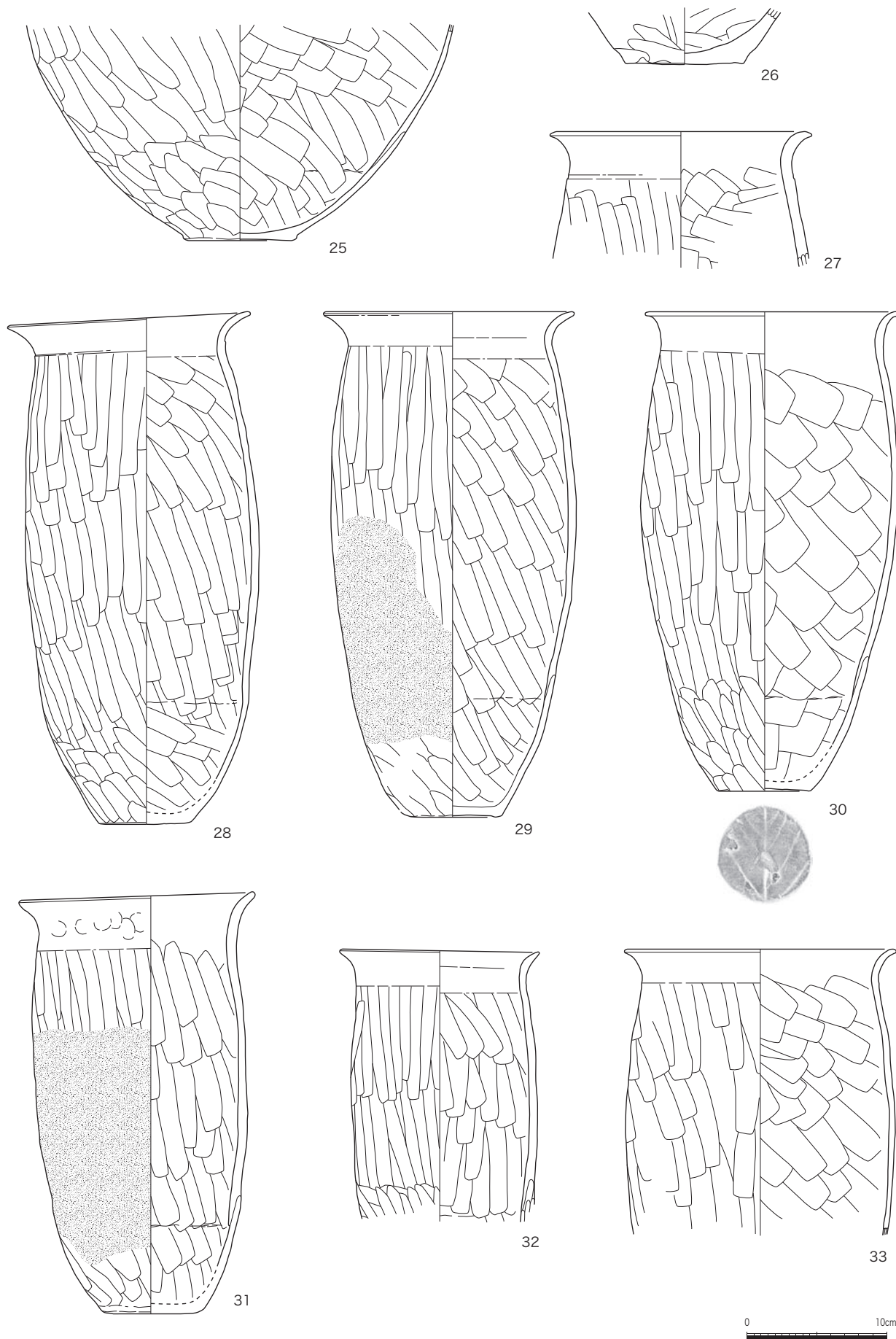
第3章 検出された遺構と遺物



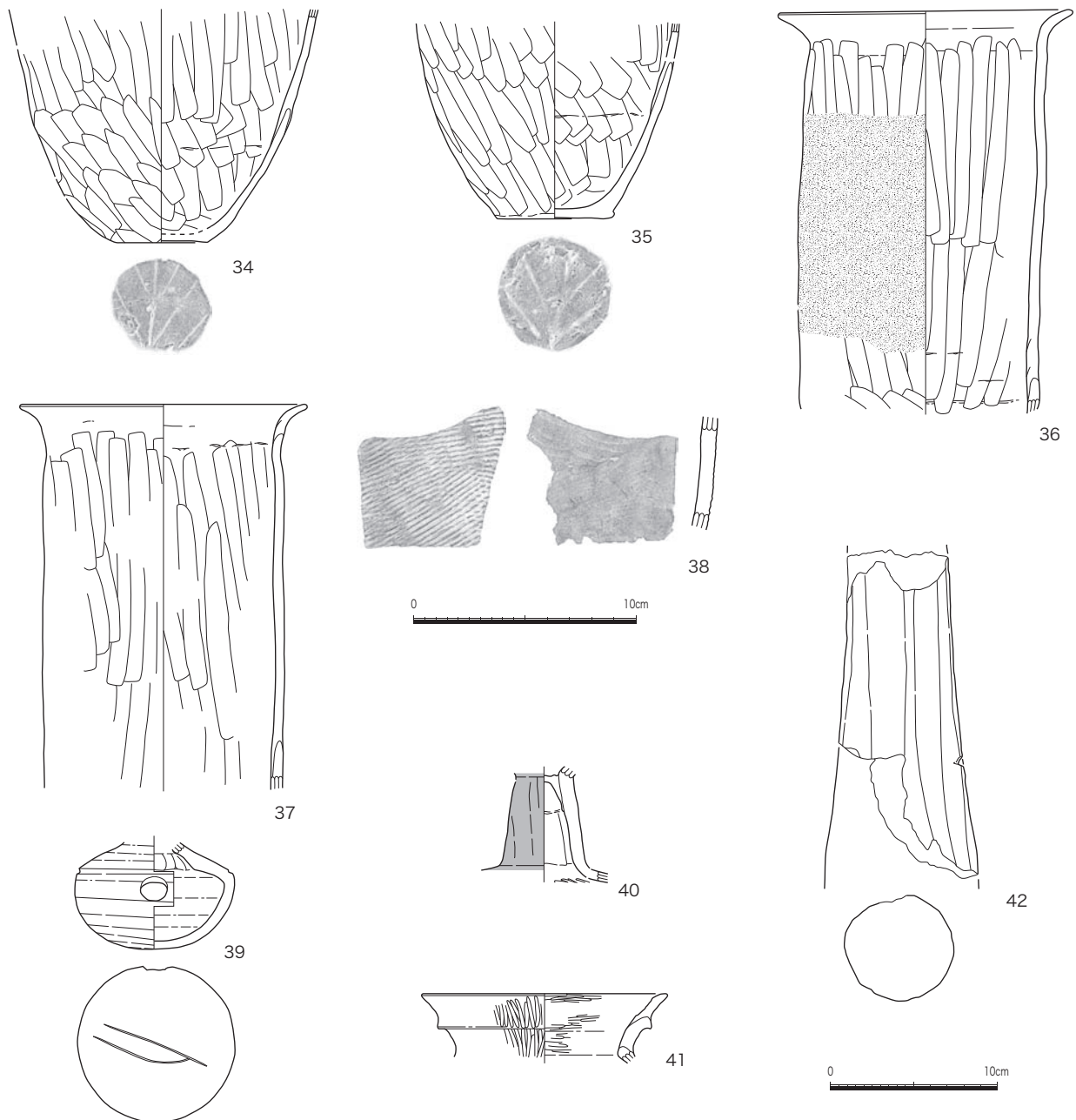
第116図 211号住居跡遺物出土状態 (1/60)・住居跡カマド (1/30)



第117図 211号住居跡出土遺物1 (1/4)



第118図 211号住居跡出土遺物2 (1/4)



第119図 211号住居跡出土遺物3 (1/3・1/4)

ろうか。

遺物 (第117～119図、第39・59表)

土師器坏 (1～11)、鉢 (13～18)、甌 (19～21)、甕 (22～38)、須恵器坏蓋? (12)、甕 (39)、土師器高坏 (40)、壺 (41)、土製支脚 (42) を図示した。

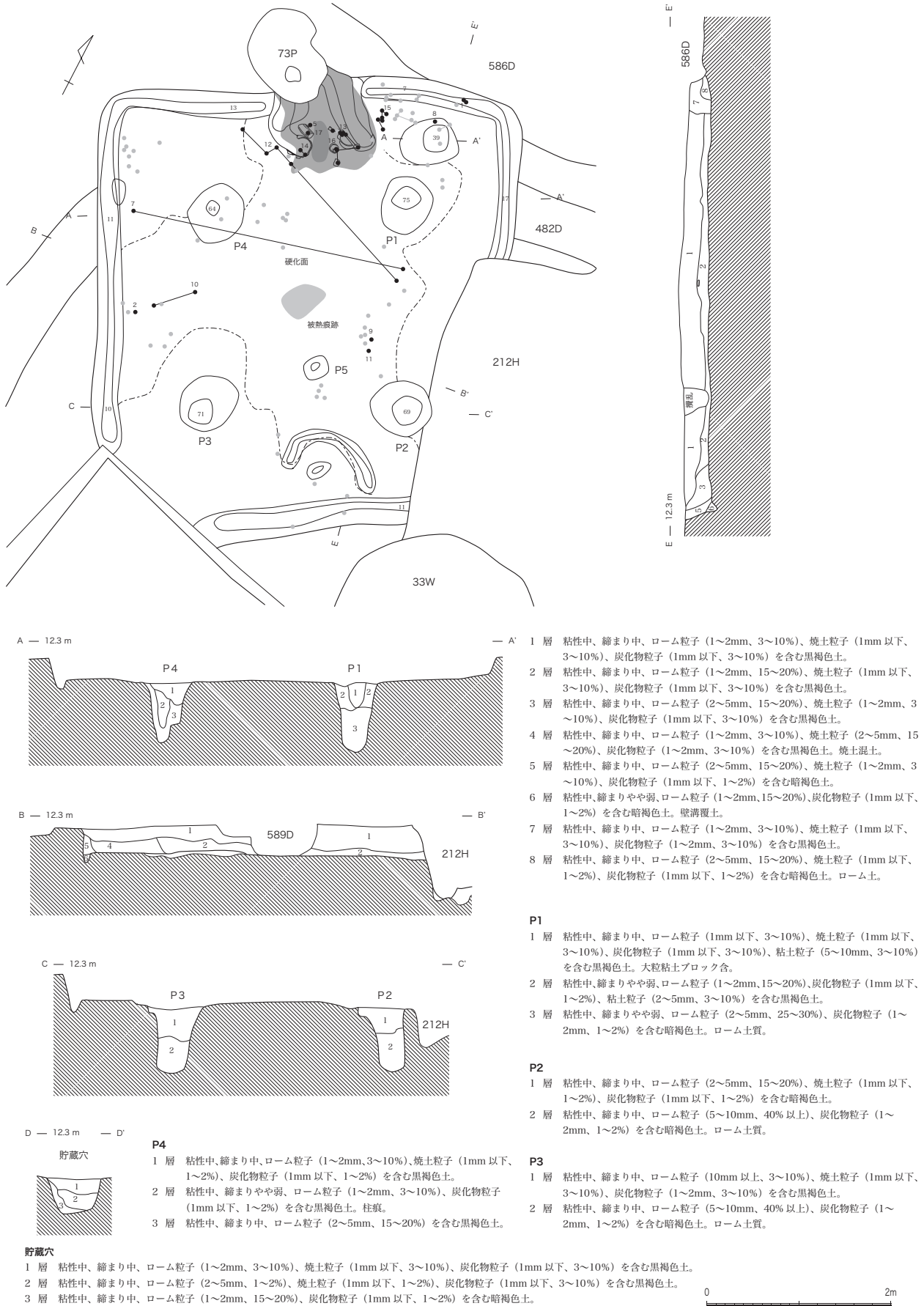
213号住居跡

遺構 (第120・121図)

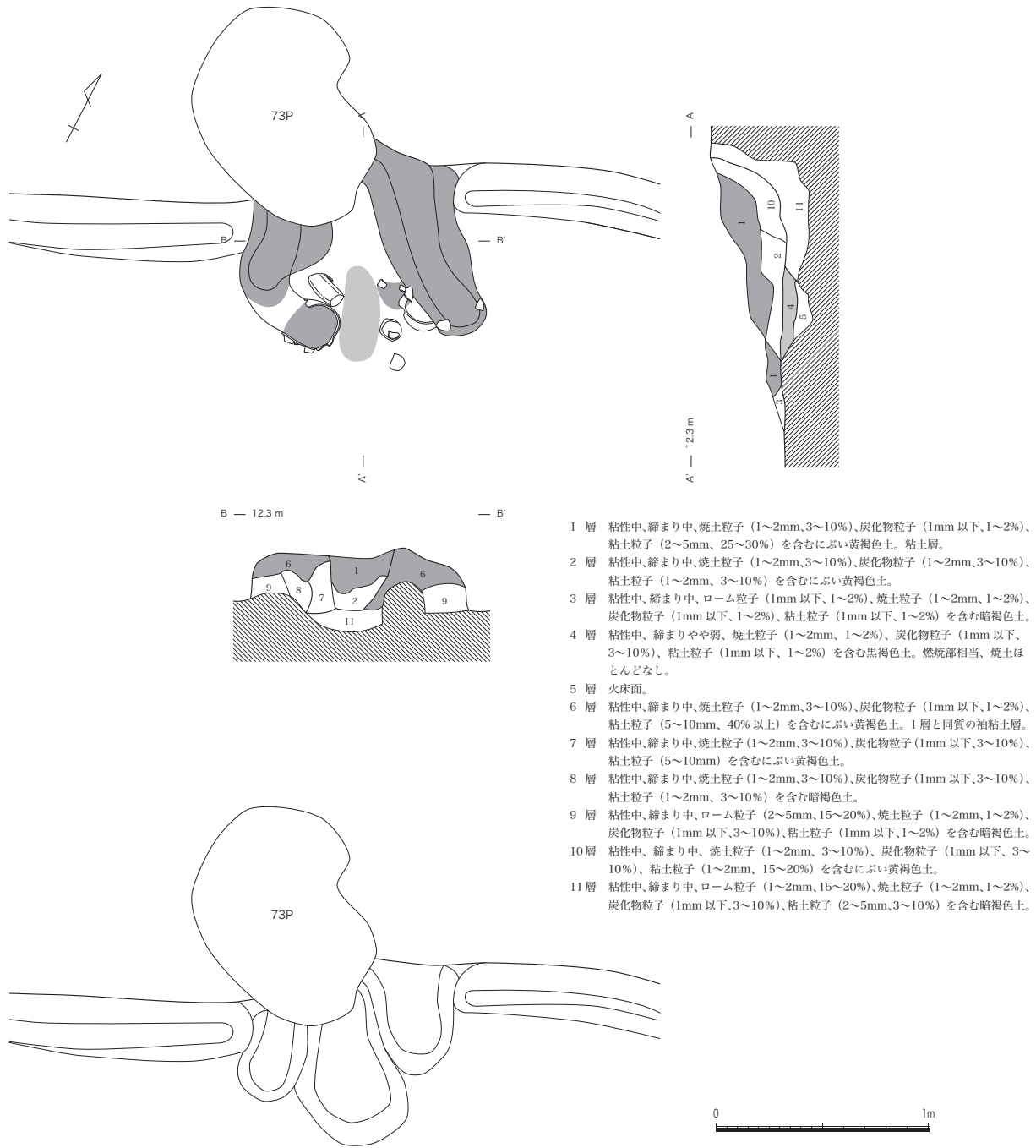
[位置] C・D-4・5グリッド。

[住居構造] 東側を212号住居跡に切られる。南コーナーは調査区域外。(平面形)正方形。(規模)5.13

第3章 検出された遺構と遺物



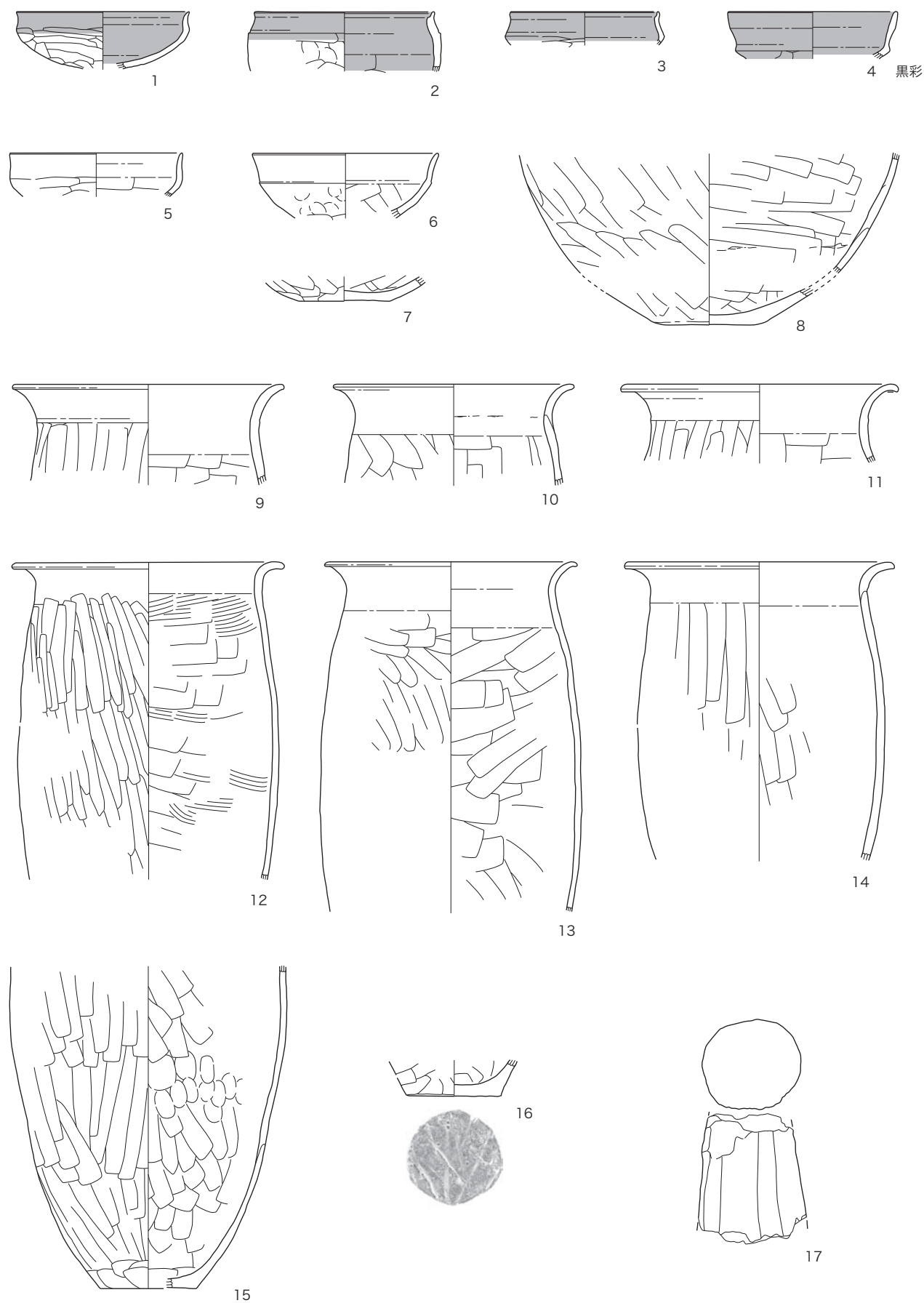
第120図 213号住居跡 (1/60)



第 121 図 213 号住居跡カマド (1/30)

× 4.67m。(主軸方向) N-28° -W。(壁高) 18 ~ 27cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅は 20 ~ 33cm・下幅・2 ~ 17cm・深さ 5 ~ 8cm を測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面・貯蔵穴にかけての範囲と南西壁中央付近が良く硬化している。中央には窪みを伴う被熱痕跡がある。(床面レベル) 標高 11.84 ~ 11.90m。(カマド) 北西壁中央に位置する。長さ不明・幅 105cm を測る。煙道部は 73 号ピットに壊されている。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として灰白色粘土を用いて構築。天井部が一部落ち込んだ状態で残る。燃焼部上面より浮いたレベルに上下端を欠損した土製支脚を検出。(柱穴) 主柱穴 4 基と南東側中央に小ピット

第3章 検出された遺構と遺物



第122図 213号住居跡出土遺物 (1/4)

ト (P5) を確認。深さは 64～75cm を測る。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナー近くに位置する。平面不整楕円形。規模は 63×51cm・深さ 39cm を測る。覆土はロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。(入口施設) 南東壁中央に位置する。凸堤と梯子穴を確認。(覆土) 8層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。西コーナー付近の地山直上に焼土の堆積を確認。

[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。

[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

[所見] 焼土の存在から、焼失住居の可能性はあるが、他に明確な痕跡は見られなかった。

遺物 (第 122 図、第 40・59 表)

土師器坏 (1～6)、甕 (7～16)、土製支脚 (17) を図示した。

214 号住居跡

遺構 (第 123・124 図)

[位置] F-4・5、G-5 グリッド。

[住居構造] 北・南コーナーは調査区域外。(平面形) 正方形。(規模) 5.26×5.72m。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 21～32cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。壁面にはピットが確認された。間隔が一定ではないが、概ねカマドの幅と同じ間隔 (90cm) で配置されていたものと見られる。底面はほぼ床面と同じレベルである。(壁溝) 上幅 14～30cm・下幅 1～11cm・深さ 9～12cm を測る。カマド部分を除いて全周する。底面にはピット状の窪みを多数看取。間隔が空く部分は検出しきれなかった可能性があり、基本的に狭い間隔 (20cm 前後) で連続するものと見られる。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。北東・南西壁付近を除いて硬化面を確認。(床面レベル) 標高 11.80～11.88m。(カマド) 北西壁中央に位置する。長さ 75cm・幅 91cm・壁への掘り込み 33cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。左袖部先端には土師器甕の口縁部～胴部の大破片を逆位に据え、奥には同破片を 5 点、寝かせて積み上げて、芯材として埋め込んでいる。(柱穴) 主柱穴 4 基を確認。深さは 42～87cm を測る。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーとの間に位置する。規模は 82×57cm・深さ 39cm を測る。平面長方形。覆土は黒褐色土を基調とする。(入口施設) 南東壁中央に位置する。深さ 34cm を測る。壁溝と連結する形で窪みを確認。(覆土) 11 層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。中央付近の床面直上に焼土粒を多く含む堆積土 (第 6 層) あり。

[遺物] 中央付近に土師器甕大破片が床面直上で検出されたほかは、覆土中からの出土。支脚は入口脇の覆土出土。

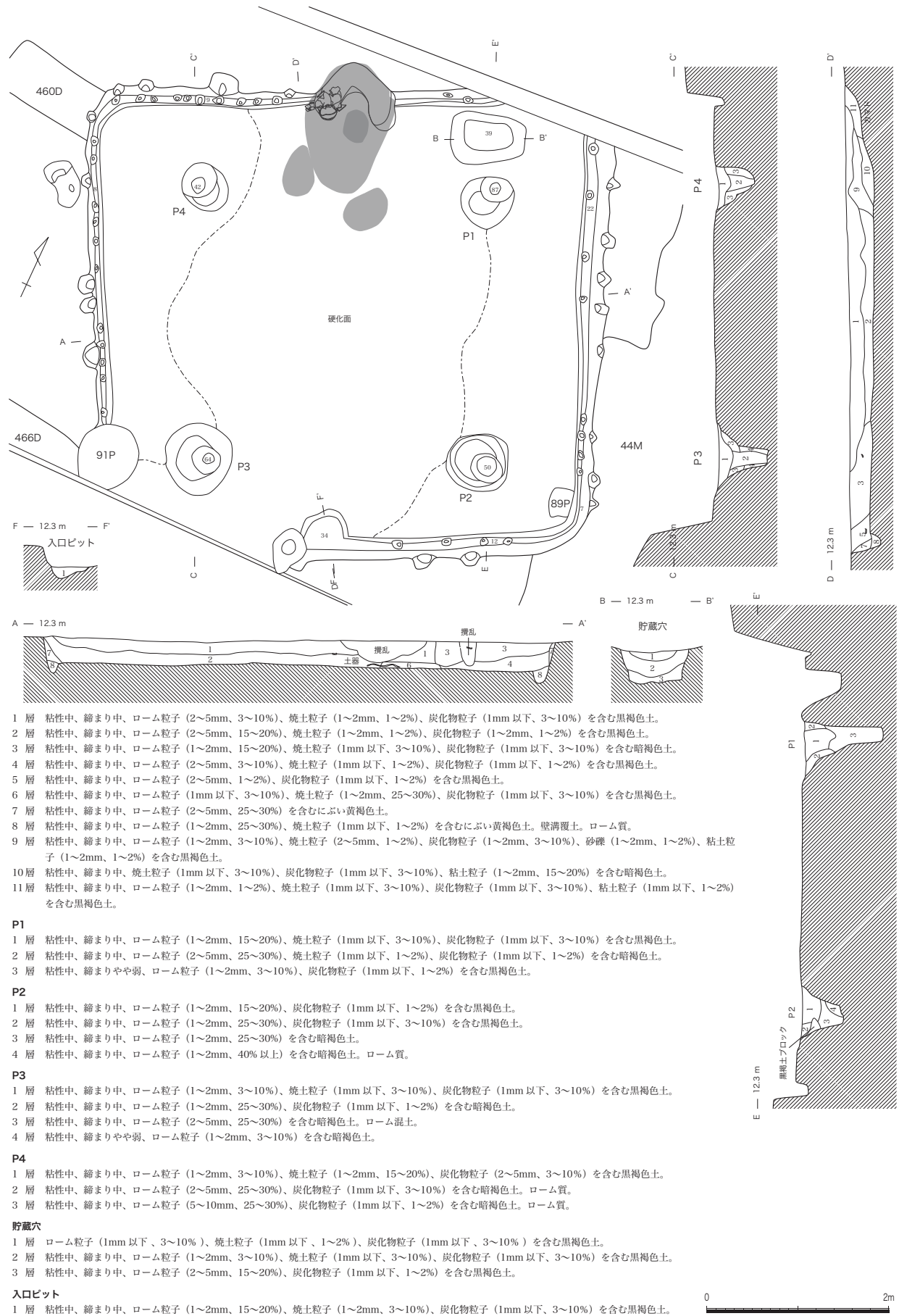
[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

[所見] 壁面の柱穴は掘方が浅く、いわゆる「大壁建ち」「壁立式」の構造を示すものではなく、竪穴の内壁材を示すものと思われる。

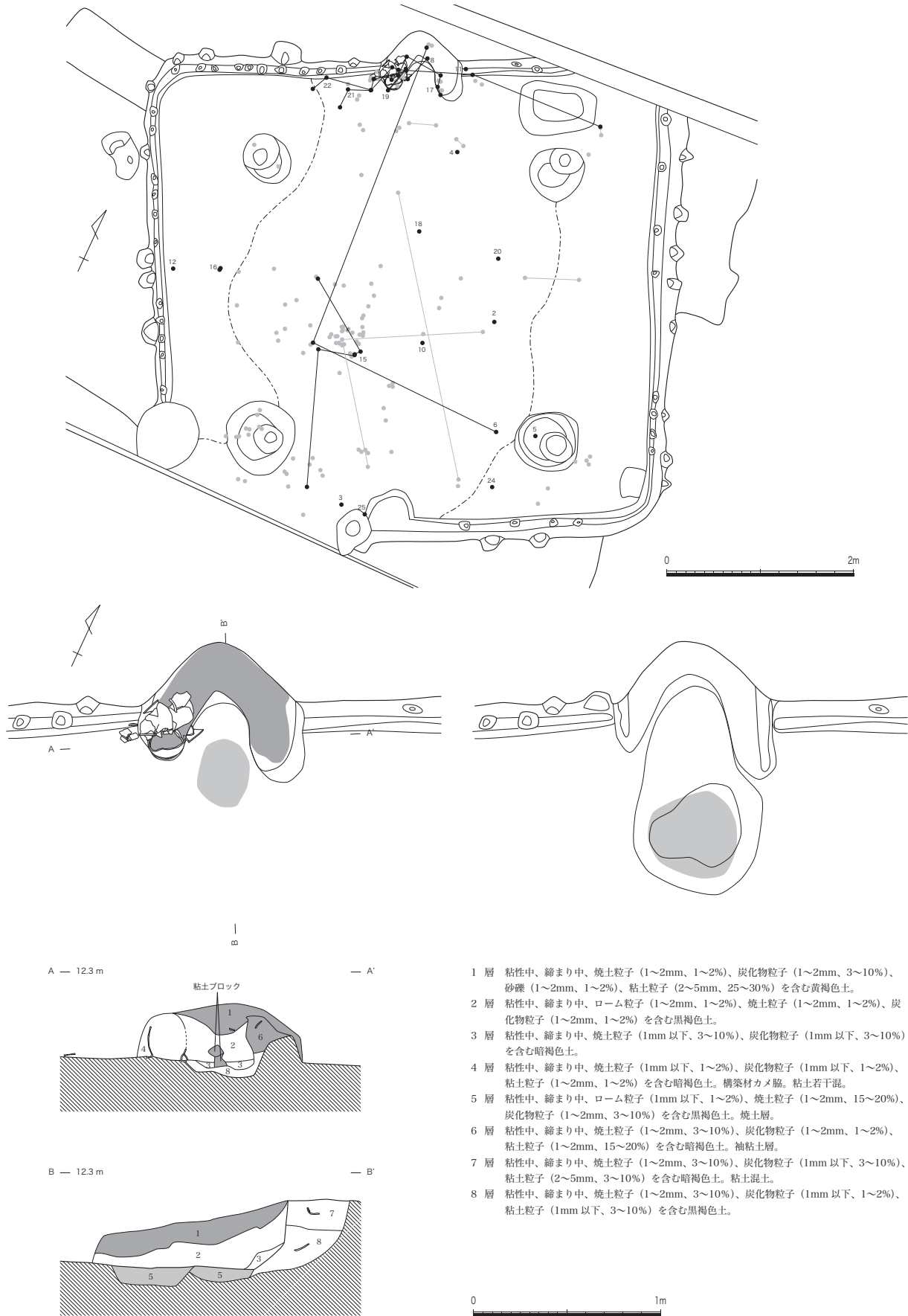
遺物 (第 125・126 図、第 41・59 表)

土師器坏 (1～12)、甕 (14)、甕 (15～23)、須恵器壺? (24)、ミニチュア土師器坏 (13)、土製支脚 (25) を図示した。

第3章 検出された遺構と遺物

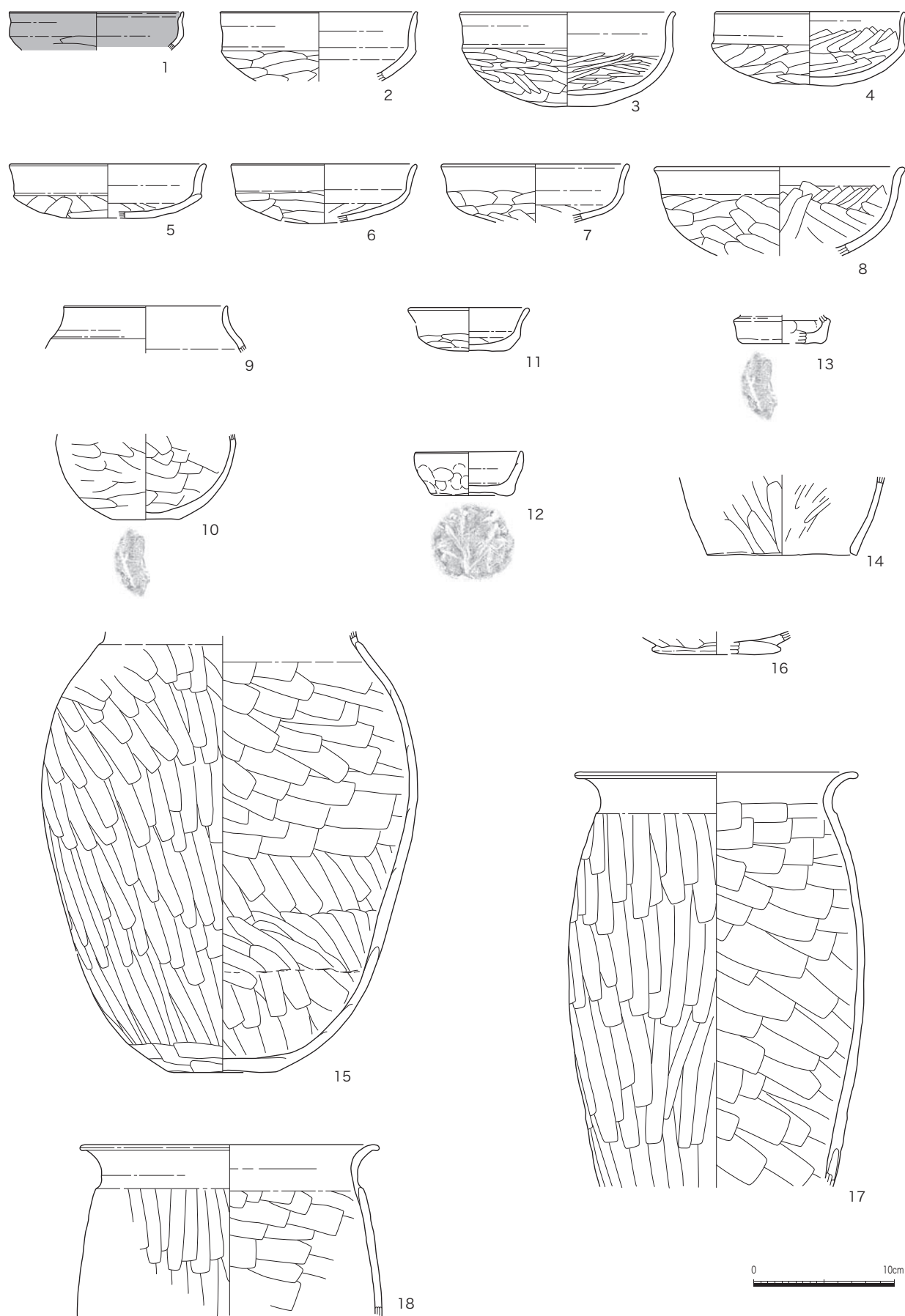


第123図 214号住居跡 (1/60)

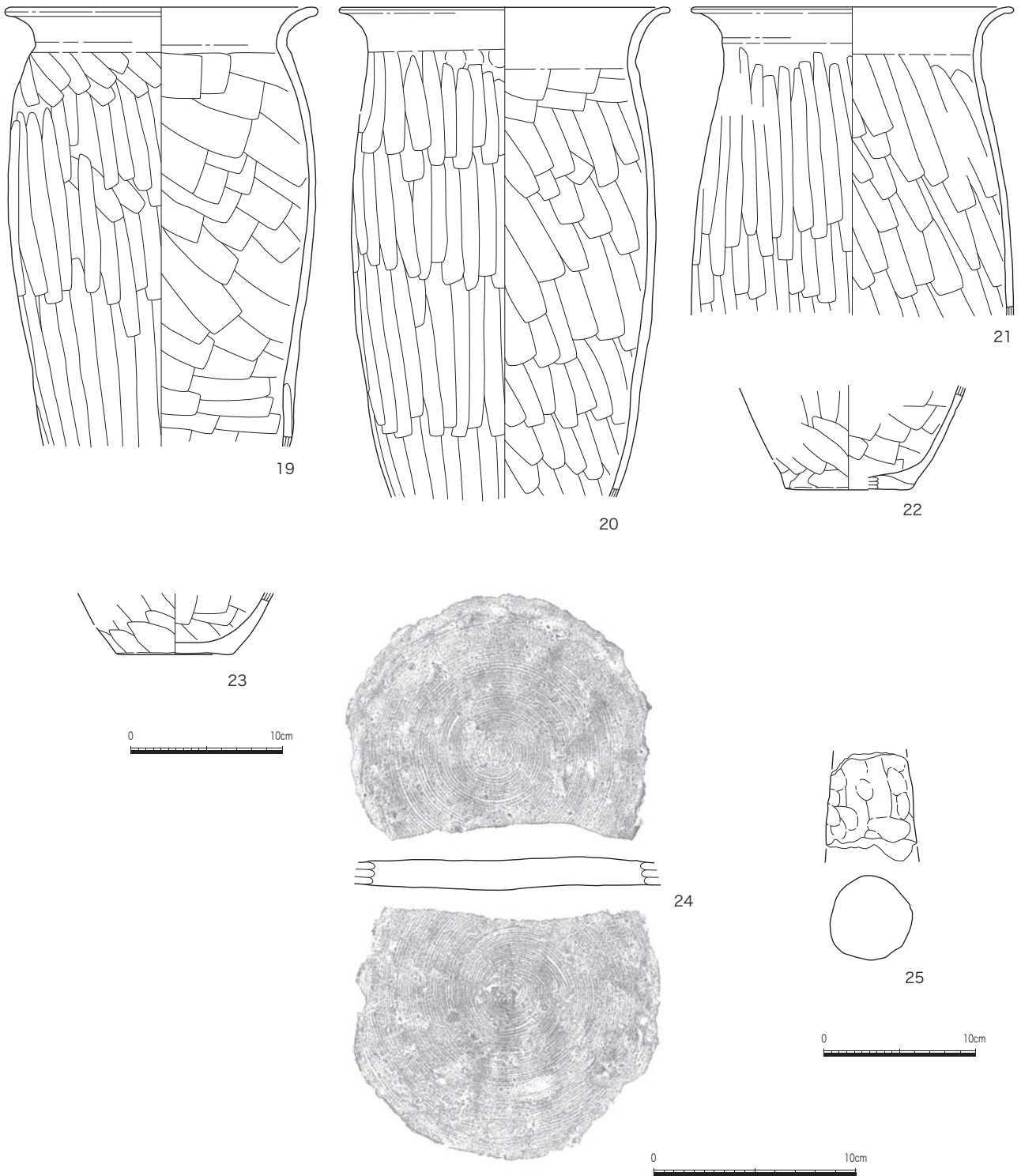


第 124 図 214 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第125図 214号住居跡出土遺物1 (1/4)



第126図 214号住居跡出土遺物2 (1/3・1/4)

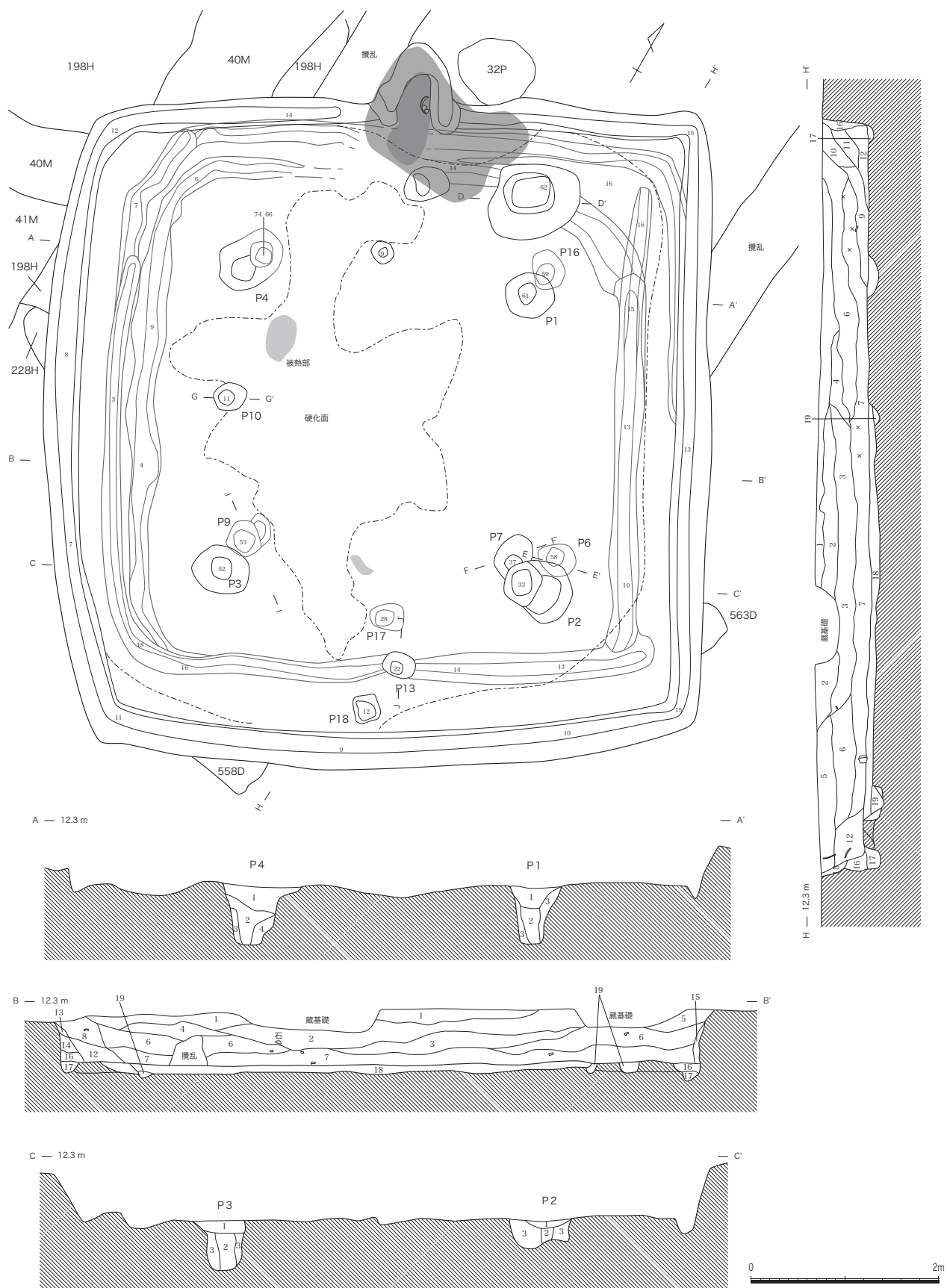
215号住居跡

遺構 (第127～130図)

[位置] C・D-1・2グリッド。

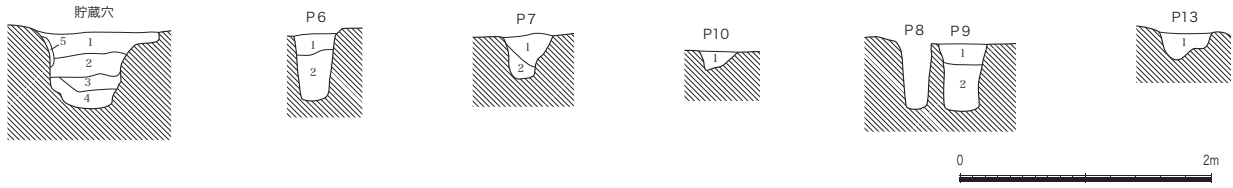
[住居構造] 228号住居跡を切り、198号住居跡に切られる(床面レベルは198号住居跡が上位)。床下から壁溝が確認されたことから、住居プランの拡張が行われたものと思われる。拡張後をA、拡

第3章 検出された遺構と遺物

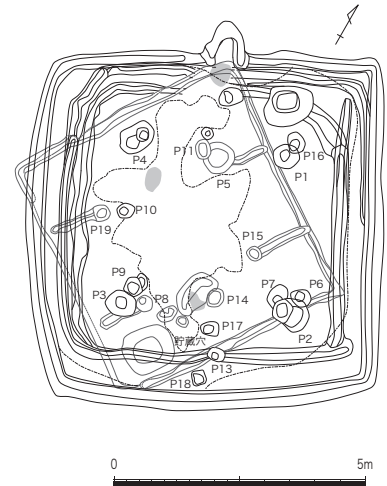


第127図 215号住居跡1 (1/60)

D — 12.3 m — D' E — 12.3 m — E' F — 12.3 m — F' G — 12.3 m — G' I — 12.3 m — I' J — 12.3 m — J'



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1~2mm、3~10%）を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（2~5mm、15~20%）、炭化物粒子（1~2mm、15~20%）を含む黒褐色土。焼土混じる
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、3~10%）を含む黒褐色土。焼土混じる
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1mm以下、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1mm以下、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。床面上。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。
- 11層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。10層より層。
- 12層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。
- 13層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。ローム主体。
- 14層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 15層 粘性中、締まり中、ローム粒子（5~10mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。
- 16層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、3~10%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、3~10%）を含む暗褐色土。ローム主体。
- 17層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、15~20%）を含む黒褐色土。壁溝覆土。
- 18層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、15~20%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、3~10%）を含む黒褐色土。
- 19層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。



貯蔵穴

- 1層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まりやや弱、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり弱、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含む暗褐色土。
- 5層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。

P1

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。柱痕。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1~2mm、25~30%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。ローム主体。

P2

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1mm以下、1~2%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む黒褐色土。柱痕。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、焼土粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。ローム混じる。

P3

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。柱痕。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（5~10mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。

P4

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（5~10mm、15~20%）、焼土粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（2~5mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。柱痕。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（5~10mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。ローム混土。
- 4層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子（1~2mm、15~20%）、焼土粒子（1mm以下、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。

P6

- 1層 粘性中、締まり強、ローム粒子（2~5mm、15~20%）、炭化物粒子（1mm以下、1~2%）を含む濃い黄褐色土。ロームブロック混土。住居貼床相当と思われる。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（5~10mm、15~20%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含む黒褐色土。

P7

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1~2mm、3~10%）を含む黒褐色土。

P9

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。ロームブロック混土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1~2mm、1~2%）、炭化物粒子（1~2mm、1~2%）を含む黒褐色土。

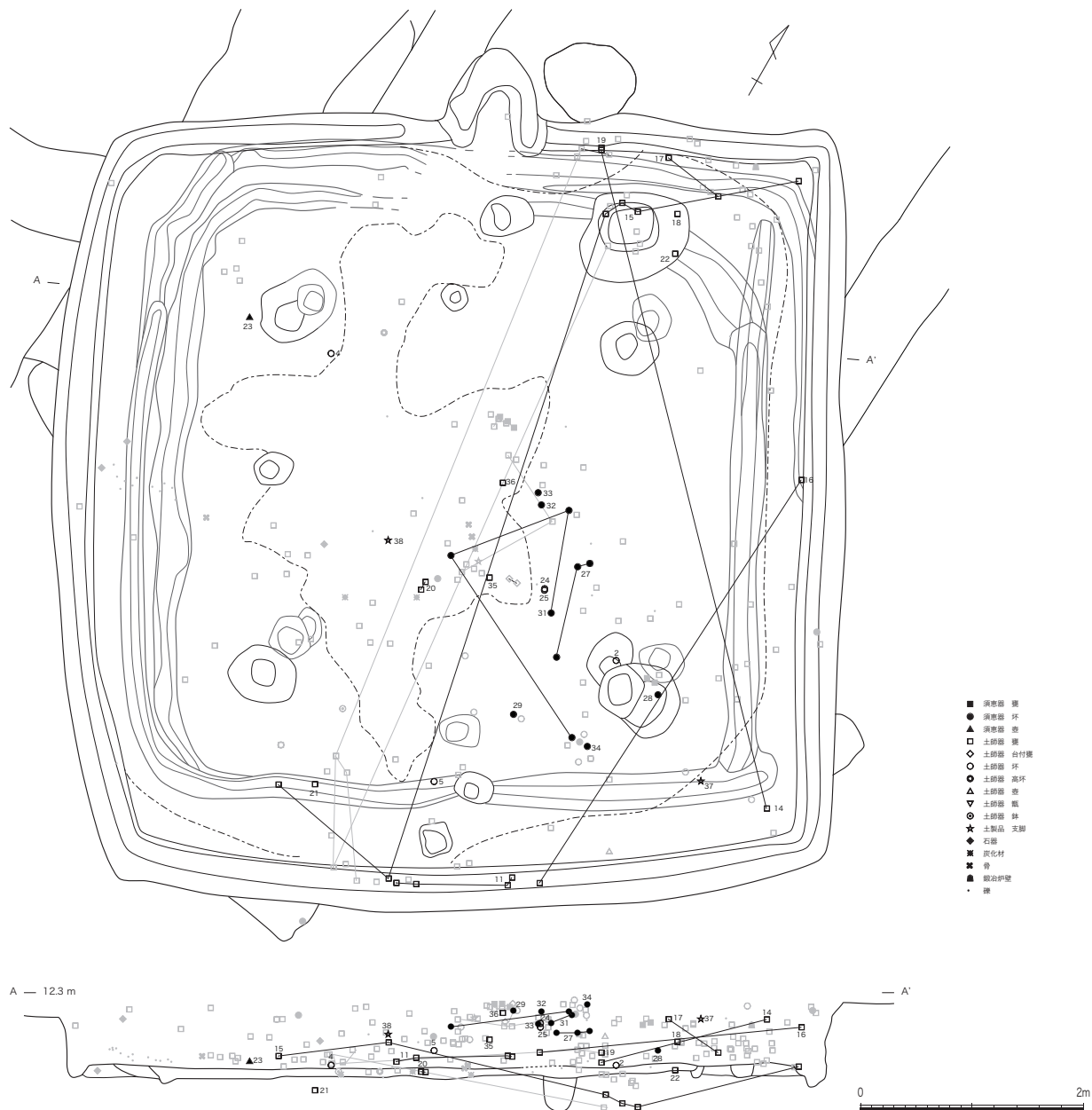
P10

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（1mm以下、3~10%）、炭化物粒子（1mm以下、3~10%）を含む黒褐色土。

P13

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子（2~5mm、3~10%）、焼土粒子（1mm以下、1~2%）を含む暗褐色土。入口ビット。

第128図 215号住居跡2 (1/60・1/150)

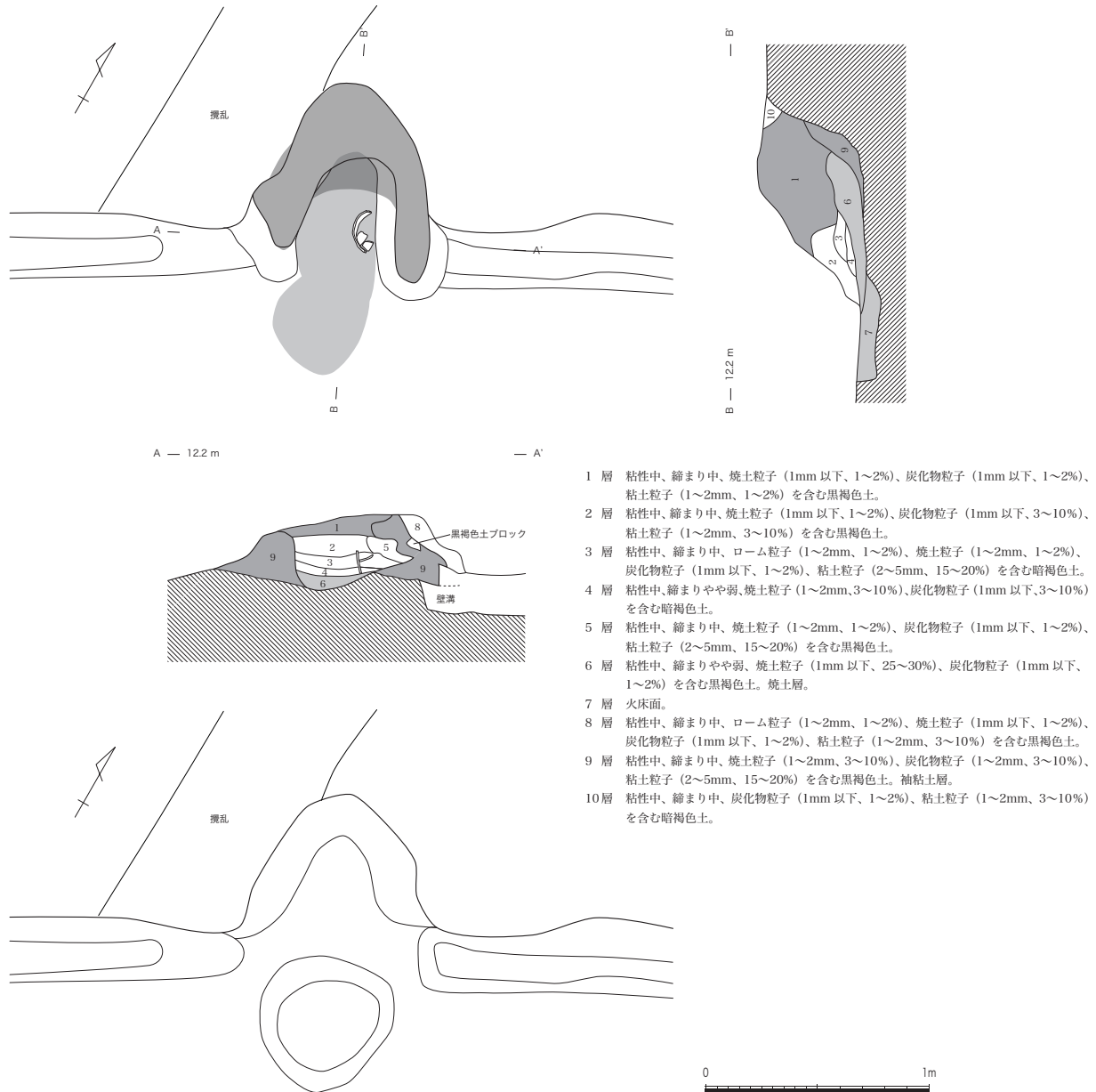


第129図 215号住居跡遺物出土状態 (1/60)

張前の外側をB、内側をCとする。(平面形) A・Bともに正方形、Cは隅丸正方形。(規模) A : 7.18 × 7.16m。B : 5.94 × 6.46m。C : 5.69 × 5.61m。(主軸方向) N-30° -W。(壁高) A : 42 ~ 56cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。B・C : 不明。(壁溝) A : 上幅 25 ~ 38cm ・ 下幅 8 ~ 20cm ・ 深さ 4 ~ 18cm を測る。カマド部分を除き全周する。

B : 上幅 15 ~ 23cm ・ 下幅 3 ~ 13cm ・ 深さ 11cm を測る。カマド跡が確認されなかったが、A住居と同様、北カマドで、カマド部分を除き全周するものと思われる。南東壁はC住居と重複、北東壁のほとんどはA住居と重複する。

C : 上幅 20 ~ 33cm ・ 下幅 8 ~ 15cm ・ 深さ 4 ~ 11cm を測る。B住居と同様、カマド部分を除き、全周するものと思われる。北東・南東壁はB住居と重複。(床面) A : 貼床は 5 ~ 10cm の厚さで施さ



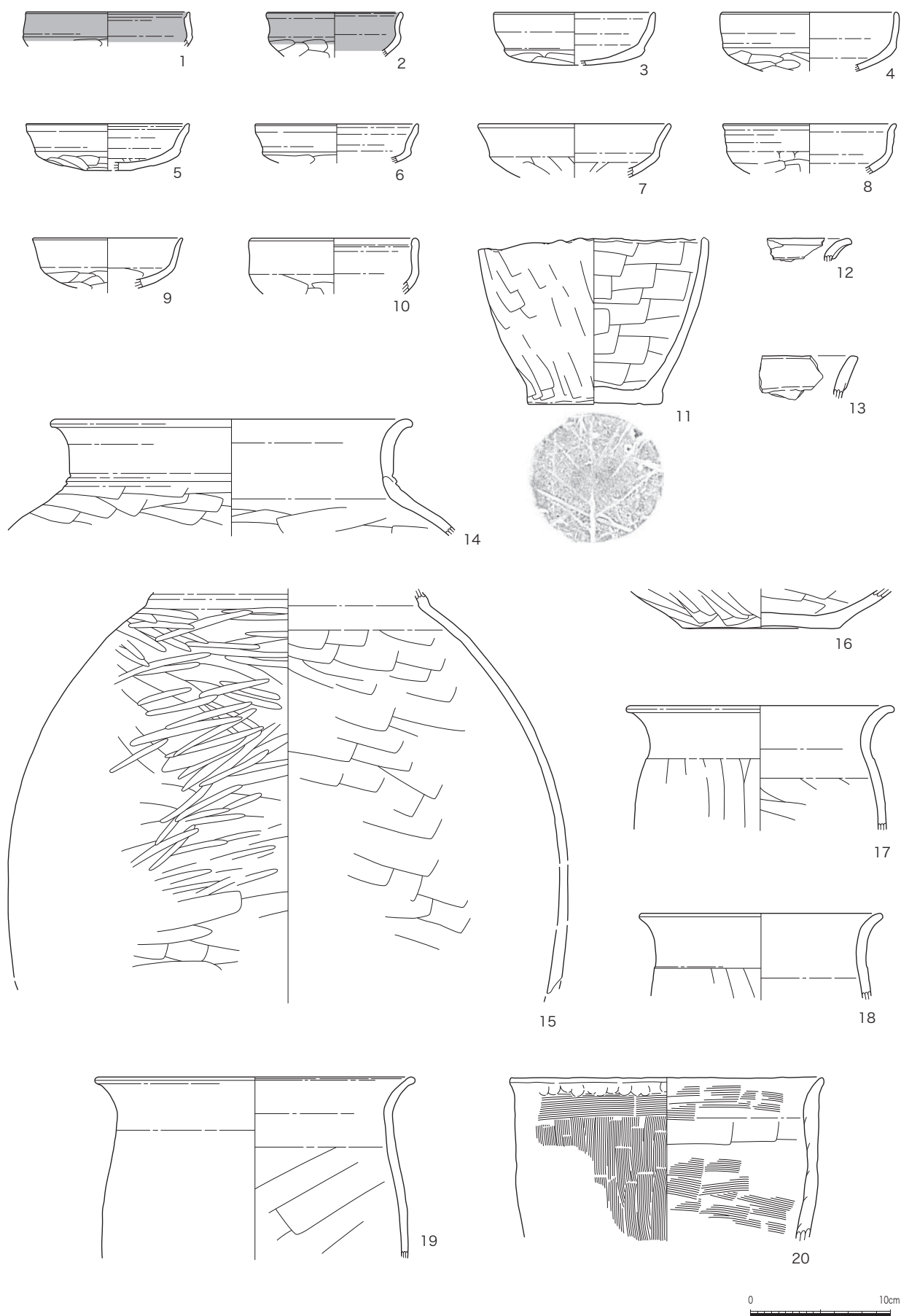
第130図 215号住居跡カマド (1/30)

れていた。カマド前面及び壁際に硬化面を確認。中央部は軟弱であった。

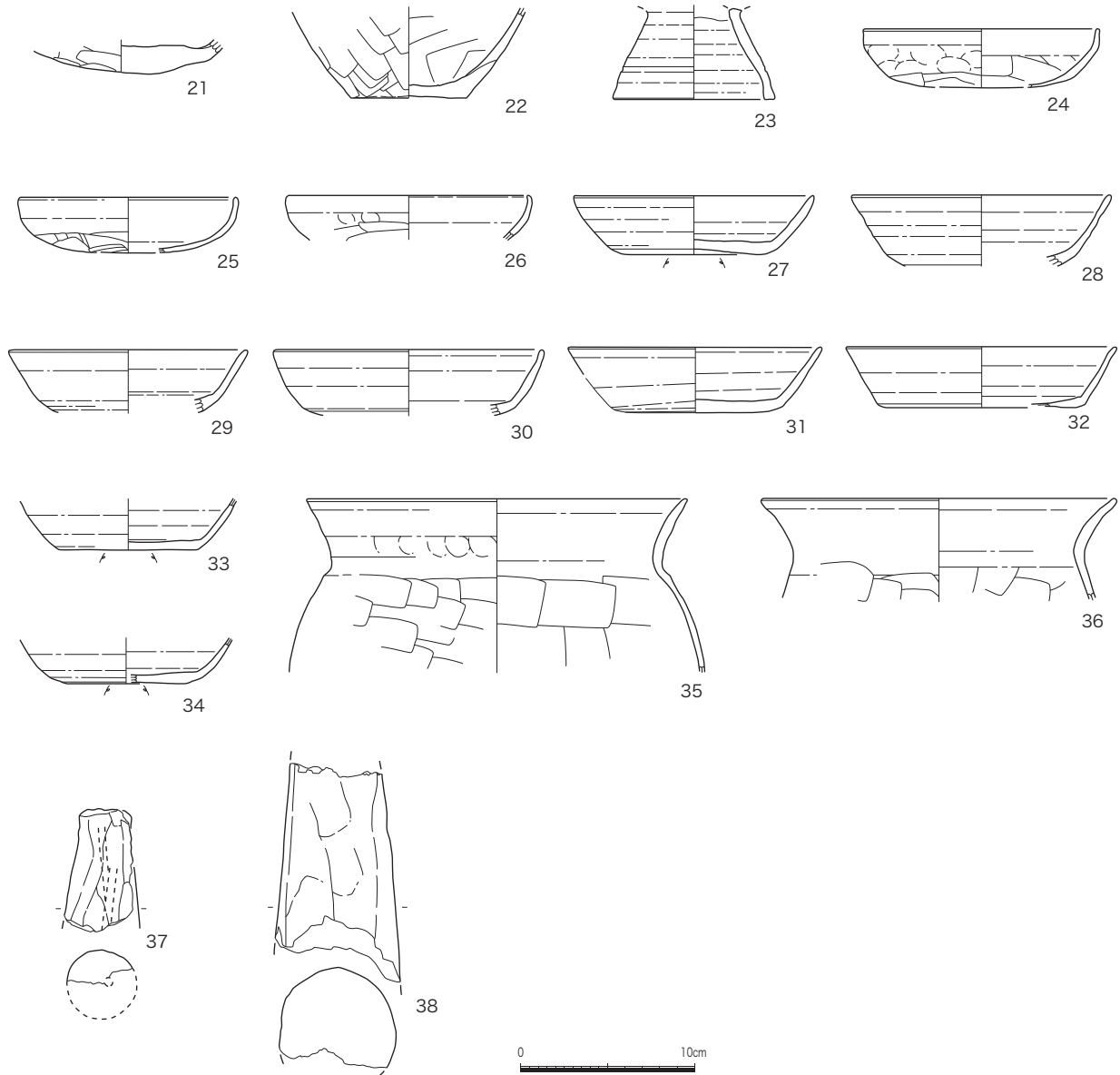
B・C：薄く貼床がなされていた。A住居の貼床を剥がした状況で確認。中央南西側に硬化面を確認。P4 東側の床面上に焼土（被熱痕跡）を確認。（床面レベル）A：11.59～11.69m。（カマド）A：北西壁中央に位置する。長さ 97cm・幅 98cm・壁への掘り込み 56cm を測る。両袖部の地山ローム削り残しの基礎はほとんどなく、粘土（上部は灰白色粘土）を用いて構築。

B・C：確認されなかった。（柱穴）A：主柱穴 4 基（P1～4 南側）を確認。深さ 33～66cm を測る。

B・C：主柱穴 6 基（P4 北側・6・9・16）を確認。深さ 53～74cm を測る。東角については壁との距離から、P6 は B 住居に伴い、C 住居の主柱穴は P7 と考えるべきか。（貯蔵穴）A：カマド右側、北コーナーとの間に位置する。平面長方形。規模は 99×80cm・深さ 62cm を測る。覆土は黒褐色土を基調とする。



第131図 215号住居跡出土遺物1 (1/4)



第132図 215号住居跡出土遺物2 (1/4)

B・C：確認されなかった。(入口施設) A：南東壁寄り中央に入口梯子穴 (P13) を確認。深さ22cmを測る。

B・C：南東壁寄り中央に入口梯子穴 (P17) を確認。(覆土) 19層、自然堆積。第2層には焼土粒子が多く含まれ、レンズ状堆積を見せる第1～4層は焼土・炭化物粒子を比較的多く含む。第18・19層はB・C住居覆土 (A住居貼床)。

[遺物] 6世紀中葉・7世紀中葉・8世紀中葉の土師器・須恵器破片が覆土中に散在。6世紀中葉の土器は床面下と覆土中位に確認されることから、228号住居跡に伴うもの、7世紀中葉の土器は床面付近と覆土下層に確認されることから本住居跡に伴うものと判断した。8世紀中葉の土器は覆土上半に集中し、平面的には東側に分布することから、概ね第1～4層の堆積に伴うものと推察される。南側覆土中から、獣骨と馬臼歯が検出されたが、これに伴う掘方は確認できなかった。

[時期] 古墳時代後期 (7世紀中葉)。

[所見] 本住居跡は6世紀中葉の228号住居跡を切って構築された、7世紀中葉の住居跡と判断した。覆土の上層(第1~4層)は、焼土・炭化物の含有を特徴とし、8世紀中葉に本住居埋没後の窪みに堆積したものと考えられる。馬歯の埋没はこれに伴うものであろうか。

遺物 (第131・132図、第42・59表)

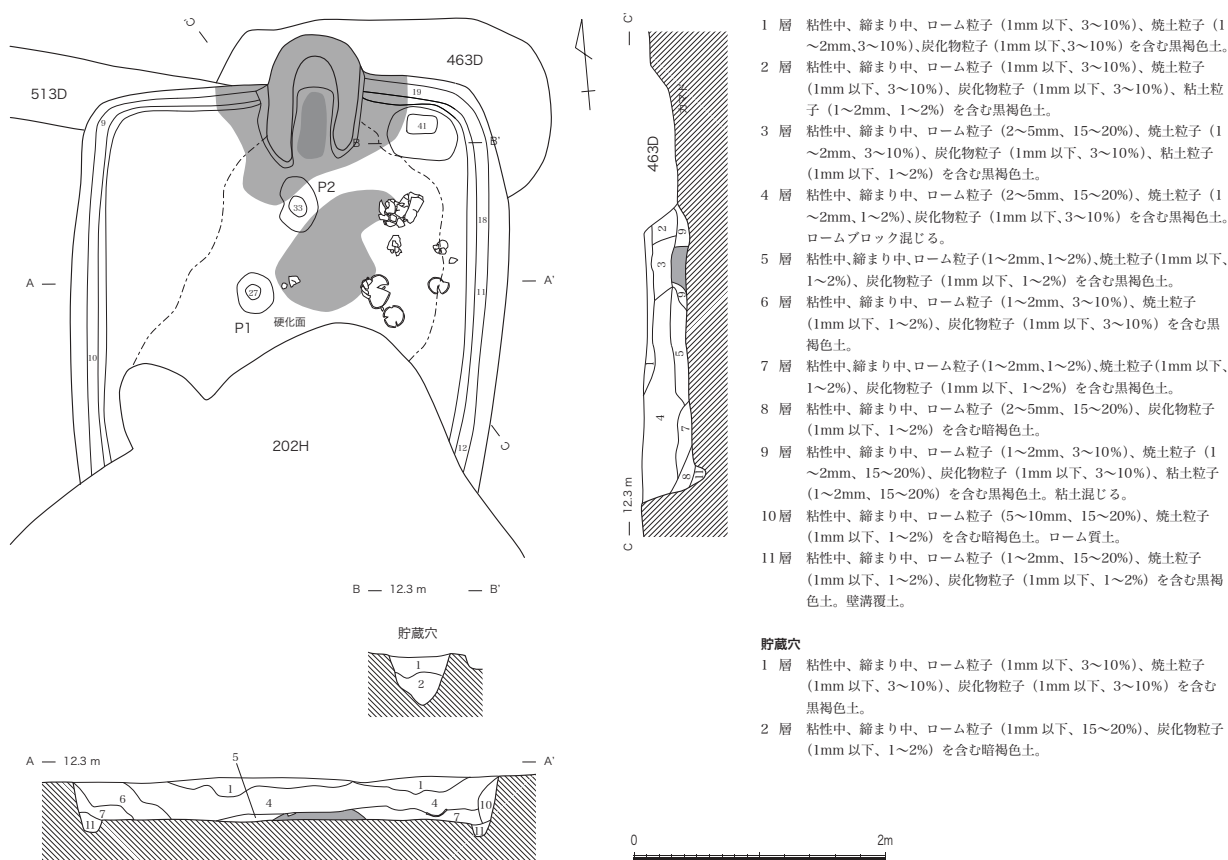
7世紀中葉の土師器は、坏(1~10)、甕転用鉢(11)、甑(12・13)、甕(14~22)、土製支脚(37・38)があり、8世紀中葉の土師器・須恵器(鳩山HBⅢ期)は、土師器坏(24~26)、須恵器坏(27~34)、甕(35・36)がある。23は須恵器の脚付長頸壺の脚部と見られる。

216号住居跡

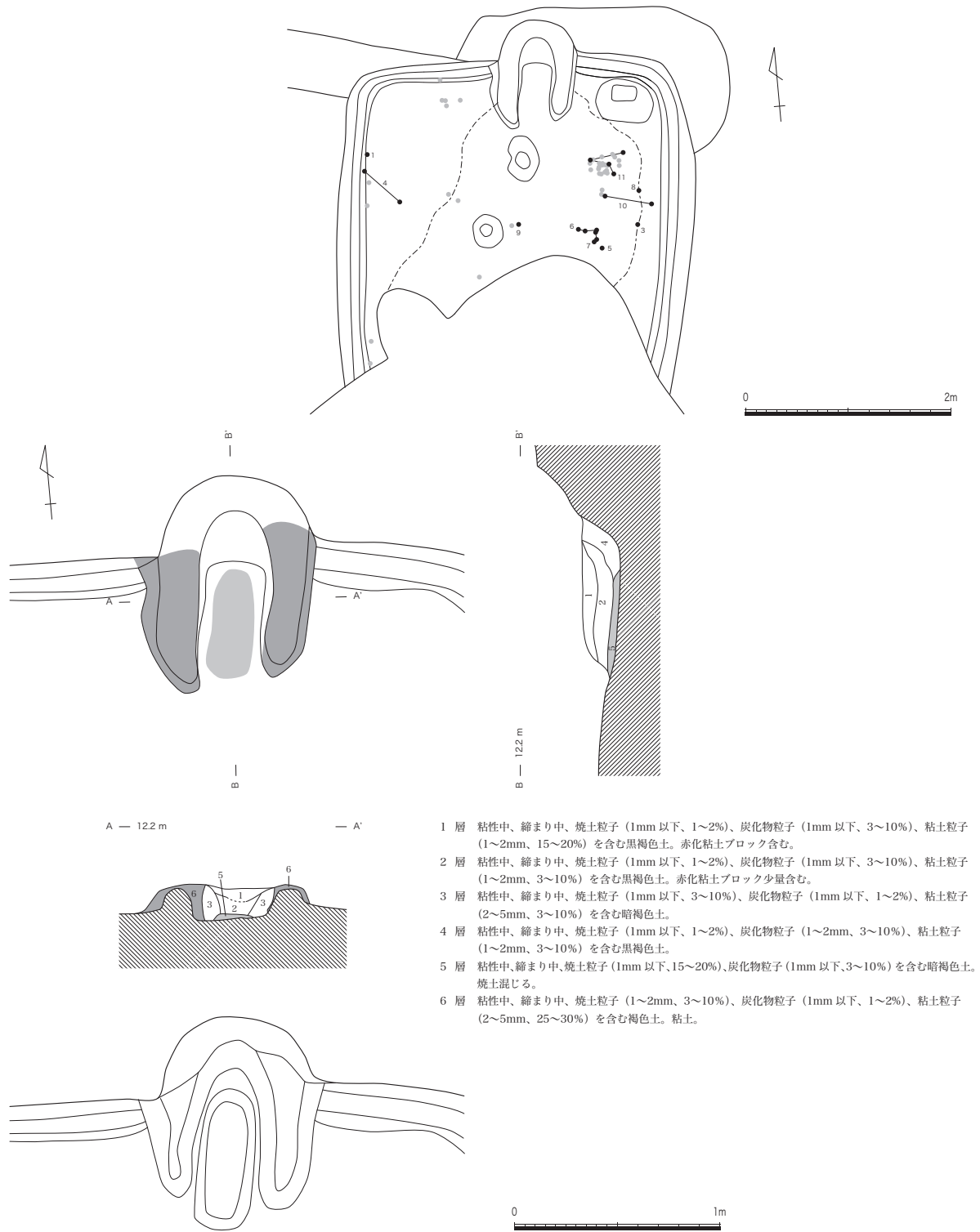
遺構 (第133・134図)

[位置] C-2・3グリッド。

[住居構造] 南側を202号住居跡に切られる。(平面形)不明。(規模)3.31×3.50m。(主軸方向)N-5°-E。(壁高)27~42cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝)上幅14~33cm・下幅4~10cm・深さ8~10cmを測る。確認された範囲では、カマド部分を除き全周する。(床面)貼床ではなく、タタキ床。壁際を除いて硬化面を確認。(床面レベル)標高11.82~12.17m。(カマド)北壁ほぼ中央に位置する。長さ105cm・幅88・壁への掘り込み31cmを測る。中世以降の463号土坑によって大きく削平されている。

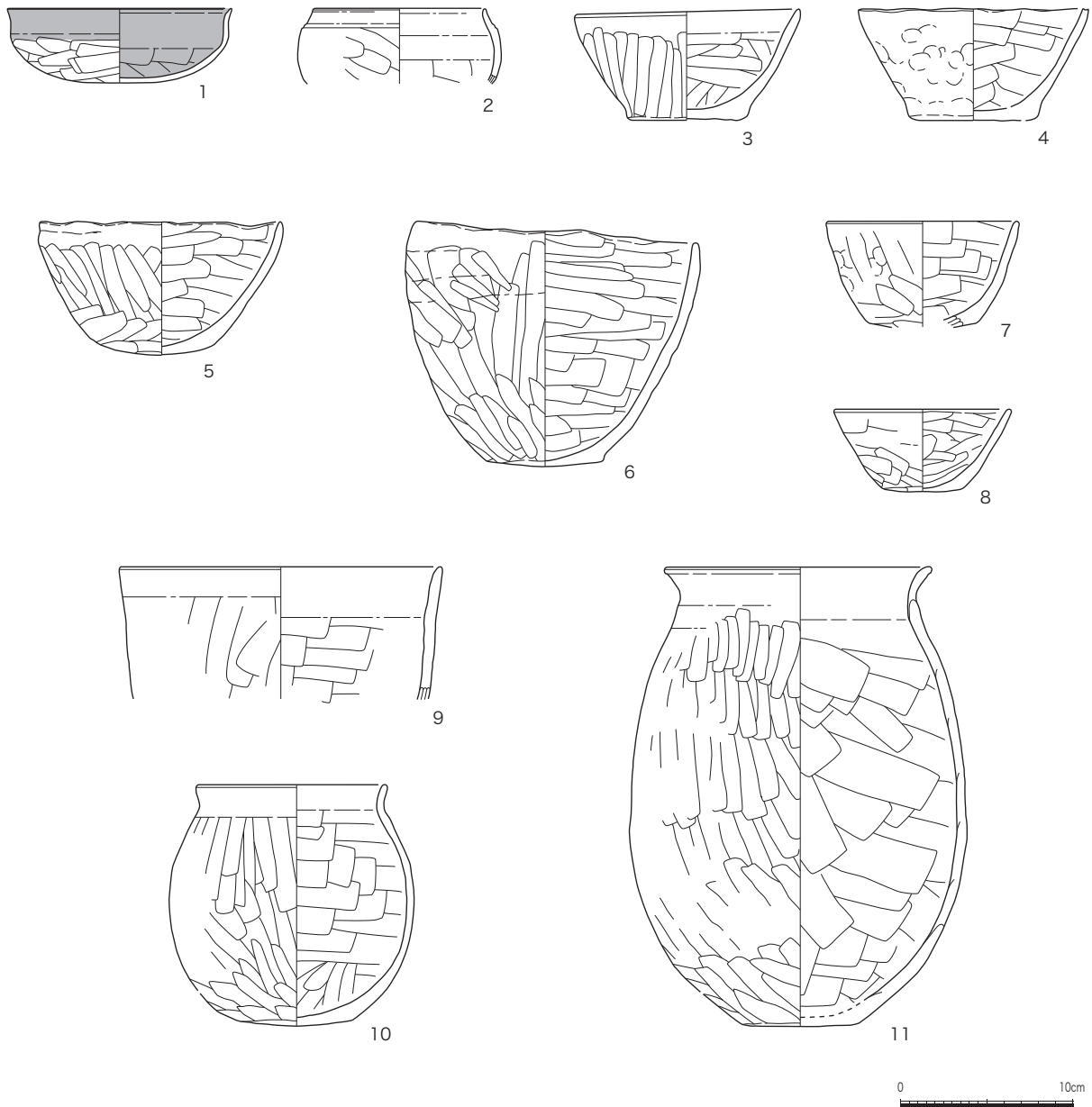


第133図 216号住居跡(1/60)



第 134 図 216 号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)

る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。(柱穴) 主柱穴は確認されなかった。(貯蔵穴) カマド左側、北東コーナーに位置する。平面隅丸長方形。規模は 57×43cm・深さ 41cm を測る。覆土は下層が暗褐色土、上層は黒褐色土。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 11 層、自然堆積か。大半を占める第 4 層はロームブロックを含む。カマド前面の粘土の堆積は、カマド崩壊粘土と一連のもの。



第 135 図 216 号住居跡出土遺物 (1/4)

[遺物] 東側に完形またはほぼ完形の土師器坏・鉢・甕が集中するが、床面から浮いた位置、第7層上面の出土。

[時期] 古墳時代後期（7世紀前葉）。

[所見] 無支柱穴の小型竪穴の可能性はある。

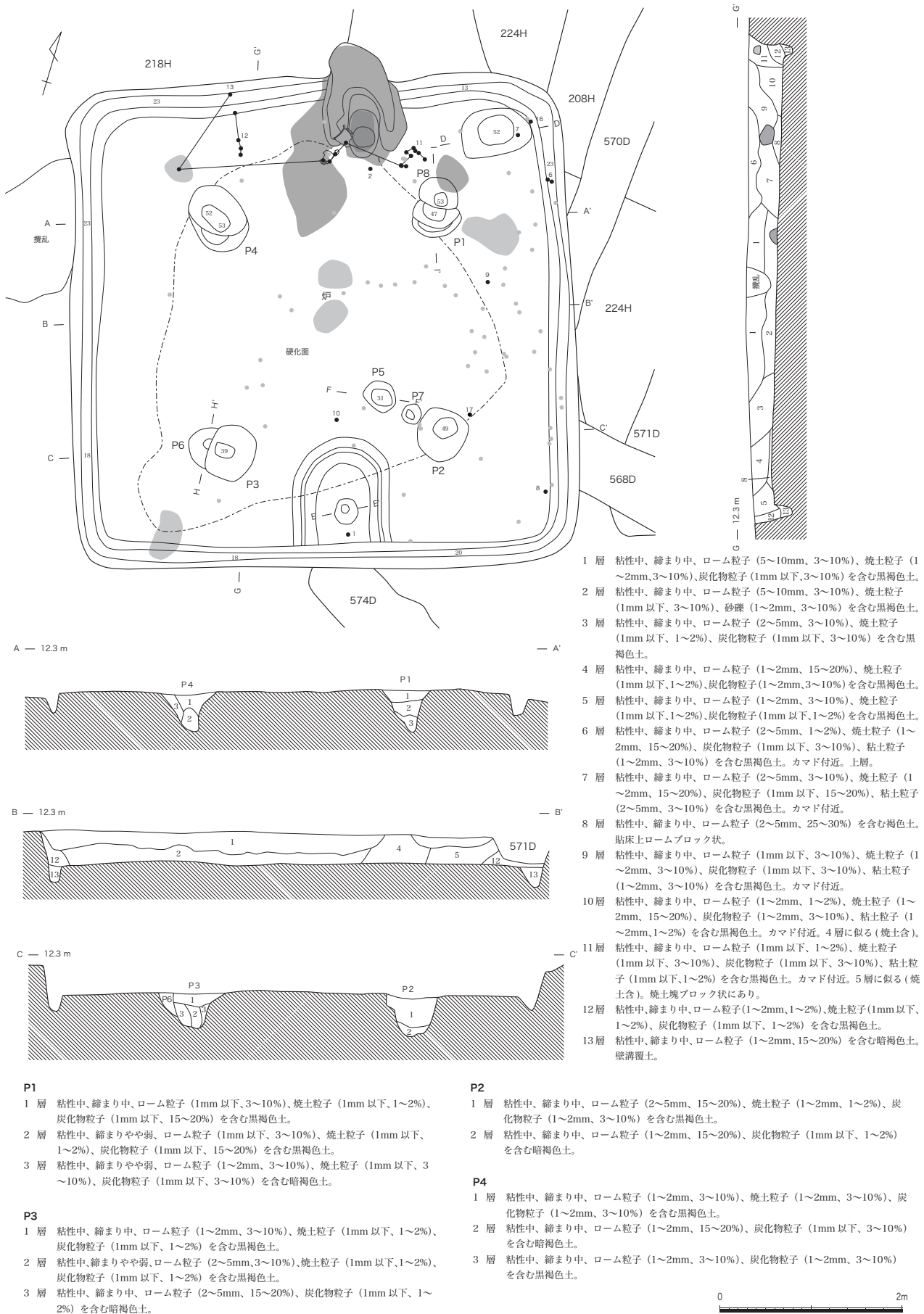
遺物 (第 135 図、第 43 表)

土師器坏（1～5）、鉢（3～8）、甕？（9）、甕（10・11）を図示した。

217 号住居跡

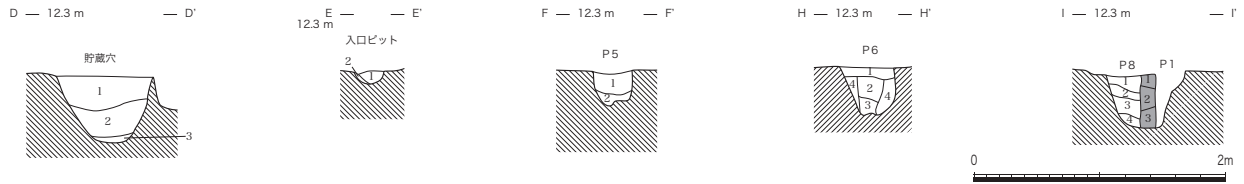
遺構 (第 136・137 図)

[位置] C・D-3・4グリッド。



第136図 217号住居跡1 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



貯蔵穴

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

入口ピット

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む暗褐色土。ローム土。

P5

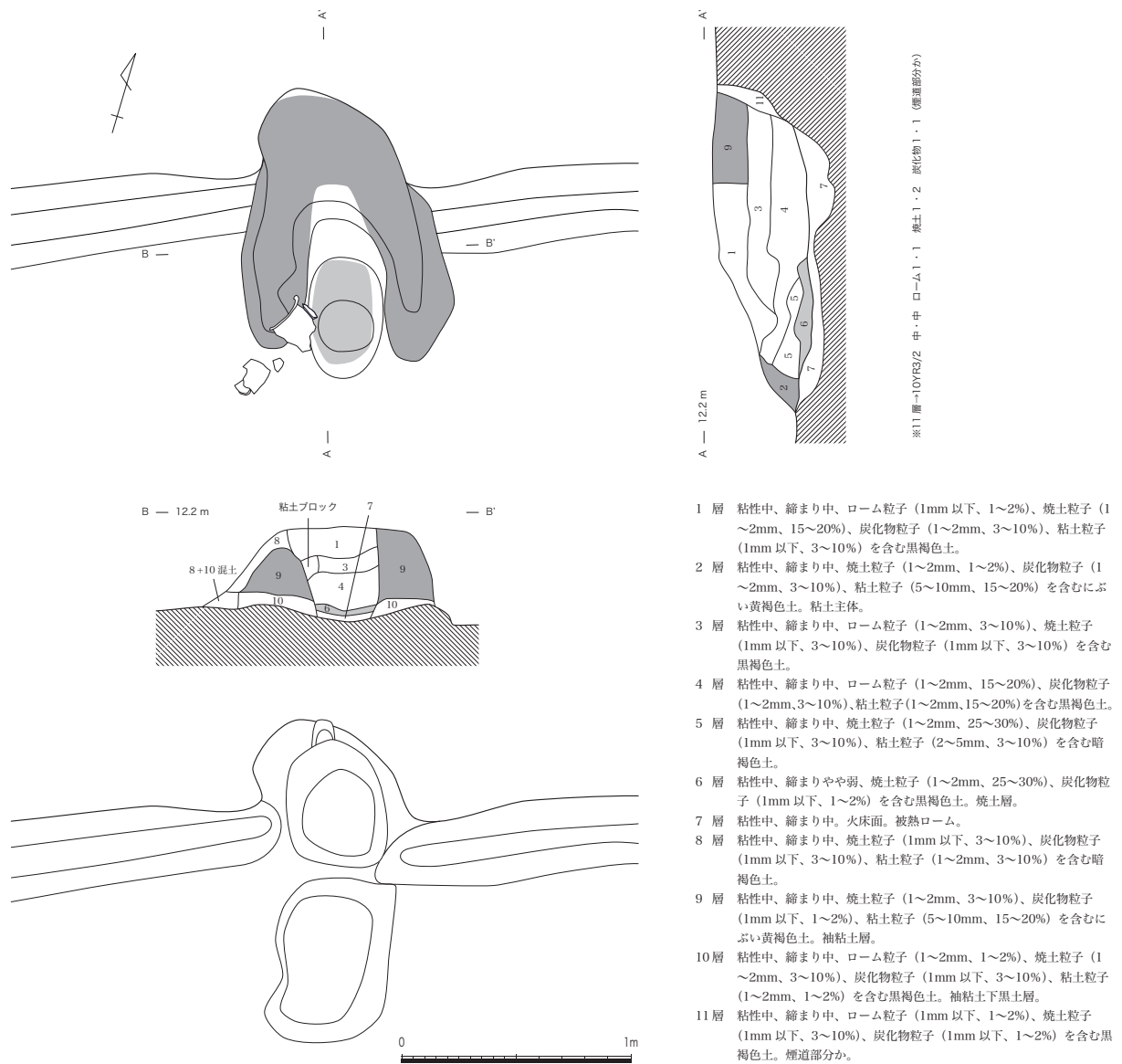
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 ローム粒子 (2~5mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。

P6

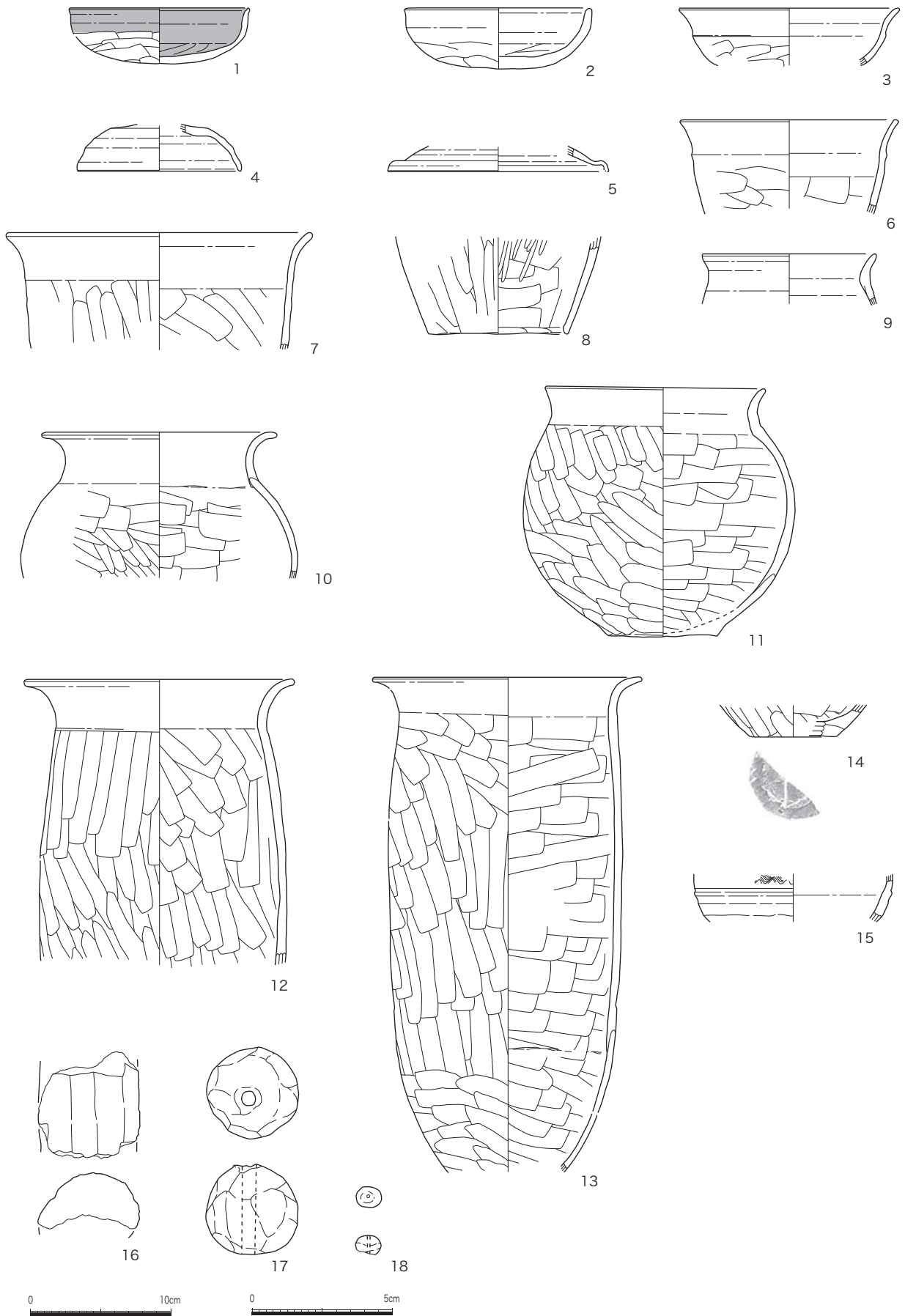
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。ローム土質。住居貼床相当。理めている？
- 2層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (5~10mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む暗褐色土。
- 3層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (5~10mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。

P8

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。ロームブロック混土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。



第137図 217号住居跡2 (1/60)・カマド (1/30)



第138図 217号住居跡出土遺物 (1/2・1/4)

[住居構造] 208号住居跡に切られ、218・224号住居跡を切る。(平面形) 正方形。(規模) 5.40×5.64m。(主軸方向) N-16°-W。(壁高) 20～37cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅22～36cm・下幅5～11cm・深さ10～21cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。壁際を除いて硬化面を確認。中央にはややはっきりしないが、被熱痕跡が認められた。(床面レベル) 標高11.80～11.94m。(カマド) 北西壁の北コーナー寄りに位置する。長さ118cm・幅93cm・壁への掘り込み38cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しはなく、ほとんどが粘土を用いて構築。(柱穴) 支柱穴4基を確認。深さは39～53cmを測る。うち、北側の2基(P1・4、内→外)と南西角のP3(西→東)は重複。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーに位置する。平面隅丸長方形。規模は75×54cm・深さ52cmを測る。覆土は黒褐色土を基調とする。(入口施設) 南東壁中央に位置する。深さ11cmを測る。凸堤と梯子穴を確認。(覆土) 13層、自然堆積。床面直上及び覆土中に粘土・焼土塊や炭化材が点在する。

[遺物] カマド左側の壁際の床面直上に口縁～胴上半部が逆位で出土。カマド前面と入口梯子穴の南で土師器坏の完形品が出土したが、床面より若干浮いた位置にある。ほかの土師器・須恵器破片は覆土中に散在。土玉は東角支柱穴P2の北脇覆土中、土製丸玉は住居北側の覆土中からの出土。土製支脚は破片で、北コーナー覆土中出土。

[時期] 古墳時代後期(7世紀前葉)。

[所見] 竪穴プランの変更は見られないが、支柱穴の重複から、建て直しが考えられる。焼土・炭化材の存在から、焼失住居と思われる。

遺物(第138図、第44・59表)

土師器坏(1～3)、須恵器蓋(4・5)、土師器鉢(6)、甑(7・8)、甕(9～14)、須恵器壺(15)、土製支脚(16)、土玉(17)、土製丸玉(18)を図示した。

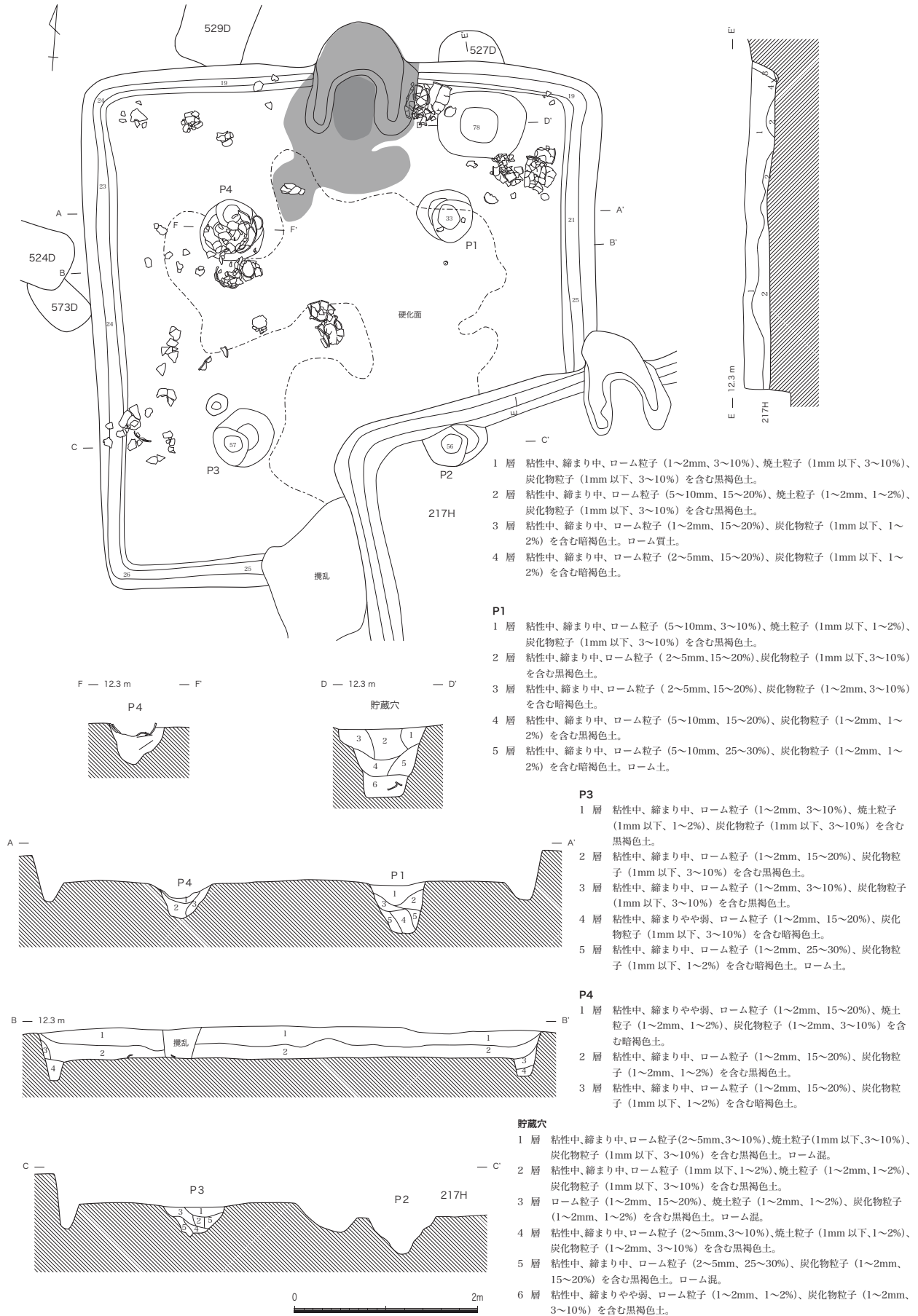
218号住居跡

遺構(第139・140図)

[位置] C-3・4グリッド。

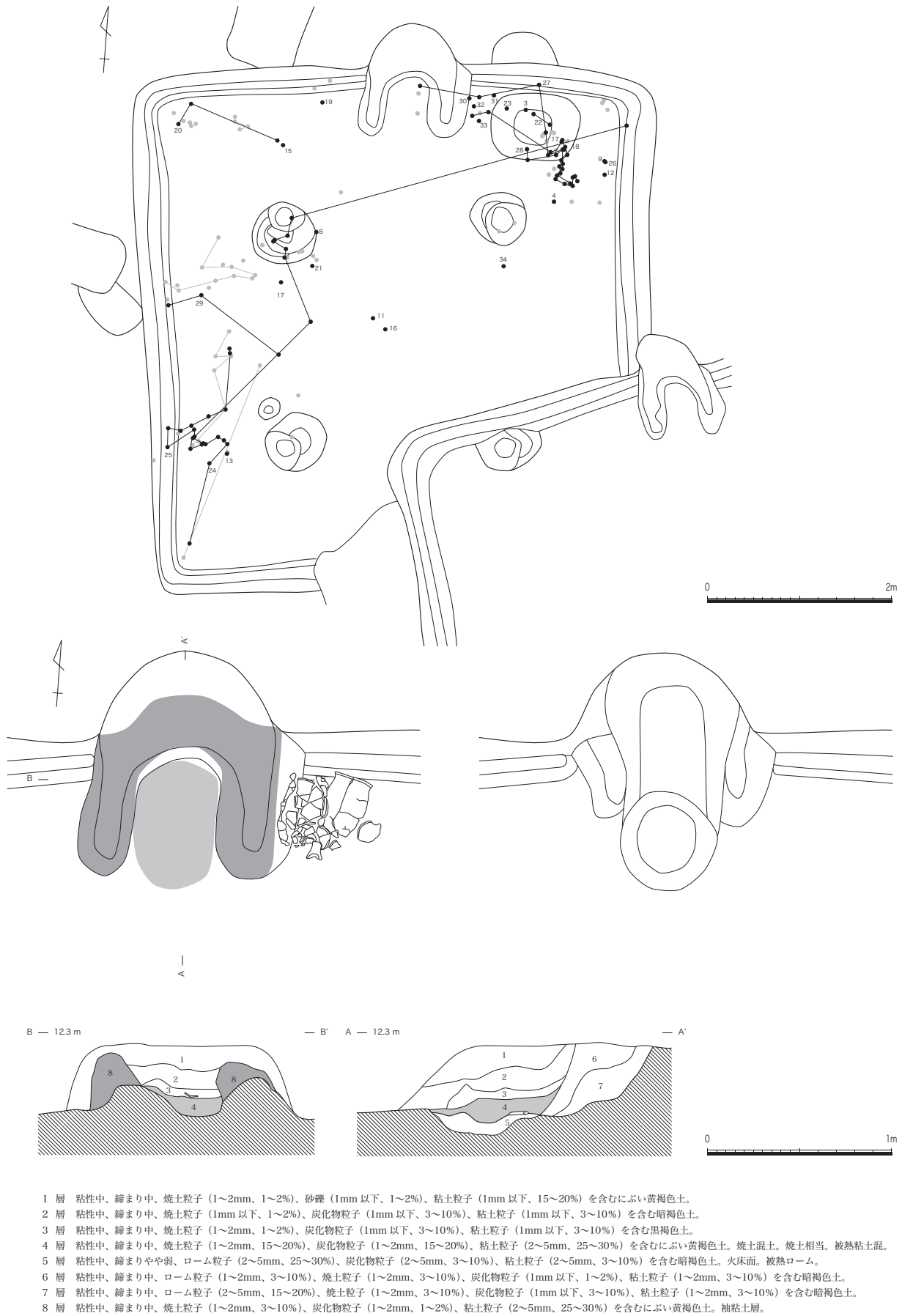
[住居構造] 南東コーナーを217号住居跡に切られる。(平面形) 正方形。(規模) 5.78×5.68m。(主軸方向) N-3°-W。(壁高) 26～33cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅22～38cm・下幅6～15cm・深さ1～27cmを測る。確認された範囲では、カマド部分を除き全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。中央部に硬化面を確認。(床面レベル) 標高11.87～12.25m。(カマド) 北壁中央やや東寄りに位置する。長さ124cm・幅123cm・壁への掘り込み41cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。(柱穴) 支柱穴4基を確認。深さ33～57cmを測る。(貯蔵穴) カマド右脇に位置する。平面長方形。規模は99×71cm・深さ78cmを測る。覆土はロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 4層。下半にロームブロックを多く含むが、極めて単純・均一な覆土。埋め戻し土の可能性はある。

[遺物] 25の土師器大型丸甕は埋没後の北西角支柱穴P4に据えられるように出土。胴部破片は南側

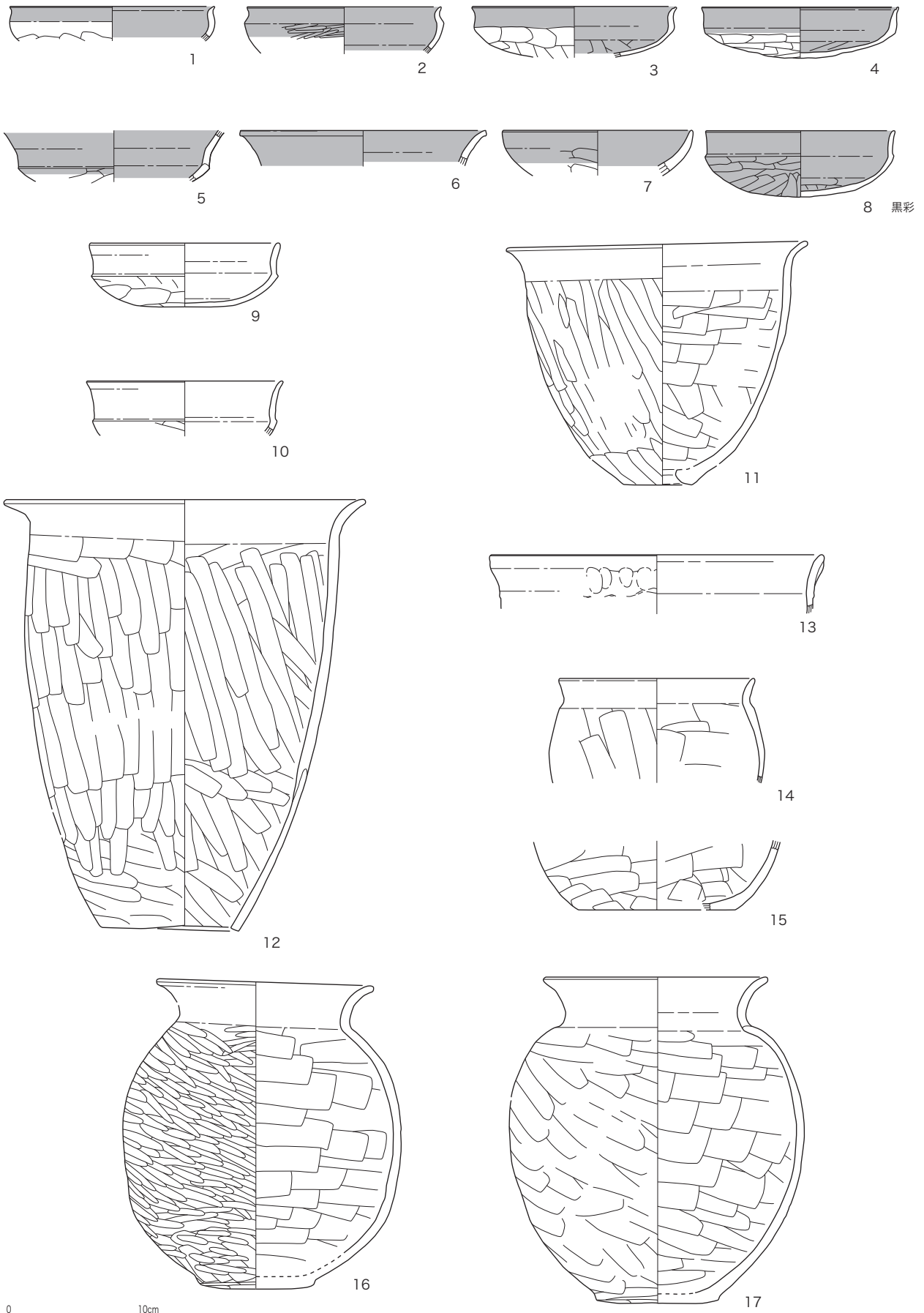


第139図 218号住居跡 (1/60)

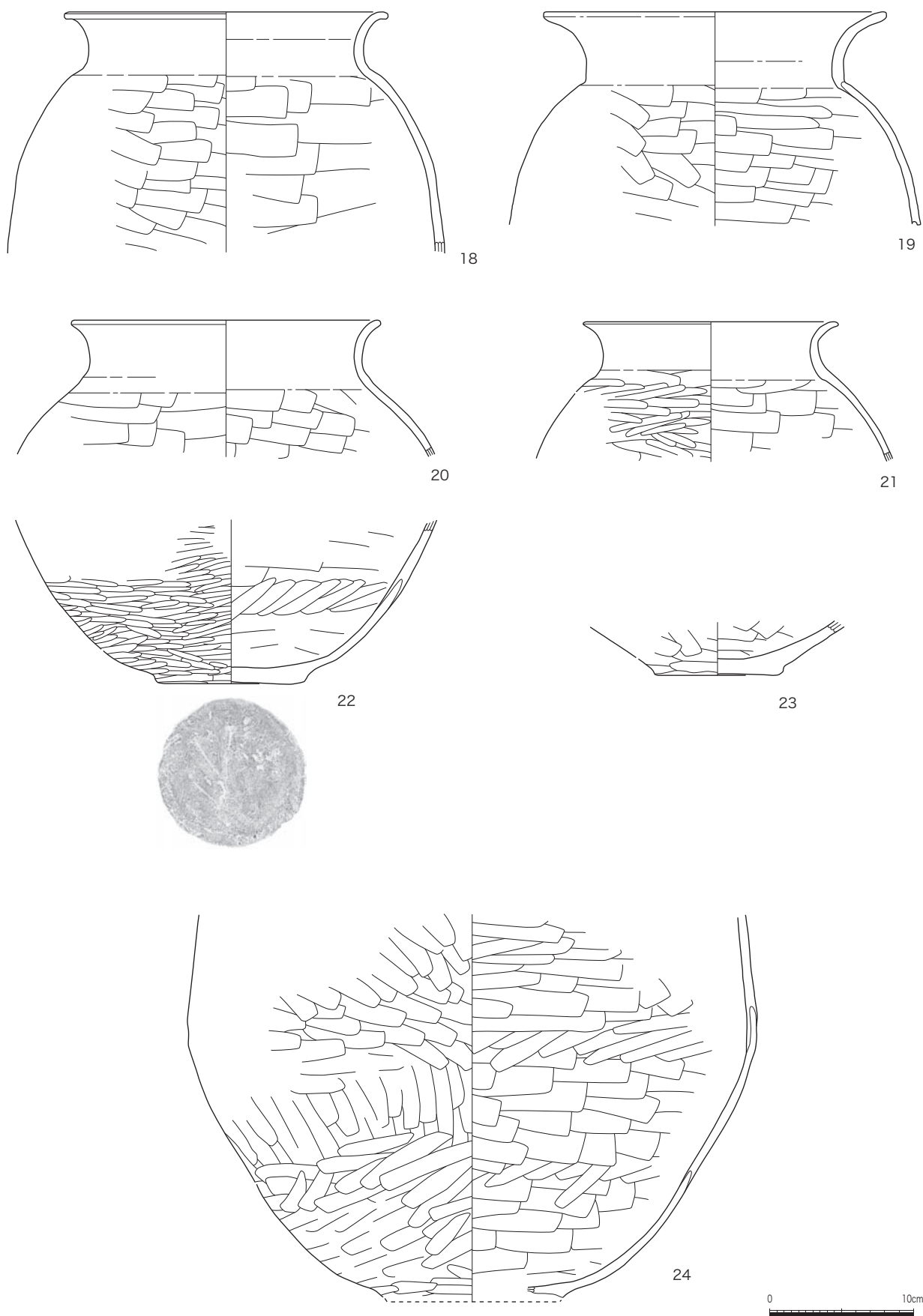
第3章 検出された遺構と遺物



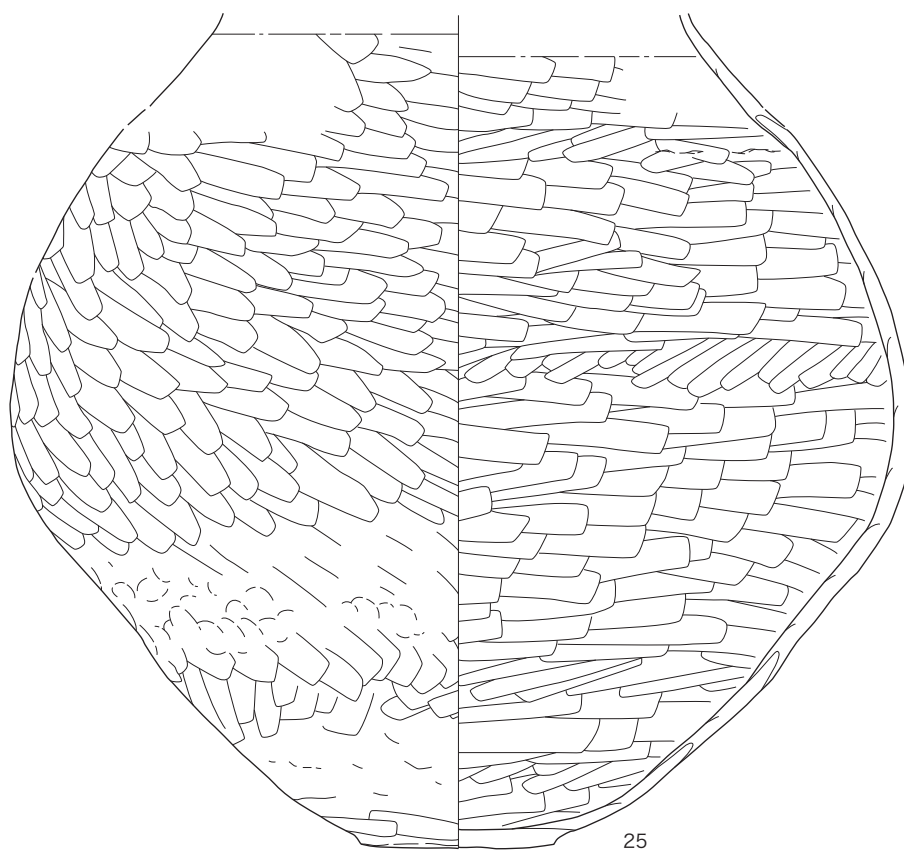
第140図 218号住居跡遺物出土状態 (1/60)・カマド (1/30)



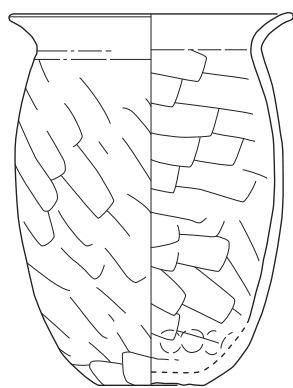
第141図 218号住居跡出土遺物1 (1/4)



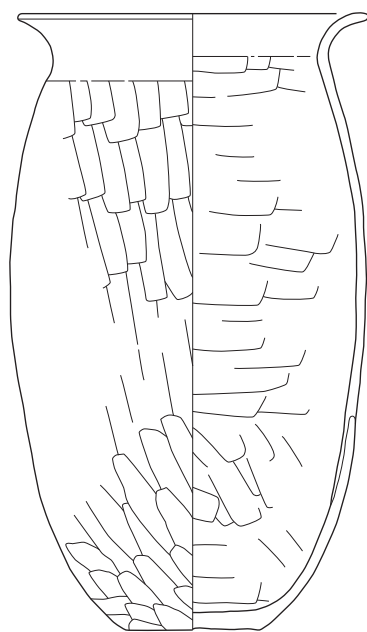
第142図 218号住居跡出土遺物2 (1/4)



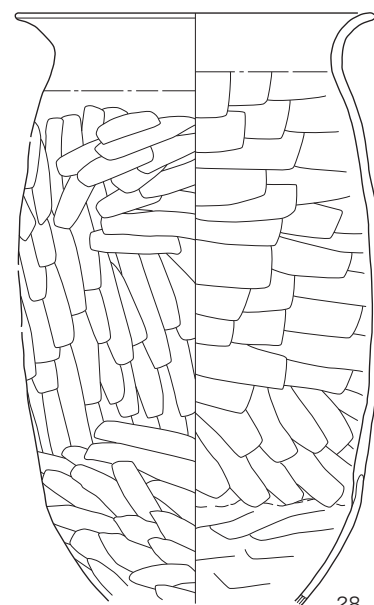
25



26



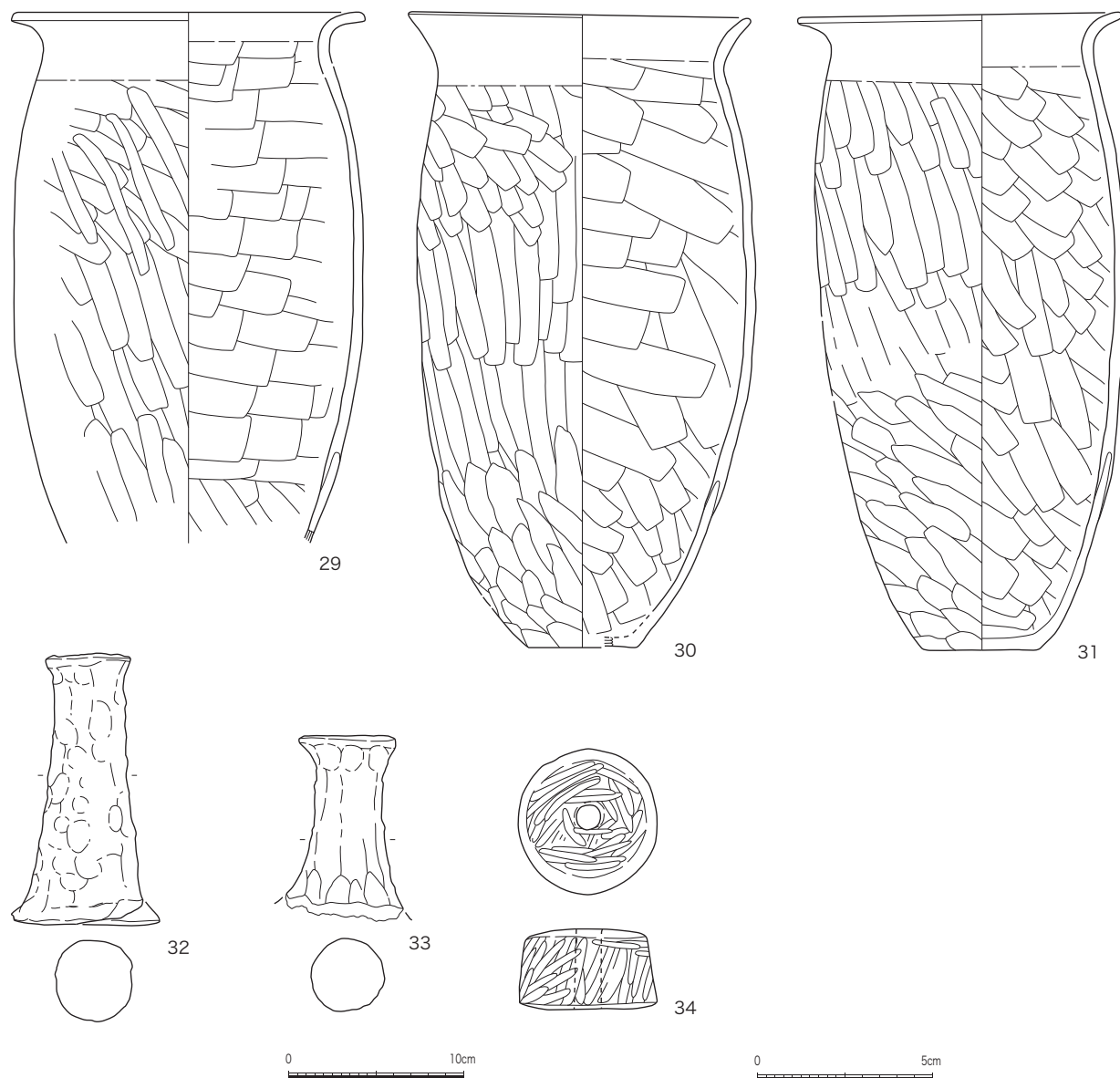
27



28



第143図 218号住居跡出土遺物3 (1/4)



第144図 218号住居跡出土遺物4 (1/2・1/4)

の西壁際覆土中に散乱。床面直上では、カマド右脇に土師器甕2個と完形の支脚2個、貯蔵穴南東脇に同甕2個を検出。他は覆土中(第2層)に含まれ、完形品は中央に土師器甕2個、P4南脇に同1個、P1南側に土製紡錘車がある。

[時期] 古墳時代後期(7世紀初頭)。

[所見] 特筆されるのは、支柱穴P4上の大型甕である。柱がなくなった後に甕が置かれたのは明らかで、接合破片が西壁際の第2層上面付近のレベルで検出されていることからすると、住居跡の完全埋没後の埋設ではない。確たる火災痕跡がなく、埋め戻し土かとも思われる覆土の特徴からすると、意図的な住居解体に伴う遺物の出土状況を示しているものと見て良いだろう。

遺物 (第141～144図、第45・59表)

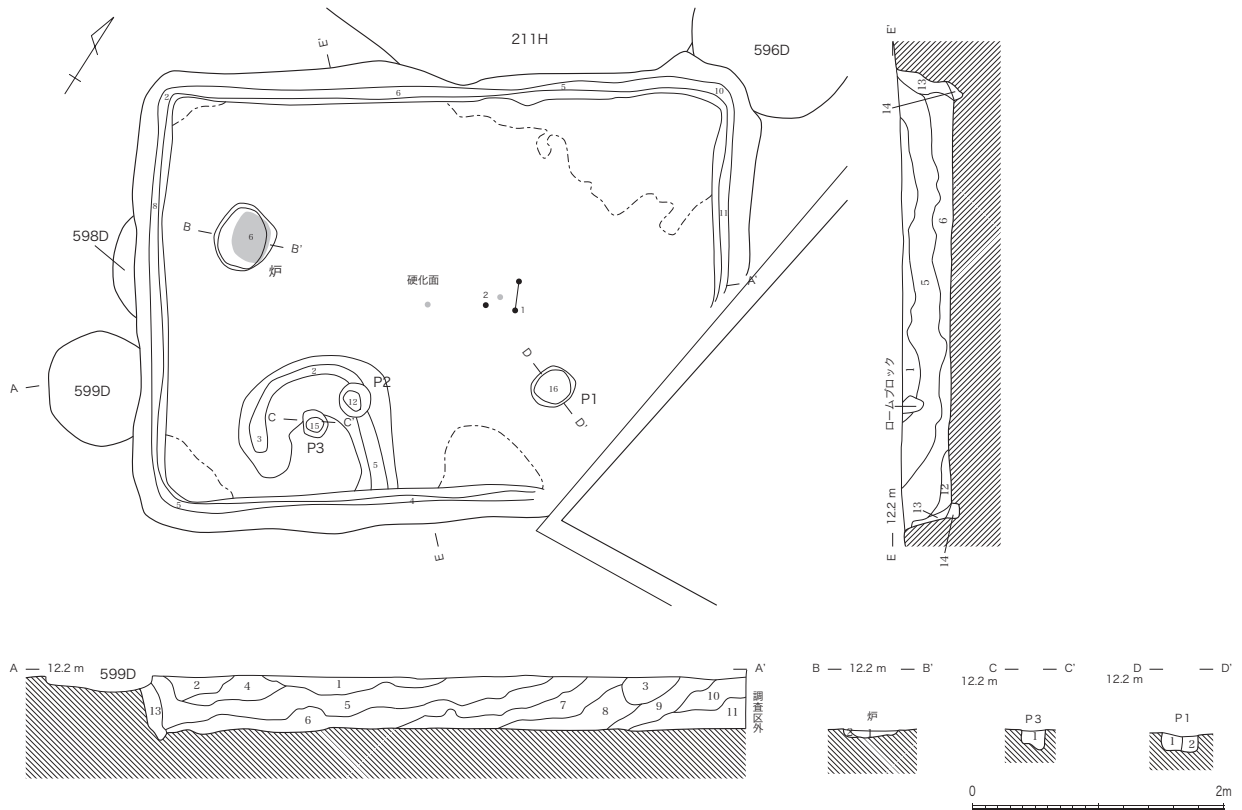
土師器坏(1～10)、甕(11～13)、甕(14～31)、土製支脚(32・33)、土製紡錘車(34)を図示した。

219号住居跡

遺構 (第145図)

[位置] E-4・5グリッド。

[住居構造] 東コーナーは調査区域外。211号住居跡を切る。(平面形) 長方形。(規模) 3.76×5.04m。(主軸方向) N-31°-W。(壁高) 32～44cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅13～32cm・下幅2～9cm・深さ6～7cmを測る。確認された範囲では全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。コーナー部分と南東壁際中央を除き、良く硬化していた。(床面レベル) 標高11.68～11.74m。(炉)



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、3～10%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、3～10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、25～30%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、1～2%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、3～10%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。やや暗。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む黒褐色土。6より明。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。7より明。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。やや暗。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、3～10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む黒褐色土。やや明。
- 11層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。やや明。
- 12層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、1～2%)、焼土粒子 (1mm以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む黒褐色土。
- 13層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、3～10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。
- 14層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。

炉

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、15～20%)、炭化物粒子 (1mm以下、1～2%) を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2～5mm、3～10%) を含む褐色土。

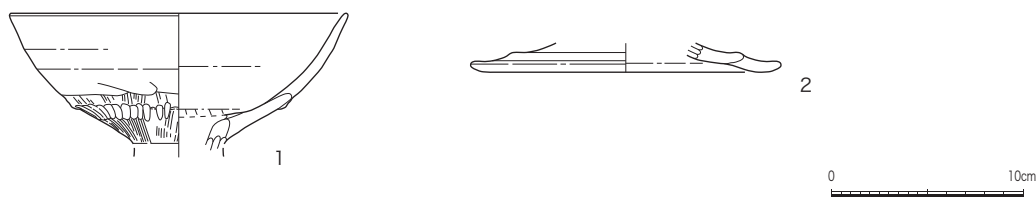
P1

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、黒褐色土 (1mm以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、25～30%)、黒褐色土 (2～5mm、1～2%) を含む黄褐色土。ローム主体。

P3

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、3～10%)、黒褐色土 (1mm以下、3～10%) を含む黒褐色土。入口ピット。

第145図 219号住居跡 (1/60)



第 146 図 219 号住居跡出土遺物 (1/4)

南西壁寄りに位置する。円形 (53～46cm) の窪みを伴う。(柱穴) 南東側に 2 基の柱穴を確認したが、掘方が浅く、支柱穴にはなりそうもない。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 南東壁の南コーナー寄りに位置する。深さ 15cm を測る。凸堤と梯子穴を確認。(覆土) 14 層、自然堆積。東側からなだれ込んだような堆積を示す。各層ともロームブロックを多く含む。

[遺物] 土師器の小破片が覆土中からわずかに出土したのみ。

[時期] 古墳時代中期 (5 世紀中葉)。

[所見] 本地点で最も古い住居跡で、いわゆるカマド導入期以前のものと考えられる。

遺物 (第 146 図、第 46 表)

土師器高坏 2 点 (1・2) を図示し得た。

220 号住居跡

遺構 (第 147 図)

[位置] G-5・6 グリッド。

[住居構造] 東コーナー付近を確認。西側大半は調査区域外。調査区壁沿いは近世の 480 号土坑で切られ、確認範囲も排水管理設で破壊される。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-25°-W。(壁高) 壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 7～19cm・下幅 3～6cm を測る。確認された範囲では、カマド部分を除き巡る。(床面) 確認範囲は付属施設で占められ、床面構造は不明。(床面レベル) 標高 11.71～11.82m。(カマド) 北東壁に位置する。長さ不明・幅 84cm を測る。両袖部は地山ローム削り残しを基礎として構築。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) カマド右脇、東コーナーに位置する。規模は 84cm×不明・深さ 67cm を測る。攪乱で北西半分が破壊されているものと思われる。覆土は黒褐色土を基調とする。底面近くではほぼ完形の土師器甕が逆位で出土。(入口施設) 未確認。(覆土) 2 層、確認範囲が狭く不明瞭であるが、黒褐色土を基調とする。

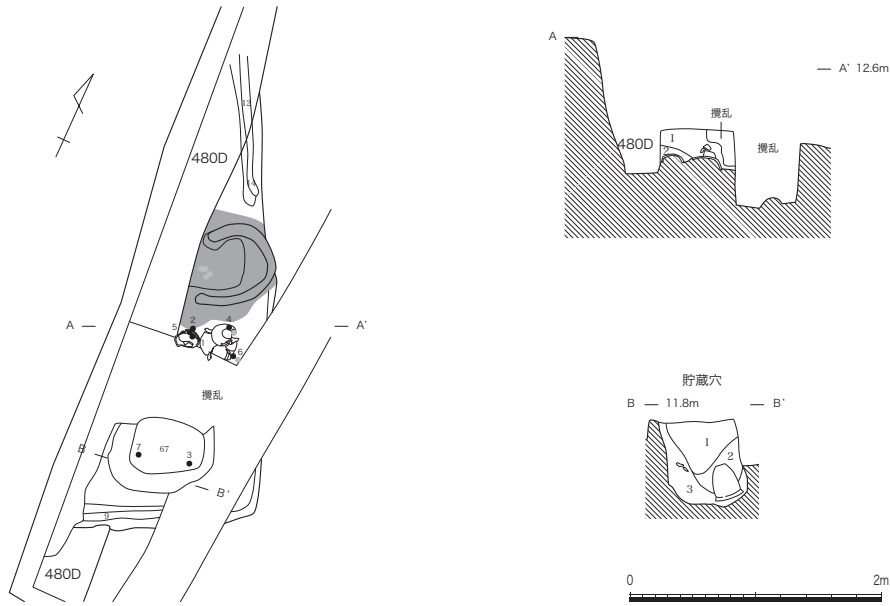
[遺物] カマド右脇の床面直上で、完形の土師器が重なった状態で出土。下から、坏 (1)・坏 (2)・甕 (5、底部欠損)。同じ位置に完形の甕 (4) と口縁～胴上半部の甕 (6) がある。

[時期] 古墳時代後期 (6 世紀中葉)。

[所見] カマド右脇で積み重ねた状態の土師器のうち、一番上の甕は状態が悪くて崩壊してしまったが、底部破片は認められず、抜かれていた可能性がある。

遺物 (第 148 図、第 47 表)

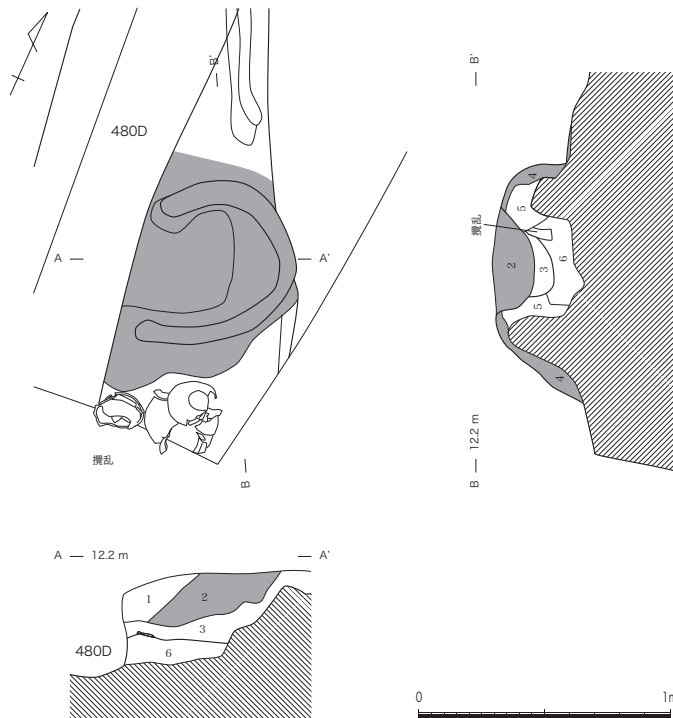
土師器坏 (1・2)、甕 (3)、甕 (4～7) を図示した。



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。

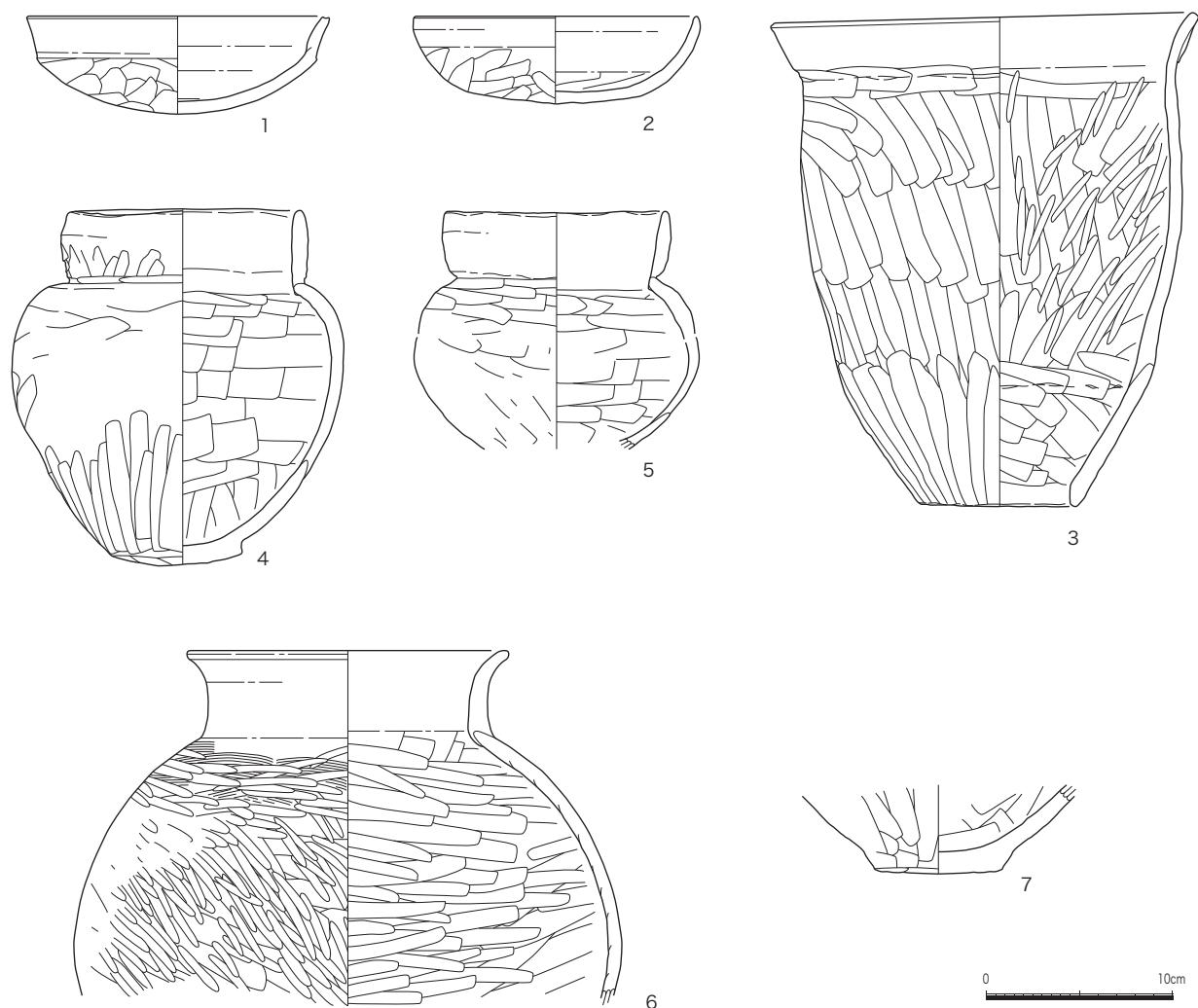
貯蔵穴

- 1 層 ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
 2 層 粘性中、締まり強、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、砂礫 (1mm 以下、15~20%)、粘土粒子 (5~10mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。崩落粘土層。
 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗赤褐色土。遺物包含。
 4 層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む灰黄褐色土。貼付粘土。
 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黄褐色土。貼付ローム。黒褐色土を含む。
 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。掘方覆土。

第 147 図 220 号住居跡 (1/60)・カマド (1/30)



第148図 220号住居跡出土遺物 (1/4)

221号住居跡

遺構 (第149図)

[位置] H-4グリッド。

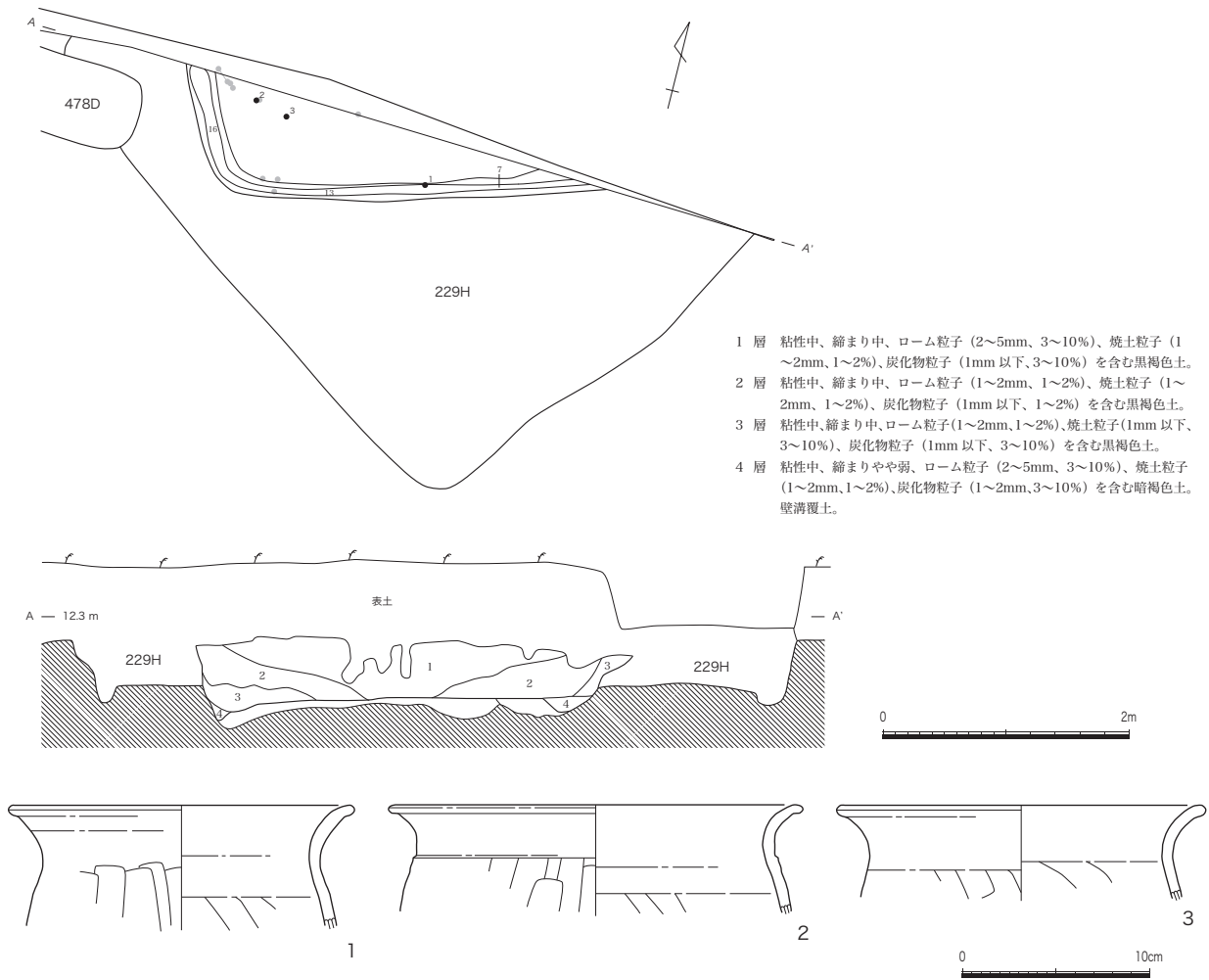
[住居構造] 南西コーナー付近を確認。大部分は調査区域外。229号住居跡を切る。(平面形) 不明。(規模) 不明。(主軸方向) N-14°-W。(壁高) 35～53cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅12～21cm・下幅5～10cm・深さ6～13cmを測る。確認された範囲では全周する。(床面) 貼床は4～15cmの厚さで施されていた。確認範囲では硬化面は認められなかった。(床面レベル) 標高11.54m。(カマド) 未確認。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 4層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土上層(第1層) 中で土師器破片が出土。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

遺物 (第149図、第48表)

土師器甕(1～3)を図示した。



第 149 図 221 号住居跡 (1/60)・出土遺物 (1/4)

222 号住居跡

遺 構 (第 150・151 図)

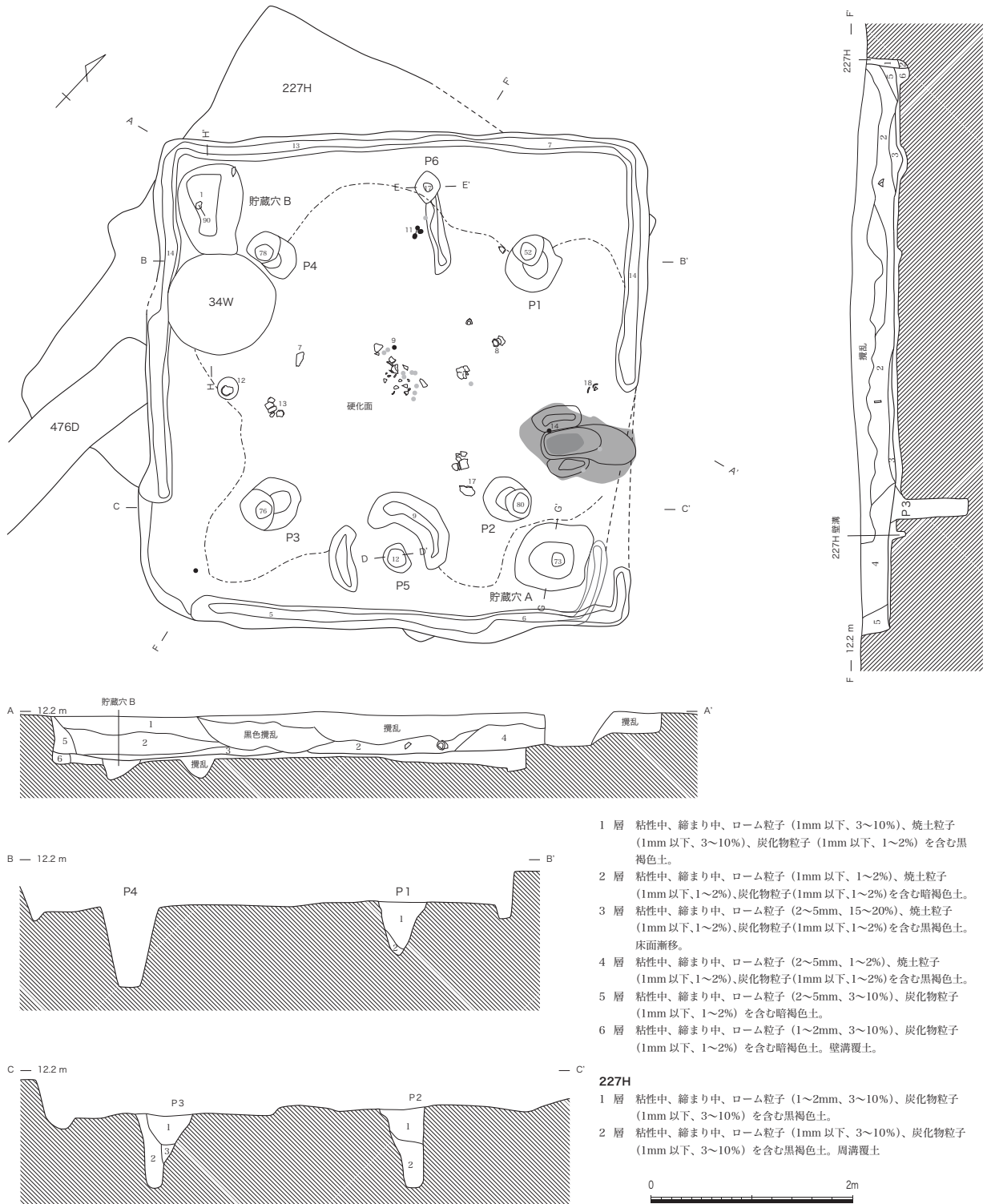
[位置] H・I - 5 グリッド。

[住居構造] 東コーナーからカマドにかけては攪乱で壊されている。西側壁際は 34 号井戸跡に掘り抜かれている。227 号住居跡を切る。(平面形) 正方形。(規模) 5.08×5.07m。(主軸方向) N-42°-W。(壁高) 33~36cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 10~28cm・下幅 3~16cm・深さ 8~13cm を測る。南コーナーとカマド部分を除いて確認。東コーナーでは二重になる。(床面) 貼床は 3~17cm の厚さで施されていた。壁際を除いて硬化面を確認。北西壁寄り中央に間仕切り溝と連結するピット (P6) を確認。(床面レベル) 標高 11.77~11.80m。(カマド) 北西壁の東コーナー寄りに位置する。長さ 107cm・幅 75cm・壁への掘り込み 5cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しはなく、粘土を用いて構築。(柱穴) 主柱穴 4 基を確認。深さ 52~80cm を測る。

(貯蔵穴) 東コーナーと西コーナーに 2 基確認。〈貯蔵穴 A〉 77×68cm・深さ 73cm を測る。

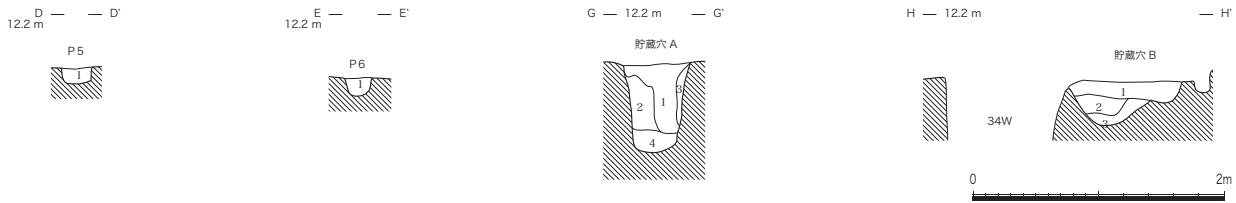
〈貯蔵穴 B〉 90×64cm・深さ 36cm を測る。

第3章 検出された遺構と遺物



- P1**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む褐色土。
- P2**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む褐色土。
- P3**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む褐色土。

第150図 222号住居跡 (1/60)



P5

1 層 ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
入口ビット。

P6

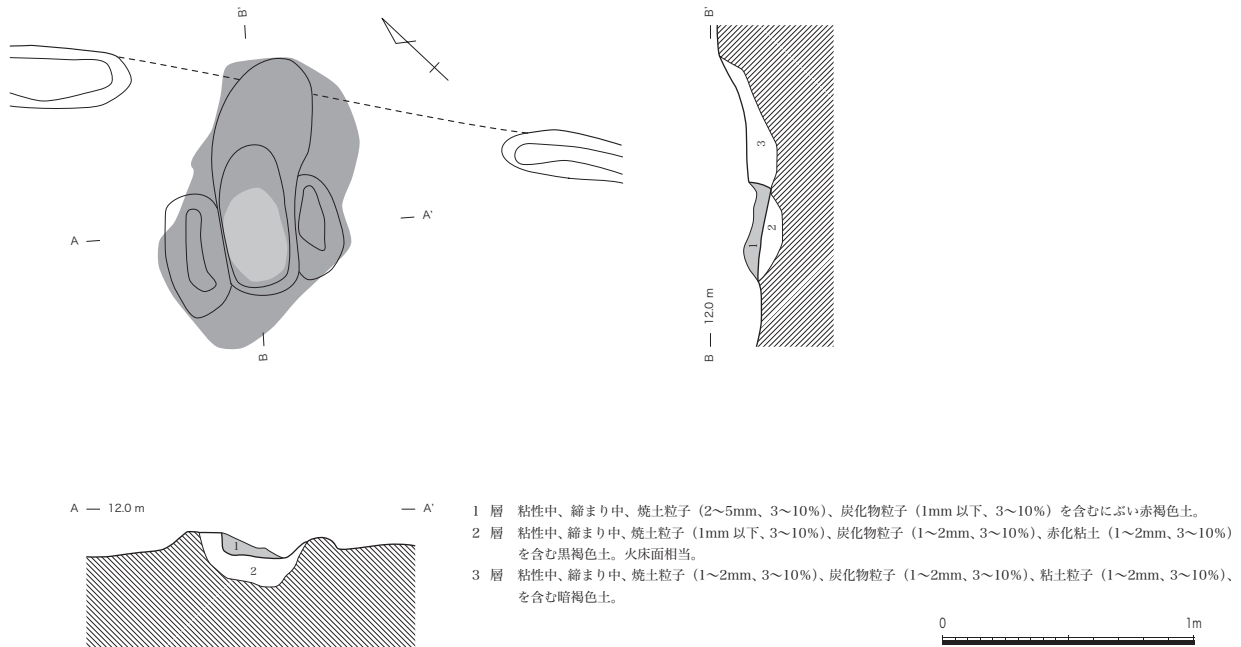
1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

貯蔵穴 A

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。

貯蔵穴 B

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。



第 151 図 222 号住居跡カマド (1/30)

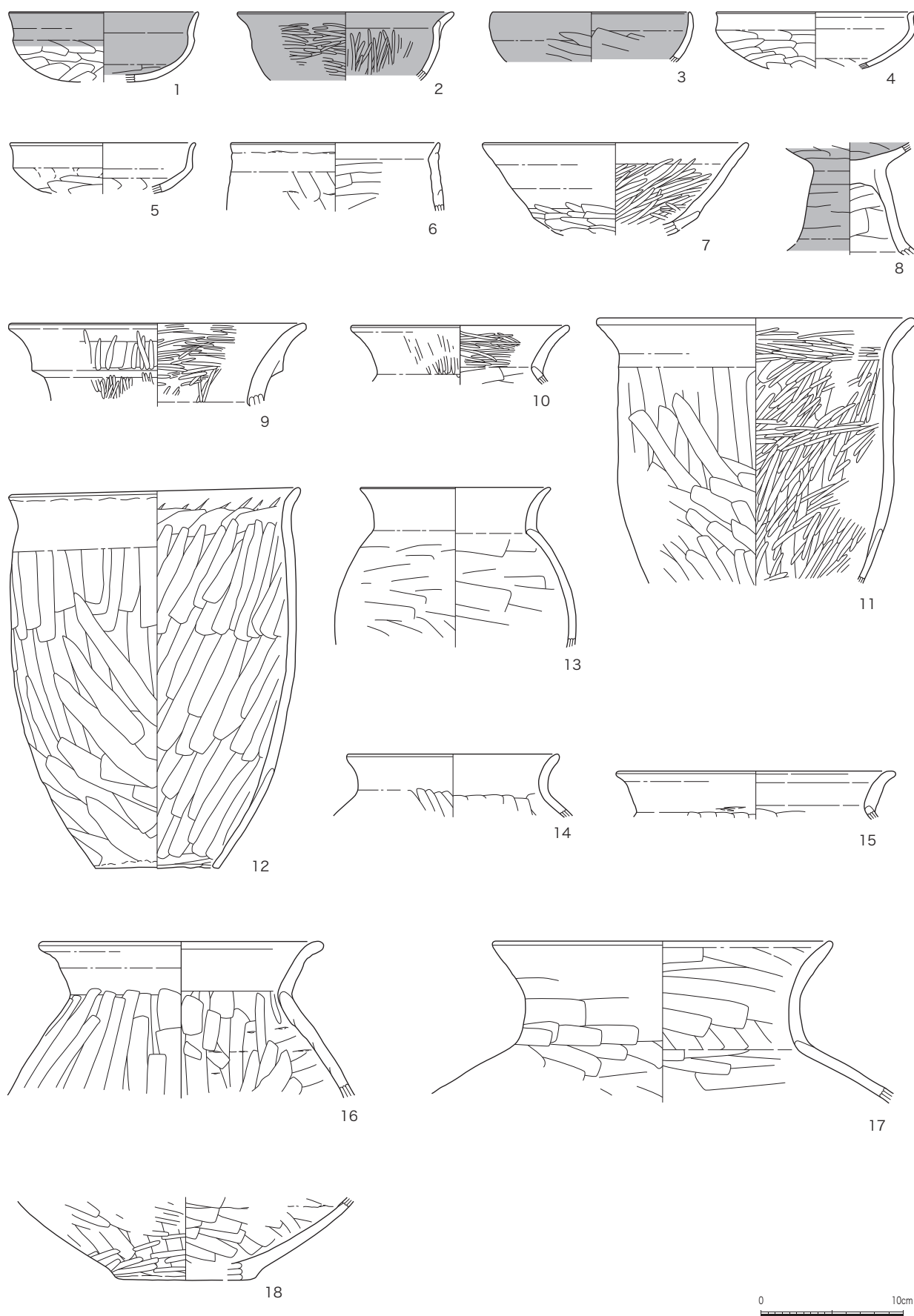
(入口施設)南東壁中央に位置する。深さ 12cm を測る。凸堤と梯子穴を確認。(覆土)6 層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。上半はロームの大型ブロックを含む攪乱土。

[遺物] 南西側 (34 号井戸跡付近) の床面頂上で、完形の土師器甕が逆位で出土。他は土師器破片が覆土中に散在。中央の分布は覆土上半の攪乱土中。

[時期] 古墳時代後期 (6 世紀初頭~前葉)。

[所見] 2 基の貯蔵穴と、東コーナー部分の壁溝重複から、カマド移設に伴う改築が想像されるが、旧カマドの痕跡は認められなかった。また、貯蔵穴 B は覆土から住居埋没まで開口していたと思われ、貯蔵穴 2 基を備えた住居であったと考えられる。

第3章 検出された遺構と遺物



第152図 222号住居跡出土遺物(1/4)

遺物 (第152図、第49表)

土師器坏(1~5)、鉢(6)、高坏(7・8)、壺(9・10)、甑(11・12)、甕(13~18)を図示した。

223号住居跡

遺構 (第153・154図)

[位置] D-2・3グリッド。

[住居構造] 東コーナーを200号住居跡に、南東壁中央を32号井戸跡に切られる。(平面形)不整形。(規模)5.79×5.41m。(主軸方向)N-27°-W。(壁高)31~35cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅18~25cm・下幅1~11cm・深さ16~22cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面)貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面にかけて良く硬化していた。(床面レベル)標高11.73~11.79m。(カマド)北西壁の北西コーナー寄りに位置する。560号土坑に上部を壊されている。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。(柱穴)主柱穴4基を確認。深さ38~77cmを測る。(貯蔵穴)カマド左脇、西コーナーに位置する。平面長方形。規模は79×68cm・深さ35cmを測る。覆土下半はローム主体、上半は黒褐色土。覆土上半で完形の土師器鉢が出土したが、周辺の完形土器と一連の分布と考えられる。(入口施設)南東壁中央に位置する。凸堤の内側には柱穴は確認されなかった。(覆土)12層、自然堆積。上層(第2層)はロームブロック多く含む。

[遺物] カマド前面床面直上でほぼ完形の土師器鉢(5)、入口北側の床面直上で甕2個が出土。床面からやや浮いたレベル(第8層上面相当)では、貯蔵穴北西壁寄りに甕1個、南東に甕2個、主柱穴P1東に坏1個、が出土。鉄鍬鋤先は主柱穴P1付近の覆土中から出土。

[時期] 古墳時代後期(7世紀中葉)。

[所見] 覆土下層での完形及びほぼ完形の土師器が多く出土した。

遺物 (第155・156図、第50・61・63表)

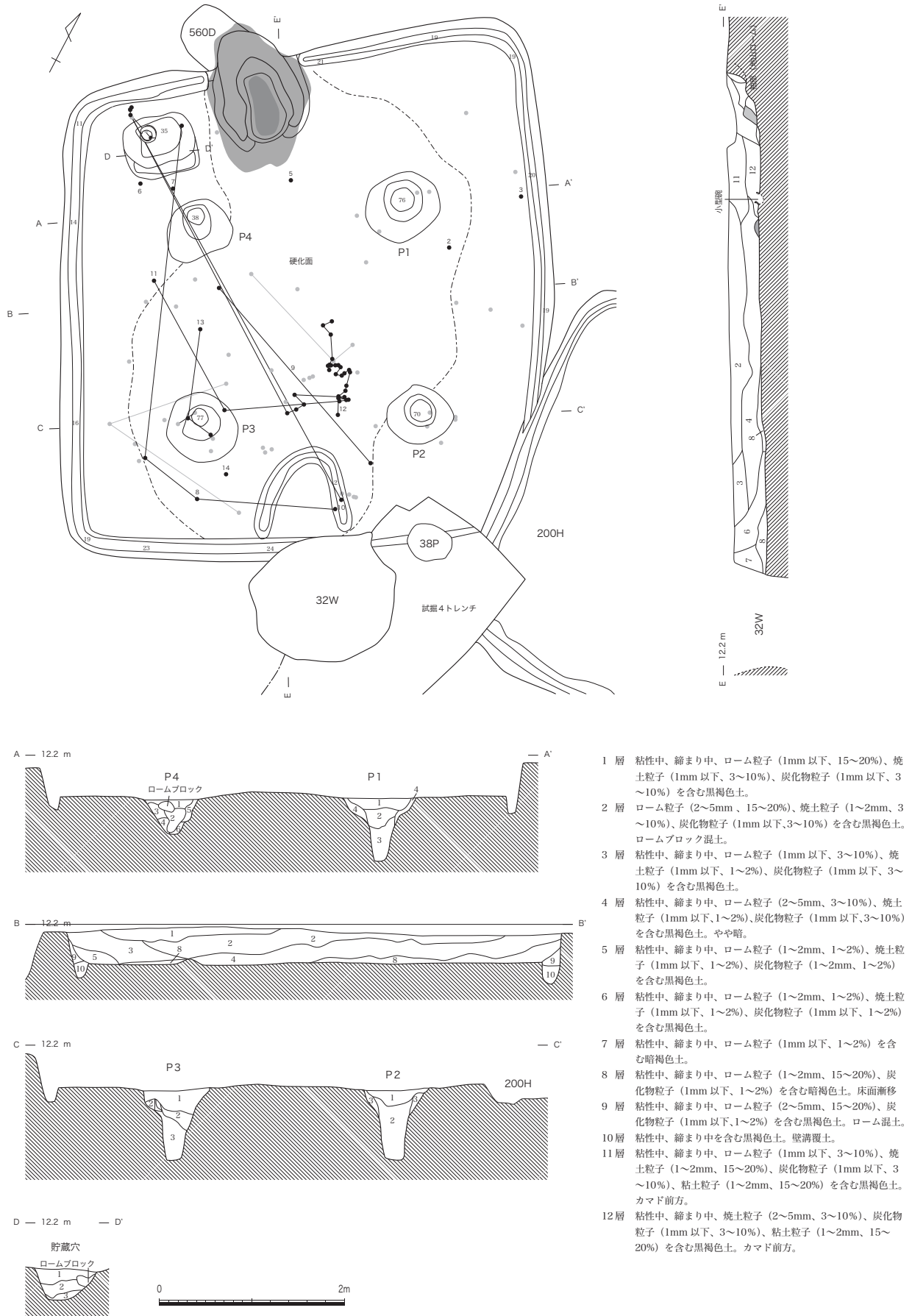
土師器坏(1~3)、鉢(4・5)、甕(6~14)、鉄鍬鋤先(15)、石製品(16)を図示した。15はいわゆるU字形鍬鋤先で、左右の法量はほぼ同じであるが、細部の形態から別個体の可能性がある。

224号住居跡

遺構 (第157~160図)

[位置] C-3、D-3・4グリッド。

[住居構造] 中心部を南北に、排水管理設の攪乱によって床面下まで貫かれ、近世の42号溝跡や土坑に覆土下位まで壊されている。また、周辺の住居跡(207・208・217号)に切られている。(平面形)正方形。(規模)6.96×6.79m。(主軸方向)N-30°-W。(壁高)19~42cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝)上幅19~42cm・下幅4~12cm・深さ16~21cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面)貼床ではなく、タタキ床。中央に硬化面を確認。中央西側の床面直上に薄く粘土の堆積が認められた。(床面レベル)標高11.66~11.78m。(カマド)北西壁中央やや北寄りに位置する。長さ155cm・幅192cm・壁への掘り込み18cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。燃焼部奥



第153図 223号住居跡 (1/60)

P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。

P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。

P3

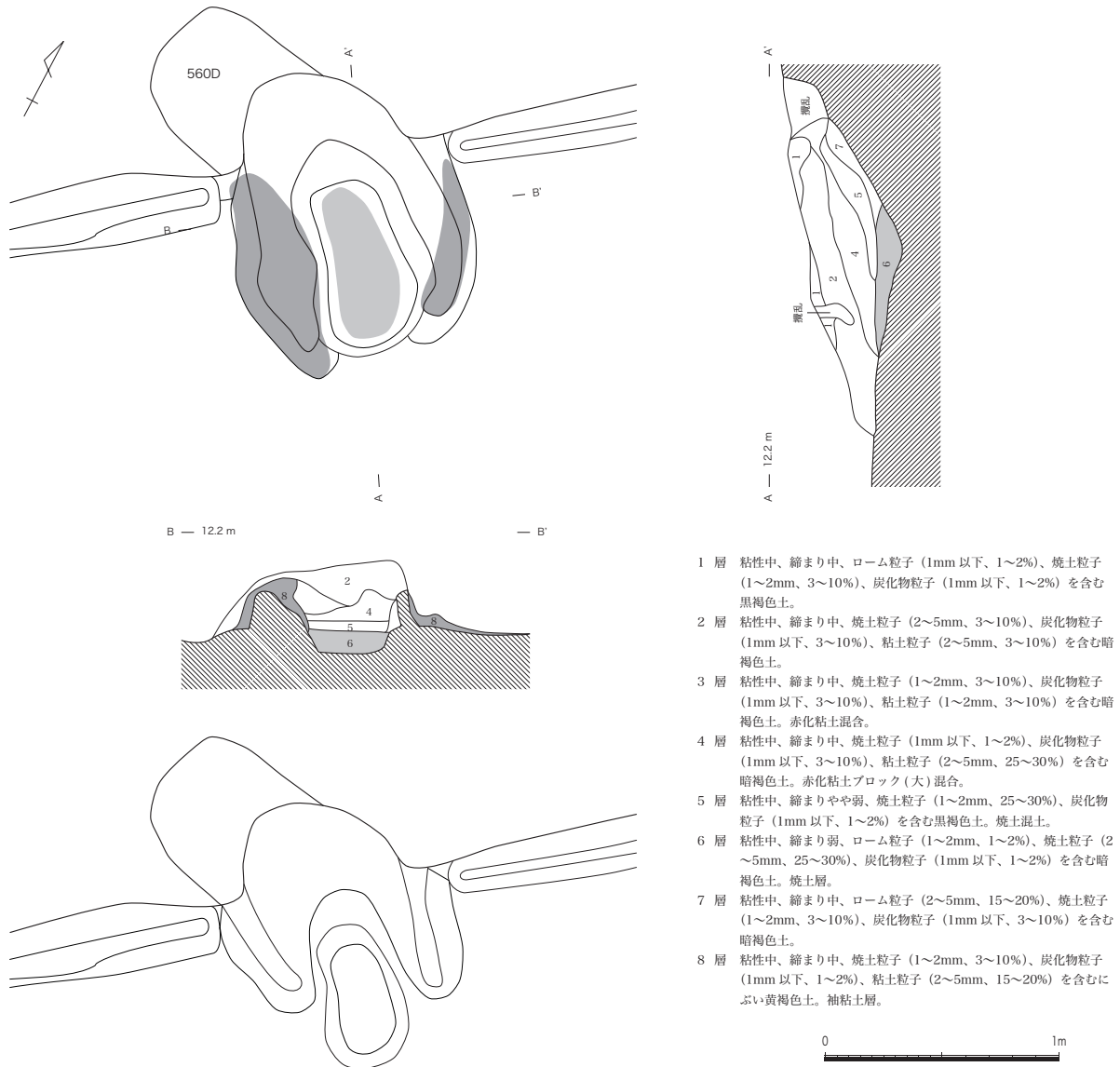
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。

P4

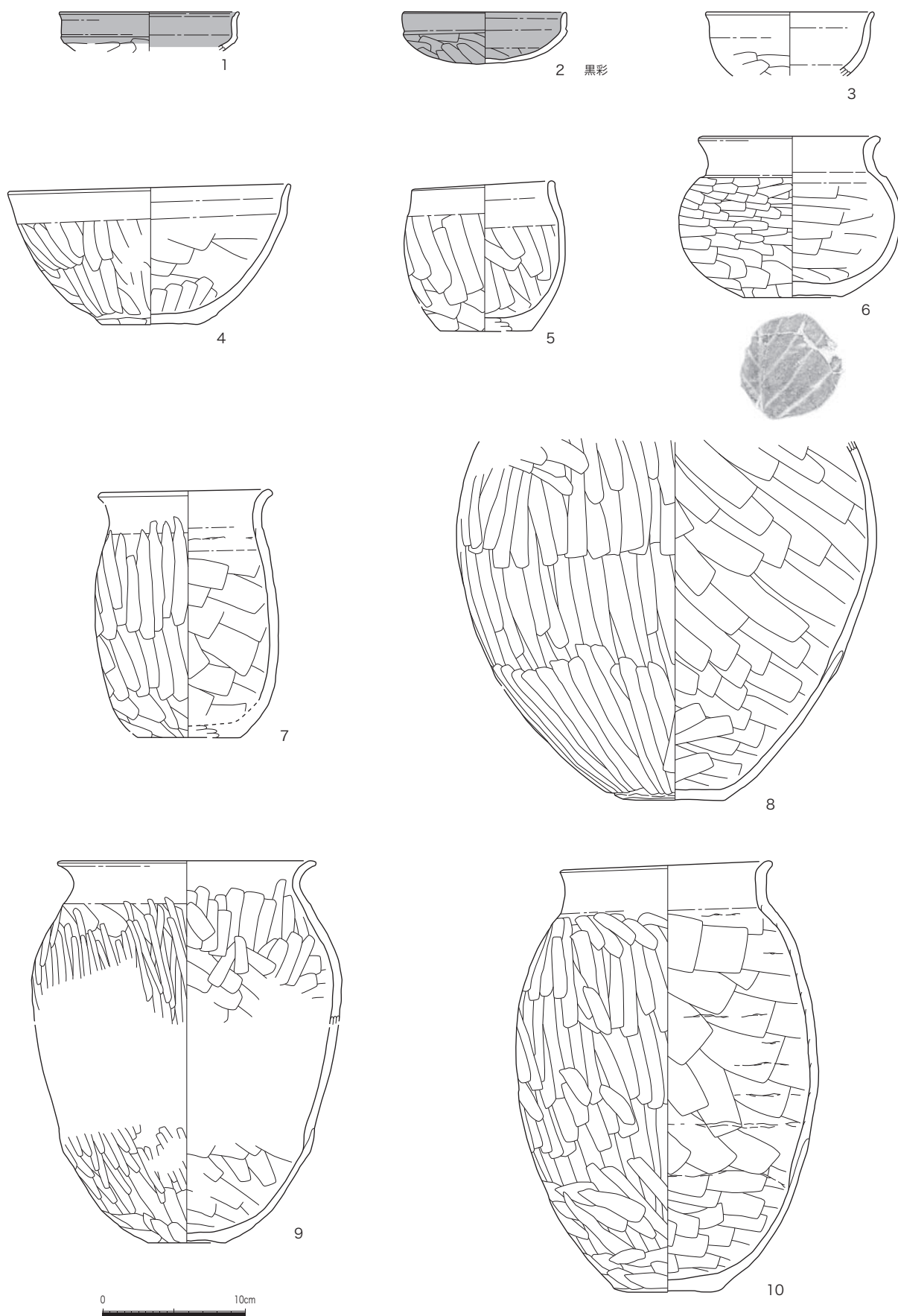
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。

貯蔵穴

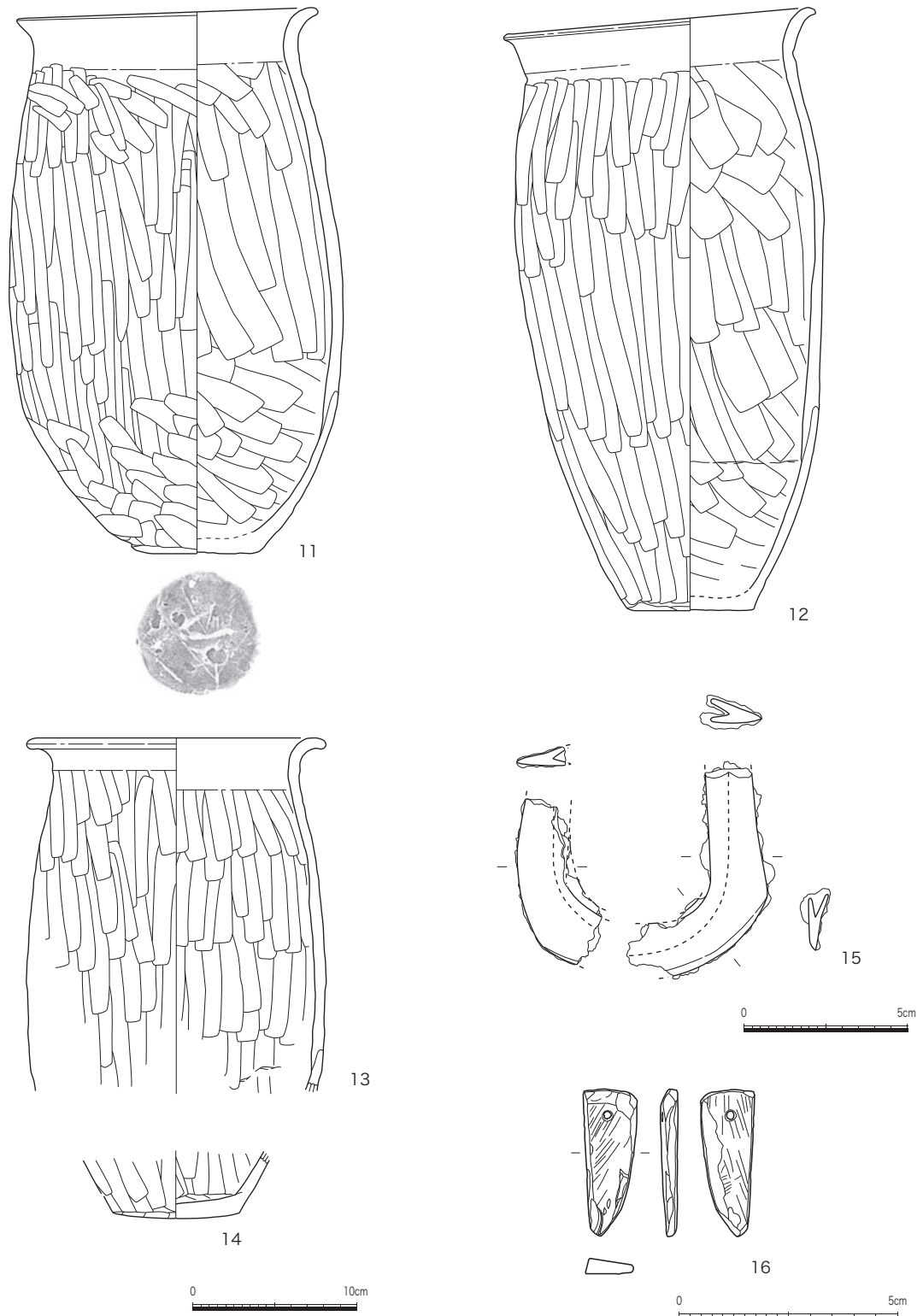
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。



第154図 223号住居跡カマド (1/30)



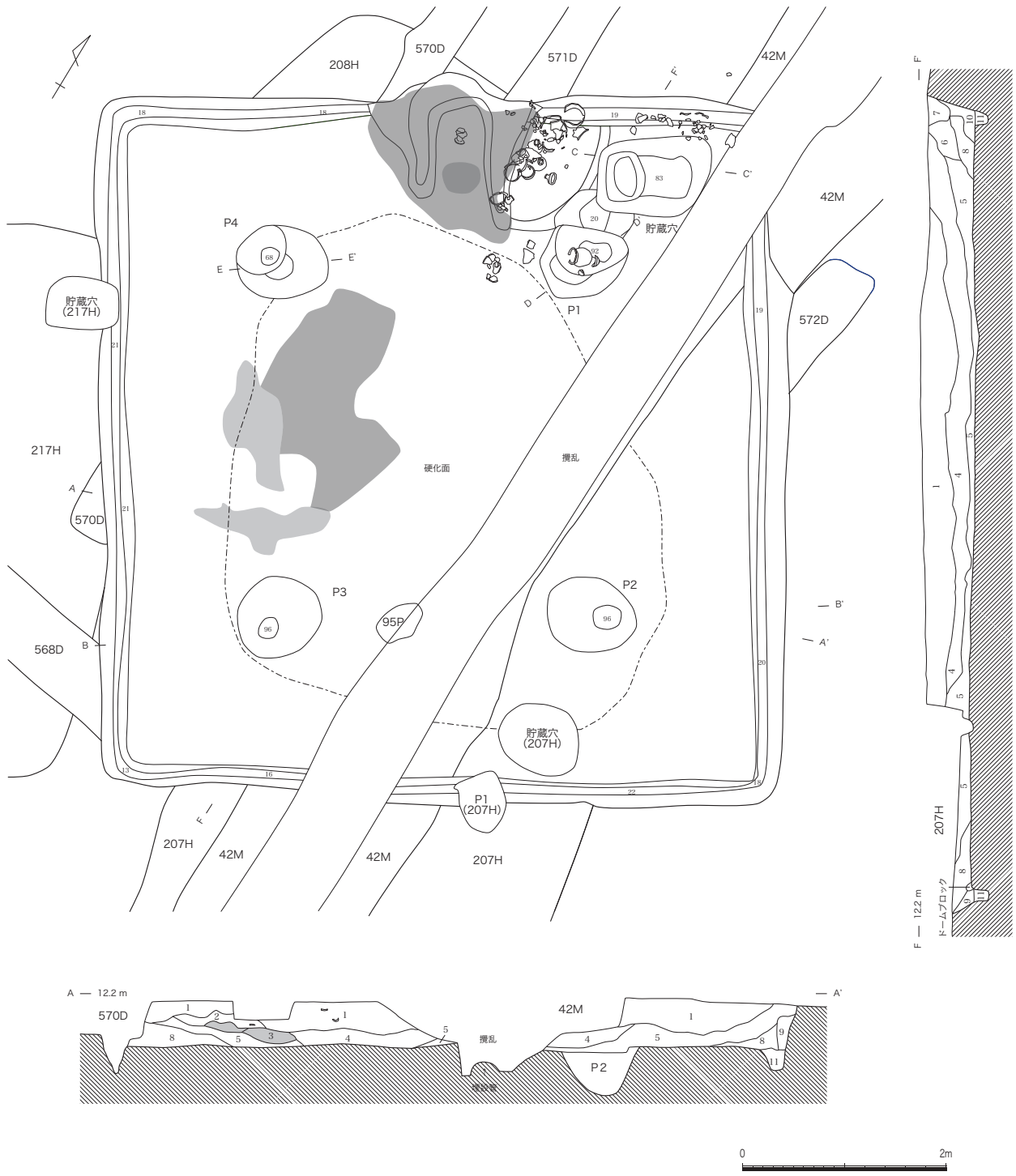
第155図 223号住居跡出土遺物1 (1/4)



第156図 223号住居跡出土遺物2 (1/2・1/3・1/4)

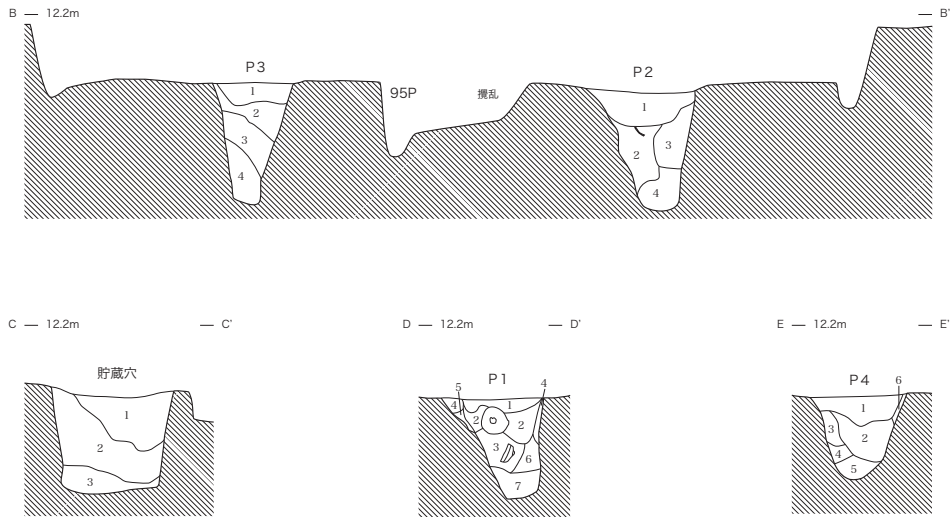
には高坏の坏下半部～脚部が正位に置かれている。支脚として転用したものか。被熱痕跡はあまり認められない。(柱穴) 主柱穴4基を確認。深さ68～96cmを測る。(貯蔵穴) カマド右側、北コーナーに位置する。平面長方形。規模は113×79cm・深さ83cmを測る。覆土下半はローム主体土、上半は焼土粒子を含む黒褐色土。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 11層、自然堆積。黒褐色土を基調

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。焼土混土。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。焼土・粘土多混。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含むにぶい黄褐色土。ローム質混土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。壁溝覆土。

第 157 図 224 号住居跡 1 (1/60)



P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 5 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。ローム土。
- 7 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。

P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。

P3

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。

P4

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 6 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。

貯蔵穴

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。大粒ロームブロック崩れ層。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。最下層黒土層。

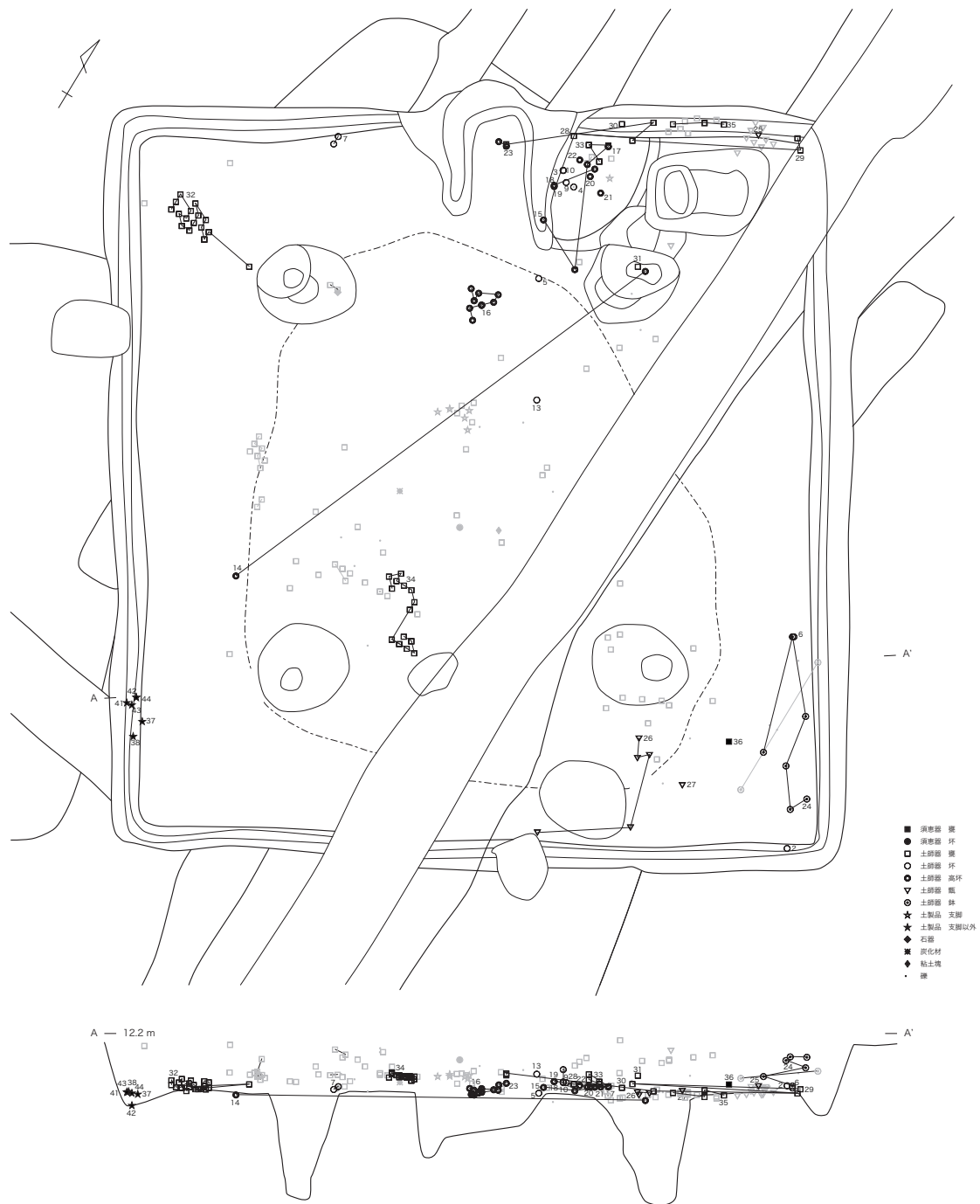
第 158 図 224 号住居跡 2 (1/60)

とする。中央南西側に焼土が堆積。

[遺物] カマド右脇から前面にかけての床面直上に、完形の坏 4 個、高坏 7 個、甕 2 個を含む多量の土師器が集中。他に、支柱穴覆土で高坏・甕各 1 個、西コーナー覆土下層 (第 5 層上面相当) で甕 1 個の完形品が出土。また、南西壁際の南コーナー付近の床面直上で、土製模造品の鏡形 2 個、勾玉形 4 個が検出され、周囲で他に鏡形破片 2 点を採取。36 の須恵器甕は東コーナー付近の床面やや上 (第 5 層中) で出土。

[時期] 古墳時代後期 (6 世紀中葉)。

[所見] 支柱穴 (P1) からの高坏・甕の完形品出土と、住居堅穴覆土と同じ堆積土の状況からすると、

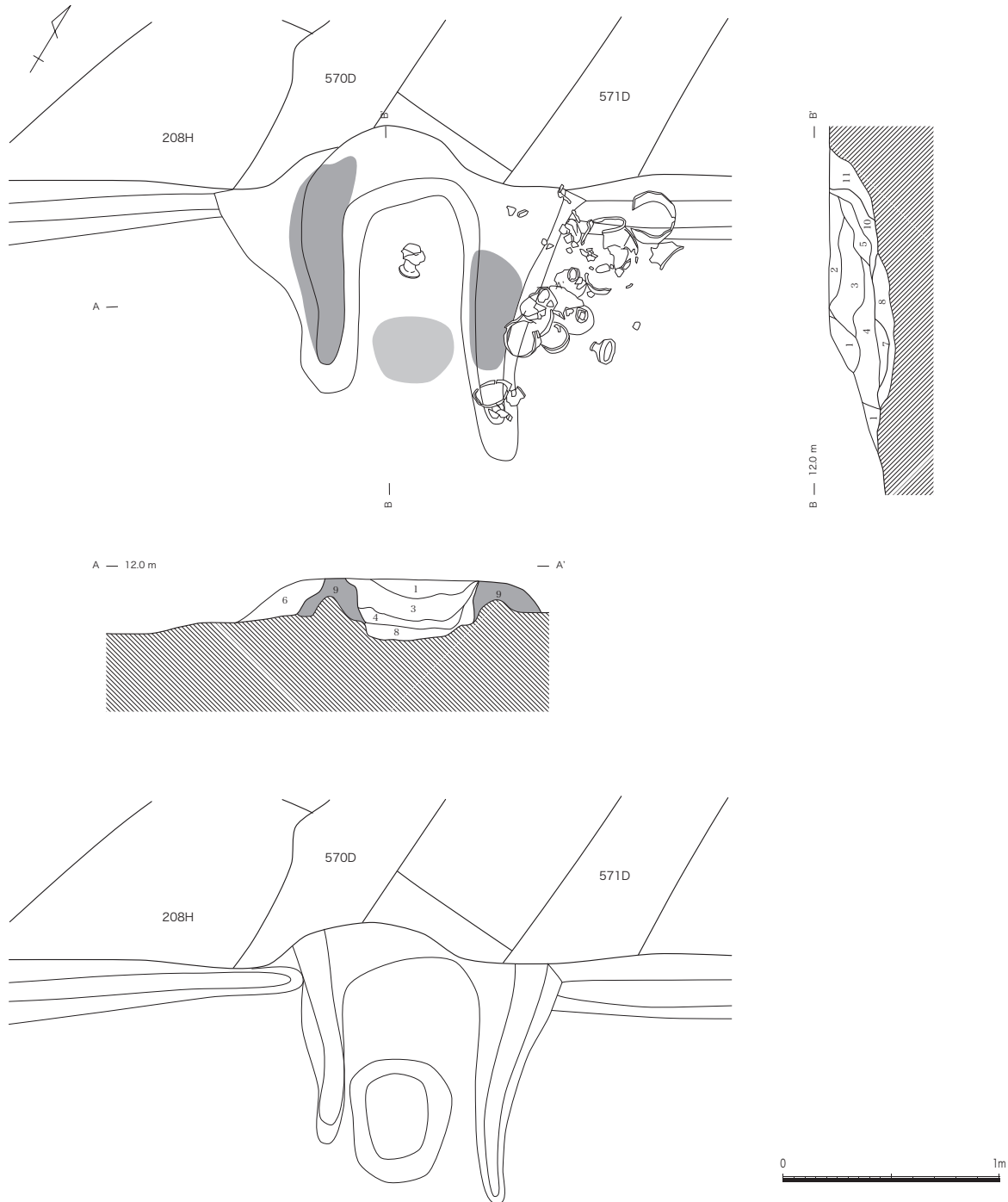


第159図 224号住居跡遺物出土状態 (1/60)

柱を抜くなど、住居の解体行為が推察される。周辺のカマド脇における土師器集中もこれと一連の痕跡の可能性が指摘される。南コーナーにおける土製模造品の分布がこれに関連するものかどうかは、明確な根拠はない。また、焼土の堆積から焼失住居の可能性はあるが、全体的にその痕跡は明瞭ではない。

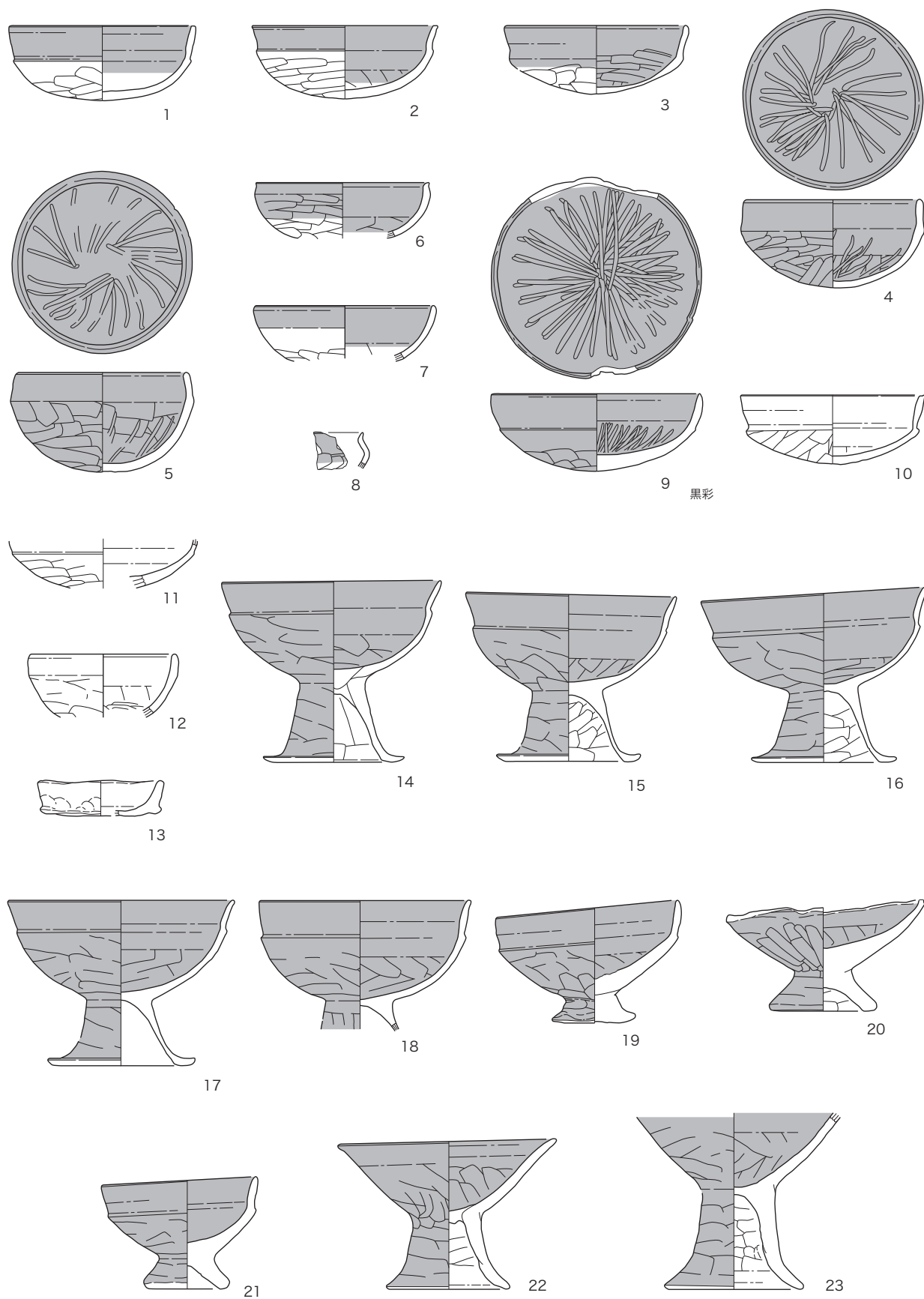
遺物 (第161～164図、第51・59表)

土師器坏 (1～13)、高坏 (14～23)、鉢 (24)、甕 (25～27)、甕 (28～35)、須恵器甕 (36)、土製模造品の鏡形 (37～40)、勾玉形 (41～44) を図示した。36は東海地域産と見られ、6世紀初頭までに位置づけられる特徴を有する。37・39は粘土粒の配置から、七鈴鏡を模したものと考えられる。

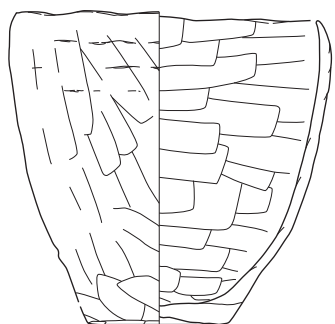


- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm, 25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%)、粘土粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり弱、焼土粒子 (2~5mm, 25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。焼土混じる。
- 8 層 粘性中、締まり弱、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。火床面 (黒化)。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 1~2%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm, 15~20%) を含むにぶい黄褐色土。袖粘土層。
- 10 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%) を含むにぶい黄褐色土。

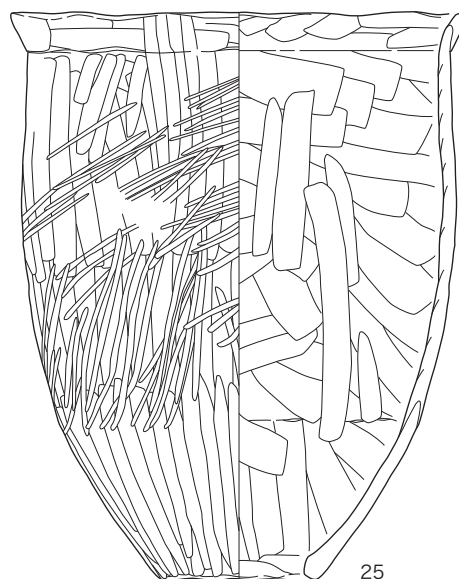
第 160 図 224 号住居跡カマド (1/30)



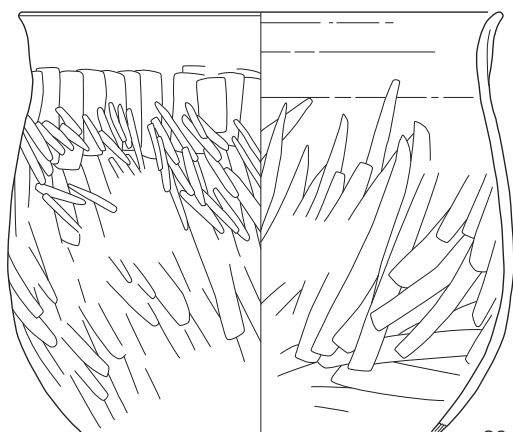
第161図 224号住居跡出土遺物1 (1/4)



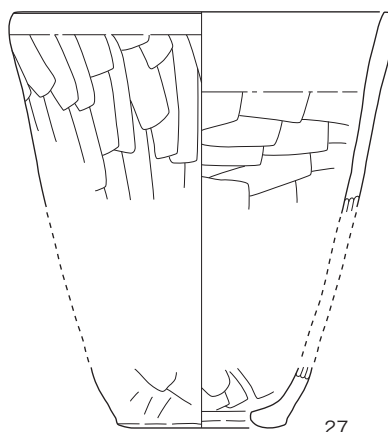
24



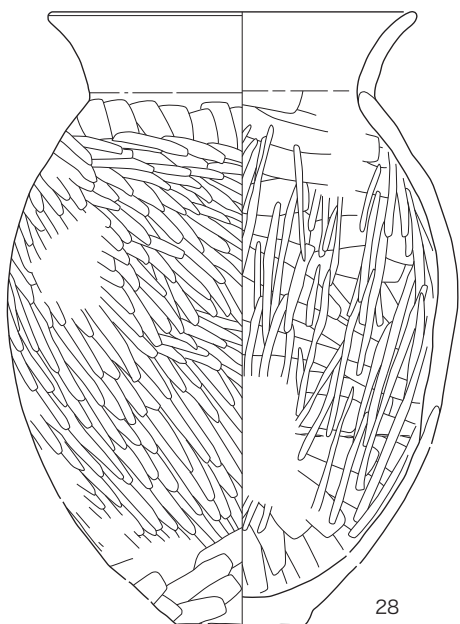
25



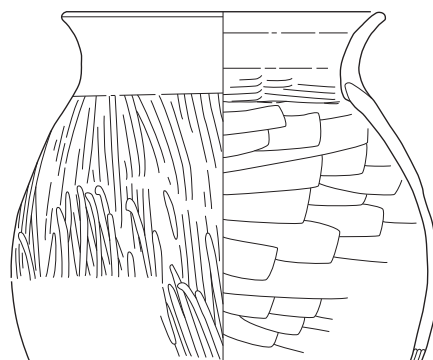
26



27



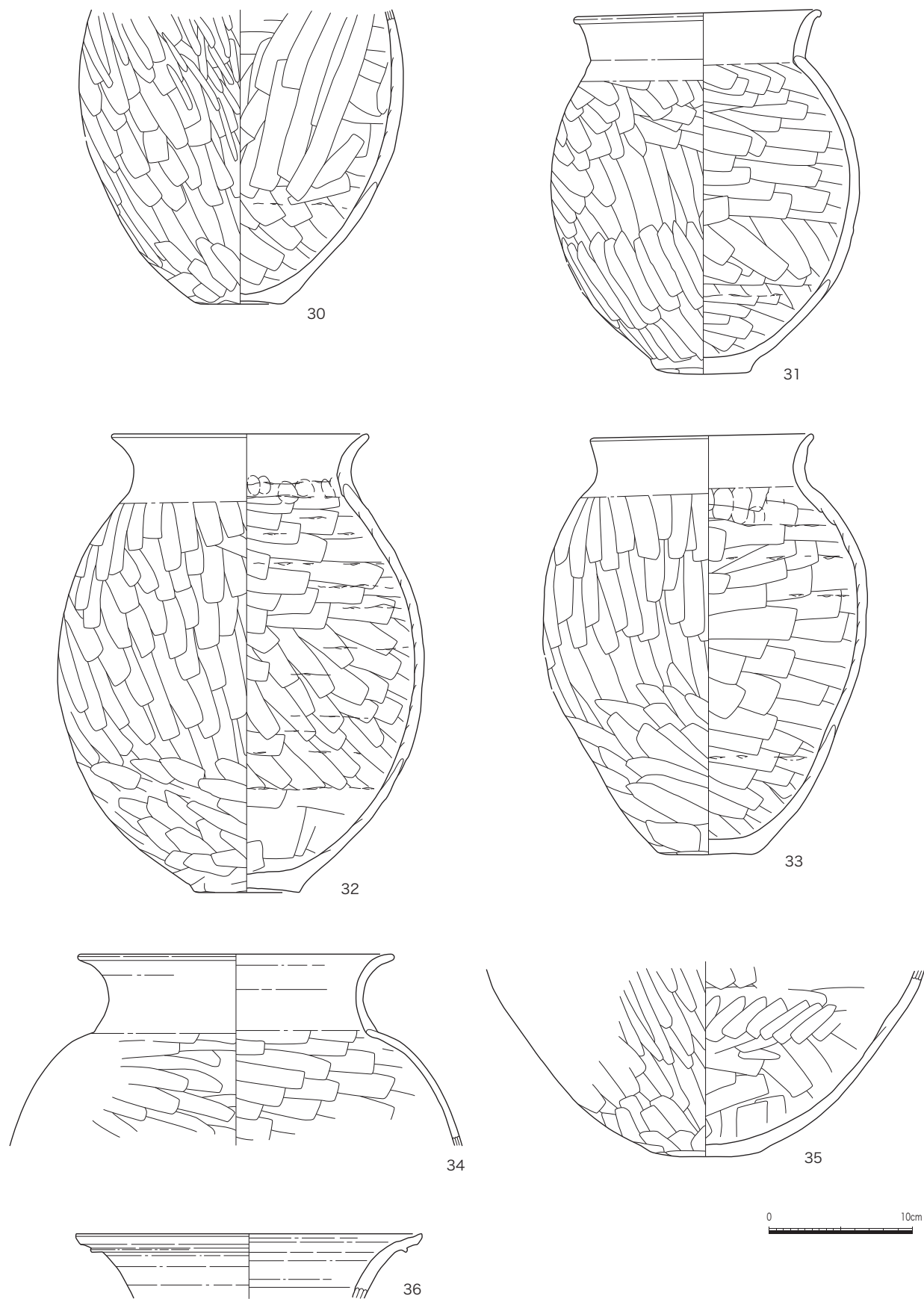
28



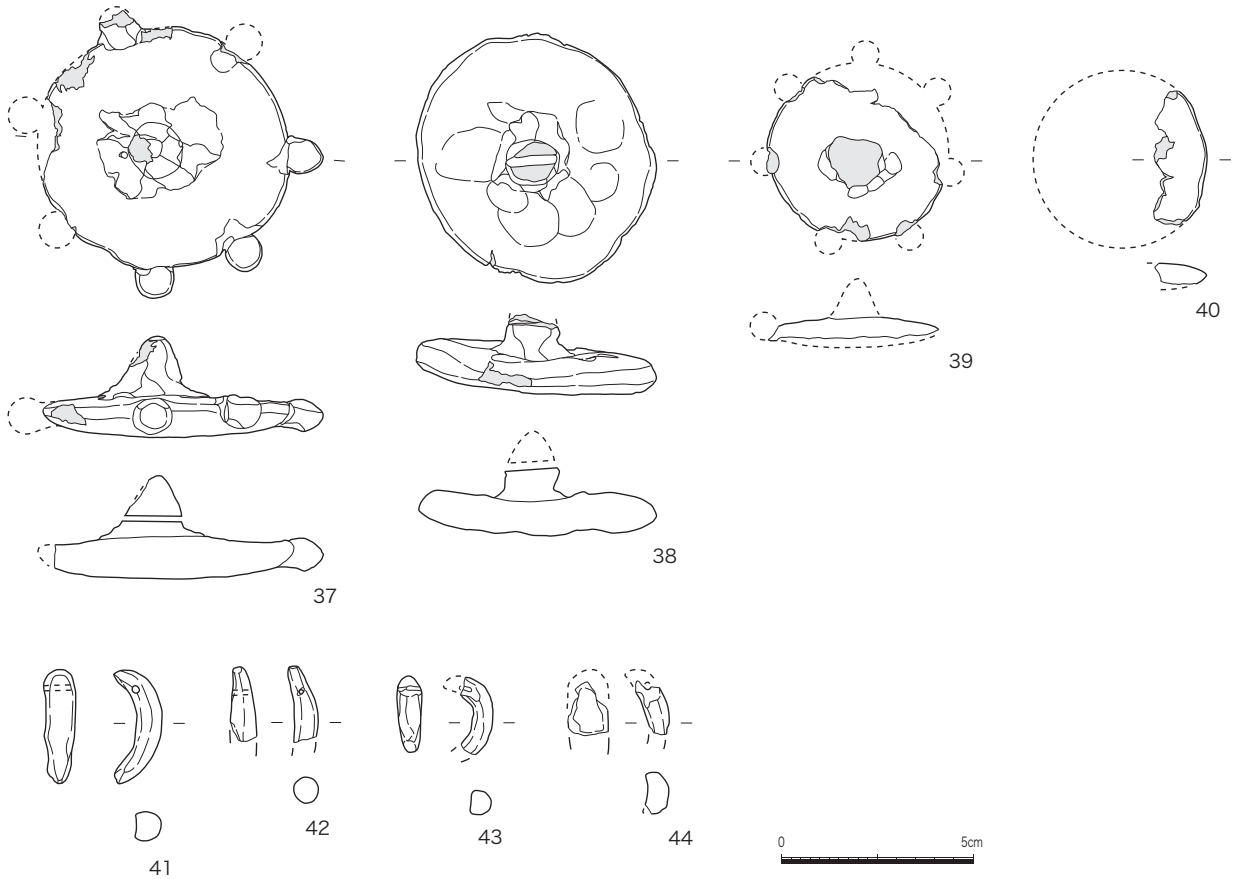
29

0 10cm

第162図 224号住居跡出土遺物2 (1/4)



第163図 224号住居跡出土遺物3 (1/4)



第164図 224号住居跡出土遺物4 (1/2)

225号住居跡

遺構 (第165・166図)

[位置] I-4・5グリッド。

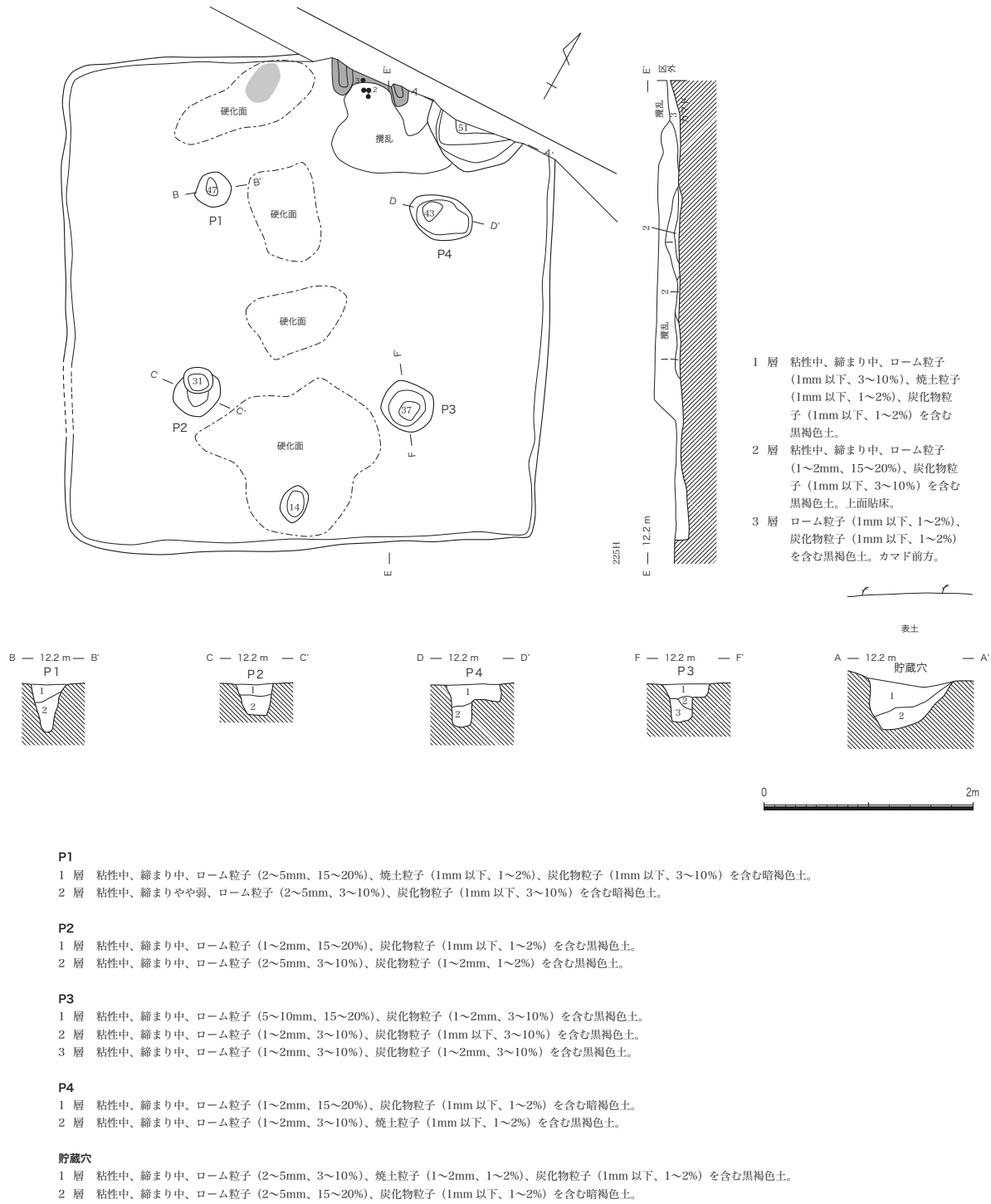
[住居構造] 北コーナーは調査区域外。周囲の攪乱で、床面近くまで削平されている。(平面形) 正方形。(規模) 4.79×4.71m。(主軸方向) N-29°-W。(壁高) 残りの良いところで15cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 確認されなかった。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。攪乱のため遺存状態が悪いが、入口から北西壁にかけて硬化面を確認。(床面レベル) 標高11.99～12.03m。(カマド) 北西壁、北コーナー寄りに位置する。長さ不明・幅76cmを測る。攪乱・削平が著しいが、両袖部は地山ローム削り残しを基礎として構築していることが判る。燃焼部上で土製支脚破片が出土。(柱穴) 主柱穴4基を確認。深さ31～47cmを測る。(貯蔵穴) カマド右脇、北コーナーに位置する。平面長方形か。規模は不明・深さ51cmを測る。覆土下半はローム主体土、上半は黒褐色土を基調とする。(入口施設) 南東壁中央に位置する。梯子穴を確認。(覆土) 3層。床面直上付近の覆土のみ残存。北西壁付近の床面直上で焼土を確認。

[遺物] 覆土中から土師器小片を得たのみ。図示した土師器坏は試掘調査時(つまり、覆土上部)に出土。

[時期] 古墳時代中期(5世紀後葉)。

[所見] 攪乱・削平のために遺存状態が悪いが、平面形態は良く把握できた。帰属時期は試掘調査時

第3章 検出された遺構と遺物

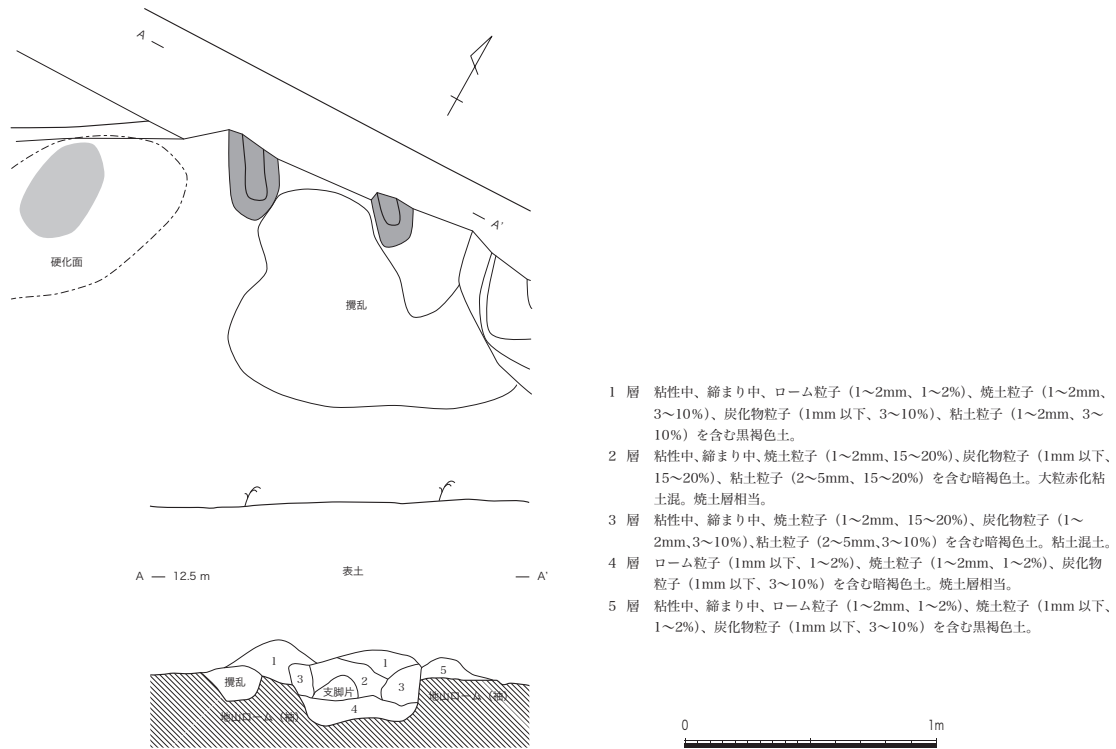


第 165 図 225 号住居跡 (1/60)

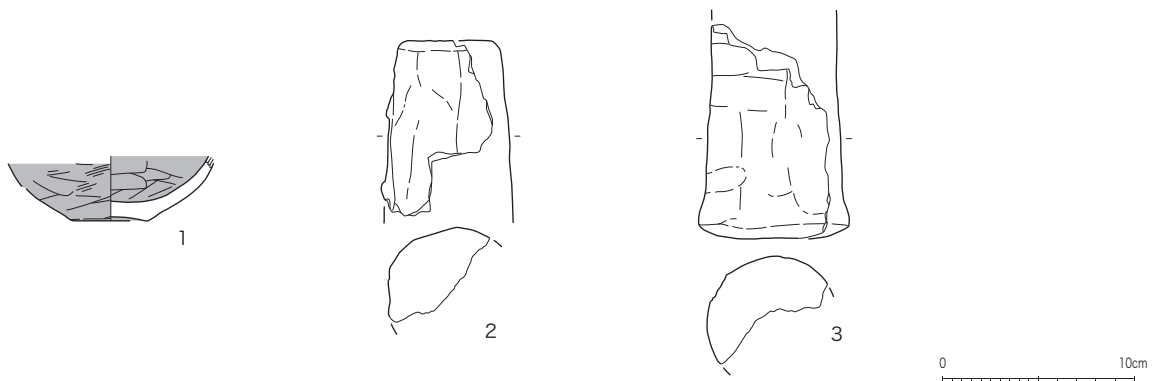
の出土遺物から判断。

遺物 (第 167 図、第 52・59 表)

土師器坏 1 点 (1) と、土製支脚破片 2 点 (2・3) のみ図示し得た。



第 166 図 225 号住居跡カマド (1/30)



第 167 図 225 号住居跡出土遺物 (1/4)

226 号住居跡

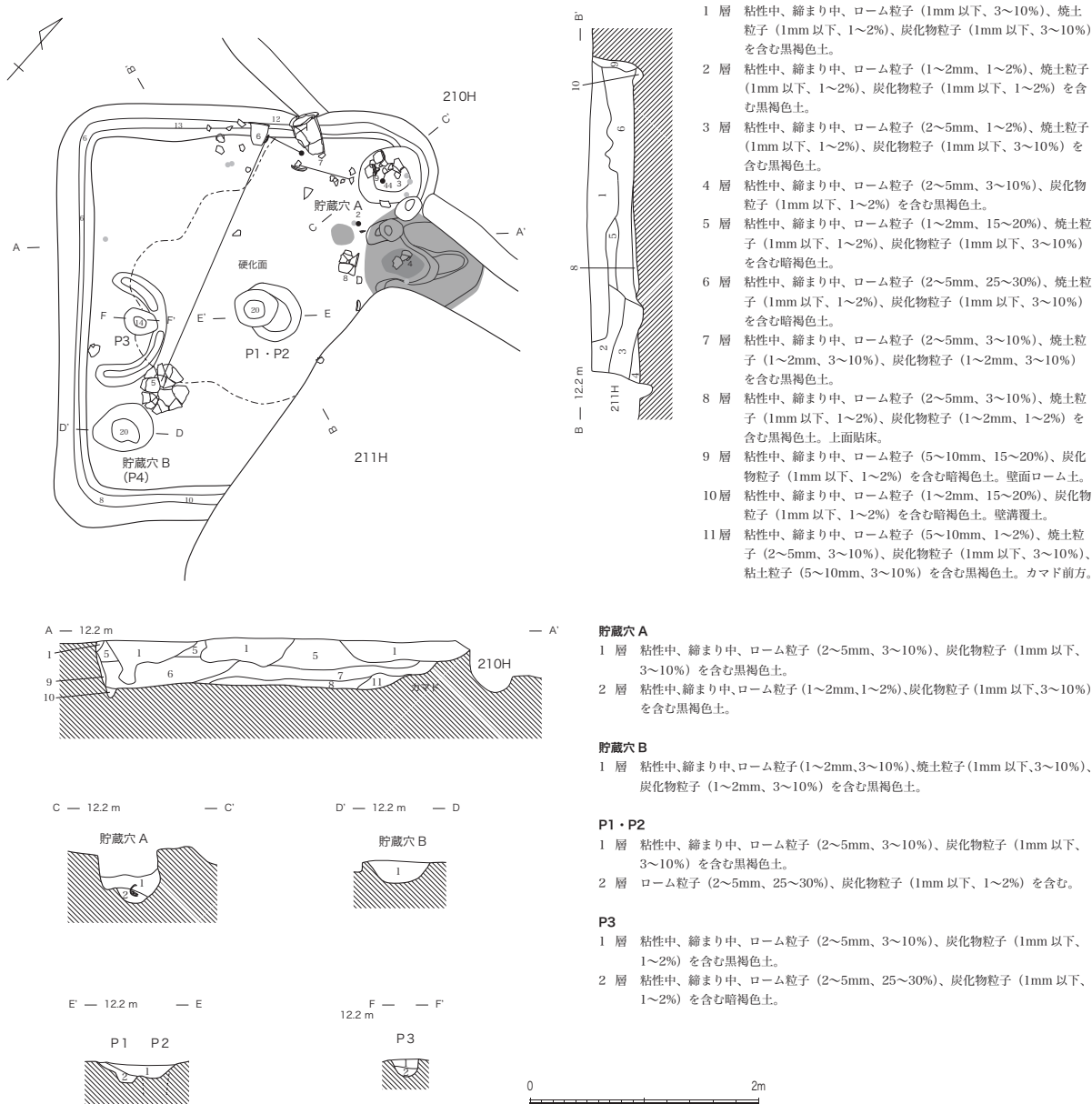
遺 構 (第 168・169 図)

[位置] E-4 グリッド。

[住居構造] 北コーナーを 210 号住居跡に、東側を 211 号住居跡に切られる。(平面形) 正方形。(規模) 3.75×3.35m。(主軸方向) N-40°-W。(壁高) 36~38cm を測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅 16~33cm・下幅 3~8cm・深さ 7~8cm を測る。確認範囲では、カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。入口からカマド前面・貯蔵穴 A にかけて良く硬化していた。(床面レベル) 標高 11.71~12.15m。(カマド) 北東壁の北コーナー寄りに位置する。長さ 102cm・幅不明・壁への掘り込み 41cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として構築。(柱穴) 中央部に支柱穴 1 基を確認。

(貯蔵穴) 北コーナーと南コーナーに 2 基確認。〈貯蔵穴 A〉55×50cm・深さ 44cm を測る。〈貯蔵穴 B〉

第3章 検出された遺構と遺物



第 168 図 226 号住居跡 (1/60)

54×44cm・深さ 20cm を測る。

〔入口施設〕南西壁中央に位置する。深さ 14cm を測る。凸堤と梯子穴を確認。(覆土) 11 層。床面直上までロームブロック・粒子を多く含む暗褐色土が主体を占める。埋め戻し土の可能性はあるか。

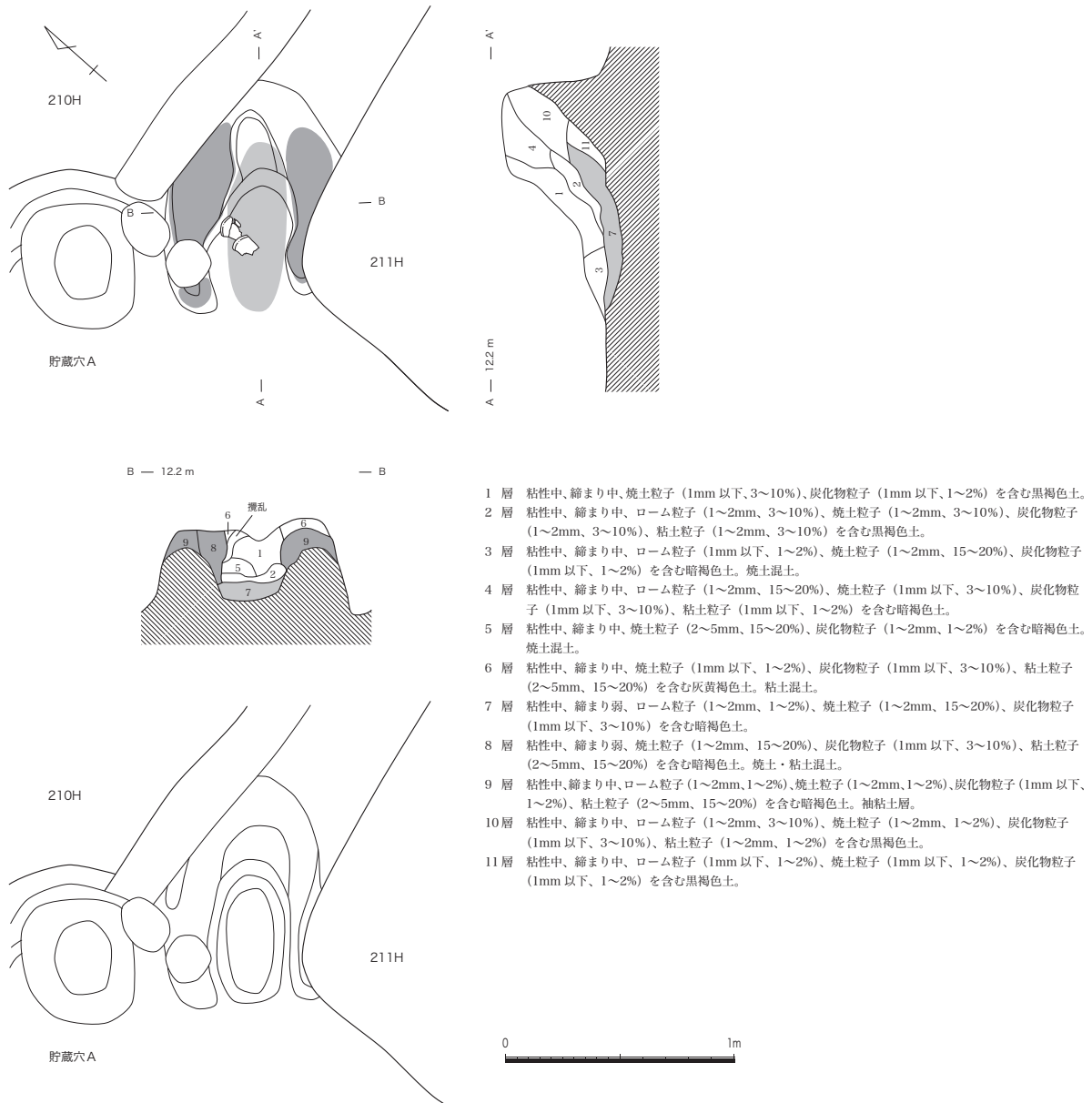
〔遺物〕北西壁に寄りかかる状態で、土師器甕 (6) と甕 (7) が床面直上出土。入口東側の床面よりやや上で大型丸甕の胴下半部が潰れて検出された。

〔時期〕古墳時代後期 (7 世紀後葉)。

〔所見〕1 本支柱の小型竪穴。支柱穴は平均規模の 4 本支柱住居と同規模のしっかりしたものであった。

遺物 (第 170 図、第 53 表)

土師器坏 (1~3)、鉢 (4)、甕 (5・7~9)、甕 (6) を図示した。



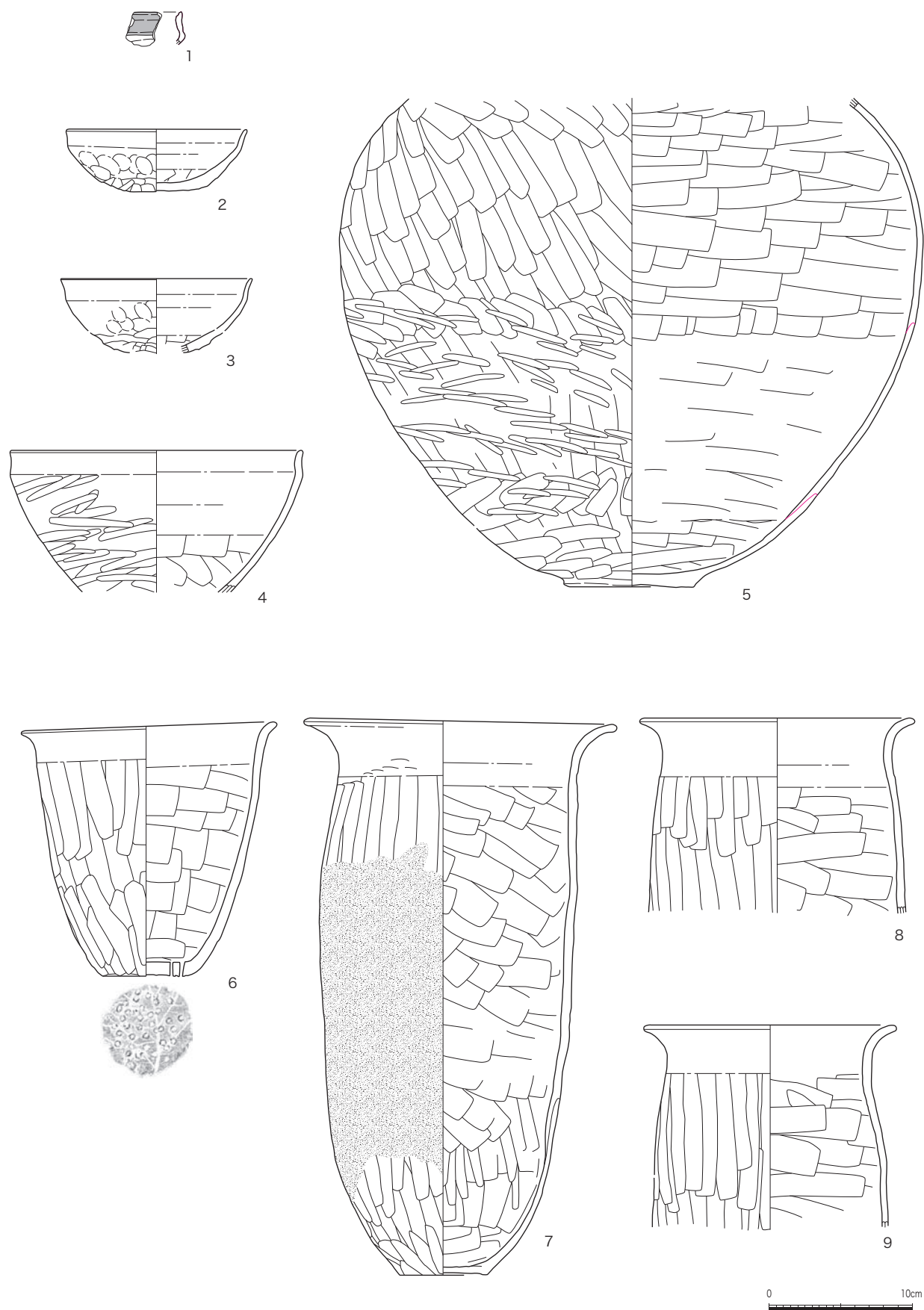
第 169 図 226 号住居跡カマド (1/30)

227 号住居跡

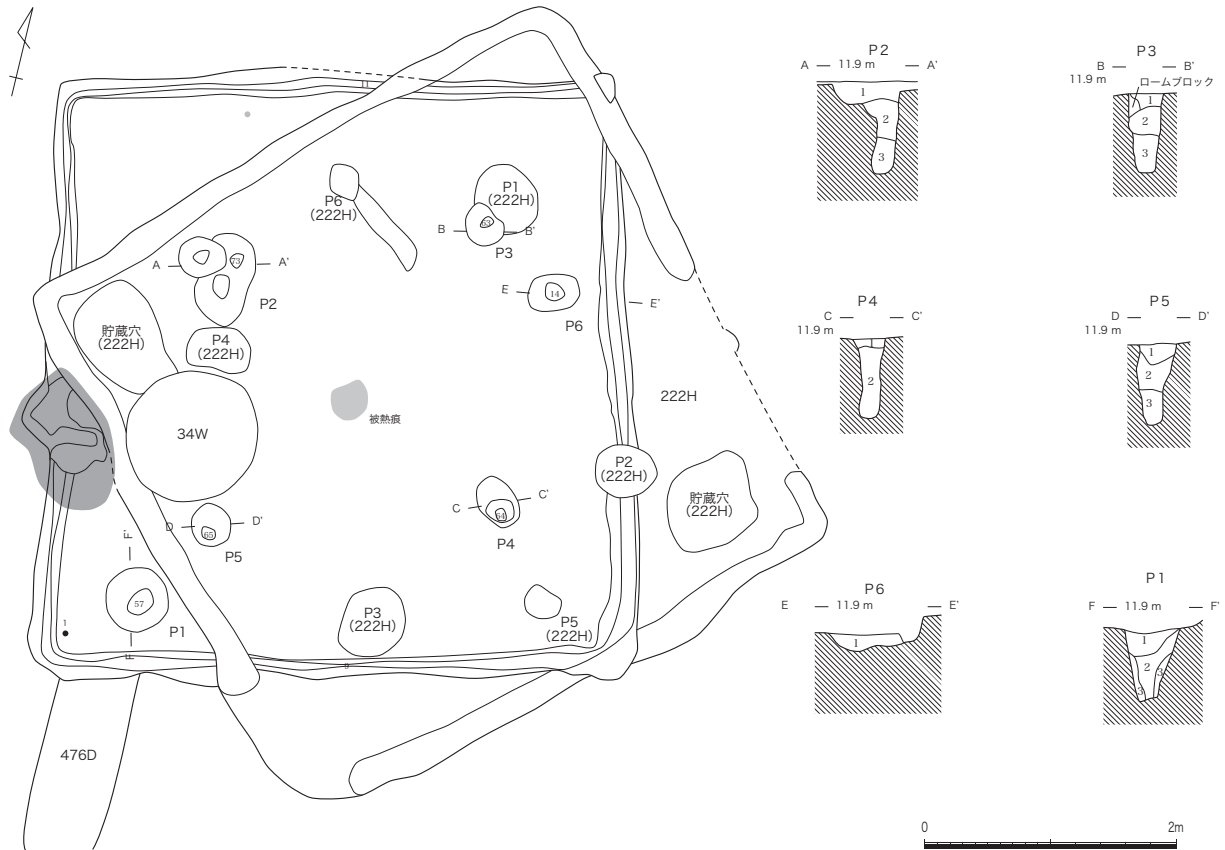
遺 構 (第 171・172 図)

[位置] H・I - 5 グリッド。

[住居構造] 222 号住居跡に床面近くまで切られる。(平面形) 正方形。(規模) 4.91×4.89m。(主軸方向) N-55°-W。(壁高) 5～30cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 12～26cm・下幅 2～11cm・深さ 8～10cm を測る。カマド部分を除き全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。全体的に硬化していた。中央に被熱痕跡を確認。(床面レベル) 標高 11.76～11.79m。(カマド) 西壁の南西コーナー寄りに位置する長さ不明・幅不明・壁への掘り込みは 18cm を測る。右袖部と左袖部先端、燃焼部の半分を 222 号住居跡に壊されている。袖部に地山ロームの削り残し基礎はなく、(柱穴) 支柱穴 4 基を確認。深さ 63～73cm を測る。(貯蔵穴) 南西コーナーに位置する P1 が相当するか。



第170図 226号住居跡出土遺物(1/4)



P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、赤色スコリア (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性強、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む褐色土。

P3

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む黒褐色土。222H では貼床相当。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

P5

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。222H では貼床相当。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

P2

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。222H では貼床相当。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。

P4

- 1 層 ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。222H では貼床相当。
- 2 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

P6

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。

第 171 図 227 号住居跡 (1/60)

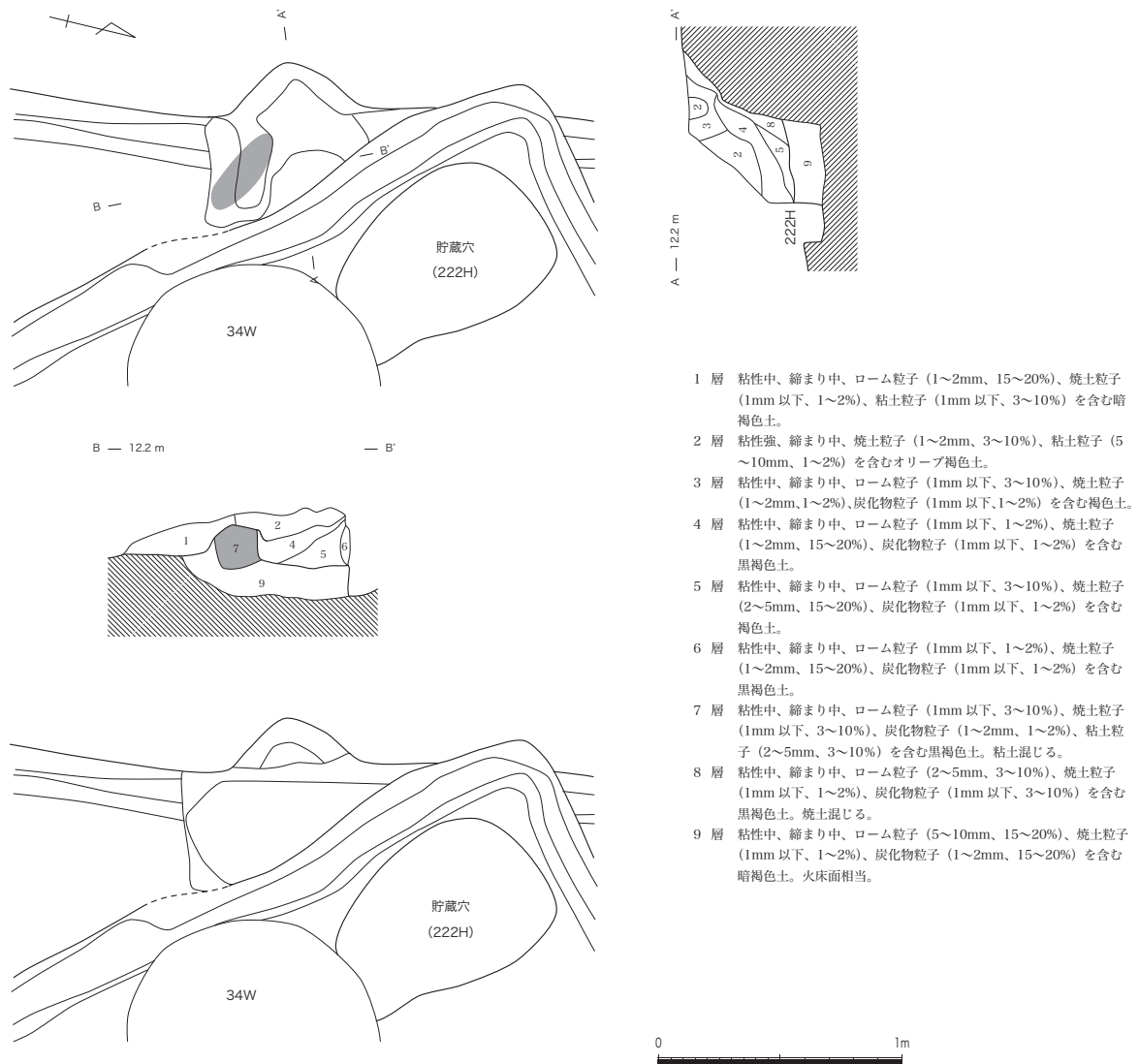
平面円形、柱穴状。規模は 53×51cm・深さ 57cm を測る。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 黒褐色土を基調とする。222 号住居跡重複範囲は同住居の貼床土。

[遺物] 南西コーナーとカマド覆土中から土師器高環が出土。被熱痕跡から支脚に転用されていた可能性がある。他は北西・南西コーナー部分の覆土中で土師器破片がわずかに出土したのみ。

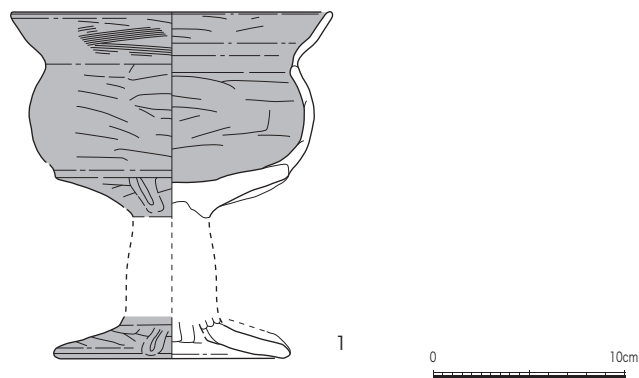
[時期] 古墳時代中期 (5 世紀末葉)。

遺物 (第 173 図、第 54 表)

土師器高環 1 点 (1) のみ図示し得た。



第172図 227号住居跡カマド (1/30)

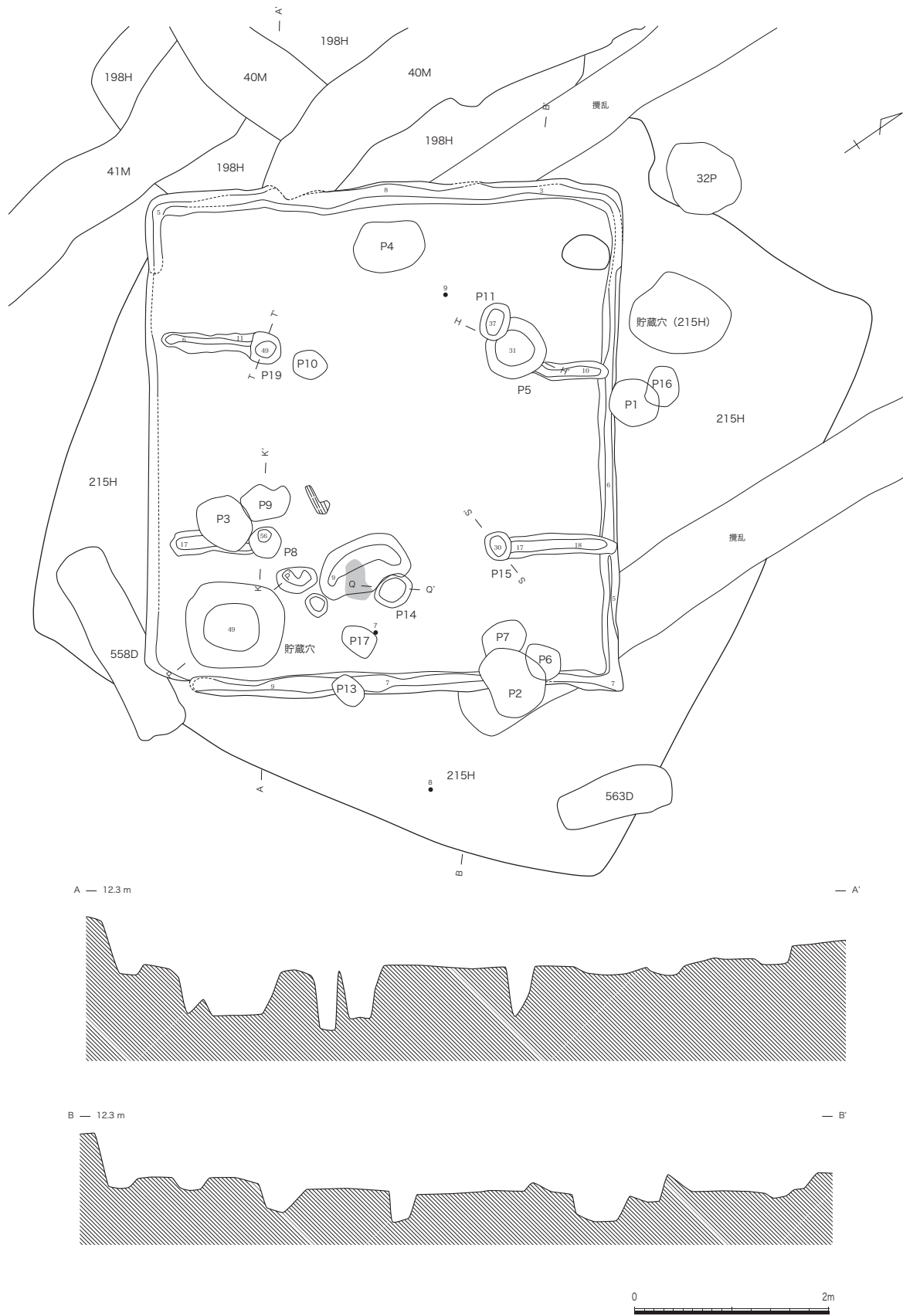


第173図 227号住居跡出土遺物 (1/4)

228号住居跡

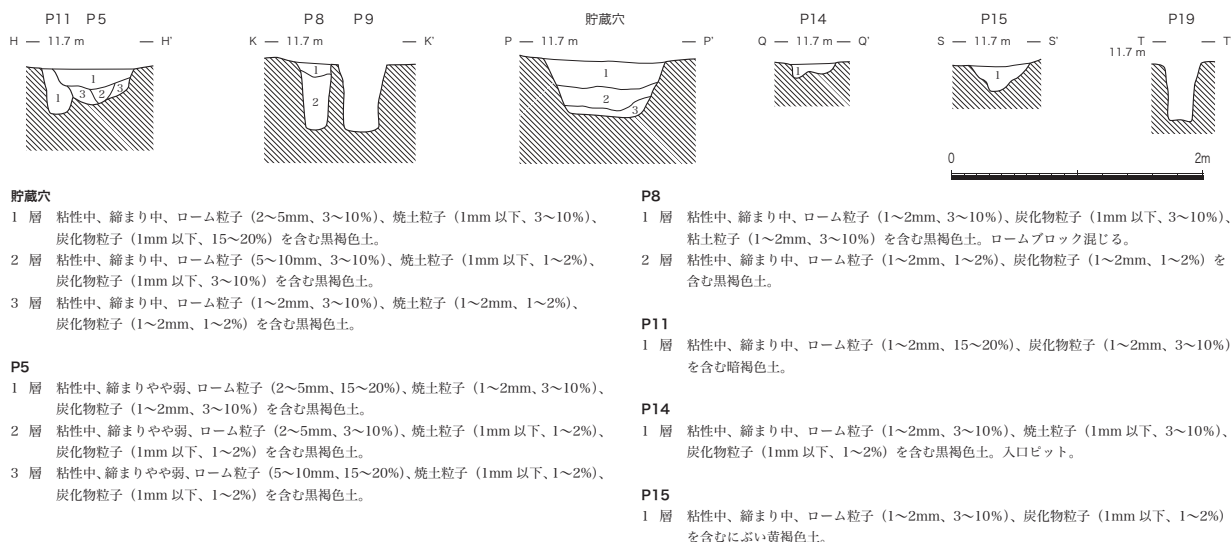
遺構 (第174・175図)

[位置] C・D-1・2グリッド。

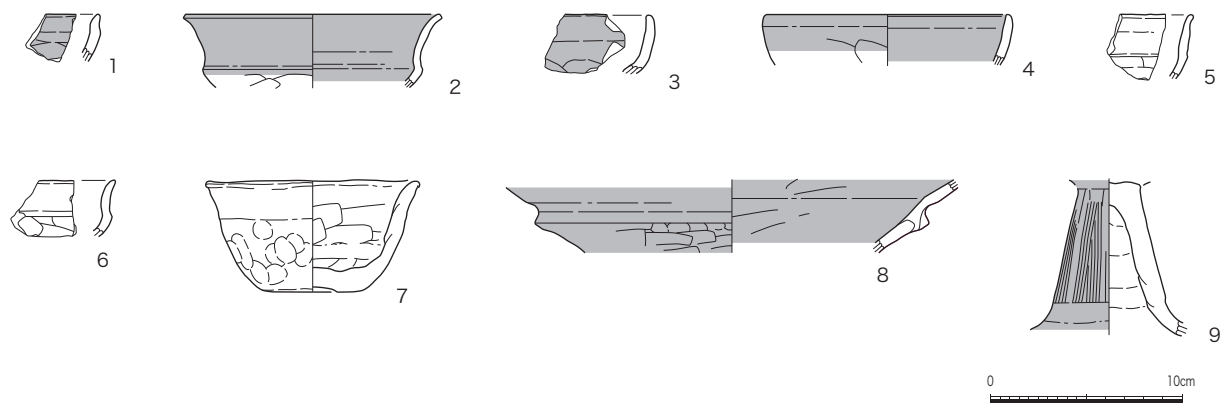


第174図 228号住居跡1 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第 175 図 228 号住居跡 2 (1/60)



第 176 図 228 号住居跡出土遺物 (1/4)

[住居構造] 215 号住居跡に切られる。同住居跡の掘り下げに伴い、存在が判明。(平面形) 正方形。(規模) 5.32×5.04m。(主軸方向) N-54°-W。(壁高) 3~9cm を測る。壁溝のみの確認であるので、壁の立ち上がりは不明。(壁溝) 上幅 15~23cm・下幅 4~15cm・深さ 4~10cm を測る。南西壁を除いて確認された。(床面) 貼床ではなくタタキ床。全体的に硬化していた。4 基の支柱穴と壁を繋ぐ形で、いわゆる間仕切り溝を確認。入口の凸堤周辺の床面直上に焼土と炭化材を検出。(床面レベル) 標高 11.49~11.62m。(カマド) 確認されなかった。(柱穴) 支柱穴 4 基を確認。深さは 30~56cm を測る。北角の P5 は、下層の第 2 層が本住居跡の柱穴に相当するものと思われる。(貯蔵穴) 南コーナーに位置する。平面長方形。規模は 104×88cm・深さ 49cm を測る。ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。(入口施設) 南東壁側中央に位置する。深さ 11cm を測る。凸堤と梯子穴が確認された。(覆土) 215 号 B・C 住居跡の硬化面(貼床)を剥がして床面が確認されたため、覆土は周溝のみ。

[遺物] 215 号住居跡覆土中出土土器のうち、6 世紀中葉のものを本住居跡に伴うものとして帰属させた。

[時期] 古墳時代後期（6世紀中葉）。

[所見] 入口対辺の北西壁は壁溝が巡ることから、ここにカマドが設置されていなかったと思われる。一方、南西壁は破壊が著しいものの、入口左脇の貯蔵穴の配置などからも、ここにカマドを想定することは可能である。しかし、何らの痕跡も認められなかった。

遺物 (第176図、第55表)

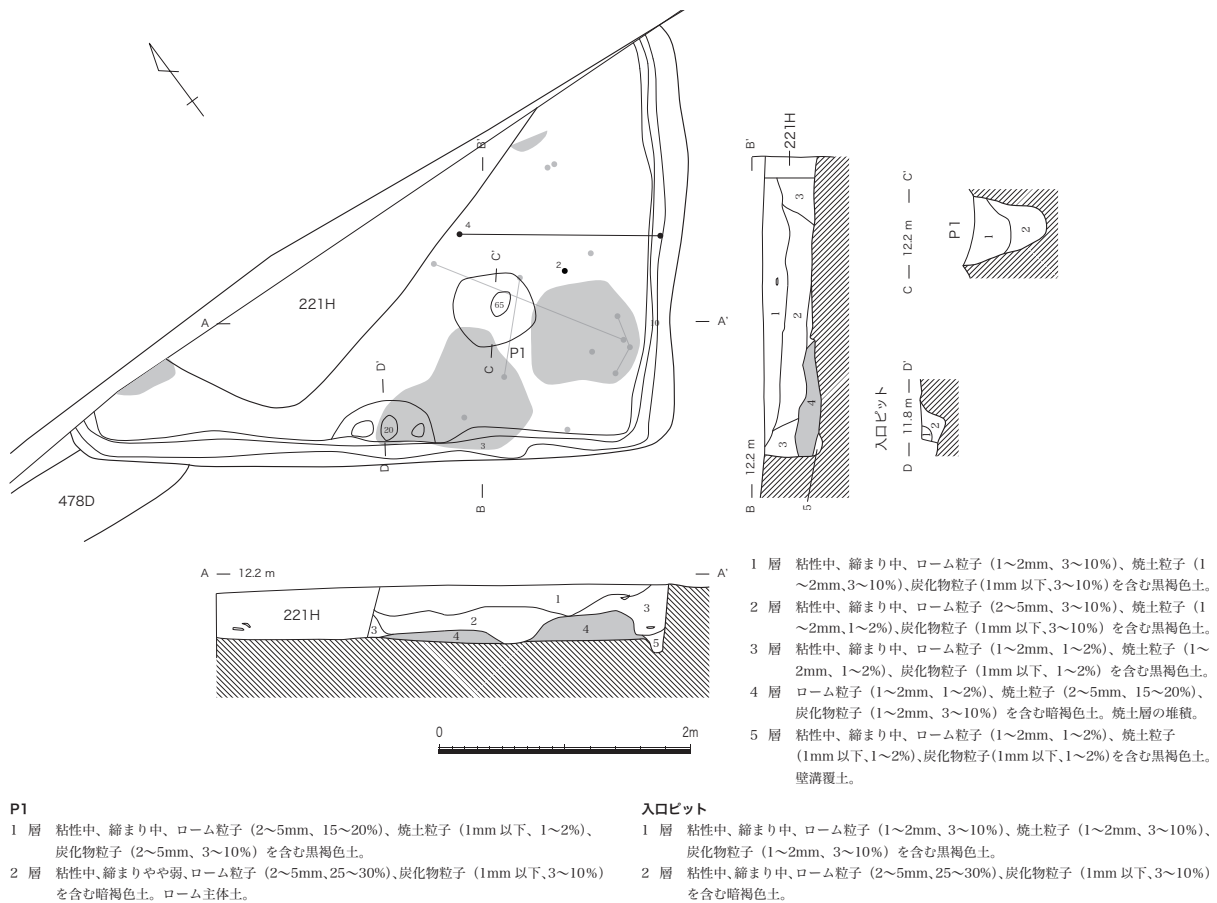
土師器坏（1～7）、壺（8）、高坏（9）を図示した。

229号住居跡

遺構 (第177図)

[位置] H-4・5グリッド。

[住居構造] 南側3分の1を確認。北側は調査区域外。221号住居跡に切られる。(平面形) 不明。(規模) 不明×4.89m。(主軸方向) N-36°-W。(壁高) 41～43cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅20～33cm・下幅3～16cm・深さ7～11cm確認範囲では全周する。(床面) 貼床ではなくタタキ床。全体的に硬化していた。(床面レベル) 標高11.64～11.88m。(カマド) 未確認。(柱穴) 主柱穴1基を確認。深さ65cmを測る。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 南西壁中央に位置する。深さ65cmを測る。入口ピットを確認。(覆土) 5層、自然堆積。床面直上に焼土の堆積を確認。



第177図 229号住居跡 (1/60)

[遺物] 覆土中（焼土より上位）に土師器破片が点在。

[時期] 古墳時代後期（7世紀中葉）。

[所見] 多量の焼土の堆積から、焼失住居と考えられる。

遺物（第178図、第56表）

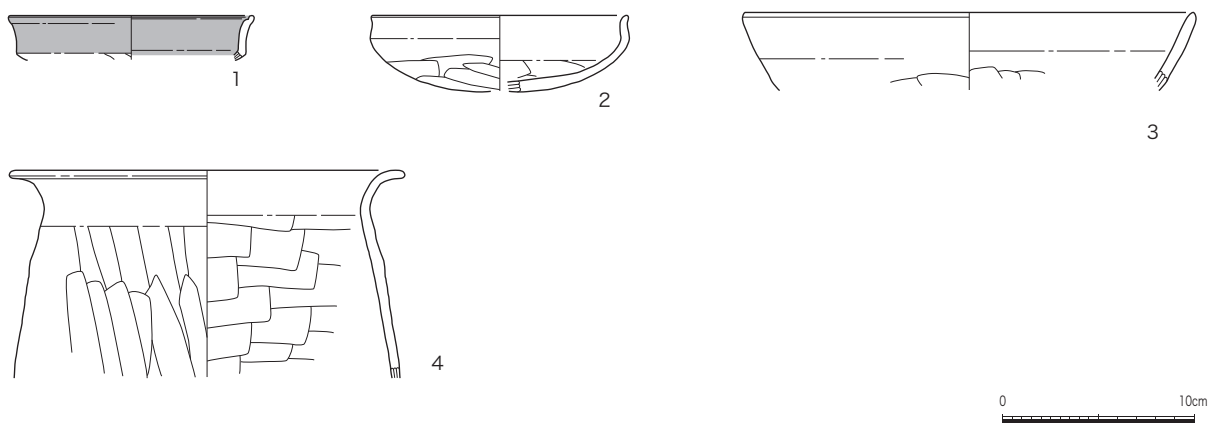
土師器坏（1・2）、鉢（3）、甕（4）を図示した。

（3）ピット

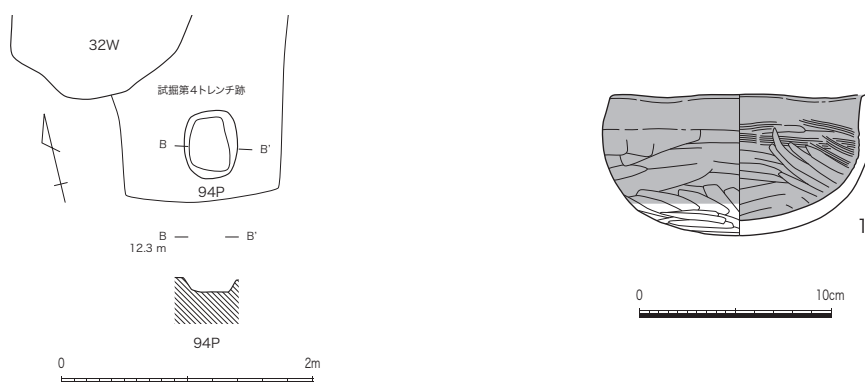
〈第60地点〉

94号ピット（第179図、第57表）

ほぼ完形の坏が1個体出土した。平面不整円形、断面皿状の浅い掘方で、覆土はローム粒子を含む黒褐色土の単一層である。出土遺物は図示した土師器坏1点のみで、中期・5世紀末葉に位置づけられる。



第178図 229号住居跡出土遺物（1/4）



第179図 第60地点 94号ピット（1/60）・出土遺物（1/4）

第58地点

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第20図1	住居南コーナー 壁の灰白色粘土 付近(床上約 5~30cm)	土師器	坏	(13.0)	1/4 以下	6.9		1/1 以下	口縁~底	赤/角/英/砂		丸	無	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色	被熱/赤化	

第8表 120号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第26図1	住居南コーナー 付近(床上約 30cm)	土師器	坏	11.7	2/3	(4.3)		1/1	ほぼ完成形	赤/角/白砂/ 砂/礫		凸面	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り(光沢)/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	赤褐色		入間系/比企型坏
第26図2	住居南コーナー から南半部に 散在(床上約 14~31cm)	土師器	坏	(11.8)	1/3	(4.5)			口縁~胴	赤/角/白砂/ 砂/礫		凸面	丸		外:口縁横ナデ/胴削り(光沢)/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	赤褐色		入間系/比企型坏
第26図3	カマドA内及 び付近(床面 上~約10cm)	土師器	坏	(11.2)	1/4	(4.1)		3/4	口縁~底	赤/角/白砂/ 砂/礫		凸面	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り(光沢)/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	明赤褐色		入間系/比企型坏
第26図4	住居中央付近 (床上約14~ 16cm)	土師器	坏	(12.8)	1/2	(5.4)			口縁~底	赤/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	明赤褐色		
第26図5	住居南側(床 上約31cm)	土師器	坏	(12.5)	1/4 以下	(4.1)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	黄褐色	被熱/黒化	
第26図6	カマドA内	土師器	坏	(12.6)	1/4 以下	5.3			口縁~底	赤/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	褐色	被熱/黒化/ 粘土付着	
第26図7	住居中央付近 (床上約35cm)	土師器	坏	(14.8)	1/4 以下	(3.6)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色		
第26図8	住居中央付近 (床上約20cm)	土師器	坏						口縁~胴	赤/英/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤	良	橙色	被熱/黒化	
第26図9	貯蔵穴A内	土師器	坏	(14.0)	1/4	(3.6)			口縁~胴	赤/英/砂		匙面	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	黒	良	橙色		
第26図10	P2内	土師器	坏	(13.6)	1/4	(3.1)			口縁~胴	赤/英/砂		匙面	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁~胴横ナデ	黒	良	褐色		
第26図11	貯蔵穴A内及 び付近(床面 上~約37cm)	土師器	坏	(13.2)	1/4	4.9			口縁~底	赤/角/英(多)/ 砂		内傾 面	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→放 射状磨き(暗文風)	黒	良	黄色		
第26図12	住居南側(床 上約12cm)	土師器	坏	(11.0)	3/4	(4.7)			口縁~底	赤/英/砂		段	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁~胴横ナデ	黒	良	橙色		
第26図13	住居南東コー ナー(床上約 32cm)	土師器	坏	12.2	3/4	5.3			口縁~胴	赤/雲?/英/ 白砂/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁~胴横ナデ	無	良	明赤褐色		北武蔵系
第26図14	住居南側(床 上約25cm)	土師器	坏						口縁~胴	赤/雲/角/英/ 砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	明褐色		
第26図15	カマドA内	土師器	高坏	13.2	3/4			1/4 以下	ほぼ完成形	赤/雲/角/英/ 砂		丸	段		外:口縁横ナデ/坏削り/脚ナデ/ 内:口縁横ナデ/坏ヘラナデ/脚 上半削り/下半横ナデ	赤	良	褐色	被熱/脚内 面以外粘土 付着	
第26図16	カマドA内 及び住居南半 部に広く散在 (床上約9~ 13cm)	土師器	高坏	(19.0)	1/2			1/4 以下	坏~接合 /脚	赤/角/英/砂/ 礫		丸	無		外:口縁横ナデ/坏削り/脚削り →ナデ/ 内:口縁横ナデ/坏ヘラナデ/脚 上半削り/下半横ナデ	赤	良	褐色	被熱/黒化	
第26図17	住居中央北側 (床上約11~ 14cm)	土師器	高坏			(1.6)			坏~接合	赤/角/英/砂					ヘラナデ	赤	良	赤褐色		
第26図18	住居南側覆土中	土師器	高坏				(9.2)	1/4 以下	脚	赤/英/白砂 (多)砂					外:ナデ/ 内:上半削り/下半横ナデ	赤	良	褐色	被熱/黒化	
第26図19	覆土中	土師器	壺	(12.4)	1/4	(4.3)			口縁	雲/角/英/砂		丸	屈曲		横ナデ	赤	良	黄褐色		
第26図20	貯蔵穴B内	土師器	壺	(16.8)	1/4	(3.8)			口縁	赤/角/英/砂	密	丸	屈曲		横ナデ	黒色?	良	灰黄色		
第26図21	住居南側(床 上約23cm)	土師器	壺	(18.4)	1/4 以下	(5.3)			口縁	赤/雲/角/英/ 砂		丸			横ナデ	無	良	黄褐色		
第26図22	住居中央南付 近(床上約 11cm)	土師器	壺	(20.4)	1/4 以下	(8.8)			口縁~底	赤/雲/角/英/ 砂	密	折返 し	屈曲		外:口縁横ナデ/頸~胴磨き/ 内:口縁磨き/胴削り	無	良	黄色		
第26図23	住居南側(床 上約17~ 29cm)	土師器	甗	(23.6)	1/4	(10.7)		1/5	口縁~底	赤/雲/角/英/ 砂		丸	無		外:口縁横ナデ~胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		筒状型
第27図24	カマドA内	土師器	甗	(24.0)	1/8	(4.0)			口縁	角/英/砂		複合	無		横ナデ	無	良	黄褐色		
第27図25	住居南東コー ナー(床上約 22cm)	土師器	甗	20.8	3/4	(14.1)			口縁~胴	角/英/砂		丸・ 内湾	屈曲		外:口縁横ナデ/胴ハケ目/ 内:口縁横ナデ/胴ハケ目	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	く字甗
第27図26	住居中央南付 近(床上約 19cm)	土師器	甗	(15.8)	1/4	(12.1)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ~頸~胴ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甗
第27図27	P3付近	土師器	甗	(18.0)	1/4 以下	(8.4)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤付着	丸甗
第27図28	住居南コーナー 付近(床上約 22cm)	土師器	甗	(21.0)	1/4 以下	(8.2)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甗
第27図29	覆土中	土師器	甗	(11.6)	1/4	(5.5)			口縁~胴	赤/角/英/白 砂(多)砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色		丸甗/入間系?
第27図30	住居中央西付 近(床上約 34cm)	土師器	甗	(16.7)	1/4 以下	(5.4)			口縁	赤/雲/角/英/ 砂		面	屈曲		横ナデ	無	良	褐色		丸甗
第27図31	貯蔵穴A内、 カマドA内及 び付近	土師器	甗			(29.1)	7.4	3/4	胴~底	赤/角(多)/英/ 砂			平		外:胴~底削り/ 内:胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甗
第27図32	P2付近(床上 約9cm)	土師器	甗			(29.6)	(6.0)	1/4	胴~底	赤/角/英(多)/ 砂			平		外:口縁横ナデ/肩ナデ/胴~底 削り/内:胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甗

第9表 165号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第29図1	覆土下層	土師器	坏	(14.6)		(5.0)	3.4	2/3	口縁	赤/角/英/砂		匙面	丸?		横ナデ	赤	良	赤褐色		比企型坏
第29図2	覆土下層	土師器	坏						口縁	赤/英/砂		丸	無		横ナデ	赤	良	明黄褐色		
第29図3	東コーナー付 近(床上約38 cm)	土師器	甗						口縁	赤/雲/角/英/ 砂		複合			横ナデ	赤	良	橙色		

第10表 167号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸						
第29図4	東コーナー付近(床上約20cm)	土師器	甕			(5.9)	(8.0)	1/4以下	胴~底	赤/雲/角/英/砂				外:胴削り→磨き/? 内:胴ヘラナデ→磨き/底削り	無	良	明黄褐色		筒拔型
第29図5	P1付近(床上約36cm)	土師器	甕	(24.5)	1/4以下	(5.1)			口縁	赤/雲(多)/砂		丸		横ナデ	無	良	黄褐色		丸甕
第29図6	東コーナー付近(床上約35cm)	土師器	甕						口縁	針/赤/英(多)/砂		丸	屈曲	横ナデ	無	良	明赤褐色		く字甕/比企産?
第29図7	東コーナー付近(床上約40cm)	土師器	甕						口縁~胴	赤/雲(多)/英/砂			無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第29図8	東コーナー付近(床上約56cm)	土師器	甕						口縁~胴	赤/雲/砂			段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕
第29図9	東コーナー付近(床上約25cm)	土師器	甕			(1.7)	(10.0)	1/4	胴~底	赤/雲(多)/砂			突出・平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕
第29図10	東コーナー付近(床上約39cm)	土師器	甕			(2.0)	9.4	1/4以下	胴~底	赤/雲(多)/砂			突出・平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第29図11	東コーナー付近(床上約16cm)	土師器	甕			(5.2)	(7.8)	1/4以下	胴~底	赤/雲(多)/角/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第29図12	東コーナー付近(床上約33cm)	須恵器	高坏?			(2.0)		1/4以下	坏	白砂/砂				ロクロ右回転ナデ/ 外:下平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	灰色		
第29図13	東コーナー付近(床上約47cm)	須恵器	甕						胴	英/砂					無	良	灰白色		産地不明

第10表 167号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考		
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸							底	
第31図1	住居東壁397D付近(床上約9~17cm)	土師器	坏	14.1		6.6	4.0	3/4	ほぼ完形	赤/角/英/砂		丸	屈曲	平	外:口縁横ナデ/胴下半~底削り →口縁~胴上半ヘラナデ?(光沢) 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→放射状磨き(粗)	赤	良	黄褐色		口縁補修痕	
第31図2	住居中央北側(床上約17~22cm)	土師器	坏	(14.6)		(5.0)	3.4	2/3	口縁~底	赤,角,英,砂		丸	屈曲	凹	外:口縁横ナデ,胴上半ナデ,下半~底削り/ 内:口縁横ナデ,胴ヘラナデ→放射状磨き(暗文風)	赤	良	橙色		入間系?	
第31図3	住居中央北側(床上約13cm)	土師器	坏	(14.3)	1/4	(5.1)			口縁~胴	赤/雲/角/?/英/砂(多)		丸	稜		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	黄褐色			
第31図4	住居中央北側(床上約15cm)	土師器	坏	12.7		6.0	3.4		口縁~胴	赤/雲/角/?/英/砂/礫		丸	無	凹	外:口縁横ナデ/胴上半ヘラナデ/ 下半~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色		口縁端部磨耗/内面被熱・黒化/剥離	
第31図5	住居中央北側(床上約13~18cm)	土師器	坏	(14.1)	1/2	6.3	4.4	1/1	口縁~胴	赤/雲/角/?/英/砂/礫		丸	無	凹	外:口縁横ナデ/胴上半ヘラナデ/ 下半~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色			
第31図6	東壁(床上約17cm)	土師器	坏	(13.4)	1/8	6.3			口縁~胴	赤/角/英(多)/砂		丸	無	丸	外:口縁横ナデ/胴下半~底削り →口縁~底磨き/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→口縁~底磨き(粗)	赤	良	明赤褐色		入間系?	
第31図7	北東コーナー(床上約11cm)	土師器	坏	9.9		6.2	5.6		完形	赤(多)/角/英/砂	密	丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴下半~底削り →口縁~胴磨き/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒	良	黄褐色			
第31図8	住居東壁(床上約10cm)	土師器	坏	(12.7)	1/8	(3.3)			口縁~胴	角(多)/白砂(多)/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴上半ナデ/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第31図9	397D付近(床上約4~10cm)	土師器	高坏			2/3	(12.7)		1/2	坏~脚	角/英/砂(多)				外:坏上半ナデ/下半削り/脚上半磨き/ 下半ナデ/ 内:坏ナデ/脚上半削り/下半ナデ	無	良	明赤褐色			
第31図10	住居中央北側(床上約17~21cm)	土師器	高坏	18.2	1/2	(13.3)			坏~脚	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/坏~脚ナデ/ 内:口縁横ナデ/坏ヘラナデ/脚削り	赤	良	明褐色			
第31図11	住居東壁(床上約8~11cm)	土師器	高坏			(9.6)	13.4	1/1	坏~脚	赤(多)/雲/角/英/砂	密				外:ナデ→脚磨き(粗)/ 内:坏ナデ/脚上半削り/下半ナデ	赤	良	黄褐色			
第31図12	住居中央北側(床上約16~19cm)	土師器	高坏	(20.2)	1/4以下	(4.4)			坏	赤/雲/英/砂					外:口縁横ナデ/坏ナデ/ 内:口縁横ナデ/坏ナデ	赤	良	褐色			
第31図13	住居中央北側(床上面~26cm)	土師器	鉢	10.4	3/4	13.5	6.4	1/1	完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	凹	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴削り	無	良	褐色			
第31図14	住居中央北側(床上約12~20cm)	土師器	甕	(17.3)	1/2	14.5	4.6	1/1	口縁~底	赤/雲/角/英/砂			複合	無	平	外:口縁指押え→横ナデ/胴削り/ 底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		内:焦げ付着 単孔型
第31図15	貯蔵穴内	土師器	甕	(22.0)	1/12	(3.6)			口縁	雲/角/英/砂			複合	無		外:口縁横ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第31図16	覆土中	土師器	壺	(12.0)	1/4以下	(4.0)			口縁	雲/角/英/砂		丸	屈曲	横ナデ	赤	良	黄褐色				
第31図17	北東コーナー(床面上~9cm)	土師器	壺	9.8	1/2	(14.0)			口縁~胴	赤/角(多)/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/頸~胴ナデ/ 内:口縁横ナデ/頸~胴ヘラナデ	黒	やや不良	橙色		外:煤?付着	
第31図18	北東コーナー(2cm)	土師器	壺			(2.5)	5.0	3/4	胴~底	赤/角(多)/英/砂			突出・平	外:胴ヘラナデ/底無調整/ 内:ヘラナデ	黒?	やや不良	灰黄褐色				
第31図19	覆土中	土師器	甕	(22.6)	1/10	(4.5)			口縁	赤/英/砂		丸	屈曲	横ナデ→磨き	無	良	黄褐色		内:焦げ付着 く字甕		
第31図20	P1付近(床上約10cm)	土師器	甕	(17.6)	1/4	(6.2)			口縁~胴	赤/雲/角/英(多)/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		く字甕	
第31図21	北東コーナー(床上約4cm)	土師器	甕			(20.2)	6.8	1/1	胴~底	赤/白砂(多)/砂			突出・凹	外:胴~底削り→胴上半ヘラナデ(光沢) 内:胴ヘラナデ/胴下半~底削り	無	良	明褐色		外:煤付着 く字甕?		
第32図22	北壁(床上約16cm)	土師器	甕			(11.5)	7.0	2/3	胴~底	赤/角/英/砂			突出・凹	外:胴~底削り/内:胴ヘラナデ	無	良	明褐色		外:煤付着 く字甕?		
第32図23	住居中央北側(床上約16cm)	土師器	甕			(2.4)	5.4	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		外:煤付着 く字甕?		

第11表 171号住居跡出土土器一覽

第2節 古墳時代

押図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第34図1	南壁付近(床上約26~33cm)	土師器	坏	13.2	2/3	4.5			口縁~底	赤/英/砂		凸面	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色		比企型坏	
第34図2	住居南側及び壁溝付近(床上約6~26cm)	土師器	坏	(15.6)	1/4	4.6			口縁~底	赤/雲/角/砂		沈線	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	無	良	橙色		小針型坏	
第34図3	P1付近(床上約16cm)	土師器	高坏	(16.0)	1/20	(7.7)			坏~接合	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/上半ナデ/下半ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/坏ヘラナデ	赤	良	橙色				
第34図4	住居南側(床上約15cm)	土師器	甕?	(16.3)	1/4以下	(2.1)			口縁	赤/角/英/砂		複合	コ字	横ナデ	無	良	褐色	6の口縁部か?	く字甕?		
第34図5	南壁付近(床上約12cm)	土師器	甕	(20.0)	1/4以下	(3.9)			口縁	赤/雲/角/英/砂		丸	屈曲	外:横ナデ~磨き(粗)/ 内:横ナデ	無	良	明黄褐色		く字甕		
第34図6	住居中央の床面上	土師器	甕			(26.4)			胴	赤/角/英/砂			屈曲	外:胴上半ヘラナデ/下半削り/ 内:ヘラナデ	無	良	褐色		く字甕		

第12表 172号住居跡出土土器一覽

押図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第39図1	P5付近に散在(床上約9~30cm)	土師器	坏	12.7		4.0			完形	赤/角?/英/砂		段	稜	外:口縁横ナデ~胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	褐色		入間系/比企型坏		
第39図2	P6付近(床上約11~23cm)	土師器	坏	(11.4)	1/4	(3.6)			口縁~胴	赤/角?/英/砂		沈線	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	褐色		比企型坏		
第39図3	住居中央(床上約26cm)	土師器	坏	(13.0)	1/4以下	(3.3)			口縁~胴	赤/角?/英/砂		段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	明赤褐色		入間系/比企型坏		
第39図4	住居南側覆土下層	土師器	坏						口縁~胴	赤/角?/英/砂		凸面	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤	良	明赤褐色		入間系/比企型坏		
第39図5	住居中央(床上約15cm)	土師器	坏	12.8		3.6			完形	赤/雲/角/英/砂(多)		丸	段	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色				
第39図6	カマド付近(床上約22~25cm)	土師器	坏	(12.0)	1/2	3.8			口縁~底	赤/雲/角/英/砂(多)		丸	段	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	橙色				
第39図7	P3付近(床上約13cm)	土師器	坏	(13.2)	1/10	(3.1)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ	黒	良	橙色		有段口縁坏		
第39図8	住居中央西(床上約24~25cm)	土師器	坏	(12.9)	1/16	(6.7)			口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒	良	黒色				
第39図9	P3付近(床上約8cm)	土師器	坏	(12.4)	1/4	3.6		1/1	口縁~底	赤/角?/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半~底削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	無	良	浅黄色			
第39図10	南壁(床上約7cm)	土師器	坏	(11.6)	1/6	(3.4)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	橙色				
第39図11	カマド付近(床上約30cm)	土師器	坏	(12.0)	1/4以下	4.2		1/1	口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	黒?	良	黄褐色			
第39図12	住居中央西(床上約20cm)	土師器	坏	(15.0)	1/4	6.0			口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第39図13	住居中央西附近(床上約19cm)	土師器	坏	(14.1)	1/4	4.5			口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴横ナデ/底ヘラナデ	無	良	橙色			
第39図14	北壁付近(床上約8cm)	土師器	坏	12.3		4.7			完形	赤/角/英/砂		丸	無	丸	外:口縁ナデ/胴削り/底無調整/ 内:口縁ナデ/胴~底ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第39図15	貯蔵穴内	土師器	坏	(13.2)	1/4	(4.0)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無	外:口縁ナデ/胴削り/ 内:口縁ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色				
第39図16	住居中央(床上約19cm)	土師器	鉢	(18.8)	1/8	(4.9)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色				
第39図17	住居中央(床上約25~26cm)	土師器	鉢	(17.6)	1/4	(7.3)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色				
第39図18	西コーナー付近及びカマド前に散在(床上約14~26cm)	土師器	鉢	21.6	1/2	12.8	7.9	1/2	口縁~底	赤/角/英/砂		丸	段	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第39図19	住居中央(床上約8cm)	土師器	鉢	19.1	3/4	(16.0)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤付着			
第39図20	カマド付近(床上約12cm)	土師器	甕	(22.4)	1/4	(14.4)			口縁~胴	赤/角/英/砂(多)		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ~磨き(粗)	無	良	橙色				
第39図21	住居北西(床上約20cm)	土師器	甕	(12.0)	1/5	(5.0)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕		
第39図22	住居北側に散在(床上約2~27cm)	土師器	甕	19.4	1/1	31.0	(8.1)	1/3	ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第40図23	カマド付近(床上約17~33cm)	土師器	甕	(21.0)	1/6	(19.4)			口縁~胴	赤/角/英/砂(多)		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕		
第40図24	住居北側に散在(床上約9~10cm)	土師器	甕			(6.5)	(7.6)	1/1	胴~底	赤/雲/角?/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕~削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第40図25	住居北西(床上約10cm)	土師器	甕			(3.0)	(8.9)	1/1	胴~底	赤/角/英/砂				平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色	被熱/赤化/ 内:焦げ付着	丸甕	
第40図26	住居北側に散在(床上約9~14cm)	土師器	甕			(1.5)	8.6	3/4	底	赤/雲(多)/砂				平	外:木葉痕/内:ヘラナデ	無	良	橙色	被熱/赤化/ 外:煤付着	丸甕	
第40図27	P5付近(床上約21~24cm)	土師器	甕	19.3	3/4	(15.8)			口縁~胴	赤/雲(多)/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕/軽量長甕?		
第40図28	カマド付近(床上約20~21cm)	土師器	甕	(23.0)	1/4	(5.7)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕/軽量長甕		
第40図29	P6付近に散在(床上約5~15cm)	土師器	甕	(23.0)	1/4	(6.1)			口縁~胴	赤/雲(多)/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕		
第40図30	住居中央西(床上約29cm)	土師器	甕	(18.0)	1/6	(5.2)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤 内:焦げ付着	長甕		
第40図31	カマド付近(床上約23cm)	土師器	甕	(18.8)	1/4以下	(5.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕		

第13表 173号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第40図32	貯蔵穴内(床上約6cm)	土師器	甕	(26.0)	1/4以下	(4.8)			口縁	赤/雲/角/英/砂		口縁帯			横ナデ	無	良	黄橙色		須恵器模倣
第40図33	住居中央(床上約18cm)	土師器	甕			(20.0)	6.5	1/3	胴~底	赤/雲(多)/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕? / 内:ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤付着	長甕/軽量長甕
第40図34	P3付近(床上約24cm)	須恵器	坏	(14.0)	1/4以下	(1.7)			口縁~胴	白砂/黒鉄		丸			回転ナデ	無	良	暗灰色		産地不明
第40図35	住居北側覆土下層	須恵器	壺	9.6	1/4以下	(3.5)			口縁	白砂(多)/英		丸			回転ナデ/外:口縁沈線2条	無	良	灰オリーブ色		産地不明
第40図36	住居中央(床上約7cm)	須恵器	提瓶	8.4		18.8			ほぼ完形	白砂(多)/英		凸面			回転ナデ/外:胴カキメ/焼成後胴部穿孔	無	良	灰白色		湖西窯産?

第13表 173号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第42図1	西壁付近(床上約15cm)	土師器	坏	(11.4)	1/12	(4.8)			口縁~胴	赤/雲(多)/角/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色		入間系
第42図2	住居中央付近(床上約14~16cm)	土師器	壺	(13.8)	1/3	(14.6)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		凸面	屈曲		外:口縁横ナデ→磨き/胴削り→磨き/内:口縁横ナデ→磨き/胴ヘラナデ	無	良	明褐色		

第14表 174号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第45図1	住居北側床面上	土師器	鉢	(22.0)	1/4	(11.1)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ(光沢)/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄橙色	外:煤/内:焦げ付着	
第45図2	住居北側床面上	土師器	甕	26.4		29.6	8.8		完形	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き(密・長)	無	良	明黄褐色	内:焦げ付着	筒拔型
第45図3	東壁付近床面上	土師器	甕	(22.0)	1/8	(25.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/内:焦げ付着	長甕
第45図4	北壁付近床面上	土師器	甕			(35.0)	7.6	3/4	胴~底	赤/雲/角/英/砂			無		外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕/軽量長甕

第15表 176号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第48図1	住居北側(床上約23cm)	土師器	坏	12.3	3/4	4.3			ほぼ完形	赤,砂		段	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	褐色		比企型坏
第48図2	住居南側(床上約20cm)	土師器	坏	(12.3)	1/6	(3.0)			口縁~胴	赤/砂		匙面	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	褐色		比企型坏
第48図3	住居中央東(床上約8cm)	土師器	坏	(12.3)	1/7	(3.5)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ	黒	良	灰黄色		
第48図4	住居東壁付近(床上約18~19cm)	土師器	坏	(14.4)	1/5	(4.8)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ→胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き	黒	良	灰白色		
第48図5	住居北側(床上約10cm)	土師器	坏	9.9		3.7			完形	赤/雲/角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ→胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第48図6	住居南側(床上約14cm)	土師器	坏	(14.1)	1/4	(4.1)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ→胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第48図7	カマド内	土師器	甕			(11.8)	(9.0)	1/3	胴~底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄色	外:煤/内:焦げ付着	丸甕
第48図8	住居北側付近(床上約5~12cm)	土師器	甕	15.2	1/1	(19.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤/内:焦げ付着	長甕
第48図9	住居南側付近(床上約29cm)	土師器	甕	(16.0)	1/10	(4.8)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第48図10	住居南側(床上約5cm)	須恵器	壺			(5.0)			胴	白砂(多)/黒鉄					外:カキメ/内回転ナデ	無	良	灰白色		短頸壺? / 湖西窯産

第16表 177号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第51図1	北壁付近(床上約11cm)	土師器	坏	(14.0)	1/4	(4.2)			口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第51図2	住居北側(床上約10cm)	土師器	坏	(13.7)	1/12	(4)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第51図3	住居北側(床上約18cm)	土師器	坏	(15.0)	1/12	(4.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴上半無調整/下半削り/内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明黄褐色		
第51図4	カマド内	土師器	甕			(4.1)	(7.0)	1/4以下	胴~底	赤/角/英/砂					外:胴削り/底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		筒拔型
第51図5	カマド内	土師器	甕	(19.6)	1/5	(21.6)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土付着	長甕/軽量長甕
第51図6	住居北側(床上約10cm)	土師器	甕	(24.0)	1/12	(9.8)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第51図7	カマド内	土師器	甕			(9.6)	7.1	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴削り/底削り? / 内:ヘラナデ	無	良	黄色	外:粘土付着	長甕/軽量長甕?
第51図8	P6付近及び南側に散在(床上約2~12cm)	土師器	甕			(4.3)	9.2	1/2	胴~底	赤/角/英/砂				平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕

第17表 178号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第55図1	東壁付近(床上約7cm)	土師器	高環?	(20.2)	1/6	(3.2)			環	赤/英/白砂/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/環削り/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ?	赤	良	橙色		
第55図2	東壁付近(床上約19cm)	土師器	環						口縁~胴	赤/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第55図3	北壁付近(床上約12cm)	土師器	甕			(3.4)	6.0	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴削り/底無調整/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色		単孔型	
第55図4	カマド内及び北壁付近(床上約3~13cm)	土師器	甕	(18.6)	1/5	(11.7)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕	
第55図5	東壁付近(床上約2~5cm)	土師器	甕			(3.1)	8.2	1/2	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		長甕	

第18表 181号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第58図1	西コーナー付近(床上約26cm)	土師器	環	12.7	1/2	(4.6)			口縁~底	赤/英/白砂/砂		凸面	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴上半磨き?/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	赤褐色		入間系/比企型環
第58図2	住居入口付近(床上約42~48cm)	土師器	環	(13.4)	1/4	4.2			口縁~底	赤/英/白砂/砂		匙面	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	明褐色		比企型環
第58図3	貯蔵穴B付近(床上約12cm)	土師器	環	(14.0)	1/11	(4.5)			口縁~胴	雲/角/英(多)/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	黄褐色			
第58図4	西壁付近(床上約25~26cm)	土師器	環	15.3		4.8			ほぼ完形	赤/角/英/砂		匙面	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴上半横ナデ/下半ヘラナデ	無	良	橙色		小針型環
第58図5	住居入口付近(床上約23cm)	土師器	環	(14.8)	1/6	(3.4)			口縁~胴	赤/角/英/砂		匙面	段		外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~胴上半横ナデ	無	良	黄褐色		小針型環
第58図6	貯蔵穴B付近(床上約46cm)	土師器	高環						環	赤/角/英/砂					外:磨き/内:磨き?	無	良	明赤褐色		
第58図7	住居入り口付近(床上約46cm)	土師器	甕	(19.0)	1/8	(6.3)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕	
第58図8	P1付近(床上約19~33cm)	土師器	甕	(14.7)	1/5	(15.0)			口縁~胴	赤/角(多)/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄褐色		丸甕
第58図9	西壁付近(床上約25cm)	土師器	甕			(6.1)	(6.0)	1/4	胴~底	赤/角(多)/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甕	
第58図10	P1付近(床上約26~27cm)	土師器	甕			(6.4)	(7.5)	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第58図11	貯蔵穴A内	土師器	甕			(6.2)	(8.0)	1/3	胴~底	角(多)/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	灰黄色	被熱/赤化/ 外:煤/内: 焦げ付着	丸甕	
第58図12	貯蔵穴A内	土師器	甕			(6.1)	(8.0)	1/4	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色	被熱/赤化/ 外:煤/ 内:焦げ付着	丸甕	
第58図13	貯蔵穴A内	土師器	甕			(3.2)	(6.8)	1/3	胴~底	赤/角/英/砂/礫			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	

第19表 182号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第60図1	東壁付近床面上	土師器	甕			(3.6)			口縁~胴	赤/角/英/砂			屈曲		外:横ナデ→胴磨き?/ 内:横ナデ	無	良	黄褐色		

第20表 183号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第63図1	住居中央付近(床上約20cm)	土師器	環	(12.0)	1/5	(3.5)			口縁~胴	赤(多)/英/砂		沈線	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	やや不良	褐色		比企型環
第63図2	住居中央付近(床上約5cm)	土師器	環	(11.6)	1/5	(3.5)			口縁~胴	赤/英/砂		内傾面	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	浅黄褐色		
第63図3	住居中央付近(床上約31cm)	土師器	鉢	(16.6)	1/4以下	(5.4)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第63図4	住居中央付近(床上約14cm)	土師器	甕	(18.6)	1/4	(6.4)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕
第63図5	住居中央付近(床上約30cm)	土師器	甕	(20.6)	1/7	(8.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第63図6	カマド付近覆土	土師器	甕			(3.8)	(7.4)	1/3	胴~底	赤/雲/角/英/砂					外:胴削り/底木葉痕/ 内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤付着	長甕

第21表 184号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第66図1	カマド内	土師器	環	(12.8)	1/8	(2.3)			口縁~胴	赤/砂		段	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	明赤褐色		入間系/比企型環
第66図2	南壁(床上約11cm)	土師器	環	12.0	3/4	4.4			完形	赤/雲/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ/底「十」字ヘラ描き	無	良	明黄褐色		
第66図3	貯蔵穴A付近(床上約22~23cm)	土師器	環	(13.4)	1/7	5.3			口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁~底横ナデ	無	良	橙色	被熱/赤化	
第66図4	P3付近(床上約14~15cm)	土師器	環	(9.4)	1/3	(4.1)			口縁~胴	赤/雲?/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁~胴上半横ナデ/下半ヘラナデ	無	良	明黄褐色	被熱/赤化	

第22表 185号住居跡出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第66図5	カマド内	土師器	坏	(13.8)	1/14	(4.0)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁～胴上半横ナデ	無	良	明黄褐色		
第66図6	カマド内	土師器	坏	(12.5)	1/5	(3.4)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁～胴上半横ナデ	無	良	黄褐色	被熱/赤化	
第66図7	貯蔵穴A付近	土師器	坏	12.6	2/3	4.3			ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	丸	平	外：口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半～底外周ケズリ/底木葉痕/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	被熱/赤化	
第66図8	貯蔵穴A内	土師器	坏	12.0	3/4	4.2			ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	丸	平	外：口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半～底外周ケズリ/底木葉痕/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	内面底部補修痕/被熱/赤化	
第66図9	南壁付近(床上約20cm)	土師器	鉢	18.6	1/2	(7.2)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色	被熱/黒化	
第66図10	貯蔵穴B内	土師器	壺	(17.4)	1/5	(6.9)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸			外：横ナデ/ 内：口縁横ナデ/胴磨き	無	良	浅黄色		
第66図11	貯蔵穴A内	土師器	甕	22.0	3/4	(16.8)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第66図12	南壁付近(床上約23～34cm)	土師器	甕	(20.0)	1/5	(8.6)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第66図13	貯蔵穴A付近	土師器	甕	(19.4)	1/12	(7.8)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第66図14	貯蔵穴A付近	土師器	甕			(7.0)	6.9	2/3	胴～底	赤/角/英/砂			平		外：胴ケズリ/底木葉痕/ 内：ヘラナデ	無	良	橙色	被熱/赤化	丸甕
第66図15	貯蔵穴B付近	土師器	甕			(9.5)	(8.2)	1/3	胴～底	赤/角/英/砂			平		外：胴～底ケズリ/内：ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外：煤/内：焦げ付着	丸甕
第67図16	貯蔵穴A前(床上約30cm)	土師器	甕	(15.2)	1/5	(9.9)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	被熱/黒化	丸甕
第67図17	貯蔵穴A内及び付近(床面上～13cm)	土師器	甕	21.5	3/4	36.0	6.7	1/1	完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ/胴削り/底無調整? 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：煤・粘土/内：焦げ付着	長甕
第67図18	カマド付近(床上約18cm)	土師器	甕	(21.0)	1/4	(13.5)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：粘土付着/被熱/赤化	長甕
第67図19	カマド付近(床上約20cm)	土師器	甕	(21.2)	1/4	(20.7)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	被熱/赤化	長甕
第67図20	貯蔵穴B付近(床上約21～36cm)	土師器	甕			(16.2)	(6.6)	1/4	胴～底	赤/角/英/砂			平		外：胴～底ケズリ/内：ヘラナデ	無	良	黄色	外：粘土付着/被熱/黒化	長甕

第22表 185号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第69図1	覆土中	土師器	坏	(13.0)	1/8	(3.0)			口縁～胴	赤/角/英/砂	密	丸	屈曲		外：口縁横ナデ/胴ケズリ/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤	良	浅黄色		
第69図2	覆土中	土師器	坏			(2.5)			口縁～胴	赤/角/英/砂			稜		外：口縁横ナデ/胴ケズリ/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒	良	黄褐色		
第69図3	住居中央付近(床上約15cm)	土師器	坏	(13.4)	1/16	(5.3)	(5.6)	1/3	口縁～底	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ/胴～底ケズリ/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		
第69図4	覆土中	土師器	坏			(12.2)			口縁～胴	赤/英/砂		丸	丸		横ナデ	無	良	明赤褐色		
第69図4	住居中央付近(床上約7～12cm)	土師器	甕	(18.0)	1/8	(20.3)			口縁～胴	赤/角/英(多)/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴ハケ目→磨き/ 内：口縁横ナデ/胴ケズリ	無	良	褐色	外：煤付着	く字甕
第69図5	覆土中	須恵器	壺・瓶類						胴	白砂/英(多)					外：カキメ/内：回転ナデ	無	良	暗青灰色		

第23表 186号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第70図1	覆土中(床上約8cm)	土師器	甕	(18.0)	1/12	(2.2)			口縁	赤/角/英/砂		角			横ナデ	無	良	黄色		く字甕

第24表 187号住居跡出土土器一覽

第60地点

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第73図1	カマド内及びP3内(床土約17~19cm)	土師器	坏	(12.7)	1/4	(3.6)			口縁~底	砂(多)		沈線	段		外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	赤彩	良	褐色		比企型坏
第73図2	カマド内(床土約33cm)	土師器	坏	(12.0)	1/4	4.2			口縁~底	赤/砂(多)		沈線	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系、比企型坏
第73図3	住居西側土中	土師器	坏	(12.4)	1/3	(2.8)			口縁~胴	赤/砂(多)		沈線	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系、比企型坏
第73図4	東壁付近(床土約25cm)	土師器	坏	(13.0)	1/12	(3.5)			口縁~胴	英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴ナデ/内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	橙色		
第73図5	北壁付近(床土約44cm)	土師器	鉢	(18.0)	1/5	(7.1)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明黄褐色		
第73図6	住居南北に散在(床土約40~46cm)	土師器	鉢	(23.8)	1/3	(7.6)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	黄褐色		
第73図7	P4付近(床土約24cm)	土師器	鉢	(25.0)	1/8	(6.2)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明黄褐色		
第73図8	カマド内	土師器	甕	(18.6)	1/1	(22.6)			口縁~胴	雲(多)/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:粘土付着/被熱	長甕
第73図9	住居東壁付近から中央に散在(床土約18~27cm)	土師器	甕	(19.6)	1/8	(22.3)			口縁~胴	赤/角/英/砂(多)		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:粘土付着/被熱	長甕
第73図10	カマド付近(床土約19cm)	土師器	甕	(20.2)	1/8	(6.9)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第73図11	北壁付近(床土約31cm)	土師器	甕			(2.0)	(7.6)	1/4	底	角/英/砂				平	外:削り/内:ヘラナデ/底:木葉痕	無	良	明黄褐色		長甕

第25表 188号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第76図1	555D内	土師器	坏	(13.0)	1/8	(3.6)			口縁~底	英/砂	密	丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:横ナデ	赤彩	良	橙色		
第76図2	住居北側床面上	土師器	坏	13.1		3.7			完形	角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	黄褐色		
第76図3	住居北側(床土約2cm)	土師器	坏	12.4		3.7			完形	雲/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	黄褐色		
第76図4	住居北側(床土約3cm)	土師器	坏	13.4		4.0			完形	赤/雲/砂(多)		面	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	橙色		
第76図5	住居北側(床土約5cm)	土師器	坏	11.6		3.4			完形	赤/雲/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	黄褐色		
第76図6	東壁付近床面上	土師器	坏	13.0	4/5	5.0			ほぼ完形	赤/角/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	黄色		碗形
第76図7	南壁付近(床土約8cm)	土師器	坏	12.2	3/4	3.9			ほぼ完形	赤/角/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	無	良	橙色		碗形
第76図8	東壁付近床面上	土師器	鉢	14.5	1/1	(10.0)			ほぼ完形	赤/英/砂		丸	無		外:削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		碗形
第76図9	住居西側土中	土師器	鉢	(1.7)		(4.8)		1/2	底	英/砂				平	外:ナデ/内:ナデ	無	良	黄褐色		
第76図10	東壁内及び北東角(床面上~約8cm)	土師器	甕	20.2		33.0	6.4		完形	赤/英/砂(多)		丸	段	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第76図11	北東角(床土約2~7cm)	土師器	甕	(13.0)	1/3	21.3		1/1	口縁~底	赤/雲/砂		丸	丸	平	外:口縁横ナデ/胴削り(下半光沢)/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色	煤付着	丸甕
第76図12	東壁内及び北東角床面上	土師器	甕	(12.5)	1/4	24.4	(6.8)	1/9	口縁~底	英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:粘土・煤付着	丸甕
第76図13	北東角床面上	土師器	甕	18.7	8/9	18.8	(7.6)	1/3	ほぼ完形	雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴上半ヘラナデ/下半削り(光沢)/底無調整/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	内:焦げ付着	筒拔型
第76図14	北東角床面上	土師器	甕	22.8	2/3	26.0	9.4	1/1	ほぼ完形	雲/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き	無	良	明黄褐色		筒拔型
第77図15	住居中央付近に散在(床土約3~9cm)	土師器	甕		1/1	(14.3)	9.4	1/1	胴~底	赤/英/砂					外:削り/底削り/内:ヘラナデ→磨き	無	良	黄褐色		筒拔型
第77図16	カマド内	土師器	甕	(13.6)	1/5	(8.8)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第77図17	カマド内	土師器	甕	19.1	1/1	(15.0)			口縁~胴	赤/雲/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第77図18	北壁付近(床土約11cm)	土師器	甕	(19.8)	1/16	(24.7)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色	外:粘土付着/被熱	長甕
第77図19	カマド内	土師器	甕			(15.0)	6.8	1/1	胴~底	赤/英/砂				平	外:削り/底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土・煤付着	長甕
第77図20	住居北側(床土約5cm)	土師器	甕			(1.9)	6.4	1/2	底	赤/角(多)/砂				平	外:削り/底木葉痕/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色	被熱	長甕

第26表 189号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第80図1	トレンチ	土師器	坏	(13.6)	1/9	(3.2)			口縁~胴	赤/砂		匙面	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/内:横ナデ	赤彩	良	赤褐色?		入間系? / 比企型坏
第80図2	北壁付近(床土約3cm)	土師器	鉢	13.1		8.0	5.5		完形	赤/砂		丸	無	凸	外:削り/底削り/内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色		碗形
第80図3	カマド付近(床土約5~7cm)	土師器	甕	19.2	2/3	(23.9)		1/1	ほぼ完形	赤/雲? / 砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		筒拔型

第27表 190号住居跡出土土器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第80図4	カマド内	土師器	甕	(14.8)	1/5	26.8	7.3	1/1	口縁～底	赤 / 砂		丸	段	凸	外：口縁横ナデ / 胴削り / 底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第80図5	住居北側 (床土約31cm)	土師器	甕	(16.0)	1/3	(22.9)			口縁～胴	赤 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第80図6	カマド内及び付近 (床土約3～11cm)	土師器	甕			23.3	5.7	1/1	口縁～底	赤 / 雲 / 英 / 砂			平		外：削り / 底削り / 内：ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：粘土・煤付着	長甕
第80図7	北東角 (床土約3cm)	土師器	甕			(14.9)	6.0		口縁～底	赤 / 英 / 砂			平		外：削り / 底削り / 内：ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕

第27表 190号住居跡出土土器一覧(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第84図1	住居北側覆土中	土師器	坏	(11.2)	1/20	(2.8)			口縁～胴	赤? / 砂		凸面	無		外：口縁横ナデ / 胴削り→ナデ? / 内：横ナデ	赤彩	良	橙色		比企型坏
第84図2	住居東側覆土中	土師器	坏	(16.0)	1/16	(4.3)			口縁～胴	赤 / 雲 / 砂		丸	段		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：横ナデ	赤彩	良	黄色		
第84図3	住居北側 (床土約31cm)	土師器	坏			(3.7)			口縁～胴	赤 / 角 / 砂			段		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：横ナデ	赤彩	良	黄褐色		
第84図4	住居北側覆土中	土師器	坏	(11.4)	1/24	4.2			口縁～底	砂		凸面	無	丸	外：口縁横ナデ / 胴ナデ / 底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ナデ / 底ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第84図5	住居南側覆土中	土師器	坏	(13.4)	1/16	(3.7)			口縁～胴	赤 / 砂		丸	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第84図6	カマド内	土師器	高坏			(6.4)			脚	赤 / 英 / 砂					外：上半削り→ナデ / 下半ナデ / 内：上半削り / 下半横ナデ	赤彩	良	明黄褐色	外・内：粘土付着 / 被熱	
第84図7	カマド内	土師器	高坏			(2.5)	(11.0)	1/2	脚	雲 / 砂					外：ナデ / 内：上半削り / 下半横ナデ	赤彩	良	明黄褐色	外・内：粘土付着 / 被熱?	
第84図8	住居中央 (床土約13cm)	土師器	甕	(22.6)	1/8	(7.5)			口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂		複合	無		外：口縁横ナデ / 胴ハケ目 / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ→磨き	無	良	黄褐色		
第84図9	住居西側覆土中	土師器	甕	(24.0)	1/14	(3.7)			口縁	赤 / 雲 / 英 / 砂		複合	無		横ナデ	無	良	橙色		
第84図10	貯蔵穴内	土師器	甕	21.7		32.5	7.8		ほぼ完形	角 / 英 (多) / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴削り・ヘラナデ→磨き / 底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		く字甕
第84図11	住居中央付近に散在 (床土約12～33cm)	土師器	甕	19.4	3/4	(15.4)			口縁～胴	英 / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄色	外：煤付着	く字甕

第28表 191号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第87図1	カマド内及び付近	土師器	坏	14.2	3/4	5.0			ほぼ完形	赤 (鉄) / 英 / 砂 (多)		丸	無	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：外口縁横ナデ→口縁～底磨き	赤彩	やや不良	橙色	外・内：粘土付着	
第87図2	東壁付近 (床面上～約10cm)	土師器	坏?	(12.7)	1/4	(4.8)			口縁～胴	赤 / 砂	密	丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	橙色		
第87図3	東壁付近 (床面上～約6cm)	土師器	坏	(13.6)	1/4	(5.2)			口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂 (多)		凸面	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴削り→右上磨き (粗)	赤彩	良	明赤褐色		入間系? / 比企型坏
第87図4	東壁付近 (床土約6cm)	土師器	坏	(11.6)	1/5	(3.5)			口縁～胴	英 / 砂 (多)		凸面	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴磨き (粗)	無	良	褐色		入間系? / 比企型坏
第87図5	カマド内	土師器	坏	11.2		5.2			完形	赤 / 角 (多) / 英 / 砂 (多)		凸面	無	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：外口縁横ナデ→胴～底磨き	赤彩?	良	明赤褐色	外・内：粘土付着 / 被熱?	入間系? / 比企型坏
第87図6	カマド内	土師器	高坏	13.7	1/1	13.2	12.8	6/7	ほぼ完形	赤 / 角 (多) / 英 / 砂 (多)		丸	無		外：口縁横ナデ / 坏～脚上半削り / 脚下半横ナデ / 内：口縁横ナデ / 坏ヘラナデ (磨き?) / 脚上半削り / 下半ナデ	無	良	明赤褐色	外・内：全面粘土付着 (坏内面は顕著でない) / 被熱	入間系? / 比企型坏
第87図7	東壁付近 (床土約2～15cm)	土師器	壺	13.2	1/2	19.8	5.8	1/2	口縁～底	赤 (多) / 角 / 英 / 砂 (多)		丸	屈曲	凹	外：口縁横ナデ / 胴上半ハケ目 / 下半ヘラナデ / 底ヘラナデ / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色	被熱	入間系? / 比企型坏
第87図8	東壁付近 (床土約10cm)	土師器	壺			(4.8)	8.4	1/1	胴～底	赤 / 角 / 英 / 砂			突出・平		外：ヘラナデ / 底削り / 内：ヘラナデ	赤彩?	良	赤褐色	内：粘土付着	
第87図9	カマド内	土師器	壺			(2.4)	(3.7)	1/1	胴～底	角? / 英 / 砂			凹		外：磨き? / 内：磨き?	無	やや不良	橙色	外・内：粘土付着 / 被熱?	
第87図10	P7覆土中	土師器	甕	(22.4)	1/20	(3.4)			口縁	赤 / 角 / 英 / 砂 (多)		丸	屈曲?		横ナデ	無	良	灰黄褐色		く字甕? / 入間系? / 比企型坏

第29表 192号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第89図1	住居南側 (床土約16cm)	土師器	坏	(15.8)	1/8	(6.9)			口縁～胴	角 / 英 / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴ナデ / 内：口縁横ナデ / 胴ナデ→磨き (暗文風)	赤彩	良	赤褐色		
第89図2	住居中央付近 (床土約14cm)	土師器	坏	(16.0)	1/12	(4.3)			口縁～胴	角 / 英 / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴ナデ / 内：口縁横ナデ / 胴ナデ	赤彩	良	橙色		
第89図3	住居中央付近 (床土約6cm)	土師器	坏	(14.0)	1/4	(3.9)			口縁～胴	英 / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴磨き? / 内：口縁横ナデ / 胴ナデ	赤彩	良	明褐色		
第89図4	住居東側覆土中	土師器	坏	(14.4)	1/16	(3.7)			口縁～胴	角 / 砂		丸	屈曲		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		
第89図5	住居北側覆土中	土師器	坏	(14.2)	1/9	(4.8)			口縁～胴	白 (多) / 雲? / 砂		丸	無		外：ナデ / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		

第30表 193号住居跡出土土器一覧(1)

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第89図6	P2付近(床上約27cm)	土師器	坏			(1.7)	2.9	3/4	胴~底	白(多)/雲? /英/砂				凹	外:胴へらナデ/底削り→線刻/ 内:へらナデ	赤彩	良	橙色	5と同一個 体か。		
第89図7	住居中央付近 (床上約2~9cm)	土師器	坏	(14.8)	1/6	(4.8)	-		口縁~底	雲/英/砂		丸	無	丸	外:口縁横ナデ/胴~底削り→ナデ? 内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	赤彩	良	明黄褐色			
第89図8	住居南側(床上約8cm)	土師器	坏	(15.0)	1/6	(4.0)			口縁~胴	英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴~底削り→ナデ? 内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	赤彩	良	明黄褐色			
第89図9	住居南側(床上約17cm)	土師器	坏	(13.9)	1/6	(5.2)			口縁~胴	雲/砂	密	丸	無		外:口縁横ナデ/胴~底削り→ナデ? 内:口縁横ナデ/胴~底ナデ	赤彩	良	黄褐色			
第89図10	P2付近(床上約8cm)	土師器	坏	(12.0)	1/4	(5.8)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴上半ナデ/下半ハケ目/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	黄褐色			
第89図11	住居中央付近 (床上約4cm)	土師器	坏	(15.8)	1/8	(4.6)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	屈曲		外:へらナデ/内:へらナデ	赤彩	良	褐色			
第89図12	住居南側(床上約16cm)	土師器	坏	-	1/4	(5.0)			口縁~底	英/砂			無	丸	外:口縁横ナデ/胴削り→ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴へらナデ	無	良	明褐色			
第89図13	住居東側覆土中	土師器	坏						口縁~胴	角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り→ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	黄褐色			
第89図14	P2付近(床上約21cm)	土師器	坏			(3.1)	4.6	2/3	胴~底	赤/英/砂	密			凹	外:胴ハケ目/底削り/内:ナデ	無	良	橙色			
第89図15	P1付近(床上約16cm)	土師器	高坏		1/8	(3.5)			坏	赤/角/英/砂(多)					ナデ	無	良	明赤褐色		入間系? / 比企型坏	
第89図16	P1付近(床上約26cm)	土師器	高坏			(4.7)		3/4	脚	赤/角/英/砂(多)					外:脚上半削り/下半ナデ/ 内:ナデ	無	良	明赤褐色		入間系? / 比企型坏	
第89図17	住居東側覆土中	土師器	高坏						脚	赤/英/砂	密				外:ナデ/ 内:脚上半削り/脚下半横ナデ	赤彩	良	黄褐色			
第89図18	住居東側覆土中	土師器	壺	(10.0)	1/4	(3.4)			口縁	英/砂		丸	屈曲		横ナデ	赤彩	良	黄褐色			
第89図19	住居北側(床上約7cm)	土師器	壺	9.9		18.0	6.0		完形	英/砂		丸	屈曲	平	外:口縁ハケ目→横ナデ/胴~底へらナデ(削り?)→胴上半磨き/ 内:口縁横ナデ/頸~胴ナデ	赤彩	良	明赤褐色			
第89図20	住居南側に散在 (床上約2~18cm)	土師器	壺	18.5	1/1	34.9	8.0	1/1	ほぼ完形	赤/白(多)/雲/英/砂		面	屈曲	平	外:口縁横ナデ/胴上半ハケ目→ナデ/ 下半削り→へらナデ/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴へらナデ	無	良	明褐色			
第89図21	西壁付近及び住居南側に散在 (床上約2~23cm)	土師器	壺	19.0	1/1	(6.3)			口縁~胴	赤(多)/角/英/砂	密	丸	屈曲		外:ハケ目→へらナデ/ 内:口縁ハケ目→ナデ/胴へらナデ	無	良	黄褐色			
第89図22	住居南側に散在 (床上約10~19cm)	土師器	甗	(18.0)	1/3	27.8	(8.0)	1/8	口縁~底	赤/角/雲/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴削り→肩ハケ目/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴へらナデ→下半削り	無	良	橙色		筒拔型	
第90図23	住居南側に散在 (床上約4~23cm)	土師器	甗	18.8	1/1	23.9			口縁~胴	赤(多)/英/砂(多)		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴へらナデ(光沢)/ 内:口縁横ナデ/胴へらナデ(光沢)	無	良	黄褐色		<字甗	
第90図24	P2付近(床上約6~24cm)	土師器	甗	18.0	1/2	(10.9)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		面	屈曲		外:口縁横ナデ/頸~胴へらナデ/ 内:口縁へらナデ→横ナデ/胴ナデ・へらナデ	無	良	黄褐色		<字甗	
第90図25	住居南側に散在 (床上約3~20cm)	土師器	甗	17.3	3/4	17.0			口縁~胴	角/雲/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ/胴削り→磨き/ 内:口縁ハケ目→磨き/端部横ナデ/ 胴へらナデ(光沢)	無	良	橙色		<字甗	
第90図26	住居南側に散在 (床上約4~13cm)	土師器	甗	(16.0)	1/4	(6.8)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	屈曲		外:口縁横ナデ→へらナデ(光沢)/ 胴へらナデ(光沢)/ 内:口縁横ナデ/頸~胴へらナデ(光沢)	無	良	橙色		<字甗	
第90図27	住居南側に散在 (床上約9~10cm)	土師器	甗			(4.0)	7.2	1/1	胴~底	英/砂				凸	外:胴へらナデ/底削り/ 内:へらナデ	無	良	橙色		<字甗?	
第90図28	住居南側 (床上約6cm)	土師器	甗			(3.5)	(4.4)	1/3	胴~底	赤/英/砂				平	外:削り/内:へらナデ	無	良	褐色		<字甗?	
第90図29	南壁付近(床上約17cm)	須恵器	甗	(19.0)	1/6	(4.3)			口縁	白/英/砂					回転ナデ	無	良	オリーブ 灰色			
第90図30	北壁付近床面上	須恵器	ハソウ			(6.8)			胴	黒/砂					外:胴回転ナデ→下半削り/肩沈線→櫛描き波状文/ 内:胴回転ナデ/下半指押さえ?	無	良	灰色			

第30表 193号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第92図1	南壁内 (床上約6cm)	土師器	坏	13.2	2/3	4.1	-		ほぼ完形	赤/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴削り(一部指押さえ痕露出)/底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴へらナデ/底扇状ナデ	赤彩	良	明黄褐色			
第92図2	南壁内 (床上約6cm)	土師器	坏	12.9	3/4	4.2	-		ほぼ完形	英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/ 口縁横ナデ/胴~底へらナデ	黒色	良	橙色			

第31表 194号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第95図1	南角付近 (床上約9cm)	土師器	坏	(11.8)	1/8	(2.6)			口縁~胴	針? / 赤/英/砂		面	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	黄褐色 (黒斑部分)		比企型坏	
第95図2	住居中央付近床面上	土師器	坏	(15.3)	1/16	(4.0)			口縁~胴	赤/英/砂		面	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	赤褐色		入間系、比企型坏	
第95図3	住居南側(床上約25cm)	土師器	坏	(11.6)	1/4	(3.0)			口縁~胴	針? / 赤/英/砂		沈線	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型坏	

第32表 196号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第95図4	住居南側覆土中	土師器	坏	(12.7)	1/20	(2.0)			口縁	針? / 赤 / 英 / 砂		沈線	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ	赤彩	良	褐色		比企型坏
第95図5	住居北側覆土中	土師器	坏	(13.6)	1/5	(4.0)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	黒色	やや不良	褐色		
第95図6	住居東側覆土中	土師器	坏						口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	黒色?	良	橙色		
第95図7	東壁内及び付近床面上	土師器	坏	(13.0)	1/5	(4.5)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	黄褐色		
第95図8	カマドA付近(床上約11cm)	土師器	坏	(14.0)	1/8	(3.2)			口縁~胴	角 / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	黄褐色		
第95図9	住居東側覆土中	土師器	坏	(11.6)	1/9	(3.6)			口縁~胴	赤(多) / 英 / 砂		丸	良		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	黄褐色		
第95図10	住居中央付近(床上約368cm)	土師器	坏	(13.2)	1/12	(5.5)			口縁~胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	褐色		
第95図11	貯蔵穴内	土師器	坏	(13.8)	1/8	(4.3)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴無調整 / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	黄色		
第95図12	貯蔵穴内	土師器	坏	(12.0)	1/8	(3.4)			口縁	赤 / 英 / 砂		丸	無		横ナデ	無	良	黄褐色		
第95図13	P5付近床面上	土師器	坏	(11.4)	1/3	(6.9)	(4.8)	1/5	口縁~底	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁ナデ / 胴削り(粗) / 底木葉痕? / 内: 口縁ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		粗製
第95図14	住居中央付近(床上約10~13cm)	土師器	鉢	(19.6)	1/12	(8.5)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	稜		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第95図15	P1付近(床上約12cm)	土師器	甗			(8.2)	(9.0)	1/4	胴~底	赤 / 雲(多) / 英 / 砂					外: 胴削り / 底削り / 内: ヘラナデ・削り	無	良	黄褐色		筒拔型
第95図16	P3付近(床上約4~18cm)	土師器	甗	(19.8)	1/8	(8.0)			口縁~胴	赤(多) / 雲(多) / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甗
第95図17	住居中央付近(床上約3cm)	土師器	甗	(18.2)	1/20	19.2			口縁~胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甗
第95図18	住居中央付近(床上約23cm)	土師器	甗	(19.8)	1/6	(9.2)			口縁~胴	角 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色	外: 粘土? 付着 / 被熱	長甗
第95図19	貯蔵穴内	土師器	甗	(18.0)	1/3	(35.0)	6.2	1/1	口縁~底	赤(多) / 角 / 英 / 砂		丸	無	平	外: 胴削り→口縁横ナデ / 底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外: 煤 / 内: 焦げ付着	長甗
第95図20	P3付近(床上約8~13cm)	土師器	甗	18.2	1/1	(16.7)			口縁~胴	赤(多) / 雲(多) / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ→胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甗
第95図21	カマドA付近から住居中央付近に散在(床面上~約9cm)	土師器	甗	(20.0)	1/5	(22.9)			口縁~胴	赤(多) / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甗
第96図22	住居中央付近床面上	土師器	甗	18.9	1/1	(16.6)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂		丸	無		外: 胴削り→口縁横ナデ / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 粘土・煤付着	長甗
第96図23	P3付近(床上約7cm)	土師器	甗	(19.2)	1/4	(9.6)			口縁~胴	赤? / 角 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色		長甗
第96図24	住居中央付近床面上	土師器	甗			(10.0)	6.2	1/1	胴~底	赤 / 角 / 英 / 砂				平	外: 胴削り / 底木葉痕→削り / 内: ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外・内: 粘土付着	
第96図25	P3付近(床上約17cm)	土師器	甗			(6.4)	8.7	1/1?	胴~底	赤(多) / 英 / 砂				突出・平	外: 削り / 内: ヘラナデ	無	良	褐色	底剥離	丸甗
第96図26	P1付近(床上約24cm)	土師器	甗			(2.3)	(6.4)	1/2	胴~底	赤 / 英 / 砂				平	外: 胴削り / 底木葉痕 / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 煤付着	丸甗
第96図27	住居中央付近(床上約17cm)	土師器	甗			(3.2)	7.0	2/3	胴~底	赤 / 角 / 英 / 砂				平	外: 胴~底削り / 内: ヘラナデ	無	良	明褐色	外: 粘土付着 / 被熱	長甗
第96図28	カマドA付近(床上約22cm)	土師器	甗			(2.6)	7.1	1/1	底	赤 / 角 / 英 / 砂				平	外: 底木葉痕 / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甗
第96図29	カマドA付近(床上約19cm)	土師器	甗	(2.6)		(7.4)		1/2	胴~底	赤 / 英 / 砂				平	外: 胴削り / 底木葉痕 / 内: ヘラナデ	無	良	浅黄色		長甗
第96図30	貯蔵穴内	土師器	甗			(2.3)	8.6	1/1	底	赤 / 角 / 英 / 砂				凸	外: 底削り / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甗
第96図31	住居中央付近(床上約6cm)	土師器	甗			(2.5)	(5.5)	3/4	胴~底	赤 / 雲 / 英 / 砂				平	外: 胴削り / 底木葉痕 / 内: ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外: 煤付着	長甗
第96図32	貯蔵穴付近(床上約28cm)	土師器	甗			(4.2)			脚台	赤(多) / 雲 / 英 / 砂					外: ナデ→接合部削り / 内: 削り	無	良	褐色	被熱赤化	台付甗
第96図33	貯蔵穴付近(床上約22cm)	土師器	ミニチュア甗	(9.4)	1/5	(3.3)			口縁~胴	赤? / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色		
第96図34	住居西側覆土中	須恵器	高坏			(3.5)			脚	黒鉄 / 砂					回転ナデ / 3方透かし	無	良	灰色		

第32表 196号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第98図1	住居北側覆土中	土師器	坏	(13.2)	1/24	(2.6)			口縁~胴	赤 / 英 / 砂					外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ	無	良	明黄褐色		

第33表 197号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考	
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第101図1	住居南側覆土中	土師器	坏						口縁	赤 / 砂		丸	段		横ナデ	赤彩	良	浅黄褐色			
第101図2	住居南側覆土中	土師器	坏						口縁~胴	赤 / 砂		沈線	丸		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ	赤彩	良	赤褐色		入間系、比企型坏	
第101図3	カマド付近床面上	土師器	坏	12.2		4.1			完形	赤 / 雲? / 英 / 砂		密	丸	無	丸	外: 口縁ナデ / 胴~底削り / 内: ナデ	無	良	明赤褐色	内: 黒色物付着	
第101図4	住居中央付近床面上	土師器	坏	10.0	2/3	5.0			ほぼ完形	赤 / 雲 / 砂			丸	無	丸	外: 口縁ナデ / 胴削り / 底木葉痕→削り / 内: ナデ	無	良	褐色	内: 黒色物付着	

第34表 200号住居跡出土土器一覽(1)

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第101図4	住居中央付近床面上	土師器	坏	10.0	2/3	5.0			ほぼ完形	赤/雲/砂		丸	無	丸	外：口縁ナデ/胴削り/底木葉痕→削り/ 内：ナデ	無	良	橙色	内：黒色物付着	
第101図5	住居中央付近床面上	土師器	坏	10.8		5.0			完形	赤/雲/砂		丸	無	丸	外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：ナデ	無	良	橙色	内：黒色物付着	
第101図6	北東角付近(床上約6cm)	土師器	坏	11.2		(5.4)			完形	赤/雲/砂		丸	無	丸	外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：ナデ	無	良	橙色	内：黒色物付着	
第101図7	東壁付近(床上約4cm)	土師器	坏	11.0	1/2	5.2			口縁～胴	赤/雲/砂		丸	無		外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：口縁ナデ/胴～底磨き	無	良	橙色		
第101図8	北東角付近(床上約2cm)	土師器	坏：刀傷あり	(12.3)	1/4	(5.0)			口縁～底	赤/雲/砂		丸	無	丸	外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：口縁ナデ/胴～底ヘラナデ(光沢)	無	良	橙色	外：溝状研磨痕	
第101図9	カマド付近(床上約20cm)	土師器	坏：刀傷あり						底	赤/角/英/砂				丸	外：削り/内：ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外：溝状研磨痕	
第101図10	東壁付近(床上約2～4cm)	土師器	坏	13.8	3/4	7.0			ほぼ完形	赤/雲/砂		丸	無	平	外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：ナデ	無	良	橙色	内：黒色物付着	
第101図11	住居中央付近床面上	土師器	坏	13.9		9.5	8.6		完形	赤/雲/砂		丸	無	平	外：口縁ナデ/胴～底削り/ 内：ナデ	無	良	橙色	内：黒色物付着	
第101図12	野礫穴付近(床上約36cm)	土師器	鉢			(3.3)	(5.8)	1/5	胴～底	赤/英/砂				突出・平	外：ヘラナデ(光沢)/ 内：ヘラナデ(光沢)	無	良	明黄褐色		
第101図13	住居南側(床上約4cm)	土師器	鉢	17.5	1/2	7.7	(8.0)		口縁～底	赤(多)/英/砂		丸	稜		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤付着/底剥落/ 内：焦げ付着	
第101図14	住居中央付近(床上約7cm)	土師器	鉢						口縁～胴	赤/角/雲/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第101図15	P2内	土師器	鉢：襷転用鉢			(8.6)	7.2	1/1	胴～底	赤(多)/雲/英/砂				突出・平	外：胴ナデ/底削り/ 内：ヘラナデ	無	良	黄色	長襷胴下半部打ち欠き転用	
第101図16	P3付近(床上約3cm)	土師器	鉢：襷転用鉢			(8.6)	6.6		胴～底	赤(多)/角/雲/英/砂				突出・平	外：胴ナデ/内：ヘラナデ	無	良	黄褐色	長襷胴下半部打ち欠き転用	
第101図17	カマド内	土師器	甌	24.3	1/1	28.6			口縁～胴	赤(多)/雲/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り(一部光沢)/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	内：焦げ付着/底部打ち欠き調整?	筒拔型
第101図18	住居中央付近(床上約9cm)	土師器	甌	(22.4)	1/10	(5.9)			口縁	赤/雲/砂		丸			横ナデ	無	良	橙色		丸襷
第101図19	P4付近(床上約23cm)	土師器	甌	(15.0)	1/5	(7.8)			口縁～胴	赤/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第101図20	P3付近(床上約3～33cm)	土師器	甌	19.6	1/1	(35.6)			ほぼ完形	赤/雲/英/砂		丸	稜		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄色	外：煤・粘土/内：焦げ付着	長襷
第102図21	住居北側に散在(床面上～47cm)	土師器	甌	19.6	3/4	(32.2)			口縁～胴	赤/角?/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤/内：焦げ付着	長襷
第102図22	P3付近に散在(床上約0～4cm)	土師器	甌	20.7	3/4	36.6	6.6	1/1	ほぼ完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ→胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄色	口縁補修痕/外：煤/内：焦げ付着	長襷
第102図23	住居中央付近(床上約3～5cm)	土師器	甌	20.4	12/13	35.5	6.6	1/1	完形	赤/角/雲/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：煤・粘土/内：焦げ付着	長襷
第102図24	カマド脇(床面上～5cm)	土師器	甌	20.3	1/1	(35.2)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤・粘土/内：焦げ付着	長襷
第102図25	西壁内及び住居北側に散在(床面上～約31cm)	土師器	甌：襷転用甌	18.2	2/3	(34.4)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	底部打ち欠き転用/外：煤/内：焦げ付着	長襷
第102図26	住居南側(床上約4cm)	土師器	甌	19.1		34.8	6.0		完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ→胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤・粘土/内：焦げ付着	長襷

第34表 200号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第105図1	カマド付近(床上約22cm)	土師器	坏	(13.5)	1/8	(3.8)			口縁～底	赤/雲/英/砂		丸	稜		外：口縁横ナデ/胴～底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ/底磨き?	黒色	良	褐色		
第105図2	西壁付近(床上約28cm)	土師器	鉢	(22.8)	1/7	(7.9)			口縁～胴	赤/雲(多)/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り→上半磨き/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色		
第105図3	西壁付近(床上約20cm)	土師器	甌	(17.6)	1/4	(5.4)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ	無	良	橙色		丸襷
第105図4	北壁内及び北角付近(床上約7～20cm)	土師器	甌	20.1	2/3	(17.6)			口縁～胴	赤/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外：煤/内：焦げ付着	丸襷
第105図5	カマド内及び南壁付近からカマド付近まで散在(床面上～約7cm)	土師器	甌	15.1	3/4	22.4	7.0	1/1	ほぼ完形	赤/角/英/砂		丸	段	平	外：口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤/内：焦げ付着	丸襷
第105図6	南壁付近からカマド付近まで散在(床面上～約7cm)	土師器	甌	19.1	3/4	(24.5)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	段		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：粘土/内：焦げ付着	長襷
第105図7	カマド付近(床上約4～15cm)	土師器	甌	19.5		37.2	6.6		完形	赤/角/英/砂		丸	段	平	外：口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：粘土/内：焦げ付着	長襷/軽量長襷
第105図8	カマド付近(床面上～約14cm)	土師器	甌	18.6		35.7	7.2		完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外：口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：粘土・煤/内：焦げ付着	長襷
第105図9	カマド付近(床面上～約15cm)	土師器	甌	(18.2)	1/1	(33.5)			口縁～胴	赤/角?/雲/英/砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り?/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤付着	長襷/軽量長襷
第105図10	住居北側覆土中	土師器	甌		1/6	(1.6)	(7.6)		底	赤/角/英/砂				突出・平	外：削り/底木葉痕/ 内：ヘラナデ	無	良	黄褐色		長襷

第35表 203号住居跡出土土器一覽

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第108図 1	住居南側土中	土師器	坏	(12.0)	1/3	(2.6)			口縁～胴	赤 / 砂		匙面	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	赤彩	良	明赤褐色		比企型坏
第108図 2	住居東側土中	土師器	坏	(13.0)	1/5	(3.1)			口縁～胴	赤 / 英 / 白砂 / 砂		沈線	稜		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		比企型坏
第108図 3	貯蔵穴内	土師器	坏	12.5	2/3	4.4			口縁～底	赤 / 英 / 白砂 / 砂		丸	段	丸	外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第108図 4	住居北側土中	土師器	坏						口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	段		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	無	良	橙褐色		
第108図 5	住居中央付近 (床上約1cm)	土師器	坏	10.5	3/4	4.2			ほぼ完形	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	丸	丸	外：口縁横ナデ / 胴無調整 / 底削り / 内：口縁横ナデ / 胴～底ヘラナデ	無	良	橙褐色		
第108図 6	カマド内	土師器	坏	(11.6)	1/4	(2.6)			口縁～胴	赤 / 英 / 砂		丸	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	無	良	黄褐色		
第108図 7	南東柱穴付近 (床上約15cm)	土師器	甗						口縁～胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第108図 8	貯蔵穴付近 (床上約4～6cm)	土師器	甗	(19.6)	1/8	(11.5)	(7.6)	1/4	口縁～底	赤 / 角 ? / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 底削り ? / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色		筒状型
第108図 9	住居南側 (床上約37cm)	土師器	甗			(3.0)	6.1	1/1	胴～底	赤 / 英 / 砂				凹	外：胴～底削り / 穿孔27個 / 内：ヘラナデ→磨き	無	良	黄褐色		多孔型
第108図 10	貯蔵穴内	土師器	甗	(17.4)	1/3	(25.9)			口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：粘土・煤 / 内：焦げ付着	長甗
第108図 11	住居南側土中	土師器	甗			(1.7)	(7.8)	1/4	胴～底	赤 / 多 / 英 / 砂				突出・平	外：底削り / 内：ヘラナデ	赤彩	良	浅黄色		丸甗

第36表 204号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第110図 1	住居南東土中	土師器	坏						口縁～胴	赤 / 砂		匙面	稜		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	赤彩	良	橙褐色		比企型坏
第110図 2	住居南東土中	土師器	坏						口縁～胴	赤 / 砂		段	段		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系、比企型坏
第110図 3	住居北東土中	土師器	坏						口縁～胴	赤 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	無	良	橙褐色		
第110図 4	住居南東土中	土師器	鉢	(13.4)	1/8	(3.0)			口縁	赤 / 英 / 砂		丸			横ナデ	無	良	浅黄色		
第110図 5	住居北東土中	土師器	鉢	(13.2)	1/12	(4.0)			口縁～胴	赤 / 雲 / 角 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ	無	良	黄褐色		
第110図 6	北東柱穴付近 (床上約15cm)	土師器	鉢	(13.4)	1/3	8.7	5.0	1/1	ほぼ完形	赤 / 角 / 英 / 砂				平	外：胴無調整 / 胴～底削り / 内：ヘラナデ	無	良	黄色		碗形
第110図 7	北西壁付近 (床上約14cm)	土師器	甗	(20.0)	1/6	(7.8)			口縁～胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		角	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甗
第110図 8	貯蔵穴内	土師器	甗	(16.4)	1/3	(8.7)			口縁～胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙褐色		長甗
第110図 9	北東壁溝内	土師器	甗	(19.4)	1/6	(5.4)			口縁～胴	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	灰黄褐色 (還元)～灰色		長甗
第110図 10	P1 覆土中	土師器	甗	(17.4)	1/28	(8.2)			口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	不良	黄褐色		長甗
第110図 11	貯蔵穴付近 (床上約28cm)	土師器	甗	(20.1)	1/16	(6.1)			口縁～胴	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無		外：口縁横ナデ→胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甗
第110図 12	南壁付近 (床上約3～9cm)	土師器	甗			(6.5)	7.2	1/1	胴～底	赤 / 雲 / 英 / 砂				突出・平	外：胴削り / 底無調整 / 内：ヘラナデ	無	良	浅黄色		長甗
第110図 13	住居南東土中	土師器	甗			(4.1)	(7.5)	1/3	胴～底	赤 / 雲 / 角 / 砂				平	外：胴～底削り / 内：ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外：煤付着	長甗
第110図 14	住居南東土中	須恵器	高坏						脚端	白砂					回転ナデ	無	良	青灰色		猴投窯産 / 東山61号窯式？

第37表 207号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第113図 1	住居北側土中	土師器	坏	(12.4)	1/7	(2.7)			口縁～胴	赤 / 英 / 砂		凸面	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	橙褐色		比企型坏
第113図 2	カマド内、住居西側土中	土師器	坏	(11.5)	1/4	3.6			口縁～底	赤 / 白砂 / 英 / 砂		段	稜		外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		比企型坏
第113図 3	貯蔵穴A内	土師器	坏	(11.7)	1/4	(3.0)			口縁～底	赤 / 英 / 砂		段	段		外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系、比企型坏
第113図 4	住居西側土中	土師器	坏	(11.9)	1/12	(2.7)			口縁～胴	赤 / 白砂 / 英 / 砂		段	稜		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		比企型坏
第113図 5	貯蔵穴A内	土師器	坏	(11.9)	1/9	(2.7)			口縁～胴	角 ? / 白砂 / 砂		匙面	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		比企型坏
第113図 6	住居北半土中	土師器	坏	(11.8)	1/6	(2.5)			口縁～胴	赤 / 白砂 / 英 / 砂		沈線	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型坏
第113図 7	P4内	土師器	坏	(11.6)	1/8	(3.0)			口縁～胴	赤 / 角 ? / 白砂 / 砂		沈線	丸		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	橙褐色		比企型坏
第113図 8	貯蔵穴A南東付近 (床上約4cm)	土師器	坏	10.6	3/4	7.7			完形	赤 / 白砂 / 英 / 砂		段	段	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明褐色		比企型坏
第113図 9	P3 付近 (床上約8cm)	土師器	坏	(12.4)	1/4	(3.6)			口縁～胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	段		外：口縁横ナデ / 胴削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第113図 10	貯蔵穴A東、カマド前 (床上約4cm)	土師器	坏	11.8	1/1	4.7			完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	稜	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙褐色		
第113図 11	カマドB付近 (床上約3cm)	土師器	坏	11.6	3/4	4.9			ほぼ完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	丸	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙褐色		
第113図 12	貯蔵穴A内	土師器	坏	12.0	1/1	4.6			完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	丸	丸	外：口縁横ナデ / 胴～底削り / 内：口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		

第38表 209号住居跡出土土器一覽 (1)

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第113図 13	P3付近 (床上約5cm)	土師器	壺			(5.5)	(6.0)	2/3	胴～底		赤/雲/角/英/砂				平	外: 胴～底削り / 内: ナデ	無	良	黄褐色		
第113図 14	カマド A 左 (床上約2cm)	土師器	鉢	22.5	1/1	9.9	10.0	1/1	完形		赤/雲/角/英/砂		丸	段	突出・平	外: 口縁横ナデ / 胴ナデ・無調整 / 底木葉痕 / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第113図 15	カマド A 内 (床上約2cm)	土師器	鉢	(17.7)	1/4	(5.0)			口縁～胴		赤/雲/角? / 英/砂		丸	稜		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第113図 16	貯蔵穴 A 内及びカマド A 右 (床面上～約5cm)	土師器	甌	(20.1)	1/2	24.2	4.1	1/1	ほぼ完形		赤/雲/角/英/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	内: 焦げ付着	筒拔型
第113図 17	P3 内	土師器	甕	14.4	1/1	16.9	8.8	1/1	完形		赤/雲/角/英/砂		丸	段	平	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 底木葉痕 / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕
第113図 18	貯蔵穴 A 内	土師器	甕	21.7	1/1	(31.9)			口縁～胴		赤/雲/角/英/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第113図 19	東壁付近 (床上約11cm)	土師器	甕			(2.0)	(10.0)	1/4	胴～底		赤/英/砂			平	外: 胴～底削り / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕	
第113図 20	南西壁付近 (床上約13cm)	土師器	甕			(6.9)	8.8	1/1	胴～底		雲/砂			平	外: 胴削り / 底無調整 / 内: ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕	
第113図 21	貯蔵穴 B 南付近 (床上約11cm)	土師器	甕	(18.6)	1/4	(7.8)			口縁～胴		赤/雲/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第114図 22	貯蔵穴 A 内及び貯蔵穴 B 付近	土師器	甕	19.3	1/1	(20.2)			口縁～胴		赤/雲/角/英/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色	外: 粘土・煤 / 内: 焦げ付着	長甕
第114図 23	カマド A 内	土師器	甕			(8.7)	7.7	1/1	胴～底		赤/雲/砂			平	外: 胴削り / 底無調整 / 内: ヘラナデ	無	良	橙色	外: 粘土付着	長甕	
第114図 24	カマド A 内	土師器	甕	(21.5)	2/3	33.3	8.0	1/1	完形		赤/雲/砂		丸	無	平	外: 口縁横ナデ / 胴～底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 粘土・煤付着	長甕
第114図 25	貯蔵穴 A 内	土師器	甕	21.6	4/5	33.2	8.0	1/1	完形		赤/角/英/砂		丸	無	平	外: 口縁横ナデ / 胴～底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 煤 / 内: 粘土付着	長甕
第114図 26	カマド A 内	土師器	甕	17.6		34.8	6.5		完形		赤/雲/英/砂		丸	無	平	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 底無調整 / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 粘土・煤 / 内: 焦げ付着	長甕
第114図 27	住居西側土中	須恵器	甕						胴		白砂				外: 平行叩き→ナデ / 内: 同心円当て具痕→ナデ	無	良	灰白色			

第38表 209号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第117図 1	柱南東付近 (床上約14～26cm)	土師器	坏	11.8	1/2	(3.1)			口縁～胴		赤/白砂/英/砂		沈線	丸		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		人間系、比企型坏
第117図 2	柱北東付近 (床上約43～50cm)	土師器	坏	(11.8)	1/3	(3.3)			口縁～胴		赤/白砂/英/砂		段	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	赤彩	良	明褐色		比企型坏
第117図 3	柱西付近 (床上約9cm)	土師器	坏	(10.2)	1/3	(3.1)			口縁～胴		赤/白砂/英/砂/礫		段	丸		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		人間系、比企型坏
第117図 4	住居南西腹土中	土師器	坏	(11.0)	1/12	(3.2)			口縁～胴		赤/白砂/砂(多)		沈線	丸		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		人間系、比企型坏
第117図 5	北東角壁溝付近 (床面上)	土師器	坏	(11.6)	1/4	3.7			口縁～底		赤/白砂/英/砂/礫		段	丸	丸	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	明褐色		比企型坏
第117図 6	西壁付近 (床上約24cm)	土師器	坏	11.5		3.6			完形		赤/白砂/英/砂		匙面	稜	丸	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	赤彩	良	明褐色		比企型坏
第117図 7	貯蔵穴南付近 (床上約34～36cm)	土師器	坏	(11.2)	1/3	3.2			口縁～底		赤/白砂/砂		凸面	丸	丸	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	赤彩	良	橙色		比企型坏
第117図 8	柱北付近 (床上約21cm)	土師器	坏	(11.0)	1/4	(3.4)			口縁		赤/白砂/砂		段	段		横ナデ	赤彩	良	明赤褐色		人間系、比企型坏
第117図 9	住居南西腹土中	土師器	坏	(11.3)	1/12	(3.3)			口縁～胴		赤/角/英/砂		丸	稜		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ	黒色	良	黄褐色		
第117図 10	柱及び西壁付近 (床上約19～22cm)	土師器	坏	(11.4)	1/4	(4.0)			口縁～胴		赤/雲/角/英/砂		丸	稜		外: 口縁横ナデ / 胴無調整 / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第117図 11	住居西付近 (床上約31～32cm)	土師器	坏	10.6	1/2	3.9			口縁～底		赤/雲/英/砂		丸	丸	丸	外: 口縁横ナデ / 胴無調整 / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第117図 12	住居北西腹土中	須恵器	坏蓋?						口縁～胴		黒鉄/白砂		丸	無		回転ナデ / 胴回転削り	無	良	明オリーブ灰色		産地不明
第117図 13	住居西付近 (床上約21～21cm)	土師器	鉢	(14.0)	1/6	(8.0)			口縁～胴		赤/雲/角/英/砂		丸	丸		外: 口縁横ナデ / 胴上半無調整 / 下半磨き / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第117図 14	西壁溝及び住居西付近 (床上約4～24cm)	土師器	鉢	12.2	3/4	(10.7)			口縁～胴		赤/英/砂		角	無		外: 口縁削り / 胴ヘラナデ / 胴下ナデ / 内: ヘラナデ	無	良	褐色		
第117図 15	柱穴・貯蔵穴間 (床上約5cm)	土師器	鉢	(13.0)	1/7	(6.8)			口縁～胴		赤/雲? / 角/英/砂		丸	無		外: 口縁無調整 / 胴削り / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第117図 16	西壁溝 (床上約36cm)	土師器	鉢	(8.1)	1/3	7.0		1/1	口縁～底		赤/英/砂		角	無	平	外: 口縁削り / 胴ヘラナデ / 胴下～底削り / 内: ヘラナデ	無	良	褐色		
第117図 17	柱六付近	土師器	鉢	8.9	1/2	6.8	6.2		口縁～底		赤/雲/英/砂		角	無	平	外: 口縁～底削り / 内: ヘラナデ	無	良	橙色		
第117図 18	住居西付近 (床上約30cm)	土師器	鉢	(18.7)		(5.6)			口縁～胴		針? / 赤/雲/角/英/砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第117図 19	柱六南 (床上約32cm)	土師器	甌	(22.2)	1/3	(11.6)			口縁～胴		赤/角/英/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第117図 20	住居西付近 (床上約38cm)	土師器	甌	(21.1)	1/12	(7.5)			口縁～胴		赤/雲/角/英/砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴磨き	無	良	橙色	外: 煤付着	
第117図 21	柱六南東 (床上約13cm)	土師器	甌			(7.6)	(7.8)	1/4	胴～底		英/砂					外: 胴削り / 内: 胴ヘラナデ / 底削り	無	良	赤褐色		筒拔型
第117図 22	住居南付近 (床上約18cm)	土師器	甕	16.5		15.8	10.2		完形		赤/雲/角/英/砂		丸	稜	平	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕

第39表 211号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第117図 23	柱穴内 (床上約19cm)	土師器	甕	(21.8)	1/7	(7.9)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第117図 24	北西壁付近 (床上約41cm)	土師器	甕	(20.0)	1/7	(8.8)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第118図 25	カマド袖及び西壁溝付近 (床上～約10cm)	土師器	甕	(15.6)		8.2		1/1	胴～底	赤/雲/英/砂				突出・平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	褐色		丸甕/軽量丸甕
第118図 26	柱穴西及び住居西付近床面上	土師器	甕	(4.0)		(8.4)		1/3	胴～底	赤/雲?/英/砂				平	外:胴ヘラナデ/胴下ナデ/底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	明赤褐色		丸甕
第118図 27	住居南付近 (床上約28～42cm)	土師器	甕	(19.0)	1/5	(9.7)			口縁～胴	赤/雲/砂	密	丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第118図 28	貯蔵穴南付近床面上	土師器	甕	17.3		37.2	6.6		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	段	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:粘土・煤/内:焦げ付着	長甕/軽量長甕
第118図 29	貯蔵穴内	土師器	甕	17.7		36.7	7.2		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土・煤/内:焦げ付着	長甕/軽量長甕
第118図 30	貯蔵穴南床面上	土師器	甕	17.8		34.8	6.8		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤付着	長甕/軽量長甕
第118図 31	柱穴周辺及び西に散在 (床上約10～44cm)	土師器	甕	16.5		30.6	7.0		ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底無調整? 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:粘土・煤付着	長甕
第118図 32	柱穴付近 (床上約7cm)	土師器	甕	14.4	2/3	(19.7)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明褐色	内:焦げ付着	長甕
第118図 33	カマド内	土師器	甕	(18.7)	1/3	(20.6)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕/軽量長甕
第119図 34	貯蔵穴付近 (床上約2cm)	土師器	甕			14.2	5.6	1/1	胴～底	赤/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕/ 内:ヘラナデ	無	良	黄色	内:焦げ付着	長甕/軽量長甕
第119図 35	貯蔵穴付近 (床上約2cm)	土師器	甕			(11.9)	6.9	1/1	胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕/内:ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/内:焦げ付着	長甕/軽量長甕
第119図 36	住居西半に散在 (床上約11～35cm)	土師器	甕	19.8	2/3	(24.6)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ→胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土・煤付着	長甕
第119図 37	貯蔵穴及び柱穴周辺に散在 (床上約21～41cm)	土師器	甕	(17.4)	1/2	(23.5)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第119図 38	住居西付近 (床上約6cm)	須恵器	甕						胴	黒鉄/白砂					外:平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	灰色		
第119図 39	住居西付近 (床上約3cm)	須恵器	壺			(6.5)			胴～底	白砂/砂					ロクロ右回転ナデ/胴下半回転削り	無	良	青灰色		産地不明
第119図 40	貯蔵穴 (床上約28cm)	土師器	高坏			(7.0)			脚	赤/雲(多)					外:ナデ/ 内:脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	赤褐色		
第119図 41	住居南東腹土中	土師器	壺	(15.0)	1/16	(4.2)			口縁	赤/白砂/砂					磨き	無	良	橙色		

第39表 211号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第122図 1	北東角壁溝 (床面上)	土師器	坏						口縁～胴	赤/白砂/砂		凸面	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	橙色		人間系、比企型坏
第122図 2	西壁付近 (床上約19cm)	土師器	坏	(12.2)	1/12	(4.3)			口縁～胴	赤/白砂		段	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	赤褐色		比企型坏
第122図 3	住居北西腹土中	土師器	坏	(10.7)	1/12	(2.4)			口縁～胴	赤/白砂/砂		段	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型坏
第122図 4	住居北西腹土中	土師器	坏	(12.2)	1/14	(3.4)			口縁～胴	赤/雲/角/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	黒彩	良	黄褐色		有段口縁坏
第122図 5	カマド内	土師器	坏	(12.4)	1/10	(3.2)			口縁～胴	赤/白砂/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		
第122図 6	住居北西腹土中	土師器	坏	(13.5)	1/20	(4.7)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第122図 7	西壁付近及びP1南 (床上約15～18cm)	土師器	甕			(1.8)	6.6	1/1	胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤/内:焦げ付着	丸甕
第122図 8	貯蔵穴内	土師器	甕			(12.4)	6.0	1/2	胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	浅黄褐色		丸甕
第122図 9	住居中央南付近 (床上約30cm)	土師器	甕	(19.8)	1/12	(7.3)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:粘土/内:煤付着	長甕
第122図 10	住居西付近 (床上約19～22cm)	土師器	甕	(17.4)	1/3	(7.4)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第122図 11	住居中央南付近 (床上約2cm)	土師器	甕	(20.2)	1/4	(5.7)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第122図 12	カマド左袖外及びP1南 (床上約11～31cm)	土師器	甕	19.7	4/5	(23.1)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕/軽量長甕
第122図 13	カマド内	土師器	甕	18.3	1/2	(25.5)			口縁～胴	赤(多)/白砂/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕/軽量長甕
第122図 14	カマド左袖	土師器	甕	19.5	1/2	(21.7)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外・内:粘土付着	長甕
第122図 15	カマド右外 (床上約6～8cm)	土師器	甕			(23.4)	(7.0)	1/3	胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		長甕/軽量長甕
第122図 16	カマド内	土師器	甕			(2.6)	7.0	1/1	胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕/ 内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:粘土・煤付着	長甕

第40表 213号住居跡出土土器一覽

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第125図 1	住居西側覆土中	土師器	環	(12.5)	1/12	(2.8)			口縁～胴	赤/英/砂		沈線	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	橙色		比企型環
第125図 2	住居中央東寄り (床上約3cm)	土師器	環	(14.0)	1/8	(5.0)			口縁～胴	赤/雲/角/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁～胴横ナデ	黒色?	良	黄色		有段口縁環?
第125図 3	住居南入口付近 (床上約7cm)	土師器	環	15.4		6.8			完形	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り→磨き/ 底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き?	無	良	明黄褐色		
第125図 4	カマド南付近 (床上約0cm)	土師器	環	13.6	2/3	5.2			ほぼ完形	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第125図 5	P2内	土師器	環	(14.0)	1/3	3.9			口縁～底	赤/雲/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒色?	良	橙色		
第125図 6	カマド及び住居中央、P1付 近(床上約3～ 28cm)	土師器	環	13.4	2/3	(4.2)			口縁～底	赤/雲/角/白 (多)/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第125図 7	貯蔵穴内	土師器	環	13.2	1/2	(4.2)			口縁～胴	赤/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第125図 8	カマド内	土師器	環	(18.0)	1/3	(6.4)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第125図 9	住居南側覆土中	土師器	環	(11.7)	1/6	(3.4)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	黒色?	良	橙色		
第125図 10	住居中央付近 (床上約3cm)	土師器	環			(6.2)	5.2	1/1	胴～底	赤/雲/角/ 英/砂				平	外:胴ヘラナデ(光沢)/底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色		
第125図 11	カマド付近右側 (床上約10cm)	土師器	環	(8.4)	1/8	3.1		1/1	口縁～底	赤/角/英/砂		丸	稜	平	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	黄褐色		
第125図 12	西壁付近(床上 約9cm)	土師器	環	7.2		3.2			完形	赤/雲/角/ 英/砂		丸	無	突出・ 平	外:口縁横ナデ/胴無調整/底 木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明黄褐色		
第125図 13	住居西側覆土中	土師器	ミニチ ユア環			(1.9)	(6.3)	1/3	胴～底	赤/雲/英/砂			段	突出・ 平	外:無調整/底木葉痕/内:ナデ	無	良	黄褐色		
第125図 14	住居南側覆土中	土師器	甌			(6.7)	(10.8)	1/7	胴～底	赤/雲/白(多)/英/砂					外:胴削り/内:胴磨き/底削り	無	良	橙色		筒拔型
第125図 15	住居中央及び南 壁付近(床上約 2～24cm)	土師器	甌			(31.9)	7.8	1/1	胴～底	赤/雲/角/ 英/砂			段	平	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甌
第125図 16	住居西付近 (床上約7～ 13cm)	土師器	甌			(1.7)	9.3	1/2	底	赤/雲/角/ 英/砂				突出・ 平	外:削り/内:ヘラナデ?	無	良	橙色		丸甌
第125図 17	カマド内	土師器	甌	(20.3)	1/3	(30.0)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甌
第125図 18	住居中央付近 (床上約3cm)	土師器	甌						口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甌
第126図 19	カマド左袖	土師器	甌	(20.8)	1/1	(29.4)			口縁～胴	赤/雲/英/ 砂(多)		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甌
第126図 20	住居中央東付近 (床面上)	土師器	甌	22.0	1/1	(32.8)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/白砂/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤・粘土/ 内:焦げ付着	長甌
第126図 21	カマド袖周辺及 び貯蔵穴南側(床 面上～約28cm)	土師器	甌	(21.6)	1/4	(20.7)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/白砂/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土/ 内:焦げ・ 粘土付着	長甌
第126図 22	カマド内及びカ マド付近左側(床 上約4～12cm)	土師器	甌			(7.0)	8.4	2/3	胴～底	赤/雲/角/ 英/白砂/砂				平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		長甌
第126図 23	住居南西側覆土 中	土師器	甌			(4.1)	7.8	1/1	胴～底	赤/雲/英/ 白砂/砂				平	外:胴削り/底木葉痕→削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色	内:焦げ付着	長甌
第126図 24	住居南半(床上 約11cm)	須恵器	壺?						底	英/白砂					外:カキメ/ 内:カキメ→外周横ナデ	無	良	青灰色		

第41表 214号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第131図 1	住居南側覆土中	土師器	環	(11.8)	1/8	(2.5)			口縁～胴	赤/白砂/砂		段	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	褐色		入間系? / 比企型環
第131図 2	P7付近 (床上約3cm)	土師器	環	(9.6)	1/10	(3.2)			口縁～胴	赤/英/白砂/ 砂		匙面	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型環
第131図 3	住居西側覆土中	土師器	環	(11.6)	1/5	3.8			口縁～底	赤/雲(多)/ 砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	黒色?	良	明黄褐色		有段口縁環?
第131図 4	P4南付近 (床上約3cm)	土師器	環	(12.6)	1/5	(4.3)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第131図 5	住居南入口付近 (床上約16cm)	土師器	環	(11.7)	1/5	3.4			口縁～底	赤/雲/英/ 砂		摘み 上げ	段	丸	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	口縁摩耗	
第131図 6	住居南側壁溝覆 土中	土師器	環	(11.7)	1/7	(2.9)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		摘み 上げ	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第131図 7	床面付近覆土	土師器	環	(13.8)	1/5	(3.9)			口縁～胴	赤/雲(多)/ 砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第131図 8	3T内	土師器	環	(12.4)	1/7	(3.6)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第131図 9	貯蔵穴内	土師器	環	(10.8)	1/5	(3.7)			口縁～胴	雲/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第131図 10	住居東側覆土中	土師器	環	(11.8)	1/9	(4.0)			口縁～胴	赤/雲/角/ 英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第131図 11	住居南壁溝付 近(床上約6～ 11cm)	土師器	鉢・甌 転用鉢			(12.0)	9.7	1/1	胴～底	赤/雲(多)/ 砂				突出・ 平	外:胴削り/底木葉痕/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色	長甌下半部 打ち欠き転用	
第131図 12	住居東側覆土中	土師器	甌						口縁	赤/雲/角/ 英/砂		複合			横ナデ	無	良	黄褐色		

第42表 215号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第131図 13	住居西側床土	土師器	甌						口縁	赤(多)/雲/角? / 英 / 砂		複合		横ナデ	無	良	黄褐色			
第131図 14	南東角及び北壁溝付近(床上約5~44cm)	土師器	甌	26.3	4/5	(8.4)			口縁~胴	赤 / 雲(多) / 角 / 砂		丸	段	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第131図 15	貯蔵穴内及び南・北壁溝付近(床上約14~37cm)	土師器	甌			(29.4)			胴	赤 / 雲(多)			段	外: 胴削り→上半磨き / 内: ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第131図 16	東壁溝及び南壁溝付近(床上約14~37cm)	土師器	甌		1/1	(2.9)	11.5		胴~底	赤 / 雲(多) / 角 / 砂			平	外: 胴削り→磨き / 底削り / 内: ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第131図 17	カマド右側・北壁溝周辺(床上約14~44cm)	土師器	甌	(19.5)	1/5	(14.0)			口縁~胴	赤 / 雲(多)		丸	段	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕	
第131図 18	貯蔵穴付近(床上約24cm)	土師器	甌	(17.6)	1/9	(6.2)			口縁~胴	赤 / 雲(多)		丸	段	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕	
第131図 19	カマド右側・北壁溝付近(床上約14cm)	土師器	甌	(23.2)	1/5	(13.1)			口縁~胴	赤 / 雲(多) / 砂		丸	無	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色	内: 粘土付着	長甕	
第131図 20	住居中央付近(床上約3cm)	土師器	甌	(22.4)	1/7	(11.8)			口縁~胴	赤 / 角 / 砂		丸	無	外: 胴削り→口縁ナデ / 横ハケ / 内: 横ハケ	無	良	黄褐色			
第132図 21	拡張前壁溝内覆土中	土師器	甌			(2.0)		2/3	底	赤 / 雲 / 英 / 砂			丸	ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕?	
第132図 22	貯蔵穴内	土師器	甌			(5.3)	6.6	1/1	胴~底	雲 / 英 / 砂			平	外: 胴削り / 底木葉痕→削り / 内: ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕	
第132図 23	P4西付近(床上約6cm)	須恵器	脚付長頸壺			(5.3)	(9.4)	1/3	脚	白砂				ロクロ右回転ナデ / 沈線	無	良	オリーブ灰色		湖西窯産?	
第132図 24	住居中央南東寄り(床上約40cm)	土師器	坏	(13.5)	1/6	3.4			口縁~胴	赤 / 雲? / 角 / 英 / 砂		丸	無	外: 口縁横ナデ / 胴上半無調整 / 下半削り / 内: 口縁横ナデ	無	良	明赤褐色		北武蔵型坏	
第132図 25	住居中央南東寄り(床上約37cm)	土師器	坏	(12.5)	1/10	3.2			口縁~胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	無	外: 口縁横ナデ / 胴上半無調整 / 下半削り / 内: 口縁横ナデ	無	良	明赤褐色		北武蔵型坏	
第132図 26	住居東側覆土中	土師器	坏	(14.0)	1/6	(2.6)			口縁~胴	赤 / 雲 / 角 / 砂		丸	無	外: 口縁横ナデ / 胴上半無調整 / 下半削り / 内: 横ナデ	無	良	橙色		北武蔵型坏	
第132図 27	住居中央南東寄り(床上約32~33cm)	須恵器	坏	(13.8)	2/5	3.4	(7.4)	3/5	口縁~底	針 / 赤 / 砂(多) / 礫		丸	無	ロクロ右回転ナデ / 底回転糸切り→外周回転削り	無	良	オリーブ灰色		鳩山窯産	
第132図 28	P2南東柱穴付近(床上約16cm)	須恵器	坏	(15.0)	1/8	(4.1)			口縁~底	針(多) / 白砂		丸	無	回転ナデ / 底回転削り(範囲不明)	無	良	暗オリーブ灰色		鳩山窯産	
第132図 29	拡張前P17入口周辺(床上約5cm)	須恵器	坏	(13.8)	1/4	(3.6)			口縁~胴	角 / 英 / 砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ	無	良	灰黄色		東金子窯産?	
第132図 30	住居東側覆土中	須恵器	箱形坏	(16.6)	1/12	(3.8)			口縁~底	赤 / 白砂(多) / 砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ / 底回転削り(範囲不明)	無	良	オリーブ黒色		東金子窯産	
第132図 31	住居中央南寄りに散在(床上約37~51cm)	須恵器	箱形坏	(14.6)	1/5	3.8	9.1	2/3	口縁~底	英 / 砂		丸	無	ロクロ右? 回転ナデ / 底回転削り	無	良	灰白色		東金子窯産?	
第132図 32	住居中央(床上約81cm)	須恵器	箱形坏	(15.6)	1/14	3.5	(11.0)	1/6	口縁~底	砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ / 底回転削り(範囲不明)	無	やや不良(酸化)	灰白色		東金子窯産?	
第132図 33	住居中央(床上約40cm)	須恵器	碗形坏			(3.0)	(8.2)	1/3	胴~底	針 / 英 / 白砂 / 砂				ロクロ右回転ナデ / 底回転糸切り→外周回転削り	無	良	灰色		鳩山窯産	
第132図 34	拡張前南壁溝周辺(床上約57cm)	須恵器	碗形坏			(2.7)	7.6	1/2	胴~底	針 / 赤 / 英 / 黒鉄 / 白砂				ロクロ右回転ナデ / 底回転糸切り→外周回転削り	無	良	灰色		鳩山窯産	
第132図 35	住居中央(床上約26cm)	土師器	甌	(22.0)	1/4	(10.0)			口縁~胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	< 字	外: 口縁横ナデ→胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色		武蔵型甕	
第132図 36	住居中央(床上約50cm)	土師器	甌	(20.4)	1/8	(6.0)			口縁~胴	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	< 字	外: 口縁横ナデ→胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	

第42表 215号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第135図 1	西壁溝付近(床上約18cm)	土師器	坏	(13.1)	1/6	(4.4)			口縁~底	赤 / 砂		段	丸	丸	外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	赤彩	良	赤褐色		入間系、比企型坏
第135図 2	住居南半壁土中	土師器	坏	(10.1)	1/12	(4.4)			口縁~胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	段		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第135図 3	住居東付近(床上約3cm)	土師器	鉢	13.1		6.5	7.0		完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		丸	無	突出・平	外: 口縁横ナデ→胴ナデ / 底無調整 / 内: 口縁横ナデ / 胴ナデ	無	良	橙色		
第135図 4	西壁溝及び住居西付近(床上約9~16cm)	土師器	鉢	(12.8)	1/3	(6.5)		1/3	口縁~底	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		角	無	突出・平	外: 口縁ヘラナデ / 胴ナデ / 底木葉痕 / 内: ヘラナデ	無	良	黄褐色		碗形
第135図 5	住居中央東寄り(床面上)	土師器	鉢	14.1		7.7	6.7		完形	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無	凸	外: 口縁ナデ / 胴上半ヘラナデ→下半~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	橙色	外: 煤 / 内: 焦げ付着	
第135図 6	住居中央東寄りに散在(床上約2~5cm)	土師器	鉢	16.6		13.6	6.8		完形	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無	凸	外: 口縁ナデ / 胴上半ヘラナデ→下半~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	褐色	外: 煤 / 内: 焦げ付着	
第135図 7	住居中央東寄り(床面上)	土師器	鉢	(11.0)	1/4	(6.2)	(6.1)	1/8	口縁~底	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無	凸	外: 口縁ナデ / 胴上半ナデ→下半~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第135図 8	住居東付近(床上約6cm)	土師器	鉢	(11.3)	1/3	4.8	4.7	1/1	口縁~底	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	無	凸	外: 口縁ナデ / 胴上半ナデ→下半~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第135図 9	住居中央付近(床上約4cm)	土師器	甌?	(18.8)	1/6	(7.7)			口縁~胴	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	無		外: 口縁横ナデ / 胴削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第135図 10	住居東及び東壁溝付近(床面上~約6cm)	土師器	甌	(10.9)	1/7	12.1	6.6	1/1	口縁~底	赤 / 雲 / 英 / 砂		丸	段	凸	外: 口縁横ナデ / 胴~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第135図 11	貯蔵穴南側(床上約10~15cm)	土師器	甌	(15.6)	1/4	27.0	6.8	1/1	口縁~底	赤 / 角 / 英 / 砂		丸	無	平	外: 口縁横ナデ→胴~底削り / 内: 口縁横ナデ / 胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外: 煤付着	丸甕

第43表 216号住居跡出土土器一覽

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第138図 1	住居南入口付近(床上約2cm)	土師器	環	12.8	1/2	4.0				口縁～底	赤/英/砂		段	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系、比企型環
第138図 2	カマド前付近(床上約6cm)	土師器	環	13.3		4.4				完形	赤/角/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第138図 3	住居南東腹土中	土師器	環	(15.7)	1/6	4.1				口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第138図 4	住居北西腹土中	須恵器	坏蓋	(11.7)	1/20	(3.3)				口縁～天井	赤/英/白砂(多)/砂		丸	丸		回転ナデ/天井(1/3)回転削り	無	良	青灰色		産地不明
第138図 5	住居北東腹土中	須恵器	摘み蓋	(16.0)	1/24	(1.8)				口縁～胴	針/英/砂		丸			回転ナデ	無	良	灰色		鳩山窯産
第138図 6	東壁溝北寄り(床上約22～23cm)	土師器	鉢	(15.1)	1/8	(6.8)				口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	良		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤付着	
第138図 7	所蔵穴内	土師器	甌	(22.2)	1/7	(8.0)				口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第138図 8	住居南入口北側(床上約20cm)	土師器	甌			(7.0)	(10.0)	1/8		胴～底	赤/雲(多)/英/砂					外:胴削り/底削り/ 内:ヘラナデ→磨き	無	良	黄褐色		筒拔型
第138図 9	住居中央東付近(床上約24cm)	土師器	甌	(12.4)	1/6	(3.7)				口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	丸		外:口縁横ナデ/胴横ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甌?
第138図 10	住居中央東寄り(床上約7cm)	土師器	甌	(17.0)	1/4	(10.5)				口縁～胴	赤/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甌
第138図 11	カマド右前付近(床上約7～14cm)	土師器	甌	15.7	2/3	18.1	7.9	1/1		ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甌
第138図 12	カマド左北壁付近(床面上～約11cm)	土師器	甌	19.1	1/1	(20.7)				口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甌
第138図 13	住居北側に散在(床面上～約25cm)	土師器	甌	19.3	1/2	(35.8)				口縁～胴	赤/雲?/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甌/軽量長甌
第138図 14	住居南東腹土中	土師器	甌			(2.3)	6.3	1/2		胴～底	赤/雲/角/英/砂				平	外:胴削り/底木葉痕/ 内:ヘラナデ	無	良	黄色	外:煤付着	長甌
第138図 15	住居南東腹土中	須恵器	壺類			(3.4)				胴	無					回転ナデ/胴下半削り	無	良	灰色	外・内:自然釉	

第44表 217号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第141図 1	住居北西腹土中	土師器	環	(14.7)	1/6	(2.5)				口縁～胴	赤/白砂/砂		凸面	丸		外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	赤褐色		入間系、比企型環
第141図 2	住居北西腹土中	土師器	環	(14.0)	1/8	(3.4)				口縁～胴	赤/白砂/砂		凸面	稜		外:口縁横ナデ/胴下半削り→ 上半磨き/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	明褐色		比企型環
第141図 3	貯蔵穴内	土師器	環	(14.6)	1/3	(3.6)				口縁～胴	赤/白砂/砂		沈線	稜		外:口縁横ナデ/胴削り(下半 1方向→上半外周)/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		比企型環/軽量
第141図 4	貯蔵穴南付近床面上	土師器	環	(14.1)	1/3	(3.6)				口縁～底	赤/白砂/砂		沈線	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		比企型環
第141図 5	住居北西腹土中	土師器	環			(3.7)				口縁～胴	赤/雲?/角/英/砂			段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	黄褐色		
第141図 6	住居北西腹土中	土師器	環	(17.7)	1/12	(2.6)				口縁	雲/角/英/砂		角			横ナデ	赤彩	良	黄褐色		
第141図 7	住居南西腹土中	土師器	環	(13.6)	1/10	(3.3)				口縁～胴	角(多)/英/白砂/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		
第141図 8	P4内	土師器	環	13.5		4.8				ほぼ完形	赤/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒色	良	黄褐色		
第141図 9	北東角付近床面上	土師器	環	(13.4)	1/3	4.6				口縁～底	赤/雲?/角/英/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	やや不良	黄褐色		
第141図 10	住居北西腹土中	土師器	環	(14.0)	1/8	(3.9)				口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	橙色		
第141図 11	住居中央付近	土師器	甌	21.3	2/3	17.5	4.9	1/6		口縁～底	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	やや不良	黄色		単孔型
第141図 12	北東角付近(床面上～約3cm)	土師器	甌	26.0	2/3	31.2	9.6	1/1		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		筒拔型
第141図 13	北東角付近(床上約9cm)	土師器	甌	(23.8)	1/12	(4.3)				口縁	赤/角/英/砂		複合	無		口縁横ナデ	無	良	橙色		
第141図 14	カマド内	土師器	甌	(14.0)	1/4	(7.5)				口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甌
第141図 15	住居北西付近(床面上)	土師器	甌			(5.0)	(11.4)	1/3		胴～底	赤/角/英/砂(多)				平	外:胴削り/底無調整/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌
第141図 16	住居中央付近(床面上)	土師器	甌	15.3	2/3	(22.3)	8.3	1/1		完形	赤/雲/角(多)/英/砂		丸	無	突出・平	外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ/ 底外周削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甌
第141図 17	P4南付近(床上約2cm)	土師器	甌	(18.7)	1/3	23.6	8.7	1/1		口縁～底	赤(多)/角/英/砂		丸	無	突出・平	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌
第142図 18	貯蔵穴内及びカマド右袖外(床面上30cm)	土師器	甌	(22.8)	1/3	(16.9)				口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甌
第142図 19	カマド左側北壁溝付近(床上約9cm)	土師器	甌	(24.2)	1/24	(15.0)				口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤付着	丸甌
第142図 20	北西角及び住居北西付近(床上約3～17cm)	土師器	甌	(21.8)	1/3	(9.6)				口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甌/軽量丸甌?

第45表 218号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第142図 21	P4北西柱六付近床面上	土師器	甕	18.0	1/2	(9.8)			口縁～胴	赤(多)/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り→ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第142図 22	貯蔵穴内	土師器	甕			(16.5)	10.4	1/1	胴～底	赤/角/英/砂			突出・平	外:胴ヘラナデ/底木葉痕→削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第142図 23	貯蔵穴内	土師器	甕			(3.8)	8.8	1/1	胴～底	赤(多)/角/英/砂			突出・平	外:胴削り/底外周削り/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤?付着	丸甕	
第142図 24	西壁南周辺及び南西角(床上約3～24cm)	土師器	甕			(27.0)		1/24	胴	赤/角/英/砂			突出・平	外:削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第143図 25	P4北西柱穴及び西壁・北東角(床上～22cm)	土師器	甕			(44.1)	10.2	1/1	胴～底	赤/雲/角/英/砂			突出・平	外:胴削り/底無調整/ 内:ヘラナデ	無	良	明褐色		丸甕	
第143図 26	北東角付近(床面上)	土師器	甕	14.6	6/7	21.6	5.6	1/1	完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無 平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕	
第143図 27	カマド及び貯蔵穴・貯蔵穴南・北壁溝(床面上～約6cm)	土師器	甕	18.4	3/4	32.6	7.0	1/2	口縁～底	赤/雲/角/英/砂		丸	無 平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤・粘土/ 内:焦げ付着	長甕/軽量長甕	
第143図 28	貯蔵穴及び周辺(床面上約4～8cm)	土師器	甕	18.9	1/2	(31.4)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甕/軽量長甕	
第144図 29	住居西付近及び西壁溝付近(床上約4～13cm)	土師器	甕	20.4	2/3	(30.8)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り→ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土付着	長甕	
第144図 30	カマド右側袖付近床面上	土師器	甕	19.4		36.9	6.3		完形	赤/雲/英/砂		丸	無 平	外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ/ 底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤付着	長甕	
第144図 31	カマド右袖外(床上約5cm)	土師器	甕	18.3		37.0	6.6		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無 平	外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ/ 底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	口縁補修痕/ 外:煤付着	長甕	

第45表 218号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第146図 1	住居中央付近(床上約17～27cm)	土師器	高坏	(17.8)	1/5	(7.2)			坏	赤/角/英/砂		丸			外:ハケ目→横ナデ/ 内:横ナデ	無	良	明赤褐色		
第146図 2	住居中央付近(床上約30cm)	土師器	高坏			(1.5)	(16.4)	1/5	脚	赤/雲/角?/英/砂					外:脚上半磨き?/下半横ナデ/ 内:横ナデ	無	良	橙色		

第46表 219号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第148図 1	カマド右脇(床上約6cm)	土師器	坏	16.7		5.3			完形	赤/英/砂		密	匙面 段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		小針型坏
第148図 2	カマド右脇(床上約19cm)	土師器	坏	15.3		4.8			完形	赤/角/英/砂			丸	無 丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		
第148図 3	貯蔵穴内底面上	土師器	甕	22.5		26.9	8.2		ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂			複合	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き(粗)/底削り	無	良	橙色		筒状型
第148図 4	カマド右脇(床上約12cm)	土師器	甕	12.3	3/4	19.3	7.2	1/1	ほぼ完形	赤/角/英/砂(多)			丸	屈曲 突出・平	外:口縁横ナデ/胴上半ナデ/ 下半～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:粘土付着	丸甕
第148図 5	カマド右脇(床上約21cm)	土師器	甕	(11.8)	1/3	(12.8)			口縁～胴	赤/角/英/砂			丸	屈曲	外:口縁横ナデ/胴ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕
第148図 6	カマド右脇(床上約1cm)	土師器	甕	17.5	1/2	(19.2)			口縁～胴	赤/雲/英/砂			丸	屈曲	外:口縁横ナデ/胴上半ハケ目・ 下半削り→磨き/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕/壺?
第148図 7	貯蔵穴内	土師器	甕			(4.8)	(7.0)	1/4	胴～底	赤/英/砂(多)				平	外:胴削り/底無調整/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕

第47表 220号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第149図 1	南壁溝付近(床上約34cm)	土師器	甕	(18.8)	1/5	(6.7)			口縁～胴	赤/雲(多)/砂			丸	無	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第149図 2	住居南西角付近(床上約14cm)	土師器	甕	(22.4)	1/7	(5.9)			口縁～胴	赤/雲(多)/英/砂			丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	内:焦げ付着	長甕
第149図 3	住居南西角付近(床上約19cm)	土師器	甕	:20.0	1/5	:5.1			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂			丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄色		長甕

第48表 221号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第152図 1	貯蔵穴B内	土師器	坏	(13.5)	1/9	(5.0)			口縁～底	赤/英/砂			丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	橙色		
第152図 2	住居北東側覆土中	土師器	坏	(15.6)	1/6	(4.9)			口縁～胴	赤/英/砂			丸	屈曲	外:口縁横ナデ/胴磨き/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き	赤彩	良	赤褐色		
第152図 3	住居南西覆土中	土師器	坏	(14.0)	1/12	(3.6)			口縁～胴	赤/英/砂			丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	黄褐色		
第152図 4	住居北西覆土中	土師器	坏	(14.0)	1/5	(4.0)			口縁～胴	赤/角/英/砂			凸面	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第152図 5	覆土中	土師器	坏	13.0	1/2	(3.6)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂			丸	稜	外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		

第49表 222号住居跡出土土器一覽(1)

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第152図 6	住居北東側覆土中	土師器	鉢	(14.8)	1/12	(4.9)			口縁～胴	赤/角/英/砂		面	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第152図 7	住居中央西寄り(床上約8cm)	土師器	高坏	(18.8)	1/8	(6.6)			坏	赤/雲/角/英/砂		丸		外:横ナデ→下半削り/ 内:横ナデ→下半磨き	無	良	明赤褐色			
第152図 8	住居中央東寄り(床上約6cm)	土師器	高坏			(8.0)			坏～脚	赤/雲/角/英/砂				外:ナデ・ヘラナデ/ 内:坏ヘラナデ/脚ナデ・削り	赤彩	稜	黄褐色			
第152図 9	住居中央(床上約21cm)	土師器	壺	(20.8)	1/12	(5.9)			口縁	赤/角?/英/砂		丸		外:口縁横ナデ→磨き(粗)/ 内:口縁横ナデ→磨き	無	良	橙色			
第152図 10	住居北東側覆土中	土師器	壺	(15.4)	1/8	(4.2)			口縁～胴	赤/英/砂		丸	屈曲	外:口縁横ナデ→磨き/ 内:口縁横ナデ→磨き/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色			
第152図 11	P6南周辺(床上約8～12cm)	土師器	甌	(20.0)	1/4	(19.0)			口縁～胴	赤/角(多)/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ→磨き/胴ヘラナデ→磨き(密)	無	良	黄褐色			
第152図 12	住居中央西寄り(床上約4cm)	土師器	甌	20.3		27.2	8.6		完形	赤/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ→胴削り	無	良	橙色		筒拔型	
第152図 13	住居中央西寄り(床上約11～13cm)	土師器	甌	(13.4)	1/4	(11.4)			口縁～胴	赤/雲/白(多)/英/砂		丸	屈曲	外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ・削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	褐色		<字甌	
第152図 14	カマド内	土師器	甌	(14.8)		(4.5)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	屈曲	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴削り	無	良	黄褐色		丸甌	
第152図 15	住居南東角(床上約9cm)	土師器	甌	(20.0)	1/8	(3.4)			口縁	赤/雲/角/英/砂		丸	屈曲	横ナデ	無	良	褐色		<字甌	
第152図 16	住居南西側覆土中	土師器	甌	(20.4)	1/6	(11.1)			口縁～胴	角/英/砂/礫		丸	屈曲	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴削り	無	良	明黄褐色		<字甌	
第152図 17	P2西周辺(床上約25cm)	土師器	甌	(24.2)	1/6	(11.5)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甌	
第152図 18	カマド左脇(床上約4cm)	土師器	甌			(5.9)	(10.0)	1/5	胴～底	赤/角/英(多)/砂			突出・平	外:胴削り→磨き/底磨耗/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌/壺?	

第49表 222号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第155図 1	貯蔵穴内	土師器	坏	(12.6)	1/5	(2.8)			口縁～胴	赤/白砂/砂		沈線	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	明褐色		比企型坏
第155図 2	P1南東周辺(床面上)	土師器	坏	11.5		3.7			完形	赤/雲/英/砂	密	丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	黒色	良	橙色		
第155図 3	東壁北寄り周辺(床上約19cm)	土師器	坏	(11.8)	1/7	(4.5)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		
第155図 4	貯蔵穴内及び周辺(床面上～約4cm)	土師器	鉢	19.8		9.9	6.8		完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底外周削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第155図 5	カマド前床面上	土師器	鉢	9.8		10.6	6.5		ほぼ完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		
第155図 6	貯蔵穴南付近床面上	土師器	甌	12.9		11.4	7.0		ほぼ完形	赤/雲/英/砂		丸	段	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌
第155図 7	貯蔵穴南付近床面上	土師器	甌	11.8		17.5	(7.3)		完形	赤/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甌
第155図 8	貯蔵穴、入口及び住居南西角(床面上～約6cm)	土師器	甌			(25.3)	7.0	1/1	胴～底	赤/雲/英/砂				平	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌
第155図 9	P2付近及びP4付近(床上約2～4cm)	土師器	甌	(18.2)	1/5	(27.0)	(5.4)	1/4	口縁～底	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り→ヘラナデ(光沢)/底削り/ 内:口縁横ナデ→胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	丸甌
第155図 10	貯蔵穴及び周辺、入口付近(床面上～約28cm)	土師器	甌	14.4	1/1	30.6	7.8	1/1	口縁～底	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甌
第156図 11	住居中央付近及び住居西(床面上～約6cm)	土師器	甌	18.5		33.8	7.5		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ→胴削り/底木葉痕/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明褐色	外:煤・粘土付着	長甌
第156図 12	住居中央付近及び貯蔵穴内及び周辺(床面上～約6cm)	土師器	甌	19.7		37.3	7.8		完形	赤/雲/角/英/砂		丸	段	平	外:口縁横ナデ→胴削り/底無調整/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土/ 内:焦げ付着	長甌
第156図 13	P3内及び住居中央西寄り(床上～約2cm)	土師器	甌	18.4	2/3	(21.9)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土付着	長甌
第156図 14	P3南付近(床上約4cm)	土師器	甌			(4.1)	3.8	3/4	胴～底	赤/角/英/砂(多)				凸	外:胴～底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土付着	長甌

第50表 223号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第161図 1	住居北東側土中、42M覆土	土師器	坏	(13.1)	3/5	(5.3)			口縁～底	赤/角?/英/砂		角	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		
第161図 2	南東角壁端(床上約6cm)	土師器	坏	12.8	1/2	5.15			口縁～底	赤/雲/角/英/砂		角	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		
第161図 3	カマド右脇(床上約10～21cm)	土師器	坏	12.6	1/1	4.8			ほぼ完形	赤/角?/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	褐色		
第161図 4	カマド右脇(床上約7cm)	土師器	坏	12.2		6.2			完形	赤/雲/角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→放射状磨き(暗文風)	赤彩	良	橙色		
第161図 5	カマド前(床面上)	土師器	坏	11.8		7.0			ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	稜	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→放射状磨き(暗文風)	赤彩	良	黄褐色	底被熱・赤化	

第51表 224号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考	
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第161図 6	東壁付近 (床上約4cm)	土師器	環	(12.2)	1/6	(3.9)			口縁~胴	赤/英/砂		凸面	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型環		
第161図 7	カマド左、北壁溝 (床上約3~5cm)	土師器	環	(12.6)	1/3	(3.9)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	丸	外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	浅黄色				
第161図 8	住居北側腹土中	土師器	環						口縁~胴	赤/角/英/砂		凸面	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	明赤褐色		入間系? / 比企型環		
第161図 9	カマド右脇 (床上約9cm)	土師器	環	14.6		5.6			ほぼ完形	赤/英(多)/砂		丸	段	丸	外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→放射状磨き(暗文風)	黒色	良	黄褐色			
第161図 10	カマド右脇 (床上約9cm)	土師器	環	12.8		4.9			完形	赤/英/砂		匙面	段	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		小針型環	
第161図 11	腹土中	土師器	環			(3.4)			口縁~胴	赤/角/英/砂			稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第161図 12	住居南側腹土中	土師器	環	(10.0)	1/4	(4.4)			口縁~胴	赤/白(多)/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第161図 13	住居中央付近 (床上約17cm)	土師器	環	(8.5)	1/4	2.5	8.5	1/2	口縁~底	赤/雲/角/英/砂		丸	無	突出・平	ナデ	無	良	橙色			
第161図 14	住居南西寄り床面上	土師器	高環	15.4		12.8	10.0		完形	赤/白/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/環~脚ヘラナデ・ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	橙色			
第161図 15	カマド右脇 (床上約2~5cm)	土師器	高環	14.8	2/3	11.8	(10.2)	1/3	完形	赤/白/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/環~脚ヘラナデ・ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	橙色			
第161図 16	カマド前床面上	土師器	高環	15.7	7/8	12.3	10.2	7/8	ほぼ完形	赤/白/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/環~脚ヘラナデ・ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	橙色			
第161図 17	カマド右脇 (床上約5cm)	土師器	高環	15.8	1/1	11.6	10.4	1/6	ほぼ完形	赤/白/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/環~脚ヘラナデ・ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	橙色			
第161図 18	カマド右脇 (床上約10cm)	土師器	高環	14.8	1/1	(9.1)			環~接合	赤/白/雲/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/環~脚ヘラナデ・ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚上半削り/下半ナデ	赤彩	良	橙色			
第161図 19	カマド右脇 (床上約5~10cm)	土師器	高環	12.8	2/3	8.6	5.9	2/3	完形	赤/雲/角/英/砂	密	丸	段		外:口縁横ナデ/環削り/脚・底無調整/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色		口縁端部磨耗/環内面剥離	
第161図 20	カマド右脇 (床上約5cm)	土師器	高環	14.2	1/2	7.9	7.2	2/3	環胴~脚	赤/雲/角/英/砂	密		段		外:環削り/脚無調整/ 内:環ヘラナデ/脚削り	赤彩	やや不良	黄褐色		口縁欠損面磨耗/環内面剥離	
第161図 21	カマド右脇 (床上約5cm)	土師器	高環	10.8	3/4	7.9	6.0	2/3	完形	赤/雲/角/英/砂	密	丸	段		外:口縁横ナデ/環削り/脚ナデ/ 内:口縁横ナデ/環ヘラナデ/ 脚削り	赤彩	良	黄褐色		口縁端部/環内面磨耗	
第161図 22	カマド右脇 (床上約6cm)	土師器	高環	15.2	3/4	10.6	8.8	2/3	完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/環削り/脚ナデ/ 内:口縁横ナデ/環削り/脚ナデ	赤彩	良	明赤褐色		口縁端部磨耗	
第161図 23	カマド内	土師器	高環			12.4	9.8	1/1	環胴~脚	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:環削り/脚ナデ/ 内:環削り/脚ナデ	赤彩	良	明赤褐色		外・内粘土付着	
第162図 24	住居南東角付近 (床上約6~32cm)	土師器	鉢	1/3	16.4	7.5	2/3	ほぼ完形	赤/英/砂		尖	無		外:口縁無調整/胴ナデ/下端~底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		外:煤付着/器面剥離		
第162図 25	北壁溝東側 (床上約6cm)	土師器	甌	(24.0)	1/3	30.0	8.2	3/4	口縁~底	赤/英/砂		複合	無		外:口縁ナデ/胴削り→上半磨き(粗)/底削り/ 内:口縁ヘラナデ/胴削り	無	良	黄褐色		筒拔型	
第162図 26	P2南周辺及び南壁際(床面上)	土師器	甌	25.2	1/2	(22.1)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		複合	無		外:口縁横ナデ→胴削り→上半ヘラナデ(光沢)/ 内:口縁横ナデ/胴削り	無	良	黄褐色		外:煤付着	
第162図 27	P2南周辺(床面上)	土師器	甌	(19.6)	1/5	(22.0)	(8.8)	1/5	口縁~底	赤(多)/砂/チャート		丸	無		外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ(ハケ目)/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		単孔型	
第162図 28	カマド右脇 (床上約8cm)	土師器	甌	(19.0)	1/4	32.5	6.8	1/1	口縁~底	赤/雲/英/砂		丸	屈曲	突出・平	外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き/下端~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→磨き	無	良	黄褐色		外:煤/ 内:焦げ付着	<字甌
第162図 29	北壁溝東側(床面上~約17cm)及びカマド内	土師器	甌	16.5	1/1	(18.4)			口縁~胴	赤/雲(多)/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴ヘラナデ→ヘラナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄色		<字甌	
第163図 30	北壁溝東側(床上約4cm)	土師器	甌			(20.7)	6.2	1/1	胴~底	赤/角(多)/英/砂			平		外:胴削り→上半ヘラナデ(光沢)/底削り/ 内:ヘラナデ→上半右上がり削り	無	良	明褐色		外:煤/ 内:焦げ付着	<字甌
第163図 31	P1付近(床上約15cm)	土師器	甌	16.8	3/4	25.8	6.6	1/1	ほぼ完形	赤/角/英/砂		丸	屈曲	突出・平	外:口縁横ナデ/胴上半ヘラナデ/下半~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		外:煤付着	<字甌
第163図 32	住居北西角付近(床面上~約12cm)	土師器	甌	17.7	1/2	32.5	7.7	1/1	完形	赤/角/英/砂		丸	無	突出・平	外:口縁横ナデ/胴~底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		外:煤/ 内:焦げ付着	<字甌

第51表 224号住居跡出土土器一覽(2)

第2節 古墳時代

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第163図 33	カマド右脇 (床上約8～17cm)	土師器	甕	15.3	1/1	29.8	7.0	1/1	口縁～底	赤/角/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甕	
第163図 34	P3東周辺 (床上約11～18cm)	土師器	甕	(22.0)	1/2	(13.5)			口縁～胴	赤/雲?/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第163図 35	北壁溝東側(床面上)	土師器	甕			(13.2)	7.0	1/1	胴～底	赤/英/砂				凸	外:胴削り→ヘラナデ/底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		丸甕	
第163図 36	住居南東角付近 (床上約7cm)	須恵器	甕			(24.5)	(4.6)	1/6	口縁～頸	白砂/砂		摘み上げ		回転ナデ		無	良	オリーブ灰色	外:降灰	東海地域産・城山2号窯式か	

第51表 224号住居跡出土土器一覽(3)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第167図 1	トレンチ(ST)内	土師器	環			(3.4)	4.0	1/1	胴～底	赤/角/英/砂				凹	ヘラナデ	赤彩	良	黄褐色			

第52表 225号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第170図 1	住居南側覆土中	土師器	環						口縁～胴	赤/砂		匙面	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	橙色		比企型環	
第170図 2	カマド左袖前 (床上約3cm)	土師器	環	12.6		4.4	9.0		完形	赤/雲(多)/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第170図 3	貯蔵穴A内	土師器	環	(13.4)	1/3	(5.2)	6.3		口縁～底	赤/雲(多)/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴無調整/底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第170図 4	カマド内	土師器	鉢	(20.6)	1/4	(10.0)	6.2		口縁～胴	赤/雲(多)/英/砂		丸	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着		
第170図 5	貯蔵穴B周辺及び北壁中央 (床面上～約3cm)	土師器	甕			(34.6)		1/1	胴～底	赤/雲/英/砂				突出・平	外:胴～底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕	
第170図 6	北壁中央(床上約9cm)	土師器	甕	18.1		17.9			完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外:口縁横ナデ/胴削り/底木葉痕→穿孔/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	内:焦げ付着	多孔型	
第170図 7	北壁中央床面上	土師器	甕	22.0		39.4	(12.4)		ほぼ完形	赤/雲/英/砂		丸	無	平	外:胴～底削り→口縁横ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤・粘土付着	長甕	
第170図 8	カマド前床面上	土師器	甕	(19.4)	2/5	(13.9)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤・粘土/ 内:焦げ付着	長甕	
第170図 9	貯蔵穴内	土師器	甕	17.8	3/4	(14.5)			口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土付着	長甕	

第53表 226号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第173図 1	住居南西角 (床上約3cm)	土師器	高環	(16.8)	1/10	(18.3)	(12.4)	1/8	環/脚	赤/角(多)/英/砂		丸	屈曲		ヘラナデ/外:環下半・脚下半 粘土紐貼付	赤彩	良	赤褐色		二次焼成/黒化・器表面剥離	

第54表 227号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第176図 1	215H内	土師器	環						口縁～胴	赤/砂		内傾面	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	赤彩	良	橙色		比企型環	
第176図 2	215H内	土師器	環	(13.4)	1/10	(3.9)			口縁～胴	赤/角/英/砂		角	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	赤彩	良	橙色			
第176図 3	215H内	土師器	環						口縁～胴	赤/雲?/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	赤彩	良	橙色			
第176図 4	215H内	土師器	環	(12.8)	1/8	(2.7)			口縁～胴	赤/角(多)/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	赤彩	良	黄褐色			
第176図 5	215H内	土師器	環						口縁～胴	赤/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	無	良	橙色			
第176図 6	215H内	土師器	環						口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	段		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	黒色?	良	暗灰黄色			
第176図 7	P17付近 (床上約26cm)	土師器	環	(11.0)	1/12	5.8	5.4	3/4	口縁～底	赤/英/砂		丸	無	平	外:口縁ナデ/胴～底無調整/ 内:ナデ	無	良	浅黄色			
第176図 8	215H内、南壁付近 (床上約29cm)	土師器	壺?			(3.9)			口縁	赤/角?/英/砂					ヘラナデ・ナデ	赤彩	良	赤褐色		入間系?	
第176図 9	P11付近床面上	土師器	高環			(8.1)			脚	赤/角(多)/英/砂					外:脚上半ハケ・ヘラナデ/ 下半横ナデ/ 内:上半削り/下半横ナデ	赤彩	良	黄褐色			

第55表 228号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第178図 1	住居南側覆土中	土師器	環	(12.8)	1/9	(2.4)			口縁～胴	赤/砂		沈線	稜		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	赤彩	良	橙色		比企型環	
第178図 2	住居南東角付近 (床上約17cm)	土師器	環	(13.4)	1/4	(4.0)			口縁～底	赤/角(多)/英/砂		丸	丸	丸	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色			
第178図 3	住居南側覆土中・221H内	土師器	鉢	(23.6)	1/4	(4.1)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色			
第178図 4	住居南東角付近 (床上約19～40cm)	土師器	甕	(20.8)	1/8	(11.0)			口縁～胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	長甕	

第56表 229号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高		底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存	(cm)	残存	(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第179図 1	覆土中	土師器	環	13.4	1/1	7.4			ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	無	丸	外:口縁横ナデ/胴～底削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	赤彩	良	明黄褐色			

第57表 第60地点94号ピット出土土器一覽

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	直径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
											含有物	粘土							
第20図 2	120 H	住居北壁付近の床面上	土製品	須恵器片転用品	4.5	4.3			24.9	甕・壺胴下半	白砂		外：削り / 内：横ナデ	無	良	灰		産地不明	
第20図 3	120 H	住居北半覆土中	土製品	土錘	(3.1)	0.6			0.8	両端欠損	-		丸棒芯巻付け成形 / ナデ	無	良	橙			
第20図 4	120 H	住居南コーナー壁の灰白色粘土付近 (床上約21cm)	土製品	輪郭口	(2.7)		(4.8)		26.7	炉内側	赤 / 砂		ナデ	無	良	外：黄褐色～オリーブ灰色 / 内：橙色	被熱 / 溶融・発泡		
第29図 14	167 H	覆土下層	土製品	円盤状土製品	(5.0)	(2.7)			15.9	1/2欠損	雲(多) / 砂		ナデ / 中央に穿孔	無	良	黄橙色		鏡形模造品か	
第48図 11	177 H	住居北半 (床上約18cm)	土製品	支脚	(14.6)	9.6			399.3	完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		ヘラナデ	無	良	黄褐色	被熱 / 外：粘土付着		
第48図 12	177 H	住居北半 (床上約16cm)	土製品	紡錘車			5.2	3.0	91.5	完形	赤 / 雲? / 角 / 英 / 砂		ナデ / 側面磨き / 孔径0.6cm	無	良	明黄褐色			
第67図 21	185 H	P3 付近 (床上約19cm)	土製品	土鈴	7.3	3.7			53.6	完形	赤 / 雲 / 英 / 砂		ヘラナデ / 紐孔は棒芯巻付け成形 / 体部中空 / 砂・小石内包	無	良	黄褐色			

第58表 第58地点遺構出土の土製品一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	直径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
											含有物	粘土							
第73図 12	188 H	南壁付近 (床上約11cm)	土製品	加工円盤	2.2	2.2	0.6		3.4	完形	赤 / 雲 / 英 / 砂		外：削り / 内：ヘラナデ	無	両	橙色	甕胴部打ち欠き		
第90図 31	193 H	住居南側に散在 (床上約9～21cm)	土製品	支脚	(13.2)	(9.2)			214.7	下端	赤	密	ナデ・棒状工具? 圧痕	無	良	黄褐色	外：粘土付着		
第96図 35	196 H	南壁付近 (床上約20cm)	土製品	支脚	12.0	5.0			266.0	先端	赤(多) / 角 / 英 / 砂		指ナデ成形 / 上端くぼむ	無	良	明黄褐色			
第96図 36	196 H	住居中央付近 (床上約15cm)	土製品	支脚	(6.8)	5.6			146.9	上半欠損	赤(多) / 角 / 英 / 砂		指ナデ成形	無	良	明黄褐色			
第96図 37	196 H	P5 付近 (床上約5～10cm)	土製品	支脚	(12.2)	5.1			219.5	下端欠損	赤(多) / 角 / 英 / 砂		指ナデ成形 / 上端くぼむ	無	良	黄褐色			
第105図 11	203 H	カマド内	土製品	支脚	(9.6)	7.2			313.8	上下端欠	赤 / 英	密	外：削り	無	無焼成	橙色	煤付着		
第119図 42	211 H	柱穴付近 (床上約23cm)	土製品	支脚	(20.0)	8.3			763.1	上下端欠損	赤 / 砂		削り	無	無焼成	明黄褐色	下端崩壊		
第122図 17	213 H	カマド内	土製品	支脚	(9.4)	(7.9)			363.4	上下端欠損	英 / 黒		削り	無	無焼成	橙色	下端崩壊		
第126図 25	214 H	住居南入口付近 (床上約8cm)	土製品	支脚	(7.2)	5.6			217.1	上下端欠損	赤 / 雲 / 英 / 砂 / 礫		ナデ	無	良(無焼成?)	褐色			
第132図 37	215 H	基壇南東角周辺 (床上約44cm)	土製品	支脚	(7.1)	(3.8)			56.4	下半欠損	赤 / 角 / 英 / 砂		ナデ	無	良	黄色	外：粘土付着		
第132図 38	215 H	住居中央 (床上約31cm)	土製品	支脚	(12.6)	7.1			333.4	上下端欠損	赤(多) / 砂	密	ナデ / 左面平坦	無	良	浅黄褐色			
第138図 16	217 H	北東角・貯蔵穴周辺 (床上約12cm)	土製品	支脚	(7.7)	4.0			138.2	上下端欠損	無	密	削り?	無	無焼成	橙色	全体崩壊		
第138図 17	217 H	P2 付近 (床上約12cm)	土製品	土玉			3.3	3.2	33.4	完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		ナデ / 丸棒芯巻き付け作り	無	良	褐色	使用痕不明		
第138図 18	217 H	住居北東覆土中	土製品	丸玉		0.9		0.7	0.4	ほぼ完形	英 / 砂		ナデ	無	良	黒褐色	使用痕不明		
第144図 32	218 H	カマド右袖外床面上	土製品	支脚	15.5	7.6			588.4	完形	赤 / 角 / 英 / 砂		無調整	無	無焼成	明黄褐色	粘土付着 / 下端崩壊		
第144図 33	218 H	カマド右袖袖付近床面上	土製品	支脚	10.7	6.8			293.1	下端欠損	赤 / 角 / 英 / 砂		無調整	無	無焼成	明黄褐色	粘土付着 / 下端崩壊		
第144図 34	218 H	P1 南付近 (床上約6cm)	土製品	紡錘車			4.1	2.3	42.6	完形	赤 / 雲 / 角 / 英 / 砂		磨き	無	良	明赤褐色	使用痕不明		
第164図 37	224 H	南西隅床面付近	土製品	鏡形模造品	7.6	7.4	6.4	1.1	51.9	鈴部3個欠損	赤 / 黒 / 角 / 英 / 白砂	密	手捏ね / 背面掌圧痕 / 鏡面無調整 / 紐・鈴部貼り付け / 紐孔丸棒片側穿孔	無	良	黒褐色		七鈴鏡形 / 粘土粒添付型紐 / 鏡背施文なし	
第164図 38	224 H	南西隅床面付近	土製品	鏡形模造品			6.5	1.1	48.1	紐部先端欠損	赤 / 黒 / 角 / 英 / 白砂	密	手捏ね / 背面指ナデ / 鏡面無調整 / 紐・鈴部貼り付け / 紐孔丸棒片側穿孔?	無	良	黒褐色		素文鏡形 / 粘土粒添付型紐 / 鏡背施文なし	
第164図 39	224 H	南西隅床面付近	土製品	鏡形模造品			4.7	(0.6)	9.8	鈴部欠損 / 鏡面剥離	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね / 背面掌圧痕 / 紐・鈴部貼り付け	無	良	灰黄褐色～黒褐色		七鈴鏡形 / 粘土粒添付型紐 / 鏡背施文なし	
第164図 40	224 H	南西隅床面付近	土製品	鏡形模造品	(3.5)	(1.4)	4.7	(0.5)	2.3	体部欠損	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね	無	良	黒褐色		素文鏡形 / 鏡背施文なし?	
第164図 41	224 H	南西隅床面付近	土製品	勾玉	3.0	0.8	0.6	2.0	完形	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね / 腹部ナデ / 背部無調整 / 紐孔丸棒片側穿孔	無	良	暗灰黄色～黒褐色		断面半円形型		
第164図 42	224 H	南西隅床面付近	土製品	勾玉	(2.0)	0.7	0.7	1.0	頭部	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね / ナデ (光沢) / 紐孔丸棒両側? 穿孔	無	良	黒褐色		断面円形型		
第164図 43	224 H	南西隅床面付近	土製品	勾玉	(2.0)	0.7	0.5	0.9	胴部	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね / 腹部ナデ / 背部ナデ / 紐孔丸棒両側穿孔	無	良	黒褐色		断面半円形型		
第164図 44	224 H	南西隅床面付近	土製品	勾玉	(1.4)	1.1	0.7	0.9	胴部	赤 / 黒 / 角? / 英 / 白砂	密	手捏ね / 腹部ナデ / 背部無調整 / 紐孔丸棒片側? 穿孔	無	良	黒褐色		断面半円形型		
第167図 2	225 H	カマド前 (床面上)	土製品	支脚	(9.2)	(6.9)			159.7	下半欠損	赤 / 雲(多) / 砂		ナデ	無	無焼成?	橙色	粘土付着		
第167図 3	225 H	カマド内	土製品	支脚	(11.2)	(7.5)			296.9	上半欠損	赤 / 雲(多) / 砂 / 礫		ナデ	無	無焼成	黄～明赤褐色			

第59表 第60地点遺構出土の土製品一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	器種	形態	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第51図 9	178H	住居北東覆土中	砥石		安山岩	欠損	64.05	54.41	40.52	140.5	正面および右面が使用面。細かい条線が観察される。

第60表 第58地点遺構出土の石器一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	器種	形態	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第96図 39	196H	貯蔵穴付近 (床上約32cm)	有孔砥石		安山岩	完形	57.94	21.28	25.14	38.9	表裏左右面を使用。
第102図 27	200H	カマド脇 (床上約38cm)	砥石		砂岩	欠損	60.90	42.09	35.71	159.5	表裏面を使用。
第105図 12	203H	住居南側覆土中	砥石		砂岩	欠損	56.07	30.88	34.07	72.0	表裏右面を使用。
第156図 16	223H	住居東側覆土中	石製品		滑石	完形	33.60	12.36	3.68	2.4	装飾品未製品。小孔が1ヶ所。

第61表 第60地点遺構出土の石器一覧

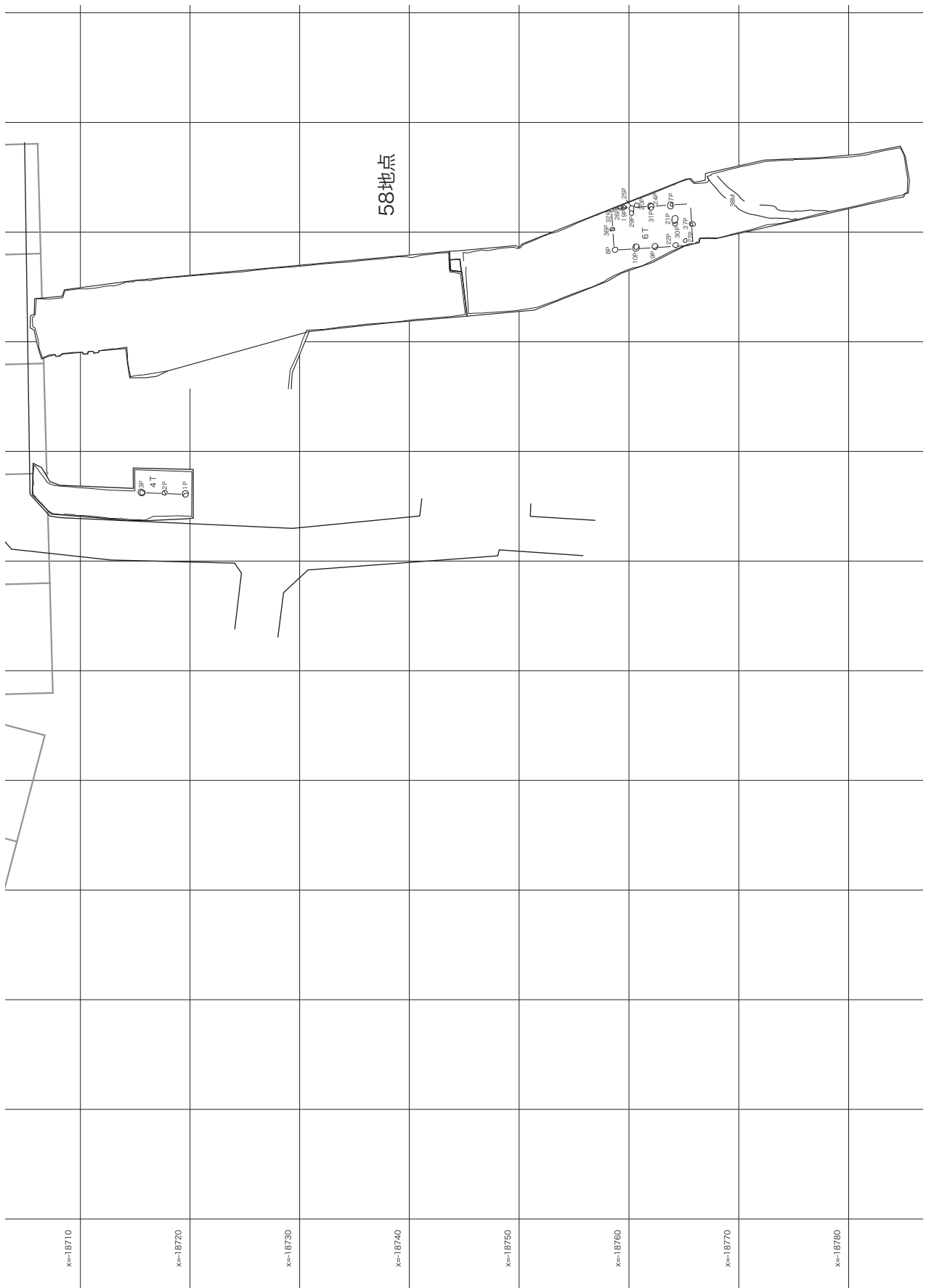
挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存	特徴
第20図 5	120 H	住居北半覆土中	鉄製品	不明製品	(5.1)	1.5	0.2	6.2	両端欠損	板状製品。刃は確認できない。
第27図 33	165 H	東コーナー付近 (床上約15cm)	鉄製品	鉄鎌	(5.3)	1.1	0.5	6.5	基部端欠損	細根系短頸鬚頭形鎌。台形関。身部厚0.3cm。矢柄の本質は看取されない。
第27図 34	165 H	東コーナー付近の床面直上	鉄製品	鉄鎌?	(6.5)	0.5	0.3	4.1	上方欠損	下端は機能面を形成せず、細根系鎌の茎の可能性あり?
第40図 37	173 H	P3付近 (床上約22cm)	鉄製品	鉄鎌?	(3.2)	0.5	0.2	1.4	両端欠損	法量から細根系鎌の茎の可能性あり?

第62表 第58地点遺構出土の金属製品一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存	特徴
第96図 38	196 H	住居東側覆土中	鉄製品	刀子	(4.0)	1.3	0.4	6.1	切先・基部端欠損	基部が太く、刀子ではない可能性あり。
第156図 15	223 H	P1付近 (床上約13cm)	鉄製品	U字形鉄鋤先	(6.4)	(4.4)	0.8	25.4	端部欠損	刃部は片刃を示す。左右は別個体の可能性あり。

第63表 第60地点遺構出土の金属製品一覧





第180図 奈良・平安時代の遺構分布図 (1/500)

第3節 奈良・平安時代

(1) 概要

古墳時代の集落跡に比べると分布がやや希薄となるが、これまでに奈良時代・8世紀後半の住居跡と平安時代・9世紀前半～10世紀代の住居跡、掘立柱建築遺構2棟、ピット2基が確認されている。今回の調査では住居跡は第60地点のみで確認され、8世紀中頃～同後半の4軒と9世紀中頃～末葉の6軒がある。これらは同地点の西側に分布し、本遺跡全体でも第58地点の位置する南側では、当該期の住居跡は確認されていないことと符合する。

(2) 住居跡

〈第60地点〉

195号住居跡

遺構 (第181～182図)

[位置] B-4グリッド。

[住居構造] 南東コーナーを553号土坑に切られる。(平面形) 隅丸正方形。(規模) 2.98×2.78m。(主軸方向) N-S。(壁高) 7～12cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 確認されなかった。(床面) 貼床は3～18cmの厚さで施されていた。全体に軟弱。(床面レベル) 標高11.88～12.09m。(カマド) 確認されなかった。(柱穴) 2基確認したが、支柱を想定できるものではない。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 4層、暗褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が少量散在。

[時期] 平安時代(9世紀後半)。

[所見] 無支柱穴の小型竪穴。

遺物 (第182図、第64表)

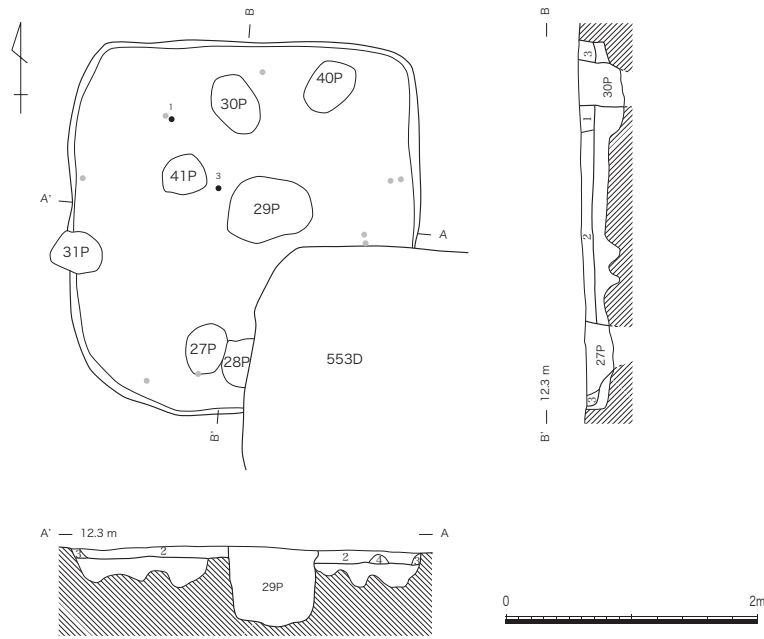
土師器甕(1)、須恵器坏(2)、壺(3)、甕(4)を図示した。

198号住居跡

遺構 (第183～184図)

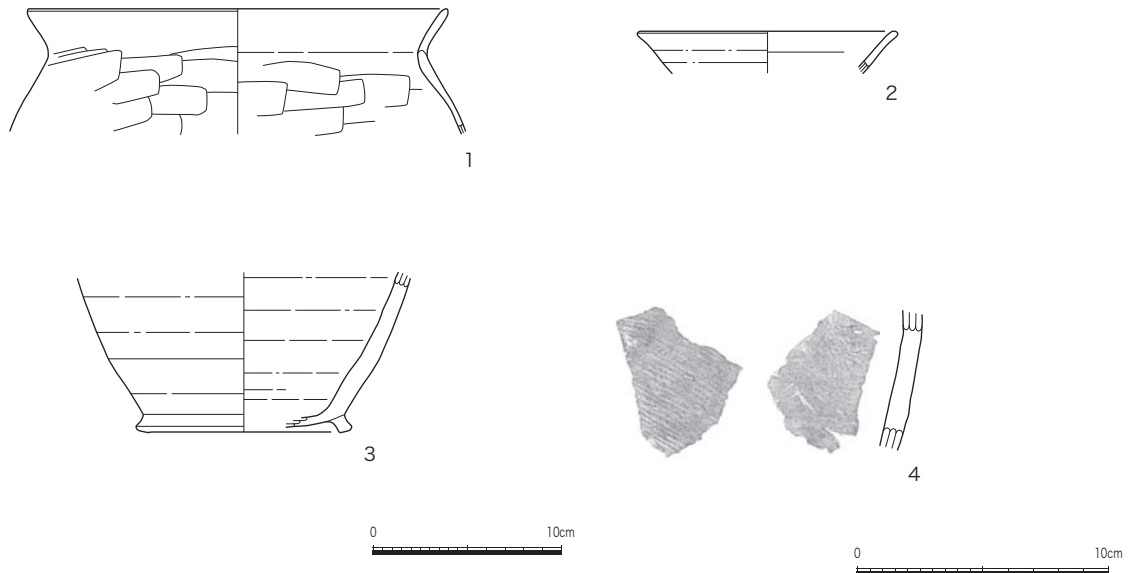
[位置] C・D-1・2グリッド。

[住居構造] 215・228号住居跡を切る。561号土坑による東壁の破壊と、215号住居跡との覆土の近似、蔵の布基礎填圧による覆土の硬化のために東壁の確定には困難を極めた。40号溝跡に床面下まで切られる。(平面形) 不整長方形。(規模) 3.76×5.26m。(主軸方向) N-S。(壁高) 23～29cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 西・南壁に確認された。南壁では一部途切れる。上幅12～33cm・下幅4～11cmを測る。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。壁際を除いて硬化面を確認。(床面レベル) 標高11.71～11.79m。(カマド) 北壁中央やや東寄りに位置する。長さ67cm・幅不明・壁への掘り



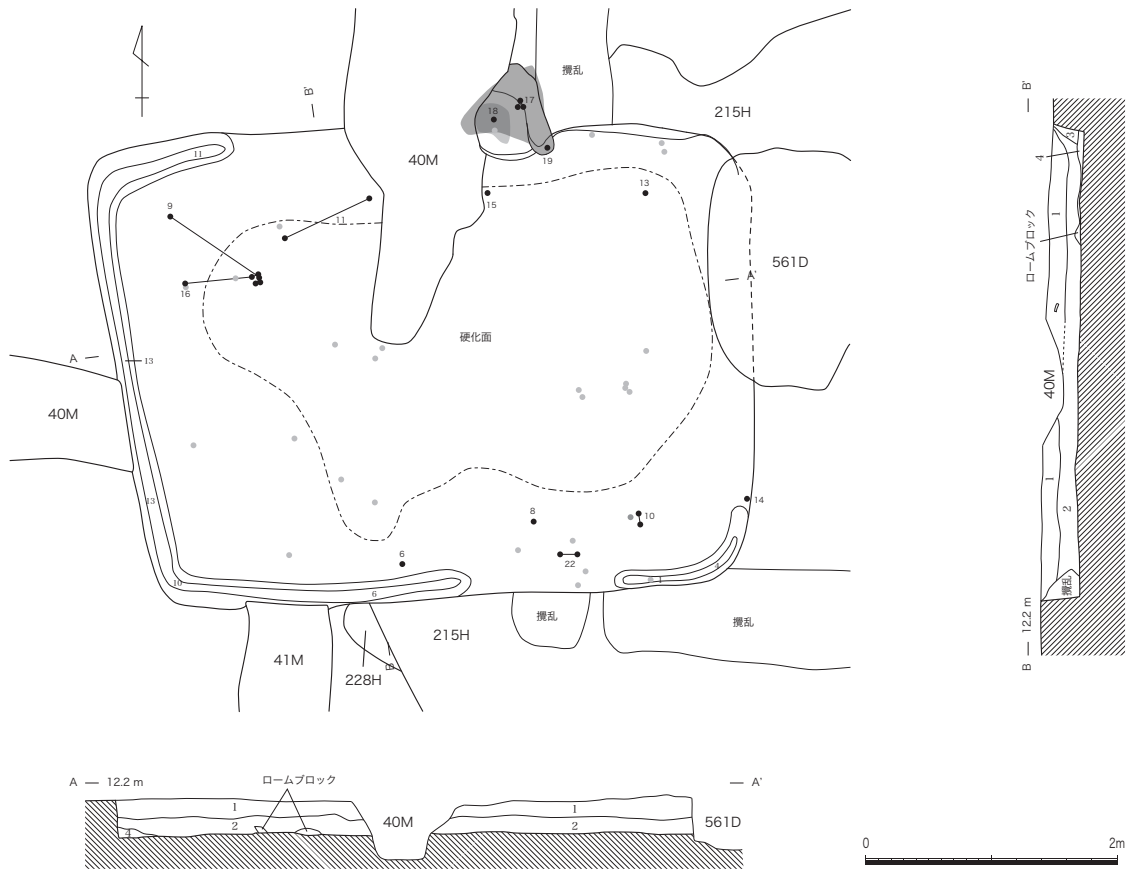
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黄褐色土。

第 181 図 195 号住居跡 (1/60)



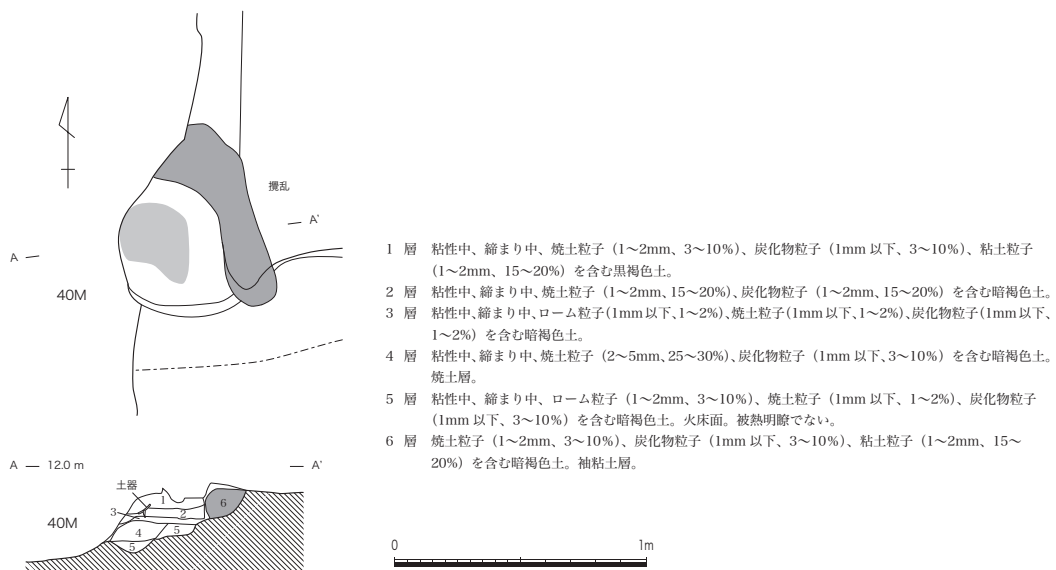
第 182 図 195 号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

第3章 検出された遺構と遺物



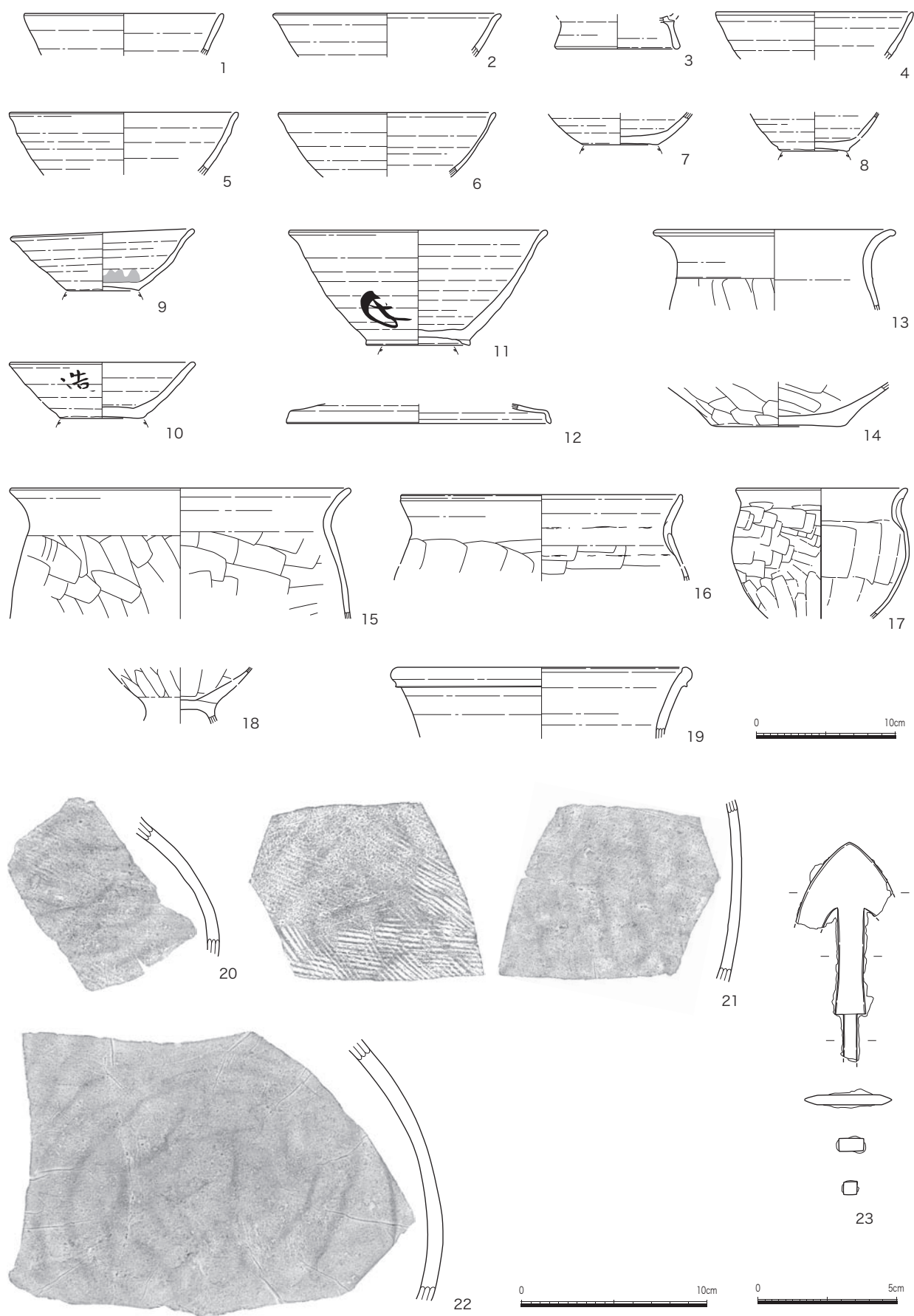
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。

第183図 198号住居跡 (1/60)



- 1層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む暗褐色土。焼土層。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む暗褐色土。火床面。被熱明瞭でない。
- 6層 焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。袖粘土層。

第184図 198号住居跡カマド (1/30)



第185図 198号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

込み51cmを測る。右袖部は40号溝跡に壊されている。壁を掘り込み、袖部は地山の削り残しはなく、粘土のみで構築。燃焼部は壁ライン上に位置する。(柱穴)確認されなかった。(貯蔵穴)確認されなかった。(入口施設)確認されなかった。(覆土)4層、基本は上下2層の水平堆積。自然堆積か。

[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。また、南東側の覆土中から鉄鏝が出土。

[時期] 平安時代(9世紀後半～末葉)。

[所見] 無支柱穴の小型竪穴。

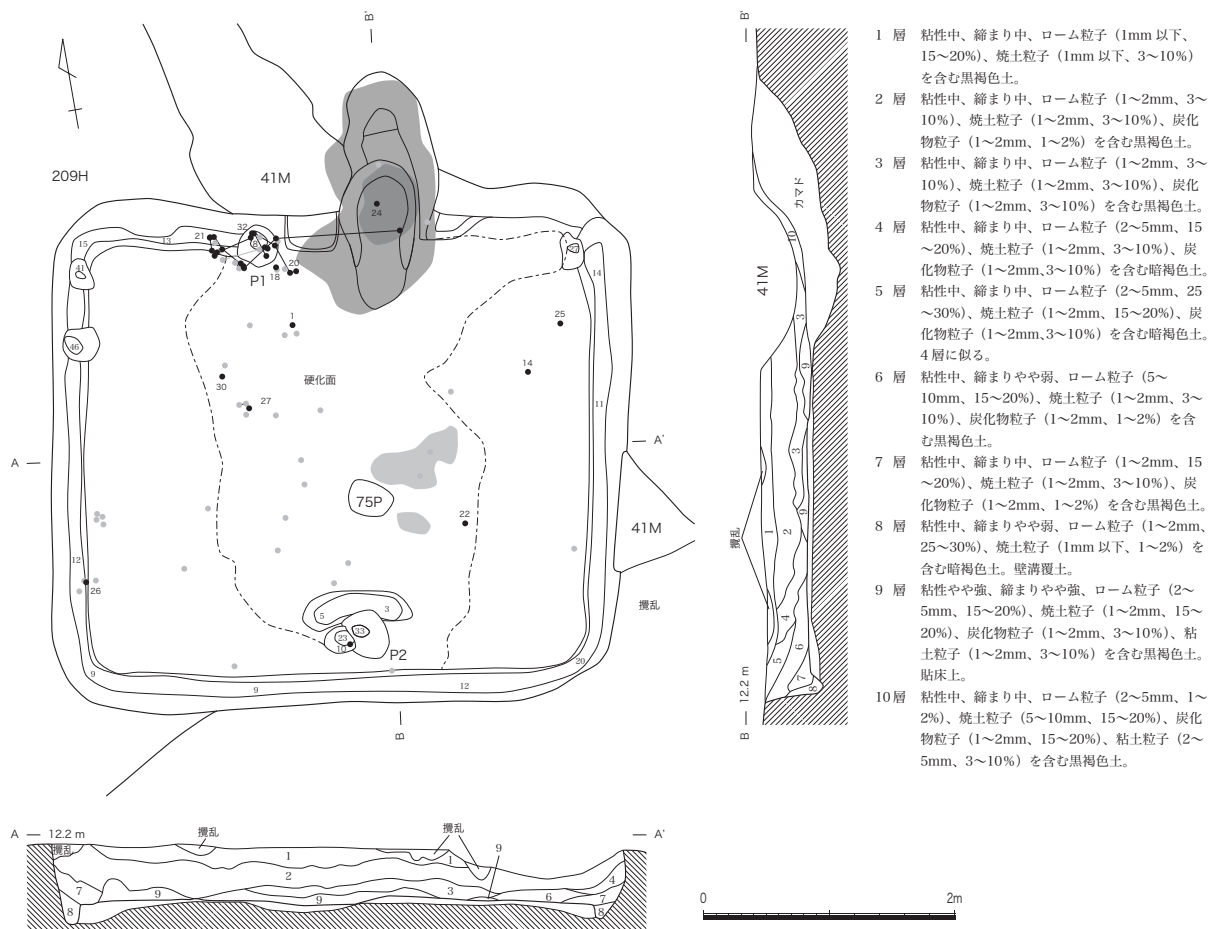
遺物 (第185図、第65・78表)

土師器坏(1・2)、埴(3)、甕(13～18)、須恵器坏(4～10)、埴(11)、蓋(12)、甕(19～22)、鉄鏝(23)を図示した。須恵器は鳩山・広町B窯跡編年のHBⅦ期またはⅧ期に位置づけられる。

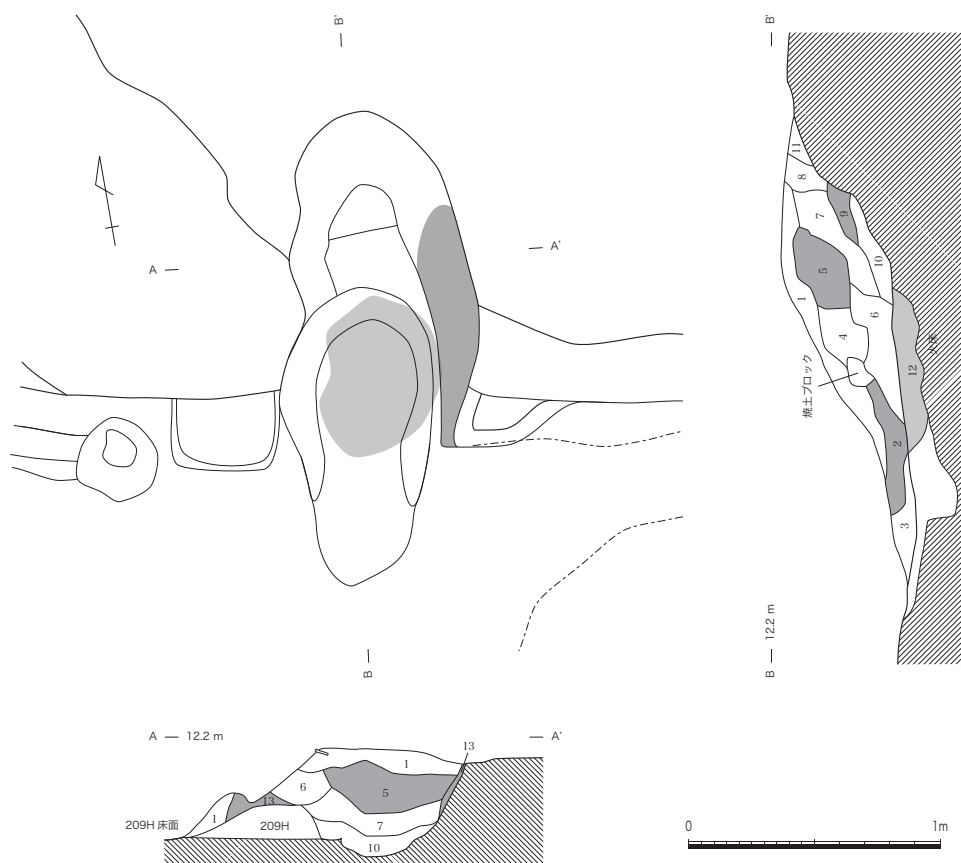
199号住居跡

遺構 (第186～187図)

[位置] C・D-2グリッド。



第186図 199号住居跡(1/60)



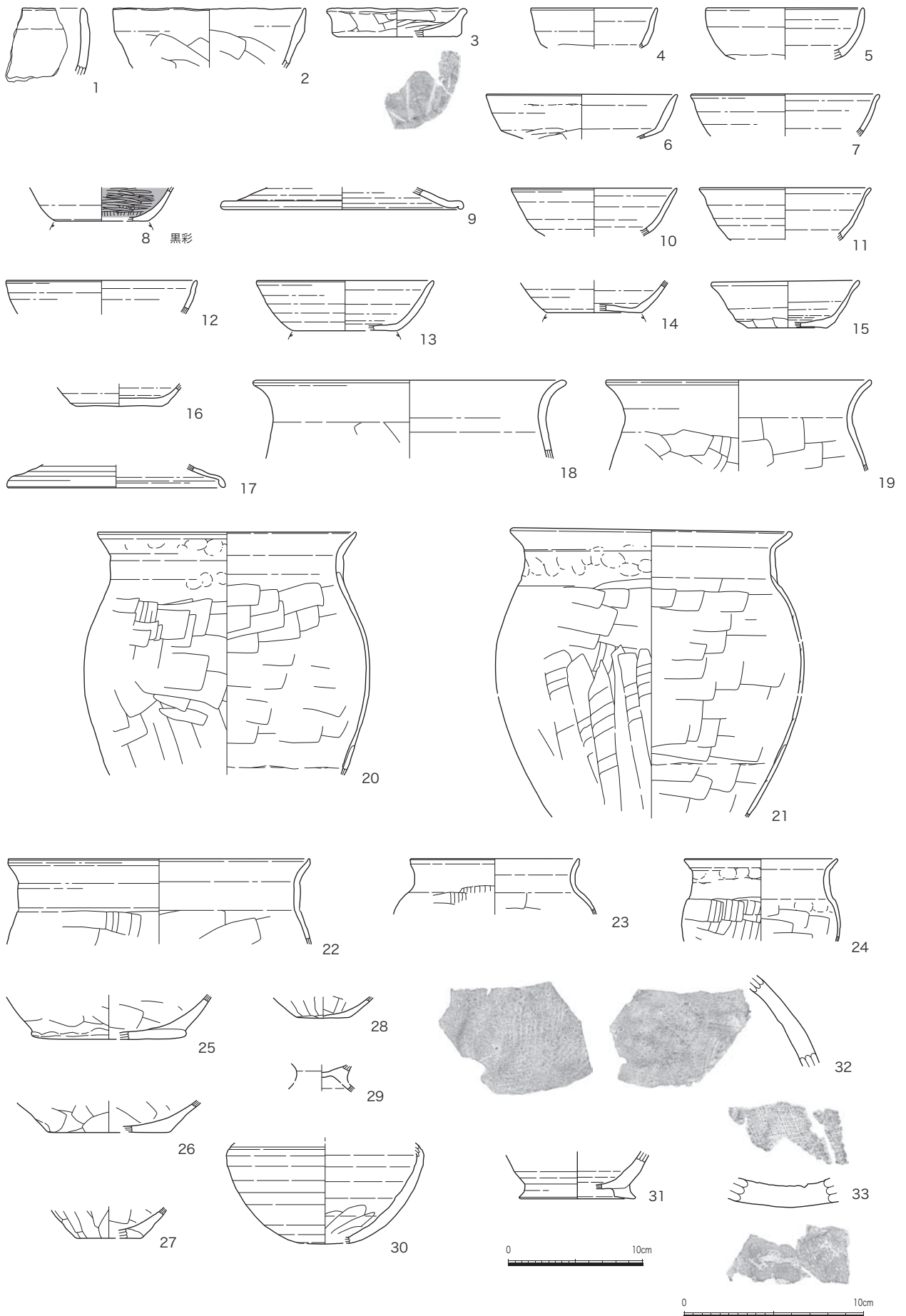
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、40% 以上) を含むオリーブ褐色土。粘土層。
- 3層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗灰黄色土。
- 5層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含むオリーブ褐色土。粘土混合層。
- 6層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含むオリーブ褐色土。
- 7層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む灰黄褐色土。
- 8層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 9層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、25~30%) を含むオリーブ褐色土。粘土層。
- 10層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。灰層。
- 11層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 12層 粘性中、締まり弱、焼土粒子 (1~2mm、40% 以上) を含むにぶい赤褐色土。焼土層。
- 13層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (5~10mm、40% 以上) を含むにぶい赤褐色土。袖粘土。

第 187 図 199 号住居跡カマド (1/30)

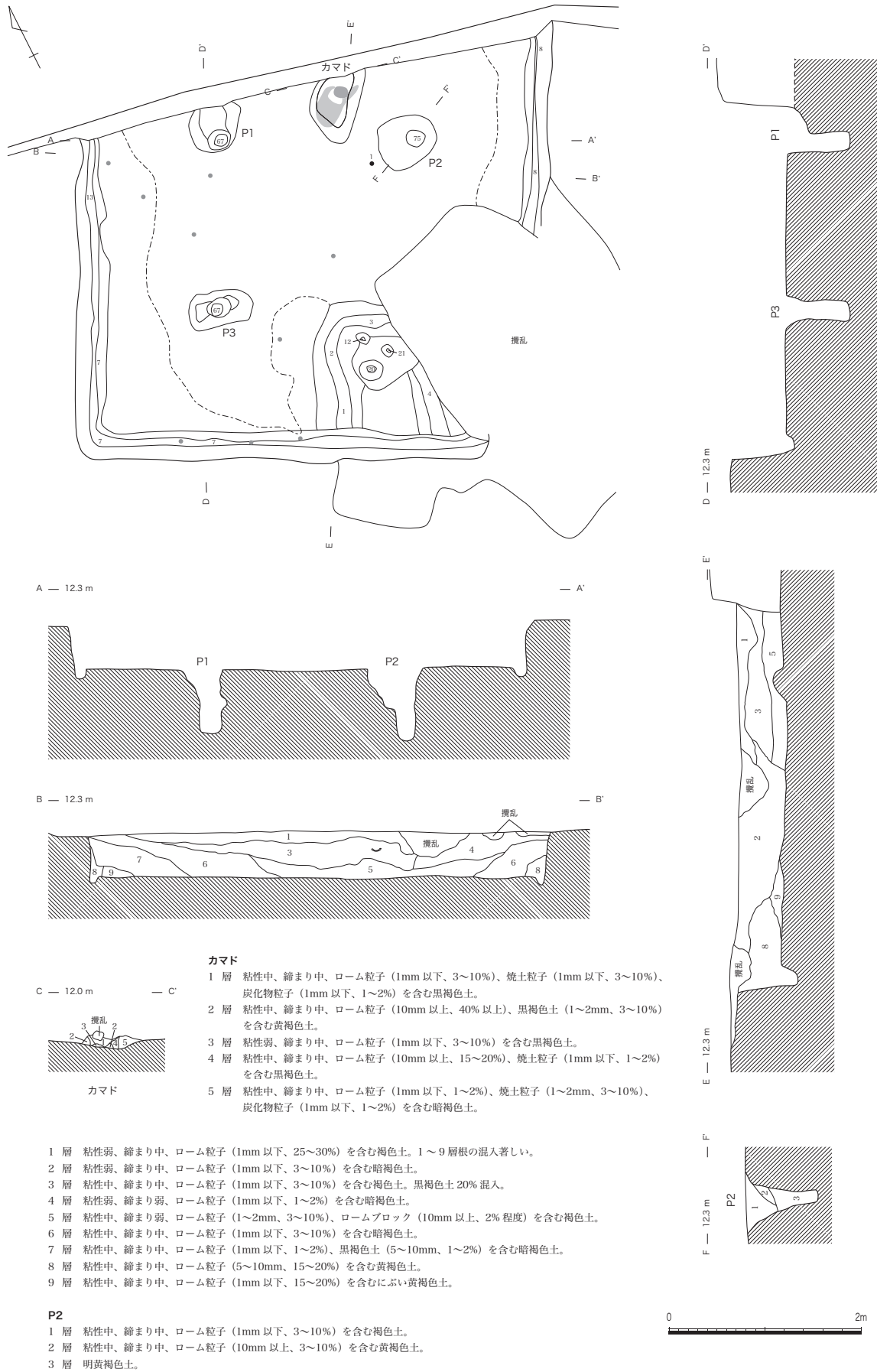
〔住居構造〕 41 号溝跡がカマド側から東壁に向かって床面下まで貫いている。209 号住居跡を切る。(平面形) 隅丸長方形。(規模) 4.28×4.61m。(主軸方向) N-10°-W。(壁高) 35~48cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) カマド部分と北壁東側を除いて確認。上幅 20~41cm・下幅 2~15cm・深さ 8~14cm を測る。(床面) 貼床は 1~15cm の厚さで施されていた。入口からカマド前面にかけて良く硬化していた。(床面レベル) 標高 11.53~11.73m。(カマド) 北壁中央やや東寄りに位置する。長さ不明・幅不明・壁への掘り込み 74cm を測る。41 号溝跡によって大きく壊されており、両袖部などの構造は残っていない。(柱穴) 主柱穴は確認されなかった。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 南壁中央付近に梯子穴 (P2) と凸堤を確認。(覆土) 10 層、自然堆積。中央の床面直上に焼土の堆積がある。

〔遺物〕 覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。平瓦は南東側の覆土から出土。

第3章 検出された遺構と遺物



第188図 199号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)



第 189 図 201 号住居跡 (1/60)

[時期] 平安時代（9世紀中葉）。

[所見] 無支柱穴の小型堅穴。焼土の堆積から焼失住居の可能性はあるが、明瞭な状況は把握されていない。

遺物 (第188図、第66・76表)

土師器鉢（1～3）土師器坏（4～6）、黒色土器坏（8）、土師器蓋（9）、須恵器坏（7・10～16）、蓋（17）、土師器甕（18～29）、須恵器壺（30・31）、甕（32）、平瓦（33）を図示した。

201号住居跡

遺構 (第189図)

[位置] D・E-1グリッド。

[住居構造] 北側は調査区域外。南コーナー付近を攪乱（現代の井戸）により壊されている。（平面形）不明。（規模）不明×4.91m。（主軸方向）N-27°-W。（壁高）42～56cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。（壁溝）上幅15～35cm・下幅1～12cm・深さ7～17cmを測る。調査区域内では全周する。（床面）貼床ではなく、タタキ床。壁際を除いて硬化面を確認。（床面レベル）標高10.08～10.11m。（カマド）北東壁のほぼ中央に位置する。燃焼部を確認したのみ。粘土塊が検出されたが、カマドの構造を示す状態ではない。（柱穴）支柱穴3基を確認。深さ67～75cmを測る。（貯蔵穴）未確認。（入口施設）南西壁の南コーナー寄りに位置する。凸堤を確認、梯子穴は明確な柱穴状にはならない。（覆土）9層、自然堆積。壁寄りから下層にかけてはロームブロック・粒子を多量に含み、上層は褐色土を基調とする。

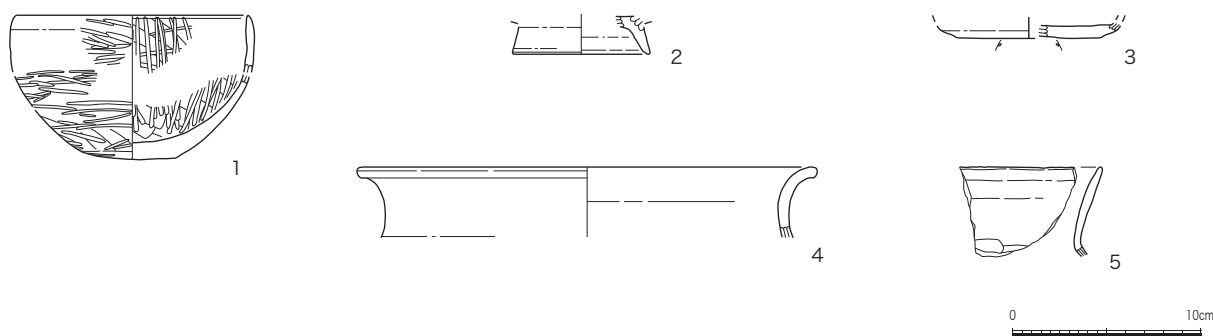
[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。

[時期] 奈良時代（8世紀中葉）。

[所見] 覆土には大型のロームブロックを含み、下層はローム主体土ではあるものの、人為的に埋め戻したのではないと思われる。

遺物 (第190図、第67表)

土師器坏（1）、埴（2）、須恵器坏（3）、土師器甕（4・5）を図示した。須恵器は鳩山HBⅢ期に位置づけられる。



第190図 201号住居跡出土遺物（1/4）

202号住居跡

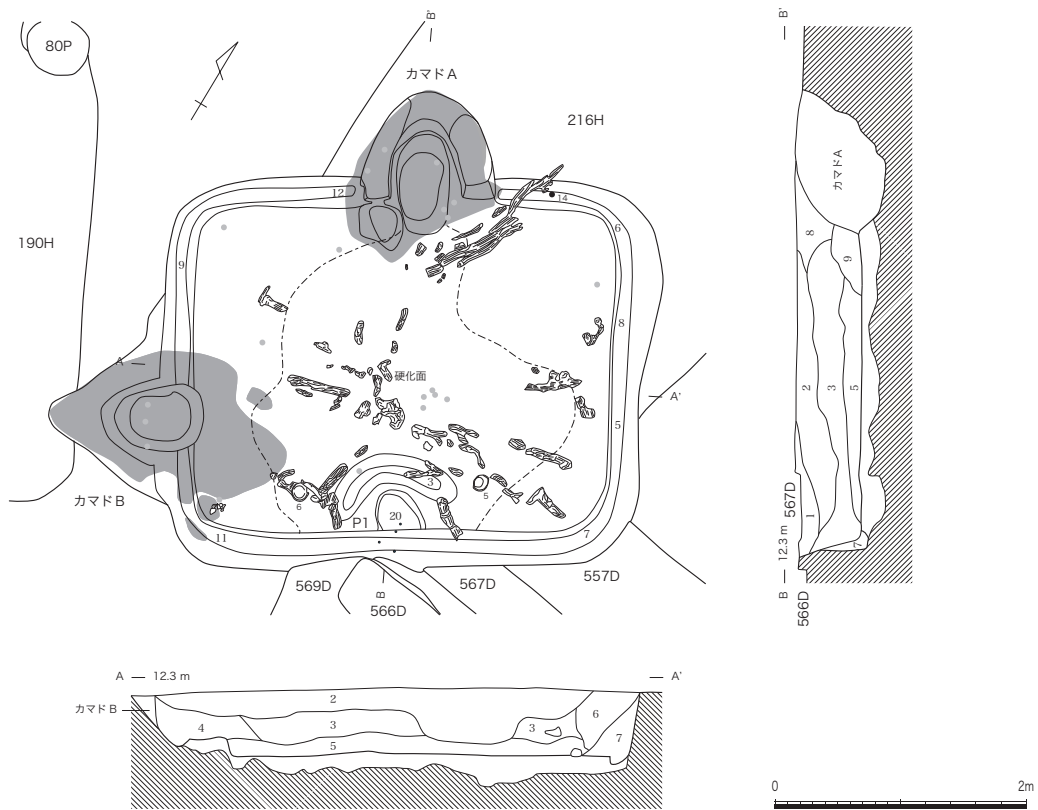
遺構 (第191～193図)

[位置] C-3グリッド。

[住居構造] 190・216号住居跡を切る。(平面形) 隅丸長方形。(規模) 3.12×3.95m。(主軸方向) N-30°-W。(壁高) 47×48cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅18～36cm・下幅5～14cm・を測る。全周する。(床面) 貼床は1～23cmの厚さで施されており、入口からカマドA前面にかけて良く硬化していた。(床面レベル) 標高11.65～11.70m。

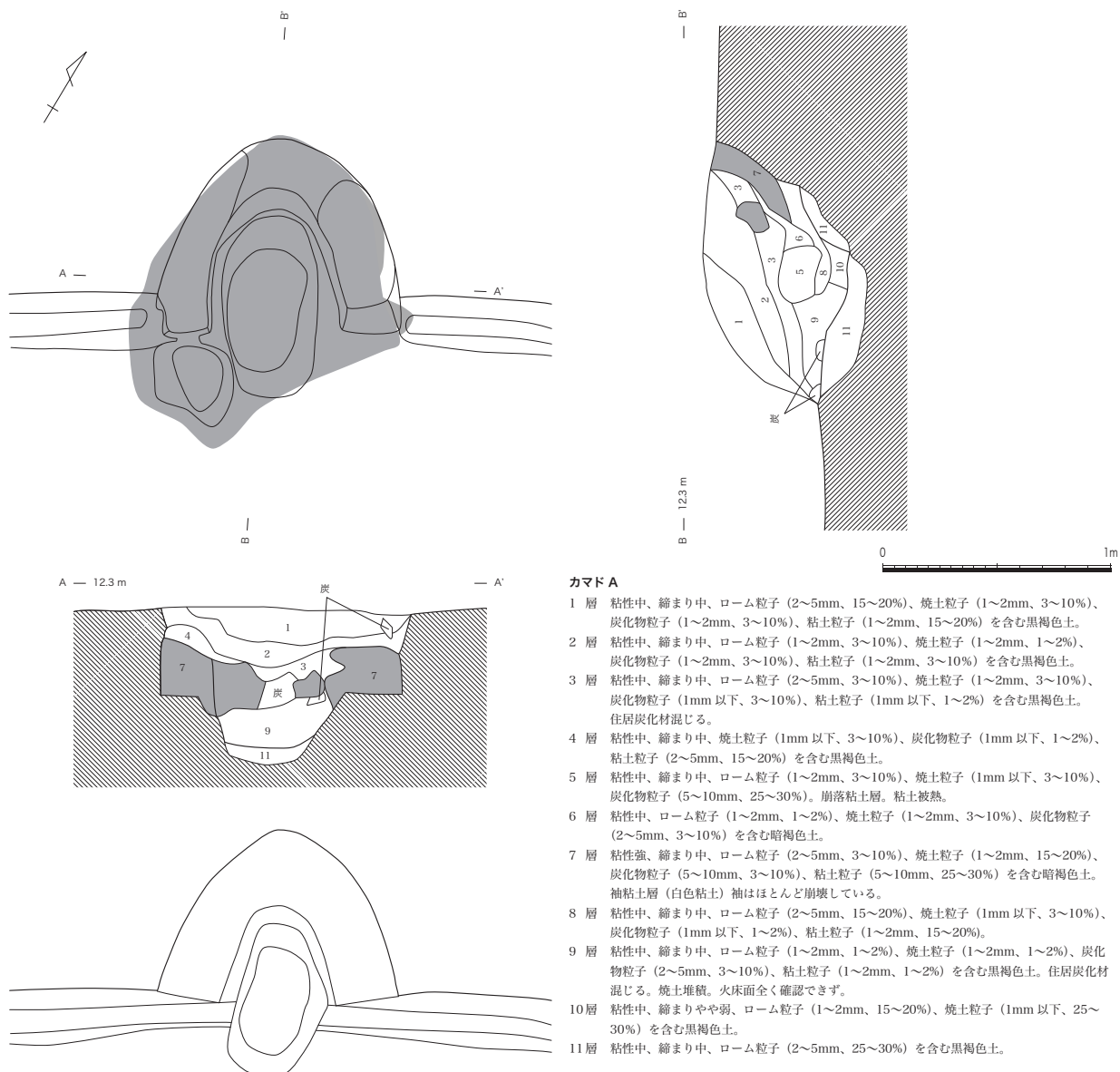
(カマド) 北西壁と南西壁に2基確認。〈カマドA〉北西壁のほぼ中央に位置する。長さ140cm・幅119cm・壁への掘り込み70cmを測る。壁を土坑状に掘り込み燃焼部を形成、灰白色粘土で袖部を構築。しかし、カマド本体はほとんど崩壊していた。〈カマドB〉南西壁南コーナー寄りに位置する。長さ不明・幅不明・壁への掘り込み91cmを測る。構築方法はカマドAと同じ。壁面で切り取られていることから、旧カマドと思われる。燃焼部は壁より外に位置する。

(柱穴) 確認されなかった。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 南東壁中央に位置する。凸堤



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、1～2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、25～30%)、焼土粒子 (1～2mm、3～10%)、炭化物粒子 (2～5mm、15～20%) を含む黒褐色土。ロームブロック多。埋土?
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、焼土粒子 (1～2mm、15～20%)、炭化物粒子 (5～10mm、15～20%) を含む黒褐色土。炭化材混入。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、焼土粒子 (1～2mm、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%)、粘土粒子 (2～5mm、1～2%) を含む黒褐色土。2・3層中間的。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、1～2%)、炭化物粒子 (5～10mm、15～20%) を含む黒褐色土。3 に似る。貼床上。炭化材分布。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15～20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2～5mm、3～10%)、炭化物粒子 (2～5mm、3～10%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まりやや強、ローム粒子 (2～5mm、15～20%)、焼土粒子 (1～2mm、3～10%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。カマド手前。
- 9 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、1～2%)、炭化物粒子 (5～10mm、25～30%)、粘土粒子 (1～2mm、1～2%) を含む黒褐色土。カマド手前。炭化材多。

第191図 202号住居跡 (1/60)



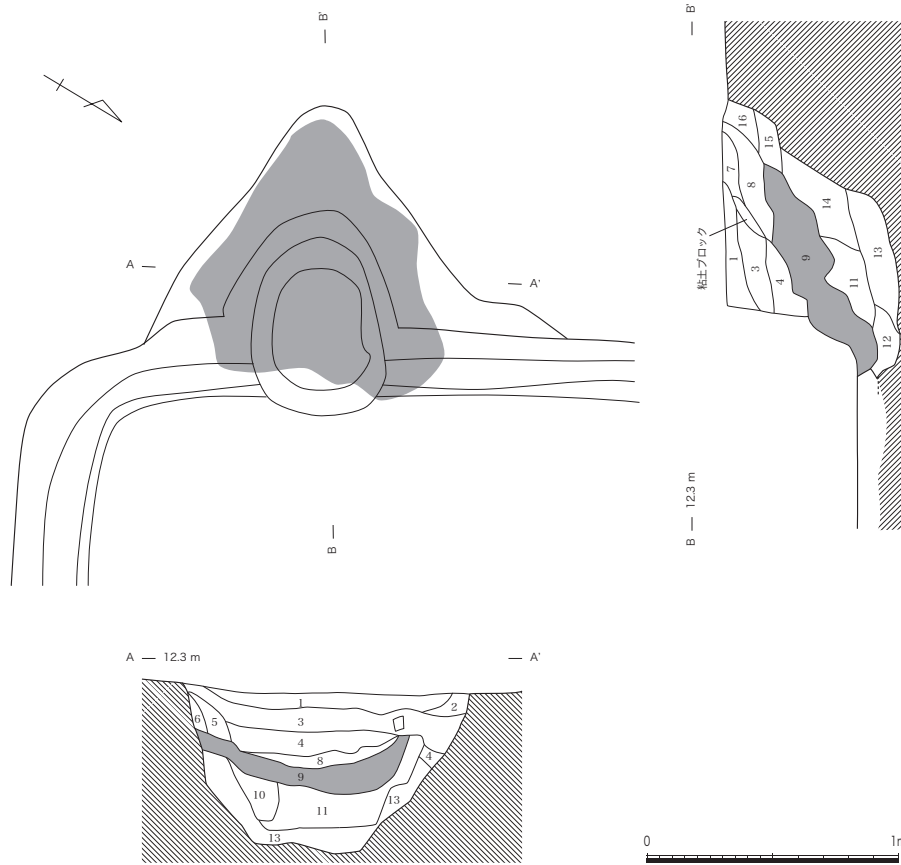
第 192 図 202 号住居跡カマド A (1/30)

の内側には明確な柱穴は確認されなかった。(覆土) 9 層。床面直上、及び覆土下層 (第 3・5 層) には炭化材を多く含む。特に床面直上及び第 5 層中には炭化材 (直径 60~70cm 程) が放射状に広がり、垂木材と思われる。上層の第 2 層にはロームブロック・粒を多く含む。

[遺物] 炭化材と同じレベルで、完形の須恵器坏 (4・5) が入口施設の両脇で出土し、覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。土製支脚は北側覆土中、鉄鏝は北西壁北コーナー付近の覆土中 (第 5 層上面付近) から鏝身先端が住居内側に向いた状態で、茅様の炭化物とともに出土。

[時期] 奈良時代 (8 世紀中葉)。

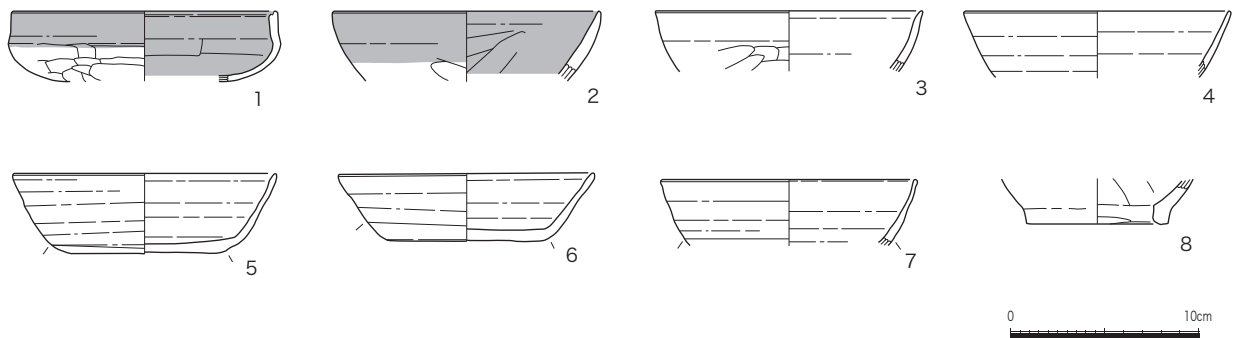
[所見] 多量の炭化材の存在から、焼失住居と判断できる。カマド A は原形を留めない状態で、入口両脇の須恵器坏、覆土上半の埋め戻し土の可能性、などから、人為的な住居の廃棄を想定する余地がある。



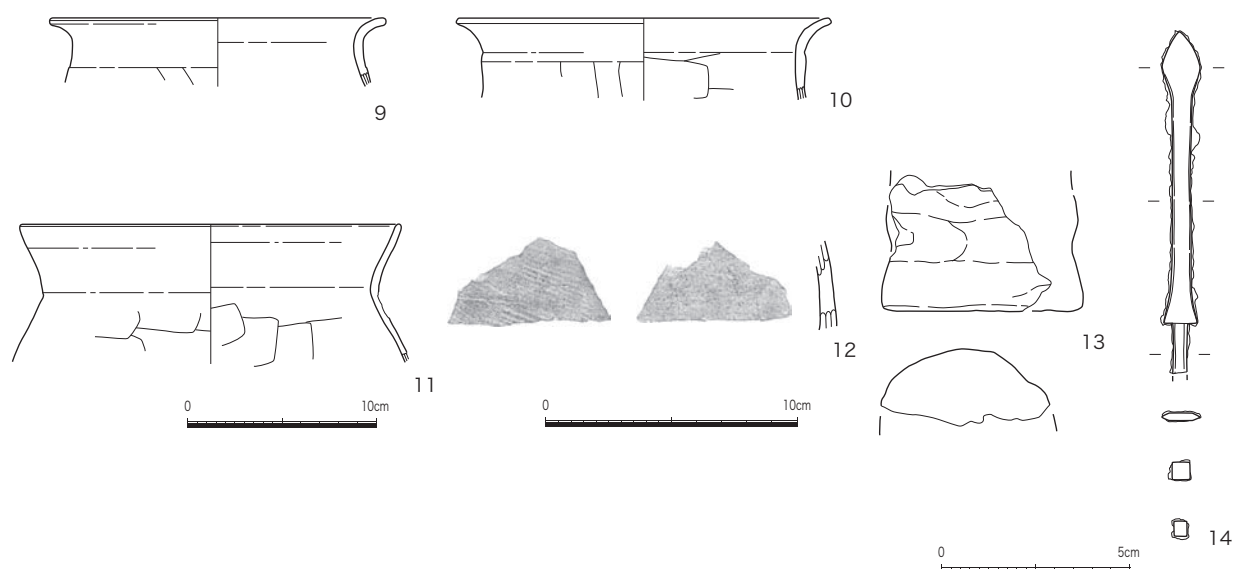
カマド B

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、粘土粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、砂礫 (2~5mm, 1~2%)、粘土粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、粘土粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む灰黄褐色土。粘土混土。
- 9 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、粘土粒子 (5~10mm, 25~30%) を含む灰黄褐色土。白色粘土主体層。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%)、焼土粒子 (5~10mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む褐色土。ローム崩れ。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (2~5mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、砂礫 (1~2mm, 1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む黒褐色土。灰層か。
- 12 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 13 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 25~30%)、焼土粒子 (2~5mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 14 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%)、粘土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む黒褐色土。火床面。カリカリ。
- 15 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%)、粘土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む黒褐色土。
- 16 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。

第 193 図 202 号住居跡カマド B (1/30)



第 194 図 202 号住居跡出土遺物 1 (1/4)



第195図 202号住居跡出土遺物2 (1/2・1/3・1/4)

遺物 (第194～195図、第68・76・78表)

土師器坏 (1～3)、須恵器坏 (4～7)、土師器甕 (8)、甕 (9～11)、須恵器甕 (12)、土製支脚 (13)、鉄鏃 (14) を図示した。須恵器は鳩山HB III期に位置づけられる。

205号住居跡

遺構 (第196～197図)

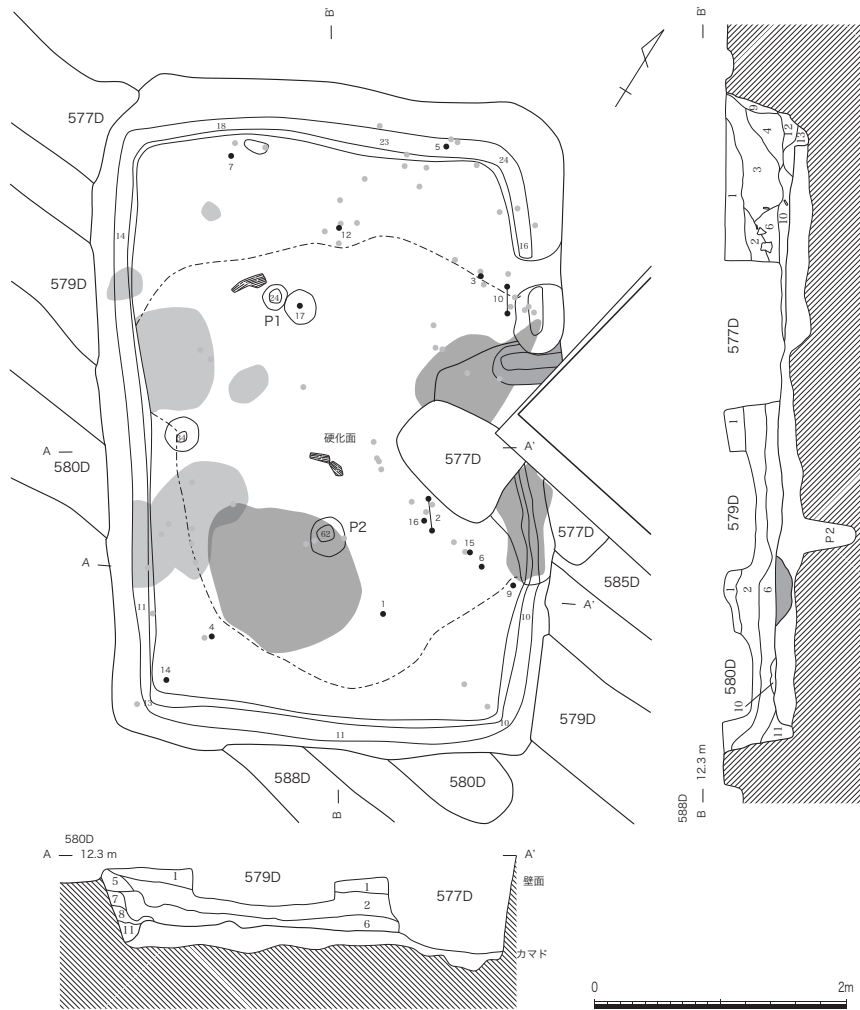
[位置] E-3グリッド。

[住居構造] 覆土を近世の土坑に大きく切り込まれるものの、全形を良く残している。カマドの大半は調査区域外。(平面形) 長方形。(規模) 5.44×3.76m。(主軸方向) N-30°-W。(壁高) 35～54cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅22～53cm・下幅7～15cm・深さ10～15cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床は7～20cmの厚さで施されている。中央部は良く硬化している。(床面レベル) 標高11.58～11.69m。(カマド) 左袖部を確認したのみ。袖部は地山ロームの削り残しはなく、灰白色粘土で構築。(柱穴) 中央、長軸方向に主柱穴2基確認(掘方掘削時に認識)。北西の柱穴脇に大型扁平円礫を床面直上で検出、おそらく添え柱の基礎に据え置かれたものと考えられる。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 南西壁中央付近に柱穴を1基確認。梯子穴になるか。(覆土) 13層、自然堆積。南西側を中心に焼土・炭化材の堆積が認められる。覆土中にも一定量の焼土・炭化物粒子を含む。カマド右側と南西壁中央の壁溝を覆うように灰白色粘土の堆積あり。また、南東側床面上に若干の窪みを伴う粘土が広く分布。

[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が散在。14の鉄鏃は南コーナーの床面直上付近、15の鉄鏃と16の鉄製品(鋏?)は覆土中位から出土。

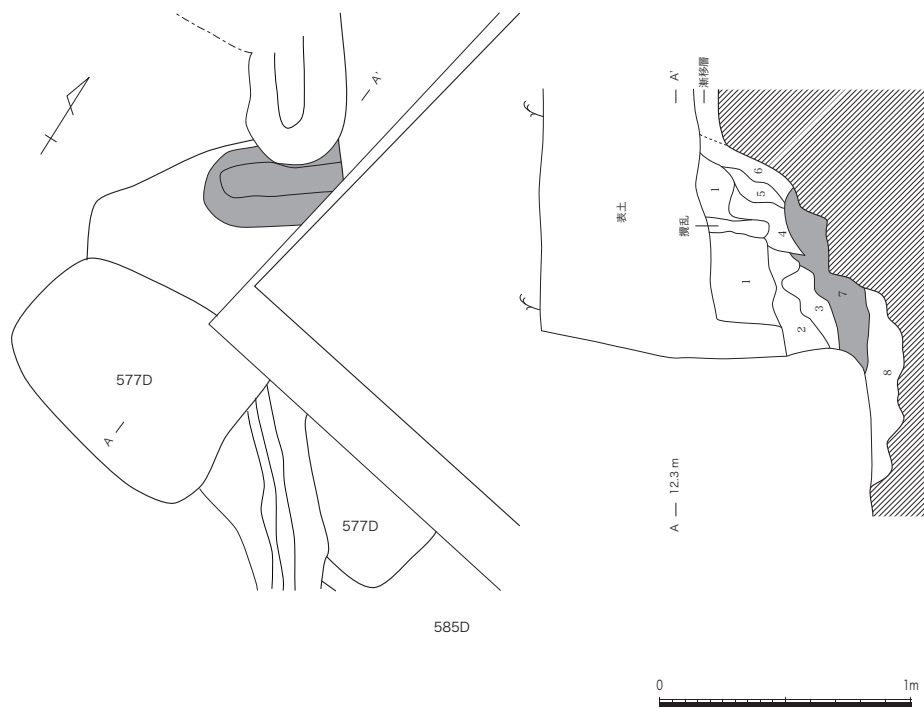
[時期] 奈良時代(8世紀後半)。

[所見] 2本主柱の横長縦穴。焼土・炭化材の堆積と、覆土の特徴から、焼失住居と考えられる。



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。粘床。
- 7層 粘性中、締まり中、ロームブロック (2~5mm、25~30%) を含む褐色土。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む灰黄褐色土。粘土混合層。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 11層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。壁溝覆土。
- 12層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。大粒ロームブロック混じる。
- 13層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。

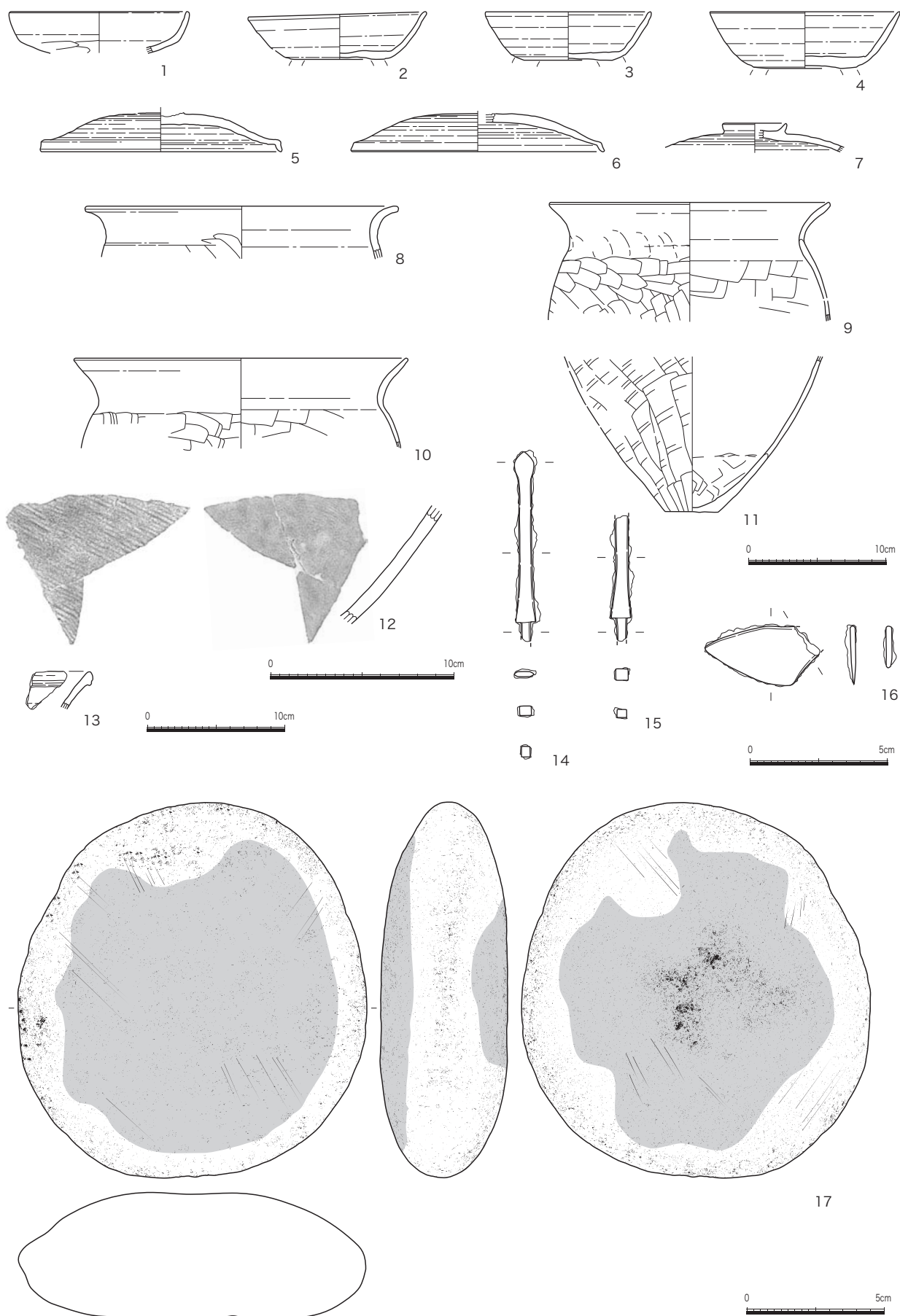
第196図 205号住居跡 (1/60)



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1mm以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3層 焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。壁面漸移。
- 6層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。壁面漸移。
- 7層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。黄灰色粘土層。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。

第197図 205号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第198図 205号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

遺物 (第198図、第61・69・77～78表)

土師器坏(1)、須恵器坏(2～4)、蓋(5～7)、土師器甕(8～11)、須恵器甕(12)、壺(13)、鉄鏃(14・15)、鉄製品(16)、台石(17)を図示した。16はいわゆる和鋏の刃部の可能性がある。須恵器は鳩山HB IV期に位置づけられる。

206号住居跡

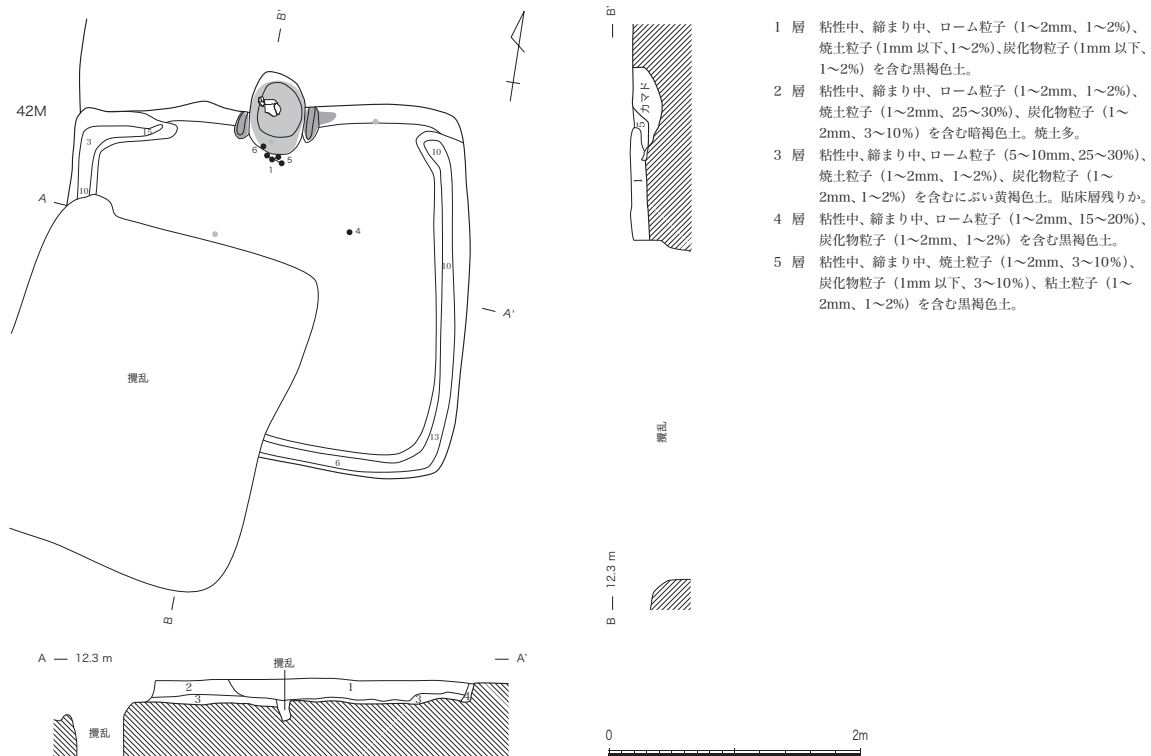
遺構 (第199～200図)

[位置] D・E-4・5グリッド。

[住居構造] 南西部を攪乱で壊され、残った西壁も42号溝跡に大きく切られている。(平面形) 不整形。 (規模) 2.96×3.24m。(主軸方向) N-10°-W。(壁高) 残りの良いところで15cmを測り、壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 上幅16～28cm・下幅7～11cmを測る。カマド周辺を除き全周する。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。硬化面は確認できなかった。(床面レベル) 標高11.96～12.02m。(カマド) 北壁中央に位置する。長さ62cm・幅80cm・壁への掘り込み43cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しは小さく、灰白色粘土を用いて構築。燃烧部は壁ライン上に位置する。(柱穴) 未確認。(貯蔵穴) 未確認。(入口施設) 未確認。(覆土) 5層、自然堆積か。西側には多量の焼土粒子を含む。

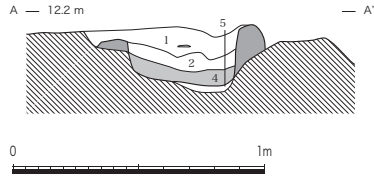
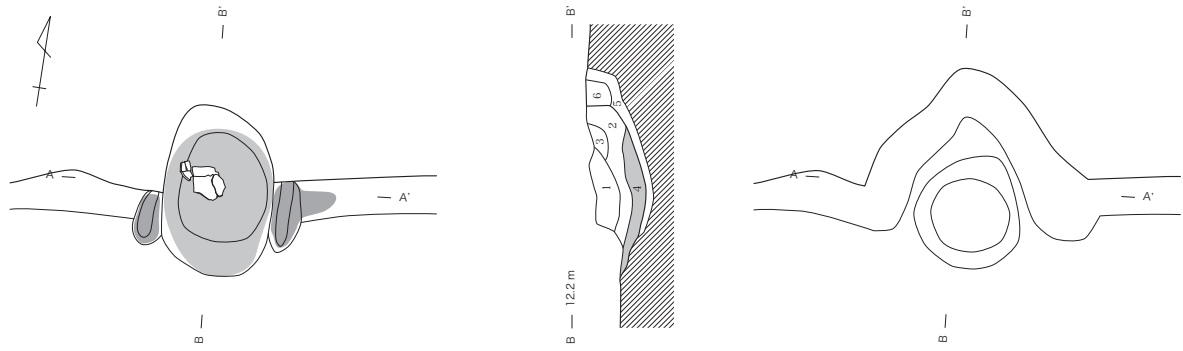
[遺物] カマド前方の床面直上付近で土師器甕の大破片が出土した以外は、土師器・須恵器破片が覆土中に点在するのみ。

[時期] 平安時代(9世紀後半)。



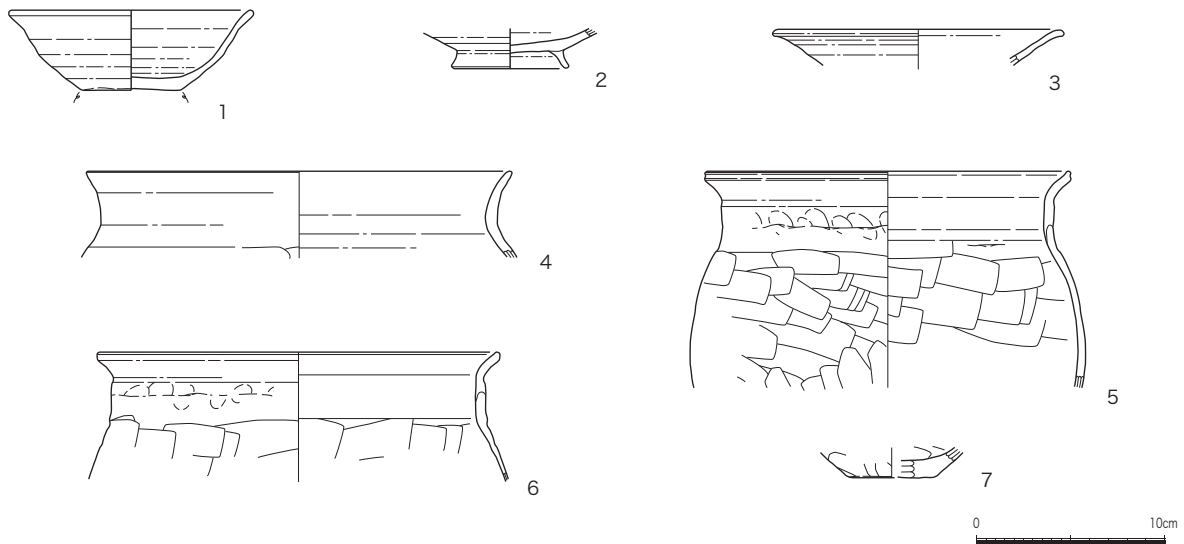
第199図 206号住居跡 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、砂礫 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。焼土層。
- 5 層 火床面。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (5~10mm、25~30%) を含むぶい黄褐色土。

第 200 図 206 号住居跡カマド (1/30)



第 201 図 206 号住居跡出土遺物 (1/4)

[所見] 無支柱穴の小型竪穴の可能性はある。西側覆土に焼土粒子の含有は認められたものの、他に火災の痕跡は積極的に指摘できない。

遺物 (第 201 図、第 70 表)

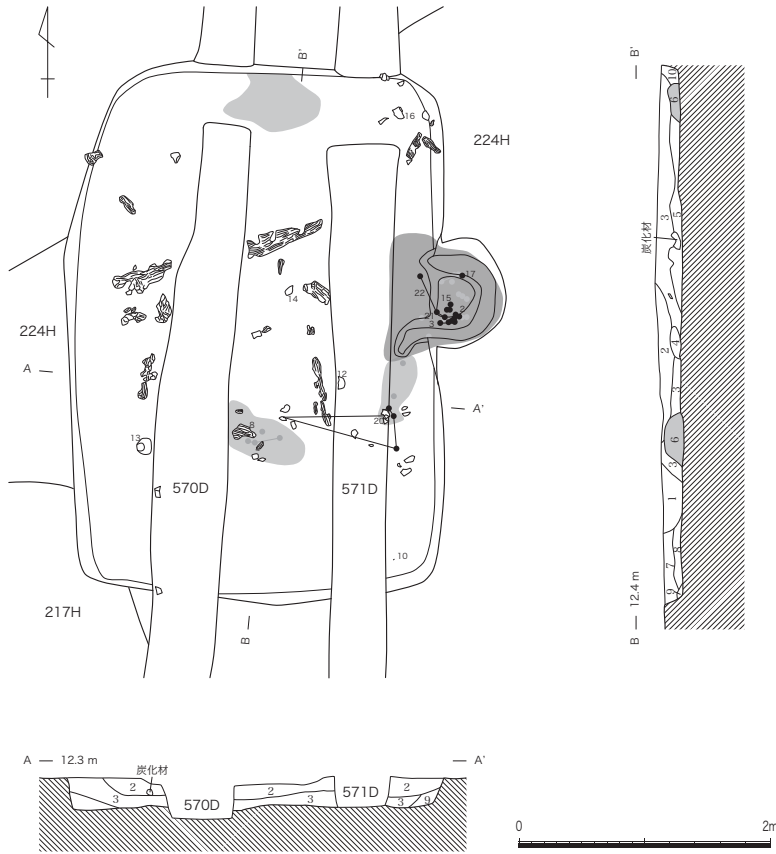
須恵器坏 (1)、皿 (2・3)、土師器甕 (4~7) を図示した。

208 号住居跡

遺構 (第 202 ~ 203 図)

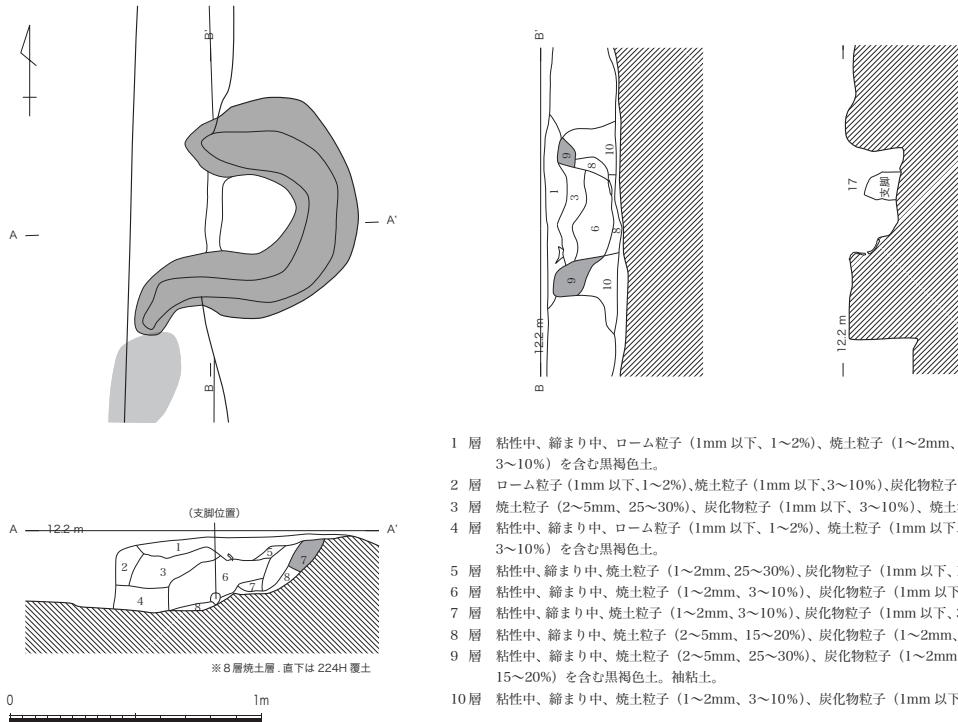
[位置] C・D-3 グリッド。

[住居構造] 近世の土坑、570・571 D が床面下まで南北に貫く。217・224 号住居跡を切る。(平面形)



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、粘土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。炭化材、焼土混じる。
- 6層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (5~10mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。焼土層。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 8層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 9層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 10層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。9と同質だが、焼土混じる。

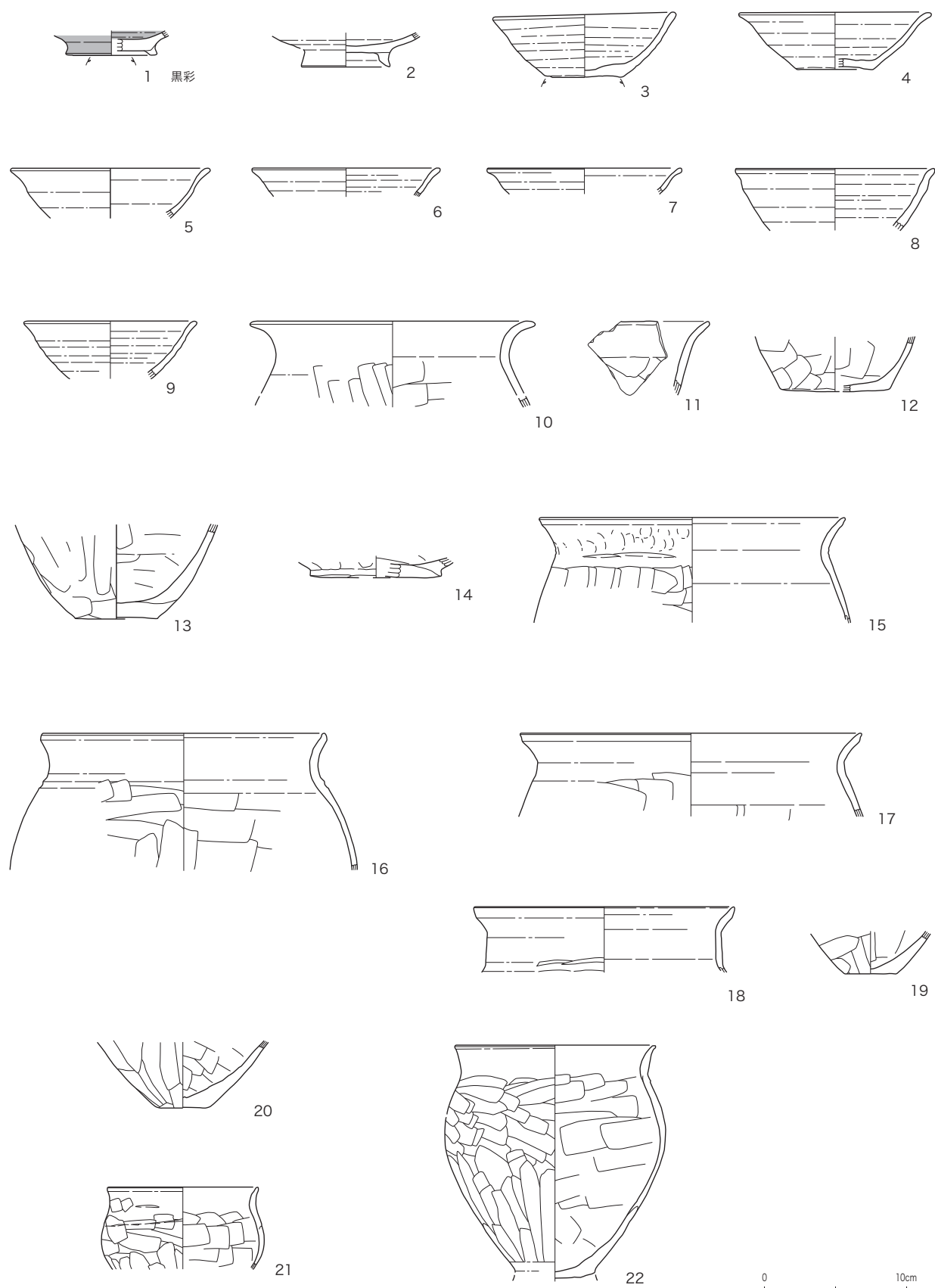
第202図 208号住居跡 (1/60)



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2層 ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3層 焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土混土層を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。3層に似る。
- 6層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。灰層。
- 7層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。被熱粘土。
- 8層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%) を含む暗褐色土。焼土層。
- 9層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。袖粘土。
- 10層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。灰層。

第203図 208号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



第204図 208号住居跡出土遺物(1/4)

隅丸長方形。(規模) 4.30×3.02m。(主軸方向) N-S。(壁高) 壁は急斜に立ち上がる。(壁溝) 確認されなかった。(床面) 貼床ではなく、タタキ床。硬化面は確認されなかった。(床面レベル) 標高 11.65～11.97m。(カマド) 東壁ほぼ中央に位置する。長さ 100cm・幅 87cm・壁への掘り込み 51cm を測る。両袖部の基礎は 224 号住居跡の覆土の削り残しで、その上に粘土を用いて構築。燃焼部は壁より外に位置する。(柱穴) 確認されなかった。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 確認されなかった。(覆土) 10 層、自然堆積。床面直上あるいは覆土中に焼土と炭化材が分布。中央北側に南西から北東方向に横たわる炭化材(中央を 571 号土坑に切られる)は、幅 17cm 程(丸材?)で、柱材(あるいは梁材?)と思われる。

[遺物] カマド覆土に完形の須恵器坏(3)とほぼ完形の土師器甕(22)や、土師器・須恵器破片がややまとまるほかは、住居覆土中に破片が散在する状況。

[時期] 平安時代(9世紀後半)。

[所見] 無支柱穴の横長堅穴。近世土坑は掘方の深い遺構ではないので、支柱穴及び貯蔵穴は存在しなかったものと考えられる。

遺物 (第 204 図、第 71 表)

土師器碗(1・2)、須恵器坏(3～9)、土師器鉢(11)、甕(10・12～22)を図示した。

210 号住居跡

遺構 (第 205～206 図)

[位置] D-4、E-3・4 グリッド

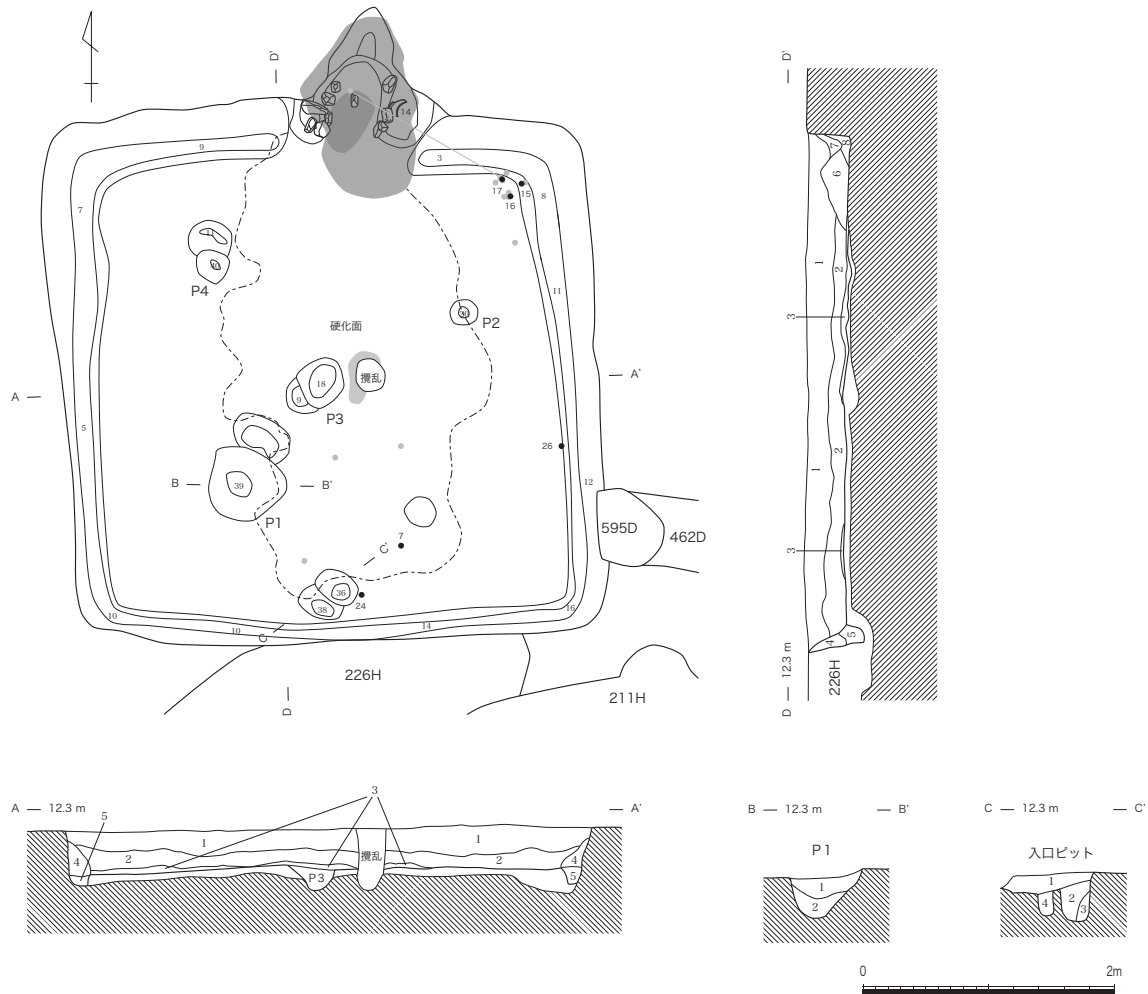
[住居構造] 226 号住居跡を切る。(平面形) 正方形。(規模) 4.28×4.51m。(主軸方向) N-S。(壁高) 30～33cm を測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝) 上幅 18～51cm・下幅 4～19cm・深さ 7～13cm を測る。カマド部分を除いて全周する。(床面) 貼床は 2～7cm の厚さで施されていた。入口からカマド前面にかけて硬化面を確認。中央に被熱痕跡あり。炉か。(床面レベル) 標高 11.73～11.85m。(カマド) 北壁中央やや東寄りに位置する。長さ 112cm・幅 116cm・壁への掘り込み 76cm を測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎とし、周辺に円礫と切り石、灰白色粘土塊を配して構築。切り石は煉瓦形のを門柱のように左右に逆 L 字形に配置する。また、北東コーナーと入口付近の床面からやや浮いたレベルには構築材と見られる、被熱円礫を検出。燃焼部は壁ライン上に位置し、中央には棒状円礫を支脚として立てていた。(柱穴) ピットをいくつか確認したが、支柱穴と思われるものはない。(貯蔵穴) 確認されなかった。(入口施設) 南壁中央に梯子穴を確認。深さ 38cm を測る。(覆土) 8 層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土中に土師器・須恵器の破片が少量散在。

[時期] 平安時代(9世紀後半)。

[所見] 本地点で唯一確認された、切り石を構築材に用いたカマドを特徴の第一とする。カマド構築材とも受け取れる被熱礫の出土はあるが、カマド構築粘土塊の散乱は確認されていない。住居の構造としては、無支柱穴の小型堅穴と判断される。

第3章 検出された遺構と遺物



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。壁溝覆土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。

P1

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。

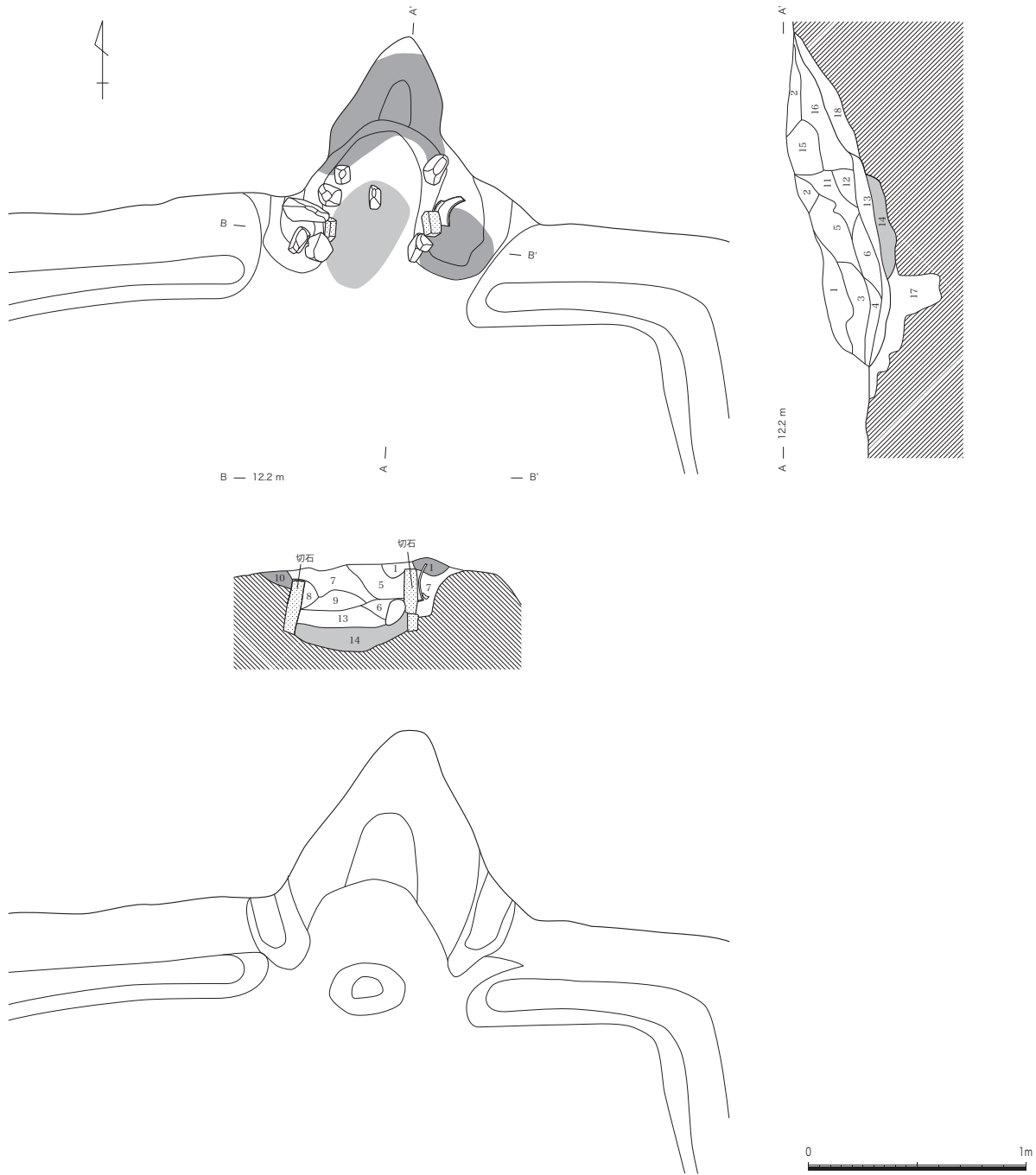
入口ピット

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 4 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。

第 205 図 210 号住居跡 (1/60)

遺物 (第 207 図、第 61・72・76~77 表)

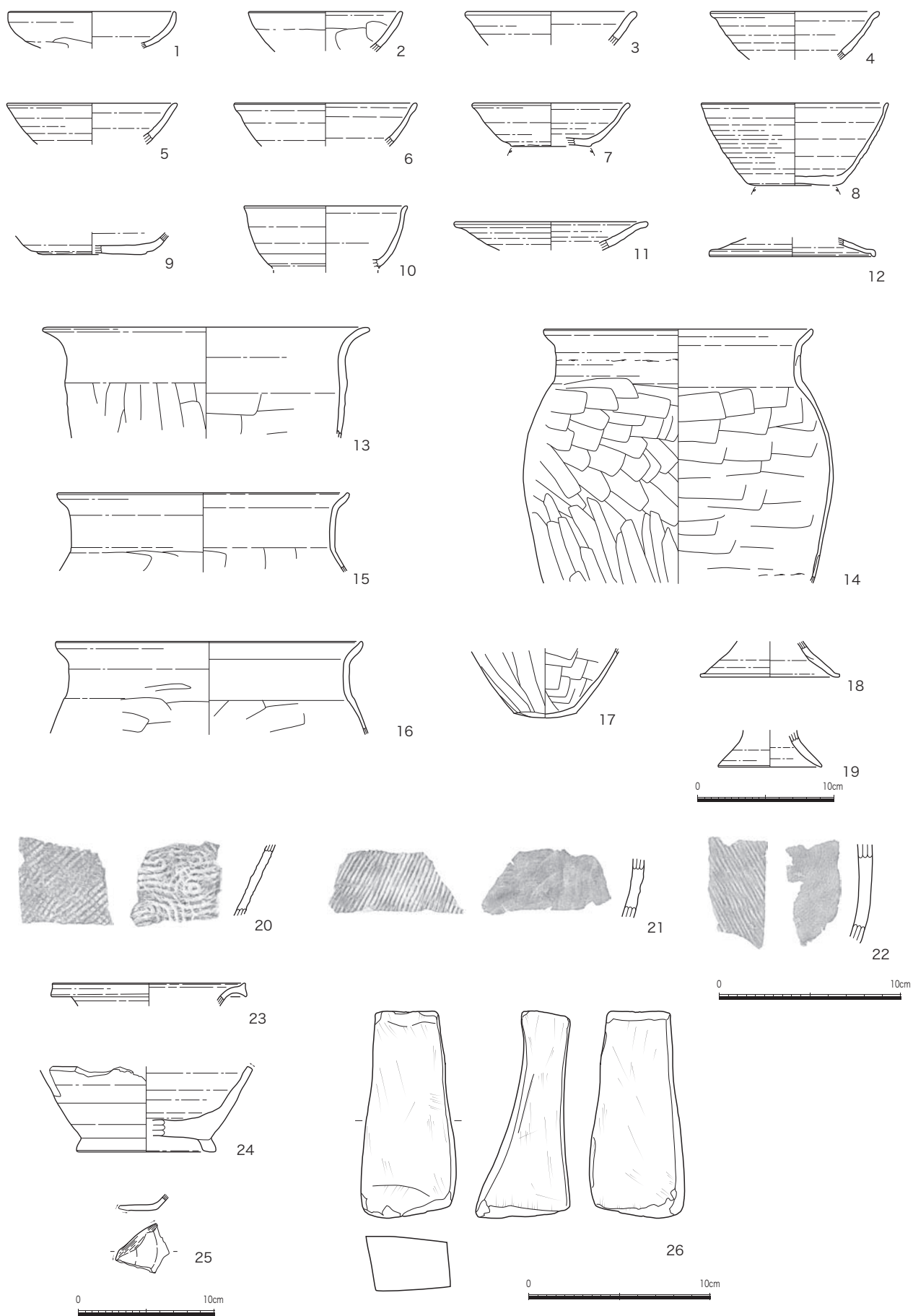
土師器坏 (1・2)、須恵器坏 (3~9)、碗 (10)、皿 (11)、蓋 (12)、土師器甕 (13~19)、須恵器甕 (20~22)、壺 (23・24)、須恵器片転用品 (25)、砥石 (26) を図示した。25 は坏底部破片の破断面を磨面に使用したものである。須恵器は鳩山 HB VIII 期に位置づけられる。



- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含むふい黄褐色土。粘土主体層 天井崩れ？
- 2 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。被熱粘土ブロック主体層。
- 3 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1~2mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、15~20%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、15~20%)、粘土粒子 (1mm 以下、15~20%) を含む暗褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 12 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、粘土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 13 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。赤化粘土含。
- 14 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。焼土層。
- 15 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む暗褐色土。粘土混土。ブロック状。
- 16 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 17 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。築口前方ビット状になる。
- 18 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%)、粘土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。

第206図 210号住居跡カマド (1/30)

第3章 検出された遺構と遺物



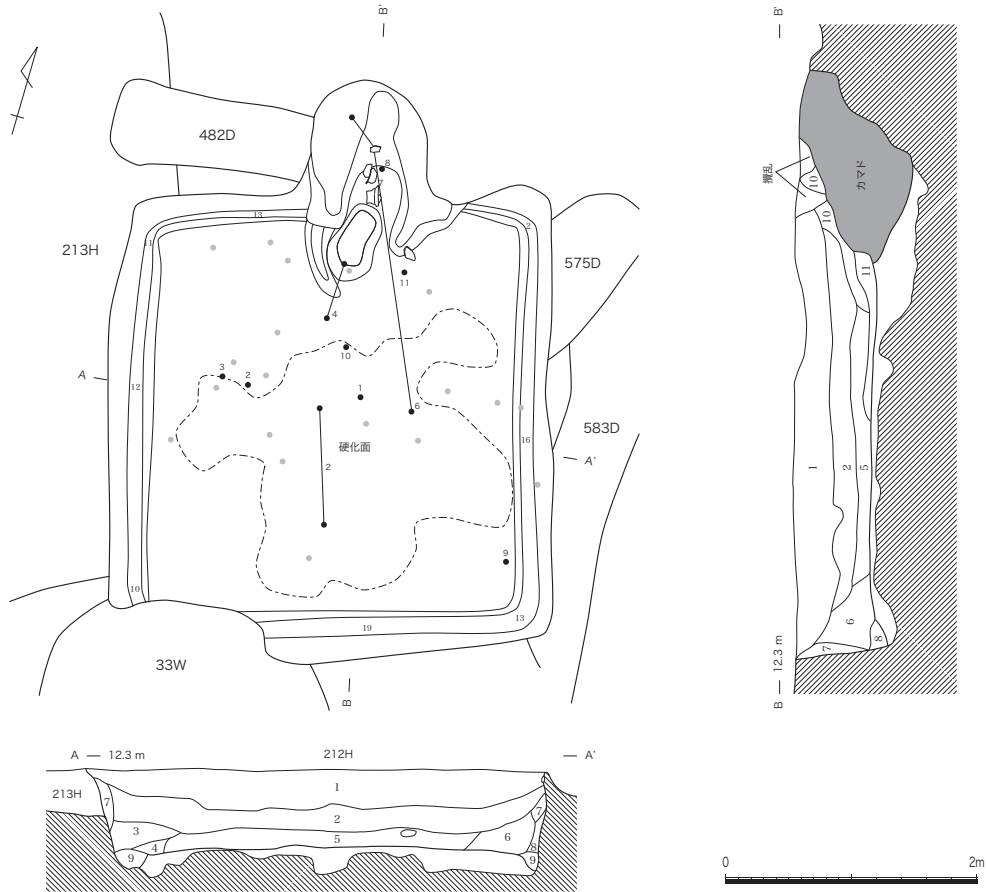
第207図 210号住居跡出土遺物 (1/3・1/4)

212号住居跡

遺構 (第208～209図)

[位置] D-4・5グリッド。

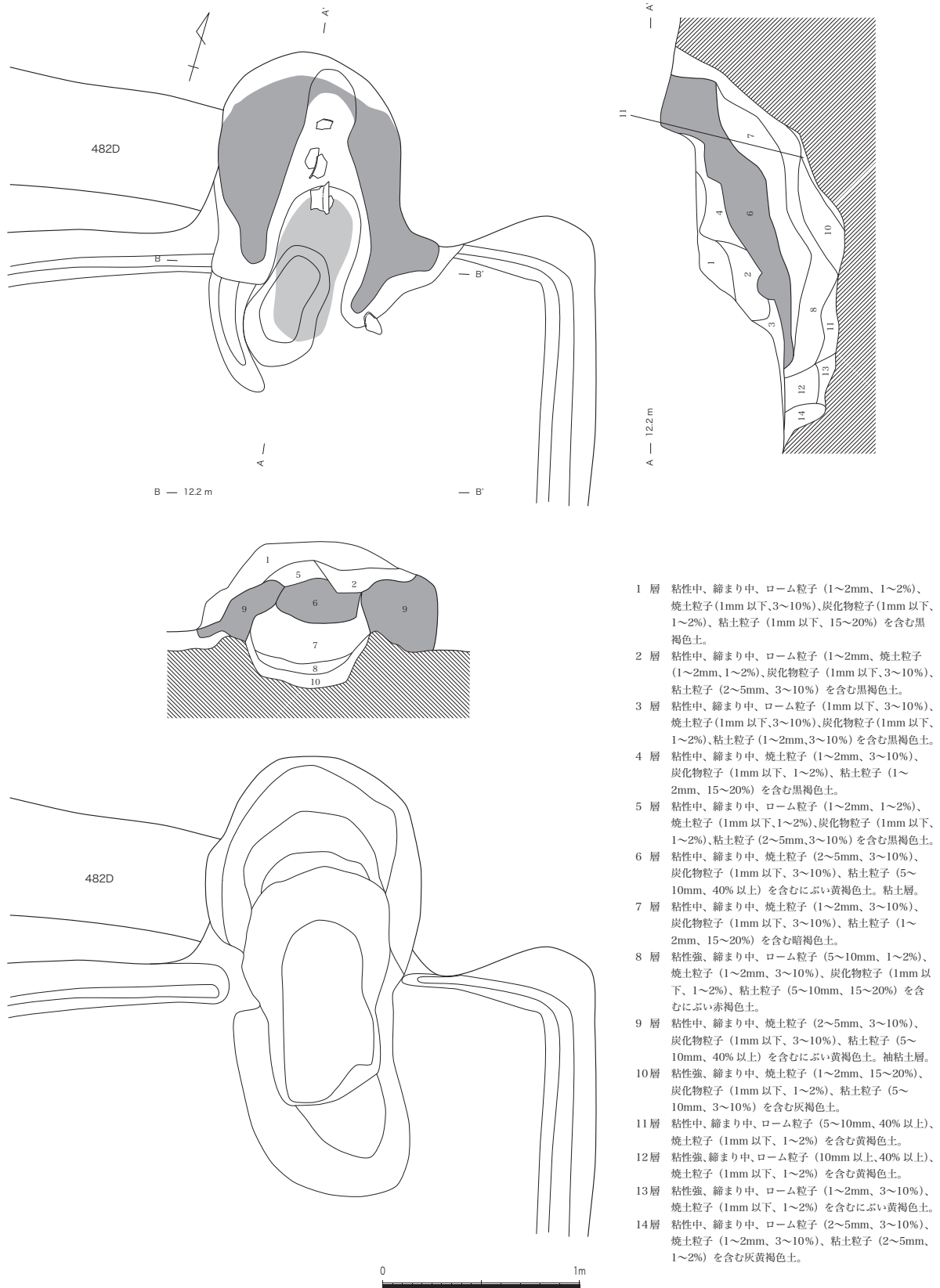
[住居構造]213号住居跡を切る。南西コーナーを33号井戸跡に壊されている。(平面形)正方形。(規模)3.78×3.52m。(主軸方向)N-16°-W。(壁高)65～67cmを測り、壁はほぼ垂直に立ち上がる。(壁溝)上幅26～40cm・下幅4～14cm・深さ11～13cmを測る。カマド部分を除いて全周する。(床面)貼床は3～21cmの厚さで施されていた。中央南側を中心に硬化面が認められた。(床面レベル)標高11.52～11.59m。(カマド)北壁の東コーナー寄りに位置する。長さ119cm・幅126cm・壁への掘り込み98cmを測る。両袖部は地山ロームの削り残しを基礎として、灰白色粘土で構築。燃焼部は壁ライン上に位置する。(柱穴)確認されなかった。(貯蔵穴)確認されなかった。(入口施設)確認されなかった。(覆土)11層、自然堆積。黒褐色土を基調とする。



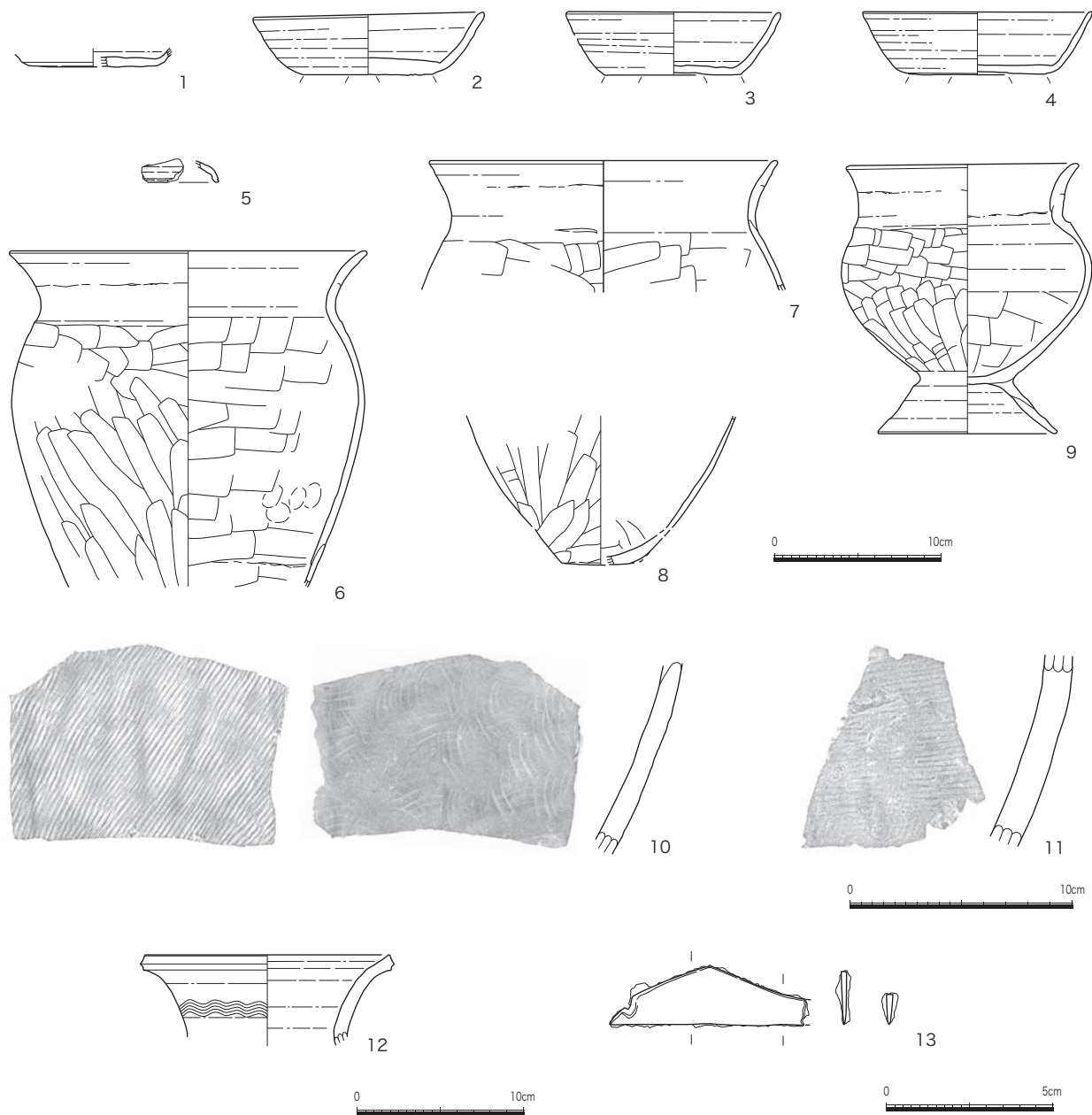
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、15～20%)、焼土粒子 (1mm 以下、3～10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1mm 以下、3～10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、15～20%) を含む黒褐色土。床面上。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、1～2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1～2%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2～5mm、15～20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1～2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む暗褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 9 層 粘性中、締まりやや弱、ローム粒子 (1～2mm、15～20%)、炭化物粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。壁溝覆土。
- 10 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5～10mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、3～10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%)、砂礫 (2～5mm、3～10%)、粘土粒子 (1mm 以下、3～10%) を含む黒褐色土。
- 11 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1～2mm、3～10%)、焼土粒子 (1～2mm、3～10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3～10%)、粘土粒子 (1～2mm、3～10%) を含む黒褐色土。

第208図 212号住居跡 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第 209 図 212 号住居跡カマド (1/30)



第210図 212号住居跡出土遺物 (1/2・1/3・1/4)

[遺物] ほぼ完形の土師器甕・須恵器坏と同破片ともに覆土中に散在。鉄製品（鋏？）は南西側覆土中から出土。

[時期] 奈良時代（8世紀中ごろ）。

[所見] 床面レベルが低く、65cmもの縦穴掘り込みを残していたが、周囲の中世以降の遺構密度も高く、壁周囲に棚状施設などを確認することはできなかった。

遺物 (第210図、第73・78表)

須恵器坏（1～4）、蓋（5）、土師器甕（6～9）、須恵器甕（10・11）、壺（12）、鉄製品（鋏？、13）を図示した。13は、205号住居跡16に類似する形状を示す。須恵器は鳩山HBⅢ期に位置づけられる。

(3) 掘立柱建築遺構

〈第 58 地点〉

4号掘立柱建築遺構

遺 構 (第 211 図)

[位置] 3区。

[建物構造] 柱穴3基、2間分を確認したのみ。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 覆土の特徴などから、奈良・平安時代と推定。

[所見] 北及び東(第 59 地点)方向に柱穴が確認されなかったことから、南及び西側の調査区域外に展開するものと考えられる。1・2号ピットでは第3層上面で柱の当たり痕を確認。

6号掘立柱建築遺構

遺 構 (第 212 図)

[位置] 1区南半部。

[建物構造] 南北4間、東西2間。多くの近世土坑や排水管路で壊されている。

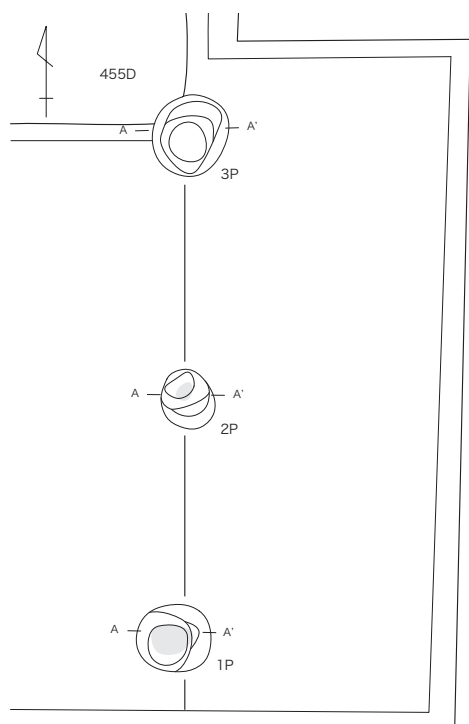
[遺物] 8号ピットの覆土中から須恵器環の破片が1点、19号ピットから鉄製鉤が1点出土。

[時期] 平安時代(9世紀代)。

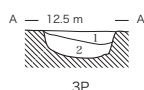
[所見] 南東・南西角の柱穴は排水管の埋設位置にあたるが、全体規模を確認し得た。桁行7.36m、梁行3.64m。複数の柱穴で柱の当たり痕を確認。

遺 物 (第 213 図、第 74 表)

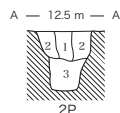
1は須恵器環の口縁部、2は鉄製鉤の部品である。



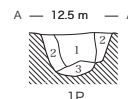
第 59 地点調査区



- 3P**
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~10mm、40%以上)を含むオリーブ褐色土。ロームブロック主体。
 - 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子(10mm以上、15~20%)、黒色粒子10mm以上、3~10%を含む黄褐色土。



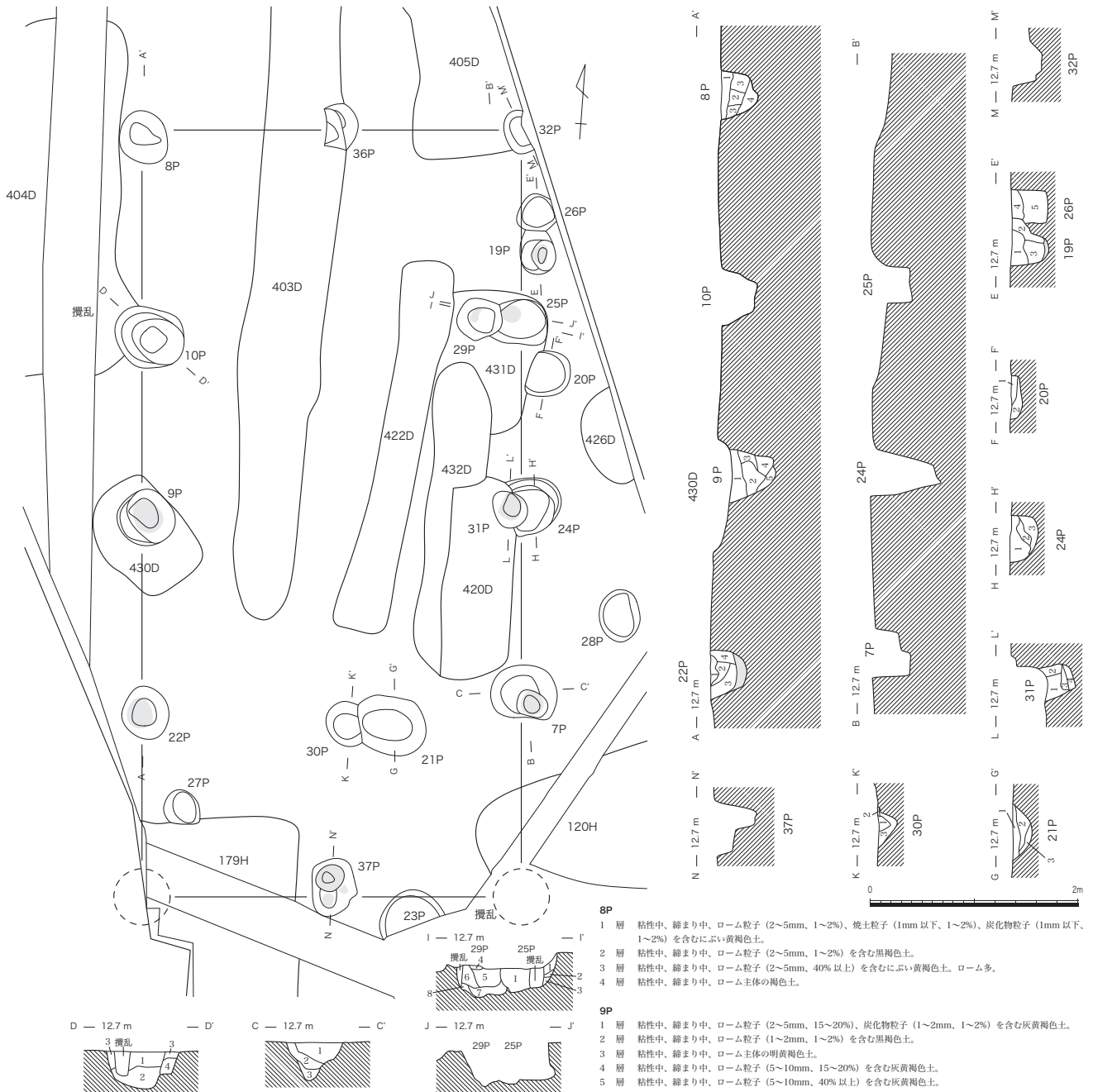
- 2P**
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~10mm、15~20%)を含む暗灰黄色土。ローム小 2層より黒ずむ。
 - 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子(10mm以上、40%以上)を含む明黄褐色土。ローム主体。
 - 3層 粘性中、締まり強の黄褐色土。ローム層。



- 1P**
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(1mm以下、1~2%)を含む黒褐色土。
 - 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子(2~5mm、40%以上)を含む明黄褐色土。ローム主体。
 - 3層 粘性中、締まり強の黄褐色土。



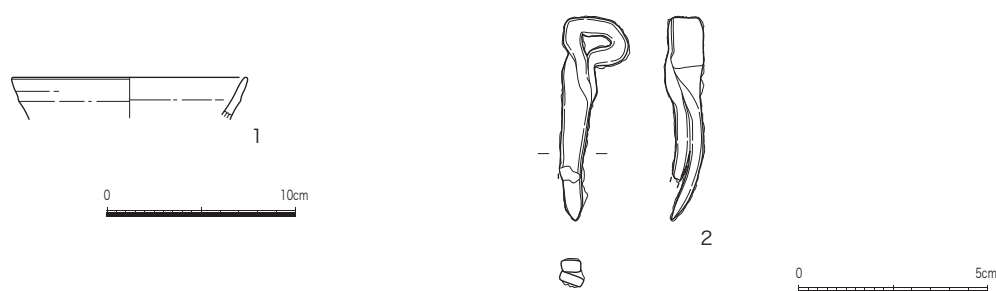
第 211 図 4号掘立柱建築遺構 (1/60)



- 7P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%)、炭化物粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黄褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。あたり簷下。
- 10P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む暗褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム主体の明黄褐色土。
 - 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む黒褐色土。
- 25P・29P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上) を含む褐灰色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む暗褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上)、暗褐色土粒 (1~2mm) を含む黄褐色土。
 - 4 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%) を含む褐灰色土。
 - 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む褐灰色土。
 - 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%) を含む褐灰色土。
 - 7 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む褐灰色土。
 - 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上) を含む黄褐色土。
- 20P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む褐灰色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 40% 以上)、暗褐色土粒 (1~2mm, 15~20%) を含む黄褐色土。
- 21P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 40% 以上) を含む黄褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム主体の黄褐色土。

- 8P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 1~2%) を含む黒褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 40% 以上) を含む黄褐色土。ローム多。
 - 4 層 粘性中、締まり中、ローム主体の褐色土。
- 9P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む灰黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む黒褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム主体の明黄褐色土。
 - 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。
 - 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 40% 以上) を含む灰黄褐色土。
- 19P・26P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 3~10%) を含む灰黄褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黄褐色土。ローム多。
 - 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
 - 5 層 粘性中、締まり中、ローム主体の黄褐色土。
- 22P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
 - 2 層 ローム粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。
 - 3 層 ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。ローム多。
 - 4 層 ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む灰黄褐色土。ロームとの互層状。
- 24P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上) を含む黒褐色土。
- 30P**
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%)、暗褐色土粒 (1~2mm, 25~30%) を含む黄褐色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む灰黄褐色土。
 - 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%)、暗褐色土粒 (1~2mm) を含む黄褐色土。
- 31P**
- 1 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%) を含む褐灰色土。
 - 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む褐灰色土。
 - 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%) を含む褐灰色土。
 - 4 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上)、暗褐色土粒 (1~2mm, 15~20%) を含む黄褐色土。

第212図 6号掘立柱建築遺構 (1/60)



第 213 図 6 号掘立柱建築遺構出土遺物 (1/2・1/4)

(4) 溝跡

〈第 58 地点〉

38 号溝跡

遺 構 (第 214 図)

[位置] 1 区南半部。

[構造] 北・南端ともに調査区域外。(規模) 上幅 67～115cm・下幅 39～57cm・深さ 44～56cm を測る。(平面形) 南側はほぼ南北方向、北側は北東-南西方向に曲がる。(断面形) 逆台形。底面は平坦で、確認範囲南端付近で北側に一段下がる。全体的に北側が低いようである。(覆土) 下層は西側から流れ込んだ状況の堆積で、ロームブロック・粒子を多く含む黒褐色土、上層はローム粒子の含有が少ない黒褐色～黒色土を基調とする。

[遺物] 古墳時代後期の土師器破片 258 点、同須恵器 6 点のほかに、灰釉陶器碗の破片が 1 点出土。18 世紀後半の瀬戸窯産天目茶碗 1 点は、周辺の近世遺構からの混入であろう。

[時期] 平安時代 (9 世紀後半)。

[所見] 南側の走行方向の延長上には南隣の中道遺跡 16 号溝跡 (第 21・41 地点) があり、同一遺構の可能性がある。形態・覆土の特徴も近似する。

遺 物 (第 215 図、第 74 表)

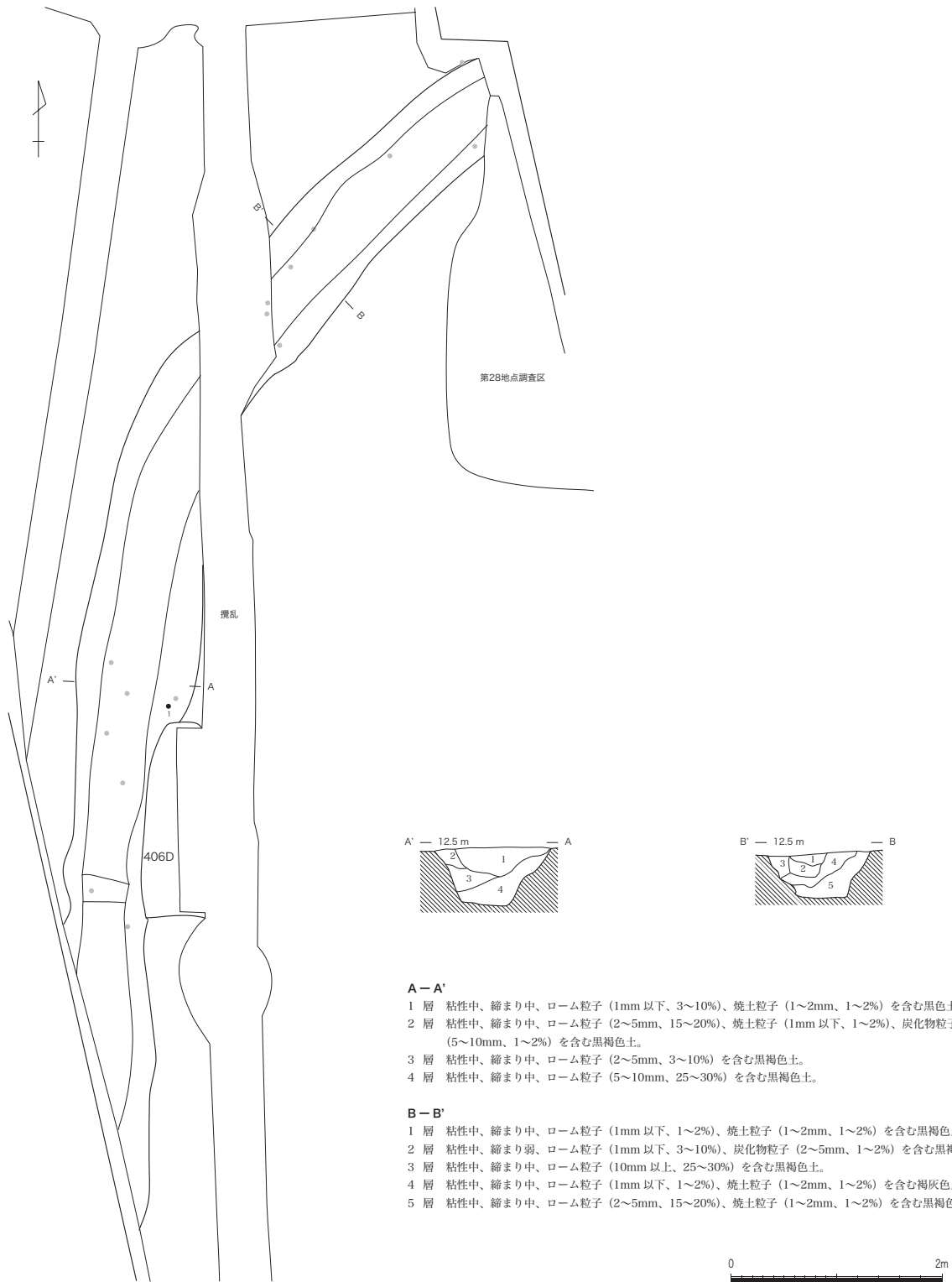
灰釉陶器碗 1 点を図示した。尾張産、尾野善裕氏の編年 (尾野 2008) で猿投窯系 VI 期古・中段階、黒笹 14 号窯～同 90 号窯式、9 世紀後半に位置づけられる。

(5) ピット

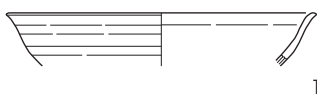
〈第 60 地点〉

49 号ピット (第 5・7・180・216 図、第 75 表)

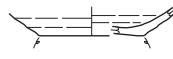
B-1 グリッド (区画溝 40 号溝跡の内側) に位置する。491 号土坑 (中・近世) に切られる。覆土中から須恵器小片 3 点出土。うち 1 点は底面回転ケズリ、1 点は同回転糸切り (第 216 図) の底部破片である。前者の内面には一面に黒色物が付着しており、灯明皿に使用されたものと思われる。また、これに酷似する破片が 62 号ピットの覆土からも検出されており、接合しないものの、同一個体と考えられる。遺構の帰属時期は 9 世紀末葉と考えられる。



第214図 38号溝跡 (1/60)



第215図 38号溝跡出土遺物 (1/4)



第216図 第60地点 49号ピット出土遺物 (1/4)

第3章 検出された遺構と遺物

棟号番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第182図1	住居北半(床上約20cm)	土師器	甕	(22.0)	1/5	(6.6)				口縁～胴	赤/英/砂		丸	く字		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	浅黄色	外：煤/ 内：焦げ付着	武蔵型甕
第182図2	住居南西覆土中	須恵器	坏	(13.5)	1/8	(2.2)				口縁	針/白砂		丸	無		外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	暗青灰色		東金子窯産
第182図3	住居中央付近(床上約21cm)	須恵器	壺		1/5	(8.4)	(11.6)			胴～底	黒鉄/英/砂				外：回転ナデ/胴下～底回転削り/ 内：回転ナデ	無	良	灰色	外：自然釉		
第182図4	貼床中	須恵器	甕							胴	針/白砂/英				外：平行叩き/ 内：横ナデ	無	良	外：緑 灰色/ 内：褐色		東金子窯産	

第64表 195号住居跡出土土器一覧

棟号番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第185図1	住居南東覆土中	土師器	坏	(14.0)	1/8	(3.0)				口縁	針?/英/砂				回転ナデ	無	良	橙色			
第185図2	住居南西覆土中	土師器	坏	(16.3)	1/10	(3.1)				口縁	赤/雲/英/砂				回転ナデ	無	良	橙色			
第185図3	住居南西覆土中	土師器	坏			(2.1)	(9.0)	1/3	高台	赤/雲/砂					回転ナデ	無	良	橙色			
第185図4	住居南側覆土中	須恵器	碗形坏	(14.0)	1/11	(3.6)				口縁	針(多)/砂		丸		回転ナデ	無	良	緑灰色		鳩山窯産	
第185図5	住居北東覆土中	須恵器	碗形坏	(16.2)	1/9	(4.5)				口縁	白砂/砂		丸		回転ナデ	無	良	オリーブ 灰色		東金子窯産	
第185図6	南壁付近(床上約19cm)	須恵器	碗形坏	(15.4)	1/5	(4.6)				口縁～胴	針?/砂		丸		回転ナデ	無	良	オリーブ 灰色		鳩山窯産?	
第185図7	住居南東覆土中	須恵器	碗形坏			(2.3)		2/3	胴～底	針/赤/砂				口縁右回転ナデ/底回転糸切り	無	良 (酸化)	橙色				
第185図8	住居南側(床上約33cm)	須恵器	碗形坏			(2.8)	(4.6)	1/1	胴～底	赤/砂				回転ナデ/底回転糸切り	無	良	オリーブ 灰色		東金子窯産		
第185図9	西角付近に散在(床上約7～8cm)	須恵器	碗形坏	12.8	1/5	4.4	5.2	3/4	口縁～底	英/砂		丸		口縁右回転ナデ/底回転離し糸切り	無	やや 不良 (酸化)	灰白色	内：胴～底 墨?付着		東金子窯産	
第185図10	住居南側(床上約28～32cm)	須恵器	碗形坏	(13.0)	1/3	(4.0)				口縁～底	赤/角/英/砂		丸		口縁右回転ナデ/底回転糸切り	無	良 (酸化)	淡黄色	外：胴「造」 墨書	産地不明	
第185図11	住居北側に散在(床上約7～11cm)	須恵器	有台碗	(18.2)	1/3	8.2	(7.2)	1/2	口縁～底	英/砂		丸		口縁右回転ナデ/底回転糸切り	無	やや 不良 (酸化)	灰白色	外：胴花押? 墨書		東金子窯産?	
第185図12	215H内	須恵器	摘み蓋	(18.8)	1/4	(1.4)				口縁～胴	針/砂		丸		口縁右回転ナデ	無	良	灰色		鳩山窯産	
第185図13	住居北側(床上約9cm)	土師器	甕	(17.4)	1/12	5.8				口縁～胴	赤(多)/雲/砂		丸	段	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	橙色		長甕	
第185図14	東壁内(床上約35cm)	土師器	甕			(3.2)	(9.6)	1/4	胴～底	赤/角/英/砂				平	外：胴～底削り/内：ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕	
第185図15	住居北側(床上約18cm)	土師器	甕	(24.1)	1/8	(9.3)				口縁～胴	赤/雲/英/砂		丸	く字	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：煤付着	武蔵型甕	
第185図16	住居北側に散在(床上約5～14cm)	土師器	甕	19.8	1/2	(5.1)				口縁～胴	赤/雲/英/砂			摘み上げ く字	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外：煤付着	武蔵型甕	
第185図17	カマド内	土師器	甕	12.1	1/2	(9.3)				口縁～胴	赤/雲/砂		丸	く字	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	
第185図18	カマド内	土師器	甕			(4.1)				胴～接合	赤/雲/英/砂				外：胴削り→脚横ナデ/ 内：ヘラナデ	無	良	黄褐色	外：煤付着	台付甕/武蔵型甕	
第185図19	カマド内	須恵器	甕	(18.6)	1/7	(5.1)				口縁	白砂/英				回転ナデ	無	良	灰色		産地不明	
第185図20	215H内	須恵器	甕							胴	砂				外：平行叩き→横ナデ/ 内：横ナデ	無	良	褐色		東金子窯産?	
第185図21	215H内	須恵器	甕							胴	赤、黒鉄/白砂(多)/砂				外：平行叩き→一部横ナデ/ 内：ナデ/横ナデ	無	良	外：灰 褐色/ 内：灰色		産地不明	
第185図22	南壁付近に散在(床上約4～5cm)	須恵器	甕							胴	針(多)/英/砂				外：平行叩き→ナデ/ 内：円形当て具痕→ナデ	無	良	灰オリーブ 色		鳩山窯産	

第65表 198号住居跡出土土器一覧

棟号番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土			形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第188図1	住居北側(床上約23cm)	土師器	鉢							口縁～胴	角(多)/英/砂		丸	無	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	橙色			
第188図2	住居北西覆土中	土師器	鉢	(14.2)	1/6	(4.4)				口縁～胴	英/砂		尖	無	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄色			
第188図3	住居北西覆土中	土師器	鉢	(10.0)	1/3	2.1	(9.2)	1/3	口縁～底	赤?/英/砂		丸		突出・平	外：ヘラナデ/底木葉痕→削り/ 内：ヘラナデ	無	良	明黄褐色			
第188図4	住居南西覆土中	土師器	坏	(9.3)	1/13	(3.0)				口縁～胴	角/英/砂		丸	無	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	褐色			
第188図5	住居北西覆土中	土師器	坏	(11.5)	1/24	(3.8)				口縁～胴	砂		密丸	無	外：口縁横ナデ/胴無調整/ 内：横ナデ	無	不良	橙色			
第188図6	住居北西覆土中	土師器	坏	(14.0)	1/9	(3.3)				口縁～胴	角?/英/砂		丸	無	外：口縁横ナデ/胴削り/ 内：横ナデ	無	良	橙色			
第188図7	住居北西覆土中	須恵器	坏	(13.8)	1/12	(3.1)				口縁	針/赤/角/英/砂		丸		回転ナデ	無	やや 不良 (酸化)	浅黄色		鳩山窯産	
第188図8	カマド脇(床上約19cm)	黒色土器	坏			(2.5)	(7.0)	1/3	胴～底	赤/角/雲/砂					外：回転ナデ/内：磨き	黒色	良	橙色			
第188図9	571D内	土師器	摘み蓋	(18.0)	1/8	(1.7)				口縁～胴	赤(多)/砂				回転ナデ	無	良	橙色			

第66表 199号住居跡出土土器一覧(1)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考	
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸							底
第188図10	P2内	須恵器	埴形環	(12.2)	1/12	(3.5)			口縁～胴	砂		丸		回転ナデ	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産	
第188図11	カマド内	須恵器	埴形環	(12.6)	1/20	(3.9)			口縁～胴	針(多)/赤/英/砂		丸		回転ナデ	無	良	灰色		鳩山窯産	
第188図12	住居北東覆土中	須恵器	埴形環	(14.0)	1/14	(2.5)			口縁～胴	砂		丸		回転ナデ	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産	
第188図13	住居南東覆土中	須恵器	箱形環	(13.0)	1/8	(3.7)	(9.6)	1/10	口縁～底	黒鉄/砂/礫		丸		ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産	
第188図14	住居北側(床上約14cm)	須恵器	埴形環			(2.4)	(7.0)	1/2	胴～底	英/砂				ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産	
第188図15	住居南東覆土、掘方	須恵器	埴形環	(11.0)	1/4	3.5	5.8	1/2	口縁～底	赤/英/砂		丸		ロクロ右?回転ナデ/ 外:胴下・底手持ち削り	無	良(酸化)	明黄褐色		産地不明	
第188図16	カマド内	須恵器	埴形環			(1.7)	6.4	1/2	胴～底	赤/英/砂				ロクロ右?回転ナデ/ 外:胴下・底手持ち削り	無	良	灰オリーブ色		産地不明	
第188図17	住居北西覆土中	須恵器	摘み蓋	(16.0)	1/12	(1.7)			口縁～胴	針/英/砂		丸		回転ナデ	無	良	灰色		鳩山窯産	
第188図18	カマド脇(床上約27cm)	土師器	甕	(23.2)	1/11	(5.8)			口縁～胴	英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:横ナデ	無	良	橙色		長甕	
第188図19	掘方覆土	土師器	甕	(18.7)	1/8	(6.7)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕/武蔵型甕	
第188図20	カマド脇(床上約18～30cm)	土師器	甕	19.0	1/2	(17.9)			口縁～胴	赤/角/雲(多)/英/砂		摘み上げ	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		武蔵型甕	
第188図21	カマド脇及び北壁内(床上約17～22cm)	土師器	甕	20.4	3/4	(21.4)			口縁～胴	赤/角/雲/英/砂		摘み上げ	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		武蔵型甕	
第188図22	住居南側(床上約27cm)	土師器	甕	(22.2)	1/24	(6.3)			口縁～胴	角?/雲(多)/砂		摘み上げ	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	
第188図23	カマド内	土師器	甕	(12.4)	1/8	(4.1)			口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		武蔵型甕	
第188図24	カマド内	土師器	甕	(11.2)	1/4	(6.1)			口縁～胴	赤/角/雲?/英/砂		丸	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		武蔵型甕	
第188図25	東壁付近(床上約44cm)	土師器	甕			(3.3)	(11.4)	1/2	胴～底	赤/角?/雲(多)/英/砂			突出・平	外:胴削り/底無調整/ 内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色			
第188図26	西壁付近(床上約45cm)	土師器	甕			(2.4)	(9.0)	1/3	胴～底	赤/角/雲/英/砂			平	外:胴～底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤付着		
第188図27	住居中央付近(床上約13cm)	土師器	甕			(2.3)	(4.8)	1/4	胴～底	赤/角/英/砂			平	外:胴～底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	褐色	外:煤付着	武蔵型甕	
第188図28	住居北西覆土中	土師器	甕			(1.6)	(4.0)	1/3	胴～底	赤/角/英/砂			平	外:胴～底削り/ 内:ヘラナデ	無	良	褐色	外:煤付着	武蔵型甕	
第188図29	住居北西覆土中	土師器	甕			(2.0)			接合	赤/角/雲/英/砂				回転ナデ	無	良	明赤褐色		台付甕/武蔵型甕	
第188図30	住居北側(床上約19cm)	須恵器	壺			(7.4)			胴	黒鉄/英/砂				外:胴上半回転ナデ/下半回転削り/ 内:胴上半回転ナデ/下半指ナデ	無	良	褐灰色		産地不明	
第188図31	カマド脇覆土中	須恵器	壺			(3.5)	(8.5)	1/5	底・高台	黒鉄/英/砂				外:回転削り/ 内:回転ナデ	無	良	オリーブ黒色		長頸壺?/猿投窯産?	
第188図32	カマド脇(床上約23cm)	須恵器	甕						胴	赤/英/砂				外:平行叩き→ナデ/内:ナデ	無	良	黒褐色		産地不明	

第66表 199号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考	
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸							底
第190図1	P2付近覆土中	土師器	環	(12.3)	1/13	(7.6)	4.9	1/1	口縁～底	赤/英/砂	密	丸	無	凸	外:胴～底削り→ナデ→磨き(粗)/ 内:ヘラナデ→磨き(粗)	無	良	褐色		
第190図2	住居南西覆土中	ロクロ土師器	埴			2.0	(7.2)	1/8	底・高台	赤/角/英/砂					回転ナデ	無	やや不良	橙色		
第190図3	住居南東覆土中	須恵器	埴形環			(0.8)	(7.6)	1/11	底	英/砂					外:底回転糸切り→周辺回転削り/ 内:回転ナデ	無	良	灰色		
第190図4	住居南西覆土中	土師器	甕	(24.0)	1/12	(3.7)			口縁	赤/角/英/砂		丸		横ナデ	無	良	黄褐色		丸甕?	
第190図5	住居南西覆土中	土師器	甕						口縁～胴	赤/角/英/砂		丸	く字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	赤褐色		武蔵型甕	

第67表 201号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考	
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸							底
第194図1	カマドA内	土師器	環	(13.8)	1/5	(3.8)			口縁～胴	赤/英/砂		沈線	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	赤彩	良	黄褐色		比企型環	
第194図2	住居南側覆土中	土師器	環	(14.0)	1/12	(3.7)			口縁～胴	英/砂		丸	無	外:横ナデ/内:ナデ	赤彩	やや不良	橙色			
第194図3	住居西側覆土中	土師器	環	(14.0)	1/12	(3.2)			口縁～胴	赤/角/雲/英/砂		丸	良	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	浅黄褐色			
第194図4	住居北側覆土中	須恵器	埴形環	(14.0)	1/11	(3.5)			口縁	赤/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ	無	良	灰白色			
第194図5	住居南側(床上約5cm)	須恵器	箱形環	13.8		4.2	7.8		完形	針(多)/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転削り	無	良	オリーブ灰色		鳩山窯産	
第194図6	カマドB付近(床上約5cm)	須恵器	箱形環	13.4	3/4	3.6	8.4		完形	針(多)/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転削り	無	良	オリーブ灰色	外・内:火障	鳩山窯産	
第194図7	住居北側覆土中	須恵器	箱形環	(13.4)	1/13	(3.5)			口縁～胴	針/黒鉄/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/外胴下削り	無	良	灰色		鳩山窯産	
第194図8	床面上	土師器	甕			(2.4)	(7.6)	1/6	底	赤/角/英/砂				底削り	無	良	黄褐色		筒拔型	
第195図9	カマドA内	土師器	甕	(17.6)	1/13	(3.6)			口縁～胴	赤/角/雲/英/砂		丸	段	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	黄褐色		長甕	
第195図10	住居西側覆土中	土師器	甕	(19.4)	1/40	(4.3)			口縁～胴	赤/角?/英/砂		丸	稜	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		長甕	
第195図11	住居西側覆土中	土師器	甕	(20.0)	1/12	(7.3)			口縁～胴	赤/角(多)/英/砂		丸	く字	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		武蔵型甕	
第195図12	カマドA内	須恵器	甕						胴	針/英/砂				外:平行叩き→横ナデ/ 内:横ナデ	無	良	外:暗青灰色/ 内:褐色			

第68表 202号住居跡出土土器一覽

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸						
第198図1	住居中央南寄り(床上約34cm)	土師器	坏	(12.8)	1/6	(3.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ナデ	無	良	明赤褐色		北武蔵型坏
第198図2	住居中央東寄り(床上約21~36cm)	須恵器	箱形坏	(12.9)	1/3	3.5	6.9	2/3	口縁~底	針/砂/礫		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り→周辺回転削り	無	良	オリーブ灰色		鳩山窯産
第198図3	カマド左脇付近(床上約29~44cm)	須恵器	箱形坏	(12.0)	1/4	3.5	(6.4)	2/3	口縁~底	黒鉄/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り→周辺回転削り	無	良	灰色		東金子窯産?
第198図4	住居南西角付近(床上約27cm)	須恵器	箱形坏	(13.8)	1/4	4.1	(7.6)	1/2	口縁~底	砂/礫		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り→周辺回転削り	無	やや不良	灰白色		東金子窯産?
第198図5	北壁溝付近床面上	須恵器	摘み蓋	(17.5)	1/3	(2.9)			口縁~天井	針/黒鉄/白砂/砂		丸		ロクロ右回転ナデ/天井1/3回転削り	無	良	灰色		鳩山窯産
第198図6	東壁中央付近(床上約25cm)	須恵器	摘み蓋	(18.2)	1/16	(2.7)			口縁~天井	黒鉄/白砂		丸		ロクロ右回転ナデ/天井1/2回転削り	無	良	青灰色		東金子窯産?
第198図7	北壁西寄り(床上約5cm)	須恵器	摘み蓋			(2.1)	(4.6)	1/4	天井	針(多)/英/砂				外:天井回転削り/ 内:回転ナデ	無	良	オリーブ灰色/断:赤褐色		鳩山窯産
第198図8	住居東側覆土中	土師器	甕	(23.4)	1/12	(3.8)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	断	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	橙色		
第198図9	東壁南寄り(床上約11cm)	土師器	甕	20.1	2/3	(8.6)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色	外:煤付着	武蔵型甕
第198図10	カマド左脇付近(床上約23~29cm)	土師器	甕	(24.0)	1/4	(6.5)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色	外:煤付着	武蔵型甕
第198図11	住居南側覆土中	土師器	甕			(11.2)	3.8	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	褐色		武蔵型甕
第198図12	北壁中央付近(床上約20cm)	須恵器	甕						胴	赤/砂				外:平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	灰白色		産地不明
第198図13	住居東側覆土中	須恵器	壺						口縁	角/英/砂				回転ナデ	無	良	灰白色		産地不明

第69表 205号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸						
第201図1	カマド前(床上約7cm)	須恵器	埴形坏	12.8	1/2	4.2	5.4	1/1	口縁~底	黒鉄/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良	灰色~黄橙色		東金子窯産
第201図2	カマド内	須恵器	有台皿			(2.1)	(6.2)	1/4	胴~底・高台	針(多)/砂				回転ナデ/底回転削り	無	良	青灰色		鳩山窯産
第201図3	住居北東側覆土中	須恵器	皿	(15.4)	1/8	(1.9)			口縁	砂		丸		回転ナデ	無	良	暗灰色		東金子窯産?
第201図4	住居中央北東寄り(床上約10cm)	土師器	甕	(22.0)	1/12	(4.6)			口縁~胴	赤/角/英/砂		丸	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	橙色		武蔵型甕
第201図5	カマド前(床面上~約6cm)	土師器	甕	(19.2)	1/4	(11.4)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		摘み上げ	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	武蔵型甕
第201図6	カマド前(床上約6cm)	土師器	甕	(23.0)	1/3	(6.8)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		摘み上げ	コ字	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	赤褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	武蔵型甕
第201図7	覆土中	土師器	甕			(1.6)	(4.6)	1/3	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤付着	武蔵型甕

第70表 206号住居跡出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸						
第204図1	224H内	ロクロ土師器	埴	6.4		(1.7)		1/2	底・高台	赤/角?/英/砂				回転ナデ/底回転糸切り	黒色	良	褐灰色		
第204図2	カマド内(床上約36cm)	ロクロ土師器	埴			(2.4)	3.2	3/4	胴~底・高台	砂				回転ナデ/底回転糸切り→回転ナデ	無	やや不良	灰白色		
第204図3	カマド内(床上約38cm)	須恵器	埴形坏	12.8	3/4	4.6	5.4	1/1	ほぼ完形	赤/砂/礫		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良(一部酸化)	暗青灰色~明黄褐色		東金子窯産
第204図4	224H内(床上約31cm)	須恵器	埴形坏						口縁~底	針?/黒鉄/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産?
第204図5	住居北西側覆土中	須恵器	埴形坏	(14.0)	1/4	(3.5)			口縁~胴	針?/砂		丸	無	回転ナデ	無	良	灰色		東金子窯産?
第204図6	住居南東側覆土中	須恵器	埴形坏	(13.2)	1/8	(2.0)			口縁	黒鉄/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ	無	良	灰色		東金子窯産
第204図7	カマド内	須恵器	埴形坏	(13.7)	1/12	(1.8)			口縁	砂		丸	無	回転ナデ	無	良	灰色		東金子窯産
第204図8	住居中央南寄り(床上約30cm)	須恵器	埴形坏	(14.0)	1/8	(4.3)			口縁~胴	赤/英/砂		丸	無	ロクロ右回転ナデ	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産
第204図9	住居南東側覆土中	須恵器	埴形坏	(12.1)	1/6	(4.0)			口縁~胴	英/砂		丸	無	回転ナデ	無	良(酸化)	黄色		東金子窯産
第204図10	住居南西角付近(床上約22~24cm)	土師器	甕	(20.0)	1/16	(6.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色		丸甕
第204図11	住居北東側覆土中	土師器	鉢						口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	無	外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明黄褐色	外:煤付着	
第204図12	住居中央付近(床上約41cm)	土師器	甕			(3.9)	(7.6)	1/2	胴~底	赤/角/英/砂			平	外:胴削り/底削り?/ 内:ヘラナデ	無	良	明黄褐色		長甕
第204図13	西壁南付近(床上約25cm)	土師器	甕			(6.6)	5.8	1/1	胴~底	赤/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕
第204図14	住居中央付近(床上約36cm)	土師器	甕			(1.5)	(9.2)	1/4	底	赤/雲/角/英/砂			突出・平	外:底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		丸甕
第204図15	カマド内	土師器	甕	(21.2)	1/3	(7.4)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸(外:匙面)	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		武蔵型甕
第204図16	住居北東角付近(床上約30cm)	土師器	甕	(19.6)	1/12	(9.6)			口縁~胴	赤/雲/英/砂		摘み上げ	外彎	外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	武蔵型甕

第71表 208号住居跡出土土器一覧(1)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第204図 17	カマド内	土師器	甕	(23.8)	1/16	(5.8)			口縁~胴	赤/雲/英/砂	丸(外:底面)	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	
第204図 18	住居中央 (床上約30cm)	土師器	甕	(18.2)	1/8	(4.6)			口縁	赤/雲/角/ 英/砂	丸	コ字		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	明赤褐色		武蔵型甕	
第204図 19	カマド内	土師器	甕			(3.0)	(3.6)	1/2	胴~底	赤/雲/角/ 英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	
第204図 20	住居東寄り (床上約40cm)	土師器	甕			(4.6)	3.4	1/1	胴~底	雲/角/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	暗褐色	外:粘土・煤/ 内:焦げ付着	武蔵型甕	
第204図 21	カマド内	土師器	甕	(10.5)	1/3	(5.7)			口縁~胴	雲/英/砂	丸	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	武蔵型甕	
第204図 22	カマド内	土師器	甕	13.8	1/1	16.2		1/2	口縁~底	赤/雲/角/ 英/砂	丸	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/接合 横ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色	外:煤/ 内:焦げ付着	台付甕/武蔵型甕	

第71表 208号住居跡出土土器一覽(2)

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第207図 1	住居北西覆土中	土師器	坏	(12.0)	1/8	(2.5)			口縁~胴	赤/雲?/英/ 砂	丸	無		外:口縁横ナデ/胴上半無調整/ 下半削り/ 内:口縁横ナデ	無	良	明赤褐色		北武蔵型坏	
第207図 2	住居南東覆土中	土師器	坏	(10.2)	1/5	(2.9)			口縁~胴	赤/英/砂(多)	丸	無		外:ナデ/内:ナデ	無	良	黄褐色			
第207図 3	住居南東覆土中	須恵器	埴形坏	(12.3)	1/4	(2.5)			口縁~胴	赤/砂	丸	無		回転ナデ	無	不良(酸化)	灰白色			
第207図 4	住居北西覆土中	須恵器	埴形坏	(12.1)	1/9	(3.5)			口縁~胴	赤/砂	丸	無		回転ナデ	無	良(酸化)	橙色		東金子窯産	
第207図 5	住居北西覆土中	須恵器	埴形坏	(12.2)	1/4	(3.0)			口縁~胴	白砂/砂	丸	無		ロクロ右回転ナデ	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産?	
第207図 6	住居北東覆土中	須恵器	埴形坏	(13.4)	1/9	(3.1)			口縁~胴	白砂/砂	丸	無		ロクロ右回転ナデ	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産?	
第207図 7	入口付近 (床上約13cm)	須恵器	埴形坏	(11.6)	1/7	(3.15)	5.8	1/3	口縁~底	白砂/砂	丸	無		ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	良	灰オリーブ色		東金子窯産?	
第207図 8	住居東半覆土中	須恵器	埴形坏	(13.5)	1/8	6.0	6.8	2/3	口縁~底	黒鉄/白砂/ 砂	丸	無		回転ナデ/底回転離し糸切り	無	良	灰色		東金子窯産	
第207図 9	住居北西覆土中	須恵器	埴形坏			1.6	8.0	1/4	胴~底	針/英/砂				回転ナデ/底回転削り	無	良	灰色		鳩山窯産	
第207図 10	住居北西覆土中、 掘方覆土	須恵器	埴	(11.8)	1/8	(4.6)			口縁~胴	英/白砂/砂	丸	無		外:口縁~胴上半回転ナデ/胴 下半回転削り/ 内:回転ナデ	無	良(一部酸化)	緑灰色		産地不明	
第207図 11	住居北東覆土中	須恵器	皿	(14.2)	1/8	(2.1)			口縁~胴	赤/砂	丸	無		回転ナデ	無	良(酸化)	明黄褐色		東金子窯産	
第207図 12	住居南東覆土中	須恵器	摘み蓋	12.0	1/8	1.4			口縁	赤/黒鉄/白 砂/砂	丸			回転ナデ	無	良	オリーブ 灰色		東金子窯産	
第207図 13	住居南西覆土中	土師器	甕	(24.0)	1/28	(8.1)			口縁~胴	赤/雲(多)/砂	丸	無		外:口縁横ナデ/胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		長甕	
第207図 14	カマド内 (床上約14cm)	土師器	甕	(19.6)	1/4	(18.5)			口縁~胴	赤/雲?/角/ 英/砂	丸	コ字		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	橙色		武蔵型甕	
第207図 15	住居北東角 床面上	土師器	甕	(21.2)	1/10	(5.8)			口縁~胴	赤/雲/角/ 英/砂	丸	コ字		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		武蔵型甕	
第207図 16	住居北東角 床面上	土師器	甕	(22.4)	1/8	(6.8)			口縁~胴	赤/雲/角/ 英/砂	丸	コ字		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色		武蔵型甕	
第207図 17	住居北東角 床面上	土師器	甕			(4.1)	4.6	1/2	胴~底	赤/雲/角/ 英/砂			凸	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	明赤褐色	外:粘土付着	武蔵型甕	
第207図 18	住居北西覆土中	土師器	甕			(2.6)	(10.2)	1/4	脚台	赤/雲/英/砂				回転ナデ	無	良	明赤褐色		台付甕/武蔵型甕	
第207図 19	住居掘方覆土	土師器	甕			(2.7)	(7.6)	1/4	脚台	雲/角/英/砂				回転ナデ	無	良	明赤褐色	外:煤付着	台付甕/武蔵型甕	
第207図 20	住居南西覆土中	須恵器	甕						胴	白砂				外:縦格子叩き→ナデ/ 内:同心円当て具痕	無	良	灰白色		産地不明	
第207図 21	住居北東覆土中	須恵器	甕						胴	黒鉄/白砂				外:平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	灰白色		産地不明	
第207図 22	住居南東覆土中	須恵器	甕						胴	英/白砂				外:平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	オリーブ 灰色		産地不明	
第207図 23	住居北西覆土中	須恵器	壺	(14.0)		(1.7)		1/14	口縁	英				回転ナデ	無	良	灰色		長頸壺/尾張産/尾野 VI期古/9世紀中葉	
第207図 24	入口付近 (床上約3cm)	須恵器	壺	(5.5)		10.2		1/2	胴~底・ 高台	黒鉄/白砂/英				ロクロ右回転ナデ/ 外:胴下半~底回転削り	無	良	外:暗 紫灰色/ 内:青 灰色		長頸壺/尾張産/尾野 VI期古/9世紀中葉	

第72表 210号住居跡出土土器一覽

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施軸	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第210図 1	住居中央付近 床面上	須恵器	坏			(1.1)	(7.8)	1/3	底	白砂/砂				ロクロ右回転ナデ/底手持ち削り	無	良	灰オリーブ 色		東金子窯産	
第210図 2	住居中央及び 中央南寄り(床上 約7~8cm)	須恵器	坏	13.6		3.7	7.8		完形	針(多)/黒鉄/ 白砂/礫	丸	無		ロクロ右回転ナデ/底回転糸切 り→回転削り	無	良	灰オリーブ 色		鳩山窯産	
第210図 3	住居中央西寄り (床上約18cm)	須恵器	坏	(12.6)	2/5	3.7	8.2	1/2	口縁~底	針/赤/白砂/ 砂	丸	無		ロクロ右回転ナデ/底回転糸切 り→周辺回転削り	無	良	灰オリーブ 色~灰 黄褐色		鳩山窯産	
第210図 4	カマド内及び カマド前床面上	須恵器	坏	(13.6)	1/10	3.7	8.2	1/2	口縁~底	白砂/砂	丸	無		ロクロ右回転ナデ/底回転糸切 り→周辺回転削り	無	良	灰オリーブ 色		東金子窯産	
第210図 5	住居北西覆土中	須恵器	摘み蓋						口縁	赤/白砂/砂	丸			回転ナデ	無	良	暗青灰色		産地不明	

第73表 212号住居跡出土土器一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第210図 6	カマド内及び住居中央(床上約4~35cm)	土師器	甕	(21.0)	1/3	(20.0)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	黄褐色	外:煤・粘土/ 内:焦げ付着	武蔵型甕
第210図 7	カマド内	土師器	甕	(20.6)	1/8	(7.8)			口縁~胴	赤/雲/角/英/砂		丸	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	明赤褐色		武蔵型甕
第210図 8	カマド内	土師器	甕			(8.8)	4.6	1/1	胴~底	赤/雲/角/英/砂			平	外:胴~底削り/内:ヘラナデ	無	良	橙色		武蔵型甕	
第210図 9	住居南東角付近床面上	土師器	甕	13.6	1/1	16.1	10.7	2/3	ほぼ完形	赤/雲/角/英/砂		丸	外彎		外:口縁横ナデ→胴削り/脚回転ナデ/ 内:口縁横ナデ/胴ヘラナデ	無	良	灰黄褐色	外:煤/ 内:焦げ付着	台付甕/武蔵型甕
第210図 10	住居中央付近床面上	須恵器	甕						胴	砂				外:平行叩き/ 内:同心円当て具痕→ナデ	無	良	暗青灰色		産地不明	
第210図 11	カマド右袖前(床上約10cm)	須恵器	甕						胴	針/白砂				外:平行叩き/内:ナデ	無	良	青灰色		鳩山窯産	
第210図 12	住居中央西寄り(床上約25cm)	須恵器	壺	(14.6)	1/6	(5.4)			口縁	白砂				口縁右回転ナデ/ 外:頸飾描き波状文	無	良	青灰色		東金子窯産?	

第73表 212号住居跡出土土器一覧(2)

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
					(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第213図 1	6 T	SP 覆土	須恵器	坏	(12.3)	1/16	(2.3)			口縁~胴	白砂		丸	無	回転ナデ	無	良(酸化)	赤褐色	内:白色物付着	産地不明	
第215図 1	38 M	検出範囲中央部分立ち上がり面	灰釉陶器	壺	(16.4)	1/20	(2.8)			口縁~胴	白砂/英/黒鉄		外彎		回転ナデ	外・内:灰釉	良	灰白色		尾張産/9C後半	

第74表 第58地点遺構出土土器一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	備考
					(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第216図 1	49 P	覆土中	須恵器	碗形坏			(1.5)	(5.6)	1/4	胴~底	黒鉄/英/白砂				回転ナデ/ 底回転糸切り	無	良	灰白色		東金子窯産	

第75表 第60地点遺構出土土器一覧

挿図番号	番号	出土位置	種別	器種	長さ(cm)	最大幅(cm)	直径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
											含有物	粘土							
第188図 33	199 H	覆土中	瓦	平瓦	(6.7)	(3.7)		1.3	37.3	破片	小礫/砂粒/長石		外:ナデ/内:布目	無	良	暗赤褐色		産地不明	
第195図 13	202 H	住居北側覆土中	土製品	支脚	(3.2)	(5.0)			24.1	基部	赤/角/砂		無調整	無	良	橙色			
第207図 25	210 H	住居南東覆土中	土製品	須恵器片転用品	3.6	3.9			6.4	胴~底	針(多)/白砂		回転ナデ/底回転削り	無	良	オリーブ灰色	破断面研磨	鳩山窯産	

第76表 第60地点遺構出土土製品一覧

挿図番号	遺構名	器種	形態	石材	遺存状態	長さ(mm)	幅(mm)	厚さ(mm)	重量(g)	備考
第198図 17	205H	台石	PI 脇(床上約5cm)	閃緑岩	完形	271.48	255.41	91.72	9500.0	
第207図 26	210H	砥石	東壁中央付近(床上約12cm)	安山岩	完形	115.15	49.31	53.97	330.0	表裏左右面を使用。

第77表 第60地点遺構出土石器一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ(cm)	最大幅(cm)	最大厚(cm)	重量(g)	残存	特徴		
第185図 23	198 H	住居南東覆土中	鉄製品	鉄鎌	(7.9)	(3.5)	0.5	19.2	逆刺・茎部端欠損	平根系腸状三角形鎌。身部厚0.4cm。矢柄の木質は看取されない。		
第195図 14	202 H	北壁内(床上約18cm)	鉄製品	鉄鎌	(9.0)		1.0	10.6	茎部端欠損	細根系長頭柳葉形鎌。身部厚0.2cm。矢柄の木質は看取されない。		
第198図 14	205 H	住居南西角(床上約9cm)	鉄製品	鉄鎌	(6.9)		0.8	6.6	茎部端欠損	細根系長頭柳葉形鎌。身部厚0.2cm。矢柄の木質は看取されない。		
第198図 15	205 H	東壁中央付近(床上約45cm)	鉄製品	鉄鎌	(4.6)		0.7	4.8	身部・茎部端欠損	細根系長頭鎌。14と同型品か。矢柄の木質は看取されない。		
第198図 16	205 H	住居中央東寄り(床上約33cm)	鉄製品	鉄?	(4.2)		2.2	6.2	握り部?端欠損	いわゆる和鉄の刃部の可能性あり。		
第210図 13	212 H	住居南西覆土中	鉄製品	鉄?	(5.9)		1.8	6.0	握り部?端欠損	いわゆる和鉄の刃部の可能性あり。		
第213図 2	6 T	19P 覆土	鉄製品	割ピン			5.4	1.8	1.1	8.3	完形	板材を整形。環状頭部と脚部は90°ねじれる。

第78表 第60地点遺構出土の金属製品一覧

第4節 中世以降

(1) 概要

中世以降、すなわち13世紀から近世、19世紀中葉に至る時期に帰属する遺構には、土坑213基、溝跡12本、井戸跡5基、道路状遺構1本、ピット108基が該当する。しかし、時期を推定できる遺物・状況が確認できなかった遺構が多い。その中で、中世に比定、あるいは推定されたものは土坑12基（うち地下室5基）、溝跡1本、井戸跡2基、ピット3基がある。それらの分布は散在しているが、第60地点では南西側にまとまる傾向がある。16世紀代を中心とするもので、「柏城」が機能していた時期にあたる時期である。また、幅3m以上、深さ1m以上の3本の大型溝跡（35・36・39号溝跡）が注目されるが、これらも遺物・状況証拠ともに現状では乏しく、その性格を言及することは難しい。近世は中世と遺構種別がほとんど同じであるが、溝状土坑を一番の特徴に挙げることができる。

また、第60地点ではB-2グリッドからB-3グリッド北端にかけて、ローム細粒を多量に含む均質な土壌が広がっており、整地土（客土）と判断された。この整地土上では、溝状土坑等（B群1・2類、487・488・493・510～513号土坑）のみが確認された。地下室の483・518・554号土坑はこの整地土を取り去った後に確認された。また、40号溝跡の南西コーナー付近もこの整地土に覆われていた。整地土の帰属時期は、地下室554号土坑の新相遺物が17世紀前半を示し、溝状土坑出土遺物が17世紀初頭～末葉を示すことから、17世紀前半から同末葉の間となる。

(2) 土坑

第1節にも記したとおり、確たる出土遺物がない土坑に関して、帰属時期の認定は覆土の特徴に拠るところが大きい。ここでは、形態による分類を行った上で、出土遺物があるものを中心に採り上げることとし、個別の計測値等データは一覧表を参照願いたい。

形態分類については、本遺跡第42地点の調査報告書（尾形・深井編2005）に準拠する。B群1類及び2類の一部は長方形土坑とは別の「群」にすべきであったり、やや分類レベルの不均衡があると思われるが、以下、分類項目と該当遺構を示す。

A群 平面方形の土坑

1類 袋状の構造を呈する

2類 袋状ではなく、単純構造を呈する

本地点では該当するものがない。

B群 平面長方形の土坑

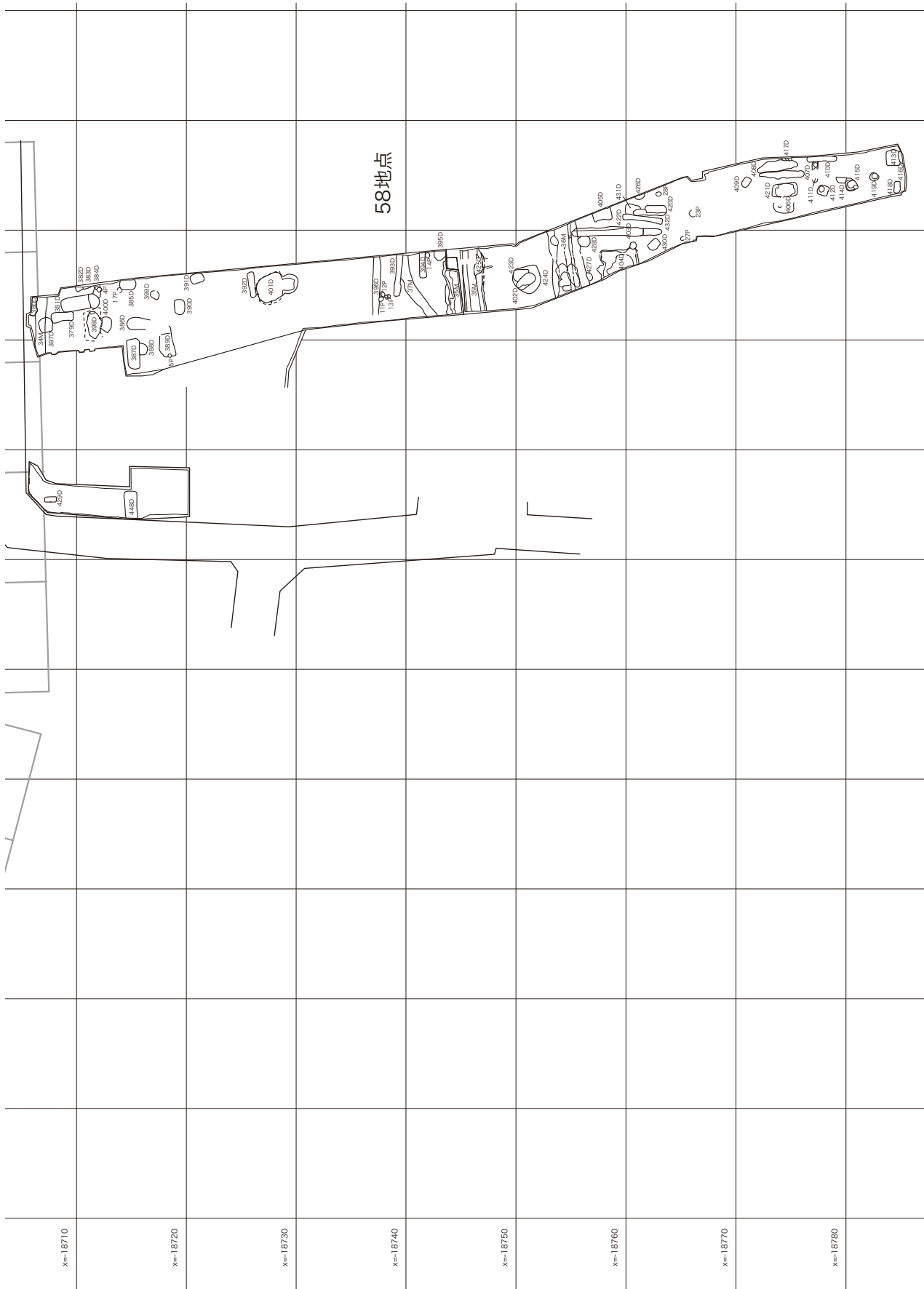
1類 溝状の土坑

長軸長が3m超のもの、もしくは3mを超えると推定される溝状の土坑。断面形は箱形あるいは逆台形を呈する。

2類 幅狭の長方形土坑

第3章 検出された遺構と遺物





第217図 中世以降遺構分布図 (1/500)

第3章 検出された遺構と遺物

長軸長が3m以下で短軸長が1m未満のもの。断面形は箱形あるいは逆台形を呈する。近接して長軸上に並ぶものは、削平のために、1類の坑底付近が残った状況ものを含んでいることが考えられる。

3類 幅広の長方形土坑

長軸長が3m以下で短軸長が1m以上のもの。断面形は箱形あるいは逆台形を呈する。削平状況にもよるが、深さにはバラツキがある。遺構の性格を考慮すれば、細分の必要があると思われる。

C群 平面円形・楕円形の土坑

D群 不整形の土坑

E群 地下室（むろ）・地下坑

1類 1 縦坑 1 主体部タイプ

2類 1 縦坑複数主体部タイプ

分類	形状	数量		該当土坑番号	
		58地点	60地点	第58地点	第60地点
A群1類	平面方形	袋状	1	0	434
A群2類		単純構造	0	0	
B群1類	平面長方形	溝状	13	31	393,394,396,403,411,422,432,436,438 ~ 440, 443,444
B群2類		幅狭の長方形	5	55	379,392,420,429,442
B群3類		幅広の長方形	13	13	381,385 ~ 390,406,409,413,421,430,448
C群	平面円形・楕円形	5	10	399,419,426 ~ 428	454 ~ 457,474,490,494,507,530,584
D群	不整形	31	26	380,382 ~ 384,391,395,402,404,405,407, 408,410,412,414 ~ 418,423 ~ 425,431,435, 437,441,445 ~ 447,449 ~ 451	459,463,465,466,471,472,481,485,486,489,497, 499,500,501,506,508,509,526,549,556,561,573, 575,581,590,594
E群1類	地下室・地下坑	単一主体部	3	4	397,398,401
E群2類		複数主体部	1	2	433
計			72	141	

第79表 土坑集計表

A群 方形の土坑

1類 袋状構造

434号土坑

遺構 (第218図、第80表)

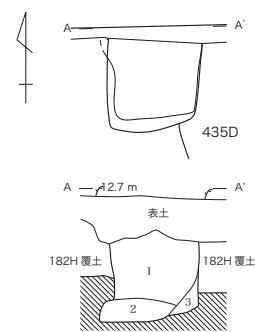
[位置] 2区。

[構造] 北側は調査区域外に延びるが、第60地点では確認されなかった。182号住居跡を切る。東壁の調査区際の坑底付近がオーバーハングする。(規模) 0.79m×不明。(深さ) 0.73m。(長軸方位) N-S。(覆土) 3層。ロームブロックを含む灰黄褐色。

[遺物] 覆土中から古墳時代後期の土師器破片1点、菜切包丁1点が出土。

[時期] 近世か。

[所見] 形状から、「掘り込み部をもつ(長)方形土坑」(尾形2008)の可能性もあるが、他の事例が平面1~2.4mの規模を示す



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40%以上) を含む褐色土。

434号土坑

第218図 土坑A群1類 (1/60)

ことと比べると、本土坑は極めて小さい。また、被熱痕跡は確認できなかった。

遺物 (第265図、第100表)

1は菜切包丁である。

B群 長方形の土坑

1類 溝状土坑

第58地点では1区中央部(長軸方向:東西)・南半部(同:南北)、2区東端(同:東西)の3か所に、第60地点ではB-2・3グリッド(長軸方向:東西)、D・E-3グリッド(同:東西)、C・D-4グリッド(同:東西)、G-4~6グリッド(同:南北)の4か所に集中する。長軸方向は、ほぼ南北あるいは東西におき、上記のとおり、同一方向で集中する。その中で、第58地点1区南端付近の407・408号土坑は、掘方が不安定で浅く、他と特徴が異なる。東隣接の第28地点の調査区掘削痕跡を誤認した可能性がある(同地点の調査記録には、これらの土坑は記録されていない)。

〈第58地点〉

403号土坑

遺構 (第220図、第81表)

[位置] 1区南半部。

[構造] 北側は36号溝跡に切られる。6号掘立柱建築遺構の柱穴(36号ピット)を切る。断面箱形、坑底は平坦で、南端が一段高くなる。(規模)8.19×0.79m。(深さ)0.44m。(長軸方位)N-1°-E。(覆土)4層。ロームブロックを含む黒褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土中から、瀬戸・美濃窯産高田徳利・甕や肥前系染付碗・皿、江戸在地系焙烙や鉄釘が出土。

[時期] 近世(18世紀後葉~19世紀中葉)。

[所見] ほぼ同一方向の長方形土坑、420号土坑(B2類)、422・432号土坑(B1類)が集中する。

遺物 (第263図、第100表)

1は鍛造の角釘である。

439号土坑

遺構 (第221図、第81表)

[位置] 2区。

[構造] 西端は438号土坑に切れ、東・北側は調査区域外。180号住居跡を切る。断面箱形、坑底は平坦。(規模)不明。(深さ)0.32m。(覆土)1層。粘性・締まりともに弱い、ローム・焼土粒子を含む黒褐色土。

[遺物] 西端付近で近世陶磁器9点(瀬戸・美濃窯産染付端反碗・小坏・碗・爛徳利など)がまとまって出土。一括投棄されたものと思われる。

[時期] 近世(19世紀中葉)。

[所見] ほぼ同一方向の長方形土坑、438・440・444号土坑(B1類)が集中する。

遺物 (第266図、第94表)

1は瀬戸窯産染付小杯、2は産地不明の陶器片口である。

〈第60地点〉

511号土坑

遺構 (第222図、第82表)

[位置] B・C-2グリッド。

[構造] 512号土坑と重複するが、切り合いは判断できなかった。また、地下室518号土坑を切る。(規模) 不明×1.02m。(深さ) 0.24m。(長軸方位) N-73°-W。(覆土) 1層。ローム粒子をやや多く、焼土・炭化物粒子を少し含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から瀬戸・美濃窯産天目茶碗(17世紀初頭)と同片口(17世紀末葉)各1点が出土。

[時期] 近世。

[所見] 北側が一段深くなることから、2基重複の可能性はある。

遺物 (第266図、第95表)

1は天目茶碗、2は碗形を呈する片口(Ⅱ類)である。

512号土坑

遺構 (第222図、第82表)

[位置] B-2・3、C-2グリッド。

[構造] 511号土坑との切り合いは不明。東西両端は一段深くなる。513・518号土坑、8号炉穴を切る。(規模) 6.45×0.72m。(深さ) 0.30m。(長軸方位) N-83°-W。(覆土) 1層。ローム粒子をやや多く、焼土・炭化物粒子を少し含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から瀬戸・美濃窯産尾呂茶碗(17世紀後葉～末葉か)、同志野丸皿と北関東系焙烙、鉄釘の各1点が出土。ほかに銅製品1点が出土。

[時期] 近世。

遺物 (第267図、第101表)

1は鍛造の角釘である。

513号土坑

遺構 (第222図、第82表)

[位置] B・C-3グリッド。

[構造] 512号土坑に切られ、216号住居跡、514号土坑、6号炉穴を切る。(規模) 6.11×0.62m。(深さ) 0.99m。(長軸方位) N-75°-W。(覆土) 1層。ローム粒子をやや多く、焼土・炭化物粒子を少し含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から有孔円盤鉄製品1点が出土。ほかに銅製品1点出土。

[時期] 近世。整地土との関連から17世紀末葉以降。

遺物 (第267図、第101表)

1は有孔円盤形の鉄製品であるが、周縁にはわずかに段が看取され、鉄銭の可能性もある。

515号土坑

遺構 (第222図、第82表)

[位置] B-3グリッド。

[構造] 7号炉穴を切る。(規模) 4.18 × 0.49m。(深さ) 0.16m。(長軸方位) N-80°-W。(覆土) 1層。

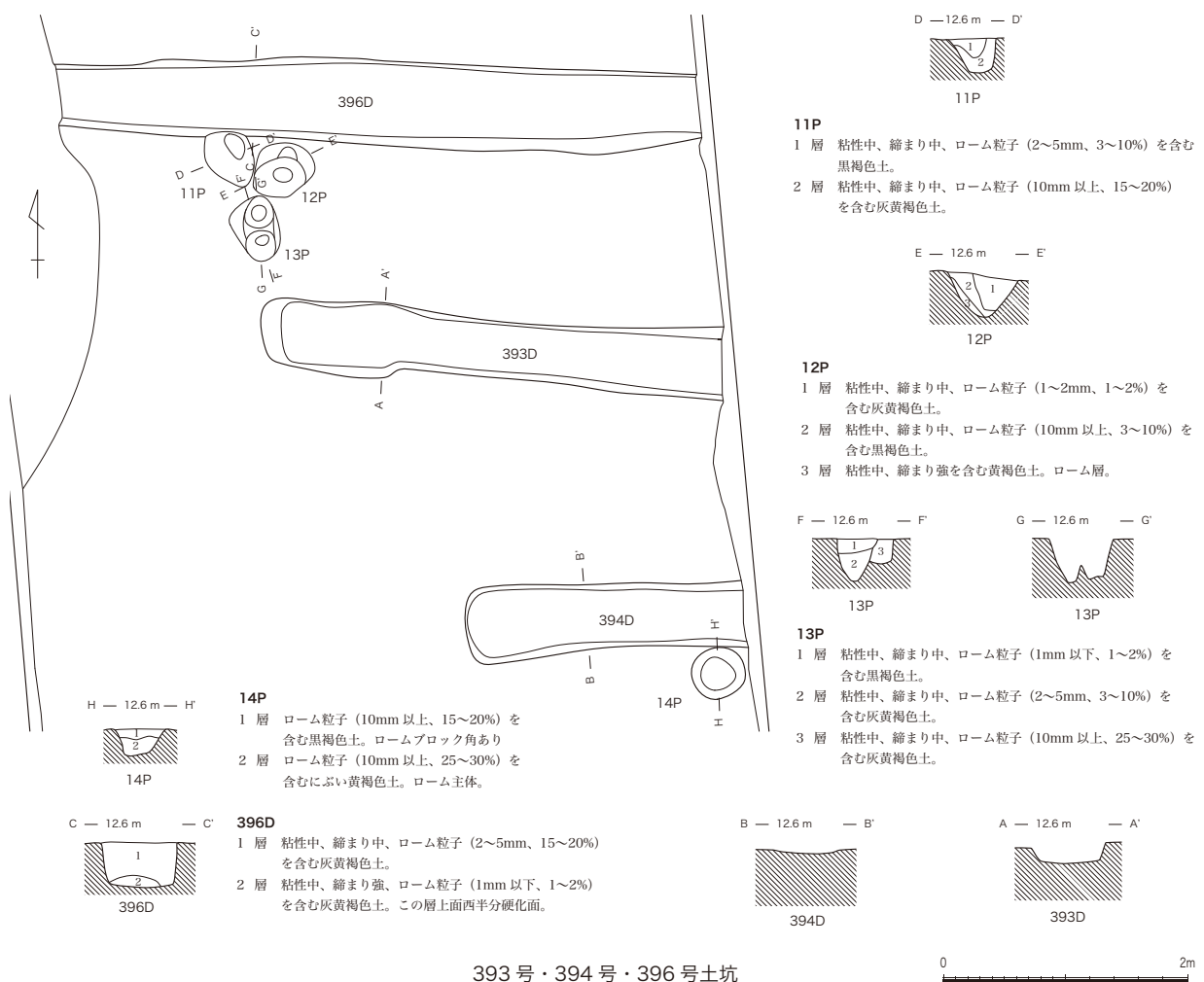
ローム粒子をやや多く、焼土・炭化物粒子を少し含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から瀬戸窯産鉄絵皿(17世紀前葉)1点が出土。

[時期] 近世。

遺物 (第267図、第95表)

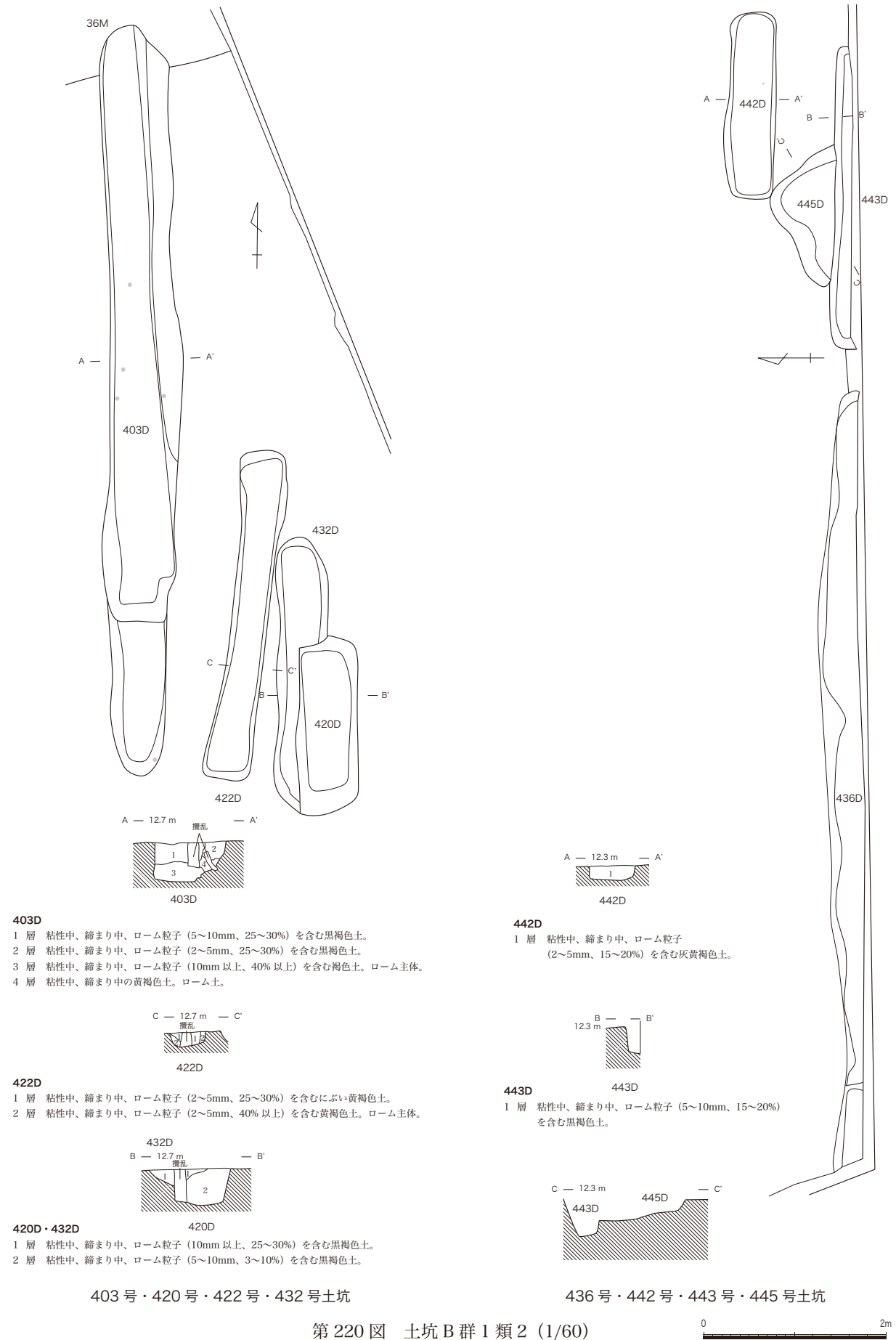
1は見込みに蘭竹文が描かれた鉄絵皿である。

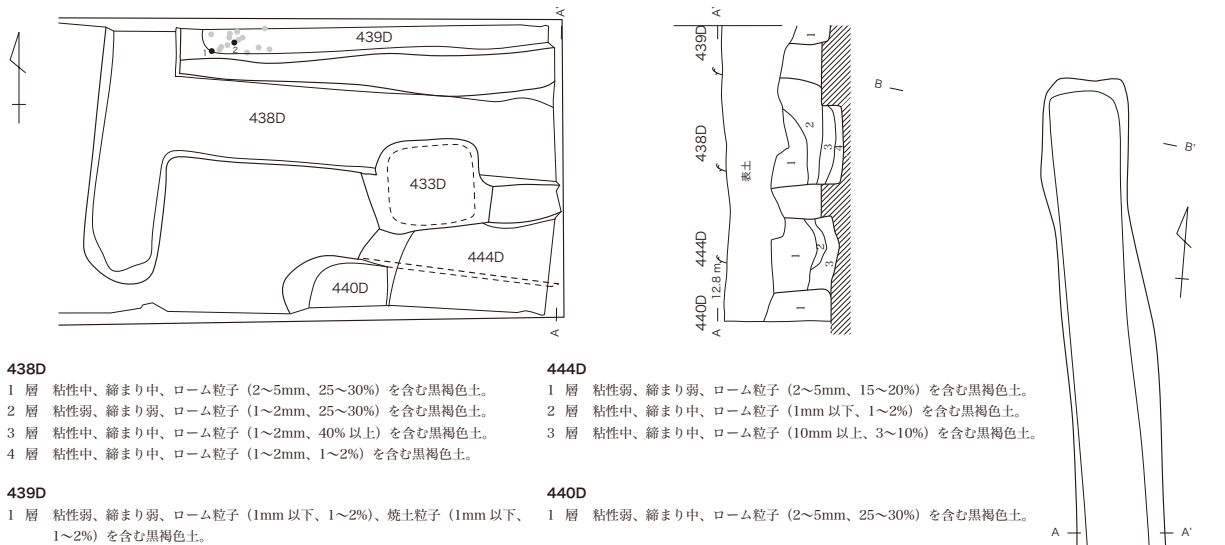


393号・394号・396号土坑

第219図 土坑B群1類1 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物





438D

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、25~30%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

444D

- 1 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含む黒褐色土。

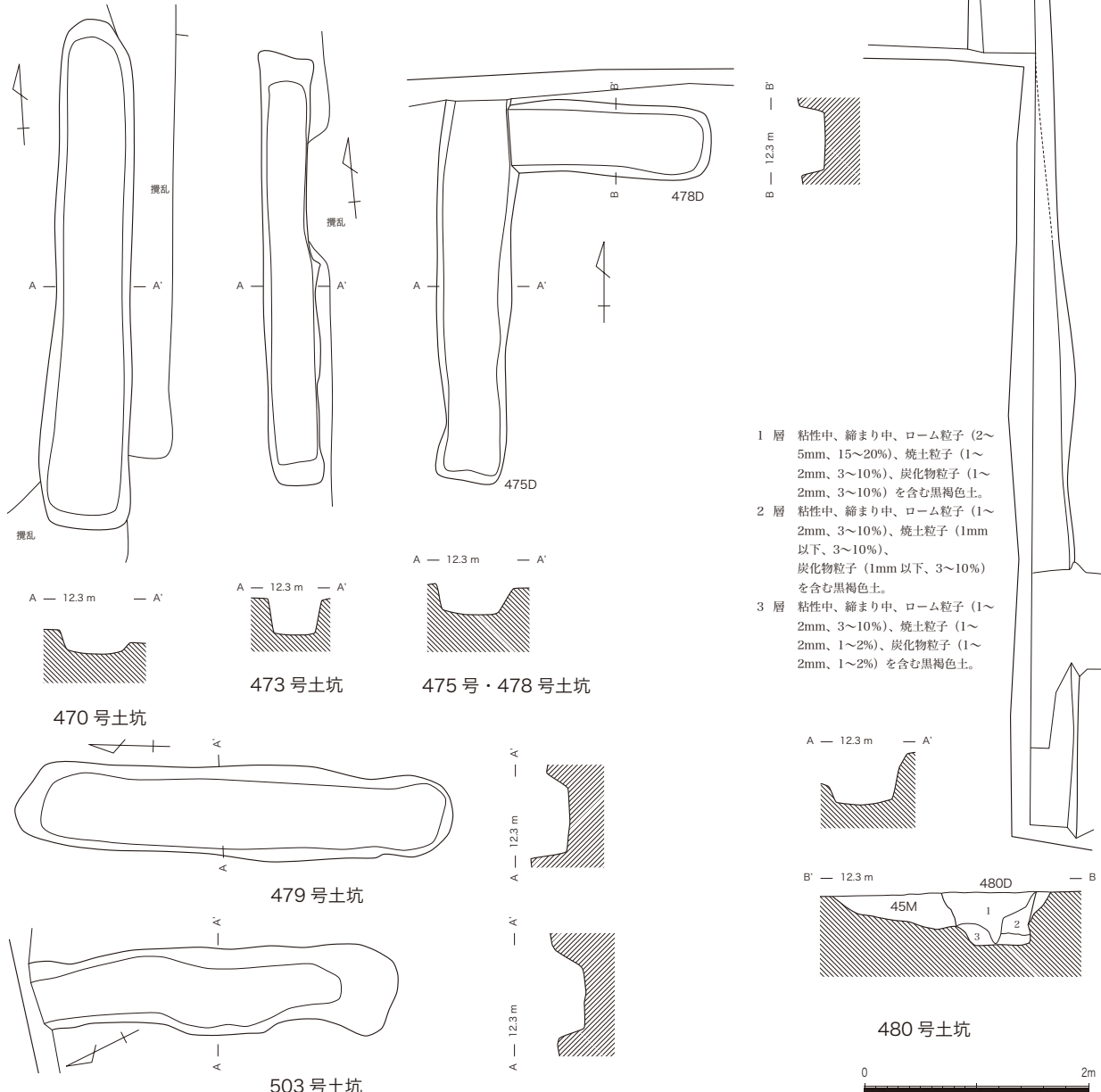
439D

- 1 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

440D

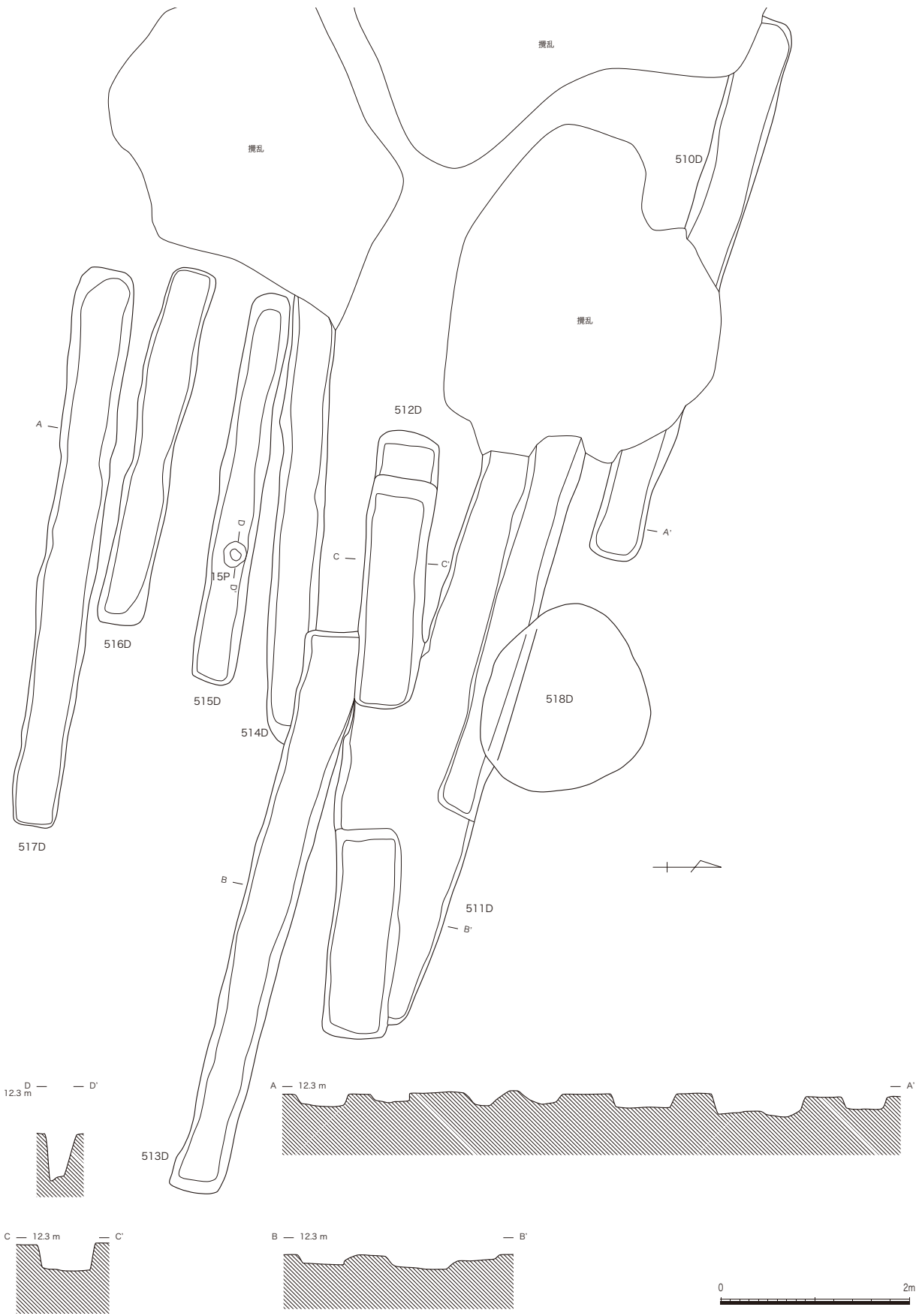
- 1 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。

438号・439号・440号・444号土坑



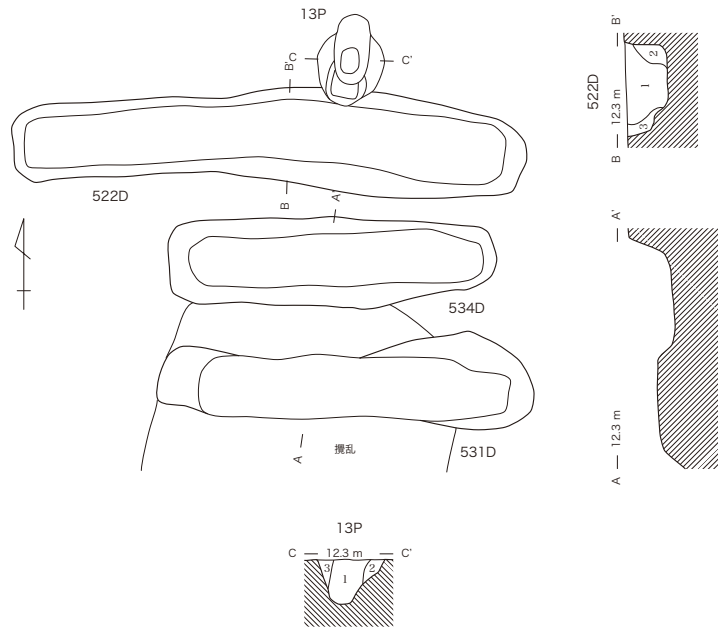
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

第21図 土坑B群1類3 (1/60)



510号～517号土坑

第222図 土坑B群1類4 (1/60)



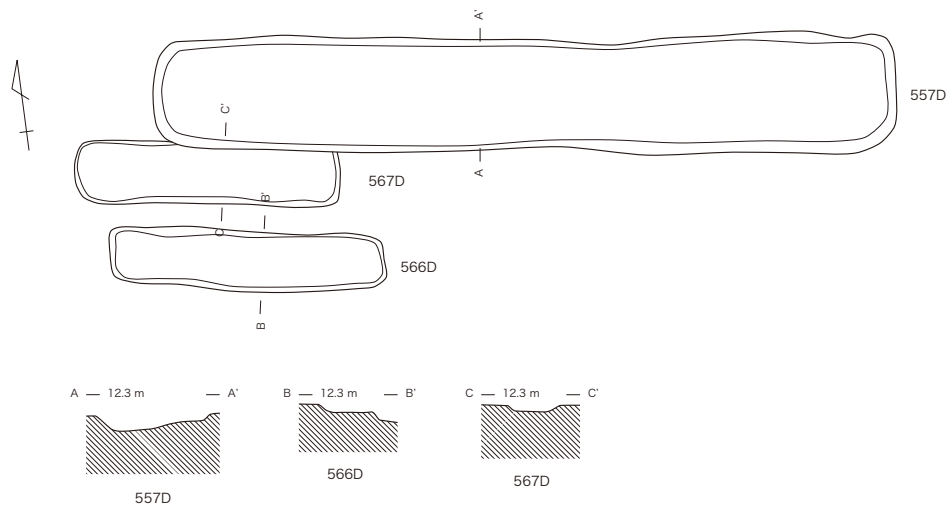
522D

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40%以上) を含む暗褐色土。ローム多。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%) を含む暗褐色土。東半の浅い土坑?

13P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、褐色土。掘りすぎ。

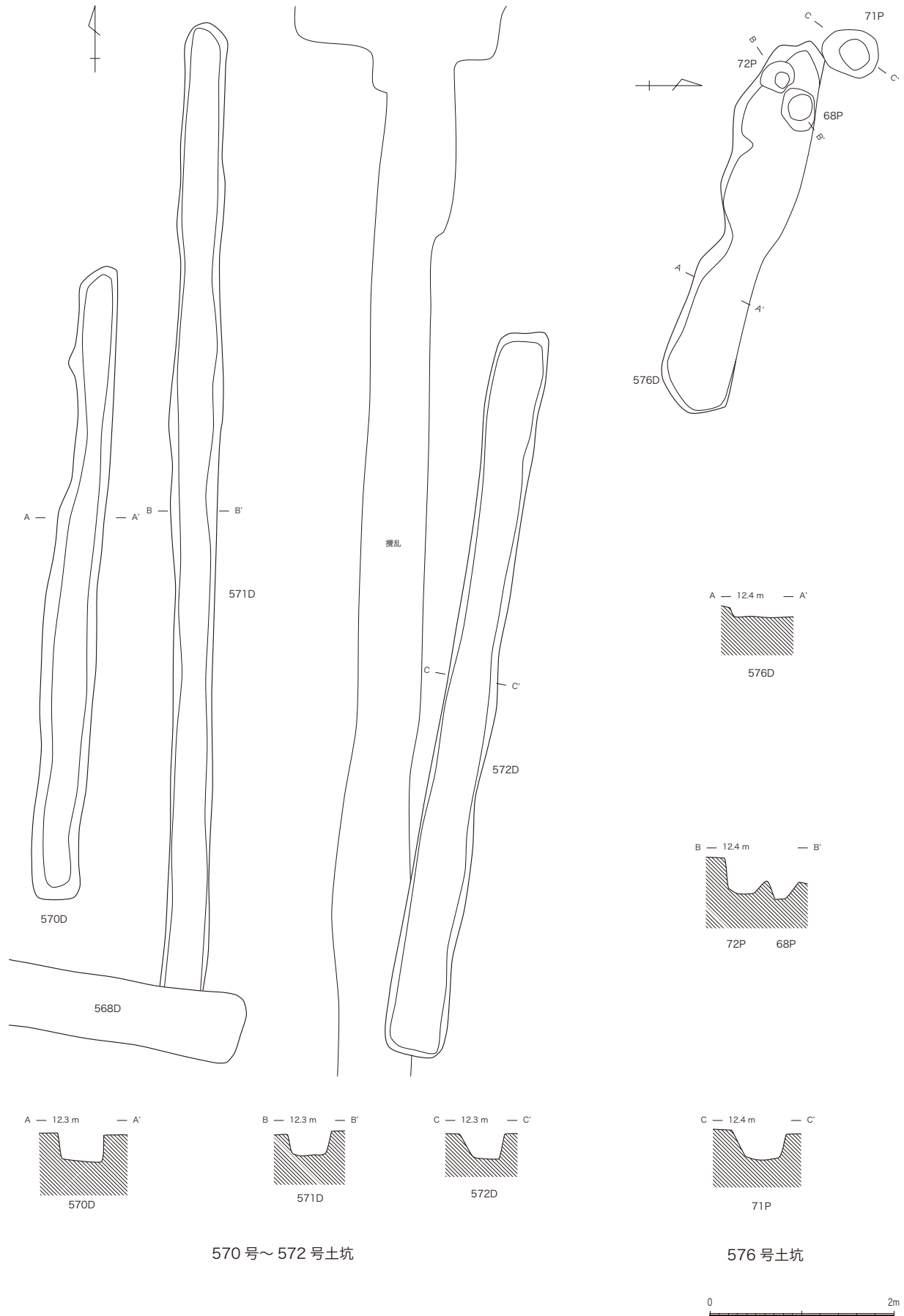
522号・531号・534号土坑



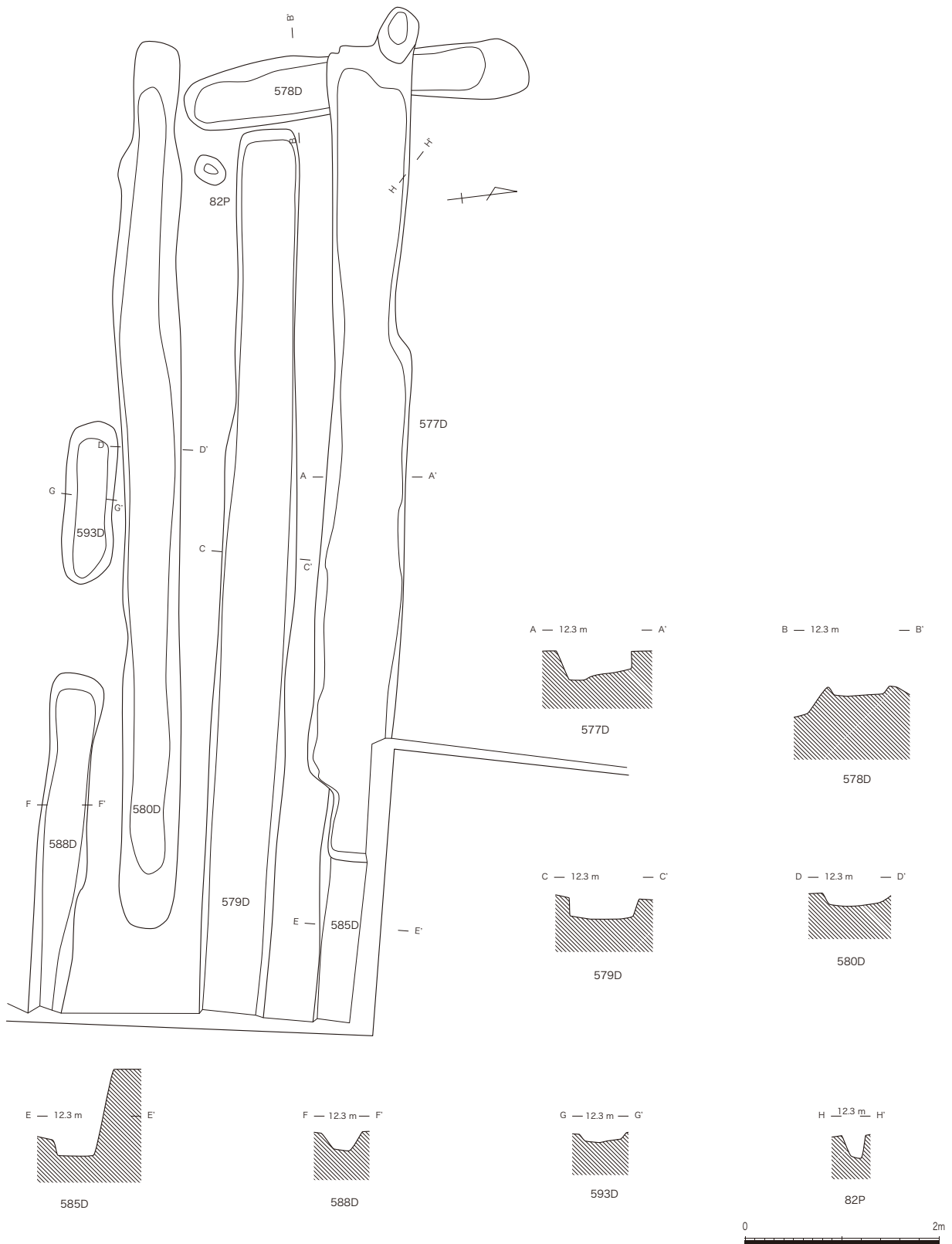
557号・566号・567号土坑



第223図 土坑B群1類5 (1/60)



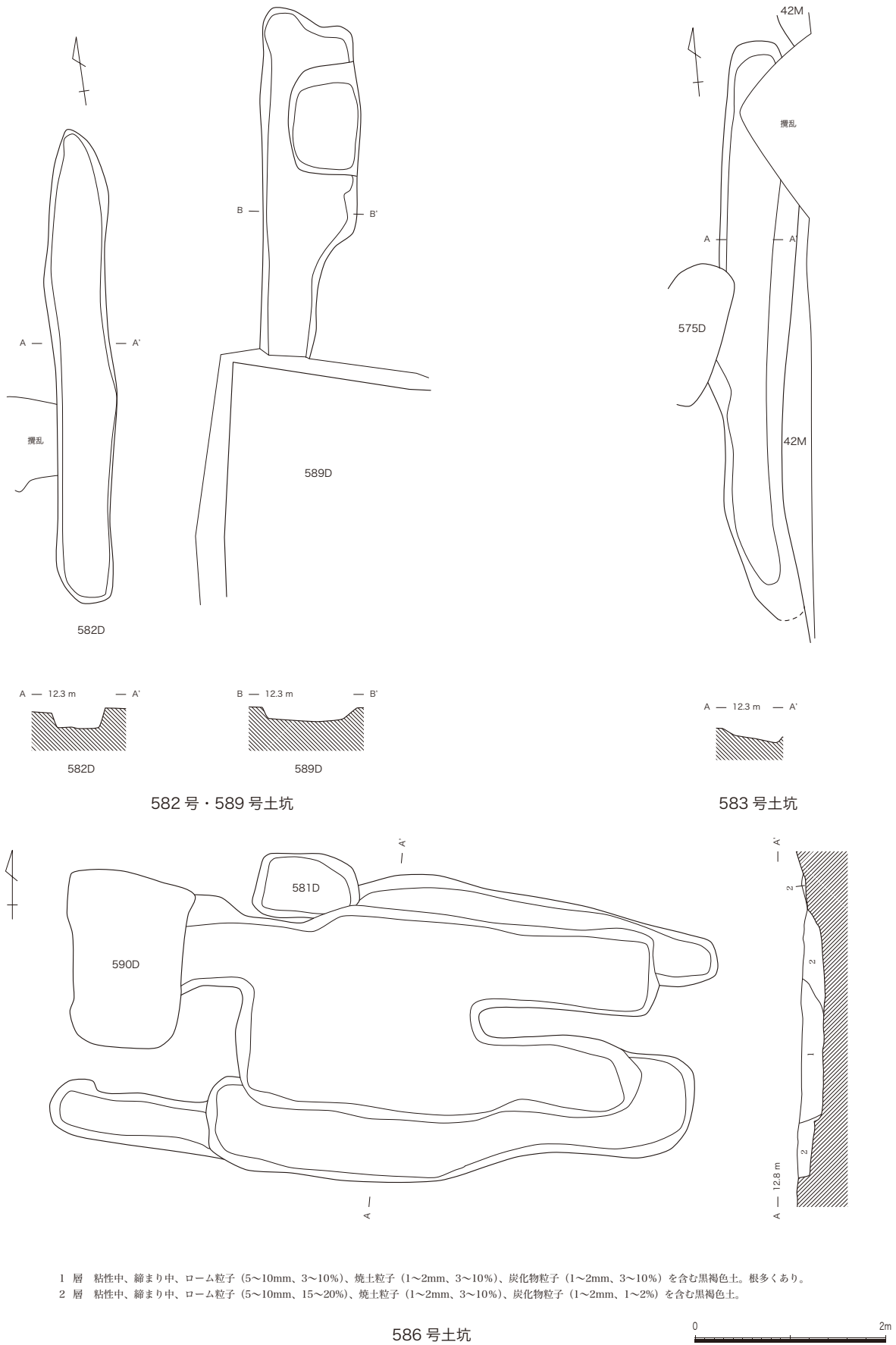
第224図 土坑B群1類6 (1/60)



577号～580号・585号・588号・593号土坑

第225図 土坑B群1類7 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



第226図 土坑B群1類8 (1/60)

2類 幅狭長方形土坑

長軸上に連続して並んだり、群集するものなどは、形態的には長軸の長さのみで1類との機能的区別は難しいと思われる。ただし、第60地点では調査区南西側に群集するものは、長軸方向をそろえるものの、同一軸線上には並ばない。これらのほとんどは、少ない遺物と覆土から近世のものと考えられるが、その中で幅が1m近くを測る547・548・591号土坑は、出土遺物から16世紀代のものと見られ、時期を異にする。

〈第58地点〉

392号土坑

遺構 (第227図、第81表)

[位置] 1区北半部。

[構造] 中世以降の遺構としては、南接する地下室401号土坑を除いて単独で存在する。断面逆台形、坑底はほぼ平坦。(規模)2.31×0.58m。(深さ)0.15m。(長軸方位)N-82°-E。(覆土)1層。ロームブロックを含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から、古墳時代後期の土師器破片5点、奈良・平安時代の須恵器1点、肥前系と見られる白磁碗1点と管状土錘1点が出土。

[時期] 近世。

遺物 (第263図、第96表)

管状土錘を図示した。

〈第60地点〉

547号土坑

遺構 (第230図、第82表)

[位置] C-5グリッド。

[構造] 203号住居跡を切る。(規模)2.97×1.22m。(深さ)0.26m。(長軸方位)N-5-E。(覆土)1層。ローム粒子を含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から土師質土器皿2個体分が出土。

[時期] 中世(15世紀末葉～16世紀代)。

[所見] 西側に同一規模・形態の548・591号土坑があり、本土坑と同じ土師質土器皿が出土している。

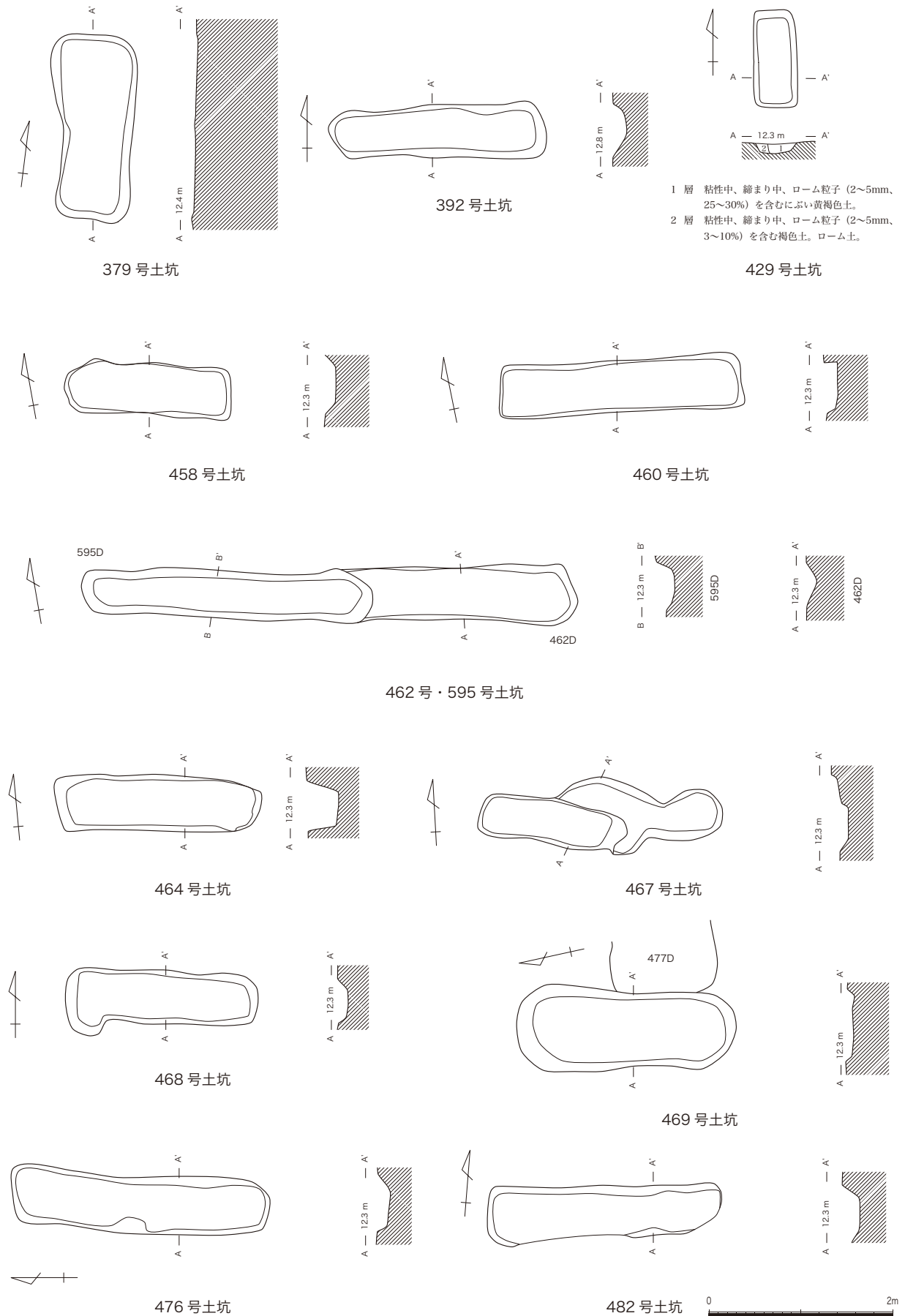
遺物 (第267図、第95表)

1は土師質土器皿(かわらけ)である。

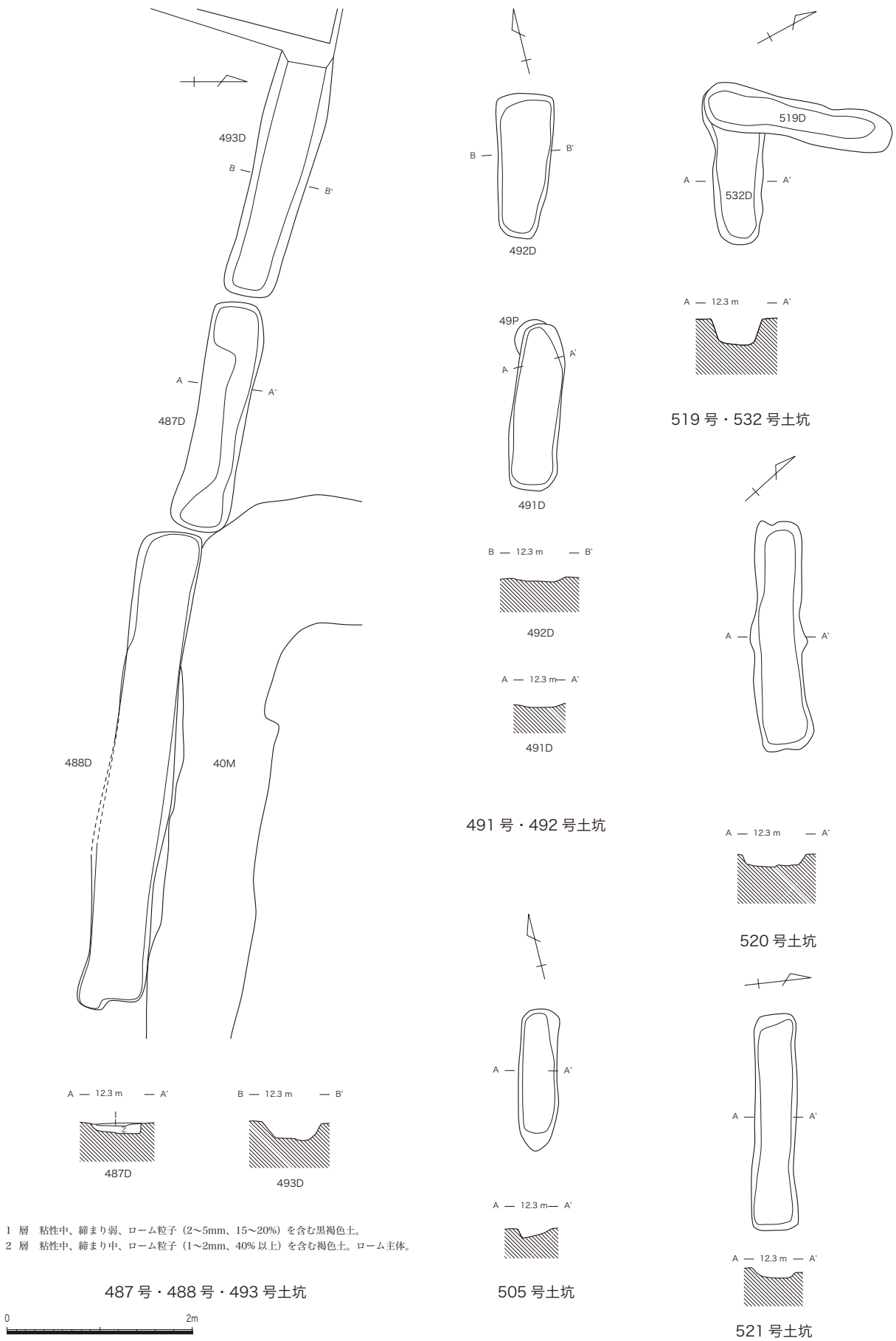
3類 幅広長方形土坑

553号土坑はいわゆる「竪穴遺構」とか「竪穴建物」と呼ばれるものであり、単なる土坑ではなく、「建物」と分類すべきかもしれない。しかし、「屋内の地下貯蔵庫」、つまり床下土坑と推定されるものも含み、類似遺構の評価が定まっていない現状から、便宜的に土坑に分類しておく。

第3章 検出された遺構と遺物

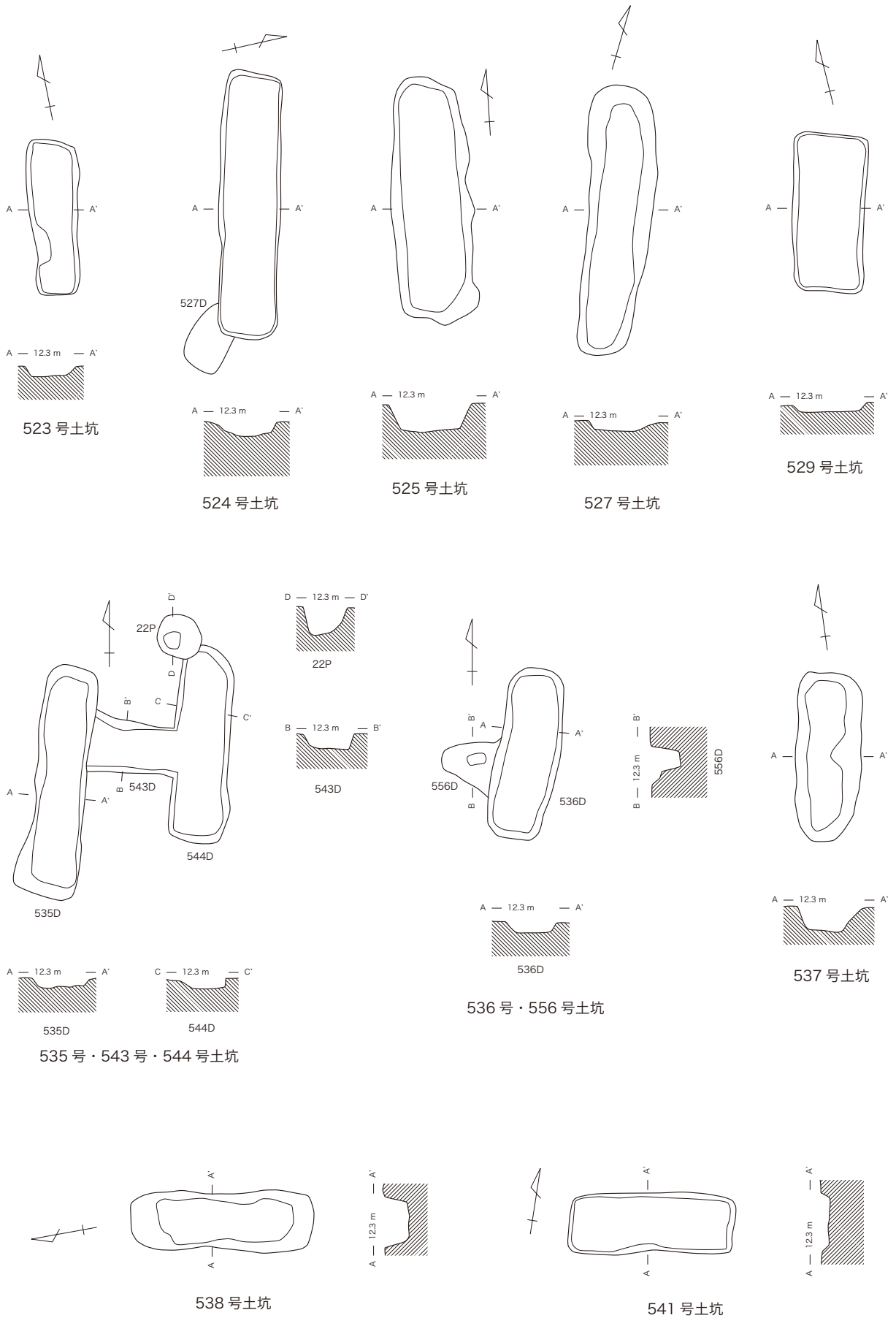


第227図 土坑B群2類1 (1/60)



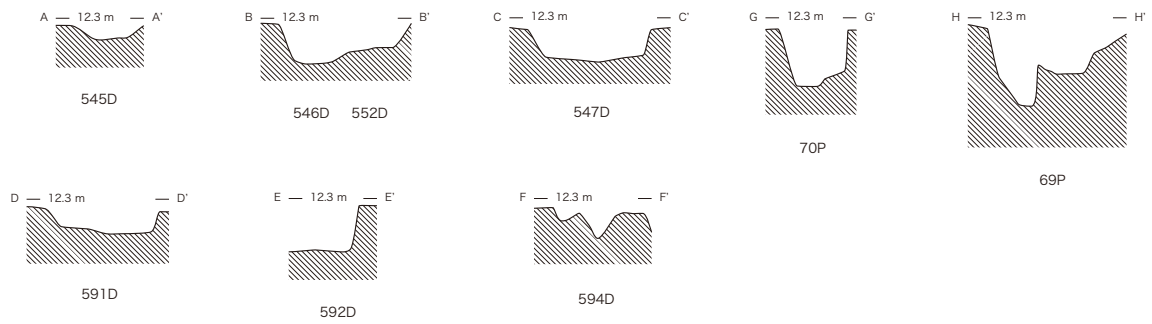
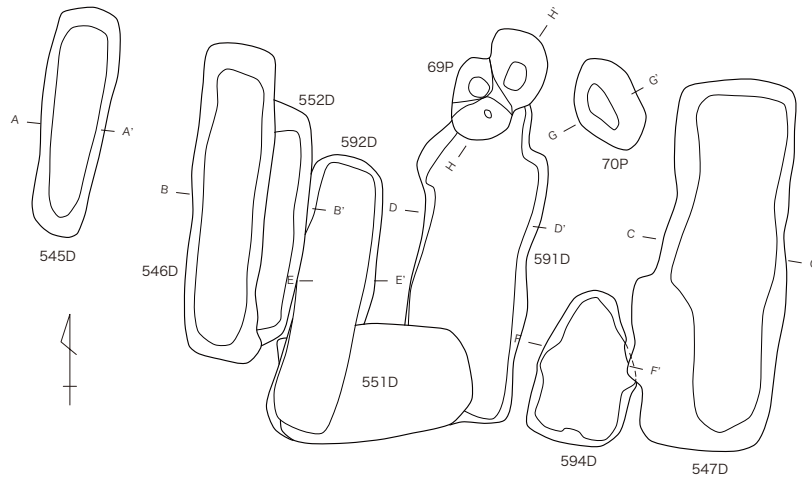
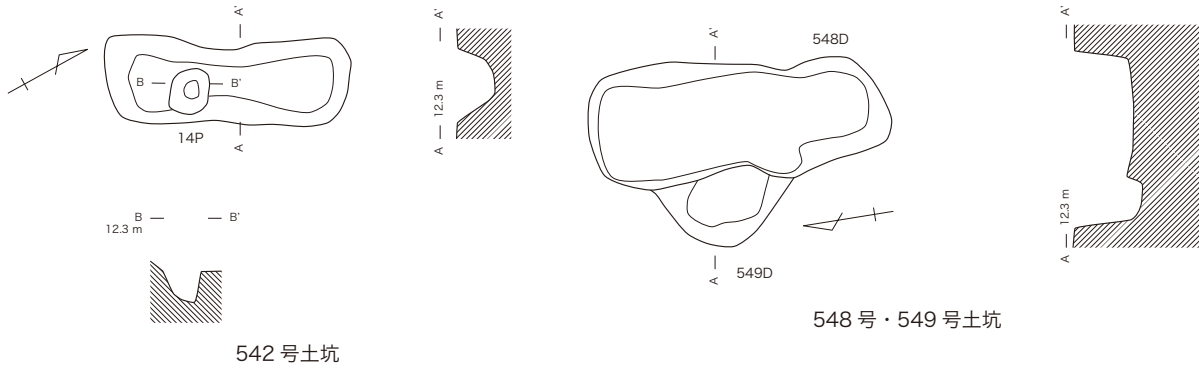
第228図 土坑B群2類2 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

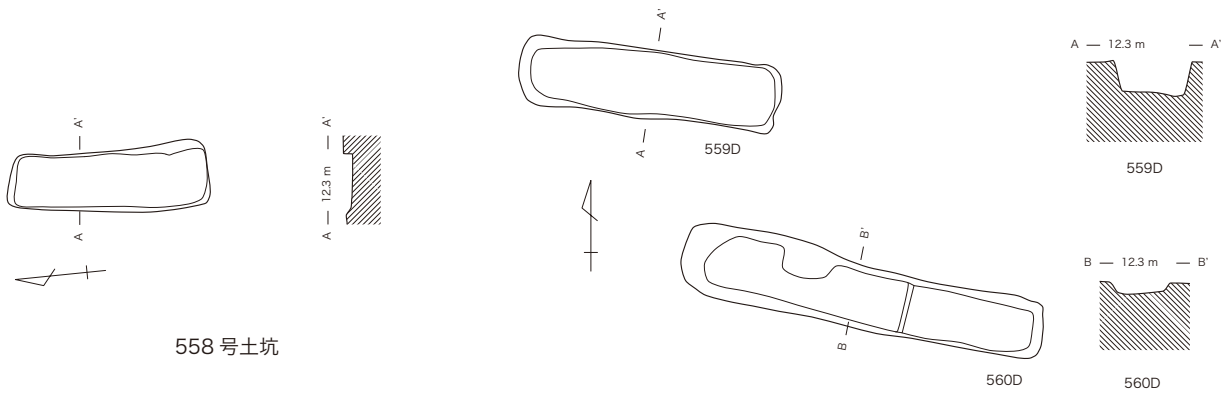


第229図 土坑B群2類3 (1/60)



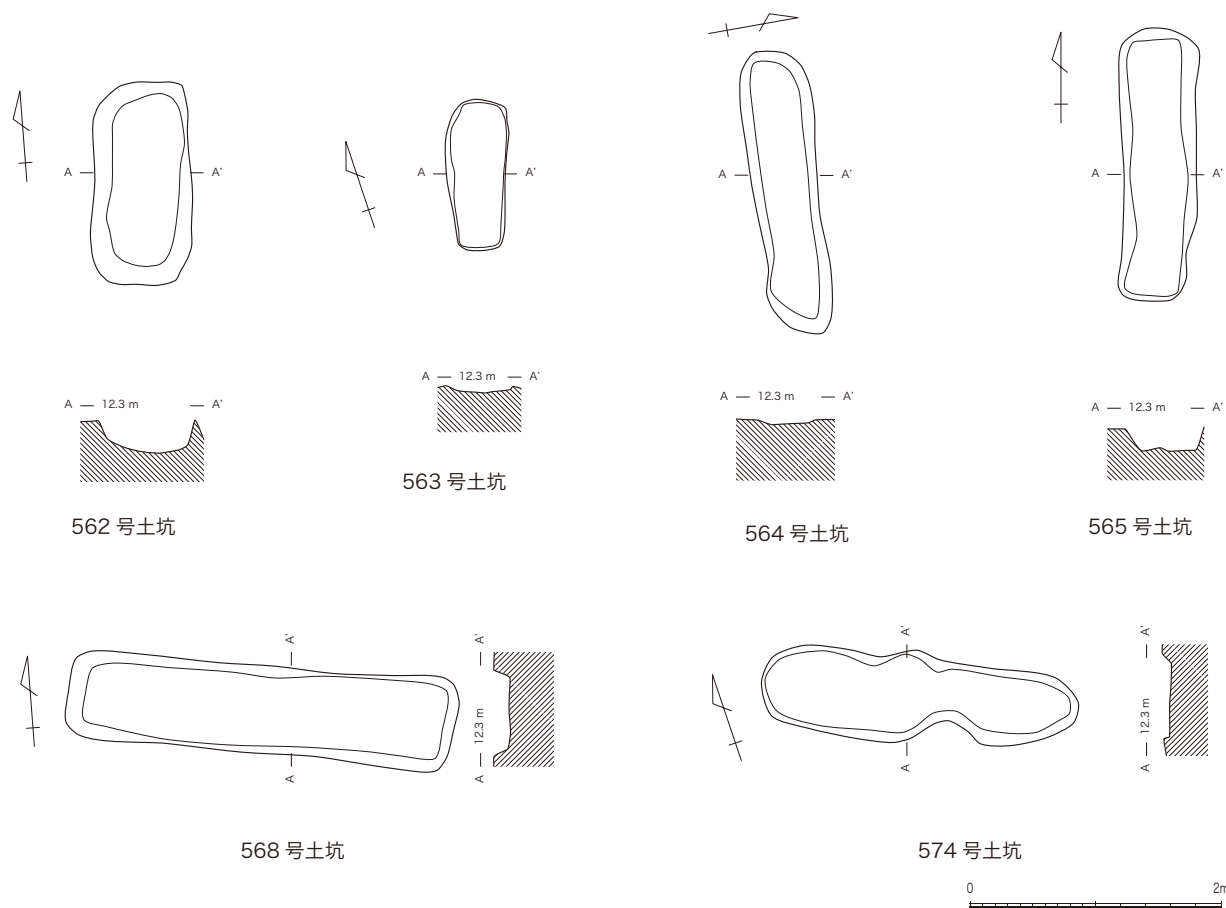


545号～547号・552号・591号・592号594号土坑



第230図 土坑B群2類4 (1/60)





第231図 土坑B群2類5 (1/60)

〈第58地点〉

381号土坑

遺構 (第232図、第81表)

〔位置〕 1区北半部。

〔構造〕 縄文時代の400号土坑と中世以降の384号土坑を切る。覆土の堆積状況から、南端の円形部分は別遺構の可能性はある。断面箱形、坑底は平坦。(規模) 3.51 × 1.27m。(深さ) 0.61m。(長軸方位) N-11°-W。(覆土) 4層。ロームブロックを含む黒褐色～暗褐色土。

〔遺物〕 覆土中から、瓦質碗が出土。

〔時期〕 中世 (14世紀後半～16世紀前半)。

遺物 (第263図、第95表)

1は瓦質の碗である。形状から中国・建窯の天目茶碗「建盞 (けんさん)」を忠実に写したものと考えられる。室町～織豊期の所産と思われる。

390号土坑

遺構 (第233図、第81表)

〔位置〕 1区北半部。

〔構造〕 165号住居跡を切る。断面逆台形、坑底付近のみを確認したものと思われる。(規模) 1.37

× 0.96m。(深さ) 0.24m。(長軸方位) N-87° -E。(覆土) 1層。ロームブロックを含む黒褐色土。

[遺物] 坑底付近で、捏ね鉢破片が出土。地下室 401 号土坑の出土破片と接合した。

[時期] 中世か。

[所見] 遺物の出土状況から、地下室 401 号土坑と同時期のものと考えられる。

遺物 (第 263 図、第 95 表)

1 は捏ね鉢である。在地産、中世のものと思われる。

413 号土坑

遺構 (第 234 図、第 81 表)

[位置] 1 区南半部。

[構造] 416 号土坑を切る。断面形は概ね箱形、坑底はほぼ平坦。(規模) 1.44 × 1.30m。(深さ) 0.28m。(長軸方位) N-88° -E。(覆土) 4層。締まりの弱い、ローム・炭化物粒子を含む褐灰色～灰黄褐色土。

[遺物] 覆土中に多量の陶磁器・土器・土製品・瓦・鉄製品・鉄滓(鍛冶滓)・銅製品・銭貨・砥石を含んでいた。また、ヒト(成人)の上顎犬歯 1 点とサトウガイ右殻 1 点が検出され、掘削中に白色粉末を確認した。

[時期] 近代(19 世紀後葉)。

[所見] ヒト上顎犬歯と白色粉末、銭貨の出土から、墓坑の可能性が考えられるが、その他の多種多量の出土遺物からは、廃棄土坑の可能性が高い。

遺物 (第 263～265 図、第 95・96・98・100・102 表)

磁器は小杯・碗(1～6)、蓮花(7)、陶器は瀬戸窯産大皿(8)・徳利(9)、土瓶(10)、灯明皿(11)、堺・明石系播鉢(12)、土器は江戸在地系乗燭(13)、台付灯明受皿(14)、灯明皿(15)、焼塩壺蓋(16)、土製品は軒丸瓦(17)、ミニチュア皿(18)、泥面子(19)、鉄製品は釘(20・21)、鋸(22～25)、棒状製品(26)、有孔円盤製品(27)、留金具(28)、銅製品は不明製品(29)、銭貨は寛永通寶(30～37)、文久永寶(38～41)、一銭銅貨(42)、砥石(43～47)、動物遺体はヒト上顎犬歯とサトウガイ(図版 88)を示した。

421 号土坑

遺構 (第 234 図、第 81 表)

[位置] 1 区南半部。

[構造] 壁及び坑底ともに凹凸が著しい。(規模) 2.29 × 1.26m。(深さ) 0.67m。(長軸方位) N-4° -W。(覆土) 3層。ロームブロックを多量に含む黄褐色～褐色土。

[遺物] 覆土中から瀬戸窯産天目茶碗(18 世紀中葉)が 1 点出土。

[時期] 近世(18 世紀中葉)。

〈第60地点〉

553号土坑

遺構 (第235図、第82表)

〔位置〕 B・C-4グリッド。

〔構造〕 平安時代の195号住居跡を切る。近世の536・541号土坑に切られる。(断面形) 箱形。(規模) 3.41×2.18m。(深さ) 0.39m。(長軸方位) N-85°-W。(床面) 全体的に良く硬化している。(柱穴) 南壁沿いと東西中軸に各3基の計6基。平面方形、角柱と考えられる。南壁沿いの柱穴は細く浅い。南壁の柱穴は壁あるいは隅に接し、東西壁中央の2基は壁に食い込む形で掘り込まれている。壁外柱穴は確認できなかった。(覆土) 3層。ロームブロック・粒子と焼土粒子を含む黒褐色土。第4・5層は別遺構の掘り込みの可能性が高い。

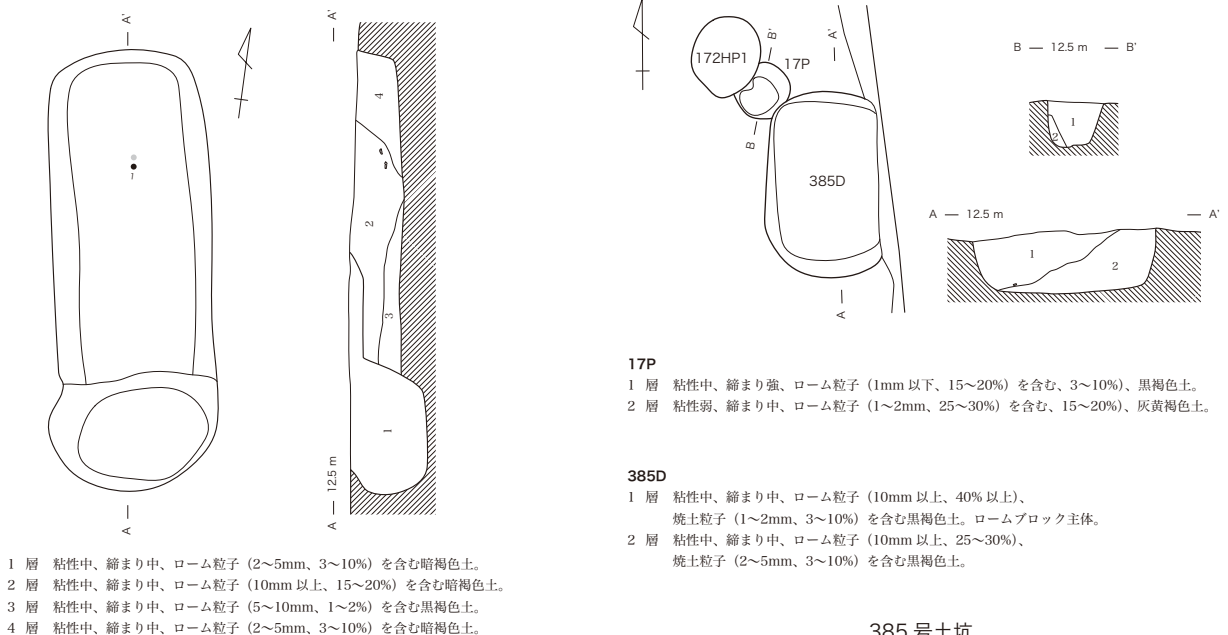
〔遺物〕 覆土中から土師質土器皿4個体分が出土。ほかに陶器・板碑が各1点ずつ出土。

〔時期〕 中世(15世紀末葉～16世紀代)。

〔所見〕 いわゆる「中世の竪穴遺構」、「方形竪穴建物」等として括られる遺構である。用途が推定される状況は確認できなかったが、本土坑は角柱であることと床面が硬化していることに特徴がある。また、北西側に近在する41号ピットからは、同時期の土師質土器皿が2点(うち1点は灯明皿に使用)出土している。

遺物 (第267図、第95表)

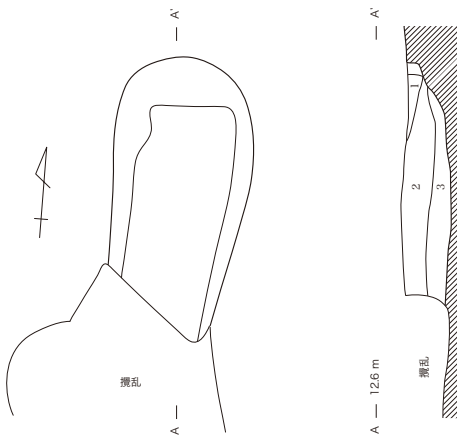
1・2は土師質土器皿(かわらけ)である。



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、3~10%)を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子(10mm以上、15~20%)を含む暗褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子(5~10mm、1~2%)を含む黒褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子(2~5mm、3~10%)を含む暗褐色土。

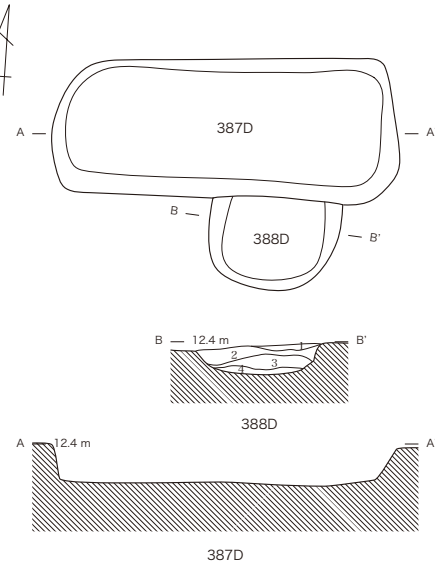
- 1層 粘性中、締まり強、ローム粒子(1mm以下、15~20%)を含む、3~10%、黒褐色土。
 - 2層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(1~2mm、25~30%)を含む、15~20%、灰黄褐色土。
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子(10mm以上、40%以上)、焼土粒子(1~2mm、3~10%)を含む黒褐色土。ロームブロック主体。
 - 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子(10mm以上、25~30%)、焼土粒子(2~5mm、3~10%)を含む黒褐色土。

第232図 土坑B群3類1 (1/60)



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3層 ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、粘土粒子 (10mm 以上、1~2%) を含む黒褐色土。粘土ブロックあり。

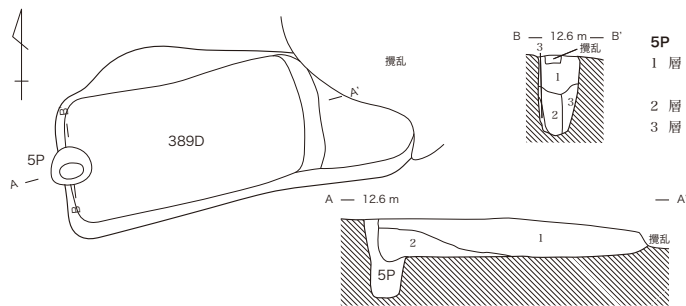
386号土坑



388D

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むふい土。ローム層。
- 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黒褐色土。黒色土間層 (ロームブロック混じり)。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む明黄褐色土。ローム層。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。黒色土層。

387号・388号土坑



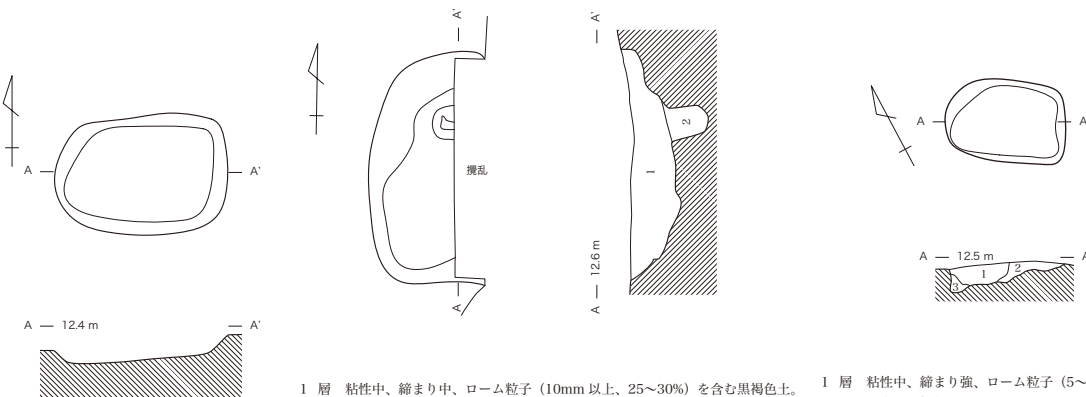
5P

- 1層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐灰色土。
- 2層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む褐灰色土。

389D

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む灰黄褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。

389号土坑



390号土坑

406号土坑

409号土坑

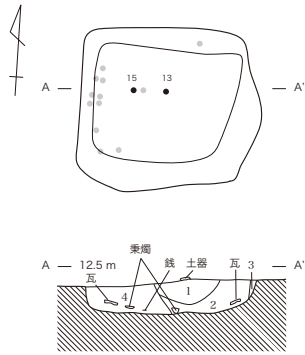
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。ビット状覆土掘り込み。1層よりやや黒い。ロームの含有も少なめ。

- 1層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中を含む褐色土。ローム主体。



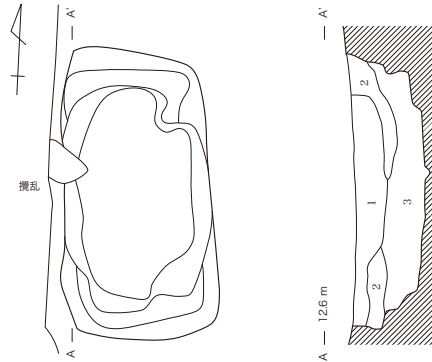
第233図 土坑B群3類2 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



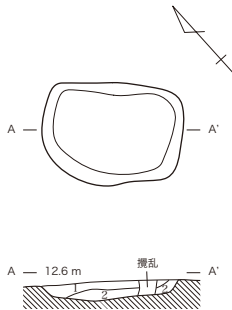
- 1 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐灰色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む灰黄褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、3~10%) を含む褐灰色土。焼土ブロック混入。

413 号土坑



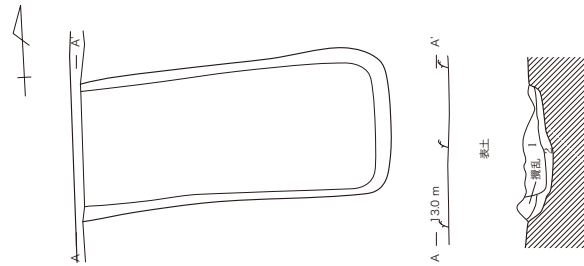
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むふい黄褐色土。ロームブロック多量に含む
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。ロームブロック多量に含む。

421 号土坑



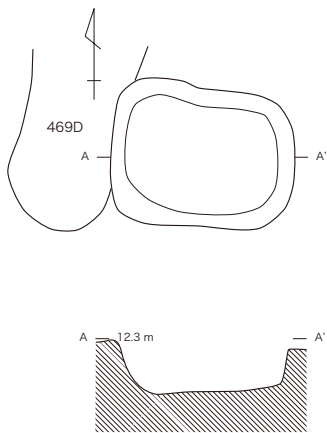
- 1 層 ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (5~10mm、1~2%) を含む黒褐色土。

430 号土坑

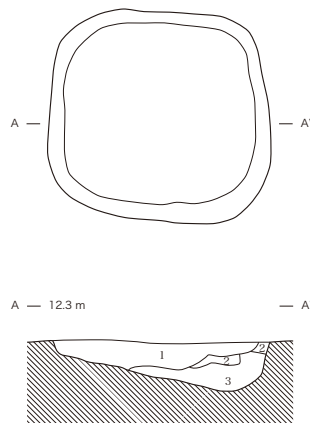


- 1 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。本層底面全面に広がる。

448 号土坑

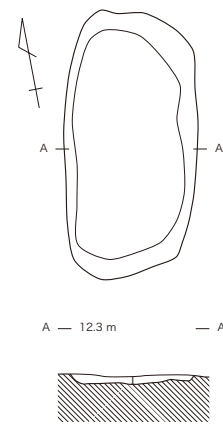


469D 号土坑



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中の黄橙色土。ロームブロックを含む。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。

495 号土坑

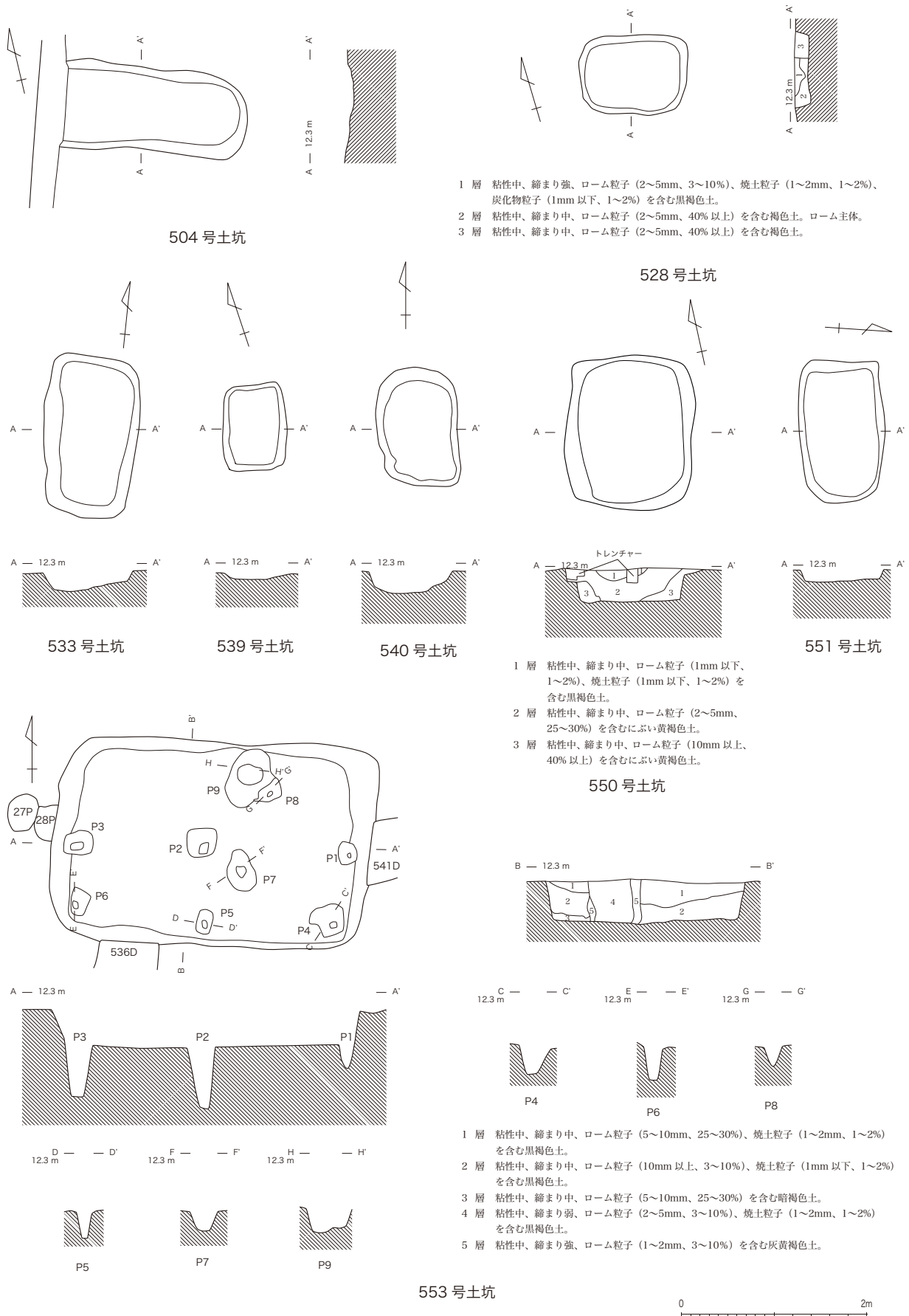


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む褐色土。

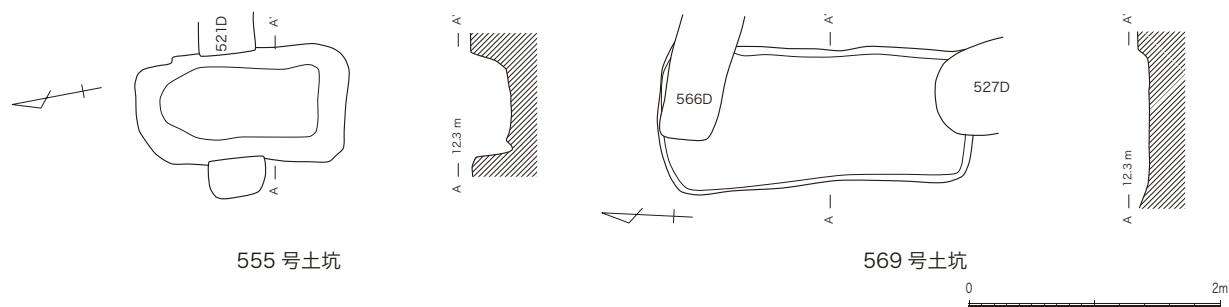
498 号土坑



第 234 図 土坑 B 群 3 類 3 (1/60)



第235図 土坑B群3類4 (1/60)



第236図 土坑B群3類5 (1/60)

C群 円形・楕円形の土坑

〈第58地点〉

399号土坑

遺構 (第237図、第83表)

〔位置〕 1区北半部。

〔構造〕 172号住居跡の床面で坑底付近のみ確認したが、坑底から20cm上で寛永通寶1点を検出。同住居跡覆土を掘り込む形の円形土坑であったと考えられる。坑底は概ね平坦。(規模) 0.83 × 0.70m。(深さ) 0.11m。(長軸方位) N-28°-E。(覆土) 坑底付近の2層のみ確認。

〔遺物〕 寛永通寶1点。

〔時期〕 近世。

遺物 (第263図、第102表)

1は寛永通寶。

〈第60地点〉

454号土坑

遺構 (第237図、第84表)

〔位置〕 E-4グリッド。

〔構造〕 断面箱形、底面は中央がやや高い。(規模) 1.39 × 1.37m。(深さ) 0.24m。

(覆土) 1層。ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色土。

〔遺物〕 覆土中から北関東系焙烙破片が1点出土。

〔時期〕 近世。

〔所見〕 付近に同一規模・形態の土坑が2基(455・456号土坑)存在する。

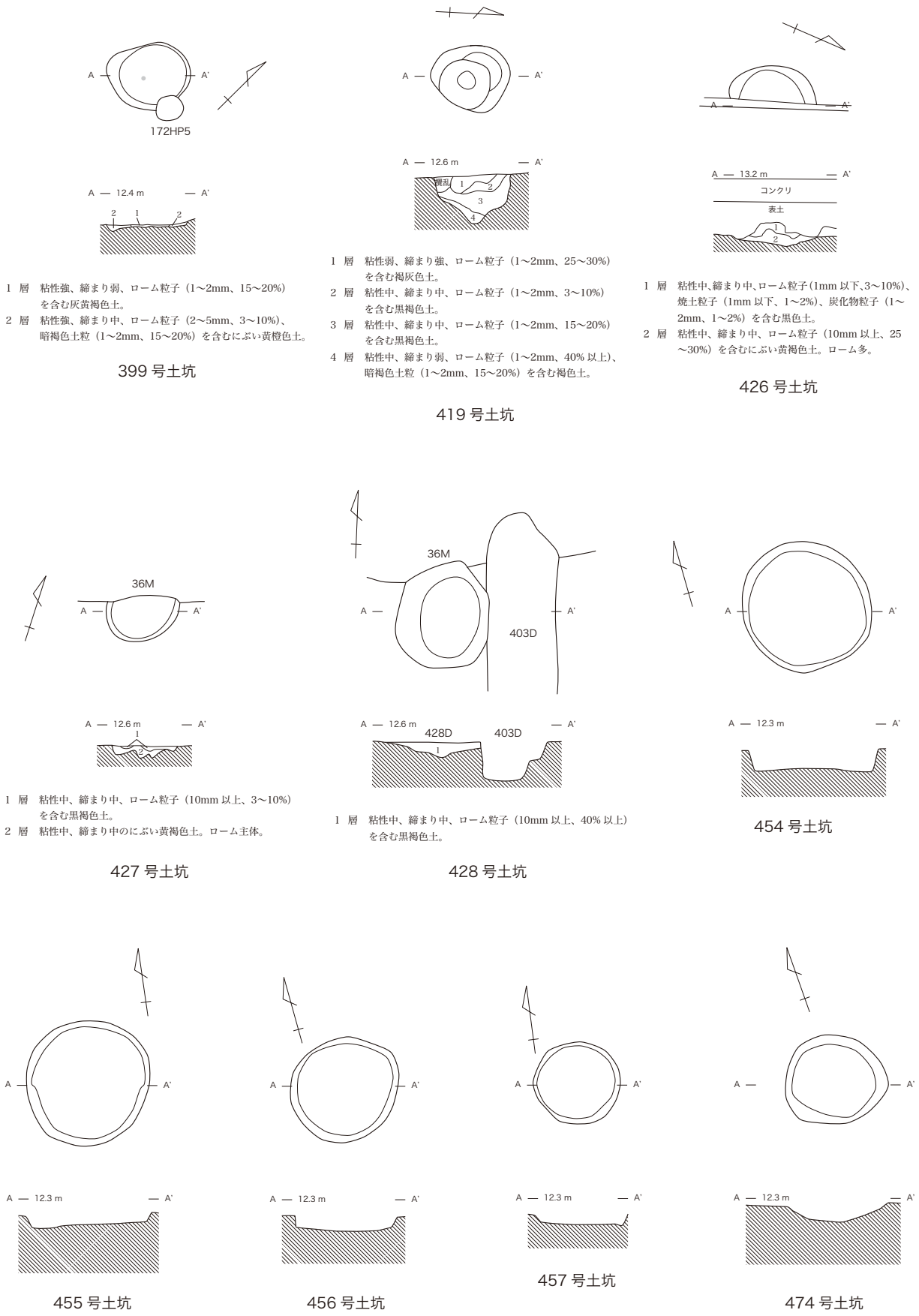
D群 不整形の土坑

〈第58地点〉

404号土坑

遺構 (第240図、第85表)

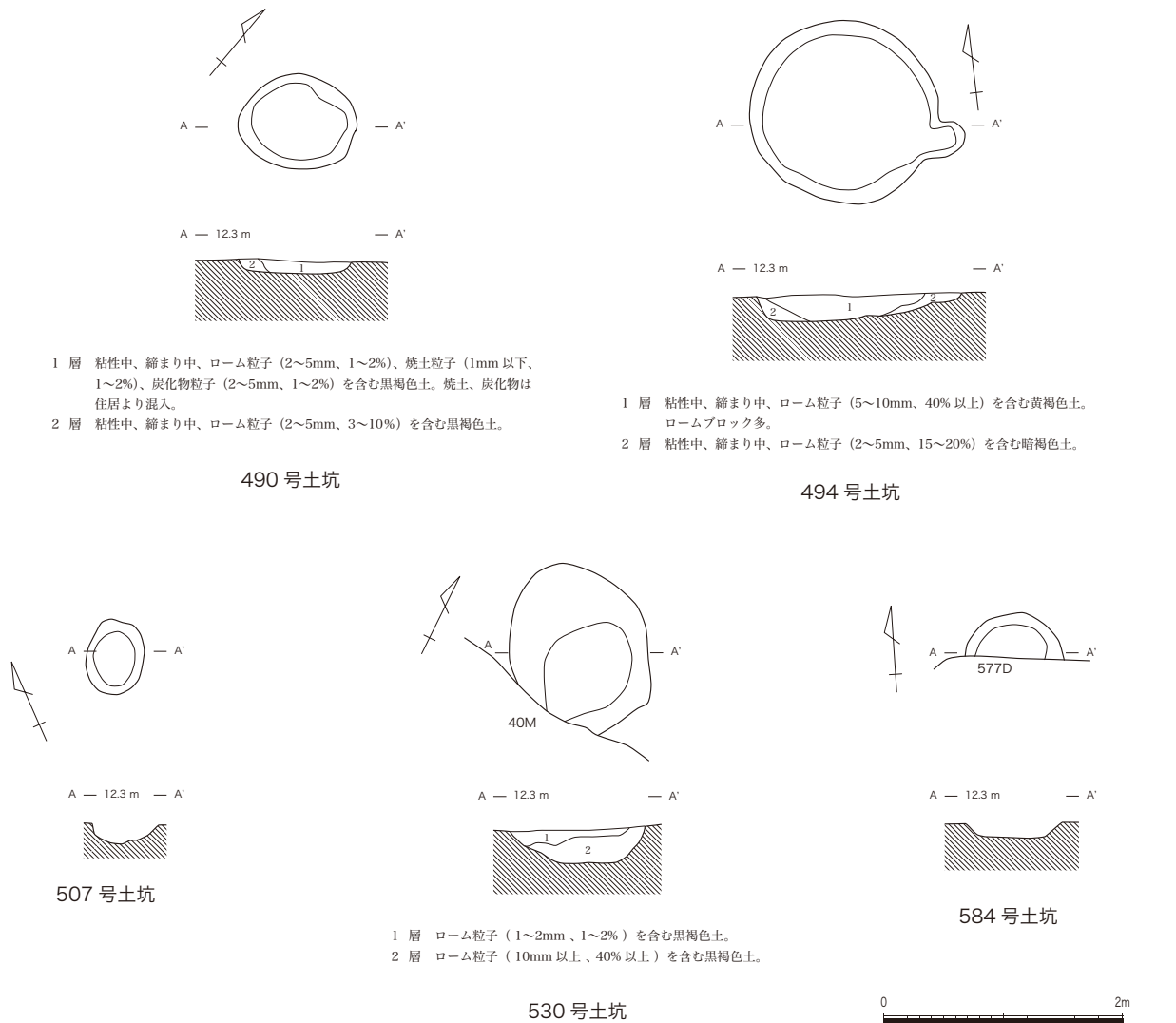
〔位置〕 1区南半部。



第237図 土坑C群1 (1/60)



第3章 検出された遺構と遺物



第238図 土坑C群2 (1/60)

〔構造〕西側は調査区域外。平面形は不明瞭で、図示した形状も確認面の状態である。坑底も安定した形状を示さず、調査区壁際にピット状の落ち込みを確認。(規模) 3.43m×不明。(深さ) 1.16m。(長軸方位) N-7°-W。(覆土) 4層。ロームブロックを多量に含む黄褐色土を基調とする。

〔遺物〕覆土中からは古墳時代後期の土師器破片4点のほか、鉄製品が出土したのみ。

〔時期〕近世か。

遺物 (第263図、第100表)

1は鑿と思われる鉄製品である。

414号土坑

遺構 (第241図、第85表)

〔位置〕1区南半部。

〔構造〕東側は第28地点調査区で掘削されている。415号土坑を切る。小型の土坑と見られる。(規模)

0.94m×不明。(深さ)0.24m。(長軸方位)N-8°-E。(覆土)2層。ローム・炭化物粒子を含む褐灰色土。

[遺物] 覆土中から信楽系陶器灯明皿、産地不明の染付碗、江戸在地系土器の鉢、北関東系焙烙と煙管吸口1点が出土。ほかに鉄製品が1点出土。

[時期] 近世(19世紀代)。

遺物 (第265図、第100表)

煙管吸口を図示した。

415号土坑

遺構 (第241図、第85表)

[位置] 1区南半部。

[構造] 414号土坑に切られる。平面形・坑底ともに形状が安定しない。(規模)1.02×0.99m。(深さ)0.19m。(長軸方位)N-23°-W。(覆土)3層。ローム・炭化物粒子を含む灰黄褐色土。

[遺物] 覆土中から古墳時代後期の土師器破片2点と燻し瓦破片1点、不明鉄製品1点が出土。

[時期] 近世

遺物 (第265図、第100表)

1は板状を呈する鉄製品。刃部等は確認できない。

416号土坑

遺構 (第241図、第85表)

[位置] 1区南半部。

[構造] 調査区域南端、大半は区域外。413号土坑に切られる。周辺は廃棄木材を含む攪乱が著しく、掘方も判然としない部分があった。(規模)1.07m×不明。(深さ)0.30m。(長軸方位)N-71°-E。(覆土)2層。ロームブロック・焼土粒子を含む褐灰色～黒褐色土。

[遺物] 覆土中から、堺・明石系播鉢、平戸・波佐見系染付碗、江戸在地系土器の乗燭、中皿、北関東系焙烙、土製品などが出土。

[時期] 近世(19世紀代)。

[所見] 出土遺物の様相から、413号土坑との関連するものと思われる。廃棄土坑か。

遺物 (第265図、第96表)

1は型押し土製品の魚形の像である。

435号土坑

遺構 (第242図、第85表)

[位置] 2区。

[構造] 南北は調査区域外。大きく緩やかな掘方を呈する。181・182号住居跡を切る。(規模)不明×2.71m。(深さ)0.35m。(覆土)5層。ロームブロック・粒子を含む黒褐色～黄褐色土。

[遺物] 覆土中から堺・明石系播鉢、唐津産鉢、瀬戸・美濃窯産の天目茶碗・高田徳利・陶胎染付箱形湯呑・染付端反碗、江戸在地系土器の灯明受皿、北関東系焙烙などが出土。

[時期] 近世（19世紀中葉）。

[所見] 掘方が今一つはっきりせず、同様の傾向を示す第60地点の46号溝跡に関連する遺構と思われる。

遺物（第266図、第95表）

1は堺・明石系播鉢である。

〈第60地点〉

459号土坑

遺構（第243図、第86表）

[位置] D・E-4グリッド。

[構造] 断面箱形、底面は平坦。（規模）1.18×1.04m。（深さ）0.25m。（長軸方位）N-32°-W。（覆土）1層。ローム粒子をやや多く、炭化物粒子を少し含む黒褐色土。

[遺物] 古墳時代後期の土師器と奈良時代の須恵器破片各1点のほか、瀬戸・美濃窯産播鉢（15世紀後半～16世紀中葉）1点、砥石1点、礫3点が出土。砥石と礫はいずれも被熱赤化、黒色物が付着。

[時期] 中世（15世紀後半～16世紀中葉）。

[所見] 遺物はまとまって出土したが、遺構には特筆すべき状況はない。

遺物（第266図、第95・99表）

1は播鉢の底部破片で、外面胴体部下半はナデ調整。内面掘り目は摩耗している。2は砥石である。

465号土坑

遺構（第244図、第86表）

[位置] G-4グリッド。

[構造] 北側は調査区域外。方形の土坑の可能性あり。（規模）1.85m×不明。（深さ）不明。（長軸方位）N-90°-E。（覆土）ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から瀬戸・美濃窯産煙硝播（17世紀後葉～末葉）1点、堺・明石系播鉢1点、砥石1点が出土。

[時期] 近世（19世紀代）。

遺物（第266図、第94・99表）

1は堺・明石系播鉢、2は砥石である。

561号土坑

遺構（第245図、第86表）

[位置] D-1グリッド。

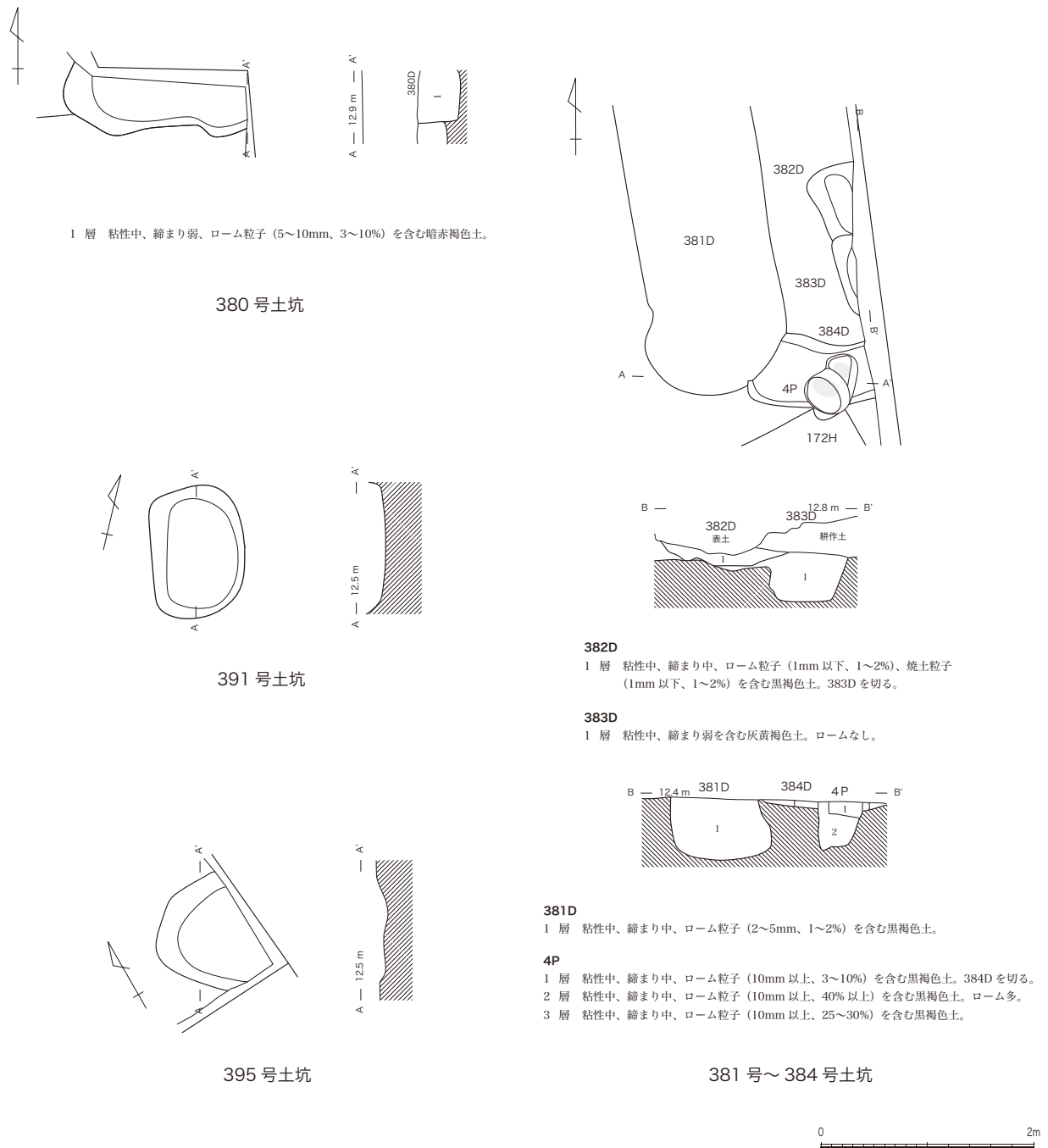
[構造] 198・215号住居跡の覆土中に構築。掘方はきわめて不整形。(規模) 1.88 × 1.57m。(深さ) 40.4m。(長軸方位) N-16°-E。(覆土) 1層。ロームブロックを多量に含む灰黄褐色土。

[遺物] 覆土中から堺・明石系播鉢2点と燻し瓦1点が出土。

[時期] 近世(19世紀代)。

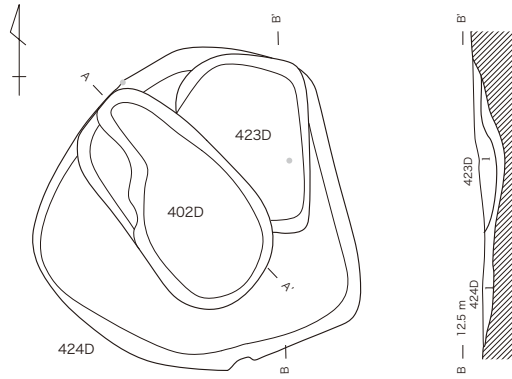
遺物(第267図、第95表)

1は堺・明石系播鉢である。



第239図 土坑D群1(1/60)

第3章 検出された遺構と遺物

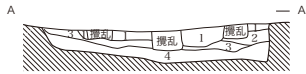


423D

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、
焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

424D

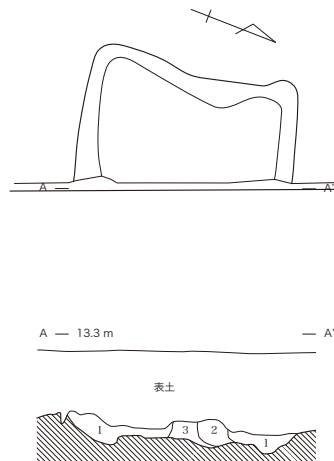
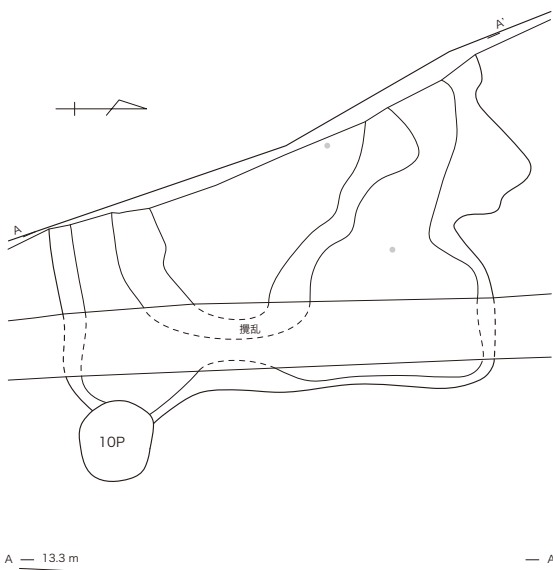
1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。
ロームブロック多量。



402D

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む褐色土。
2 層 粘性中、締まり中の黒色土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む褐色土。

402号・423号・424号土坑



1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)
を含む黒褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)
を含む黒褐色土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。ローム多。

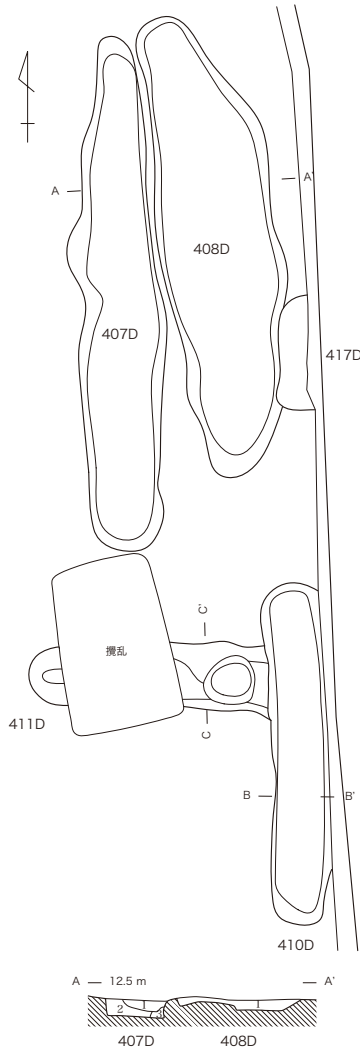
405号土坑

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%) を含む黒褐色土。
4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むにぶい黄褐色土。ローム土。

404号土坑



第240図 土坑D群2 (1/60)



407D セクション

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (2~5mm, 1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 40% 以上) を含む褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強の黄褐色土。ロームブロック。

408D セクション

- 1 層 ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

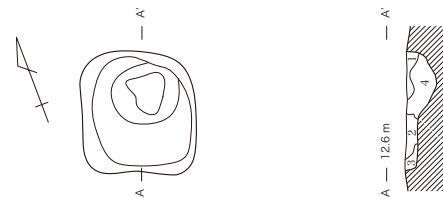
410D セクション

- 1 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む灰黄褐色土。

411D セクション

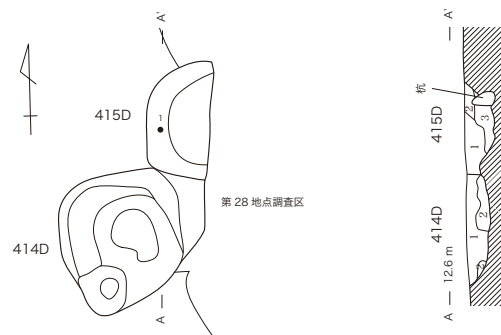
- 1 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (2~5mm, 40% 以上) を含む灰黄褐色土。

407号・408号・410号・411号土坑



- 1 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%)、ロームブロック (5~10mm, 3~10%)、酸化鉄 (1~2mm, 1~2%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む褐灰色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 25~30%)、酸化鉄 (1~2mm, 1~2%) を含む褐灰色土。
- 4 層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上)、酸化鉄 (1~2mm, 1~2%) を含むにぶい黄褐色土。

412号土坑



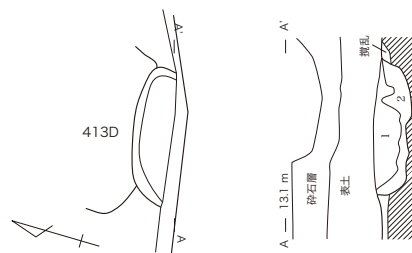
414D

- 1 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、ロームブロック (5~10mm, 3~10%) を含む黒褐色土。

415D

- 1 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%)、暗褐色土粒 (5~10mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm, 40% 以上)、暗褐色土粒 (1~2mm) を含むにぶい黄褐色土。

414号・415号土坑



- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐灰色土。下面に円礫数点。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む黒褐色土。

416号土坑



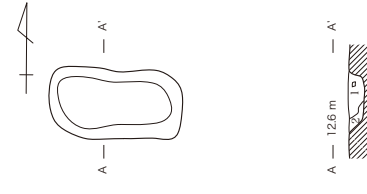
第241図 土坑D群3 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



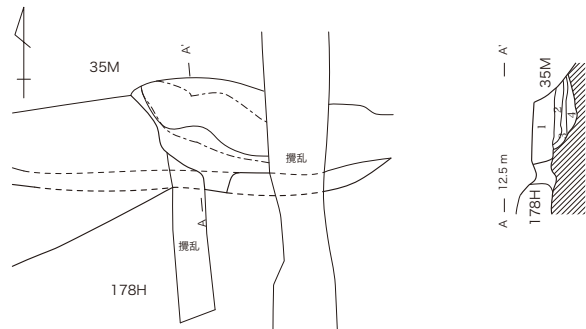
- 1 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、40%以上) を含むにぶい黄褐色土。
- 4 層 粘性弱、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む灰黄褐色土。

417号土坑



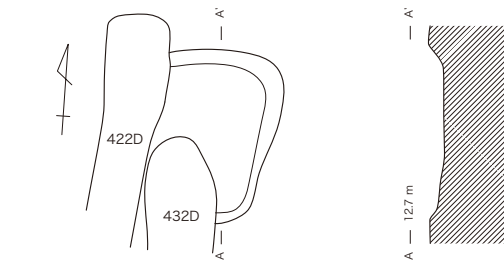
- 1 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1~2mm、15~20%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性強、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、暗褐色土粒 (1~2mm、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。

418号土坑

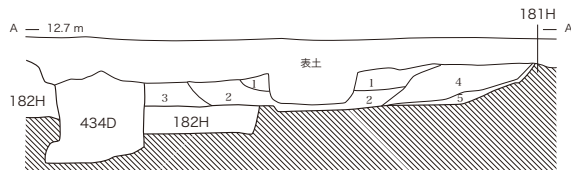
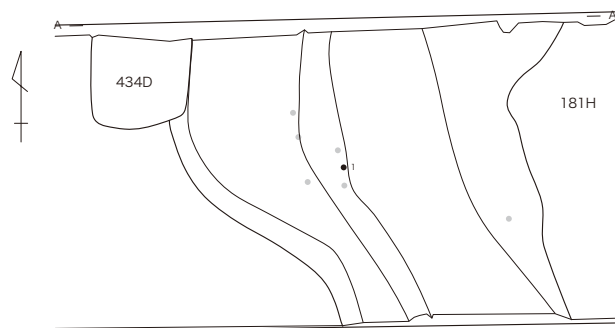


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む暗褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (2~5mm、15~20%) を含む灰黄褐色土。上面硬化。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (2~5mm、40%以上) を含む暗褐色土。焼土多。
- 4 層 粘性中、締まり中の黄褐色土。ローム土。

425号土坑

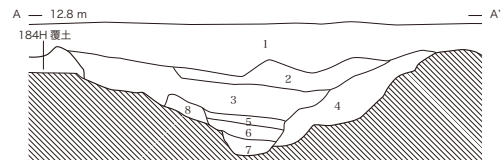
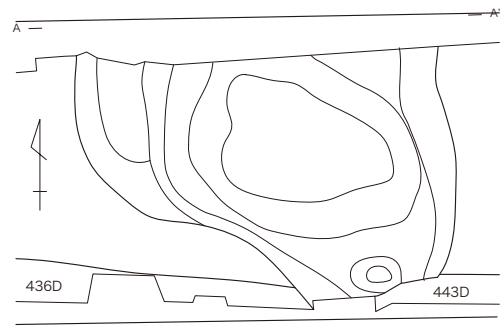


431号土坑



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、40%以上) を含む褐色土。ローム主体。

435号土坑

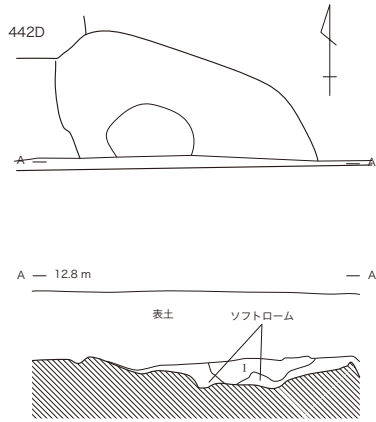


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、1~2%) を含む黒褐色土。小石多。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm以上、40%以上) を含む灰黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む灰黄褐色土。
- 6 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 7 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む灰黄褐色土。
- 8 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む灰黄褐色土。

437号土坑

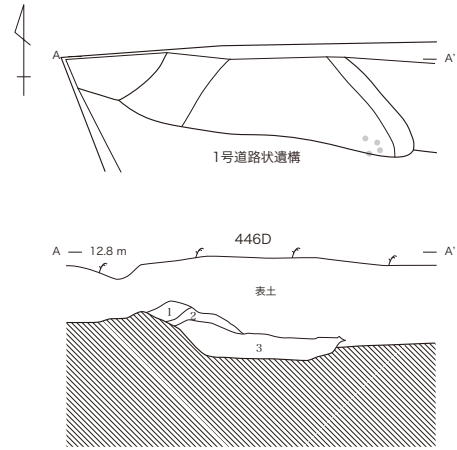
第242図 土坑D群4 (1/60)





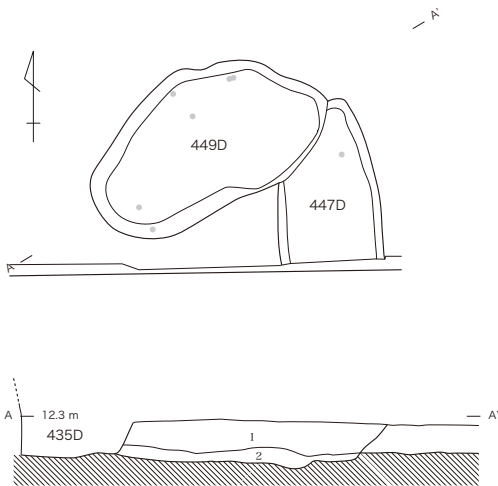
1層 ローム粒子 (5~10mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。441D 覆土。

441号土坑



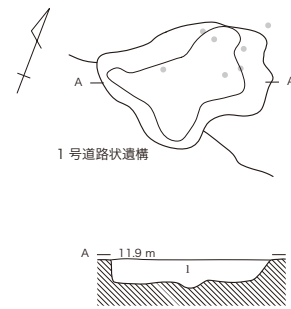
1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含む暗褐色土。
 2層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む暗褐色土。

446号土坑



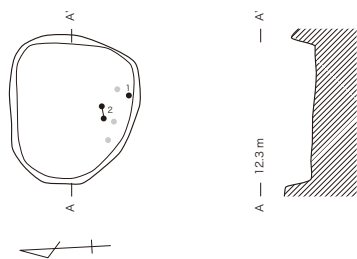
449D
 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む黒褐色土。ローム縮状 (水平)。
 2層 ローム粒子 (2~5mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。

447号・449号土坑

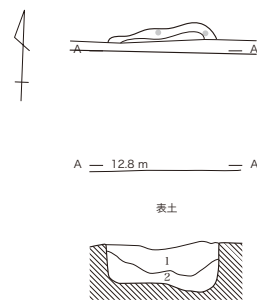


1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む黒褐色土。

450号土坑



459号土坑



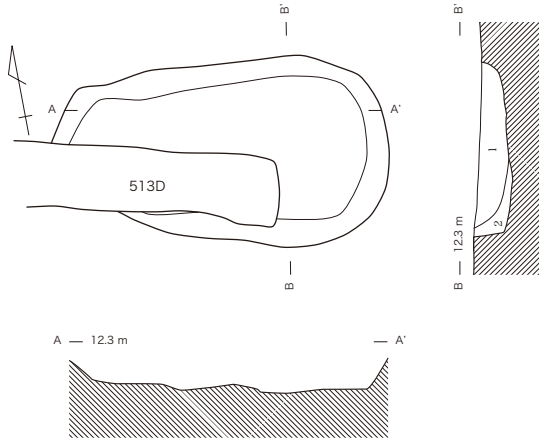
1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む暗褐色土。

451号土坑

第243図 土坑D群5 (1/60)

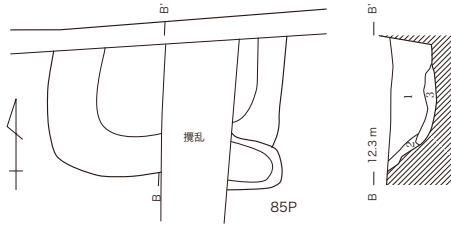


第3章 検出された遺構と遺物



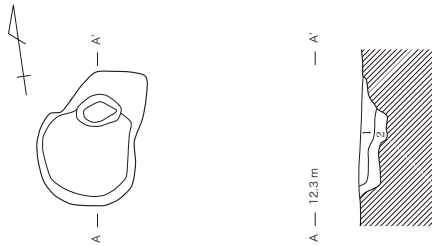
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む黒褐色土。

463号土坑



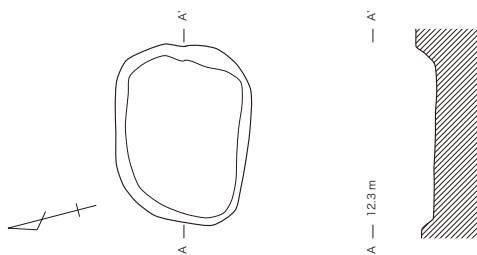
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 3~10%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm, 1~2%)、焼土粒子 (1mm以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm, 3~10%) を含む黒褐色土。

465号土坑

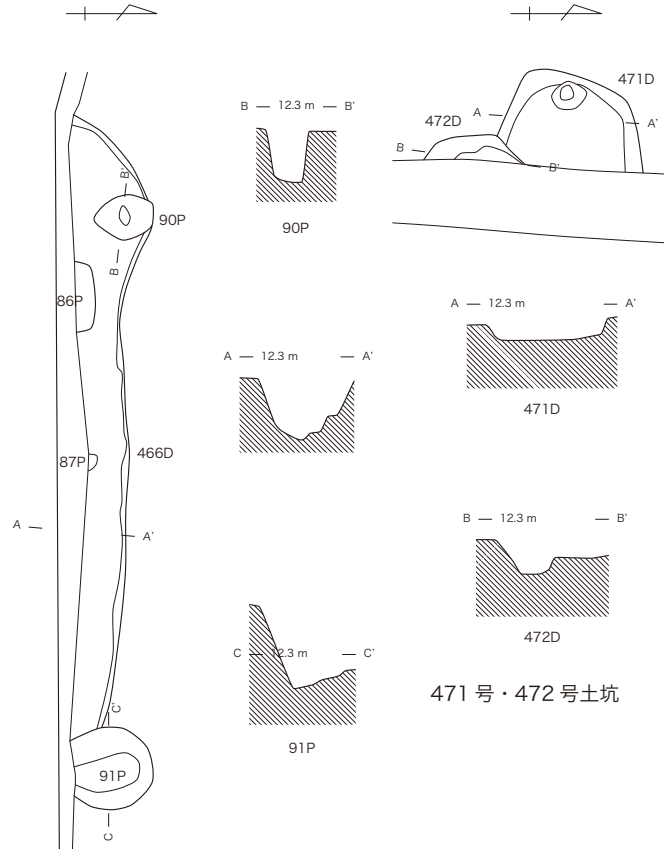


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%) を含む黒褐色土。

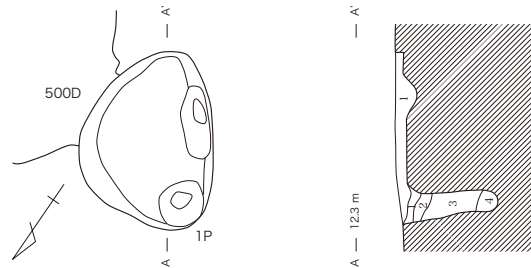
486号土坑



489号土坑



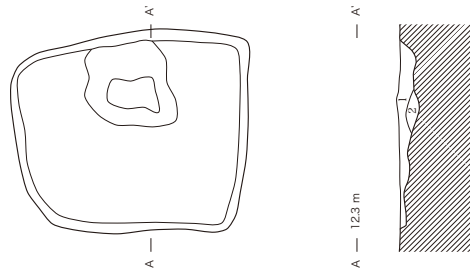
466号土坑



- 485D
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm, 3~10%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む暗褐色土。

1P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 40%以上) を含む黄褐色土。485Dに切られる。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm, 40%以上) を含む黄褐色土。ローム主体。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm, 3~10%) を含む黒褐色土。

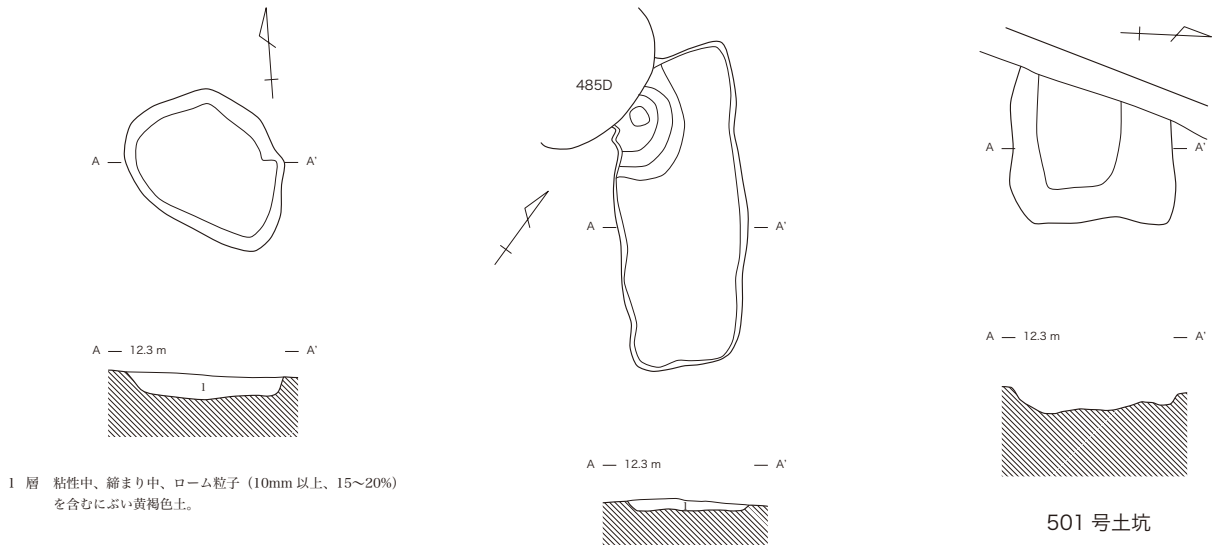


- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 25~30%)、焼土粒子 (1~2mm, 1~2%) を含む暗褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm, 1~2%) を含む黒褐色土。

497号土坑

第244図 土坑D群6 (1/60)





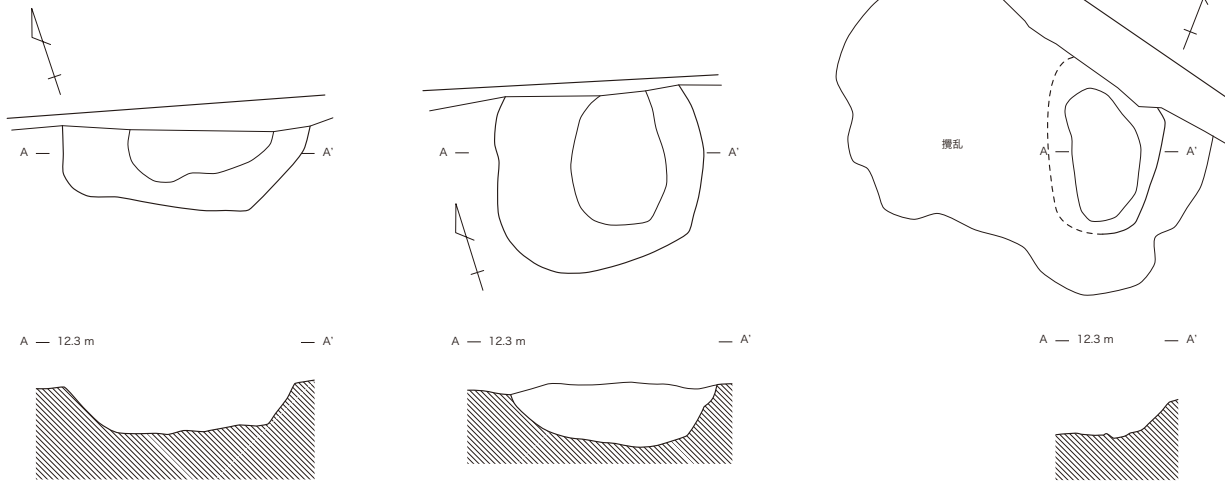
1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含むにぶい黄褐色土。

499 号土坑

1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。

501 号土坑

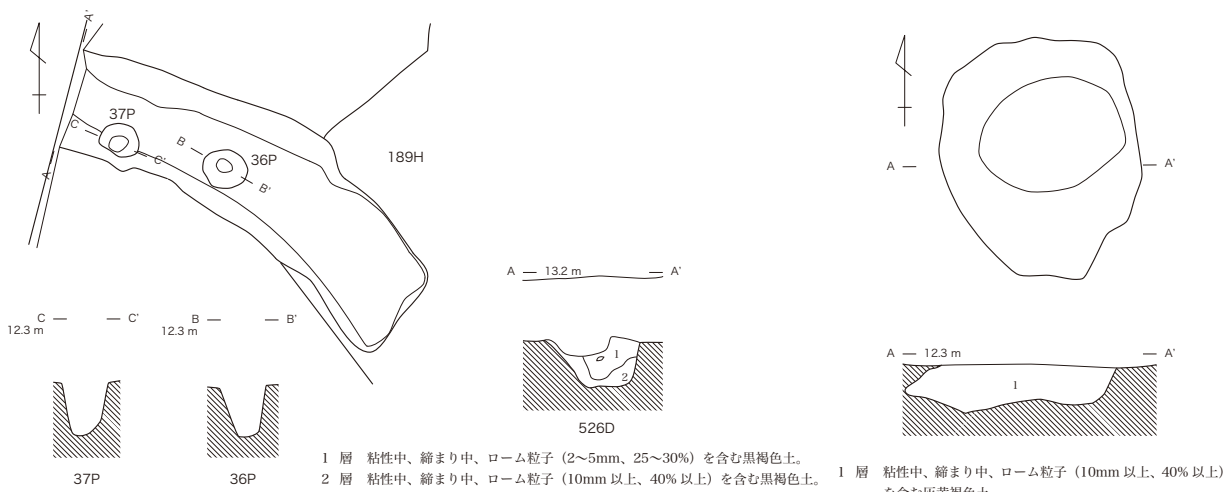
500 号土坑



506 号土坑

508 号土坑

509 号土坑



1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。

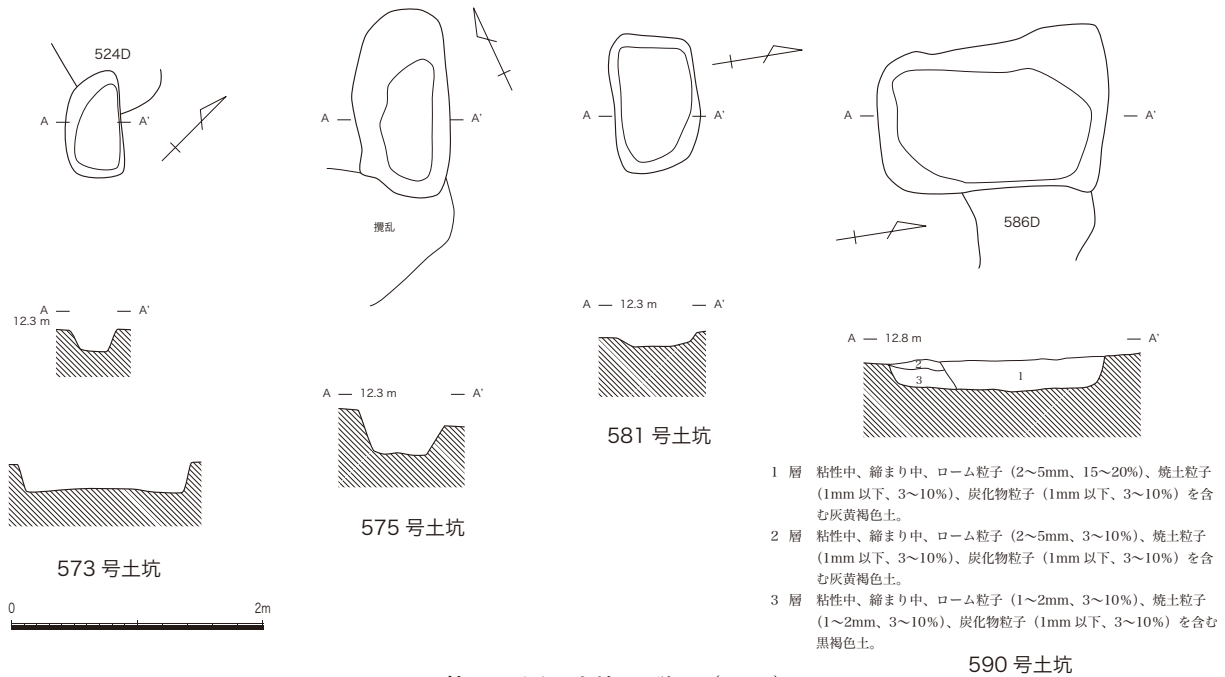
1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む灰黄褐色土。

526 号土坑

561 号土坑

第 245 図 土坑 D 群 7 (1/60)





第246図 土坑D群8 (1/60)

E群 地下室・地下坑

10基が確認されたが、397号・433号土坑については、調査区域及び周辺環境の本件から入口竪坑部あるいはその一部のみの掘り下げにとどまった。433号土坑は確認状況から、2類の複数主体部タイプと判断した。また、483号土坑は竪坑部が2か所あるが、2基の土坑が切り合っている可能性がある。いずれの土坑も墓坑としての根拠は得られなかった。時期的には、第58地点では入口竪坑部からの近世遺物の流入と、天井部崩落に伴う周辺の古相遺物の流入を排除すると、中世に遡る可能性がある。一方、第60地点では前述の整地土下で確認した2基(483・554号土坑)が戦国期の15世紀末葉~16世紀初頭の築造であることが確認できた。

1類 1竪坑1主体部タイプ

〈第58地点〉

397号土坑

遺構 (第247図、第87表)

〔位置〕 1区北半部。

〔構造〕 入口竪坑部のみ掘り下げ。主体部は北側調査区外にある。171号住居跡と34号溝跡を切る。(入口竪坑部) 開口部は隅丸方形を呈し、1.32×1.29mを測る。坑底面は主体部側がやや下がり、主軸に対してやや横長の長方形を呈する。規模は0.92×0.85mを測る。東西壁のほぼ中央にいわゆる足掛け穴を1か所ずつ確認。西壁の方がやや高いレベルにある。(主体部) 入口竪坑部の北側調査区外、市道下に位置する。未掘であるが、天井部が崩落していない埋没状況を確認した。(長軸方位) N-13°-W。

〔遺物〕 入口竪坑部の覆土下位から、古墳時代後期の土師器破片5点のほか、常滑窯産甕2点、在地産?の捏ね鉢1点、甕胴部破片1点(断面研磨痕あり)が出土。

〔時期〕 出土遺物は詳細な帰属時期が比定し得ないが、中世の所産と思われる。

〔所見〕 出土遺物のうち、在地産と思われる甕の同一個体が地下室 398 号土坑から出土している。

398 号土坑

遺 構 (第 247 図、第 87 表)

〔位置〕 1 区北半部。

〔構造〕 主体部の天井部中央は崩落していた。(入口竪坑部) 開口部は不整楕円形を呈し、規模は 1.25m × 不明である。坑底面はほぼ平坦で、2.84 × 1.59m を測る。主軸に対して横長の長方形を呈する。主体部との連絡は 0.25m 程の段差をもつ。(主体部) 底面は主軸に対して横長の不整長方形を呈し、0.84 × 1.59m を測る。底面東壁際には若干の窪みがあり、東壁には小横穴を 1 か所確認。(長軸方位) N-3° -E。

〔遺物〕 主体部の覆土上位～下位から底面回転糸切りの須恵器坏 (9 世紀後半) や鉢・甕が、南東床面付近から 397 号土坑出土のものと同一個体の甕胴部破片(在地産?)が出土。ほかに石製品 1 点が出土。

〔時期〕 出土遺物は詳細な帰属時期が比定し得ないが、最も新しいものは中世の所産と思われる。

〔所見〕 須恵器坏などの古代の遺物は、天井部崩落に伴う流れ込みと思われる。

遺 物 (第 263 図、第 95 表)

1 は主体部覆土上位出土の須恵器坏、2 は覆土出土の中世陶器・小壺と思われる。

401 号土坑

遺 構 (第 247 図、第 87 表)

〔位置〕 1 区北半部。

〔構造〕 主体部の天井部は崩落していた。(入口竪坑部) 開口部は不整円形で、長軸 1.70m を測る。坑底面は主軸に対して横長の長方形を呈し、0.84 × 0.52m を測る。竪坑部底面から主体部との連絡は同じ傾斜のスロープで下がっており、途中、溝状の区界がある。また、このスロープは主体部内に舌状に張り出して、比高 0.25m 程で主体部底面に達する。(主体部) 底面は不整方形。規模は 2.39 × 2.25m を測る。主軸は入口竪坑部に対し 20° 程折れる。西壁に 1 か所、北壁に 3 か所、壁面上位のほぼ同レベルに小横穴を確認。(長軸方位) N-24° -W。

〔遺物〕 覆土上位と主体部底面付近から 390 号土坑出土の在地産捏ね鉢と接合した破片と中世? 陶器、入口竪坑部覆土下位から瀬戸・美濃窯産鉄釉碗 (17 世紀代) と中世? 陶器・土器と唐銭「開元通寶」、確認面付近から波佐見・平戸系染付碗が出土。また、主体部覆土下位の天井部崩落土上から巻貝 (種別不明) 破片が検出された。

〔時期〕 主体部底面付近の出土遺物から中世に位置づけられるか。

遺 物 (第 263 図、第 102 表)

1 は唐銭の「開元通寶」である。

〈第60地点〉

483号土坑

遺構 (第248図、第88表)

[位置] B-2グリッド。

[構造] 付近に広がる整地土の下で確認。天井部は崩落していた。(入口竪坑部) 南壁の東西2か所を確認。2基の土坑が重複しているか、拡張・改変されている可能性がある。

〈入口竪坑部A〉

〈入口竪坑部B〉(主体部) 底面は不整五角形を呈する。北壁は直線的であるが、東西壁は2つの入口竪坑部の軸に対応する向きとなっている。東壁には床面より50cm程高い位置に、隣接する554号土坑主体部との連絡通路がある。

[遺物] 古墳時代後期の土師器破片5点のほかは、瀬戸・美濃窯産縁釉挟み皿1点(15世紀末葉～16世紀初頭)が出土したのみ。

[時期] 中世(15世紀末葉～16世紀初頭)。

[所見] 内部はローム土を主体とする覆土で充填されており、埋め戻されたものと考えられる。

遺物 (第266図、第95表)

1は鉄釉が施釉された縁釉挟み皿である。

554号土坑

遺構 (第248図、第88表)

[位置] B-2グリッド。

[構造] 付近に広がる整地土の下で確認。近世の510号土坑に切られる。天井部は崩落していた。(入口竪坑部) 開口部は不整円形を呈し、1.04×0.68mを測る。坑底面はほぼ平坦で、主軸に対して横長の長方形を呈する。規模は0.81×0.47mを測る。主体部との連絡は0.20m程の段差をもつ。(主体部) 底面は主軸に対して横長の隅丸台形を呈する。規模は2.61×2.23mを測る。西側は隣接する483号土坑の主体部に連絡している。(長軸方位) N-12°-W。

[遺物] 覆土中から土師質土器皿2点(15世紀末葉～16世紀代)、瀬戸・美濃窯産の縁釉挟み皿1点(15世紀末葉～16世紀初頭)、志野丸皿3点(17世紀前半)、長石釉壺1点、黄瀬戸鉢1点、板碑破片1点が出土。

[時期] 中世(15世紀末葉～16世紀初頭)。

[所見] 内部はローム土を主体とする覆土で充填されていた。整地土の年代から、17世紀前半～末葉に埋没・埋め戻されたものと考えられる。

遺物 (第267図、第95・99表)

1は土師質土器皿(かわらけ)、2は灰釉施釉の縁釉小皿、3は志野丸皿、4は長石釉壺、5は板碑である。

484号土坑

遺構 (第249図、第88表)

[位置] B-2・3グリッド。

[構造] 主体部のみ確認。東壁北側に調査区域外へ延びる掘り込みが確認され、入口竪坑部が接続する可能性がある。主体部は、天井部崩落による陥没のゴミ穴利用によって大きく壊されていた。(入口竪坑部) 主体部東壁北側に位置するか。(主体部) 底面は長方形と推定される。(長軸方位) N-12°-W。

[遺物] 古墳時代後期の土師器破片2点と土器小破片(近世?器種不明)1点が出土したのみ。

[時期] 近世?

518号土坑

遺構 (第249図、第88表)

[位置] B-2グリッド。

[構造] 付近に広がる整地土の下で確認。近世の511・512号土坑に切られる。天井部は崩落していた。(入口竪坑部) 開口部は不整円形を呈し、1.25×1.18mを測る。坑底面はほぼ平坦で、正方形を呈し、1.00×0.99mを測る。主体部との連絡は0.30m程の段差をもつ。東西壁のほぼ中位にいわゆる足掛け穴を3か所ずつ確認。南壁の中央、やや高いレベル(確認面直下)にも1か所確認。(主体部) 底面は主軸に対して横長の長方形を呈し、2.44×1.71m・高さ1.88mを測る。(長軸方位) N-2°-E。

[遺物] 主体部覆土上半には、19世紀後葉～20世紀のゴミが捨てられていた。瀬戸・美濃窯産の摺り絵染付碗1点、灰釉蓋物1点、鉄製品6点、銅製品3点が出土。

[時期] 時期を推定できる遺物は確認できなかった。

[所見] 整地土は天井部の崩落・陥没部分は確認できず、現代にいたるゴミ穴として利用されていた。

遺物 (第267図、第95表)

1は瀬戸・美濃窯産の摺り絵染付碗、2は灰釉蓋物で、いずれも19世紀後葉以降のものと思われる。

2類 1竪坑複数主体部タイプ

〈第58地点〉

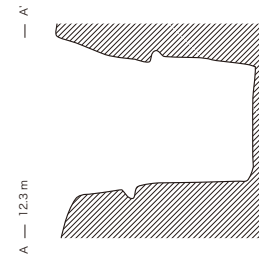
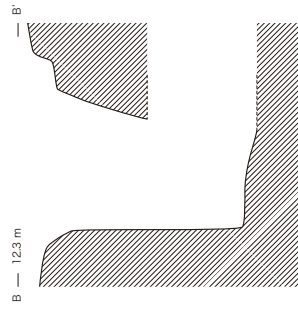
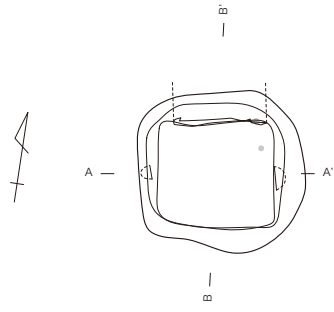
433号土坑

遺構 (第250図、第87表)

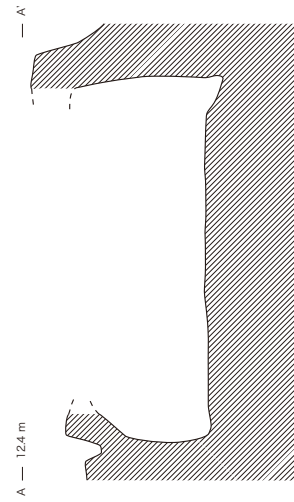
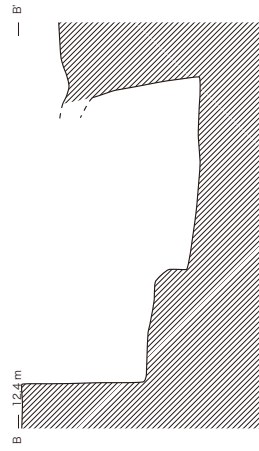
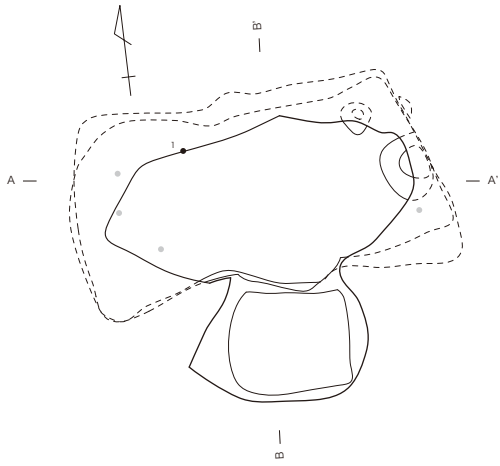
[位置] 2区。

[構造] 入口竪坑部のみ掘り下げ。調査範囲の都合で、確認面から約1.7m下までの掘り下げにとどまった。水平方向は、東西方向のみに広がる状況を確認。438号・444号土坑を切る。(入口竪坑部) 開口部は隅丸長方形、中位以下の横断面は東西に長い長方形を呈する。(主体部) 形状・規模は不明。確認範囲では東西方向に延びる複数主体部が想定される。ピンポールを刺して床面を探ったが、掘り下げ停止面から1m下でも床面確認できず。(長軸方位) N-7°-W。

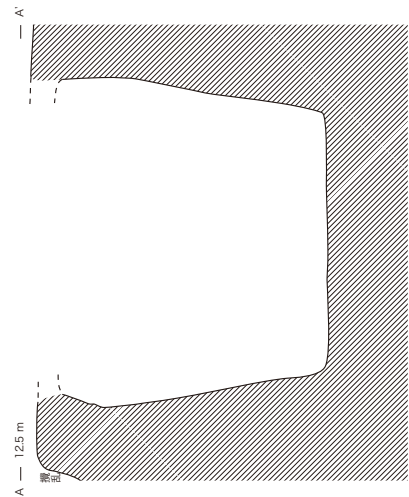
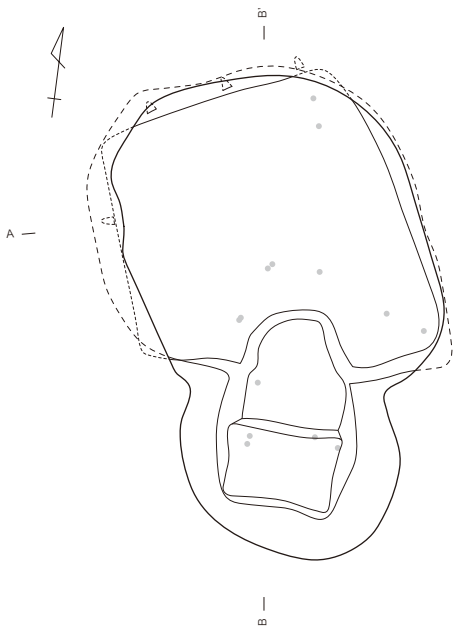
[遺物] 入口竪坑部覆土中から、信楽系灯明受皿、染付摺絵碗、磁器型押し皿、燻し瓦、不明銅製品が出土。



397号土坑



398号土坑



401号土坑

第247図 土坑E群1類 (1/60)



[時期] 出土遺物は19世紀代を示している。

遺物 (第265図、第100表)

1は棒状の銅製品で、一端の破損部には円孔が確認できる。屈曲が本来の形状を示すものであるかは不明。

〈第60地点〉

461号土坑

遺構 (第250図、第88表)

[位置] C-2グリッド。

[構造] 199・209号住居跡の下で確認。天井部は下半が自然埋没して完存、入口は開口、現代のゴミが捨てられていた。事故防止のため、主体部天井はあらかじめ重機で外してから調査した。(入口竪坑部) 全体の中央部に位置する。開口部は隅丸方形を呈する。開口部直下の坑底面は方形に0.13m程窪む。(主体部) 4基の主体部はほぼ東西南北に配置されている。底面はほぼ平坦で不整形、天井部横断面はアーチ状を呈していた。

[遺物] 入口から投棄されたゴミ以外には確認されなかった。

[時期] 時期を推定できる遺物・状況は確認できなかった。

[所見] 平面円形を基調とする主体部から、第42地点の地下室183号土坑(18世紀後葉～19世紀初頭)と同じ時期の可能性がある。

496号土坑

遺構 (第251図、第88表)

[位置] C-1・2グリッド。

[構造] 北側主体部は天井が崩落して、191号住居跡の南東側床面が陥没。木材などの廃材が投棄されていた。ほかの主体部は天井部完存、入口竪坑部とも自然埋没している状況であった。事故防止のため、主体部天井はあらかじめ重機で外してから調査した。(入口竪坑部) 開口部は不整形。入口下は南北約2.5m、東西約2.2mの平面隅丸方形の空間になっている。(主体部) 4基の主体部はほぼ東西南北に配置されているが、それぞれの軸線はずれており、直交もしていない。底面は長方形ないし台形を呈するが、部屋状に独立した形態を示していない。

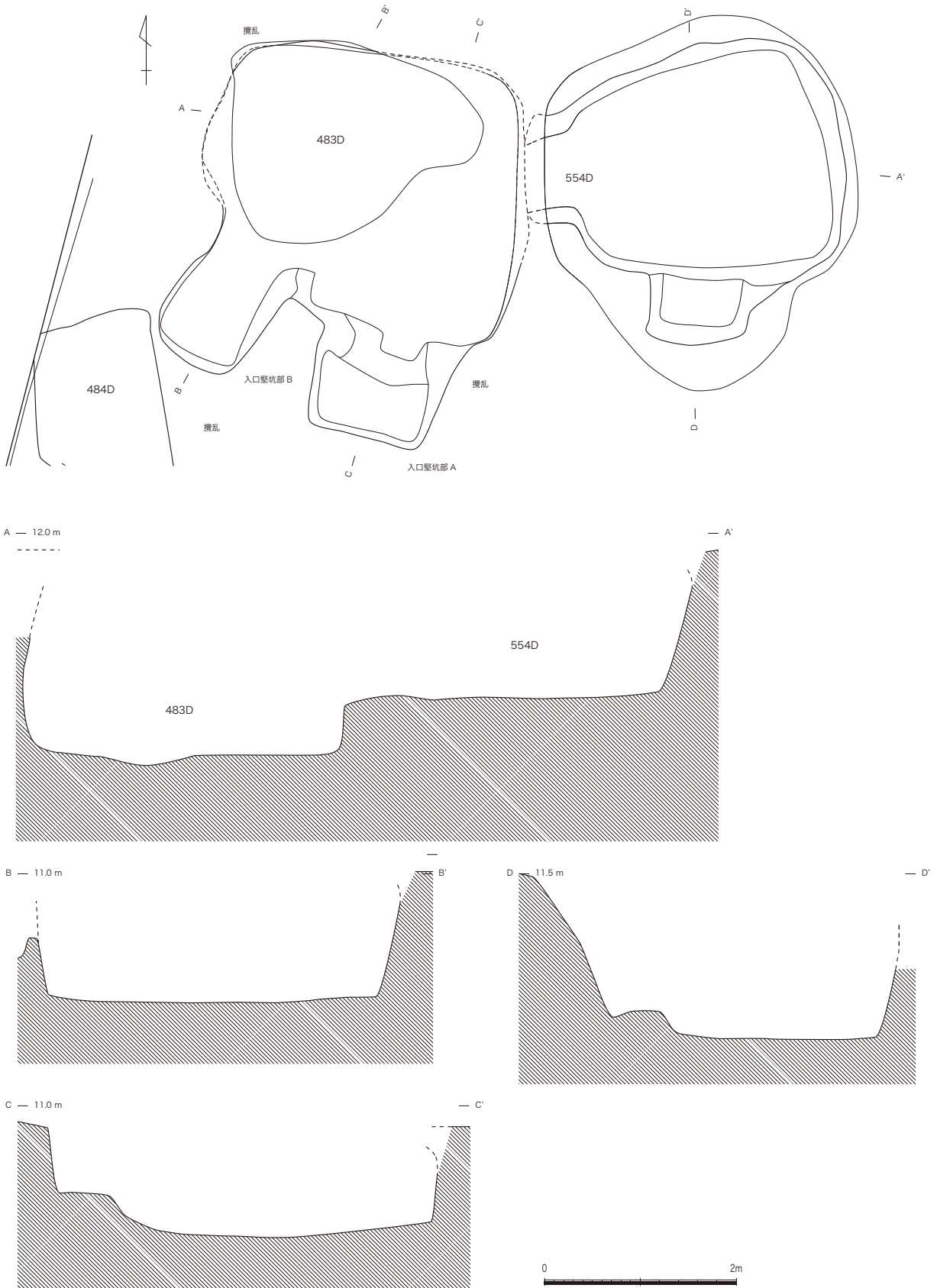
[遺物] 覆土中から19世紀代の陶磁器・土器・陶器瓦が出土。また、主体部Aからはウマの前腕骨破片が1点出土したが、ロームブロックを多量に含む崩落土中で検出されたものである。ほかに土製品・鉄製品・銭貨が各1点ずつ出土。

[時期] 近世(19世紀代)。

遺物 (第266図、第95・103表)

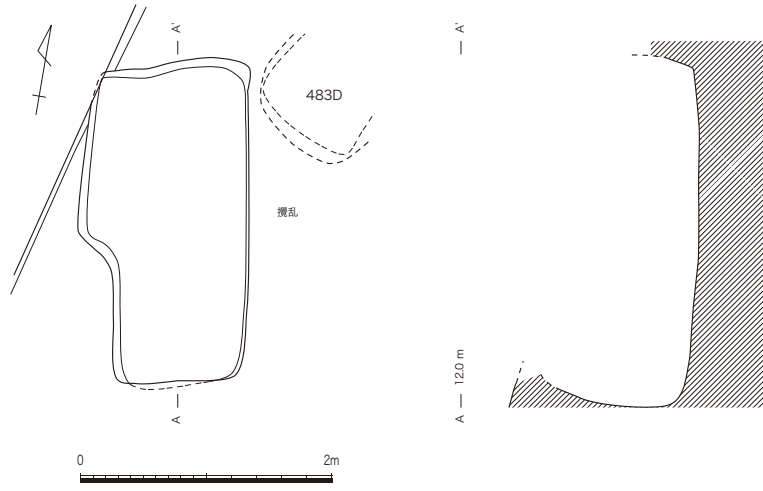
1は肥前系磁器と思われる五寸皿、2は瀬戸・美濃窯産の播鉢、3は同産の灰釉五合徳利。19世紀中葉に位置づけられるか。4は文久永寶。

第3章 検出された遺構と遺物

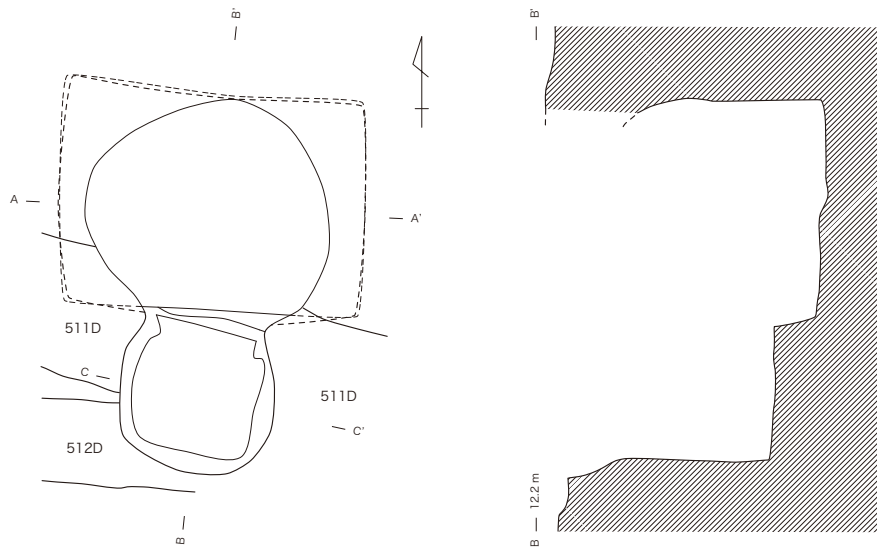


483号土坑・554号土坑

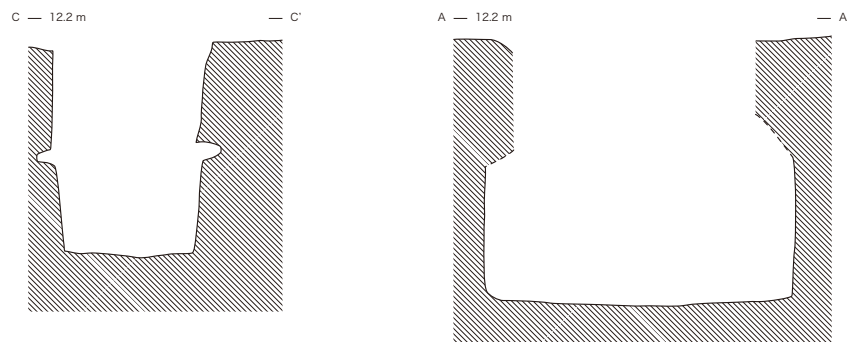
第248図 土坑E群2類1 (1/60)



484号土坑

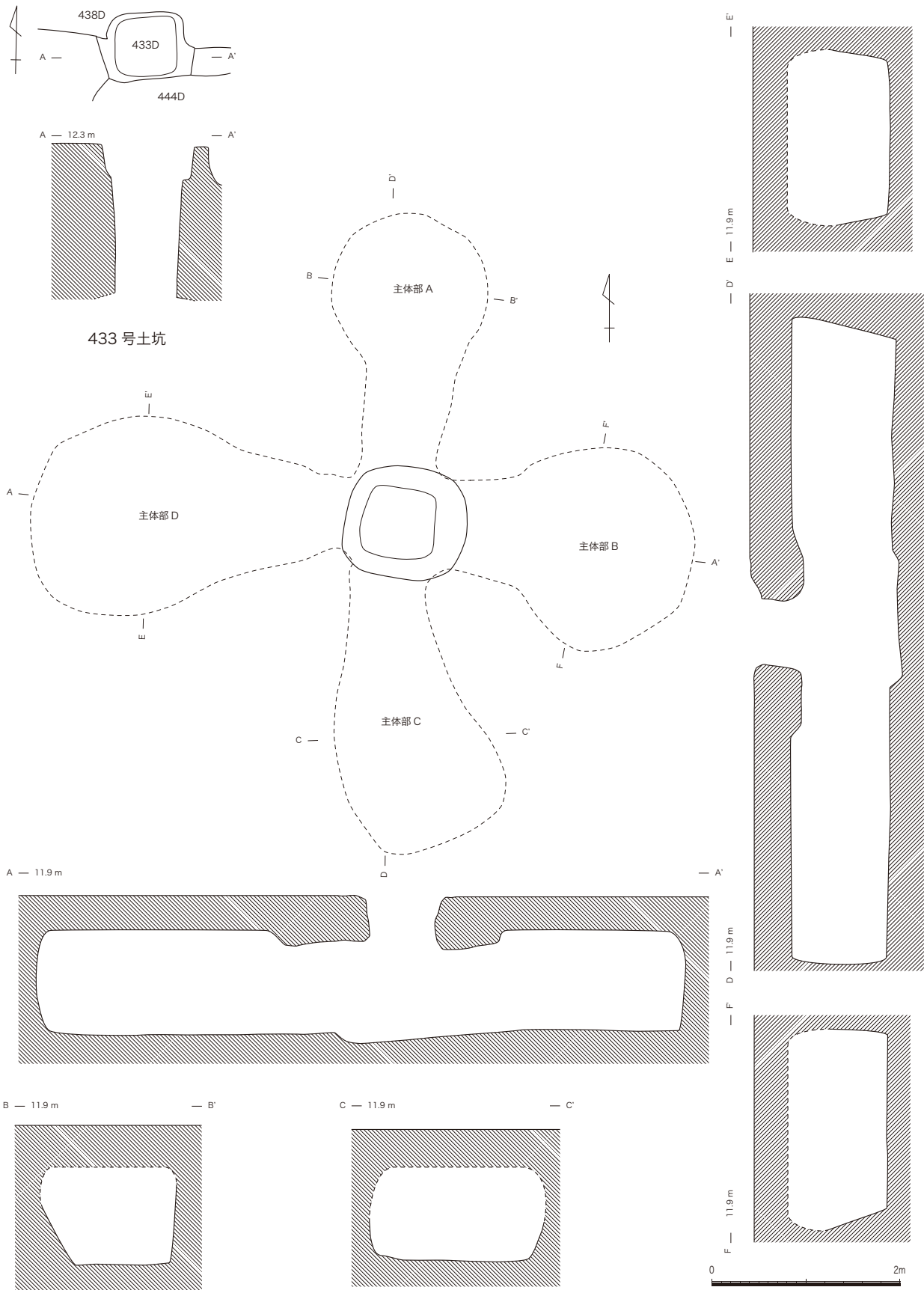


518号土坑



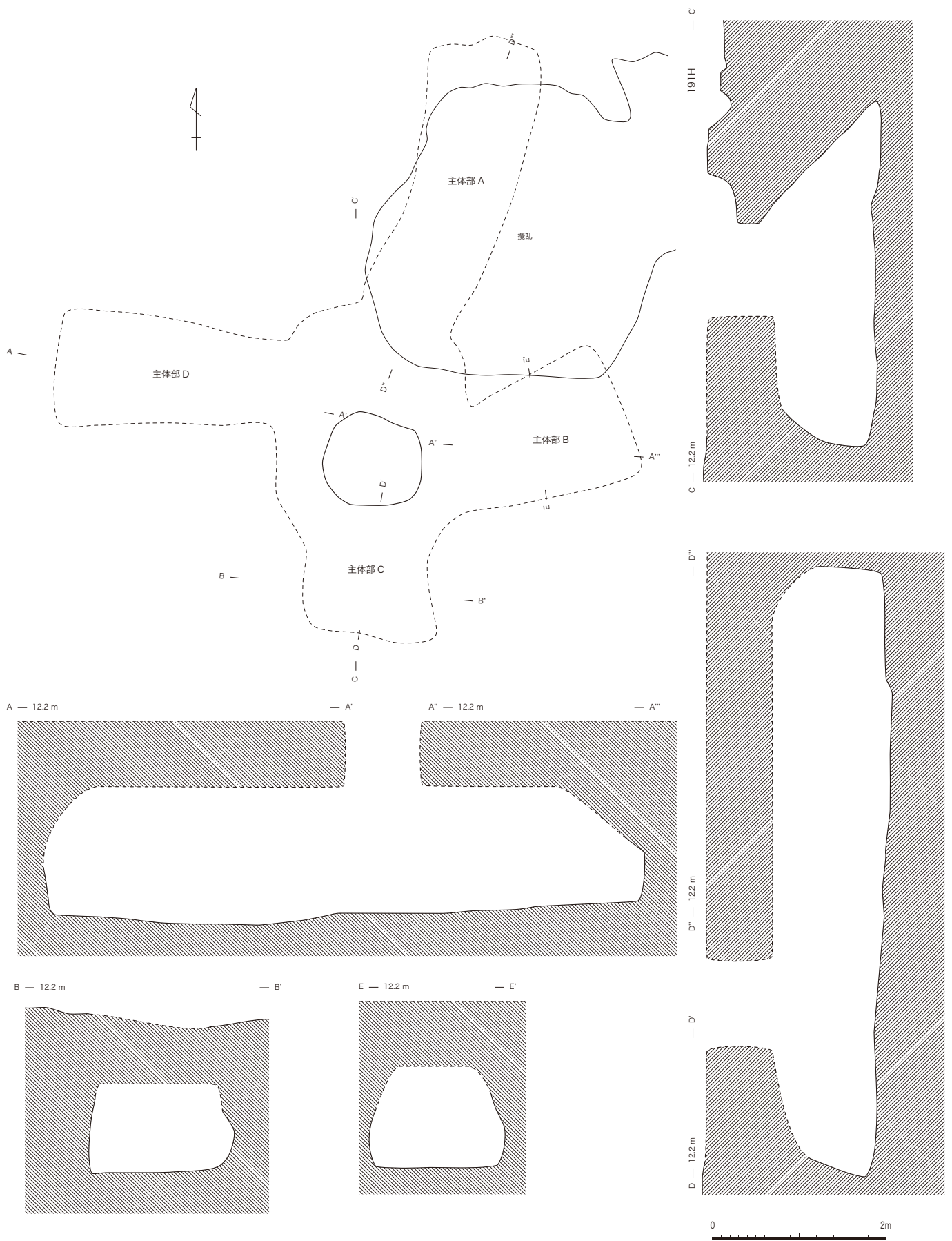
第249図 土坑E群2類2 (1/60)

第3章 検出された遺構と遺物



461号土坑

第250図 土坑E群2類3 (1/60)



496号土坑
第251図 土坑E群2類4 (1/60)

(3) 井戸跡

31号井戸跡

遺構 (第252図、第89表)

[位置] B-4グリッド。

[構造] 西側3分の1は調査区域外。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から1.5m下までにとどめた。(平面形)円形。(断面形)漏斗状。(規模)開口部径2.07m・下幅0.92m。(深さ)不明。(覆土)自然堆積か。灰黄褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土中から土師質土器皿(15世紀末葉～16世紀代)1点、瀬戸窯産の陶器碗1点、播鉢2点(16世紀末葉)と板碑破片1点が出土。

[時期] 中世(16世紀末葉)。

[所見] 覆土上方には多量の円礫が含まれていた。明確な石組みではなく、周辺の敷石が落ち込んだものと思われる。人為的な埋め戻しの可能性もある。

遺物 (第268図、第95表)

1は土師質土器皿(かわらけ)、2は灰釉丸碗、3は播鉢である。

32号井戸跡

遺構 (第252図、第89表)

[位置] D-2・3グリッド。

[構造] 223号住居跡を切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から1.5m下までにとどめた。(平面形)円形。(断面形)緩い漏斗状。(規模)開口部径1.37～1.60m・下幅0.73～0.77m。(深さ)不明。(覆土)自然堆積。ローム粒子・ブロックを含む灰黄褐色～黒褐色土。

[遺物] 古墳時代後期～平安時代の土師器・須恵器破片の他は確認できなかった。

[時期] 時期を推定できる遺物・状況が確認できなかった。

[所見] 周辺の38・76号ピットなどは本井戸に伴う上屋の柱穴かと考えたが、ほかに柱穴を確認することができなかった。

33号井戸跡

遺構 (第252図、第89表)

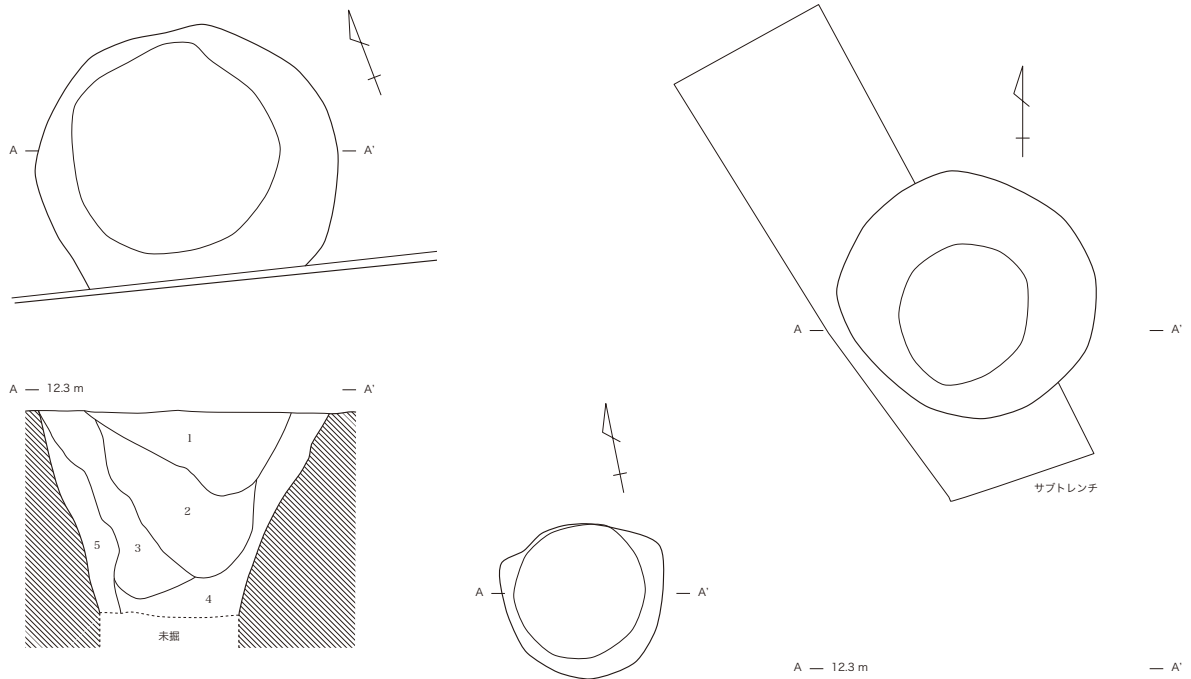
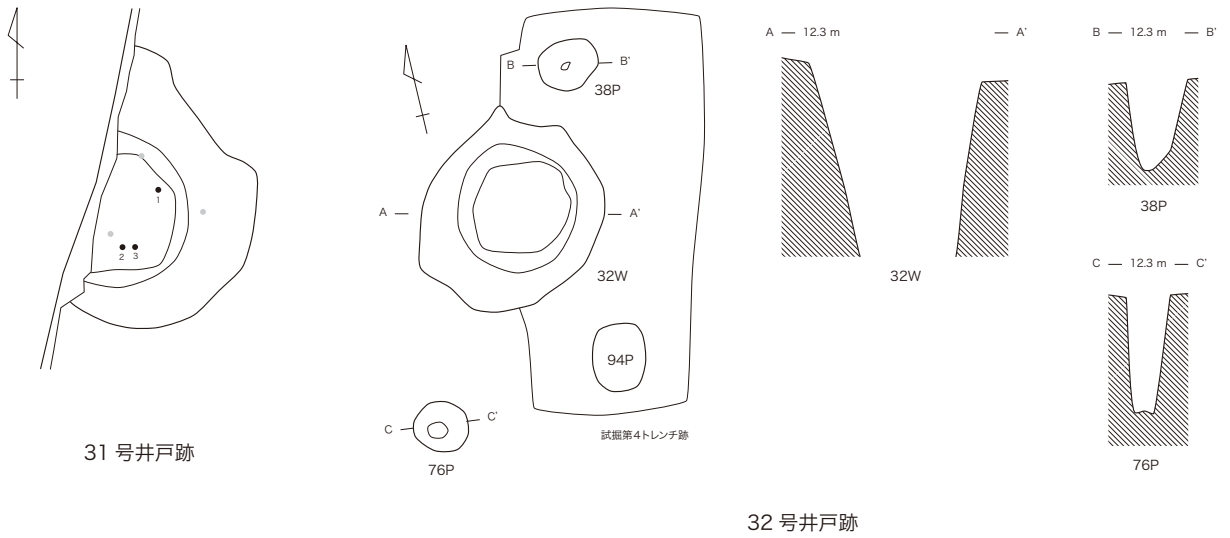
[位置] D-5グリッド。

[構造] 開口部径南端が調査区域外に掛かる。212号住居跡を切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から1.6m下までにとどめた。(平面形)円形。(断面形)漏斗状。(規模)開口部径2.36～2.41m・下幅1.09m。(深さ)不明。(覆土)自然堆積。ローム粒子を含む褐色～暗褐色土。

[遺物] 古墳時代後期～平安時代の土師器・須恵器破片の他は確認できなかった。

[時期] 時期を推定できる遺物・状況が確認できなかった。

[所見] 最上層はローム粒子を比較的多く含み、埋め戻し土の可能性がある。



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、1~2%)、砂礫 (5~10mm、3~10%) を含む褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、砂礫 (10mm 以上、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、1~2%) を含むにぶい黄褐色土。
- 5 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、25~30%) を含むにぶい黄褐色土。ローム質。



第 252 図 井戸跡 (1/60)

34号井戸跡

遺構 (第252図、第89表)

[位置] H-5グリッド。

[構造] 222・227号住居跡を切る。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から1.2m下までにとどめた。(平面形) 円形。(断面形) 緩い漏斗状。(規模) 開口部径1.22～1.37m・下幅0.80m。(深さ) 不明。(覆土) やや大型の円礫を含む砂礫土。最上層はローム・焼土粒子、砂礫を含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から土師質土器皿(16世紀代か)の小破片2点が出土。

[時期] 中世(16世紀代)か。

[所見] 覆土の状況から、埋め戻しの可能性がある。

35号井戸跡

遺構 (第252図、第89表)

[位置] J-5グリッド。

[構造] 46号溝跡と重複するが、切り合い関係は明確にできなかった。事故防止のため、覆土の掘り下げは確認面から2m下までにとどめた。(平面形) 円形。(断面形) 漏斗状。(規模) 開口部径1.85～2.00m・下幅0.58m(深さ) 不明。(覆土) 小礫やローム粒子をやや多く含む暗褐色～黒褐色土。

[遺物] 出土しなかった。

[時期] 時期を推定できる遺物・状況が確認できなかった。

[所見] 覆土の状況から、埋め戻しの可能性がある。

(4) 溝跡

34号溝跡

遺構 (第253図、第90表)

[位置] 1区北半部。

[構造] 東西端は調査区域外のため不明。397号・380号土坑に切られる。(平面形) 確認範囲では直線的に延びる。(断面形) 箱形。(規模) 不明。(深さ) 0.29m。(走行方位) N-90°-E。(覆土) 2層。ローム粒子を含む暗褐色～黒褐色土。

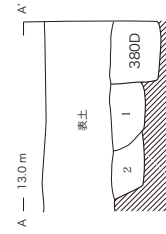
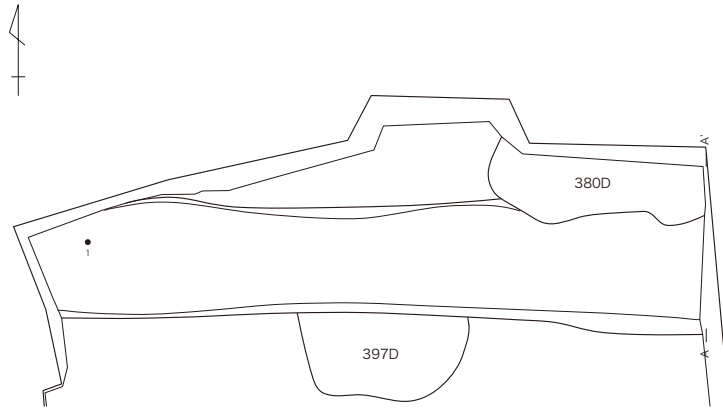
[遺物] 覆土中から古墳時代後期の土師器60点、須恵器5点のほか、近世陶磁器3点、江戸在地系土器6点、土錘1点、有孔円盤鉄製品1点、不明銅製品1点が出土。

[時期] 近世。

[所見] 位置的に2・3区で確認された1号道路状遺構の延長上に想定されるが、硬化面等は確認されず、関連遺構ではないと判断される。また、西側延長上には3区北端が当たるが、耕作溝の攪乱となっている。東側延長上約30mには第9地点調査区があるが、相当する遺構は報告されていない。

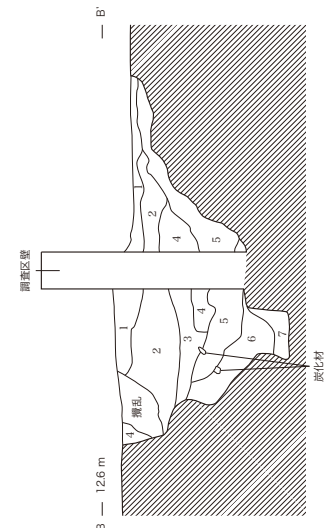
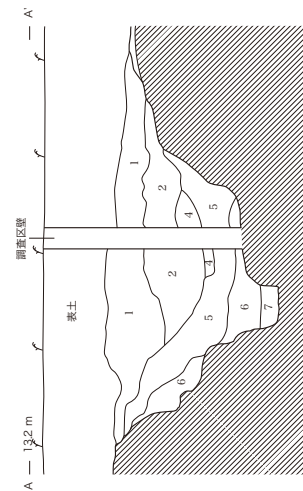
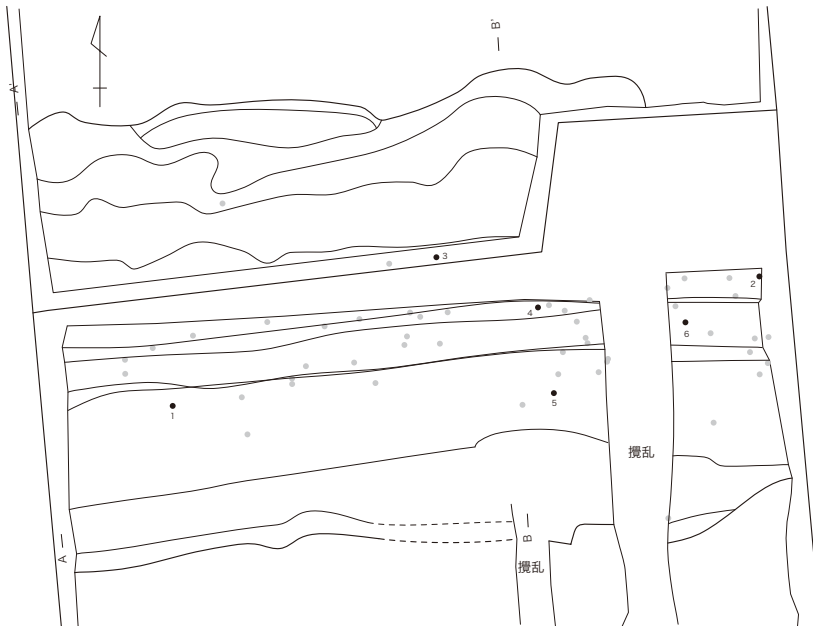
遺物 (第268図、第96・100表)

1は土錘。2は有孔円盤鉄製品としたが、鉄銭の可能性もある。3は銀鍍金された双脚の簪。片側の脚部が脱落。



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%) を含む暗褐色土。

34号溝跡



- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、15~20%) を含む灰黄褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含むふい黄褐色土。ローム主体。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (5~10mm、1~2%) を含む黄褐色土。5層と同じ堆積。ローム多。
- 4層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ロームブロック堆積土。
- 5層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む灰黄褐色土。上面から江戸陶器、土器出土。
- 6層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黄褐色土。ロームブロック堆積土。
- 7層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む灰黄褐色土。ローム主体。

35号溝跡



第253図 溝跡1 (1/60)

35号溝跡

遺 構 (第253図、第90表)

[位置] 1区北半部・南半部。

[構造] 東西端は調査区域外のため不明。174号・178号住居跡と425号土坑を切る。(平面形) 確認範囲ではほぼ直線的に延びるが、若干屈曲している。(断面形) 逆台形の底面南壁沿いに箱形の溝が付属する。(規模) 上幅3.33～3.63m・下幅0.21～0.33m。(深さ) 1.37～1.38m。(走行方位) N-83°-E。(覆土) 7層。下層(第6～8層)は自然堆積、中層(第4・5層)はローム土及びロームブロックを多く含む埋め戻し土、上層(第3層)はロームブロックを含み、埋め戻し土の可能性もある。

[遺物] 第6層上面あるいはその上位から近世陶磁器・土器・土製品・瓦類が出土。17世紀後半のものから19世紀中葉のものが認められる。ほかに鉄製品が2点出土。

[時期] 下層出土遺物がないので、構築時期は明確ではない。

[所見] 覆土と出土遺物から、17世紀後半に埋め戻され、19世紀中葉には完全に平坦化したものと思われる。したがって、構築時期は17世紀中葉を下限として考えられる。

遺 物 (第268図、第95・96・100表)

1は瀬戸・美濃窯産染付筒形湯呑、2は同染付端反碗、3は同掛け分け火入、4は江戸在地系土器の灯明皿、5は土製品の弾碁玉であり、6は鉄製品の鋸であろうか。

36号溝跡

遺 構 (第254図、第90表)

[位置] 1区南半部。

[構造] 東西端は調査区域外のため不明。178号住居跡・403号土坑を切る。(平面形) 確認範囲では直線的に延びる。(断面形) 底面掘方は極めて凹凸が激しいが、埋め戻し土と見られる北壁際(第10～13層、18層)を除けば、概ねV字形(葉研形)と捉えられる。(規模) 上幅2.68～3.33m・下幅0.18～0.21m。(深さ) 0.90～1.16m。(走行方位) N-78°-E。(覆土) 20層、自然堆積。第6層は締まりが強く、南壁沿いに硬化面が続く。大半が埋没した後に窪みが通路として使用されていたと考えられる。

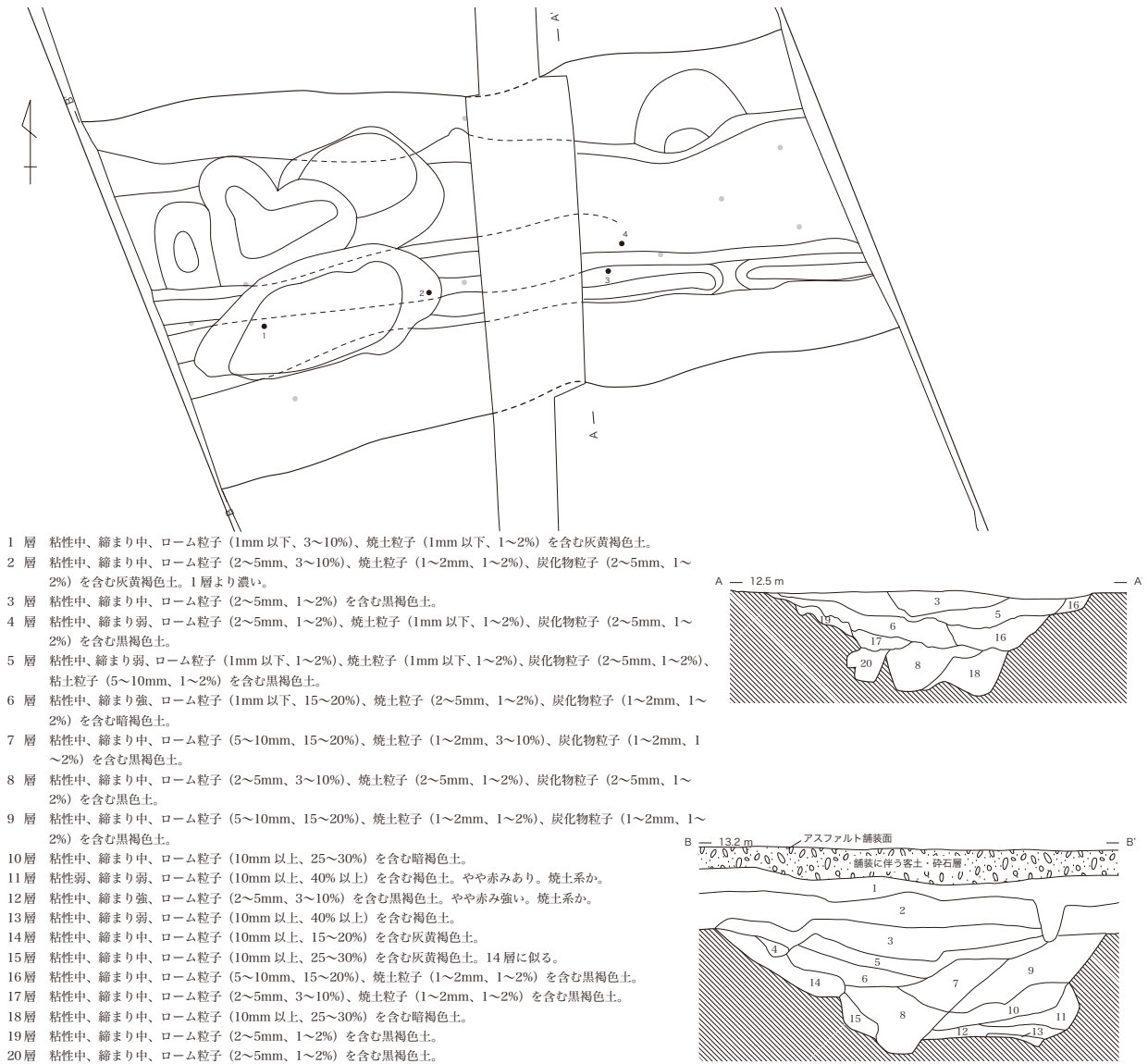
[遺物] 近世陶磁器・土器・瓦類・鉄製品・モモ種子が出土。ほとんどは硬化面(第6層上面)より上位の堆積土中(第5層中心)から出土。ほかに土製品が1点出土。

[時期] 底面付近から波佐見・平戸系磁器碗の破片が出土しているが、詳細な時期は比定しえない(18世紀中葉以降か)。上層出土の遺物は18世紀末葉～19世紀初頭のものである。

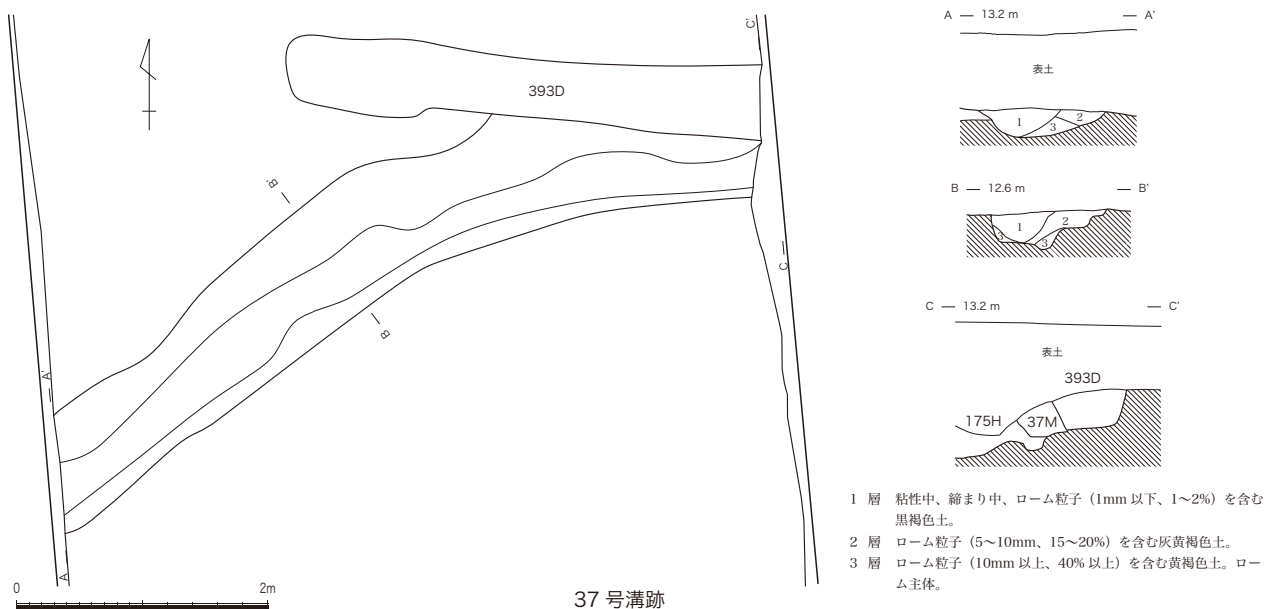
[所見] 覆土と出土遺物、18世紀後葉～19世紀中葉の遺物を包含する403号土坑を切ることから、掘削時期は18世紀後葉～末葉の可能性が高い。そして、19世紀初頭には埋没したものと考えられる。セクションBの第12層は硬化面の存在を示すことから、本溝跡が硬化床面をもつ遺構(土坑)を切っている可能性があるが、全体的には断面逆台形の溝から葉研形の溝に改修された可能性もある。

遺 物 (第268図、第95・100表)

1は瀬戸・美濃窯産土鍋で、銅製針金の釣り手が残る。2は同産片口、3は江戸在地系土器の火鉢、4・5は鍛造角釘である。



36号溝跡



37号溝跡

第254図 溝跡2 (1/60)

37号溝跡

遺構 (第254図、第90表)

[位置] 1区北半部。

[構造] 東西端は調査区域外のため不明。175号住居跡を切り、393号土坑に切られる。(平面形) 北東-南西軸から東西軸に屈曲する。(断面形) 概ね緩いU字形。南壁は急斜、北壁は緩やかに立ち上がる。(規模) 上幅0.72~0.96m・下幅0.18~0.45m。(深さ) 0.24~0.33m。

(覆土) 3層、自然堆積。ローム粒子を含む黒褐色~灰黄褐色土。

[遺物] 覆土中から古墳時代後期の土師器16点のほかは、肥前系磁器碗1点が出土したのみ。

[時期] 近世(18・19世紀代)。

遺物 (第268図、第95表)

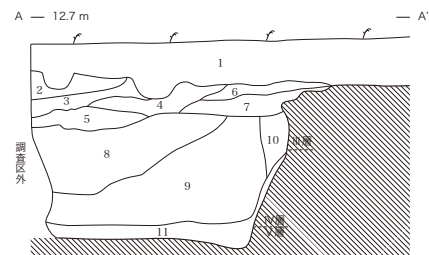
1は肥前系磁器碗で、いわゆる「コンニャク印版」染付である。

39号溝跡

遺構 (第255図、第91表)

[位置] C・D-5・6グリッド。

[構造] 東・西側、南壁は調査区域外。(平面形) 確認範囲では直線的に延びる。(断面形) 箱形。一部、



- 1層 粘性中、締まり弱、ローム粒子(2~5mm、1~2%)、焼土粒子(1~2mm、1~2%)、炭化物粒子(1~2mm、1~2%)を含む暗褐色土。表土。
- 2層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(5~10mm、15~20%)を含む黒褐色土。
- 3層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(2~5mm、1~2%)、炭化物粒子(1~2mm、1~2%)を含むふい黄褐色土。
- 4層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(2~5mm、40%以上)を含む褐色土。ローム主体。
- 5層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子(2~5mm、3~10%)を含む暗褐色土。南壁で磁器碗1点、明治以降か?
- 6層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(1~2mm、1~2%)を含む暗褐色土。
- 7層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(1~2mm、3~10%)を含む暗褐色土。
- 8層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子(10mm以上、40%以上)を含む黄褐色土。覆土ローム土。
- 9層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子(10mm以上、3~10%)、炭化物粒子(2~5mm、1~2%)を含む黒褐色土。
- 10層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子(1~2mm、25~30%)、炭化物粒子(2~5mm、1~2%)を含む黒褐色土。覆土ローム主体、壁崩れ。
- 11層 粘性弱、締まり中、ローム粒子(5~10mm、25~30%)を含む褐色土。

0 2m

39号溝跡

第255図 溝跡3 (1/60)

重機を用いて掘り下げたために、掘り込みの肩部分は掘り過ぎている可能性がある。(規模) 不明。(深さ) 1.36m。(覆土) 11層。第8層はローム土で、埋め戻し土と考えられる。上部の第2～7層は溝埋没後の再堆積と考えられる。

[遺物] 第5層から瀬戸・美濃窯産染付丸碗(19世紀中葉)と江戸在地系土器の焙烙が各1点出土したのみ。

[時期] 下層出土遺物がないので、構築時期は明確ではない。

[所見] 第5層が埋め戻し土の第8層の再堆積で、出土遺物が本来、第8層に伴うものであったとすると、19世紀中葉に埋め戻された(平坦化された)ものと考えられる。また、このローム土を用いた埋め戻しは、第58地点の35号溝跡と類似する。

遺物(第269図、第95表)

1は染付丸碗、2は焙烙である。

40号溝跡

遺構(第256・257図、第91表)

[位置] B・C-1・2グリッド。

[構造] 北側は調査区域外に延びる。周囲の住居跡を切り、494・495号土坑に切られる。南西コーナー部分は17世紀代の整地土に覆われる。(平面形) 調査区域内ではコ字形を示す。南辺の東側は極めて浅く、不明瞭になる。東西:外側14.0～13.5m、内側11.9～10.2m、南北:外側最大13.4m、内側最大12.3mを計る。(断面形) 西辺:逆台形(西壁は有段もしくは緩やか)、南辺:緩やかなU字形～皿形、東辺:緩やかな逆台形。(規模) 上幅2.21～0.69m・下幅0.45～0.05m。(深さ) 0.21～0.56m。(覆土) 2～5層、自然堆積。ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色～暗褐色土。

[遺物] 覆土中から、中国・同安窯系青磁碗(13世紀前半)の破片1点のほか、周辺の住居跡等から由来すると思われる、多量の古墳時代～平安時代の土師器・須恵器と、表層から近世陶器碗破片1点が出土。ほかに鉄製品・石製品が各1点ずつ出土。

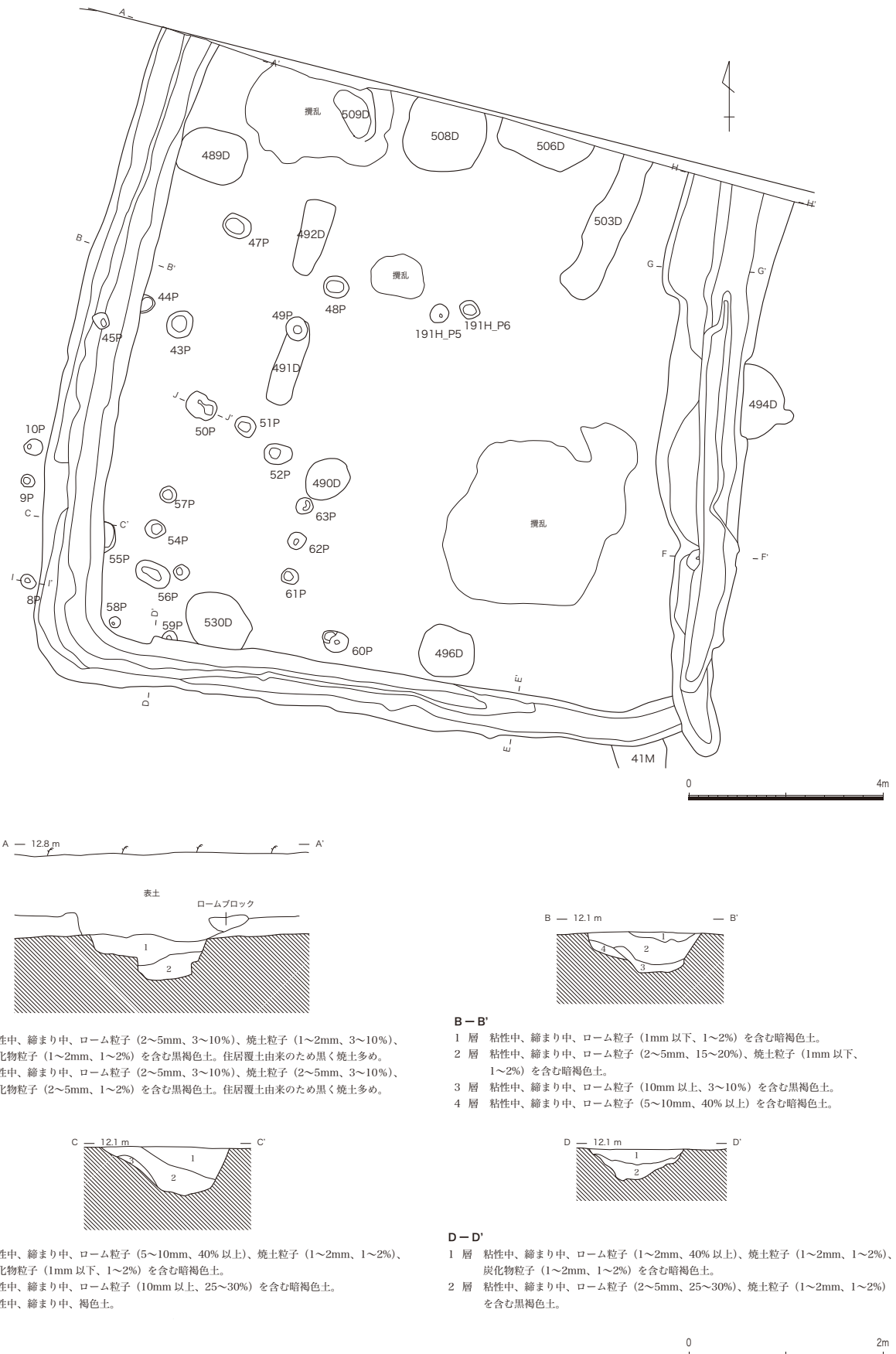
[時期] 青磁碗1点を評価すれば、13世紀前半ということになる。また、本溝跡を切る494・495号土坑からは時期を確定できる遺物が出土しておらず、495号土坑の土器皿小片1点を挙げ得るのみである。帰属時期を明らかにし得ないが、南西コーナーの整地土との関連から、本遺構を中世の溝と考えてよいだろう。

[所見] いわゆる区画溝の性格を有する遺構であることは間違いないだろう。しかし、北側調査区域外に未調査部分を残し、北隣の第42地点南東端では関連遺構は確認されていない。したがって、調査区域外北辺に沿って存在する柏城三の丸の堀(1号溝跡)との関係も不明である。また、区画内部には南西コーナー付近にピットをいくつか確認したが、建物を想定できる状況は見いだせない。

遺物(第269図、第95表)

1は中国・同安窯系の青磁碗である。

第3章 検出された遺構と遺物



A-A'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。住居覆土由来のため黒く焼土多め。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。住居覆土由来のため黒く焼土多め。

B-B'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、3~10%) を含む黒褐色土。
4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む暗褐色土。

C-C'

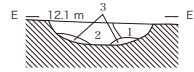
- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む暗褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む暗褐色土。
3 層 粘性中、締まり中、褐色土。

D-D'

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

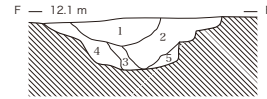
40号溝跡

第256図 溝跡4 (1/120・1/60)



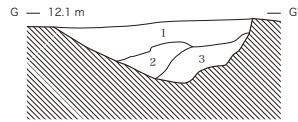
E-E'

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上) を含む暗褐色土。



F-F'

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、40% 以上)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む暗褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 5層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む褐色土。



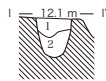
G-G'

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐色土。
- 2層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上)、焼土粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。



H-H'

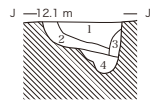
- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%)、焼土粒子 (5~10mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 2層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む褐色土。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む暗褐色土。



8P

8P

- 1層 ローム粒子 (5~10mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2層 ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。



50P

50P

- 1層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む褐色土。
- 2層 ローム粒子 (10mm 以上、1~2%) を含む黄褐色土。
- 3層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、25~30%) を含む黄褐色土。ローム主体。
- 4層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。



40号溝跡

第257図 溝跡5 (1/60)

41号溝跡

遺構 (第258図、第91表)

[位置] C・D-2グリッド。

[構造] やや不明瞭であったが、40号溝跡の南東コーナー付近に接続する形で確認され、南端の攪乱に接続する。198・199・209号住居跡を切る。(平面形) 北西から南東へ緩やかに蛇行する。(断面形) 北側：皿形～南側：緩やかなU字形。(規模) 上幅1.09～0.53m・下幅0.42～0.10m。(深さ) 0.12～0.35m。(覆土) 2層、自然堆積。ローム粒子を多量に含む暗褐色土を基調とする。

[遺物] 覆土中から平安時代の土師器・須恵器破片が出土したのみ。

[時期] 時期を推定できる遺物・状況が確認できなかった。

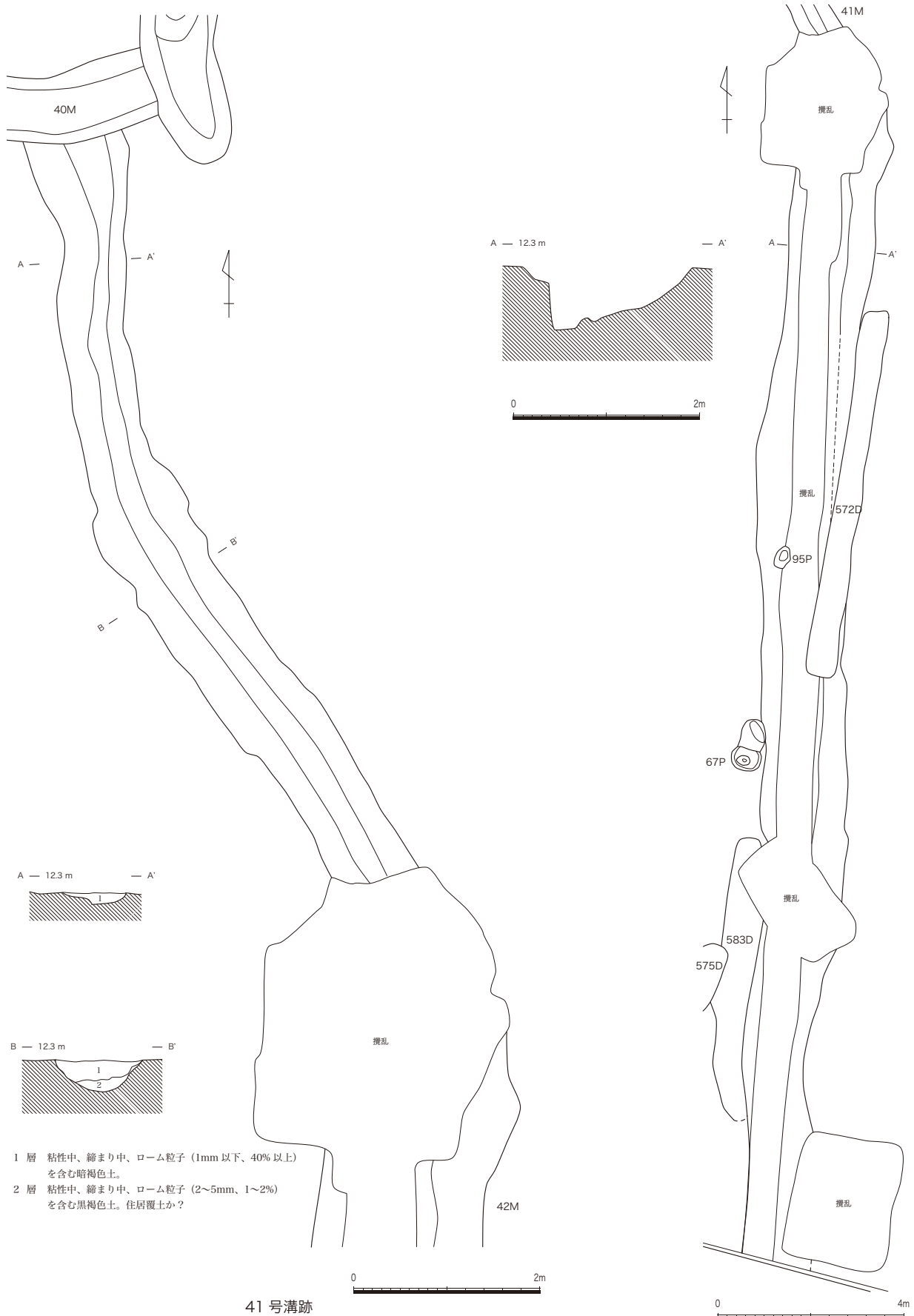
[所見] 攪乱の南側にある42号溝跡と一連の遺構の可能性もあり、その場合、本溝跡も近世のものと推定される。

42号溝跡

遺構 (第258図、第91表)

[位置] D-3～5グリッド。

[構造] 41号溝跡と攪乱をはさんで南に位置し、南端は調査区域外に延びる。また、本溝跡を利用す



第258図 溝跡6 (1/120・1/60)

るかのように、攪乱から南へ延びる排水管が敷設されている。206・207・224号住居跡を切り、中世以降の572号土坑に切られる。(平面形)北から南へほぼ直線的に延びる。(断面形)緩やかなU字形。(規模)上幅0.82～1.85m・下幅不明。(深さ)0.11m。(覆土)3層、自然堆積。ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から、瀬戸・美濃窯産の片口(Ⅱ類、17世紀後半)、江戸在地系土器の焙烙各1点と砥石2点が出土。ほかに鉄製品1点、板碑2点が出土。

[時期] 近世(17世紀後半)。

遺物 (第269図、第95・99表)

1は鉄釉施釉の片口、2は焙烙、3・4は砥石である。

43号溝跡

遺構 (第259図、第91表)

[位置] G-4・5グリッド。

[構造] 214号住居跡を切る。南北端は調査区域外に延びる。(平面形)東西壁は出入りがあり、長方形土坑が連結したものの可能性がある。(断面形)箱形。(規模)下幅0.87～1.60m・下幅0.59～1.43m。(深さ)0.33m。(走行方位)N-9°-W。(覆土)自然堆積。ローム粒子を含む黒褐色土。

[遺物] 覆土中から、瀬戸・美濃窯産陶器、波佐見・平戸系磁器、江戸在地系土器の焙烙等と火打ち石1点が出土。ほかに鉄製品6点、板碑1点が出土。

[時期] 近世(18世紀代か)。

遺物 (第269図、第99表)

1は火打ち石である。

44号溝跡

遺構 (第259図、第91表)

[位置] G-4・5グリッド。

[構造] 南北端は調査区域外に延びる。近世(17世紀後半)の464号土坑に切られる。(平面形)直線的に延びる。(断面形)箱形。(規模)上幅0.41～0.60m・下幅0.33～0.46m。(深さ)0.13m。(走行方位)N-6°-W。(覆土)自然堆積。褐灰色土を基調とする。

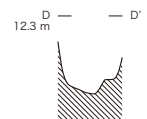
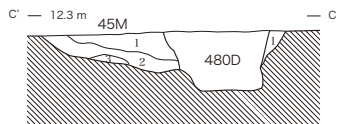
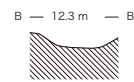
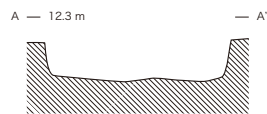
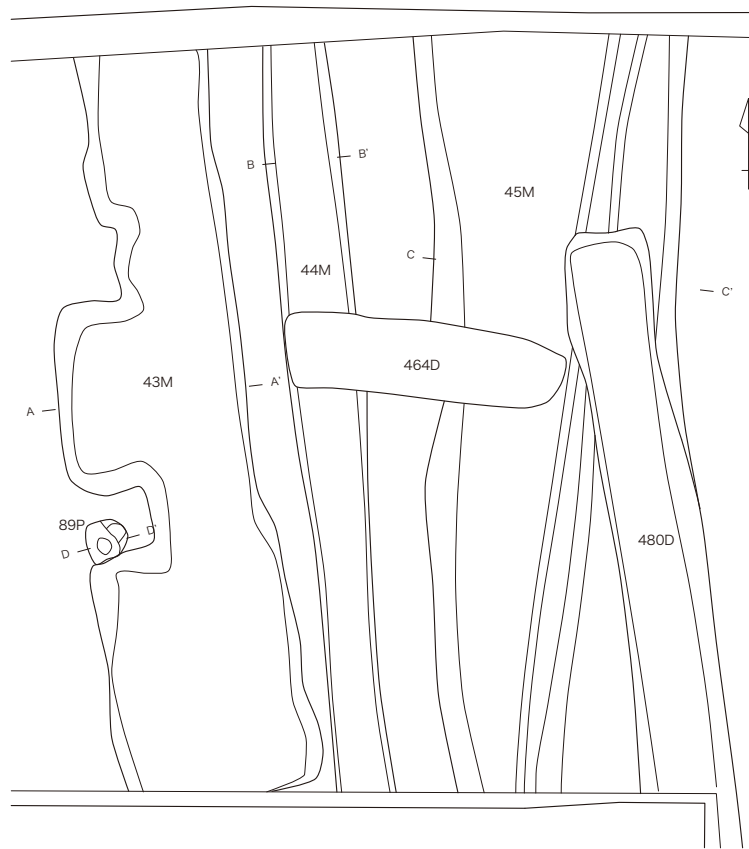
[遺物] 覆土中から瀬戸・美濃窯産染付碗の小片1点が出土。ほかに鉄製品3点が出土。

[時期] 近世(19世紀代)。

45号溝跡

遺構 (第259図、第91表)

[位置] G-4・5グリッド。



- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。



43・44・45号溝跡

第259図 溝跡7 (1/60)

〔構造〕南北端は調査区域外に延びる。近世の464（17世紀後半）・480号土坑に切られる。溝底に確認された斜行する溝は、別遺構の可能性もある。（平面形）直線的に延びる。（断面形）箱形。（規模）上幅1.94～2.15m・下幅0.10～0.18m。（深さ）0.08m。（走行方位）N-2°-W。（覆土）6層、自然堆積。ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色土。

〔遺物〕覆土中から、瀬戸・美濃窯産陶器、同産・波佐見系・肥前系磁器、北関東系焙烙等と砥石1点、鉄製鉤1点が出土。ほかに瓦1点が出土。

〔時期〕近世（18世紀代か）。

遺物（第269図、第99・101表）

1は鉄製鉤、2は砥石の部品である。

46号溝跡

遺構（第260図、第91表）

〔位置〕H・I・J-4～6グリッド。

〔構造〕調査区域南東縁に沿うように屈曲して走る。北東側は調査区域外に延び、南西側は第58地点へ延びる。（平面形）北東から南西へ屈曲する。（断面形）浅く、不定形。（規模）上幅1.32～4.37m・下幅0.10～0.35m。（深さ）0.47m。（覆土）1層、自然堆積。ローム・焼土・炭化物粒子を含む黒褐色土。

〔遺物〕覆土中から17～19世紀の陶磁器（美濃窯産菊皿、唐津窯産陶器、信楽系灯明皿、堺・明石系播鉢、瀬戸・美濃窯産磁器等）、北関東系焙烙、江戸在地系土器の台付灯明受皿と土製棗玉、燻し瓦、銅銭（寛永通寶）が出土。ほかに土製品・鉄製品・銅製品が各2点ずつ出土。

〔時期〕近世。19世紀代の遺物は表土層からの混入である可能性があるが、判然としない。

〔所見〕溝の主体は東・南側であるようだが、極めて掘方がはっきりしない。覆土も残りが悪かったり、表土層が溝底に達する部分があり、近・現代の造作が影響している可能性がある。

遺物（第269図、第95・97・103表）

1は唐津窯産の三島手刷毛目文端反碗、2は瀬戸・美濃窯産？イッチン描き小杯、3は堺・明石系播鉢、4は棗玉、5は寛永通寶である。

（5）道路状遺構

1号道路状遺構

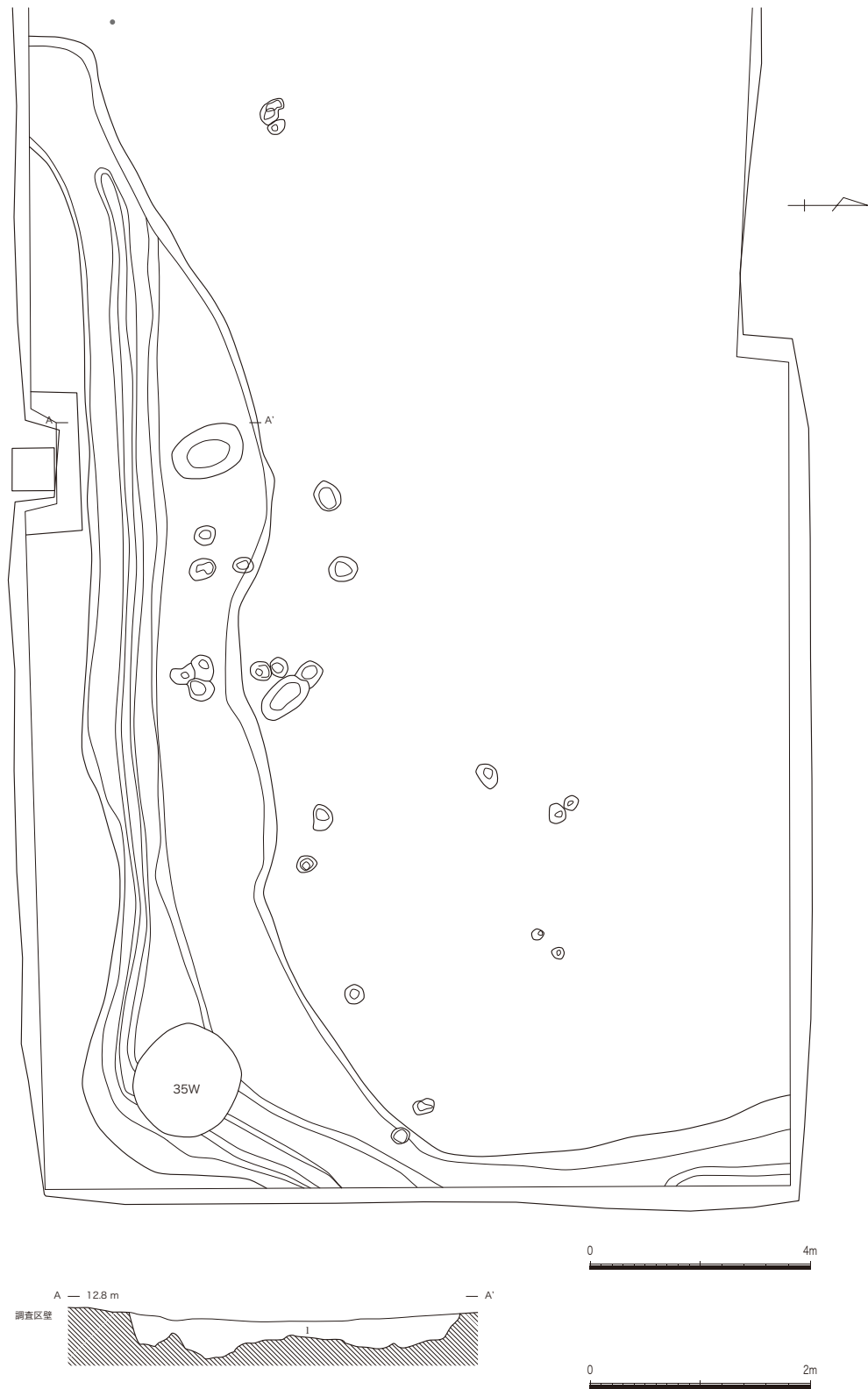
遺構（第261図、第92表）

〔位置〕2・3区。

〔構造〕2区西側と3区北端で確認。ただし、3区で確認した硬化面上面レベルと第1面は0.12m程、3区の方が高い。3区が路肩のみの確認によるためと思われ、3区確認の硬化面は第1面に対応するものと考えられる。183号・184号住居跡を切る。

（平面形）確認範囲では、ほぼ直線である。

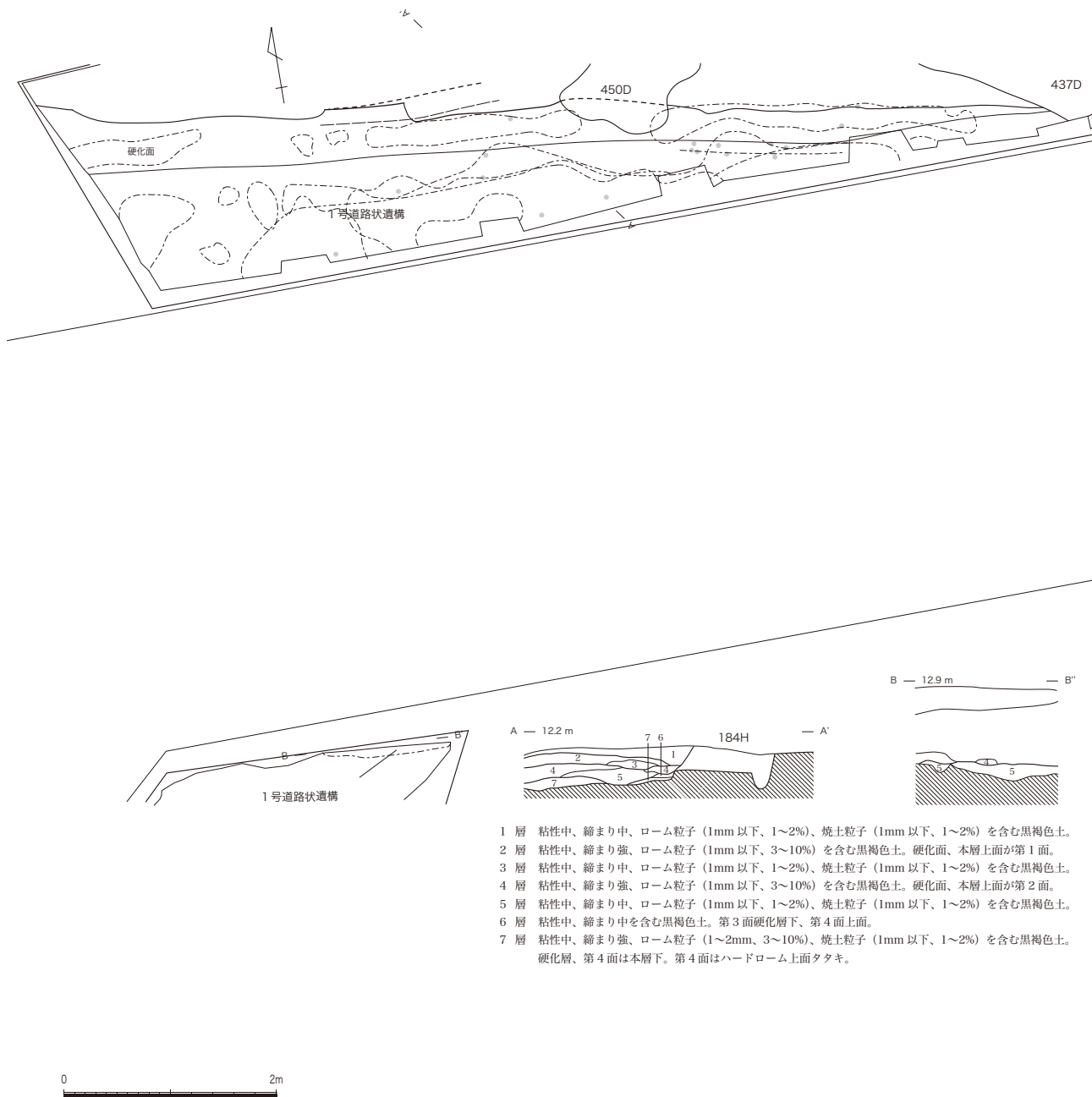
（断面形）第4面の掘方は浅い逆台形。各路面とも縁に側溝状の窪みがある（北側のみ確認）。



I 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%)、黒褐色土 (1~2mm、1~2%) を含むぶい黄褐色土。

46号溝跡

第260図 溝跡8 (1/120・1/60)



- 1 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。硬化面、本層上面が第1面。
- 3 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。硬化面、本層上面が第2面。
- 5 層 粘性中、縮まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 6 層 粘性中、縮まり中を含む黒褐色土。第3面硬化層下、第4面上面。
- 7 層 粘性中、縮まり強、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。硬化層、第4面は本層下。第4面はハードローム上面タタキ。

第261図 1号道路状遺構 (1/60)

(走行方位) N -80° - W (E -10° - S)。

(平面検出長) 9.67m。

(平面幅) 6.10m (2区北縁と3区南縁の間隔)。

(路面) 4面確認。第1~3面は、下位の側溝覆土を覆うように黒褐色土を敷き詰めて突き固めている。

(路面レベル) 第1面：12.01m、第2面：11.90m、第3面：11.78m、第4面：11.71m。

[遺物] 覆土中から古墳時代後期の土器のほか、燻し瓦1点、近世陶器碗1、瀬戸・美濃窯産志野丸皿1点 (17世紀前葉)、北関東系焙烙3点が出土。

〔時期〕 詳細な時期は判断できないが、近世のものとして見て良いだろう。

〔所見〕 同様の遺構は西側延長上の第46地点においても確認されている。この道路を東方に延長すると、氷川神社の鳥居付近に到達する。

(6) ピット (第5～7・217・262図、第93・94表)

両地点合わせて131基のピットを確認したが、第58地点の奈良・平安時代の4・6号掘立柱建築遺構2棟のほかは有意な関連を見出すことはできなかった。しかし、中には建物の柱穴としてよいものもあり、掘立柱建築遺構がいくつか存在していた可能性は残る。一方で、確実な出土遺物は少なく、帰属時期の認定を困難にしている。覆土の特徴からは、古墳時代後期の第60地点94号ピットと奈良・平安時代の第58地点掘立柱建築遺構2棟の柱穴、第60地点49・62号ピットを除いて、ほとんどが中世以降のものとして判断している。以下には、特徴的な遺物を出土したピットを採り上げる。

〈第60地点〉

27号ピット (第217・262・270図、第94・103表)

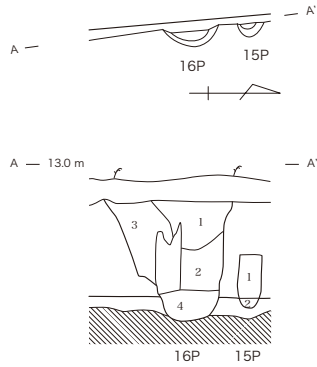
B-4グリッドに位置する。195号住居跡を切る。確認面直下から、銅銭22枚の緡銭が出土。わずかに緡縄が残っていた。確認面に露出しておらず、錆着した22枚以外は検出されなかったことから、本緡銭は埋納時の状態を保つものと判断する。すべて渡来銭で、銅製、20枚が北宋銭、南宋銭と安南銭が各1枚である(第270図1～22)。铸造年では北宋銭の宋通元寶(960～976年)が最古、南宋銭の淳熙元寶(1184年)が最新である。真書の皇宋通寶と同じく真書の天聖元寶が各2枚ある他は異なっている。銭貨の表裏面の重ねは、検出上面から見て裏-表6枚-裏-表6枚-裏2枚-表5枚-裏となっており、規則性をもたせている可能性もある。他の出土遺物には武蔵型甕の脚台部等があるが、195号住居跡に由来するものと考えられる。遺構の帰属時期は、1184年を上限とし、北宋銭の輸入は14世紀を最盛期とするが、出土事例は近世に及ぶため、下限は不明。

41号ピット (第5・7・217図、第94表)

B-4グリッドに位置する。195号住居跡を切る。覆土中から土師質土器皿(かわらけ)破片2点が出土。うち1点は内面に油煙が付着、灯明皿に使用されたものと解される。15世紀末葉～16世紀代に位置づけられる。

69号ピット (第5・7・217・270図、第94・95表)

C-5グリッドに位置する。中世(15世紀末葉～16世紀代)の591号土坑を切る形で確認。3基のピットが重複する。出土遺物には16世紀末葉～17世紀初頭的美濃窯産播鉢(第270図1)、同鉄絵皿、19世紀代の陶器瓶類、磁器小片がある。播鉢破片は口縁端部が顕著な磨り面となっており、転用が伺われる。

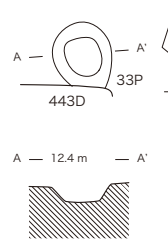


15P

- 1 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、15~20%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む褐灰色土。

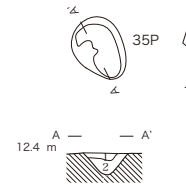
16P

- 1 層 粘性弱、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、25~30%)、炭化物粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む褐灰色土。
- 3 層 粘性弱、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。



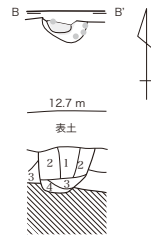
33P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。



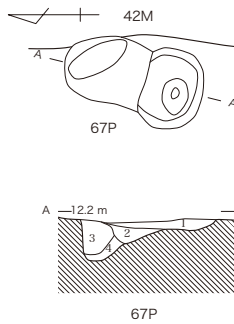
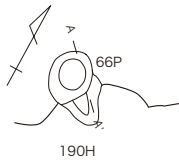
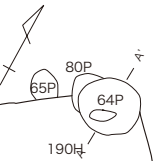
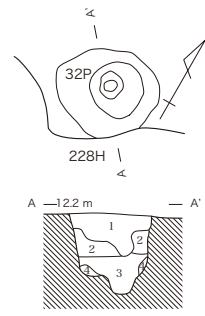
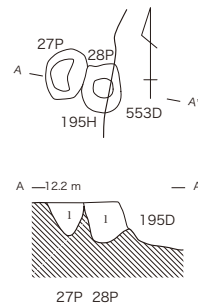
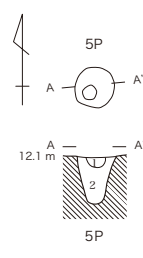
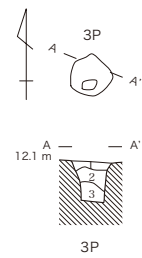
35P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。



- 1 層 粘性中、締まり中、焼土粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、3~10%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり強、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む黒褐色土。上面あたり。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、15~20%)、焼土粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。

第58地点 ピット



3P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む暗褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 3 層 ローム粒子 (5~10mm、15~20%) を含む黒褐色土。

5P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、3~10%) を含む暗褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む黄褐色土。

12P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、25~30%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり強、明黄褐色土。ロームブロック。
- 3 層 粘性中、締まり強、黒色土。

27P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (2~5mm、3~10%)、焼土粒子 (1~2mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。

28P

- 1 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (2~5mm、25~30%) を含む黒褐色土。

32P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%)、焼土粒子 (2~5mm、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、25~30%) を含む黒褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (10mm 以上、40% 以上) を含む黒褐色土。

66P

- 1 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1mm 以下、3~10%)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%)、炭化物粒子 (1~2mm、1~2%) を含む黒褐色土。カマドを切るピット。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上) を含む黄褐色土。

64P

- 1 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (5~10mm、40% 以上)、焼土粒子 (1mm 以下、1~2%) を含む黄褐色土。
- 2 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1~2mm、15~20%) を含む褐色土。

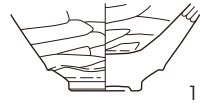
67P

- 1 層 粘性強、締まり中、粘土粒子 (2~5mm、25~30%) を含む褐灰色土。
- 2 層 粘性中、締まり中、ローム粒子 (1~2mm、1~2%) を含む暗褐色土。
- 3 層 粘性中、締まり中、黒褐色土。
- 4 層 粘性中、締まり弱、ローム粒子 (1mm 以下、25~30%) を含む褐色土。

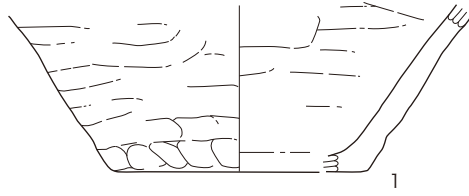
第60地点 ピット

第262図 ピット (1/60)





381号土坑出土遺物

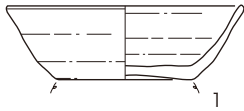


390号土坑出土遺物

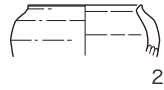


1

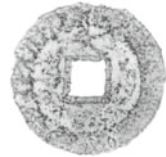
392号土坑出土遺物



398号土坑出土遺物



2



399号土坑出土遺物 1



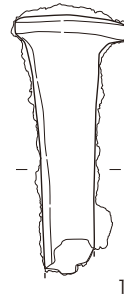
1

401号土坑出土遺物



1

403号土坑出土遺物



1

404号土坑出土遺物



1



2



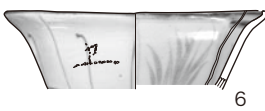
3



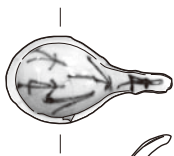
4



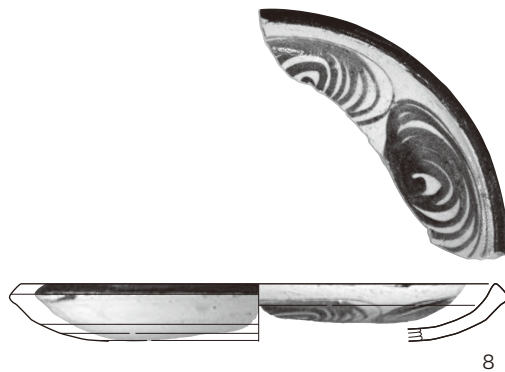
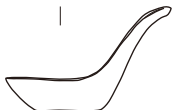
5



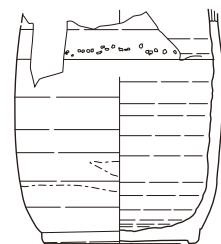
6



7



8

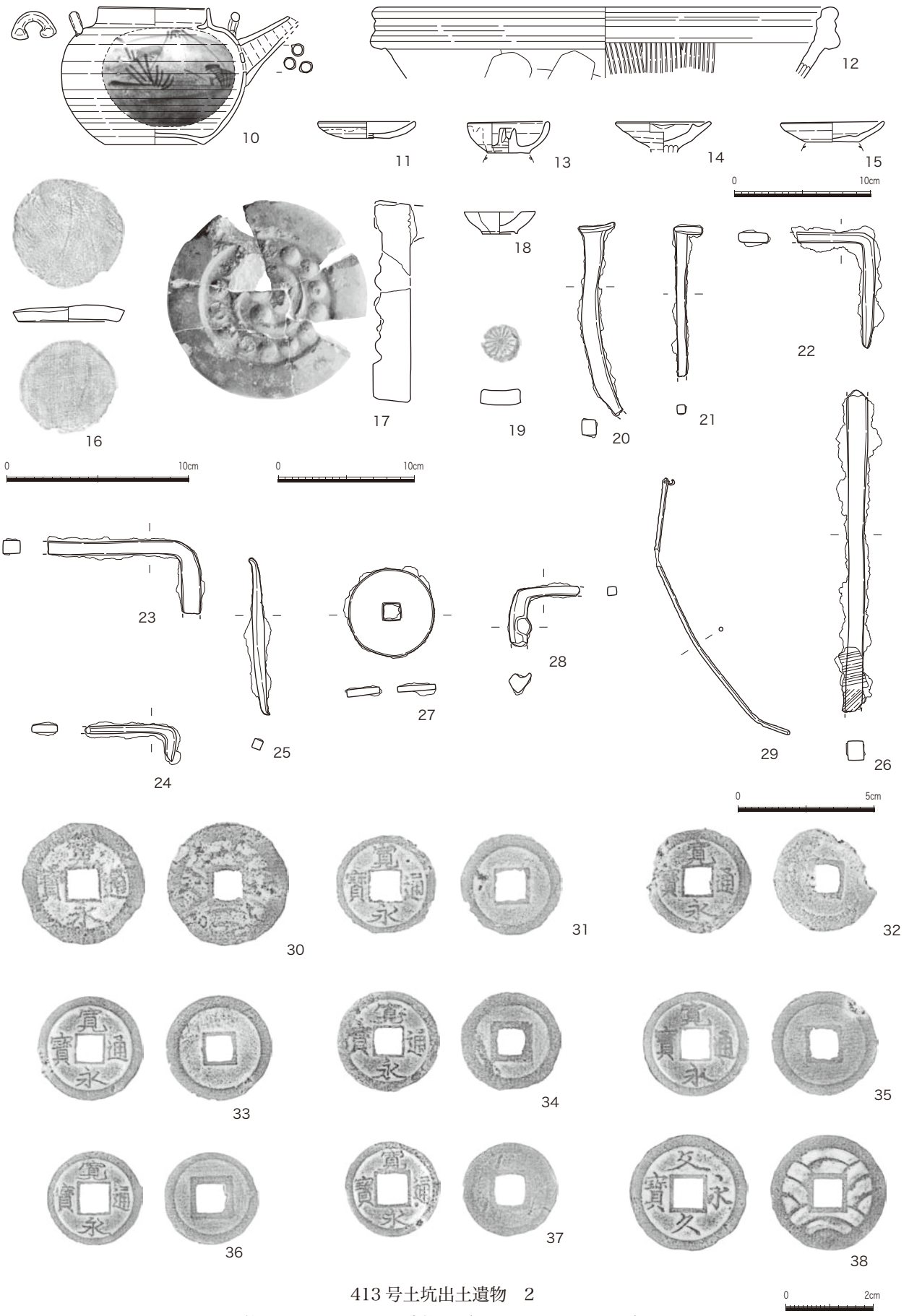


9

413号土坑出土遺物 1

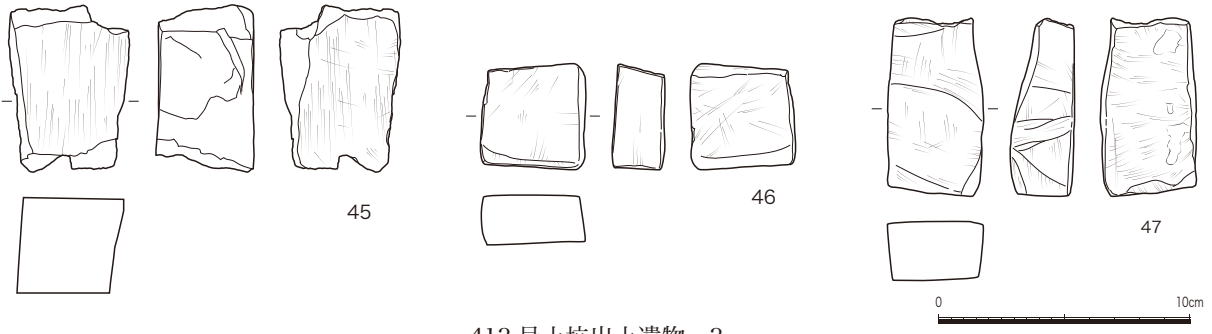
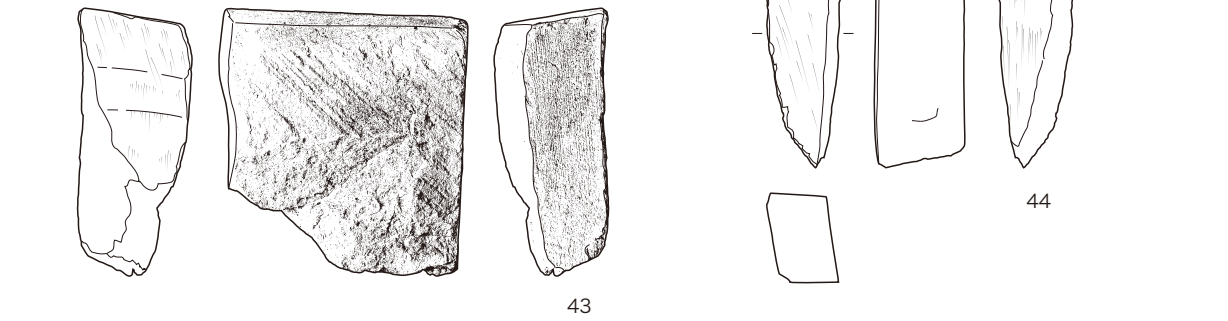
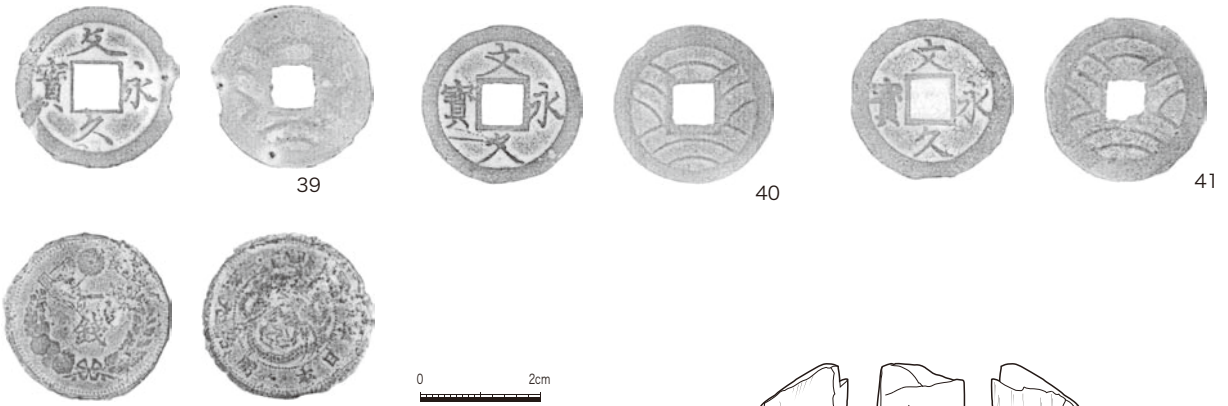


第263図 土坑出土遺物 1 (1/4・1/2・4/5)

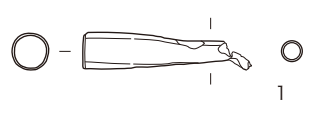


413号土坑出土遺物 2

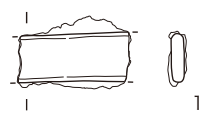
第264図 土坑出土遺物2 (1/4・1/2・1/3・4/5)



413号土坑出土遺物 3



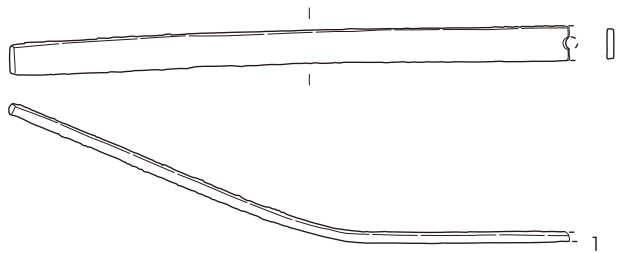
414号土坑出土遺物



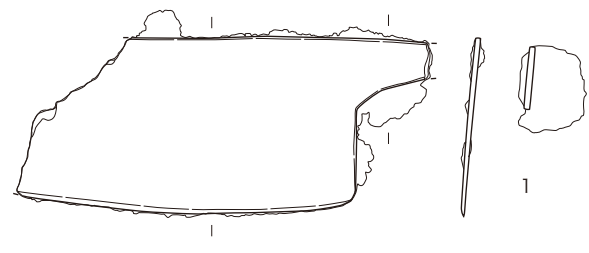
415号土坑出土遺物



416号土坑出土遺物



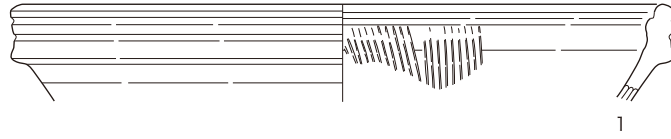
433号土坑出土遺物



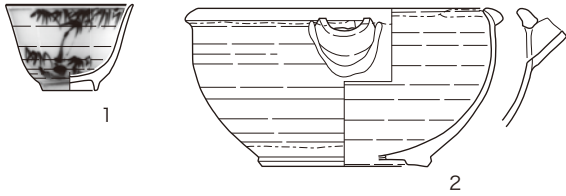
434号土坑出土遺物

第265図 土坑出土遺物3 (1/4・1/2・1/3・4/5)

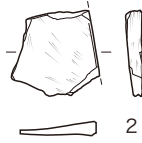
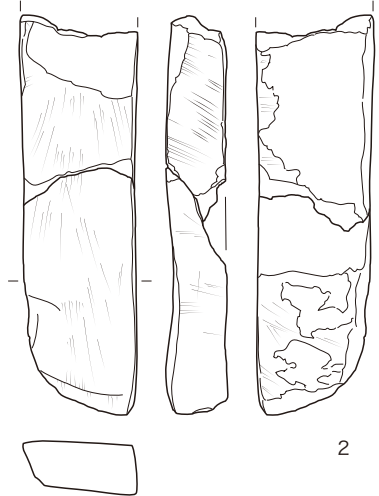




435号土坑出土遺物

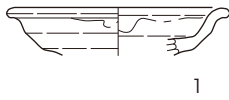


439号土坑出土遺物

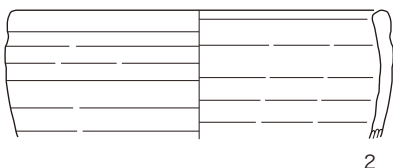
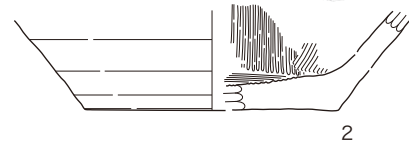
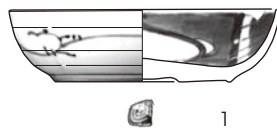
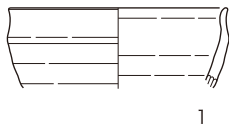


465号土坑出土遺物

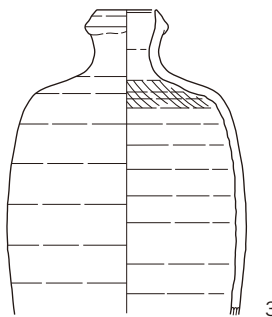
459号土坑出土遺物



483号土坑出土遺物



511号土坑出土遺物



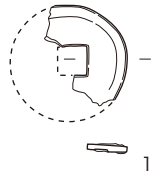
496号土坑出土遺物



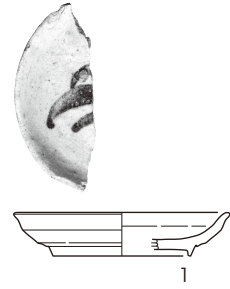
第266図 土坑出土遺物4 (1/4・1/3・4/5)



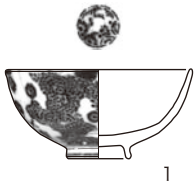
512号土坑出土遺物



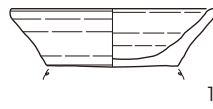
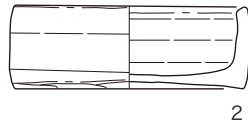
513号土坑出土遺物



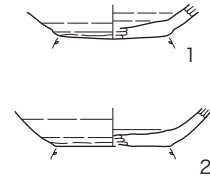
515号土坑出土遺物



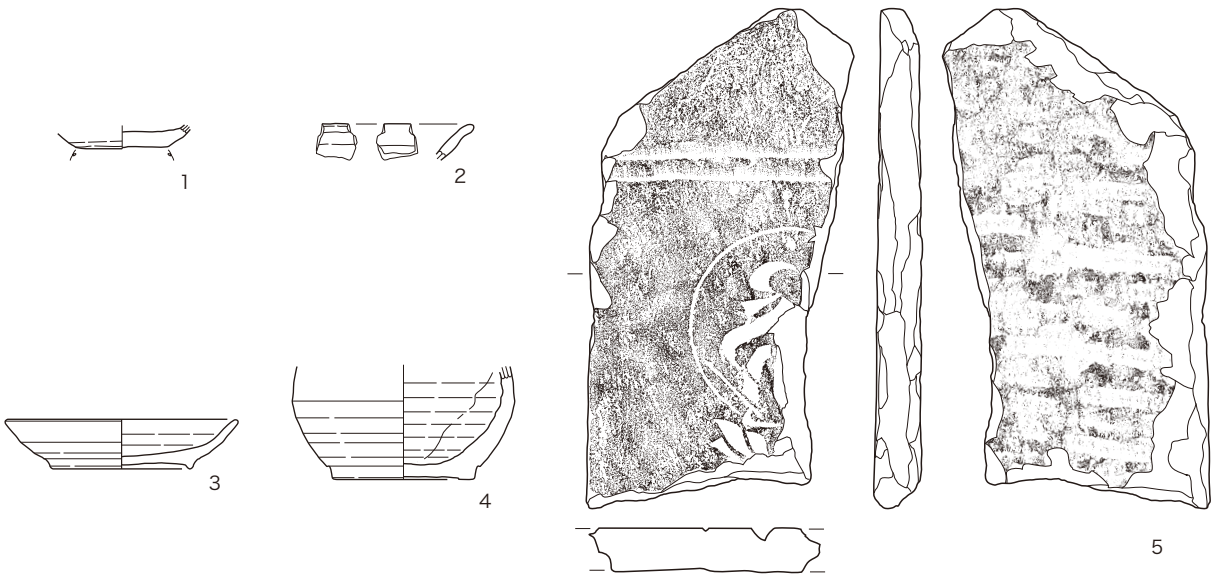
518号土坑出土遺物



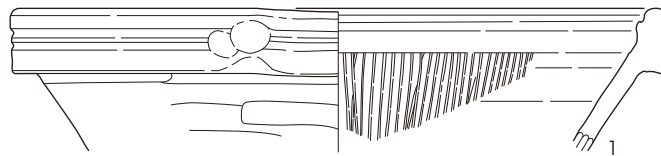
547号土坑出土遺物



553号土坑出土遺物



554号土坑出土遺物



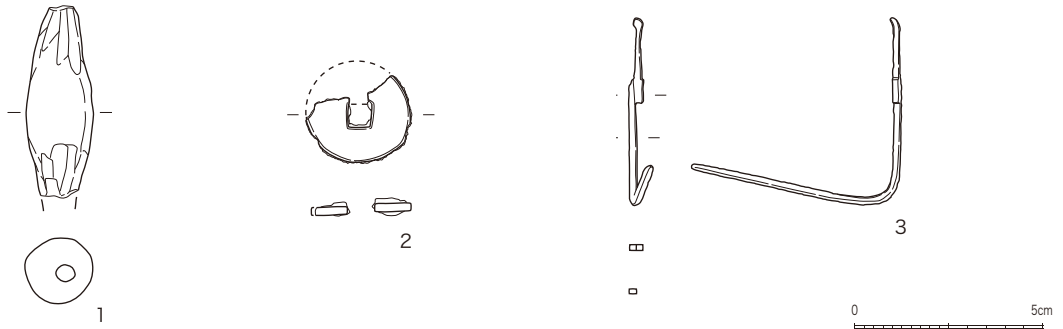
561号土坑出土遺物



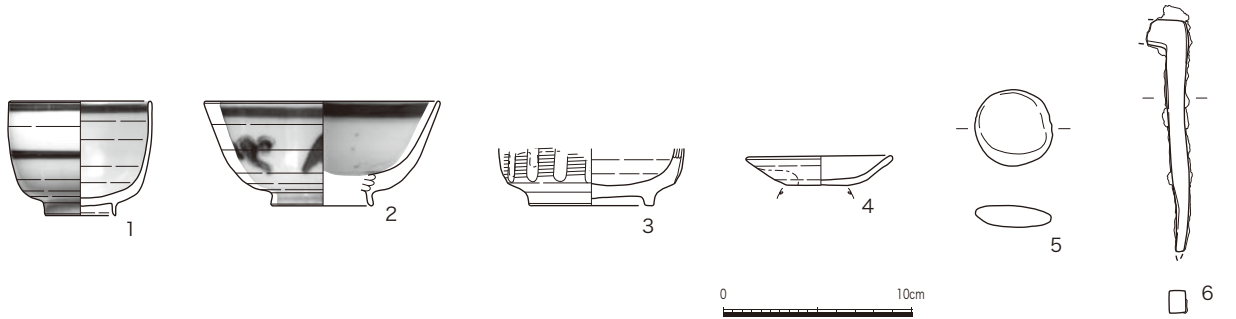
第267図 土坑出土遺物5 (1/4)



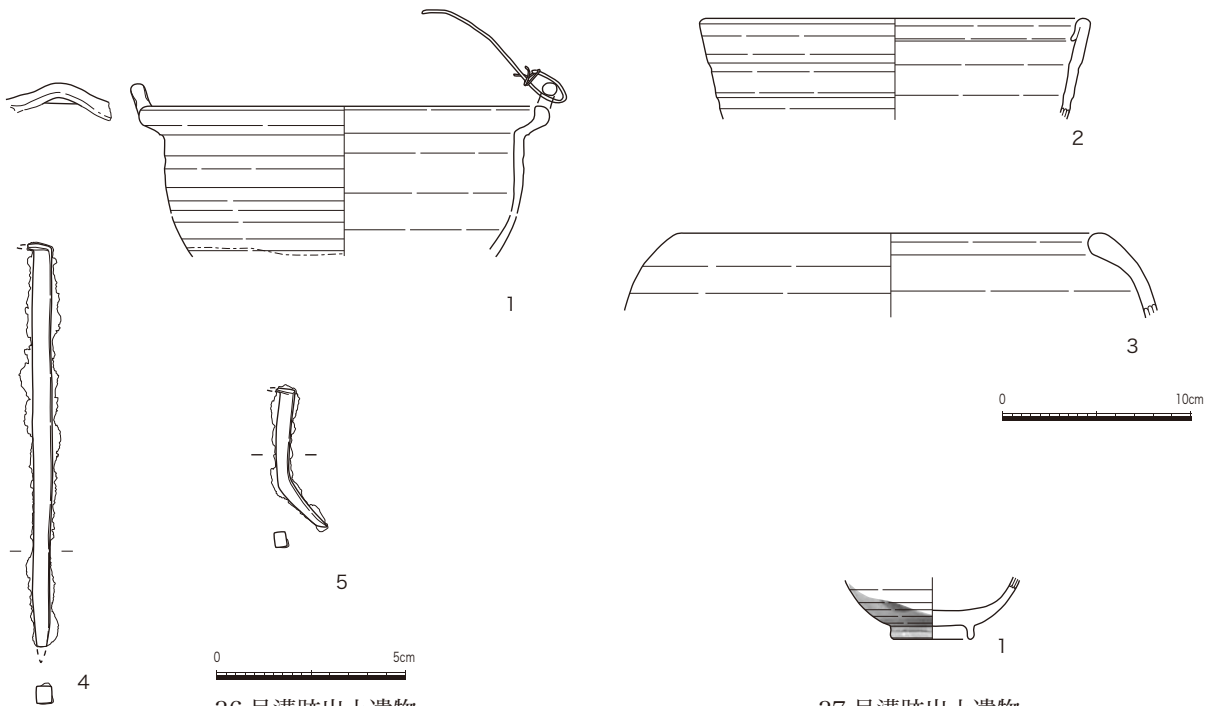
31号井戸跡出土遺物



34号溝跡出土遺物



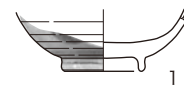
35号溝跡出土遺物



36号溝跡出土遺物

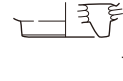
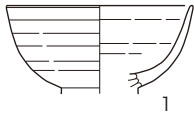


37号溝跡出土遺物



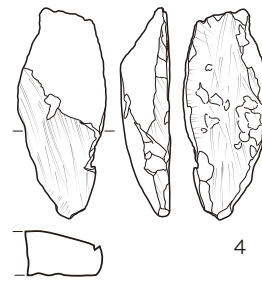
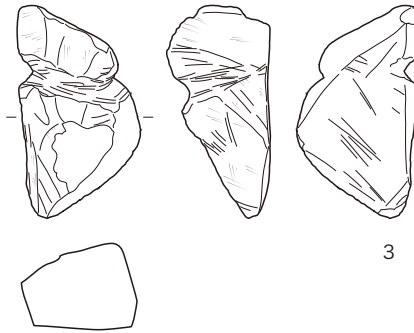
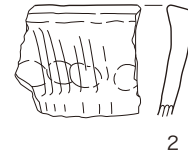
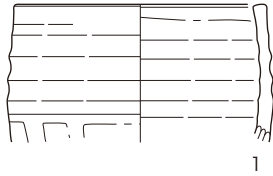
第268図 井戸跡・溝跡出土遺物 (1/4・1/2)



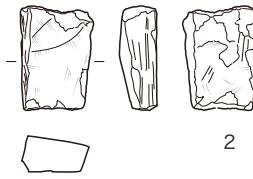
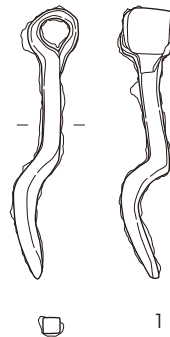
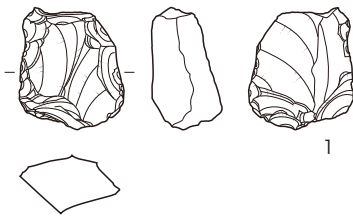


39号溝跡出土遺物

40号溝跡出土遺物



42号溝跡出土遺物



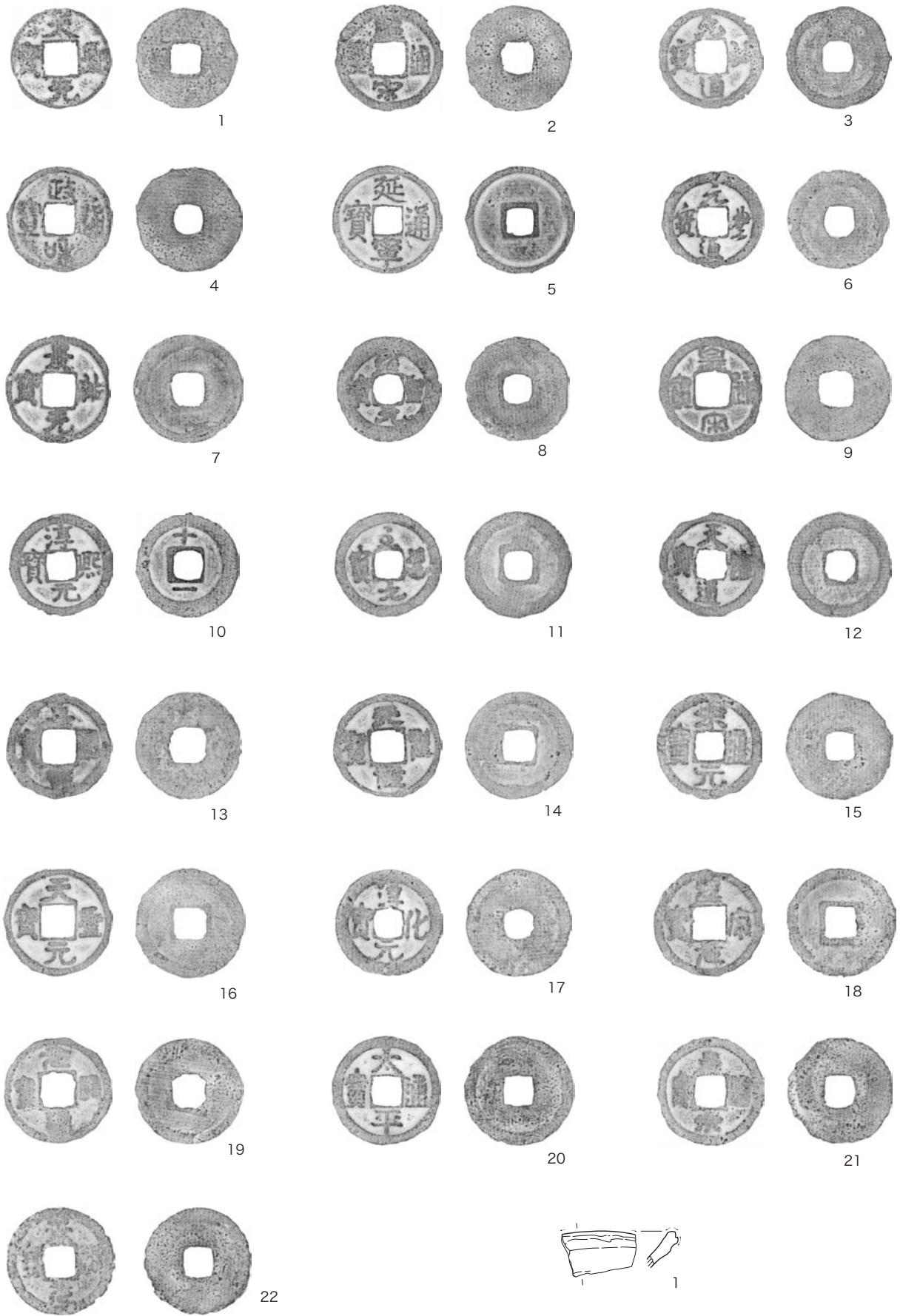
43号溝跡出土遺物

45号溝跡出土遺物



46号溝跡出土遺物

第269図 井戸跡・溝跡出土遺物 (1/4・1/2・1/3・2/3・4/5)



27号ピット出土遺物

69号ピット出土遺物

第270図 第60地点 ピット出土遺物 (1/4・4/5)

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	遺構名	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状			製作の特徴	施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底							
第263図 1	381D	陶器	碗						胴～底	英/砂	密				ヘラナデ	無	良	灰オリーブ色		中国「建甌」写し	14C～16C前半
第263図 1	390D	土器	鉢	捏ね鉢					胴～底	英/砂/礫					横ナデ	無	やや不良	灰オリーブ色			
第263図 1	398D	須恵器	坏		(12.4)	1/5	9.8	7.4	3/4	口縁～底	砂		丸	無	回転ナデ/底回転離し糸切り	無	やや不良	浅黄色		東金子窯産	
第263図 2	398D	陶器?	合子?		(5.9)	1/8	(2.8)		口縁～胴	白砂/黒鉄		摘み上げ	無	回転ナデ	無	良	灰色	外:自然軸	東海地方山茶碗系?	1100年前後?	
第263図 1	413D	磁器	小碗	丸碗	6.8		4.3	3.3	完形			丸		外面呉須描き「松に帆立船」文/高台内「一重角に角福」	透明釉	良	白色		肥前系		
第263図 2	413D	磁器	小碗	端反碗	6.8		4.3	2.9	完形			端反		外面呉須描き「風景文」	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半	
第263図 3	413D	磁器	小碗	端反碗	6.9		3.5	2.5	完形			端反		外面呉須描き「花に蝶」文/見込み「崩し帆立文」/口紅	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半	
第263図 4	413D	磁器	小碗	端反碗	8.4	3/4	4.7	3.0	1/1	ほぼ完形		端反		外面呉須描き「篆書文」/見込み「崩し帆立文」/口紅	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半	
第263図 5	413D	磁器	中碗	端反碗	11.1	2/3	6.0		1/1	口縁～底		端反		外面呉須描き「草花文」/見込み「折松葉文」/口紅	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半	
第263図 6	413D	磁器	中鉢	八角句干形鉢	13.9	3/4	4.2		口縁～胴			匙面		外・内面呉須描き「草文」	透明釉	良	白色	焼接有り/外:釘書き「エ」	肥前系	18C末葉～19C中葉	
第263図 7	413D	磁器	杓子	散り蓮華	8.9		4.7		完形					内面呉須描き「折松葉散らし文」	透明釉	良	白色		肥前系	18C後半～	
第263図 8	413D	陶器	大皿	馬の目皿	(25.0)	1/4	(3.0)		口縁～胴					口縁鉄軸/鉄絵渦巻き文/胴下半右回転削り	灰釉	良	黄白色		瀬戸窯産	18C末葉～19C中葉	
第263図 9	413D	陶器	徳利	高田徳利	(12.3)		8.1		1/1	胴～底				高台右回転削り出し/底部軸拭き取り	外:鉄軸/内:錆釉	良	黄白色	外:釘書き(不明)	美濃窯産	19C中葉	
第264図 10	413D	陶器	水注	土瓶	8.0		10.0	7.2	ほぼ完形	英		蓋受け	上げ底/三足なし	白泥呉須描き「山水文(富士・帆立船)/底露胎	灰釉	良	灰白色	外:底煤付着	益子系?	19C後葉	
第264図 11	413D	陶器	灯明皿		(7.0)	1/4	1.2	(3.2)	口縁～底	黒鉄				胴～底右回転削り/軸拭き取り	鉄釉	良	黄白色	内:口縁油煙付着/見込み環状痕	瀬戸・美濃窯産	19C～	
第264図 12	413D	陶器	搦鉢		(23.0)	1/12	(5.2)		口縁～胴	白砂/英		口縁帯3段		搦り目10本	無	良	明赤褐色		堺・明石系	19C～	
第264図 13	413D	土器	乗櫛	たんころ形/丸形	5.8	2/3	2.3	3.1	1/1	口縁～底				芯立て溝状/底左回転糸切り	透明釉	良	橙色	内:口縁・芯立て油煙付着	江戸在地系	19C～	
第264図 14	413D	土器	台付灯明受皿		6.8	1/1	2.2		受へ接合	砂				油滲半月状	透明釉	良	橙色	口縁油煙付着	江戸在地系	19C～	
第264図 15	413D	土器	灯明皿		7.6		1.5	3.9	完形	雲?/英				底左回転離し糸切り	無	良	橙色	口縁油煙付着	江戸在地系	19C～	
第264図 16	413D	土器	焼塩壺蓋		6.1		0.9	5.4	完形	赤/雲/角/英				板作り/外:掌痕/内:布目痕	無	良	褐色	内:魚け付着	播磨	19C～	
第266図 1	435D	陶器	搦鉢		(33.8)	1/16	(5.1)		口縁～胴	白砂/英		口縁帯3段		搦り目9本	無	良	明赤褐色		堺・明石系	19C～	
第266図 1	439D	磁器	小碗	端反碗	3.6	1/2	4.5	2.9	口縁～底			端反		外面呉須描き「竹文」	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半	
第266図 2	439D	陶器	鉢	片口	(15.0)	1/3	8.3	8.9	3/4	口縁～底	英		玉緑	高台右回転削り出し/口縁鉄軸/底露胎	灰釉	良	灰色	見込み長方形目跡5か所	産地不明		
第266図 1	459D	陶器	搦鉢						胴～底	黒鉄/砂				外:胴指押え/底回転糸切り/内:搦り目単位不明	錆釉	良	黄白色	内面磨耗	瀬戸窯産	15C後半～16C中葉	
第266図 1	465D	陶器	搦鉢						胴～底	英/砂		口縁帯3段		搦り目単位不明	無	良	明赤褐色		堺・明石系	19C～	
第266図 1	483D	陶器	緑釉挟み皿		(11.8)	1/4	(2.5)		口縁～胴	赤/白砂		外彎			鉄釉	良	橙色		瀬戸・美濃窯産	15C末葉～16C初葉	
第266図 1	496D	磁器	五寸皿		14.3	2/3	3.8	9.4	1/1	口縁～底				底部蛇の目高台/呉須描き外面「唐草文」/内面「対流水花文」/見込み二重園線/高台内「二重角に渦福」	透明釉	良	白色		肥前系?		
第266図 2	496D	陶器	搦鉢				(6.8)	(13.4)	1/4	胴～底	黒鉄/白砂/英			搦り目18本/胴下半回転削り/底回転離し糸切り/胴下半～底軸拭き取り	鉄釉	良	黄白色	見込みトチ跡	瀬戸・美濃窯産	18C後半～19C前半?	
第266図 3	496D	陶器	高田徳利		3.1	1/1	(16.2)		口縁～胴	黒鉄		玉緑		内面肩部絞り痕	灰釉	良	黄白色			19C中葉	
第266図 1	511D	陶器	碗	天目茶碗	(11.5)	1/14	(4.2)		口縁～胴	白砂		外彎		胴部回転削り	鉛釉	良	灰黄白色		瀬戸・美濃窯産	17C初葉	
第266図 2	511D	陶器	鉢	片口(丸形)	(19.4)	1/14	(8.7)		口縁～胴	白砂		丸		外面口縁下沈線状	灰釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	17C末葉	
第267図 1	515D	陶器	鉄絵皿		(11.4)	1/3	2.3	(7.2)	1/3	口縁～底	黒鉄/白砂		外反			灰釉	良	黄白色		瀬戸窯産	17C前半
第267図 1	518D	磁器	中碗	丸碗	9.7		4.7	3.2	完形					摺り絵染付/外「鹿子文」「花文」/見込み「松竹梅繁き文」	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後葉	
第267図 2	518D	陶器	蓋物		12.1		4.4	12.0	ほぼ完形					口縁端面軸拭き取り/底無調整/露胎	灰釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	19C後葉	
第267図 1	547D	土師質土器	小皿		(10.7)	1/3	3.1	7.0	1/2	口縁～底	赤/雲/英		尖	ロクロ右回転ナデ/底回転離し糸切り	無	良	橙色		在地系	15C末葉～16C代	
第267図 1	553D	土師質土器	小皿				(1.8)	5.9	1/2	胴～底	赤/雲/英			ロクロ右回転ナデ/底回転離し糸切り	無	良	橙色		在地系	15C末葉～16C代	

第95表 遺構出土陶磁器・土器一覧(1)

第4節 中世以降

挿図番号	遺構名	種別	器種	口径		器高	底径		遺存度	胎土		形状		製作の特徴	施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期			
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頭								底		
第267図 2	553D	土師質土器	小皿			(2.0)	(5.9)	1/5	胴～底	赤/雲(多)/英	密			ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	やや不良	橙色		在地系	15C末葉～16C代			
第267図 1	554D	土師質土器	小皿			(1.2)	5.0	1/1	胴～底	赤/雲(多)/英	密			ロクロ右回転ナデ/底回転糸切り	無	やや不良	橙色		在地系	15C末葉～16C代			
第267図 2	554D	陶器	小皿	緑釉扶み皿					口縁～胴	白砂		外反			口縁灰釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	15C末葉～16C初頭			
第267図 3	554D	陶器	小皿	志野丸皿	(12.0)	1/4	2.6	7.2	1/1	口縁～底		外傾		削り出し高台/高台内軸拭き取り	長石釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	17C前半			
第267図 4	554D	陶器	壺			(6.0)	(7.4)	1/3	胴～底					削り出し高台/高台内軸拭き取り	長石釉	良	黄白色		美濃窯産	17C前半?			
第267図 1	561D	陶器	搦鉢		(33.6)	1/5	(7.5)		口縁～胴	白砂/英/砂			口縁帯3段	外面胴回転削り	無	良	橙色		堺・明石系	19C～			
第267図 1	31W	土師質土器	小皿		(10.5)	1/12	2.4	6.9	1/1	口縁～底	赤(多)/英/砂		角				ロクロ右回転ナデ/底静止糸切り	無	良	橙色		在地系	15C末葉～16C代
第267図 2	31W	陶器	丸碗		(12.1)	1/10	6.1	5.0	2/3	口縁～底			やや外反				胴下半～底回転削り→高台貼付	灰釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	16C末葉/大窯第3段階後半
第267図 3	31W	陶器	搦鉢		(28.2)	1/7	(4.5)		口縁～胴	白砂		拡張		搦り目11本	錆釉	良	黄白色	口縁端部磨耗	瀬戸・美濃窯産	16C末葉/大窯第3段階後半			
第268図 1	35M	磁器	湯呑	筒形湯呑	7.4	1/2	6.0	3.7	1/2	口縁～底			丸				外・内面呉須描き圏線	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後半
第268図 2	35M	磁器	中碗	端反碗	(12.2)	1/5	(5.5)	(5.2)	1/5	口縁～底			端反				外・内面呉須描き「花文」	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後葉
第268図 3	35M	陶器	鉢	火入			3.0	6.6	1/2	胴～底	黒鉄/英/砂			高台右回転削り出し/内面露胎	灰釉+鉛釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	19C～			
第268図 4	35M	土器	灯明皿		7.5		1.6	3.8	完形	砂				底左回転糸切り	透明釉	良	橙色	口縁油煙付着	江戸在地系	19C～			
第268図 1	36M	陶器	耳付鍋		(21.0)	1/3	(9.1)		口縁～胴	黒鉄/白砂		受け口		胴下半削り/露胎	柿釉	良	黄白色	外:胴下半煤付着/銅線釣り手残存	瀬戸・美濃窯産	19C～			
第268図 2	36M	陶器	鉢	片口	(20.0)	1/4	(5.3)		口縁～胴	砂		折返し			鉛釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	19C～			
第268図 3	36M	土器	鉢	火鉢	(17.8)	1/5	(4.4)		口縁～胴	角/雲?/砂		内彎		回転ナデ	黒色	良	黄褐色	外・内:煤付着	江戸在地系				
第268図 1	37M	磁器	中碗				(3.3)	(4.0)	1/2	胴～底				外面呉須コンニャク印版	透明釉	良	白色		肥前系	18・19C			
第269図 1	39M	磁器	丸碗		(9.8)	2/5	(4.7)		口縁～胴					外面呉須描き「草花文」	透明釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C中葉			
第269図 2	39M	土器	焙烙(瓦質)						口縁～底	赤/角/英/砂		凸面		底チヂレ目	無	良	灰白色	外面:煤付着	北関東系	17C～18C			
第269図 1	40M	青磁	碗				(1.8)	(4.6)	1/5	底				削り出し高台/見込み外周沈線	青磁釉	良	灰白色		中国・同安窯産	13C前半			
第269図 1	42M	陶器	鉢	片口(筒形)	13.4	1/6	7.3		口縁～胴	白砂/黒鉄		角		口縁端部軸拭き取り	鉄釉/内面胴錆釉	良	黄白色		瀬戸・美濃窯産	17C後半			
第269図 2	42M	土器	焙烙						口縁～胴	赤/雲(多)/英/砂		肥厚		ナデ	無	良	褐色	外面:煤付着	北関東系	16C～17C			
第269図 1	46M	陶器	中碗	刷毛目文端反碗			(2.8)	(3.8)	1/4	胴～底		密		三島手/白泥刷毛目文	透明釉	良	褐色		唐津窯産	18C前半			
第269図 2	46M	磁器	小杯		(3.2)	1/3	5.3	(2.9)	1/3	口縁～底				手書き絵付/イッチン描き	クロム青磁釉	良	白色		瀬戸・美濃窯産	19C後葉			
第269図 3	46M	陶器	搦鉢						口縁				口縁帯3段	搦り目単位不明	無	良	明赤褐色		堺・明石系	19C～			
第270図 1	69P	陶器	搦鉢						口縁～胴	白砂					錆釉	良	黄白色	口縁端部磨耗顕著	美濃窯産	16C末葉～17C初頭			

第95表 遺構出土陶磁器・土器一覽(2)

挿図番号	番号	出土位置	種別	器種	長さ(cm)	最大幅(cm)	直径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
											含有物	粘土							
第263図 1	392D	覆土	土製品	土錘	3.9	0.8			1.8	一端欠損			丸棒芯巻付け成形/ナデ	無	良	橙色			
第264図 17	413D	覆土	瓦	軒丸瓦			14.7	2.7	618.1	瓦頭	砂		平縁運珠三つ巴文	襴し	良	黒色・銀化			
第264図 18	413D	覆土	土製品	ミニチュア皿			2.6	0.8	2.8	ほぼ完形	黒鉄/英		型作り/八角形	内:白泥/透明釉	良	橙色		江戸在地系	
第264図 19	413D	覆土	土製品	泥面子 小型面打			1.4	0.6	1.5	完形	赤		型作り/雲母付着/十六菊文	無	良	橙色		江戸在地系	19C～
第265図 1	416D	覆土	土製品	像・魚 鯉形	(3.7)	1.6		1.2	5.2	尾部欠損	砂		型作り/雲母付着	赤彩?	良	橙色		江戸在地系	19C～
第268図 1	34M	覆土	土製品	土錘	5.0	1.8			11.1	完形	角/英/砂		丸棒芯巻付け成形/ナデ	無	良	浅黄色			
第268図 5	35M	覆土	土製品	彈蒜玉			2.0	0.6	2.3	完形			掌痕/雲母付着	無	良	橙色		江戸在地系	

第96表 第58地点 遺構出土土製品一覽

挿図番号	番号	出土位置	種別	器種	長さ(cm)	最大幅(cm)	直径(cm)	厚さ(cm)	重量(g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
											含有物	粘土							
第269図 4	46M	覆土	土製品	藁玉	1.7	1.4			2.2	完形	砂	密	ナデ/紐孔丸棒片側穿孔	無	良	褐色	表面光沢は手擦れ?		

第97表 第60地点 遺構出土土製品一覽

第3章 検出された遺構と遺物

挿図番号	遺構名	器種	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第265図 43	413D	砥石	ホルンフェルス	欠損	98.65	99.83	43.24	539.9	正面が使用面。かなり器厚。左面以外に成形痕の細かい本線が観察される。
第265図 44	413D	砥石	ホルンフェルス	欠損	105.68	30.92	34.57	162.9	正面および裏面が使用面。
第265図 45	413D	砥石	ホルンフェルス	欠損	64.69	45.16	38.31	191.9	正面および裏面が使用面。
第265図 46	413D	砥石	安山岩	完形	41.19	39.66	20.52	60.9	ほぼ正方形状で小形。
第265図 47	413D	砥石	安山岩	欠損	70.03	38.21	24.39	104.2	右面以外を使用。長軸断面は山形。

第98表 第58地点 遺構出土石器一覧

挿図番号	遺構名	器種	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第266図 2	459D	砥石	安山岩	欠損	155.60	43.35	23.01	234.4	表裏左右面を使用。
第266図 2	465D	砥石破片	頁岩	欠損	33.61	35.15	6.16	7.7	表右面を使用。
第267図 5	554D	板碑	片岩	欠損	264.00	142.00	23.55	1497.6	
第269図 3	42M	砥石	安山岩	完形	86.15	43.08	37.01	133.1	全面を使用。上部に溝状の凹み。
第269図 4	42M	砥石	安山岩	欠損	83.31	37.94	15.67	48.8	表裏右面を使用。
第269図 1	43M	火打ち石	玉髓	完形	23.98	20.75	13.27	6.6	小形である。
第269図 2	45M	砥石	安山岩	欠損	41.41	27.06	14.20	24.7	表裏面を使用。

第99表 第60地点 遺構出土石器一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存	特徴
第263図 1	403D	覆土	鉄製品	釘	(7.1)	0.5	0.5	7.7	脚部端欠損	
第263図 1	404D	覆土	鉄製品	鋳?	(6.8)	3.0	1.4	77.6	脚部端欠損	頭部は右側に伸びる可能性あり。
第264図 20	413D	覆土	鉄製品	釘	(7.1)	0.5	0.6	7.4	脚部端欠損	
第264図 21	413D	覆土	鉄製品	釘	(5.5)	0.3	0.3	2.6	脚部端欠損	
第264図 22	413D	覆土	鉄製品	鋸	4.2	(2.9)	0.4	11.2	右側欠損	
第264図 23	413D	覆土	鉄製品	鋸	(2.7)	(5.6)	0.5	7.7	両端欠損	
第264図 24	413D	覆土	鉄製品	鋸	1.3	(3.3)	0.3	3.8	右側欠損	
第264図 25	413D	覆土	鉄製品	合釘?	5.8	0.3	0.3	2.1	完形	両端がわずかに屈曲する。
第264図 26	413D	覆土	鉄製品	棒状製品	(11.8)	0.6	0.7	22.4	両端欠損	下端に木質が付着する。
第264図 27	413D	覆土	鉄製品	有孔円盤製品	3.2	3.1	0.3	6.3	完形	孔一辺0.6cm。鉄銭の可能性あり?
第264図 28	413D	覆土	鉄製品	留金具	(2.2)	(2.6)	0.6	2.7	一部残	革帯付属のバックル部分。
第264図 29	413D	覆土	銅製品	簪?	10.4	0.1	0.1	1.6	付属品欠損か	断面円形の棒状製品。一端に孔があり、リング部品が残る。銀鍍金の痕跡あり。
第265図 1	414D		銅製品	煙管吸口	(4.5)	1.0	1.0	3.6	吸口部破損	
第265図 1	415D	覆土	鉄製品	不明製品	(2.9)	1.3	0.3	6.4	両端欠損	413号土坑出土の鋸の類似品か。
第265図 1	433D	覆土	銅製品	不明製品	(14.8)	0.8	0.2	25.7	片側端部欠損	径0.3cmの孔あり。
第265図 1	434D	覆土	鉄製品	菜切包丁	(10.9)	4.7	0.1	28.6	切先・茎部端欠損	刃部は片刃。
第268図 2	34M	覆土	鉄製品	有孔円盤製品	(2.3)	2.8	0.2	2.4	1/3欠損	孔一辺0.6cm。鉄銭の可能性あり?
第268図 3	34M	覆土	銅製品	簪	5.0	(0.4)	0.1	2.2	脚部片側欠損	双脚の簪。銀鍍金の痕跡あり。
第268図 6	35M		鉄製品	鋸?	(6.1)	0.4	0.6	5.5	下端・左側欠損	
第268図 4	36M		鉄製品	釘	(10.7)	0.4	0.5	11.3	頭・脚部端欠損	
第268図 5	36M	覆土	鉄製品	釘	3.7	0.3	0.4	2.3	頭部端欠損	

第100表 第58地点 金属製品一覧

挿図番号	遺構名	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存	特徴
第267図 1	512D	一括	鉄製品	釘	4.5	0.4	0.4	3.2	頭部端欠損	
第267図 1	513D	一括	鉄製品	有孔円盤製品 (鉄銭?)	(2.7)	(2.2)	0.2	1.6	1/2残存	推定外径3.1cm。孔一辺0.8cm。外周は厚くなる。鉄銭の可能性あり?
第269図 1	45M	一括	鉄製品	鉤	7.2	1.4	0.4	8.4	完形	脚部はややねじりが認められる。

第101表 第60地点 金属製品一覧

挿図番号	遺構名	銭貨名	書体	背	国名	鋳造年	出土上面	外径 (mm)	方孔一辺 (mm)	重量 (g)	欠損	備考
第263図 1	399D	寛永通寶		文		寛文8年(1668)初鋳		25.5	6.0	3.4		新寛永・文銭
第263図 1	401D	開元通寶			唐	武徳4年(621)初鋳		24.5	7.0	1.6	7/8残存	別称:開通元寶
第264図 30	413D	寛永通寶		11波		明和6年(1769)初鋳		28.5	6.5	5.0		新寛永・四文銭
第264図 31	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		23.5	6.5	2.6		新寛永/大
第264図 32	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		24.0	6.0	2.4	一部欠損	新寛永/大
第264図 33	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		24.5	6.0	2.6		新寛永/大
第264図 34	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		23.5	6.0	3.1		新寛永/大
第264図 35	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		24.5	7.0	2.7		新寛永/大
第264図 36	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		21.5	6.5	2.2		新寛永/小
第264図 37	413D	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		22.0	7.0	2.0		新寛永/小
第264図 38	413D	文久永寶	草文	11波		文久3年(1863)～慶応3年(1867)		27.0	6.5	3.6		
第265図 39	413D	文久永寶	草文	11波		文久3年(1863)～慶応3年(1867)		27.0	7.0	3.5	一部欠損	
第265図 40	413D	文久永寶	真文	11波		文久3年(1863)～慶応3年(1867)		26.5	7.0	3.0		范傷あり
第265図 41	413D	文久永寶	真文	11波		文久3年(1863)～慶応3年(1867)		27.0	6.5	2.8		
第265図 42	413D	一銭銅貨				明治9年(1876)		28.0	-	6.9		

第102表 第58地点 銭貨一覧

挿図番号	遺構名	銭貨名	書体	背	国名	鋳造年	出土上面	外径 (mm)	方孔一辺 (mm)	重量 (g)	欠損	備考
第266図 4	496D	文久永寶	真文	11波		文久3年(1863)～ 慶応3年(1867)		26.5	6.5	3.1		
第269図 5	46M	寛永通寶				延宝元年(1673)初鋳		23.5	6.0	2.5	一部欠損	新寛永/小
第270図 1	27P	天聖元寶	真書		北宋	天聖年間 (1023～1032)	裏	23.5	7.0	2.4		
第270図 2	27P	皇宋通寶	真書		北宋	寶元・康定年間 (1038～1040)	表	24.5	7.0	2.8		初鋳寶元2年(1039)
第270図 3	27P	元祐通寶	行書		北宋	元祐年間 (1086～1093)	表	23.5	7.0	2.8		
第270図 4	27P	政和通寶	篆書		北宋	政和年間 (1111～1118)	表	24.5	6.5	2.9		
第270図 5	27P	延寧通寶			安南	黎朝延寧元年 (1454)初鋳	表	25.0	6.0	3.6		
第270図 6	27P	元豐通寶	行書		北宋	元豐年間 (1078～1086)	表	23.0	6.5	2.6		
第270図 7	27P	景祐元寶	真書		北宋	景祐年間 (1034～1038)	表	25.0	7.0	2.8		
第270図 8	27P	紹聖元寶	行書		北宋	紹聖年間 (1094～1098)	裏	24.0	6.5	3.1		
第270図 9	27P	皇宋通寶	篆書		北宋	寶元・康定年間 (1038～1040)	表	24.5	7.5	2.7		初鋳寶元2年(1039)
第270図 10	27P	淳熙元寶	真書	十一	南宋	淳熙11年(1184)	表	24.0	6.5	3.1		
第270図 11	27P	至道元寶	草書		北宋	至道年間(995～997)	表	24.0	6.0	3.4		
第270図 12	27P	天禧通寶			北宋	天禧年間 (1017～1021)	表	24.5	6.5	4.2		
第270図 13	27P	嘉祐通寶	真書		北宋	嘉祐年間 (1056～1063)	表	24.0	7.5	2.5		
第270図 14	27P	天聖元寶	篆書		北宋	天聖年間 (1023～1032)	表	24.5	7.0	3.1		
第270図 15	27P	宋通元寶			北宋	太祖為政年間 (960～976)	裏	24.0	6.0	2.7		別称：宋元通寶
第270図 16	27P	天聖元寶	真書		北宋	天聖年間 (1023～1032)	裏	25.0	7.0	3.3		
第270図 17	27P	淳化元寶	真書		北宋	淳化年間(990～995)	表	24.0	6.5	2.6		
第270図 18	27P	聖宋元寶	篆書		北宋	建中靖国元年(1101)	表	25.0	7.0	3.7		発行枚数僅少
第270図 19	27P	元祐通寶	篆書		北宋	元祐年間 (1086～1093)	表	24.0	7.0	2.9		
第270図 20	27P	太平通寶			北宋	太平興国年間 (976～983)	表	25.0	6.5	2.6		
第270図 21	27P	皇宋通寶	真書		北宋	寶元・康定年間 (1038～1040)	表	24.5	7.0	3.4		初鋳寶元2年(1039)
第270図 22	27P	景祐元寶	篆書		北宋	景祐年間 (1034～1038)	裏	24.5	7.0	2.6		

第103表 第60地点 銭貨一覽

第5節 遺構外出土遺物

表土や攪乱土から出土した遺物、明らかに他時期の混入品と判断される遺構内出土遺物を、遺構外出土遺物として扱う。ここでは、本遺跡の消長を考えるための資料として、これらのうち、遺構が確認されなかったか、希少である時期の遺物を採り上げる。

1 旧石器時代の遺物（第275図、第110表）

旧石器時代の遺物はすべて後世の遺構内からの出土であり、層位的な検出ではない。1・2は黒曜石製のナイフ形石器であり、ともに透明度の高い黒曜石であり、石材・製作技術的にも同一時期の所産と思われる。1は石刃素材で、正面左側縁に急角度剥離が施されている。基部は折損している。2も2稜の石刃素材で、先端部に急角度剥離が施されているが、基部は未調整である。先端部を折損する。

2 縄文時代の遺物（第271～278図、第104～105・109～110表）

第271図1～52、第272図53～第273・274図158は縄文時代の土器である。前期の遺物を中心に早期前半から晩期後半までの土器片が分布している。

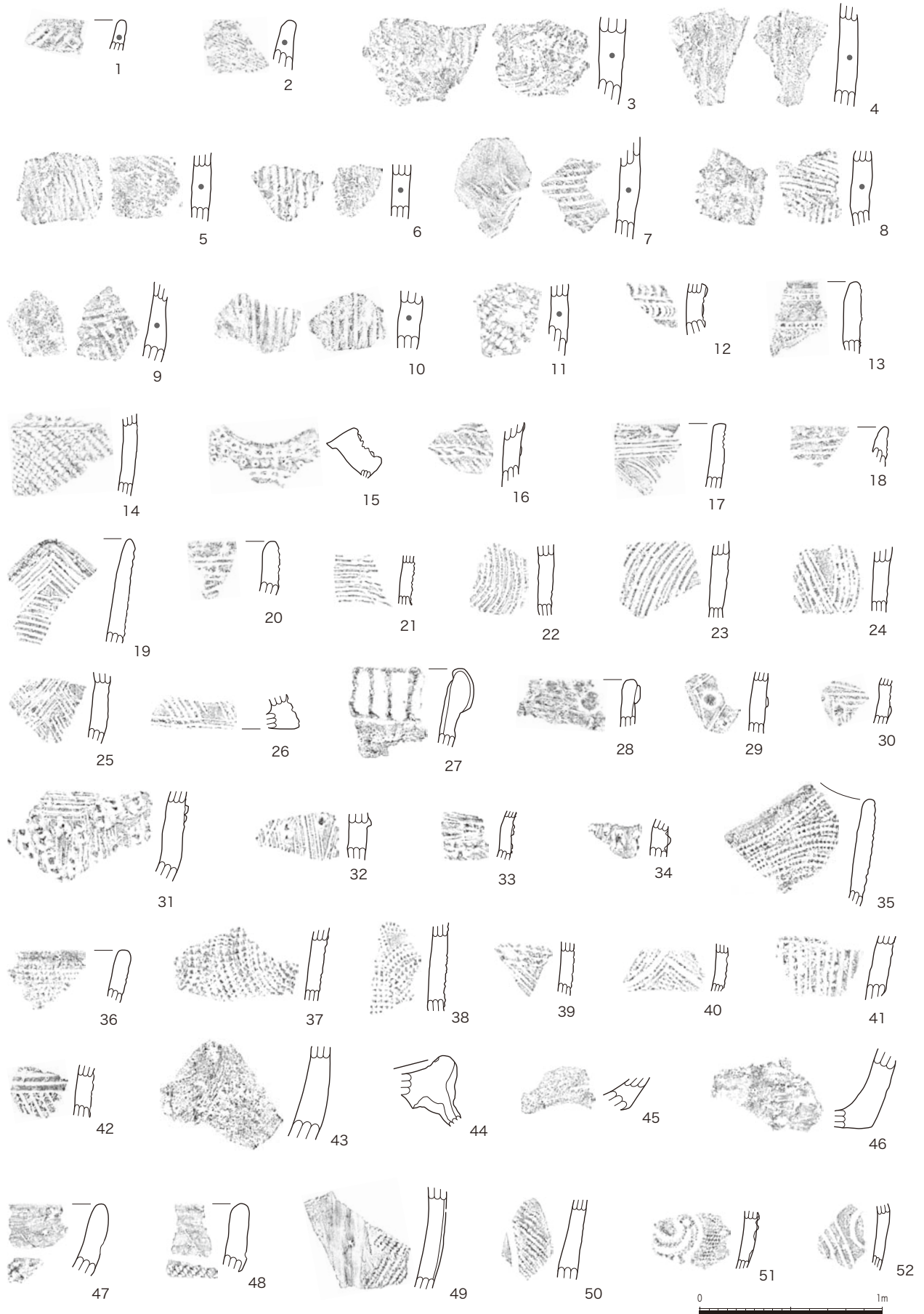
53～55は早期撚糸文系土器、1～10、56～64は早期条痕文系土器である。11は前期羽状縄文系、12、65～67は黒浜式、13～39、68～106は諸磯式、107は粟島台式、40～42、108・109は十三菩提式、110は興津式土器である。111～119は中期五領ヶ台I・II式、43～46、120～134は阿玉台式、135～140は勝坂式、47～49、141～143は加曽利E式の土器である。50、144は後期称名寺式、51・52、145～149は堀之内式の土器である。150・151は晩期安行式の土器である。152～155は底部破片、156は土錘、157・158は土製円板である。

第275図3～第278図37は縄文時代の石器である。3～9は第58地点の遺構外出土石器で、3・4が石鏃未製品、5が微細剥離痕を有する石器、6が打製石斧、7がスタンプ形石器、8が磨石、9が敲石である。打製石斧は側縁を両極敲打技法で調整し正面右側縁が最終段階で台石側、左側縁が敲石側である。スタンプ形石器は底面に調整の剥離が施されている。10～37は第60地点の遺構外出土石器で、10が尖頭器、11～17が石鏃、18が二次加工剥片、19・20が微細剥離痕を有する石器、21～26が剥片、27が石核、28が磨製石斧未製品もしくは石鋤転用、29～31は打製石斧、32が磨石、33～36が敲石、37は小型の礫斧状の石器である。尖頭器は縄文時代前期に、11のいわゆる飛行機鏃は縄文時代晩期に属するものと思われる。

3 弥生時代以降の遺物（第274・278図、第106～108・111～112表）

第58地点 159～161は弥生時代後期の土器。159は複合口縁壺の口縁部で、口縁帯外面に単節縄文LRが2段施されている。160と161は甕の口縁部で、内外面と端面は刷毛調整、外端部に刷毛目工具による刺突が施されている。162は灰釉陶器碗で、口縁部内面のみならず灰釉が刷毛塗りされる。尾張産、尾野編年VI期中・新段階、黒笹90号窯式、9世紀後半～10世紀初頭の所産と見られる。163は中世陶器の折縁深皿で、底部内面に櫛描き圏線、外面体部と内面全面に灰釉が刷毛塗りされる。古瀬戸中期、14世紀前半の所産と思われる。

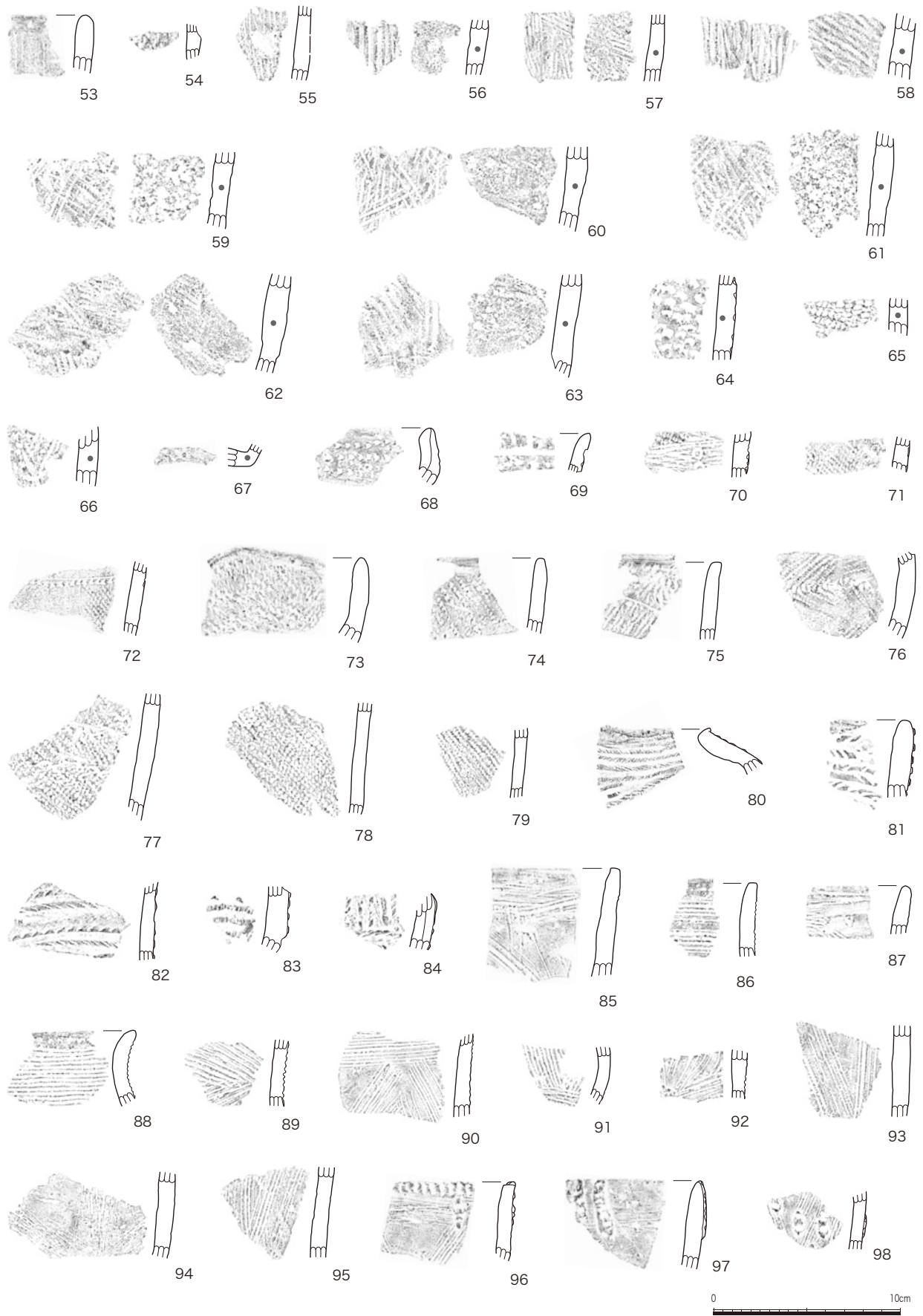
第58 地点縄文土器



第271 図 遺構外出土遺物 1 (1/3)

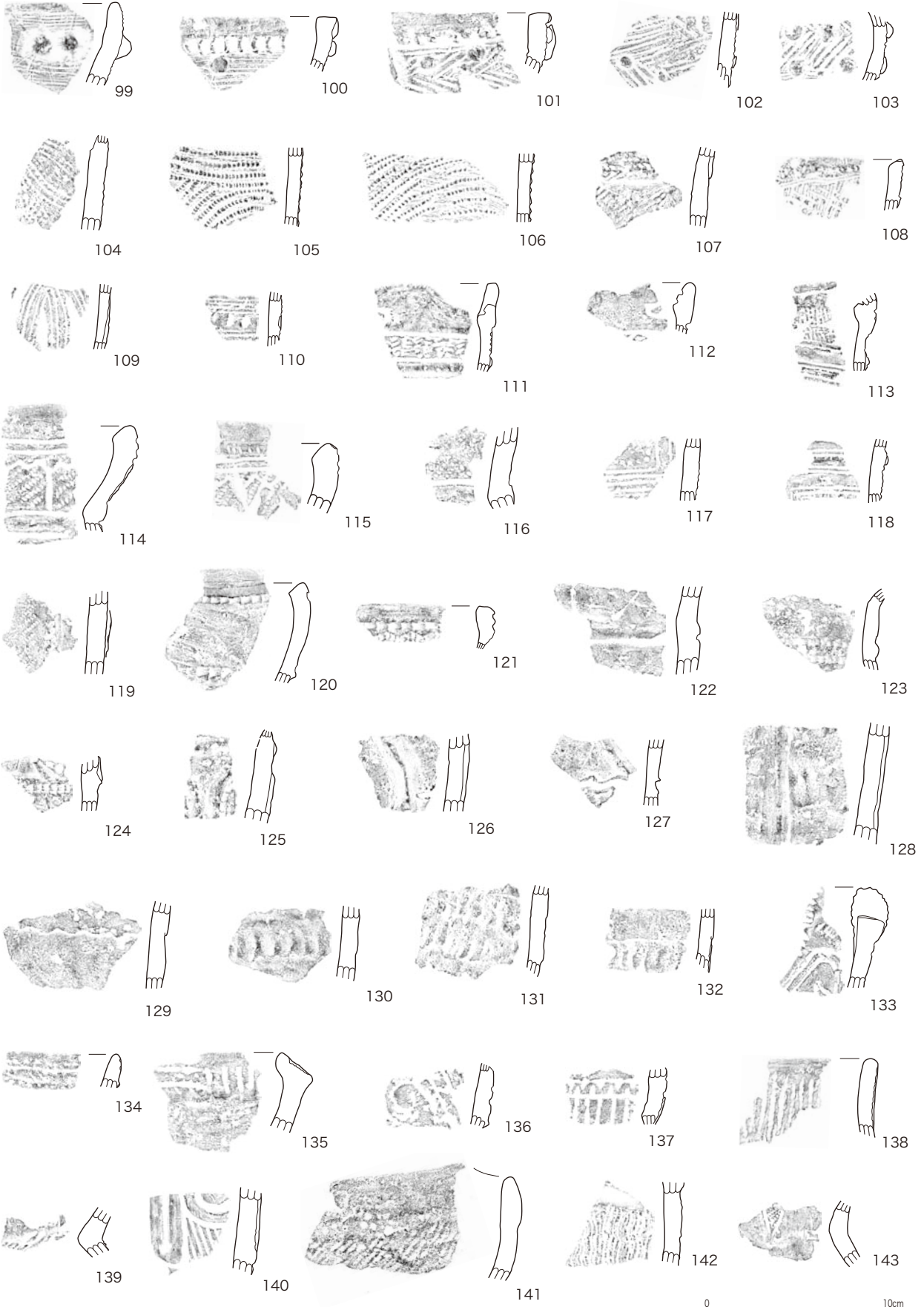
第3章 検出された遺構と遺物

第60 地点縄文土器



第272図 遺構外出土遺物2 (1/3)

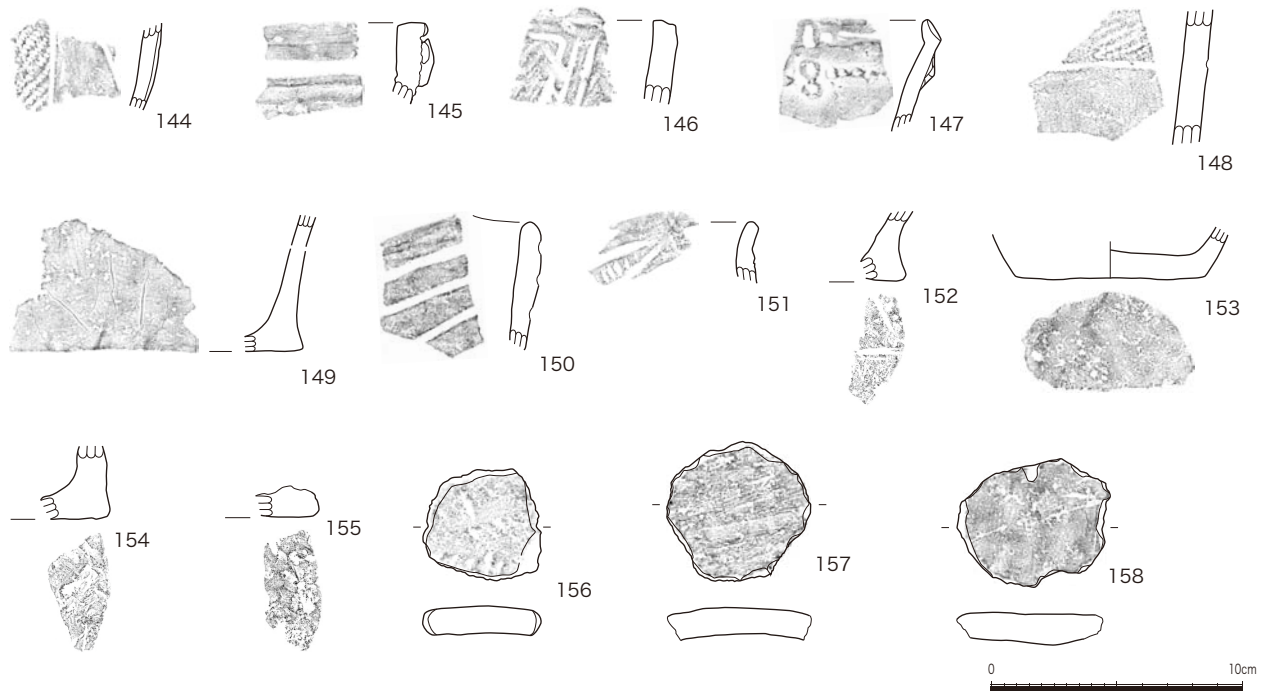
第60地点縄文土器



第273図 遺構外出土遺物3 (1/3)

第3章 検出された遺構と遺物

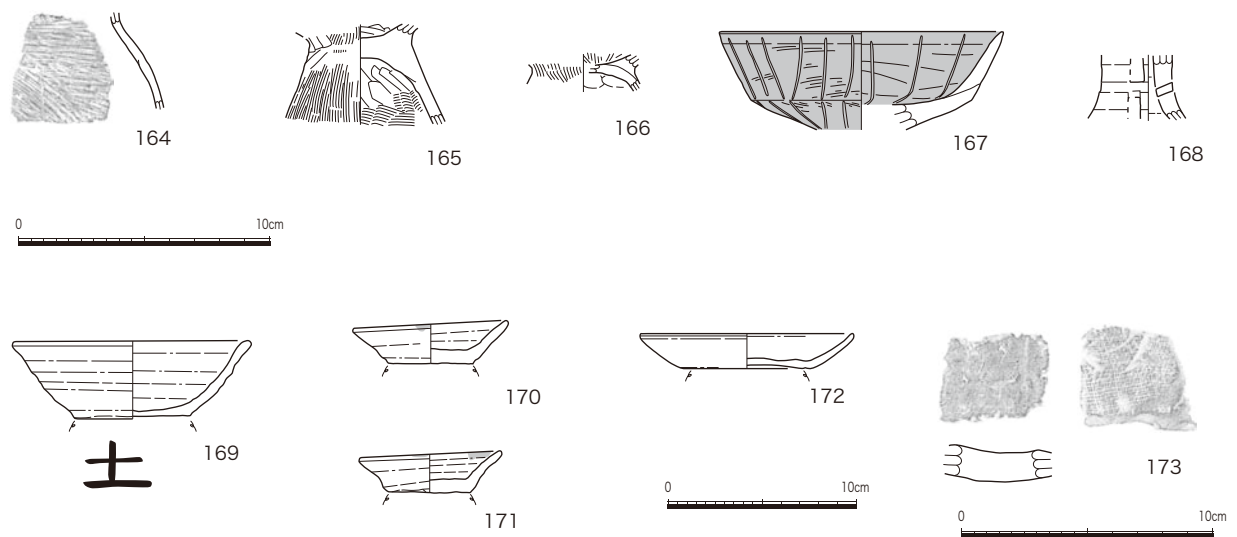
第60 地点縄文土器



第58 地点弥生時代以降土器・陶磁器

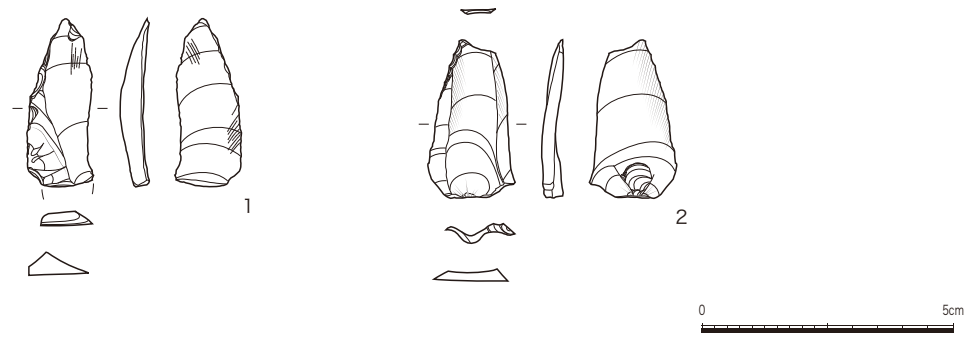


第60 地点弥生時代以降土器・土製品



第274図 遺構外出土遺物4 (1/3・1/4)

第60 地点旧石器



第58 地点縄文時代以降の石器



第275 図 遺構外出土遺物5 (1/4・1/3・2/3)

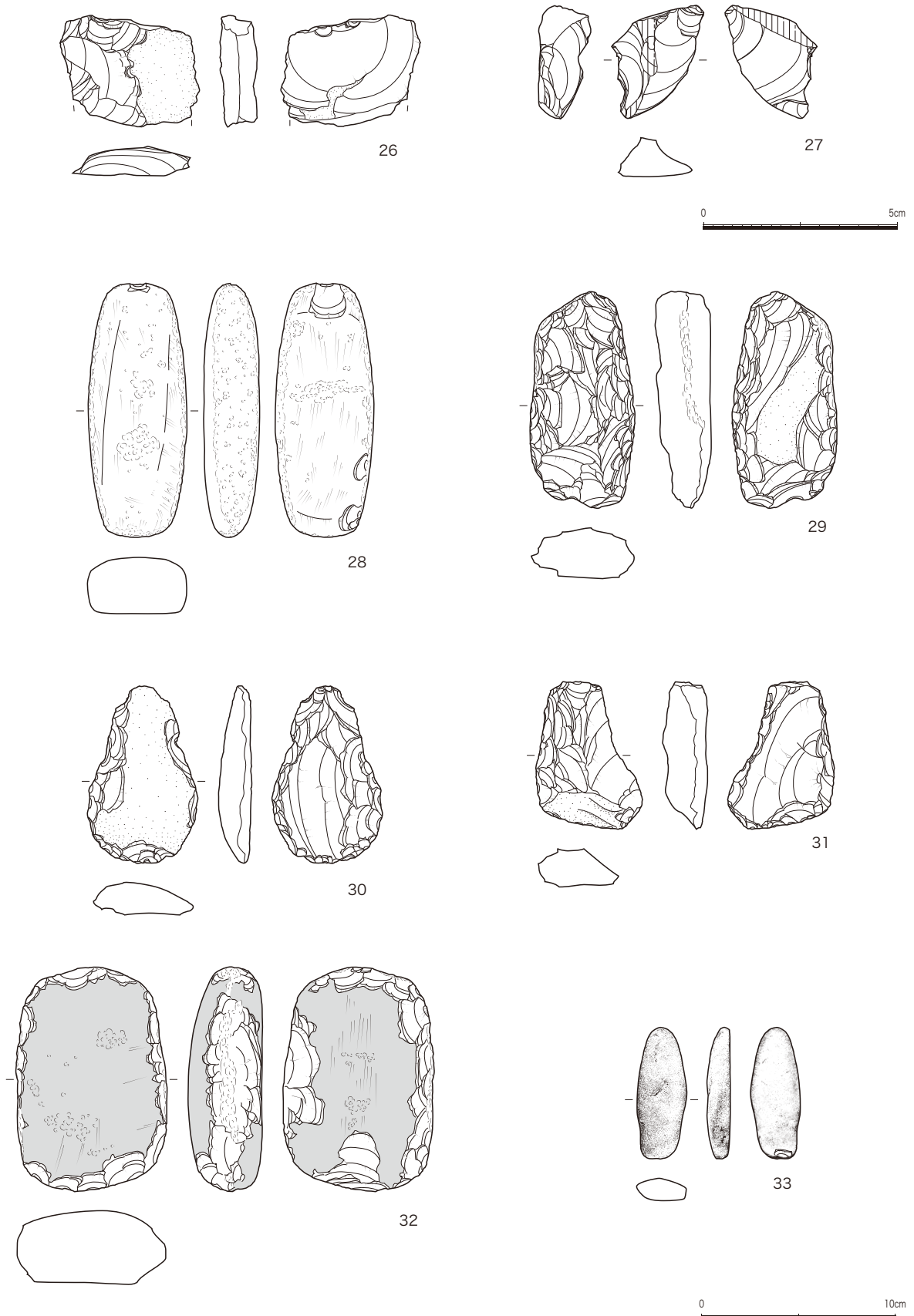
第3章 検出された遺構と遺物

第60 地点縄文時代以降の石器



第276図 遺構外出土遺物6 (2/3)

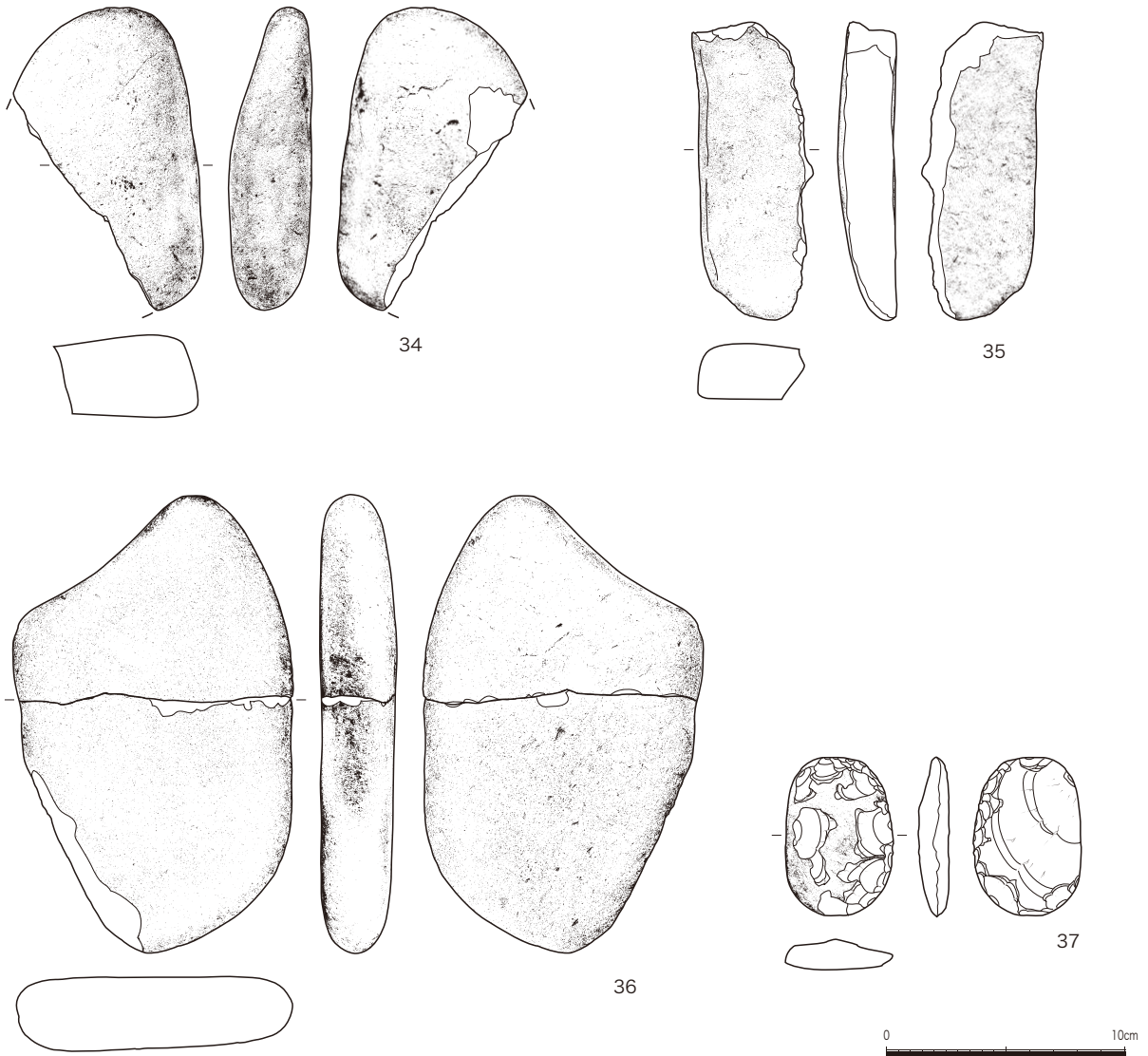
第60 地点縄文時代以降の石器



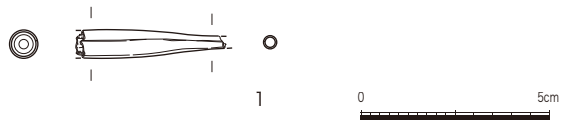
第277図 遺構外出土遺物7 (1/3・2/3)

第3章 検出された遺構と遺物

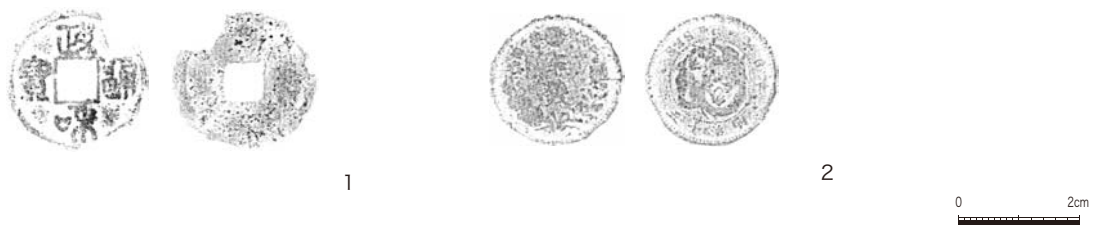
第60地点縄文時代以降の石器



第60地点 遺構外金属製品



第60地点 遺構外銭貨



第278図 遺構外出土遺物8 (1/2・1/3・4/5)

挿入番号	出土位置	時期	型式	特徴	胎土	部位
第271図1	165H	早期後半	条痕文系/野島古	細隆線	纖維・長石	胴
第271図2	165H	早期後半	条痕文系	外：貝殻条痕(細)	纖維・斜方輝石・石英・長石	口縁
第271図3	171H	早期後半	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石・砂粒	胴
第271図4	120H	早期後半	条痕文系	内：貝殻条痕	纖維・長石・砂粒	胴
第271図5	184H	早期後半	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石・砂粒	胴
第271図6	172H	早期後半	条痕文系	外：貝殻条痕	纖維・長石・石英	胴
第271図7		早期後半	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・角閃石・石英・長石	胴
第271図8	182H	早期後半	条痕文系	内：貝殻条痕	纖維・斜方輝石・石英・長石	胴
第271図9	165H	早期後半	条痕文系	内：貝殻条痕	纖維・角閃石・石英・長石	胴
第271図10	385D	早期後半	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・角閃石・石英・長石	胴
第271図11	441D	前期前半	羽状縄文系	黒浜式に近い。RL & LR 羽状施文	纖維・長石・砂粒	胴
第271図12	181H	前期後半	黒浜式	半截竹管連続瓜形文	纖維・長石・砂粒	口縁
第271図13	184H	前期後半	諸磯 a	半截竹管連続瓜形文・RL	長石・角閃石・斜方輝石・石英	口縁
第271図14	3区	前期後半	諸磯 a	半截竹管連続瓜形文・RL	石英・長石・斜方輝石	胴
第271図15	36M	前期後半	諸磯 a	半截竹管連続瓜形文・管状凹形刺突	石英・長石・黒雲母	口縁
第271図16	182H	前期後半	諸磯 b	浮線文・RL	長石・砂粒	胴
第271図17	167H	前期後半	諸磯 b ~ c	集合沈線文・波状口縁	長石・角閃石・砂粒	口縁
第271図18	401D	前期後半	諸磯 b ~ c	集合沈線文・波状口縁	長石・砂粒	口縁
第271図19	165H	前期後半	諸磯 b ~ c	集合沈線文・波状口縁	角閃石・石英・長石・黒雲母	口縁
第271図20	165H	前期後半	諸磯 b ~ c	集合沈線文・波状口縁	角閃石・石英・長石	口縁
第271図21	22P	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	長石・角閃石・砂粒	胴
第271図22	172H	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	長石・角閃石・砂粒	胴
第271図23	165H	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	角閃石・石英・長石・砂粒・黒雲母	胴
第271図24	172H	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	角閃石・石英・長石・砂粒	胴
第271図25	172H	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	角閃石・石英・長石・砂粒	胴
第271図26	176H	前期後半	諸磯 c	集合沈線文・タテ方向	石英・長石・砂粒	底
第271図27	177H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文(棒状)内外	長石・砂粒	口縁
第271図28	177H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文(円形)	砂粒・石英・長石・斜方輝石	口縁
第271図29	172H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文(円形)	砂粒・石英・長石・斜方輝石	胴
第271図30	165H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文(円形)・集合沈線文	角閃石・石英・長石・黒雲母	胴
第271図31	401D	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文・集合沈線文	角閃石・石英・長石・黒雲母	胴
第271図32	165H	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文・集合沈線文	角閃石・石英・長石・黒雲母	胴
第271図33	167H	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文	角閃石・石英・長石・黒雲母	胴
第271図34	401D	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文	角閃石・石英・長石・黒雲母	胴
第271図35	185H	前期後半	諸磯 c 新	結節沈線文	黒雲母・角閃石・石英・長石	口縁
第271図36	172H	前期後半	諸磯 c 新	結節沈線文	黒雲母・角閃石・石英・長石	口縁
第271図37	172H	前期後半	諸磯 c 新	結節沈線文	黒雲母・角閃石・石英・長石	胴
第271図38	165H	前期後半	諸磯 c 新	結節沈線文	黒雲母・角閃石・石英・長石	胴
第271図39	176H	前期後半	諸磯 c 新	結節沈線文	黒雲母・角閃石・石英・長石	胴
第271図40	174H	前期末	十三菩提	結節沈線文・幅広沈線凹	角閃石・石英・長石	胴
第271図41	171H	前期末	十三菩提	結節沈線文・幅広沈線凸	石英・黒雲母・角閃石・長石	胴
第271図42	176H	前期末	十三菩提	結節沈線文・幅広沈線凸	石英・黒雲母・角閃石・長石	胴
第271図43	176H	中期前半	阿玉台	突起部・施文不明瞭	石英・長石・黒雲母	口縁
第271図44	172H	中期前半	阿玉台 I b	角押引文	黒雲母・石英・長石	口縁
第271図45	35M	中期前半	阿玉台	ヨコケズリ	黒雲母・角閃石・石英・長石・砂粒	底
第271図46	167H	中期前半	阿玉台	ヨコケズリ	長石・角閃石・黒雲母・石英・砂粒	底
第271図47	181H	中期後半	加曾利 E III	沈線・LR	長石・砂粒・角閃石	口縁
第271図48	173H	中期後半	加曾利 E III	沈線・LR	長石・砂粒	口縁
第271図49	38M	中期後半	加曾利 E III	垂下隆帯・LR	長石・砂粒	胴
第271図50	181H	後期初頭	称名寺	J字文・LR充墳縄文	長石・砂粒	胴
第271図51	173H	後期前半	堀之内 I	入組状渦巻文・LR	砂粒・石英・長石	胴
第271図52	167H	後期前半	堀之内 I	重弧文?	土器状・砂粒・角閃石	胴

第104表 第58地点 遺構外出土縄文土器遺物一覽

挿入番号	出土位置	時期	型式	特徴	胎土	部位
第272図53	203H	早期前半	摺糸文系/稻荷台	摺糸 R	石英・長石・砂粒	口縁
第272図54	44M	早期前半	摺糸文系/稻荷台	摺糸 R	石英・長石・角閃石	胴
第272図55	225H	早期前半	摺糸文系/稻荷台	摺糸 R	石英・長石・砂粒・角閃石	胴
第272図56	208H	早期末	条痕文系	外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・角閃石	胴
第272図57	593D	早期末	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・砂粒	胴
第272図58	(B-3)G	早期末	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石	胴
第272図59	217H	早期末	条痕文系	外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・角閃石・砂粒	胴
第272図60	217H	早期末	条痕文系	外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・角閃石・砂粒	胴
第272図61	217H	早期末	条痕文系	外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・角閃石・砂粒	胴
第272図62	211H	早期末	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石・角閃石・砂粒	胴
第272図63	46M	早期末	条痕文系	内外：貝殻条痕	纖維・長石・石英・砂粒	胴
第272図64	195H	早期末	条痕文系/野島・鶴ヶ島台	半截管状刺突/内：貝殻条痕	纖維・長石・石英・角閃石	胴
第272図65	191H	前期前半	羽状縄文系/黒浜	RL	纖維・長石・石英・砂粒	胴
第272図66	224H	前期前半	羽状縄文系/黒浜	付加本：RLにRを反巻き	纖維・長石・石英・砂粒	胴
第272図67	207H	前期前半	羽状縄文系/黒浜	器面ミカキ状光沢	纖維・砂粒	底
第272図68	205H周辺	前期後半	諸磯 a	半截竹管背面連続刺突	長石・石英・砂粒	口縁
第272図69	202H	前期後半	諸磯 a	沈線区画内連続刺突	砂粒	口縁
第272図70	460D	前期後半	諸磯 a	集合本線・管状凹形刺突・RL	長石・石英・砂粒	胴
第272図71	475D	前期後半	諸磯 a	管状凹形刺突・RL	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図72	214H	前期後半	諸磯 a	半截竹管連続瓜形文・RL	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図73	224H	前期後半	諸磯 a ~ c	波状口縁・RL	長石・石英・砂粒・角閃石	口縁
第272図74	(E-5)G	前期後半	諸磯 a ~ c	波状口縁・RL	長石・石英・砂粒・斜方輝石	口縁
第272図75	196H	前期後半	諸磯 a ~ c	波状口縁・L	長石・砂粒	口縁
第272図76	191H	前期後半	諸磯 a ~ c	結東羽状縄文 RL・LR	石英・長石・砂粒・角閃石	胴
第272図77	44M	前期後半	諸磯 a ~ c	RL・R結節文 S	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図78	(D-1)G	前期後半	諸磯 a ~ c	RL	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図79	(D-2)G	前期後半	諸磯 a ~ c	RL	長石・砂粒	胴
第272図80	198H	前期後半	諸磯 b	浮線文・波状口縁	長石・砂粒	口縁
第272図81	213H	前期後半	諸磯 b	浮線文	長石・砂粒	口縁
第272図82	(B-1)G	前期後半	諸磯 b	浮線文	長石・砂粒・石英	胴

第105表 第60地点 遺構外出土縄文土器遺物一覽(1)

第3章 検出された遺構と遺物

挿入番号	出土位置	時期	型式	特徴	胎土	部位
第272図 83	203H	前期後半	諸磯 b	浮線文	長石・砂粒	胴
第272図 84	44M	前期後半	諸磯 b	浮線文は別粘土・色調・含有物異なる	器体：長石・石英・砂粒・角閃石 / 浮線文：砂粒	胴
第272図 85	211H	前期後半	諸磯 c 古	外：集合本線 / 内：条痕状	石英・角閃石・長石・砂粒	口縁
第272図 86	191H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線	長石・石英・砂粒・角閃石	口縁
第272図 87	224H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線	長石・石英・砂粒	口縁
第272図 88	222H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線、沈線状	石英・砂粒・角閃石	口縁
第272図 89	188H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線、沈線状	長石・石英・砂粒・土器状	胴
第272図 90	215H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線、沈線状	長石・石英・砂粒・土器状	胴
第272図 91	190H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線、沈線状	長石・石英・砂粒	胴
第272図 92	217H	前期後半	諸磯 c 古	集合本線、沈線状	石英・砂粒・角閃石	胴
第272図 93	(C-4)G	前期後半	諸磯 c 古	外：集合本線、沈線状 / 内：条痕状	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図 94	191H	前期後半	諸磯 c 古	外：集合本線、沈線状 / 内：条痕	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図 95	462D	前期後半	諸磯 c 古	外：集合本線、沈線状 / 内：条痕状	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第272図 96	188H	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文・集合状線	石英・砂粒・角閃石	口縁
第272図 97	477D	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文・集合状線	砂粒	口縁
第272図 98	222H	前期後半	諸磯 c 古	短隆起押引文・集合状線	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第273図 99	204H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文・集合本線、沈線状	長石・砂粒・角閃石	口縁
第273図 100	224H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文・集合本線、沈線状	石英・砂粒	口縁
第273図 101	550D	前期後半	諸磯 c 古	貼付文・集合本線、沈線状	長石・角閃石・砂粒・土器状	口縁
第273図 102	222H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文・集合本線、沈線状	長石・黒雲母・角閃石・石英	胴
第273図 103	199H	前期後半	諸磯 c 古	貼付文・集合本線、沈線状	長石・石英・砂粒・角閃石・土器状	胴
第273図 104	52P	前期後半	諸磯 c 新	集合本線、結節浮文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 105	190H	前期後半	諸磯 c 新	集合本線、結節浮文	長石・石英・砂粒・角閃石・土器状	胴
第273図 106	216H	前期後半	諸磯 c 新	集合本線、結節浮文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 107	495D	前期末	粟島台	無節 L、L 結節文 Z	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第273図 108	205H	前期末	十三菩提	集合沈線、口縁端部キザミ	長石・石英・砂粒・斜方輝石	口縁
第273図 109	(E-1)G	前期末	十三菩提	集合沈線、抉り	長石・石英・砂粒・斜方輝石	胴
第273図 110	217H	前期末	興津古	集合沈線、刺突	砂粒・土器状	胴
第273図 111	212H	中期中頭	五領ヶ台 I	刺突文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 112	208H	中期中頭	五領ヶ台 I	刺突文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 113	201H	中期中頭	五領ヶ台 I	印刻文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 114	218H	中期中頭	五領ヶ台 II	山形文・RL 縦位	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 115	203H	中期中頭	五領ヶ台 II	印刻文・山形文・RL 縦位	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 116	217H	中期中頭	五領ヶ台 II	RL 縦位	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 117	46M	中期中頭	五領ヶ台 II	平行沈線、刺突文	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 118	224H	中期中頭	五領ヶ台 II	平行沈線、貼付隆帯	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 119	(B-1)G	中期中頭	五領ヶ台 II	隆帯・RL	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 120	190H	中期前半	阿玉台 I b	有節沈線文・角押文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 121	196H	中期前半	阿玉台 I b	有節沈線文、山形	長石・黒雲母・角閃石・砂粒	口縁
第273図 122	495D	中期前半	阿玉台 I b	有節沈線文	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 123	214H	中期前半	阿玉台 I b	有節沈線文	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 124	224H	中期前半	阿玉台 I b	角押文・楕円区画隆帯	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 125	196H	中期前半	阿玉台 I b	角押文・楕円区画隆帯	長石・黒雲母・斜方輝石・石英・砂粒	胴
第273図 126	215H	中期前半	阿玉台 I b	三角隆帯	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 127	212H	中期前半	阿玉台 I b	隆帯・波状沈線	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 128	42M	中期前半	阿玉台 I b	三角隆帯・ヒダ状圧痕	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 129	(E-1)G	中期前半	阿玉台 I b	隆帯押さえ痕	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 130	224H	中期前半	阿玉台 I b	ヒダ状圧痕	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 131	(B-2)G	中期前半	阿玉台 I b	ヒダ状圧痕	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 132	191H	中期前半	阿玉台 I b	ヒダ状圧痕	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 133	(B-1)G	中期前半	阿玉台 II	把手キザミ・平行沈線	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 134	46M	中期前半	阿玉台 II	角押文・平行沈線	長石・黒雲母・角閃石・石英・砂粒	口縁
第273図 135	46M	中期前半	勝坂 I	角押文 (直線)	長石・角閃石	口縁
第273図 136	217H	中期前半	勝坂 I	角押文 (直線)・波状文 (角押文と同工具による交互押捺)	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 137	217H	中期前半	勝坂 I	角押文 (渦巻)	長石・角閃石・石英・砂粒	胴
第273図 138	204H	中期前半	勝坂 II	燃糸文 L	長石・石英・砂粒	口縁
第273図 139	188H	中期前半	勝坂 II	沈線文	長石・角閃石・砂粒	胴
第273図 140	209H	中期前半	勝坂 II	隆帯区画・沈線文	長石・石英・砂粒・角閃石・土器状	胴
第273図 141	(E-1)G	中期後半	加曾利 E IV	RL 縦位・胎土サンドウィッチ構造	長石・石英・砂粒・角閃石・土器状	口縁
第273図 142	224H	中期後半	加曾利 E IV	櫛目本線 (曲線)	長石・砂粒・土器状	胴
第273図 143	(E-5)G	中期後半	加曾利 E IV	V 字区画・充填縄文 RL	砂粒・土器状	胴
第274図 144	210H	後期初頭	称名寺	沈線区画・RL	砂粒・土器状	胴
第274図 145	516D	後期前半	堀之内 1	口縁 U 字状沈線	長石・石英・砂粒・角閃石	口縁
第274図 146	586D	後期前半	堀之内 1	沈線区画・無節 L	長石・砂粒	口縁
第274図 147	218H	後期前半	堀之内 2	8 の字貼付文・キザミ隆帯	長石・石英・砂粒・角閃石	口縁
第274図 148	202H	後期前半	堀之内 2	帯状縄文・沈線区画	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第274図 149	46M	後期前半	堀之内 2	外反底部	長石・石英・砂粒・角閃石	底
第274図 150	205H	晩期後半	安行 3c	口縁部沈線区画内キザミ	石英・砂粒・角閃石	口縁
第274図 151	205H	晩期後半	安行 3c	口縁部沈線の素文文化	石英・砂粒・角閃石	口縁
第274図 152	196H	不明	不明	木葉	長石・石英・砂粒・角閃石	底
第274図 153	201H	不明	不明	ケズリ	長石・石英・砂粒・角閃石	底
第274図 154	191H	不明	不明	網代	長石・砂粒	底
第274図 155	217H	不明	不明	網代	長石・石英・砂粒・角閃石・斜方輝石	底
第274図 156	(C-4)G	不明	不明	土錘	長石・石英・砂粒・角閃石	胴
第274図 157	495D	不明	不明	土製門盤	長石・砂粒・角閃石・斜方輝石	胴
第274図 158	209H	不明	不明	土製門盤	長石・石英・砂粒・角閃石	底

第105表 第60地点 遺構外出土縄文土器遺物一覽(2)

第5節 遺構外出土遺物

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・ 施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第274図 159	181H	土器	壺						口縁	橙/砂		複合		外：横ナデ→縄文RL/ 内：縦磨き	無	良	黄褐色			
第274図 160	182H	土器	甕						口縁	橙/砂		角	屈曲？	外：口縁端面ハケ/口縁左上ハケ /外端ハケ押捺/ 内：口縁横ハケ	無	良	黄褐色			
第274図 161	I号道路状 遺構	土器	甕						口縁	橙/角/英 /砂		角		外：口縁端面ハケ/口縁左上ハケ /外端ハケ押捺/ 内：口縁横ハケ	無	良	黄褐色			
第274図 162	165H	灰釉陶器	碗	(12.3)	1/4 ↓	(3.5)			口縁～胴	黒鉄/白砂 /英		丸		回転ナデ	内：口縁 灰釉刷毛 塗り	良	灰白色		尾張産9C後半 ～10C初頭	
第274図 163	攪乱 (古瀬戸)	陶器	大鉢						胴～底					回転ナデ/外：胴下端～底回転削り/ 内：底鷓描き圏線	灰釉	良	淡黄色		折縁深瀬戸窯 産14C前半	

第106表 第58地点 遺構外出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	口径		器高 (cm)	底径		遺存度	胎土		形状			調整	彩色・ 施釉	焼成	色調	状態	備考
				(cm)	残存		(cm)	残存		含有物	粘土	口縁	頸	底						
第274図 164	225H	土師器	甕						胴	橙/赤/砂			弓形	外：ハケ目/内：ヘラナデ	無	良	浅黄褐色			
第274図 165	214H	土師器	甕			(5.3)			接合～脚	赤/砂				外：ハケ目/ 内：底ヘラナデ/脚上半ヘラナデ /下半ハケ目	無	良	明赤褐色	内面：底煤 付着		
第274図 166	218H	土師器	甕			(2.0)			接合	赤/砂				外：ハケ目/内：ヘラナデ	無	良	黄褐色		在地産S字甕？	
第274図 167	40M	土師器	高坏	(15.0)	1/5	(5.2)			坏	赤/角/英 /砂/礫		丸		外：ハケ目→ナデ→放射状磨き(暗文風) 内：ヘラナデ→放射状磨き(暗文風)	赤彩	良	橙色			
第274図 168	195H	須恵器	高坏						脚	黒				回転ナデ/2段3方？透かし	無	良	オリーブ 灰色		産地不明	
第274図 169	(B-1)G	須恵器	碗形 坏	12.6	1/2	4.1	6.1	1/1	口縁～底	赤(多)/砂 /礫		丸		ロクロ右回転ナデ/底回転離し 糸切り	無	良(酸化)	橙色	底「土」墨書	東金子窯産？	
第274図 170	188H	土師質 土器	小皿	4.1		2.3	4.5		完形	赤/角/英 /砂		尖		ロクロ右回転ナデ/底回転離し 糸切り	無	良	橙色	外：口縁～ 底煤付着/ 内：口縁油 煙付着	在地系/15C末 葉～16C代	
第274図 171	188H	土師質 土器	小皿	7.6	3/4	2.2	4.3	1/1	ほぼ完形	赤/角/英 /砂		尖		ロクロ右回転ナデ/底回転離し 糸切り	無	良	橙色	外：口縁～ 底煤付着/ 内：口縁油 煙付着	在地系/15C末 葉～16C代	
第274図 172	試掘3T	土師器	小皿	(11.2)	1/5	(1.8)	(6.6)	1/3	口縁～底	赤(多)/雲 /角/砂		丸		ロクロ右回転？ナデ/底回転離し 糸切り	無	良	橙色		17C～	

第107表 第60地点 遺構外出土土器一覧

挿図番号	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	直径 (cm)	厚さ (cm)	重量 (g)	部位	胎土		成形・器面調整	彩色・ 施釉	焼成	色調	状態	分類・産地	時期
										含有物	粘土							
第274図 173	551D	瓦	平瓦	(4.4)				35.4	破片	白砂		外：ナデ/内：布目/下端ナデ	無	良	灰黄褐色		産地不明	

第108表 第60地点 遺構外出土土製品一覧

挿図番号	出土位置	器種	形態	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第275図 3	172H	石鎌未製品	不明	黒曜石	基部欠損	13.57	22.39	5.17	1.3	
第275図 4	一括	石鎌未製品	不明	頁岩	完形	23.50	32.06	4.99	4.2	
第275図 5	165H	UF		チャート	完形	22.83	21.73	5.08	2.5	
第275図 6	398D	打製石斧	短冊	凝灰岩	刃部欠	111.92	42.50	20.56	137.8	使用による磨減が顕著。
第275図 7	177H	スタンプ形石器		砂岩	完形	149.13	68.11	68.13	107.1	
第275図 8	177H	磨石		砂岩	完形	90.18	75.54	34.40	346.1	縁辺に敲打痕。
第275図 9	171H	敲石		砂岩	完形	128.87	48.90	28.75	259.4	左右縁辺の稜に敲打痕。

第109表 第58地点 遺構外出土石器一覧

挿図番号	出土位置	器種	形態	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第275図 1	209H	ナイフ形石器		黒曜石	基部欠損	32.97	13.30	4.72	1.6	
第275図 2	217H	ナイフ形石器		黒曜石	先端欠損	31.25	17.00	3.45	1.5	
第276図 10	215H	尖頭器		頁岩	基部欠損	49.03	28.35	9.87	16.2	
第276図 11	188H	石鎌	凸器	頁岩	左脚部欠損	29.88	14.50	4.15	1.5	
第276図 12	528D	石鎌	凹器	黒曜石	完形	28.08	15.72	4.10	1.5	
第276図 13	199H	石鎌	凹器	チャート	完形	22.74	21.97	3.76	1.4	
第276図 14	224H	石鎌	凹器	黒曜石	完形	18.95	14.76	2.54	0.2	
第276図 15	222H	石鎌	凹器	黒曜石	左脚部欠損	18.74	13.91	3.08	0.8	
第276図 16	202H	石鎌	凹器	チャート	完形	14.86	11.68	3.67	0.6	
第276図 17	201H	石鎌	凹器	チャート	先端・左脚部欠損	19.25	17.97	3.15	1.0	
第276図 18	(D-1)G	RF		チャート	欠損	35.38	13.63	7.33	3.5	
第276図 19	208H	UF		チャート	完形	41.96	20.51	7.26	4.9	
第276図 20	検出	UF		黒曜石	完形	58.94	22.58	12.66	8.2	
第276図 21	212H	剥片		チャート	完形	38.74	20.69	9.23	5.9	

第110表 第60地点 遺構外出土石器一覧(1)

第3章 検出された遺構と遺物

押図番号	遺構名	器種	形態	石材	遺存状態	長さ (mm)	幅 (mm)	厚さ (mm)	重量 (g)	備考
第276図 22	73P	剥片		チャート	下部欠損	21.29	24.25	6.77	3.7	
第276図 23	73P	剥片		チャート	下部欠損	36.24	19.18	6.64	3.2	
第276図 24	203H C区	剥片		チャート	下部欠損	30.20	20.24	7.52	5.4	
第276図 25	40M セクションB	剥片		黒曜石	完形	23.92	24.97	7.54	3.4	
第277図 26	213H	剥片		チャート	下部欠損	29.75	38.27	9.63	11.3	
第277図 27	46M	石核		黒曜石	完形	31.55	24.28	13.00	5.4	
第277図 28	202H	磨製石斧未製品		凝灰岩	完形	128.97	50.41	28.52	341.3	
第277図 29	209H	打製石斧	楕形	ホルンフェルス	完形	111.22	54.91	28.60	228.4	
第277図 30	198H A区	打製石斧	楕形	ホルンフェルス	完形	90.24	56.33	16.86	87.9	
第277図 31	554D	打製石斧	楕形	ホルンフェルス	完形	75.38	53.59	22.58	97.3	
第277図 32	165H	磨石		安山岩	完形	114.75	76.41	37.86	542.4	
第277図 33	224H D区	蔽石		砂岩	完形	66.93	25.46	11.38	25.9	小形棒状礫の先端を使用。
第278図 34	212H	蔽石		砂岩	欠損	124.33	71.81	34.54	356.6	
第278図 35	212H D区	蔽石		砂岩	欠損	125.49	47.87	23.43	215.7	
第278図 36	205H	蔽石		砂岩	欠損	192.73	115.71	28.99	1102.7	
第278図 37	E-2 一括	礫弁?		ホルンフェルス	完形	65.54	44.18	12.06	50.5	縁辺に調整。風化が著しい。

第110表 第60地点 遺構外出土石器一覧(2)

押図番号	出土位置	種別	器種	長さ (cm)	最大幅 (cm)	最大厚 (cm)	重量 (g)	残存	特徴
第278図 1	試掘 2T_6H	銅製品	煙管吸口	(4.0)	0.8	0.8	2.1	両端欠損	木質部残存。

第111表 第60地点 遺構外出土金属製品一覧

押図番号	遺構名	銭貨名	書体	背	国名	铸造年	外径 (mm)	方孔一辺 (mm)	重量 (g)	欠損	備考
第278図 1	218H 覆土	政和通寶	篆書		北宋	政和年間 (1111～1118)	24.0	6.5	2	7/8 残存	
第278図 2	D-5 グリッド	半銭銅貨				明治15年 (1882)	22.5	-	3.2		

第112表 第60地点 遺構外出土銭貨一覧

第60地点 164～166は古墳時代前期の土器。164は薄手の甕肩部破片で、外面刷毛目調整。165と166は台付甕の脚台部破片で、165は形状と刷毛目の特徴から、在地産S字状口縁台付甕の可能性はある。167は古墳時代中期の高坏で、内外面に暗文風の放射状磨きが認められる。5世紀末葉の所産。168は須恵器の高坏の脚部で2段3方透かしの可能性がある。169は酸化焰焼成の須恵器坏で、底面に「土?」の墨書がある。10世紀代の所産と考えられる。170・171は土師質土器の小皿(かわらけ)で、いずれも口縁部に油煙が付着し、灯明皿として用いられたものと見られる。15世紀末葉～16世紀代に位置づけられる。188号住居跡の覆土表層で確認された。172は近世の土器小皿で、215号住居跡付近、試掘調査時に出土。173は布目平瓦破片で、平安時代のものか。金属製品の第278図1は銅製の煙管吸口で、煙管木質が残る。銭貨の第278図1は北宋銭の政和通寶、第278図2は明治十五年発行の半銭銅貨。

[引用・参考文献]

カマド

- 小林清隆 1997 「竈と貯蔵穴 - 千葉市周辺地域の古墳時代の事例から」『研究連絡誌』第 48 号 (財) 千葉県文化財センター
笹森健一 1990 「竈穴住居の使い方」石野博信ほか編『古墳時代の研究』第 2 巻 集落と豪族居館 雄山閣出版
堤 隆 2007 「竈穴建物廃絶時のカマド解体とその意味」『月刊考古学ジャーナル』No.559 ニューサイエンス社
寺沢知子 1992 「カマドへの祭祀的行為とカマド神の成立」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズV 同志社大学考古学シリーズ刊行会
久松哉須子 1992 「カマドをめぐる祭祀」『考古学と生活文化』同志社大学考古学シリーズV 同志社大学考古学シリーズ刊行会

住居

- 青木 敬 2007 「竈穴の床と壁」『月刊考古学ジャーナル』No.559 ニューサイエンス社
石井克己 1990 『黒井峯遺跡発掘調査報告書』子持村文化財調査報告第 11 集 子持村教育委員会
岡本茂史 2008 「総括 - 弥生時代後期の竈穴建物について」森屋美佐子・正岡大実編『八尾南遺跡』- 大和川改修 (高規格堤防) 建設事業に伴う埋蔵文化財発掘調査報告書 - (財) 大阪府文化財センター調査報告書第 172 集 (財) 大阪府文化財センター
笹森健一 2007 「古墳時代から奈良・平安時代の竈穴住居」安藤政雄ほか『住まいの考古学』暮らしの考古学シリーズ 3 巻 学生社
高田和徳 2005 『縄文のイエとムラの風景・御所野遺跡』シリーズ「遺跡を学ぶ」015 新泉社
多ヶ谷香理 2007 「貯蔵穴の変遷」『月刊考古学ジャーナル』No.559 ニューサイエンス社
日沖剛史ほか 2006 「吹屋恵久保遺跡～古墳時代後期、火山爆発で被災した家屋の調査～」渋川市教育委員会・(株)とりせん・(有)毛野考古学研究所
渡辺修一 1985 「古墳時代竈穴住居の構造の変遷と居住空間」『研究連絡誌』第 11 号 (財) 千葉県文化財センター

鉄鏃

- 津野 仁 1990 「古代・中世の鉄鏃 (東国の出土品を中心に)」『物質文化』54 物質文化研究会
津野 仁 2001 「中世鉄鏃の形成過程と北方系の鉄鏃」『土曜考古』第 25 号 土曜考古学研究会

土製模造品

- 尾形則敏編 1999 『志木市遺跡群』9 志木市の文化財第 27 集 埼玉県志木市教育委員会
尾形則敏 2008 「調査のまとめ」尾形・深井恵子編『志木市遺跡群』17 志木市の文化財第 39 集 埼玉県志木市教育委員会
折原洋一 2006 「古墳時代の祭祀遺物 - 土製模造鏡と地域性」『季刊考古学』第 96 号 雄山閣
佐々木保俊 1996 「中道遺跡第 21 地点の調査」佐々木編『城山遺跡第 12 地点ほか発掘調査報告書』志木市の文化財第 24 集 埼玉県志木市教育委員会
鈴木敏則 2008 「静岡県の土製模造品」『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会 2008 年度研究集会資料集 山梨県考古学協会
竹内直文編 2003 『東部土地区画整理事業地内埋蔵文化財発掘調査報告書 - 二子塚古墳群 明ヶ島古墳群 土製模造品の調査他』磐田市教育委員会
山梨県考古学協会 2008 『土製模造品から見た古墳時代の神マツリ』山梨県考古学協会 2008 年度研究集会資料集志木市報告書

土器・陶器

- 尾形則敏 2008 「古墳時代後期の土師器研究の再認識 - (仮称)「人間系土師器」の実態と生産地推定を例として -」『埼玉考古』第 43 号 埼玉考古学会
尾野善裕 2008 「古代の灰袖陶器生産と来姓古窯跡群」服部順子編『来姓古窯跡群』豊田市埋蔵文化財発掘調査報告書第 31 集 豊田市教育委員会
小林達雄編 2008 『総覧 縄文土器』総覧 縄文土器刊行委員会 株式会社アム・プロモーション
根本 靖 1999 「所沢市東の上遺跡の基礎研究 II - 土師器煮沸具の変遷について -」『あらかわ』第 2 号 あらかわ考古談話会

竈穴建物

- 鈴木弘太 2006 「中世『竈穴建物』の検討 - 都市鎌倉を中心として -」『日本考古学』第 21 号 日本考古学協会
宗臺秀明 1999 「方形竈穴建物の機能と変遷 - 中世東国の半地下式建物 -」『考古学研究』第 46 号第 3 号 考古学研究会

中・近世

- 青木 修・金子健一ほか編 2003 『江戸時代的美濃窯』平成 15 年度 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター企画展図録 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
池田悦夫編 1998 『東京都新宿区市谷左内町遺跡』I - (仮称) 大日本印刷株式会社事務所ビル新築工事に伴う緊急発掘調査報告書 - 新宿区大日本印刷遺跡調査団
江戸遺跡研究会編 2001 『図説 江戸考古学研究辞典』柏書房
岡本直久・青木 修編 2002 『江戸時代の瀬戸窯』平成 14 年度 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター企画展図録 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
鈴木敏則 2004 「まとめ - 静岡県下の須恵器編年」『有玉古窯』浜松市教育委員会
藤澤良祐 1991 「瀬戸古窯址群 II - 古瀬戸後期様式の編年 -」『瀬戸市歴史民俗資料館研究紀要』X 瀬戸市歴史民俗資料館
藤澤良祐 1998 「近世瀬戸磁器編年の再検討 - 磁器端反碗を中心に -」『榑崎彰一先生古希記念論文集』真陽社
藤澤良祐 2002 「瀬戸・美濃大窯編年の再検討」『(財) 瀬戸市埋蔵文化財センター研究紀要』第 10 輯 (財) 瀬戸市埋蔵文化財センター
三木 弘ほか 1992 『東京都新宿区内藤町遺跡』- 放射 5 号線整備事業に伴う緊急発掘調査報告書 - 東京都建設局・新宿区内藤町遺跡調査会
山下峰司 2007 『窯跡出土の“近代陶磁” - 瀬戸・美濃窯の近代 1 -』平成 19 年度 (財) 瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター企画展図録 (財) 瀬戸市文化振興財団埋蔵文化財センター

[付 編] 城山遺跡第 58・60 地点の自然科学分析

パリノ・サーヴェイ株式会社

はじめに

城山遺跡（埼玉県志木市に所在）の住居址等の覆土などから出土した種実遺体や骨貝類について種類および部位などの記載を行い、解析する。

1. 試料

第 58 地点では、種実遺体、骨、貝を分析し、種実遺体が 165H（古墳中期；5c 末葉）から出土した 2 試料（遺物 No.1021,1300）と 36M（近世；19c 前）から出土した 1 試料（遺物 No.1448）の計 3 試料、骨および貝類が 413D（近世 19c 後半）から出土した 2 試料（遺物 No.1435, 貝一括）である。

第 60 地点では、種実遺体と骨を分析し、種実遺体が 208H（平安；9c 後半）から出土した 1 試料（遺物 No.1510）、211H（古墳後期；7c 中葉）から出土した 3 試料（遺物 No.2584,2715,2883）、213H（古墳後期；7c 中葉）から出土した 1 試料（D 区一括）の計 5 試料、骨が 215H（古墳後期；7c 中葉）から出土した 4 試料（遺物 No.2204～2207）と 496D（近世；19c 代）から出土した 1 試料（遺物 No.498）の計 5 試料である。なお、各試料の詳細は、結果とともに第 113 表に記す。

2. 分析方法

（1）種実遺体同定

試料を双眼実体顕微鏡下で観察し、現生標本および石川（1994）、中山ほか（2000）等との対照から、種類と部位を同定する。分析後は、種実を容器に入れて保管する。

（2）骨貝類同定

骨を肉眼観察し、種類および部位を同定する。なお、計測には、デジタルノギス等を用いて計測する。

3. 結果

（1）種実遺体同定（図版 87）

種実同定結果を表 113 に示す。バラ科サクラ属のモモ (*Prunus persica* Batsch) の核（内果皮）12 個、種子 1 個が同定された。核は、遺物 No.1448 のみ灰褐色を呈し、その他の試料は炭化しているため黒色を呈す。形状はやや扁平～丸みを帯びた広楕円体。完形 4 個の大きさの計測値は、第 58 地点の 165H の遺物 No.1300 は長さ 18.07mm、幅 15.62mm、厚さ 13.5mm。第 60 地点の 208H（遺物 No.1510）は長さ 21.44mm、幅 17.67mm、厚さ 16.41mm。211H（遺物 No.2883）は長さ 18.46mm、幅 14.46mm、厚さ 14.02mm。213H（D 区一括）は長さ 23.18mm、幅 18.7mm、厚さ 13.32mm。一方、破片個体が確認された第 58 地点の 36M（遺物 No.1448）は、長さ 32.2mm、幅 21.24mm で、他の試料よりも大きい。

核の頂部はやや尖り、基部は切形で中央部に湾入した臍がある。1本の明瞭な縦の縫合線が発達し、背面正中線上に細い縦隆本が、腹面正中線には浅い縦溝とその両側に幅の狭い帯状部がある。縫合線に沿って割れた半分以下もみられる（遺物 No.1448, 遺物 No.2715）。内果皮は厚く硬く、表面は縦に流れる不規則な線状の深い窪みがあり、全体として粗いしわ状にみえる。内側表面は平滑で、種子1個が入る楕円状の窪みがみられる。種子は、長さ11.25mm、幅7.52mm、厚さ3.05mmの扁平な楕円体。種皮表面はやや発泡している。

地点	遺構名	時代		掲載 No.	遺物 No.	種名	部位	状態		個数	計測	計測値	備考
											箇所	(mm)	
Ka58	165H	古墳中期	5c 末葉	図版 87-1	1021	モモ	核	破片	炭化	2	長さ	(20.88)	接合し完形1個体
											幅	(15.34)	
											厚さ	(11.95)	
				図版 87-2	1300	モモ	核	完形	炭化	1	長さ	11.25	核と同一個体
											幅	7.52	
											厚さ	3.05	
	36M	近世	19c 前	図版 87-11	1448	モモ	核	破片	-	1	長さ	32.2+	半分未満
											幅	21.24+	
											厚さ	7.96+	
	Ka60	208H	平安	9c 後半	図版 87-10	1510	モモ	核	完形	炭化	1	長さ	21.44
幅												17.67	
厚さ												16.41	
211H		古墳後期	7c 中葉	図版 87-8	2584	モモ	核	破片	炭化	3	長さ	12.76+	1個基部確認
											幅	11.97+	
				図版 87-6・7	2715	モモ	核	破片	炭化	2	長さ	(16.05)	半分2個, 接合し1個体
											幅	(13.95)	
213H		古墳後期	7c 中葉	図版 87-9	D区一括	モモ	核	完形	炭化	1	長さ	18.46	表面欠損部あり
											幅	14.46	
											厚さ	14.02	
213H	古墳後期	7c 中葉	図版 87-9	D区一括	モモ	核	完形	炭化	1	長さ	23.18		
										幅	18.7		
										厚さ	13.32		

注) 接合時の測定値を括弧内に表示する。破片の測定値にはプラスを付す。

第113表 種実同定結果

(2) 骨貝類同定 (図版 88)

確認された種類は、二枚貝類のサトウガイ、哺乳類のヒト・ウマの計3種類である(第114・115表)。以下、試料ごとに結果を記す。

・第58地点

< 413D 図版 88-1 遺物 No.1435 >

ヒトの右上顎犬歯である。ほぼ完存する。永久歯であり、また咬耗が進む。

< 413D 図版 88-2 遺物 No. 貝一括 >

サトウガイの右殻である。殻頂部および腹縁部が破損する。同一殻の破片が4片存在する。殻長7cm以上となる大きさの個体である。

第60地点

< 215H 図版 88-3 遺物 No.2204 >

獸類の大腿骨の可能性のある四肢骨である。両端が破損し、間接部が残存しない。また、骨体表面

軟体動物門	Phylum Mollusca
二枚貝綱	Class Bivalvia
翼形亜綱	Subclass Pteriomophia
フネガイ目	Order Arcoidea
フネガイ科	Family Arcidae
サトウガイ	Scapharca satowi
脊椎動物門	Phylum Vertebrata
哺乳綱	Class Mammalia
サル目(霊長目)	Order Primates
ヒト科	Family Hominidae
ヒト	Homo sapiens
ウマ目(奇蹄目)	Order Perissodactyla
ウマ科	Family Equidae
ウマ	Equus caballus

第114表 検出分類群一覧

地点	遺構	時代	掲載 No.	遺物 No.	種類	部位	左	右	備考
Ka58	413D	近世	19c 後半	図版 88 - 1	1435	ヒト	上顎犬歯	右	ほぼ完存
				図版 88 - 2	貝一括	殻		右	殻頂部 腹縁部破損
Ka60	215H	古墳後期	7c 中葉	図版 88 - 3	2204	獣類	大腿骨?		破片
				図版 88 - 4	2205	ウマ	上顎第 1 後臼歯	左	破損
				図版 88 - 5	2206	ウマ	上顎第 2 後臼歯	左	歯根破損 (臼歯高 50mm)
				図版 88 - 6	2207	ウマ	上顎第 3 後臼歯	左	歯根部欠損
	496D	近世	19c 代	図版 88 - 7	498	ウマ	橈骨 + 尺骨	左	尺骨近位端欠・橈骨近位端破損・橈骨遠位端欠

第 115 表 骨貝類同定結果

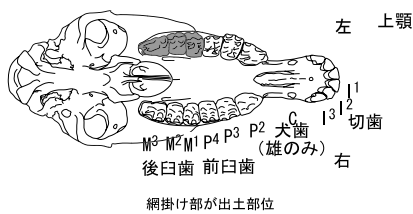
は削られていたり、細かな傷が存在するなど、破損している。

< 215H 図版 88 - 4 ~ 6 遺物 No.2205・2206・2207 >

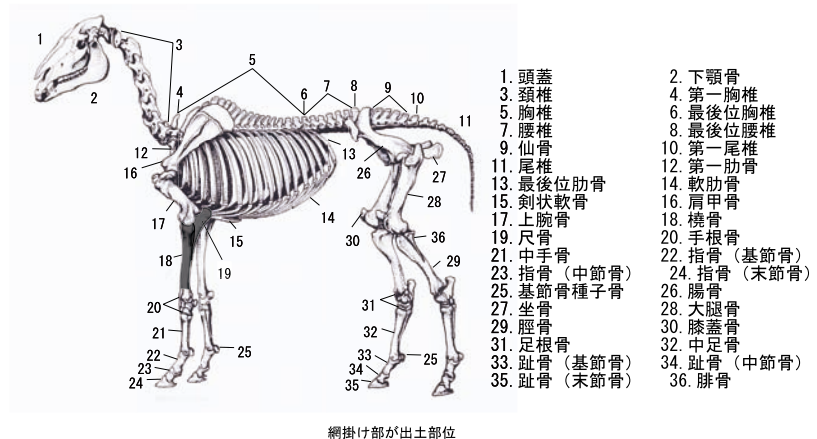
ウマの左上顎歯牙 3 点で、遺物 No.2205 が上顎第 1 後臼歯、遺物 No.2206 が上顎第 2 後臼歯、遺物 No.2207 が上顎第 3 後臼歯である(第 279 図)。なお、第 2 後臼歯で全臼歯高を計測することができ、臼歯高 50mm を計る。

< 496D 図版 88 - 7 遺物 No.498 >

崩落土の中から出土したとされる。ウマの左橈骨 + 尺骨である(第 280 図)。尺骨近位端部と橈骨遠位端が欠損し、橈骨の近位端が破損する。



第 279 図 ウマ上顎骨の概念図



網掛け部が出土部位

第 280 図 ウマの骨格 (加藤・山内 2003 を改変)

4. 考察

(1) 種実遺体

モモは、古く大陸より渡来した栽培種とされ、果実や核の中にある仁(種子)などが食用、薬用等に利用されるほか、観賞用、祭祀等への利用が知られている。なお、現在栽培されているモモは、明治以降に渡来したものであるため、遺跡出土のモモとは別系統とされている。

今回、各遺構より栽培種のモモの核が炭化した状態で出土したことから、当時の城山遺跡および周辺域における利用と、火を受け炭化残存したことが推定される。また、出土部位は非可食部の核であるため、果実を利用後の廃棄段階であった可能性がある。

モモの最も古い出土例は、縄文時代前期の長崎県伊木力遺跡(南木・粉川, 1990)であるが、弥生時代以降になると全国各地の遺跡から多くの出土例がある(粉川, 1988 など)。モモ核は、厚くて丸く小型のものは古い形質を表し、新しいものほど扁平になるとされる(堀田, 1980 など)。遺跡出土モ

モ核も当初はこのような傾向があるとされたが、出土例が増えるに従い、弥生時代以前の遺跡からも大型で扁平な核が検出されるなど、核の形態に関する時代変遷は混沌としてきている(南木,1991など)。

本遺跡出土モモ核は、個体数が少ないが、古墳時代中期～平安時代は小型で丸みを帯び、いわゆる古代モモの性質に似る。古墳後期でやや大型で扁平な形状が確認され、近世はより大型で扁平と、堀田(1980)と調和的な傾向が窺え、複数の品種が持ち込まれるか栽培されていたことが示唆される。

(2) 遺構内出土骨貝類

第58地点の近世413Dからは、ヒトの上顎犬歯とサトウガイが検出される。ヒト上顎犬歯は、咬耗が進むことから、少なくとも成人(16～20歳程度)に達していたとみられ、壮年(20～39歳程度)以上の可能性がある。性別は不明である。また、サトウガイは奥谷ほか(2000)によると、房総半島から九州にかけて分布し、水深10～50mのやや外洋性の砂底に棲息するとされる。外洋域で採取されたものが、流通されてきたものであろう。

第60地点の古墳時代後期215Hから出土したウマ歯牙3点(遺物No.2205・2206・2207)は、おそらく同一個体の歯牙であると思われ、ウマ頭蓋が遺構内に存在していた可能性がある。西中川ほか(1991)の研究に基づき第2後臼歯で全臼歯高から推定すると7～8歳程度のウマと推定される。また、近世496Dから出土したウマ橈骨+尺骨は、骨端が化石化していることから、成獣であったと思われる。ただし、遠位端が欠損し、近位端も破損することから、全長や骨端幅など計測することができず、大きさ等については不明である。なお、崩落土中から出土したとされることから、時代なども詳細不明である。

[引用・参考文献]

- 堀田 満 1980「モモ」『植物の生活誌』平凡社 137-140p.
- 石川 茂雄 1994『原色日本植物種子写真図鑑』石川茂雄図鑑刊行委員会 328p.
- 加藤 嘉太郎・山内 昭二 2003『新編 家畜比較解剖図説』上巻 養賢堂 315p.
- 粉川 昭平 1988「穀物以外の植物食」『弥生文化の研究 2 生業』金関 恕・佐原 真編 雄山閣 112-115p.
- 南木 睦彦・粉川 昭平 1990「伊木力遺跡の大型植物化石群集」『伊木力遺跡 長崎県大村湾沿岸における縄文時代低湿地遺跡の調査』同志社大学考古学研究室編 多良見町教育委員会 642-659p.
- 南木 睦彦 1991「栽培植物」『古墳時代の研究 4 生産と流通1』石野 博信・岩崎 卓也・河上 邦彦・白石 太一郎編 雄山閣 165-174p.
- 中山 至大・井之口 希秀・南谷 忠志 2000『日本植物種子図鑑』東北大学出版会 642p.
- 西中川 駿・本田 道輝・松元 光春 1991「古代遺跡出土骨からみたわが国の牛、馬の渡来時期とその経路に関する研究」平成2年度文部省科学研究費補助金(一般研究B)研究成果報告書 99p.
- 奥谷 喬司・窪寺 恒己・黒住 耐二・斎藤 寛・佐々木 猛智・土田 英治・土屋 光太郎・長谷川 和範・濱谷 巖・速水 格・堀 成夫・松隈 明彦 2000『日本近海産貝類図鑑』奥谷喬司編 東海大学出版会 1173p.

图 版



第 60 地点 調査区全景



第 60 地点 調査区遠景



第 60 地点 調査区遠景



調査区近景 (南より)



表土剥ぎ状況 (南より)



基本土層 1 (東より)



基本土層 2 (西より)



400 号土坑セクション (南より)



452 号土坑セクション (南より)



453 号土坑 (東より)



5 号炉穴 (手前が炉床) (南東より)



120号住居跡 (南東より)



165号住居跡貯蔵穴Bセクション (南より)



165号住居跡貯蔵穴A遺物出土状況 (北より)



165号住居跡カマドA遺物出土状況1 (南西より)



165号住居跡カマドA遺物出土状況2 (南西より)



165号住居跡 (南東より)



167号住居跡 (西より)



171号住居跡遺物出土状況1 (南より)



171 号住居跡遺物出土状況 2 (東より)



171 号住居跡貯蔵穴セクション (南より)



171 号住居跡 (南より)



172 号住居跡 (南より)



172 号住居跡カマド (西より)



173 号住居跡遺物出土状況 (北西より)



173 号住居跡遺物出土状況 (部分 1) (南西より)



173 号住居跡遺物出土状況 (部分 2) (南西より)



173号住居跡カマド（南東より）



173号住居跡貯蔵穴（南西より）



173号住居跡（南東より）



174号住居跡遺物・炭化材出土状況（北西より）



174号住居跡（北西より）



175号住居跡（北より）



176号住居跡遺物出土状況1（南東より）



176号住居跡遺物出土状況2（東より）



176 号住居跡遺物出土状況 3 (東より)



176 号住居跡 (南より)



177 号住居跡遺物出土状況 (北西より)



177 号住居跡貯蔵穴セクション (南西より)



177 号住居跡カマド (南西より)



177 号住居跡 (南西より)



178 号住居跡貯蔵穴 (西より)



178 号住居跡 (南より)



178号住居跡カマド（南より）



179号住居跡（南より）



180号住居跡（北より）



181号住居跡（南東より）



181号住居跡カマド（南東より）



182号住居跡カマド（東より）



182号住居跡（北東より）



183号住居跡（南東より）



184 号住居跡 (東より)



185 号住居跡遺物出土状況 (焼土上) (南東より)



185 号住居跡遺物出土状況 (床面上) (南東より)



185 号住居跡遺物出土状況 (貯蔵穴上) (西より)



185 号住居跡貯蔵穴セクション (南西より)



185 号住居跡貯蔵穴遺物出土状況 (南西より)



185 号住居跡 P1 セクション (南東より)



185 号住居跡 P3 セクション (南西より)



185号住居跡カマド（南西より）



185号住居跡（南より）



185号住居跡P2（貯蔵穴）（東より）



186・187号住居跡（東より）



4号掘立柱建築遺構（東より）



6号掘立柱建築遺構（36・37Pは未掘）（西より）



A群1類434号土坑（南より）



B群1類438・439・440・444号土坑（西より）



B群1・2類 403・420・422・432号土坑（北より）



B群2類 392号土坑（北より）



B群3類 381号土坑（東より）



381号土坑セクション（東より）



B群3類 390号土坑（南より）



B群3類 413号土坑（北より）



B群3類 421号土坑（東より）



C群 399号土坑（北西より）



D群 404号土坑 (東より)



D群 414・415号土坑 (東より)



D群 416号土坑 (北より)



D群 435号土坑 (西より)



E群 1類 397号土坑入口竪坑部 (南より)



397号土坑入口竪坑部足掛け穴 (西より)



397号土坑主体部埋没状況 (南より)



E群 1類 398号土坑 (西より)



E 群 1 類 401 号土坑 (東より)



E 群 2 類 433 号土坑入口竪坑部 (西より)



34 号溝跡 (西より)



35 号溝跡北半部 (西より)



35 号溝跡南半部 (東より)



35 号溝跡セクション B 北半部 (西より)



35 号溝跡セクション B 南半部 (西より)



36 号溝跡 (東より)



36号溝跡セクションB (東より)



36号溝跡土鍋出土状況 (北より)



1区南半部全景 (北より)



37号溝跡 (西より)



38号溝跡 (南より)



38号溝跡セクションA (北より)



1号道路状遺構第3面全景 (2区) (西より)



1号道路状遺構第3面路面状況 (2区)



1号道路状遺構セクション (2区)



1号道路状遺構第4面全景 (2区)



1号道路状遺構第4面全景 (2区)



1号道路状遺構 (3区)



調査風景 (165号住居跡)



調査風景 (173号住居跡)



調査風景 (185号住居跡)



周辺の状況（右上が柳瀬川と流域低地）（東より）



第 60 地点調査区全景（H～J グリッドは一部未掘）



調査区全景（西側・グリッドA～E）（東より）



調査区全景（中央・グリッドF・G）（北より）



調査区全景（東側・グリッドH～J）（北西より）



調査区近景（西より）



基本土層 1（北より）



基本土層 2（南より）



基本土層3 (西より)



基本土層4 (北より)



6～8号炉穴 (南西より)



6号炉穴 (右が炉床) (南東より)



7号炉穴 (左が炉床) (北東より)



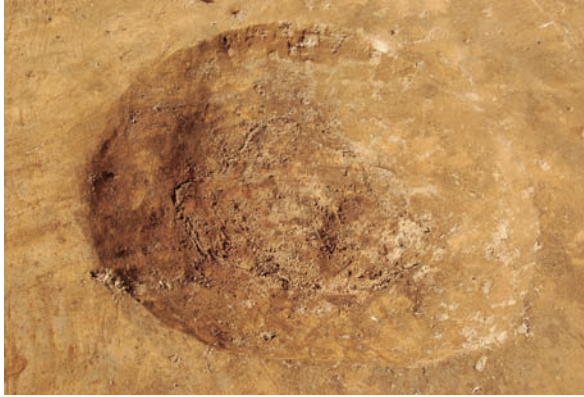
8号炉穴セクション (北西より)



3～5号集石 (北西より)



3号集石セクション (南より)



3号集石土坑底面被熱状況（南より）



4号集石セクション（南より）



5号集石セクション（南より）



502号土坑セクション（南より）



182号住居跡貯蔵穴1セクション（北より）



182号住居跡（北西より）



184号住居跡貯蔵穴セクション（北西より）



184号住居跡カマド（南より）



188号住居跡カマド（北西より）



188号住居跡（南西より）



189号住居跡遺物出土状況（西より）



189号住居跡貯蔵穴（南より）



189号住居跡カマド（南東より）



189号住居跡（南東より）



190号住居跡カマド（南より）



190号住居跡（南東より）



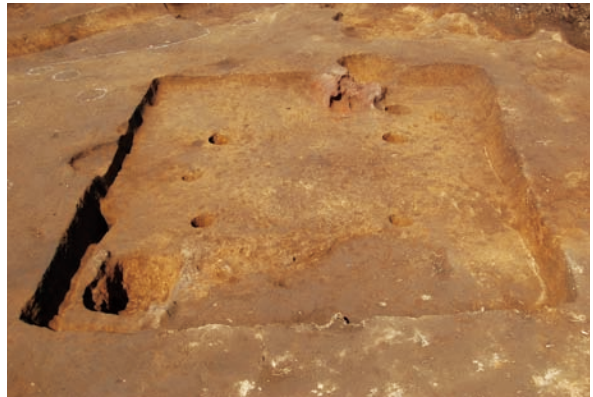
191号住居跡遺物・炭化材出土状況（南東より）



191号住居跡貯蔵穴セクション（南東より）



191号住居跡カマド（南東より）



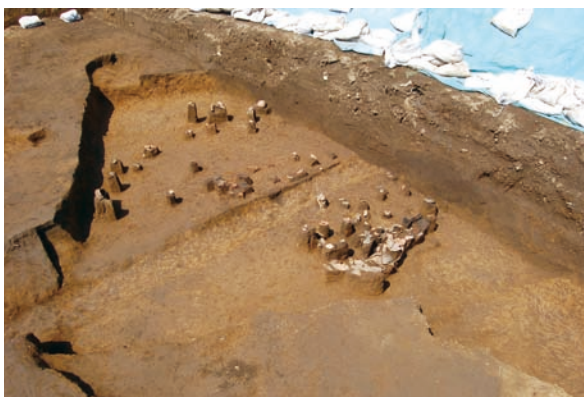
191号住居跡（南東より）



192号住居跡カマド（南西より）



192号住居跡（北西より）



193号住居跡遺物出土状況（南東より）



193号住居跡（南東より）



194号住居跡（南より）



195号住居跡（南より）



196号住居跡貯蔵穴（南西より）



196号住居跡カマドⅠ（南西より）



196号住居跡（南西より）



197号住居跡（南東より）



198号住居跡カマド（南より）



198号住居跡（西より）



199号住居跡カマド（南より）



199号住居跡（南より）



200号住居跡遺物出土状況（南より）



200号住居跡カマド（南より）



200号住居跡貯蔵穴（南より）



200号住居跡（南より）



201号住居跡炉？跡（南より）



201号住居跡（南より）



202 号住居跡鉄鏃出土状況（南東より）



202 号住居跡セクション（北東より）



202 号住居跡炭化材出土状況（南東より）



202 号住居跡カマド B（北東より）



202 号住居跡カマド A（南東より）



203 号住居跡遺物出土状況（南東より）



203 号住居跡カマド（南東より）



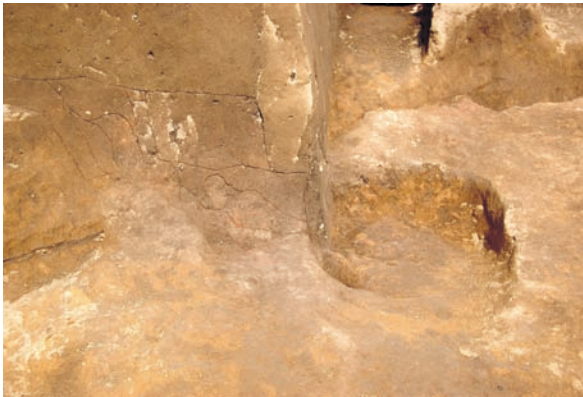
203 号住居跡（南東より）



204号住居跡カマド（南東より）



204号住居跡（南東より）



205号住居跡カマド（西より）



205号住居跡（南西より）



206号住居跡カマド（南東より）



206号住居跡（南東より）



207号住居跡（南より）



208号住居跡（南より）



208号住居跡カマド（南より）



209号住居跡遺物出土状況（南東より）



209号住居跡貯蔵穴（南より）



209号住居跡カマド（南東より）



209号住居跡（南東より）



209号B住居跡貯蔵穴セクション（南東より）



209号B住居跡カマドセクション（北東より）



209号住居跡掘方と209号B住居跡（南東より）



210号住居跡カマド（南より）



210号住居跡カマド掘方（南より）



210号住居跡（南より）



211号住居跡遺物出土状況（南より）



211号住居跡貯蔵穴（東より）



211号住居跡P1セクション（北より）



211号住居跡カマド（南より）



211号住居跡（南より）



212号住居跡カマド（南東より）



212号住居跡（南東より）



213号住居跡カマド（南東より）



213号住居跡（南東より）



214号住居跡遺物出土状況（南東より）



214号住居跡カマド（南東より）



214号住居跡カマド袖部芯材（南東より）



214号住居跡（カマドは掘方）（南東より）



214号住居跡壁面ピット（西壁）（北東より）



214号住居跡壁面ピット（東壁）（南西より）



214号住居跡壁面ピット（南壁）（北西より）



215号住居跡カマド（南東より）



215号住居跡（南東より）



215号B住居跡（228号住居跡周溝既掘）（南東より）



216号住居跡遺物出土状況（南より）



216号住居跡カマド（南より）



216 号住居跡 (南より)



217 号住居跡カマド (南東より)



217 号住居跡 (南東より)



218 号住居跡遺物出土状況 I (南より)



218 号住居跡遺物出土状況 2 (P4 付近) (南より)



218 号住居跡カマド (右脇に土製支脚出土) (南より)



218 号住居跡 (南より)



219 号住居跡炉セクション (南より)



219号住居跡（南東より）



220号住居跡遺物出土状況1（南東より）



220号住居跡遺物出土状況2（北東より）



220号住居跡貯蔵穴セクション（北東より）



220号住居跡カマド（西より）



220号住居跡（南より）



221号・229号住居跡（南西より）



222号住居跡遺物出土状況（西より）



222 号住居跡カマド (南西より)



222 号住居跡 (貯蔵穴 (旧) は未掘) (南西より)



223 号住居跡貯蔵穴 (南東より)



223 号住居跡カマド (南東より)



223 号住居跡 (南東より)



224 号住居跡セクション西半部 (南東より)



224 号住居跡土製模造品出土状況 (北東より)



224 号住居跡カマド脇土器群出土状況 1 (東より)



224号住居跡カマド脇土器群出土状況2(東より)



224号住居跡カマド(南東より)



224号住居跡カマド転用支脚出土状況(南東より)



224号住居跡(南東より)



225号住居跡カマド(南東より)



225号住居跡(南東より)



226号住居跡遺物出土状況(南より)



226号住居跡カマド(南西より)



226号住居跡（南西より）



227号住居跡カマド（東より）



228号住居跡（東より）



228号住居跡貯蔵穴セクション（西より）



228号住居跡（南東より）



94号ピット遺物出土状況（南より）



B群1類510～517号土坑（東より）



B群2類547号土坑（北より）



B群3類553号土坑（東より）



553号土坑セクション（東より）



553号土坑P1（東より）



553号土坑P2（東より）



553号土坑P3（東より）



553号土坑P4（東より）



553号土坑P5（東より）



553号土坑P6（東より）



C群 454 号土坑 (南より)



D群 459 号土坑 (北東より)



E群 1 類 483・554 号土坑 (西より)



E群 1 類 518 号土坑 (南西より)



E群 1 類 518 号土坑入口竪坑部連結状況 (北より)



E群 1 類 518 号土坑入口竪坑部足掛け穴 (東より)



E群 1 類 554 号土坑 (北西より)



E群 2 類 461 号土坑 (南より)



E群2類461号土坑内部(入口と正面主体部C)(北より)



E群2類496号土坑(南より)



E群2類496号土坑主体部A・B(南西より)



E群2類496号土坑主体部B・C(北西より)



E群2類496号土坑主体部D(東より)



31号井戸跡礫堆積状況(北より)



31号井戸跡(東より)



32号井戸跡(東より)



33号井戸跡 (南東より)



34号井戸跡 (北より)



35号井戸跡 (南東より)



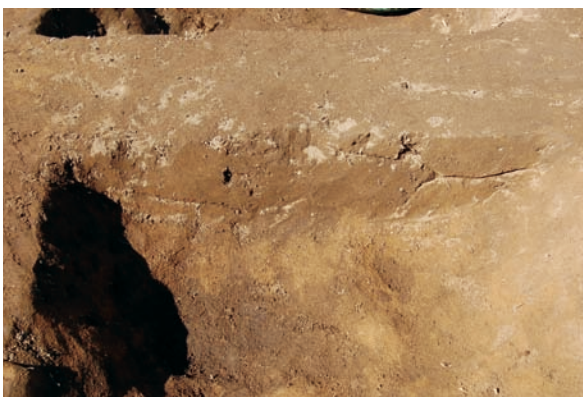
39号溝跡 (東より)



40号溝跡セクションB (南より)



40号溝跡セクションD (東より)



40号溝跡セクションE (東より)



40号溝跡セクションH (南より)



40号溝跡セクションF (南より)



40号溝跡全景1 (南より)



40号溝跡全景2 (南西より)



40号溝跡全景3 (南東より)



40号溝跡西辺部 (南より)



40号溝跡南辺部 (西より)



40号溝跡東辺部 (南より)



41号溝跡 (南東より)



42号溝跡（南より）



43・44号溝跡（南より）



45号溝跡（北より）



46号溝跡（西より）



27号ピット縹銭検出状況（南より）



27号ピット縹銭状態（南より）



調査風景（213号住居跡ほか）（南より）



宗岡小学校児童の現場見学

第 58 地点 · 60 地点

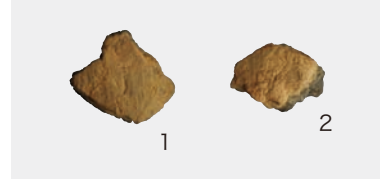
第 58 地点



400 号土坑出土遺物



453 号土坑出土遺物



5 号炉穴跡出土遺物

第 60 地点

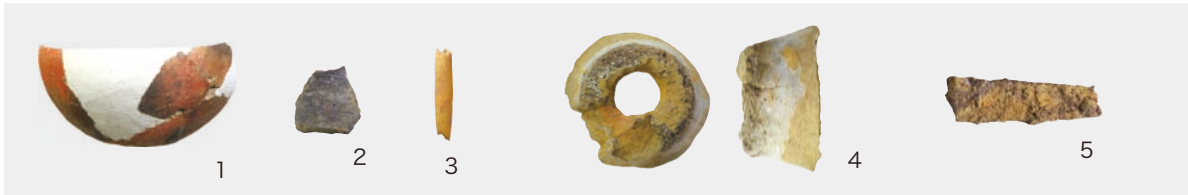


5 号集石出土遺物



6 号炉穴出土遺物

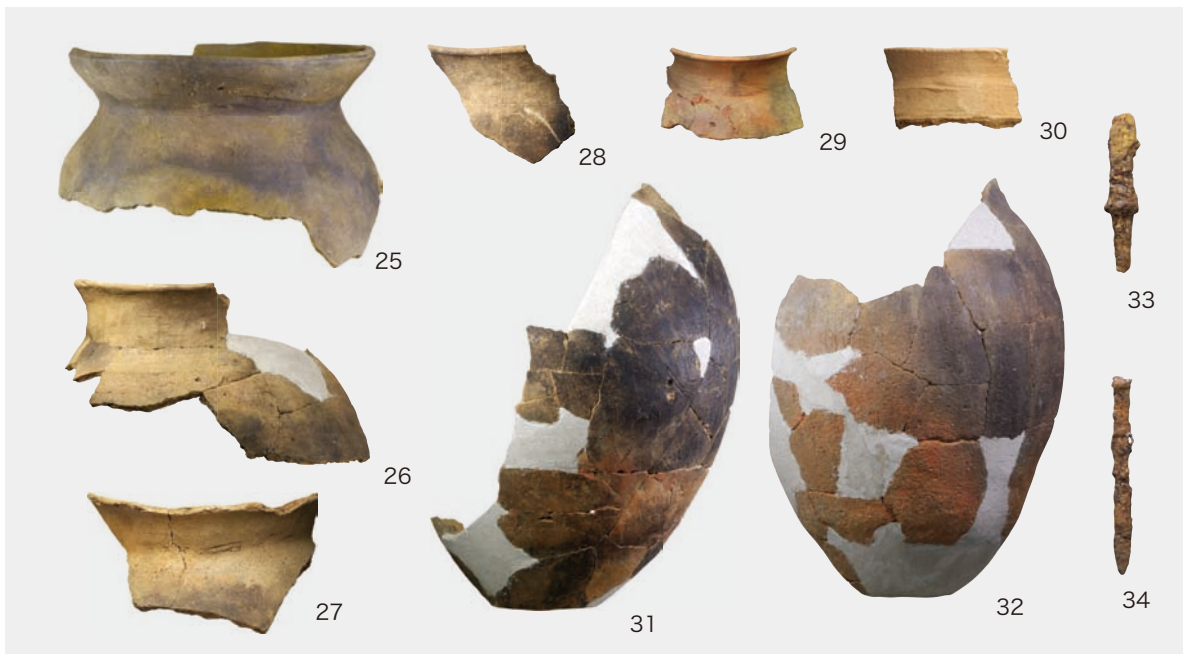
第 58 地点



120 号住居跡出土遺物



165 号住居跡出土遺物 1



165 号住居跡出土遺物 2



167 号住居跡出土遺物



171 号住居跡出土遺物 1



171 号住居跡出土遺物 2



172 号住居跡出土遺物



173 号住居跡出土遺物 1



173 号住居跡出土遺物 2



174 号住居跡出土遺物



176 号住居跡出土遺物



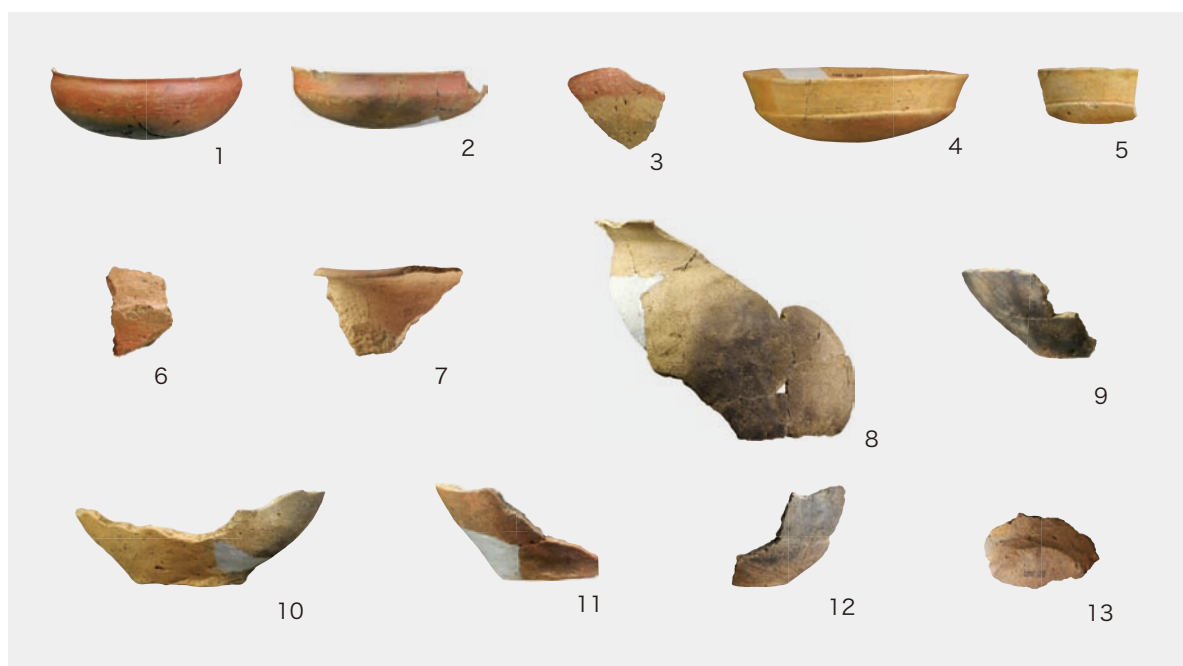
177 号住居跡出土遺物



178 号住居跡出土遺物



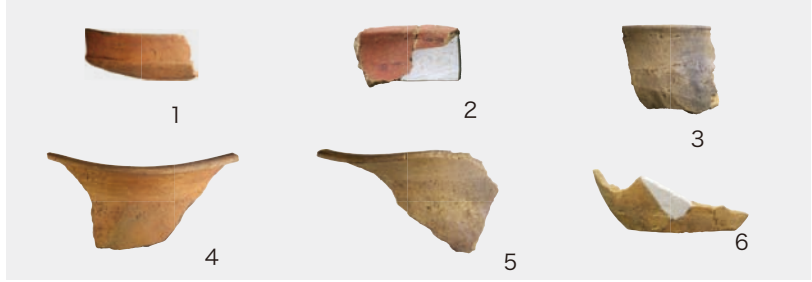
181 号住居跡出土遺物



182 号住居跡出土遺物



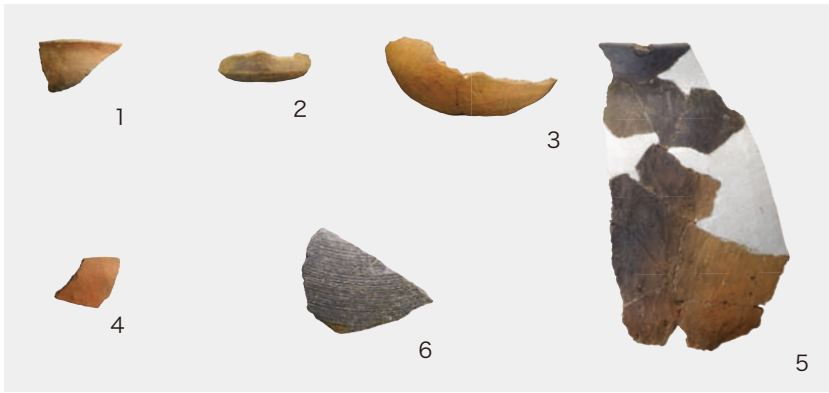
183 号住居跡出土遺物



184 号住居跡出土遺物



185 号住居跡出土遺物



186 号住居跡出土遺物



187 号住居跡出土遺物



第 60 地点 188 号住居跡出土遺物



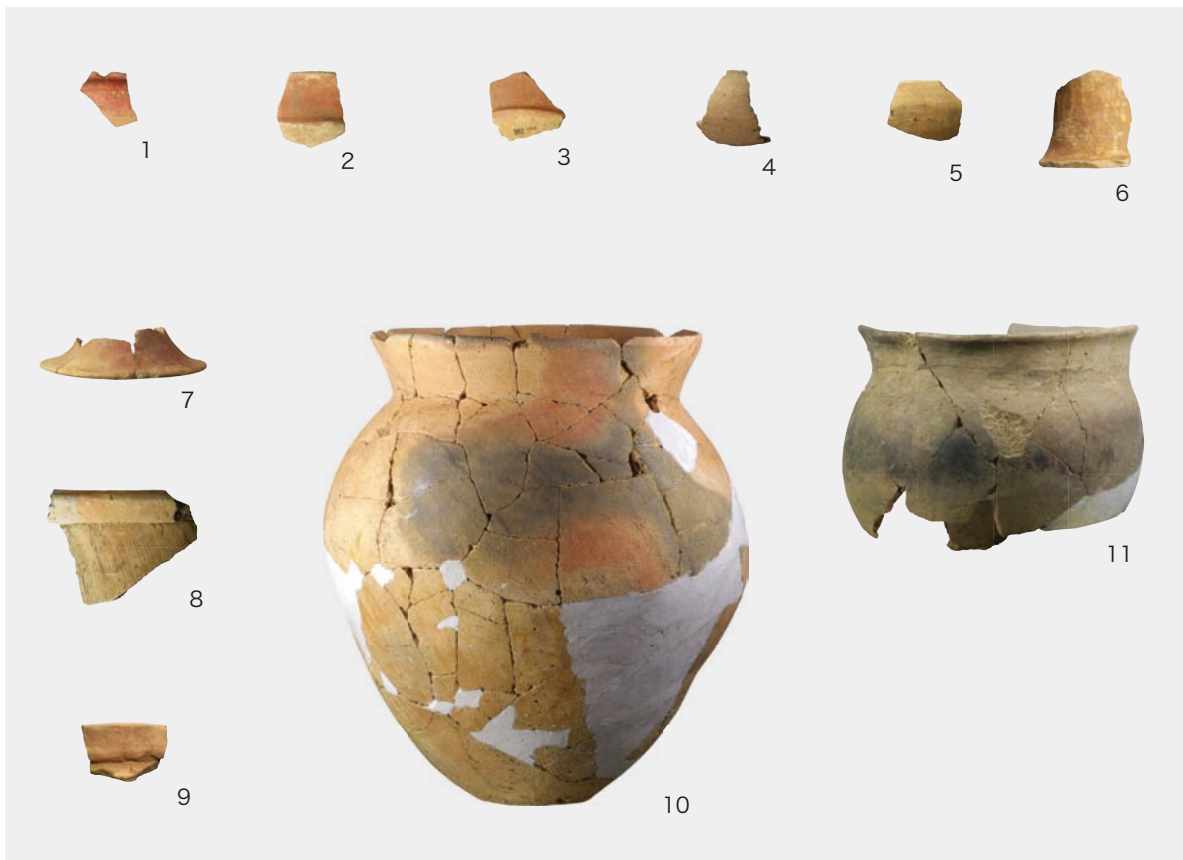
189 号住居跡出土遺物 1



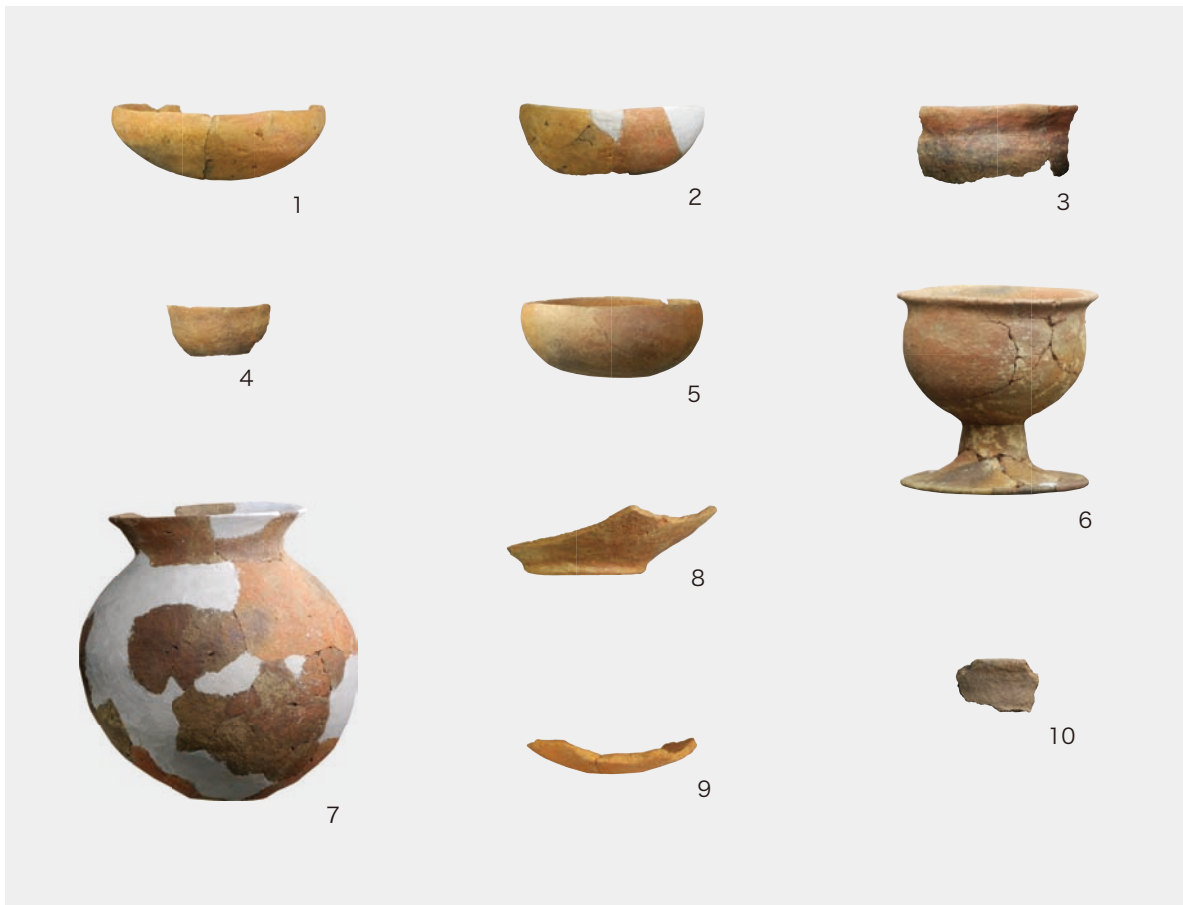
189 号住居跡出土遺物 2



190 号住居跡出土遺物



191号住居跡出土遺物



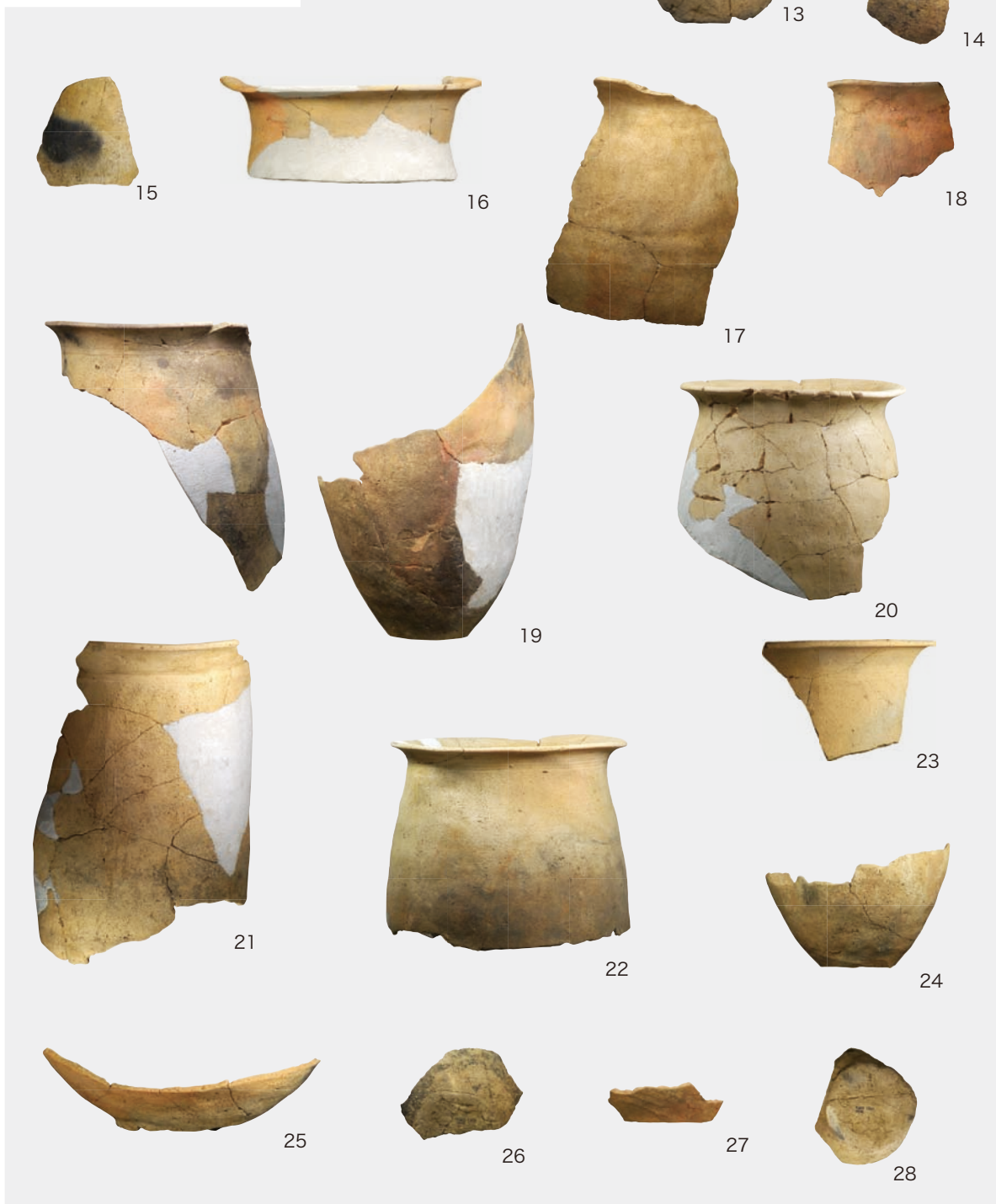
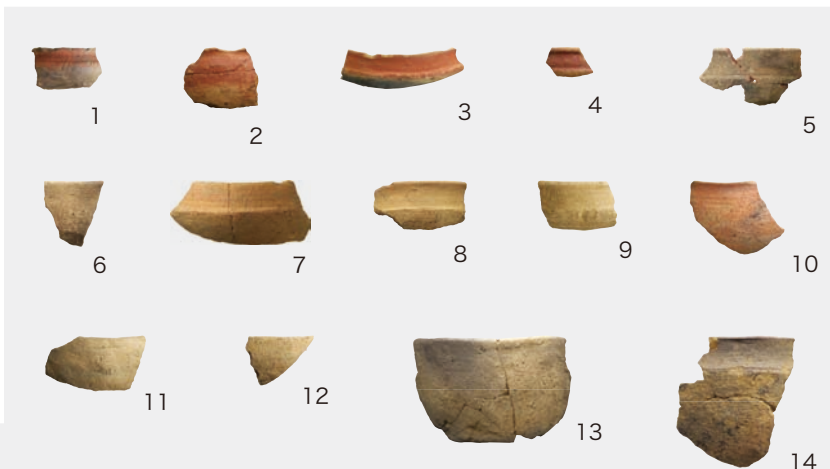
192号住居跡出土遺物



193 号住居跡出土遺物



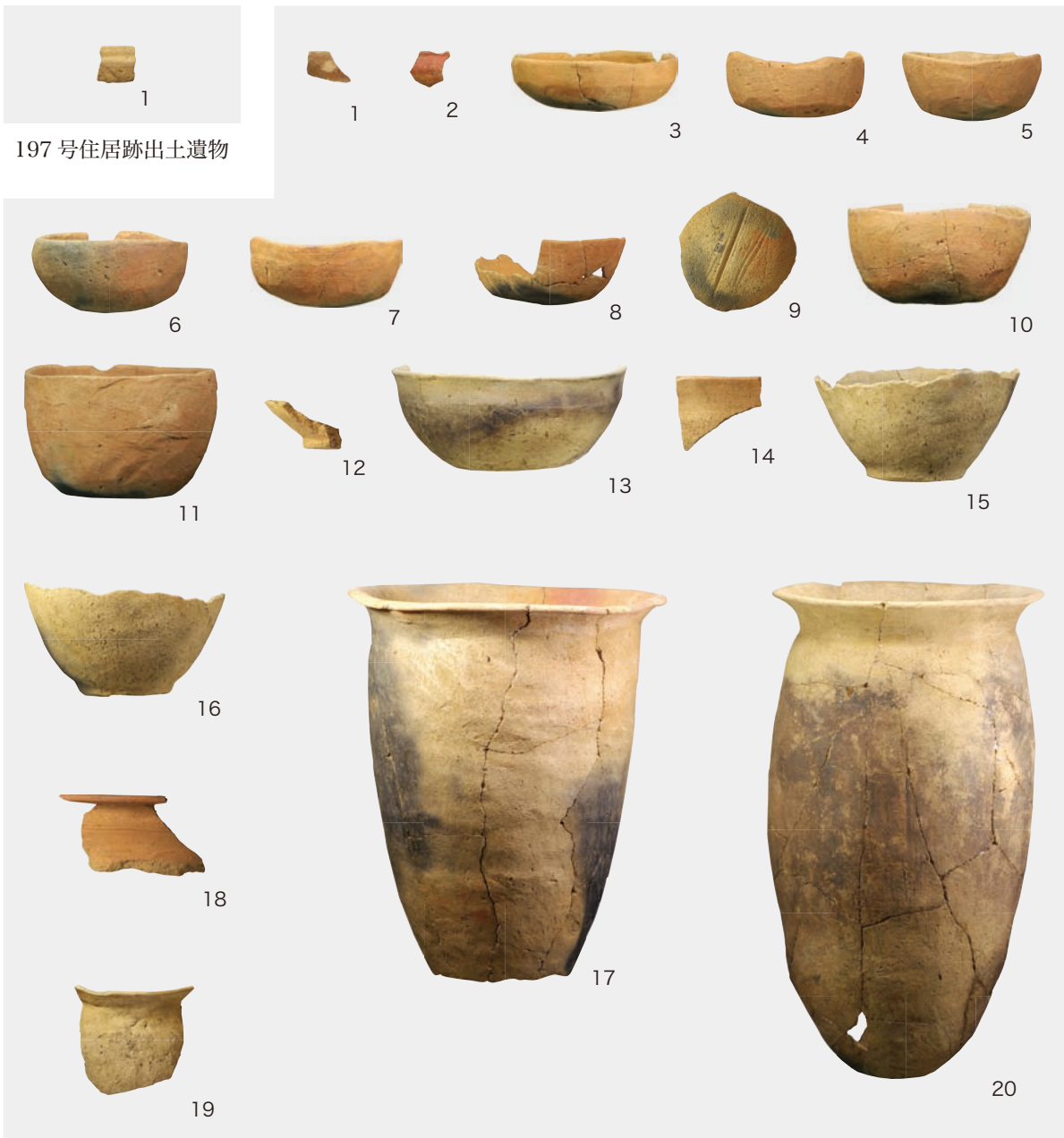
194 号住居跡出土遺物



196 号住居跡出土遺物 1



196 号住居跡出土遺物 2

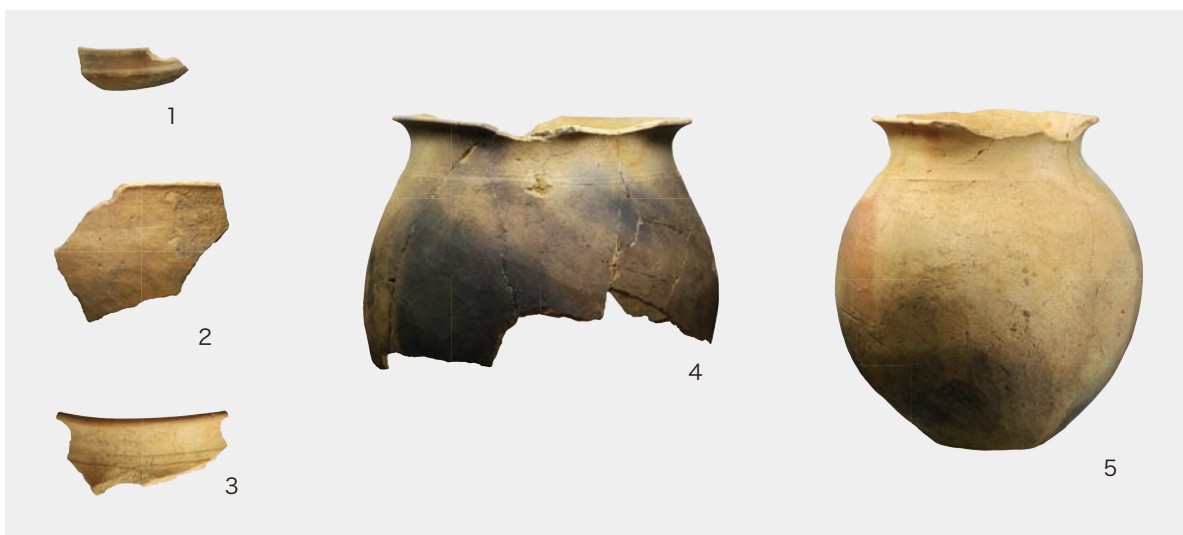


197 号住居跡出土遺物

200 号住居跡出土遺物 1



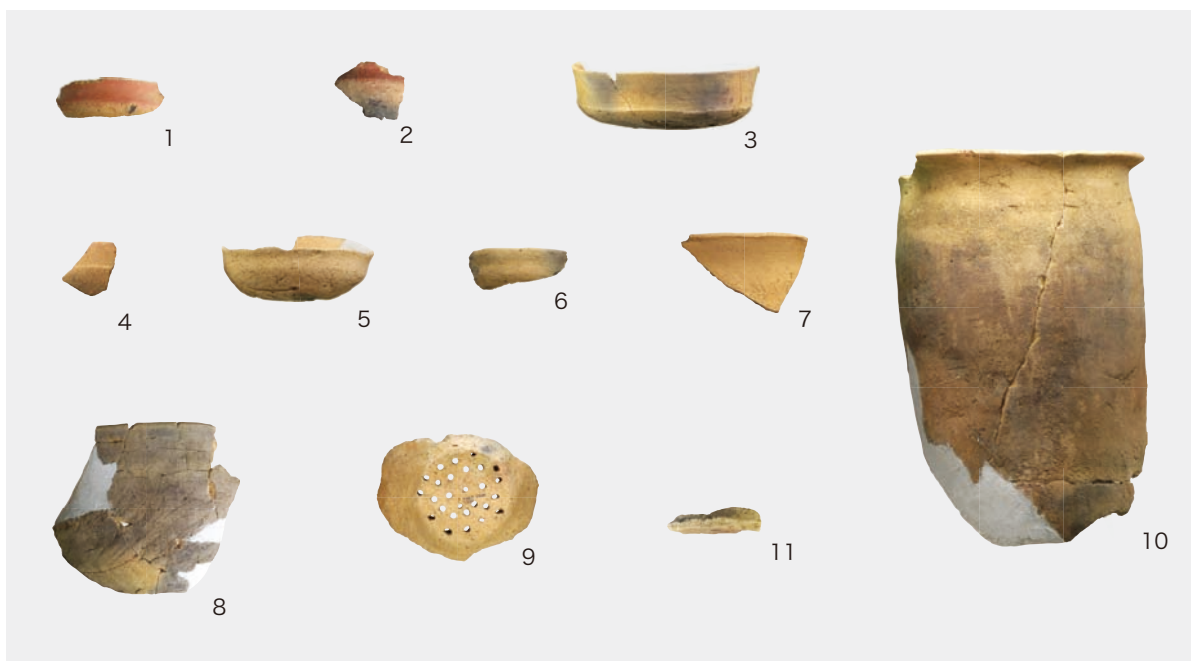
200 号住居跡出土遺物 2



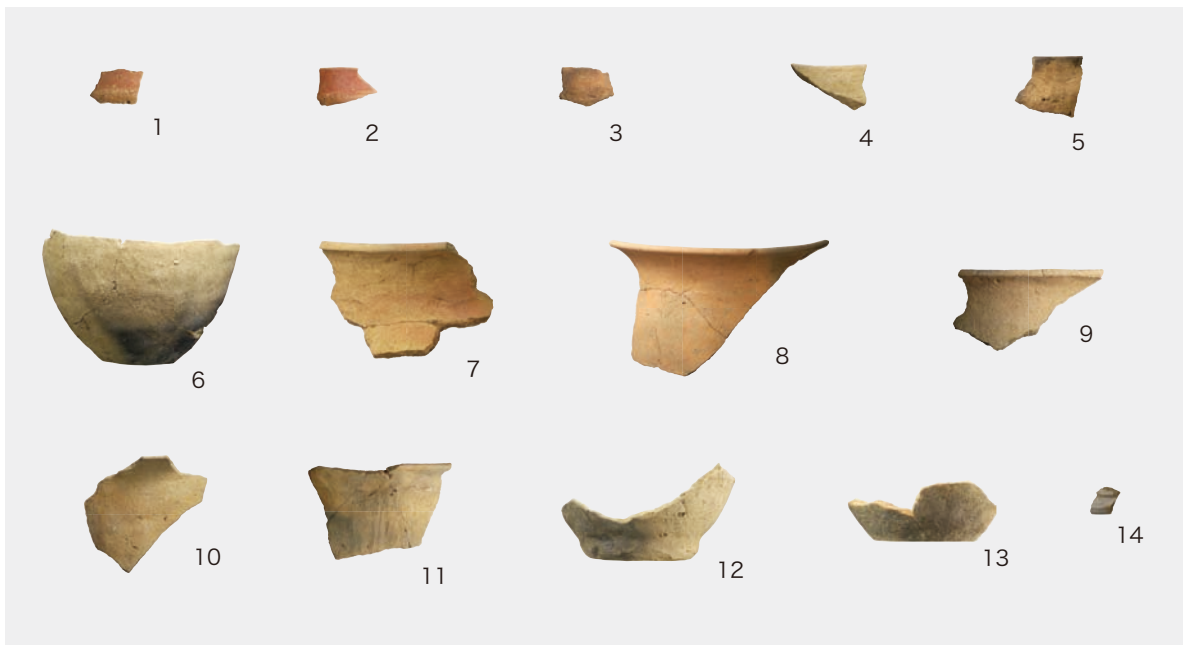
203 号住居跡出土遺物 1



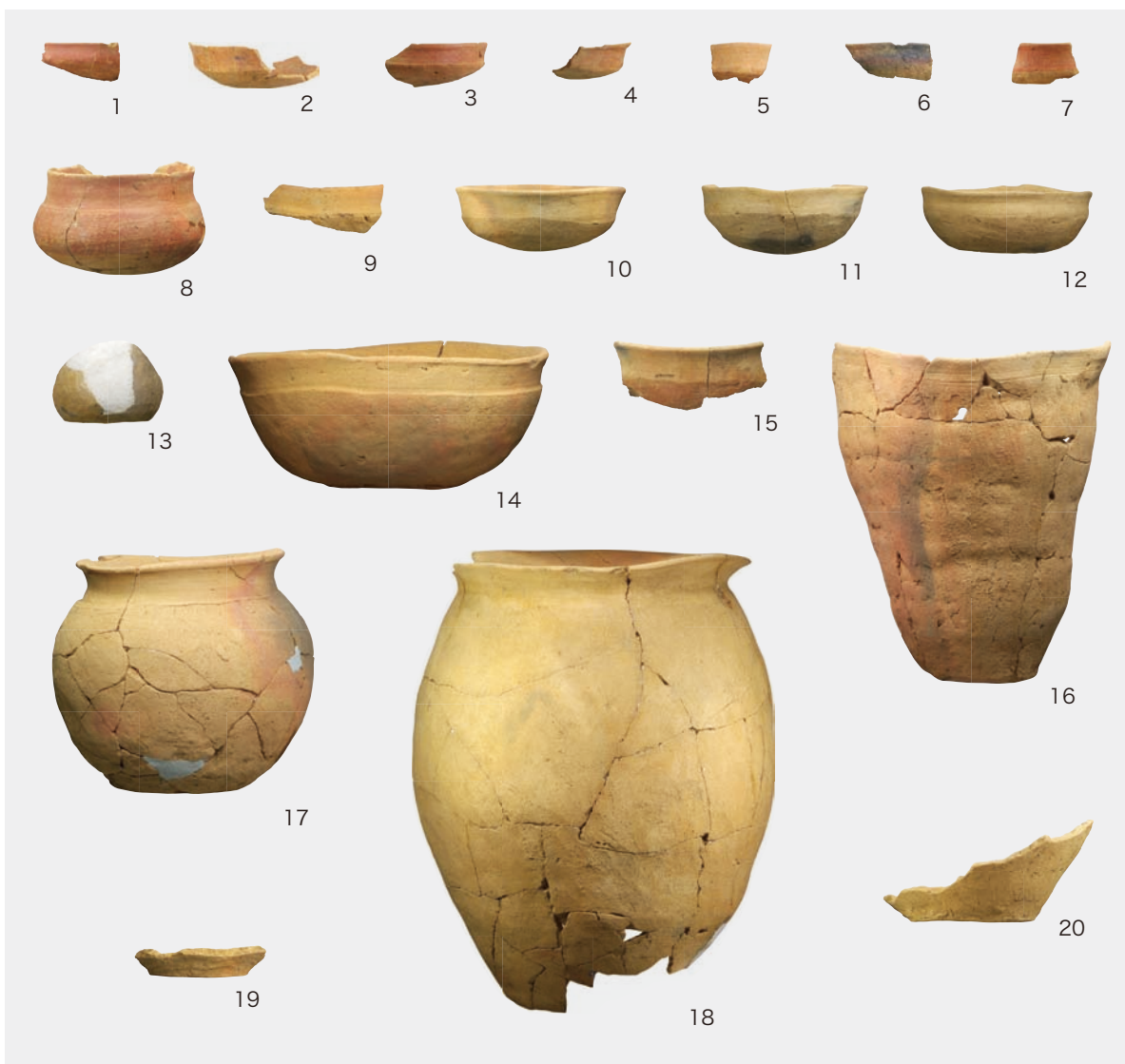
203 号住居跡出土遺物 2



204 号住居跡出土遺物



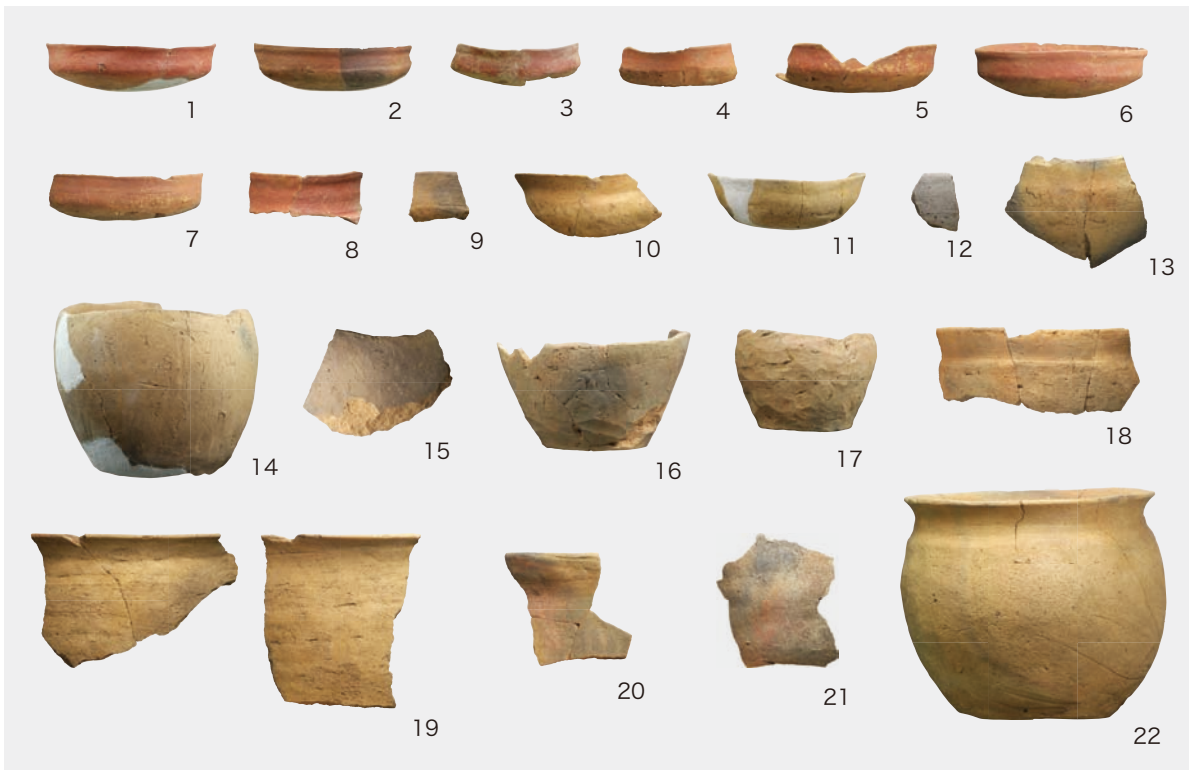
207号住居跡出土遺物



209号住居跡出土遺物 1



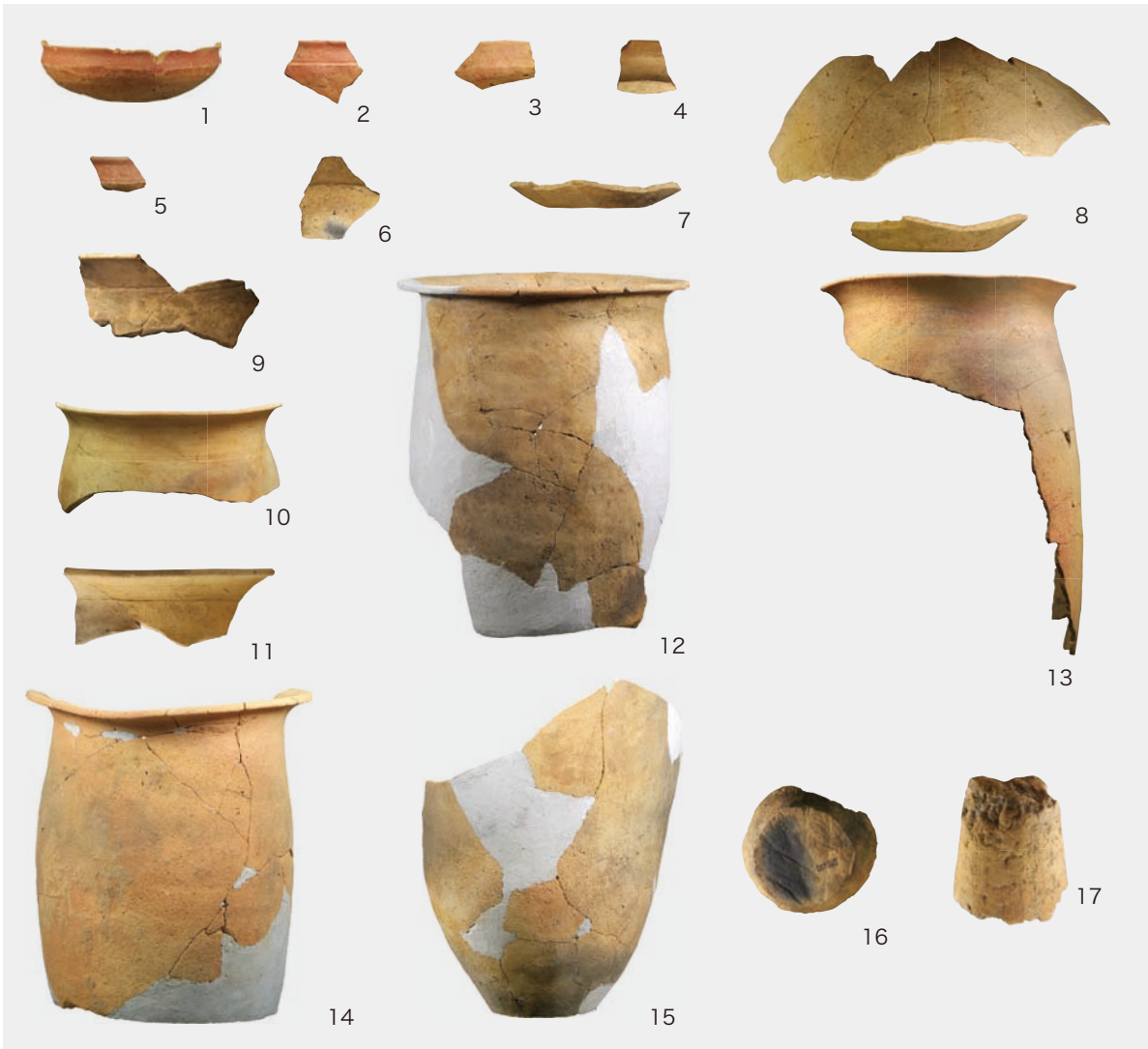
209 号住居跡出土遺物 2



211 号住居跡出土遺物 1



211号住居跡出土遺物2



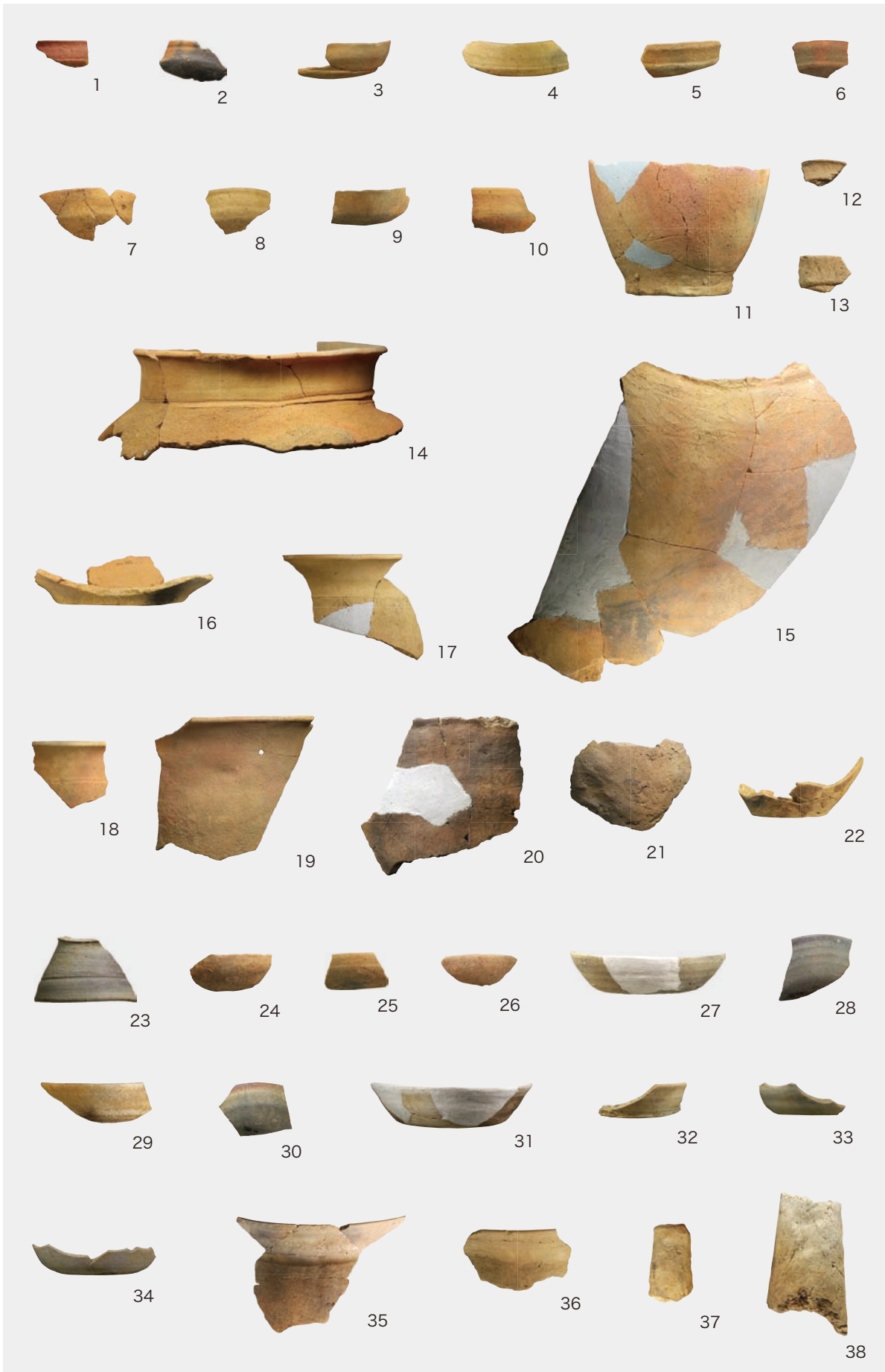
213 号住居跡出土遺物



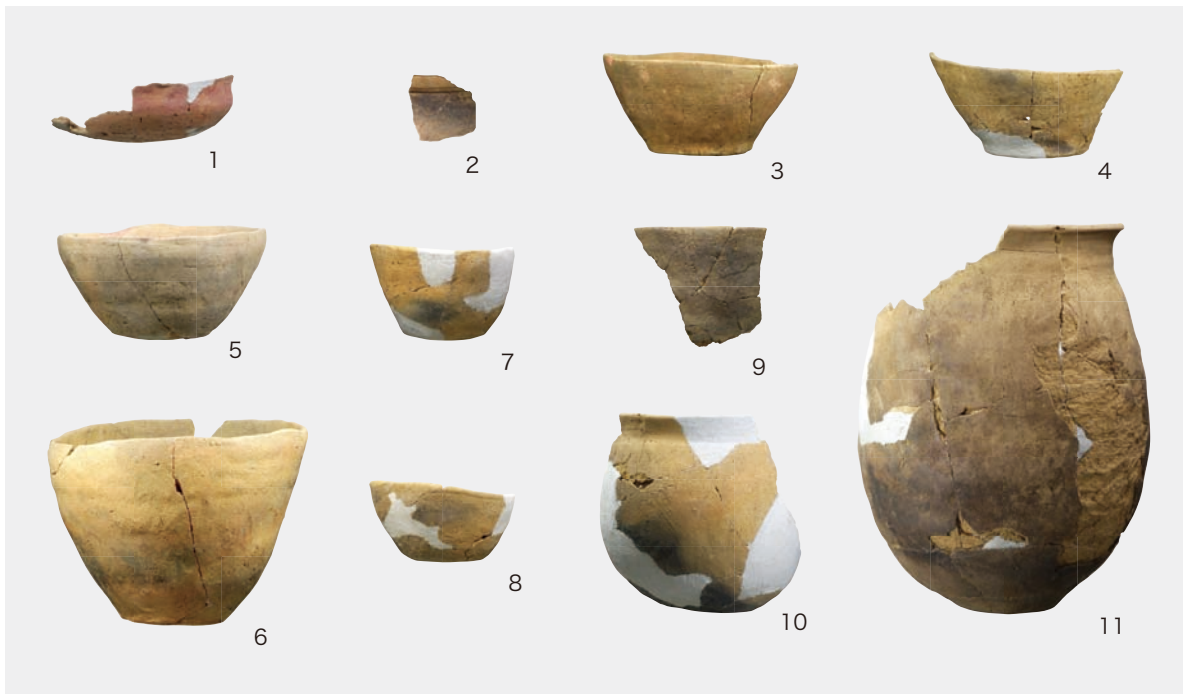
214 号住居跡出土遺物 1



214 号住居跡出土遺物 2



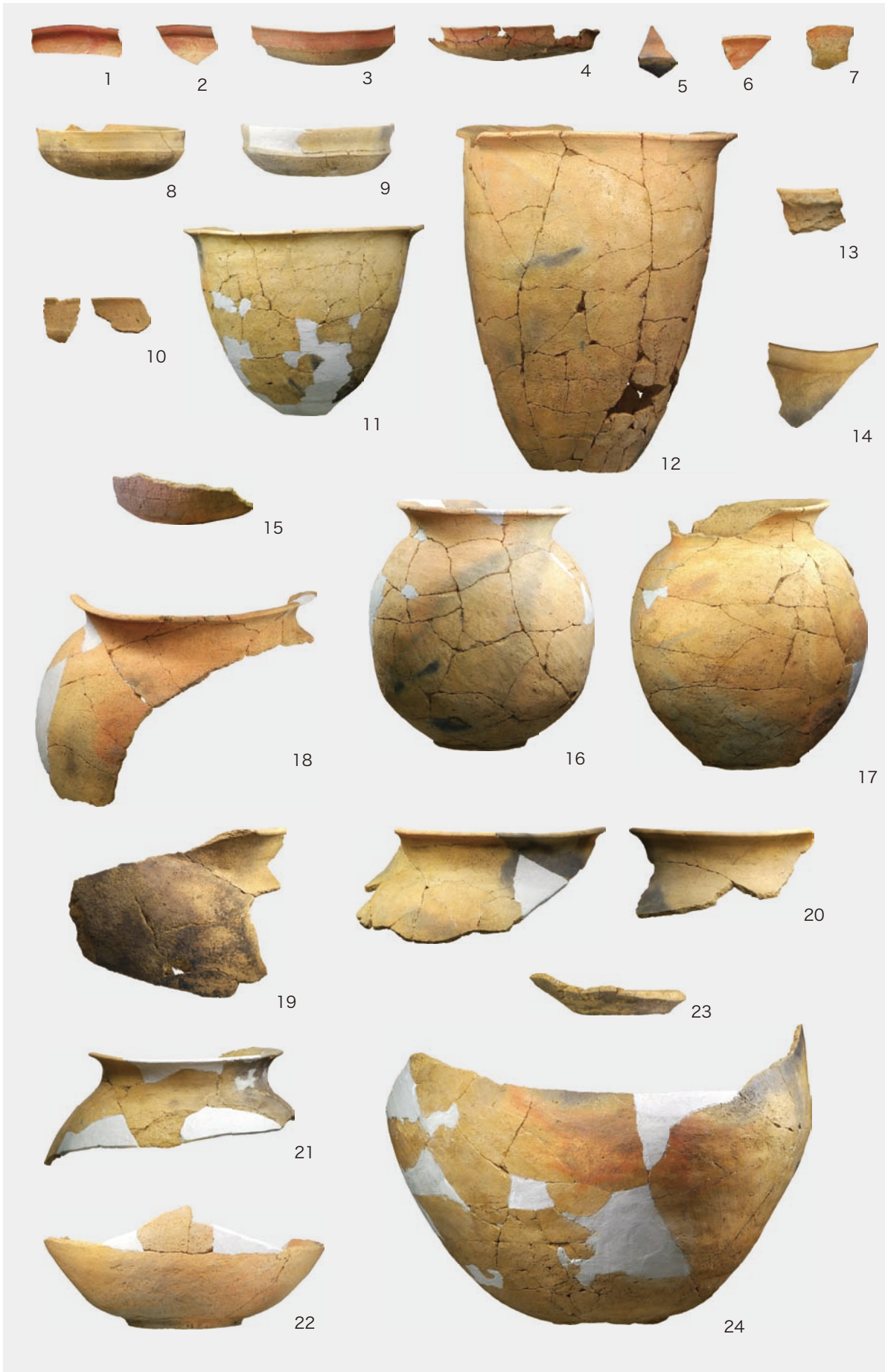
215 号住居跡出土遺物



216号住居跡出土遺物



217号住居跡出土遺物



218 号住居迹出土遗物 1



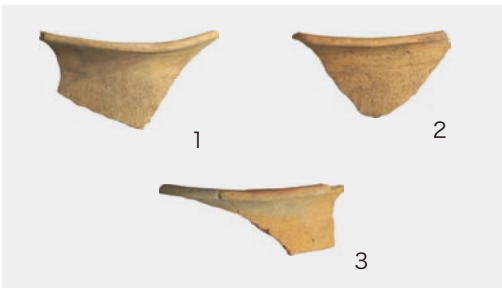
218 号住居跡出土遺物 2



219 号住居跡出土遺物



220 号住居跡出土遺物



221 号住居跡出土遺物



222 号住居跡出土遺物 1



222 号住居跡出土遺物 2



223 号住居跡出土遺物



224 号住居跡出土遺物



224 号住居跡出土遺物

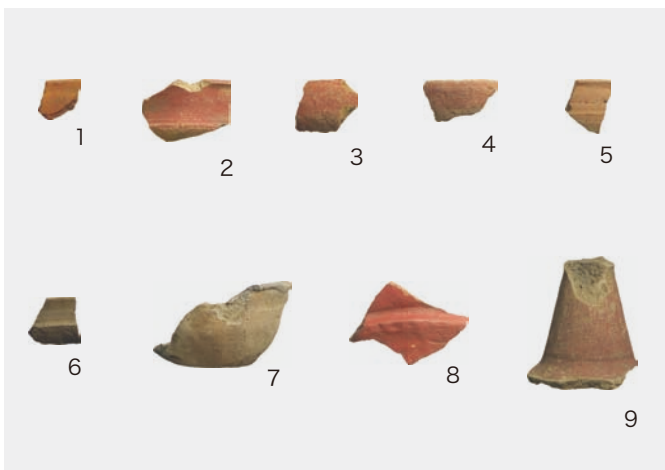


225 号住居跡出土遺物



226 号住居跡出土遺物

227 号住居跡出土遺物



228 号住居跡出土遺物



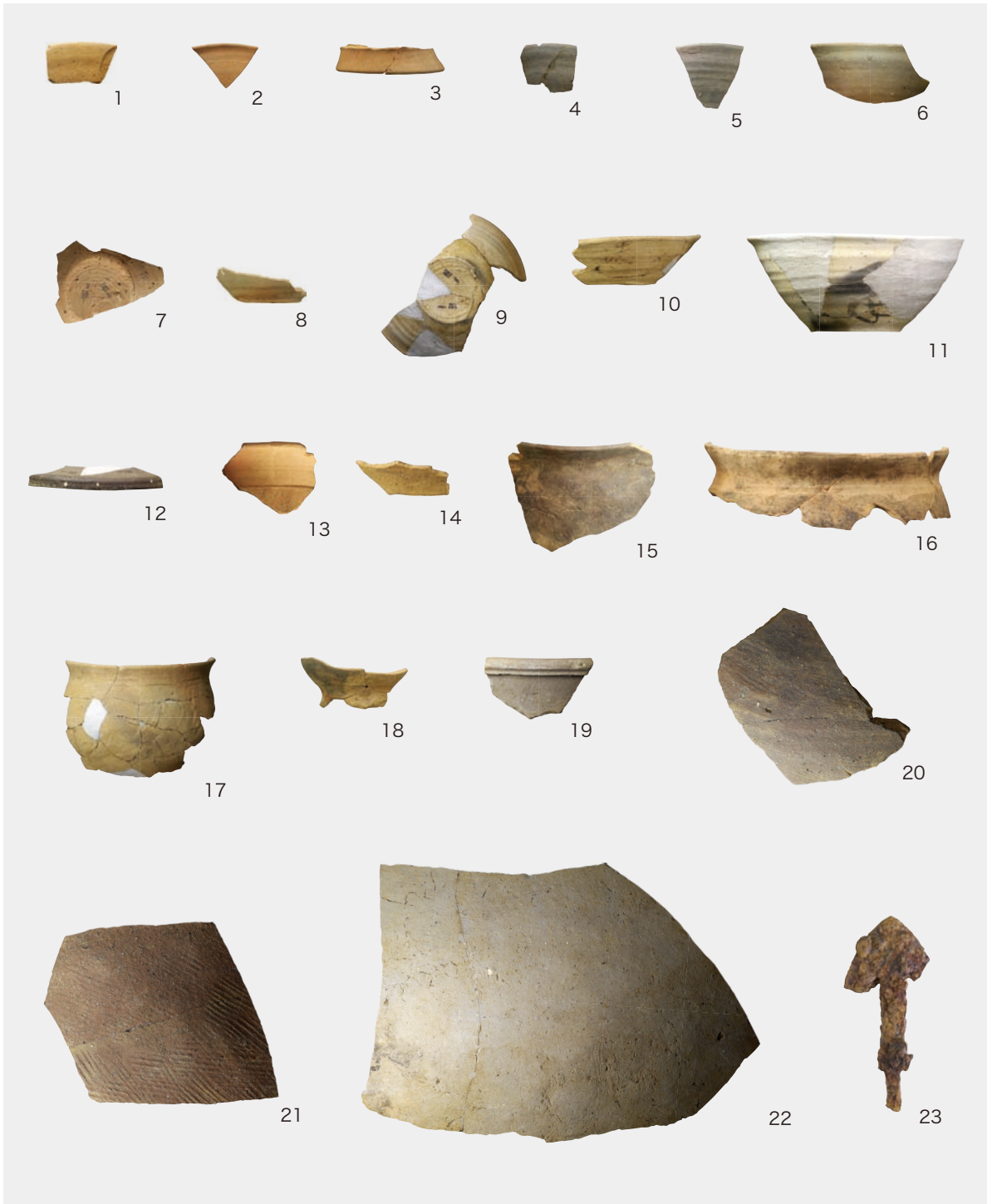
229 号住居跡出土遺物



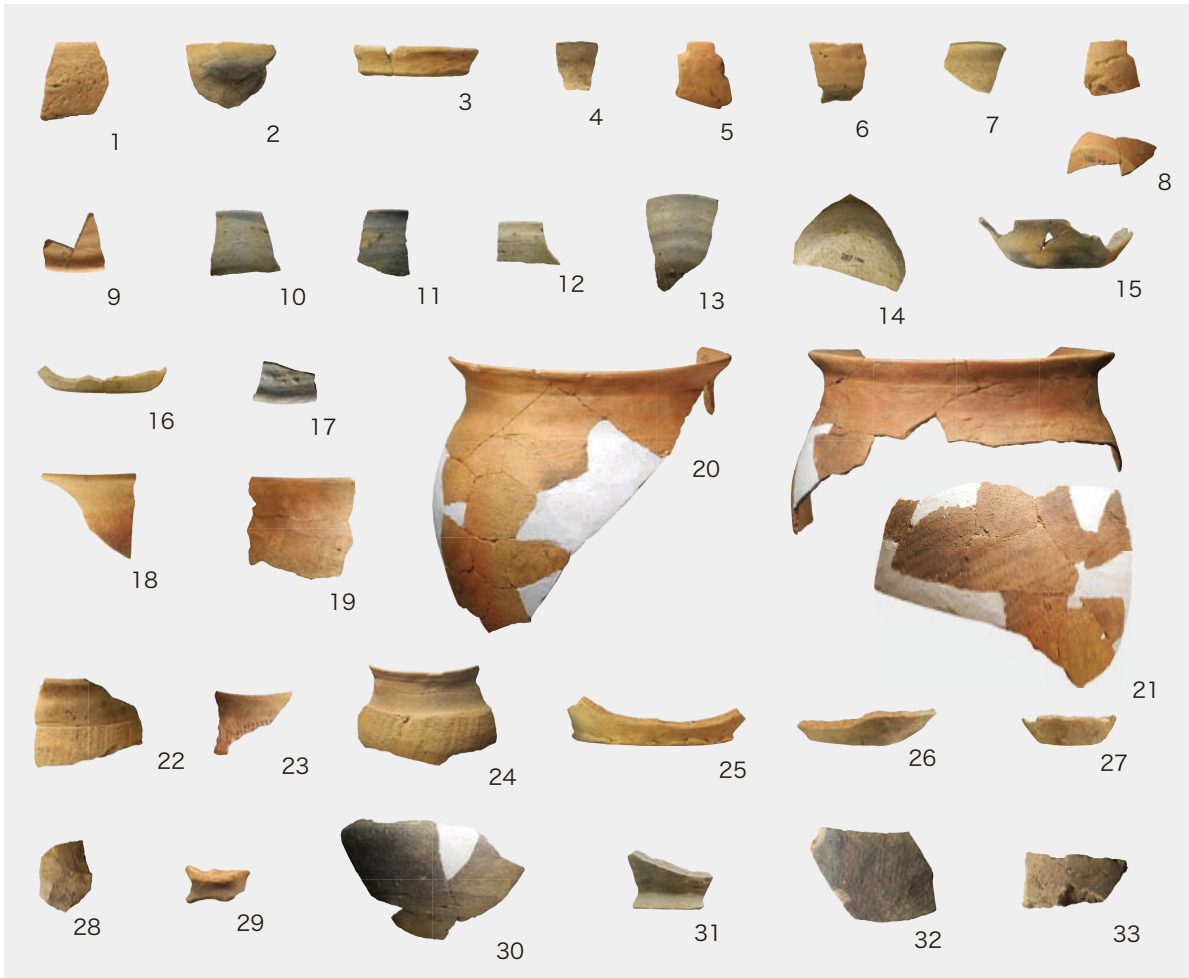
94号ピット出土遺物



195号住居跡出土遺物



198号住居跡出土遺物



199 号住居跡出土遺物



201 号住居跡出土遺物



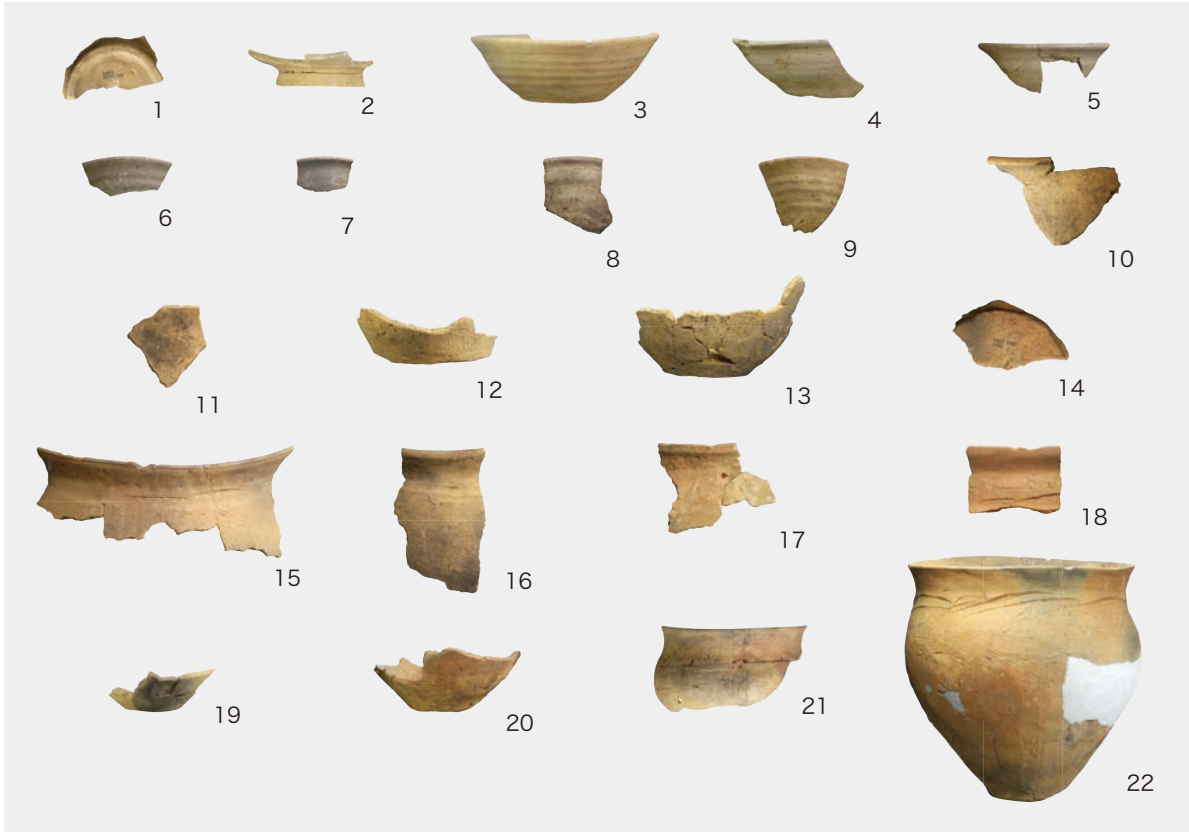
202 号住居跡出土遺物



205号住居跡出土遺物



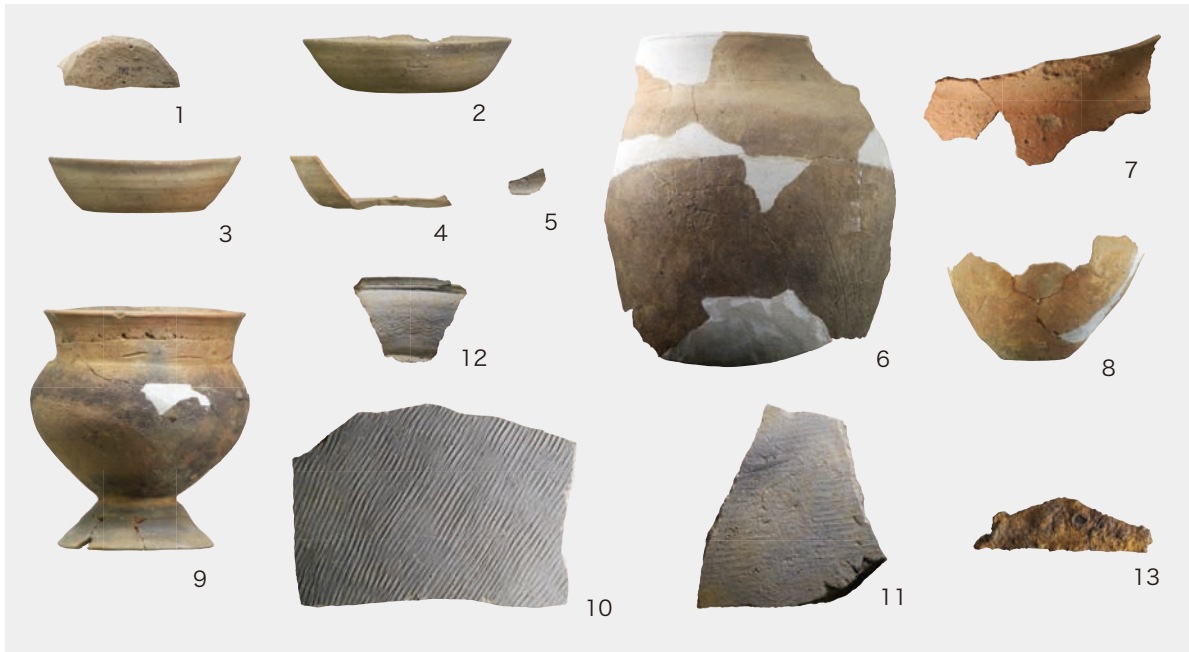
206号住居跡出土遺物



208 号住居跡出土遺物



210 号住居跡出土遺物



第 60 地点 212 号住居跡出土遺物



第 58 地点 6 号掘立柱建築遺構出土遺物



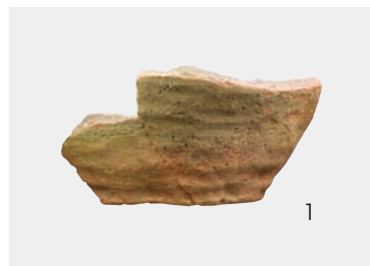
38 号溝跡出土遺物



第 60 地点 49 号ピット出土遺物



第 58 地点 381 号土坑出土遺物



390 号土坑出土遺物



392 号土坑出土遺物



398 号土坑出土遺物



399 号土坑出土遺物



401 号土坑出土遺物



403 号土坑出土遺物



404 号土坑出土遺物



414 号土坑出土遺物



415 号土坑出土遺物



416 号土坑出土遺物



413 号土坑出土遺物 1



413 号土坑出土遺物 2



第 58 地点 433 号土坑出土遺物



434 号土坑出土遺物



435 号土坑出土遺物



439 号土坑出土遺物



第 60 地点 459 号土坑出土遺物



465 号土坑出土遺物



483 号土坑出土遺物



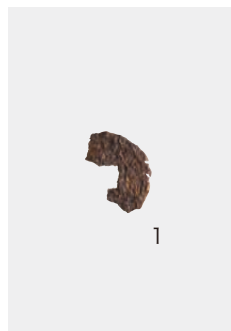
496 号土坑出土遺物



511 号土坑出土遺物



512 号土坑出土遺物



513 号土坑出土遺物



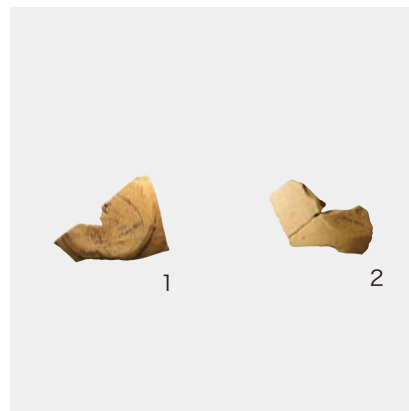
515 号土坑出土遺物



518 号土坑出土遺物



547 号土坑出土遺物



553 号土坑出土遺物



554 号土坑出土遺物



561 号土坑出土遺物



31 号井戸跡出土遺物



第 58 地点 34 号沟迹出土遗物



35 号沟迹出土遗物



36 号沟迹出土遗物



37 号沟迹出土遗物



第 60 地点 39 号沟迹出土遗物



40 号沟迹出土遗物



42 号沟迹出土遗物



43 号沟迹出土遗物



45 号沟迹出土遗物



46 号沟迹出土遗物

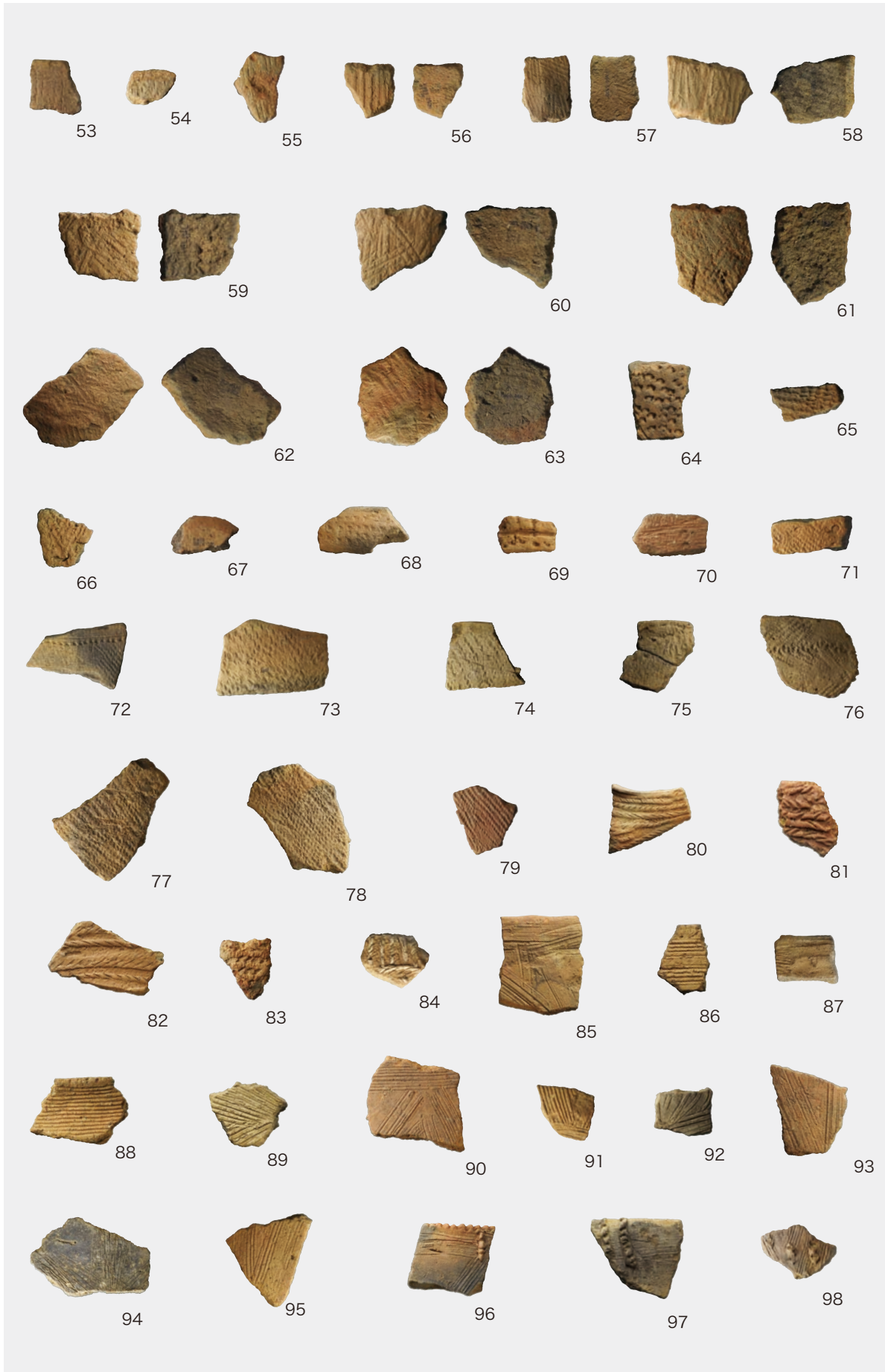


第 58 地点 27 号ピット出土遺物

第 60 地点 69 号ピット出土遺物



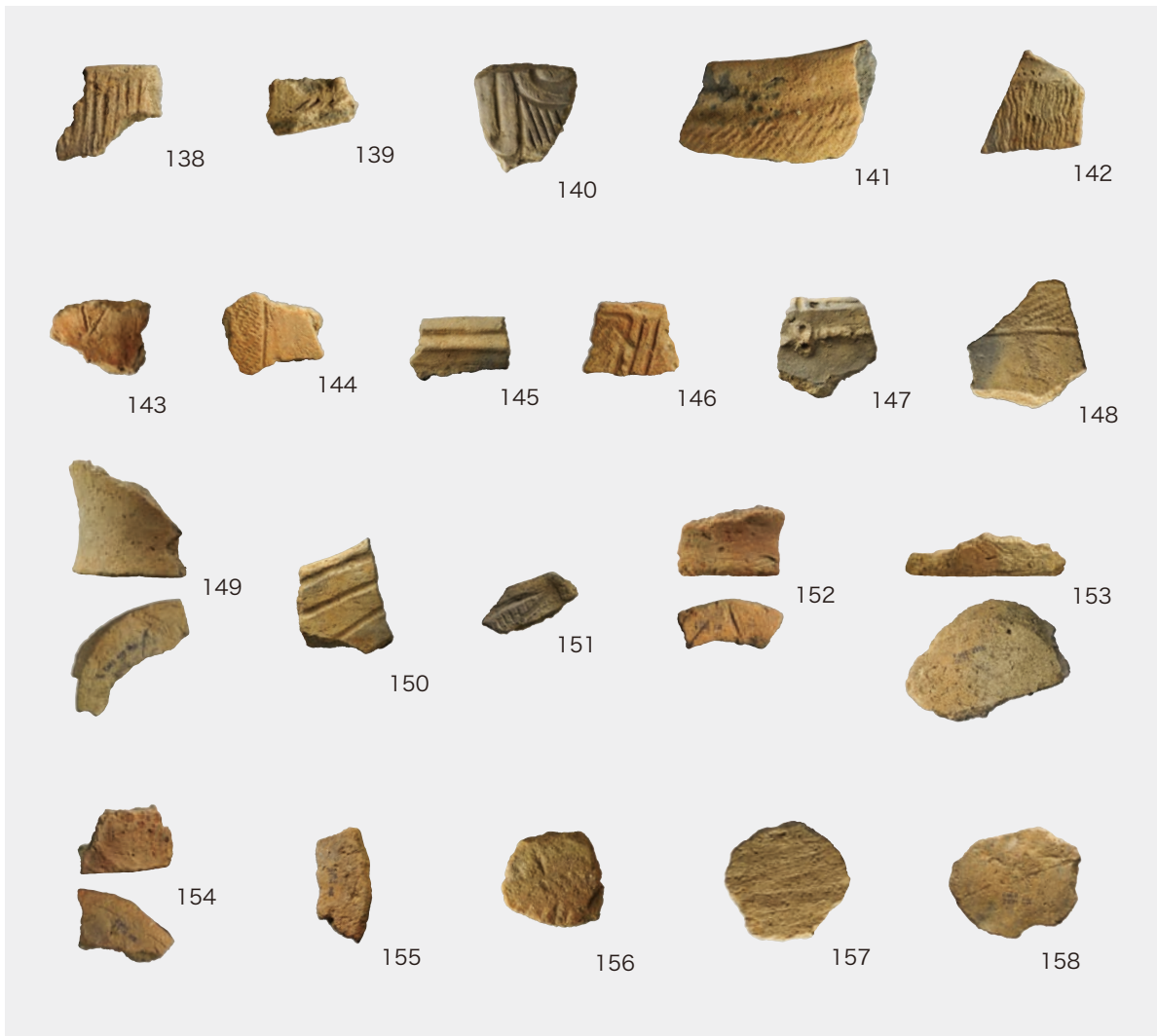
第 58 地点 遺構外出土遺物 1



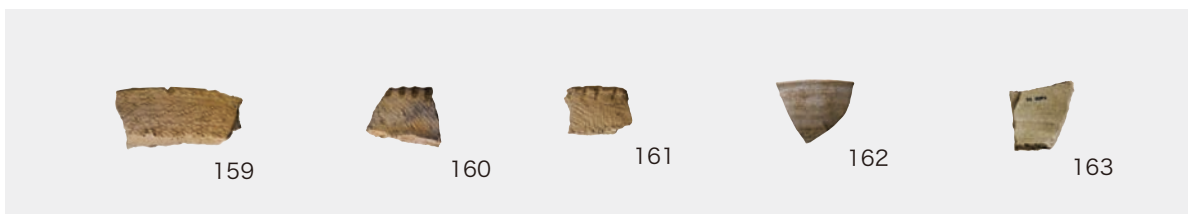
第 60 地点 遺構外出土遺物 2



第 60 地点 遺構外出土遺物 3



第 60 地点 遺構外出土遺物 4



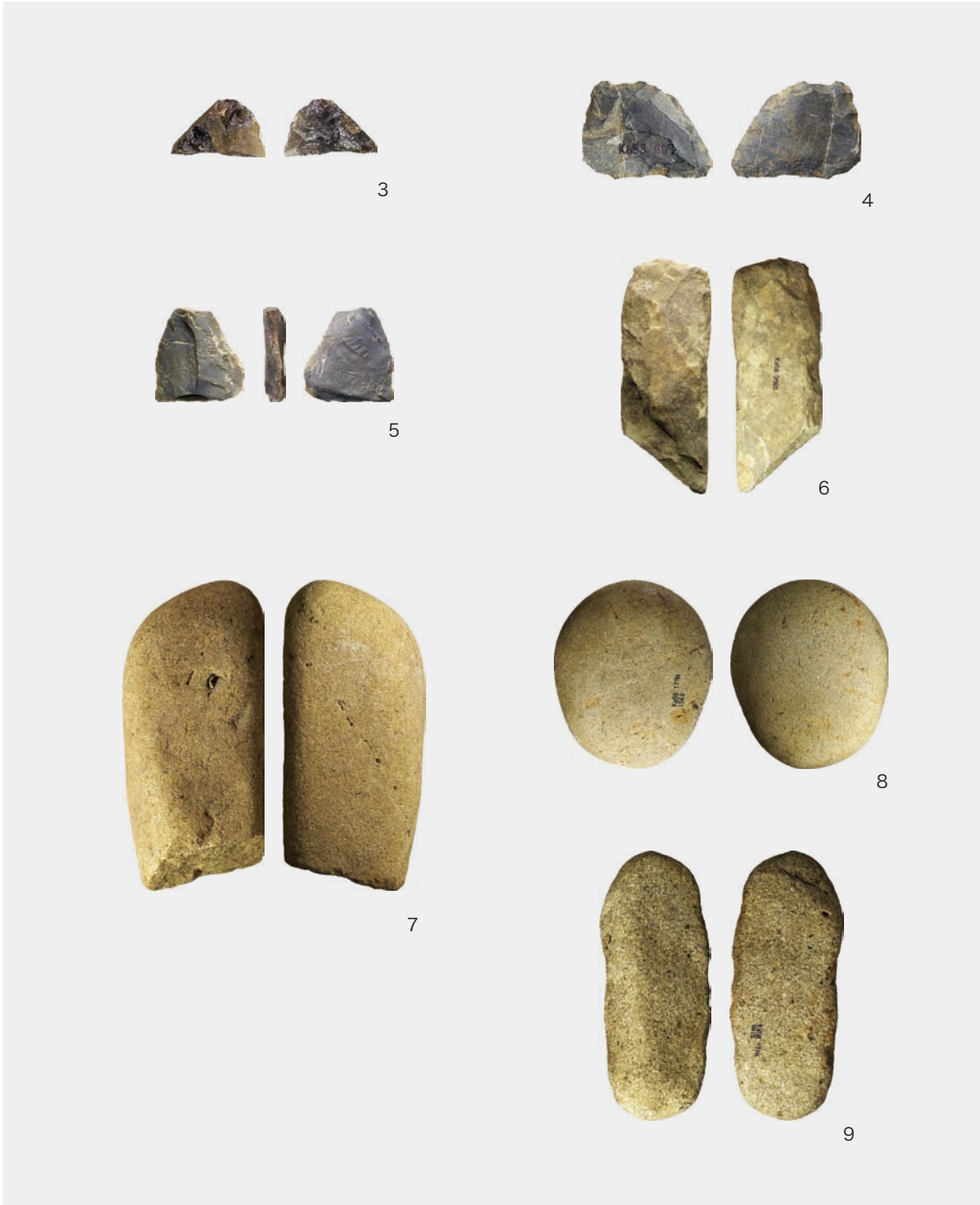
第 58 地点 遺構外出土遺物 5



第 60 地点 遺構外出土遺物 6



第 60 地点 遺構外出土石器 1



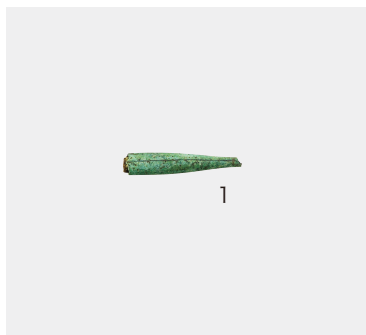
第 58 地点 遺構外出土石器 2



第 60 地点 遺構外出土石器 3



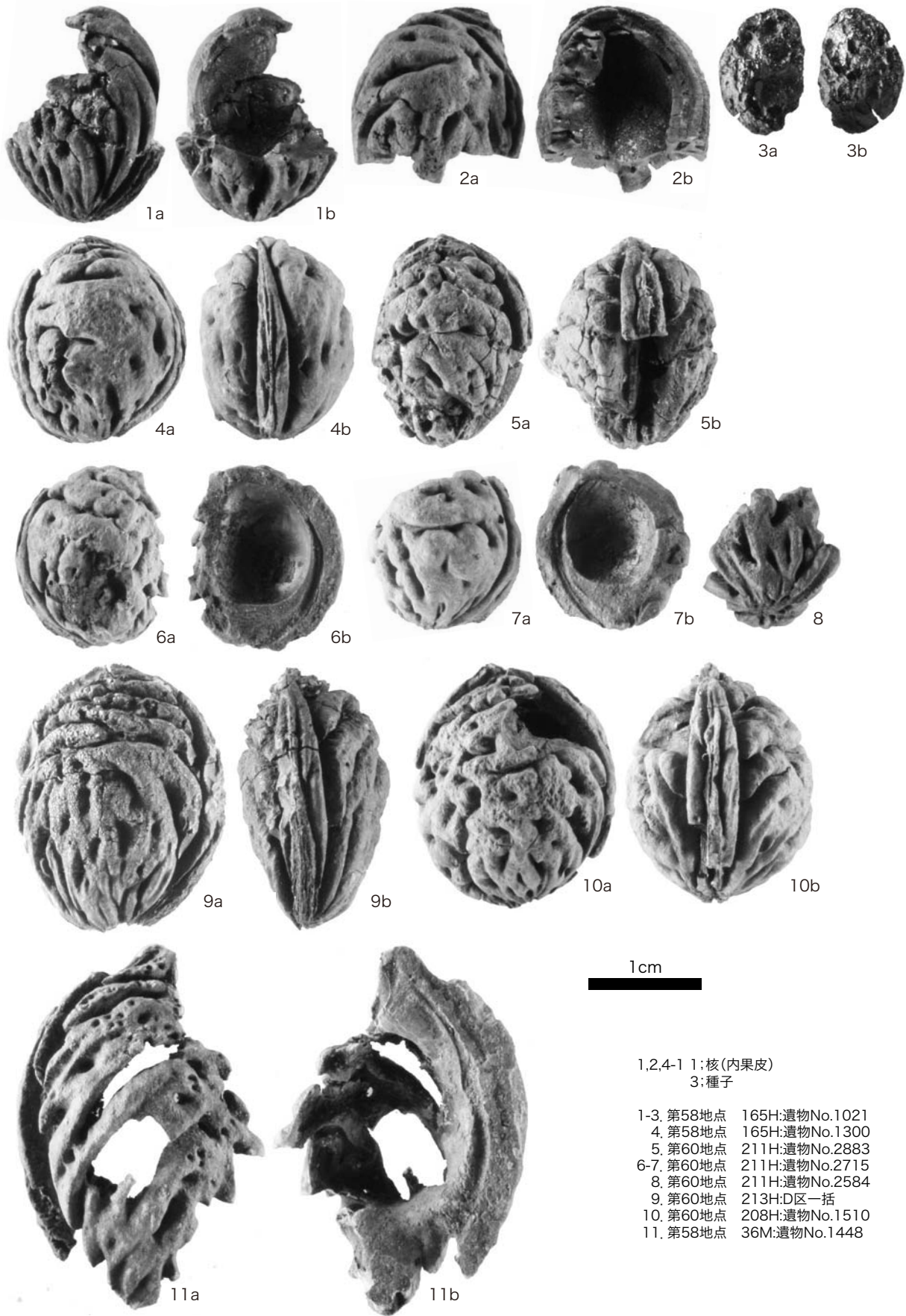
第 60 地点 遺構外出土石器 4



第 60 地点 遺構外出土金属製品



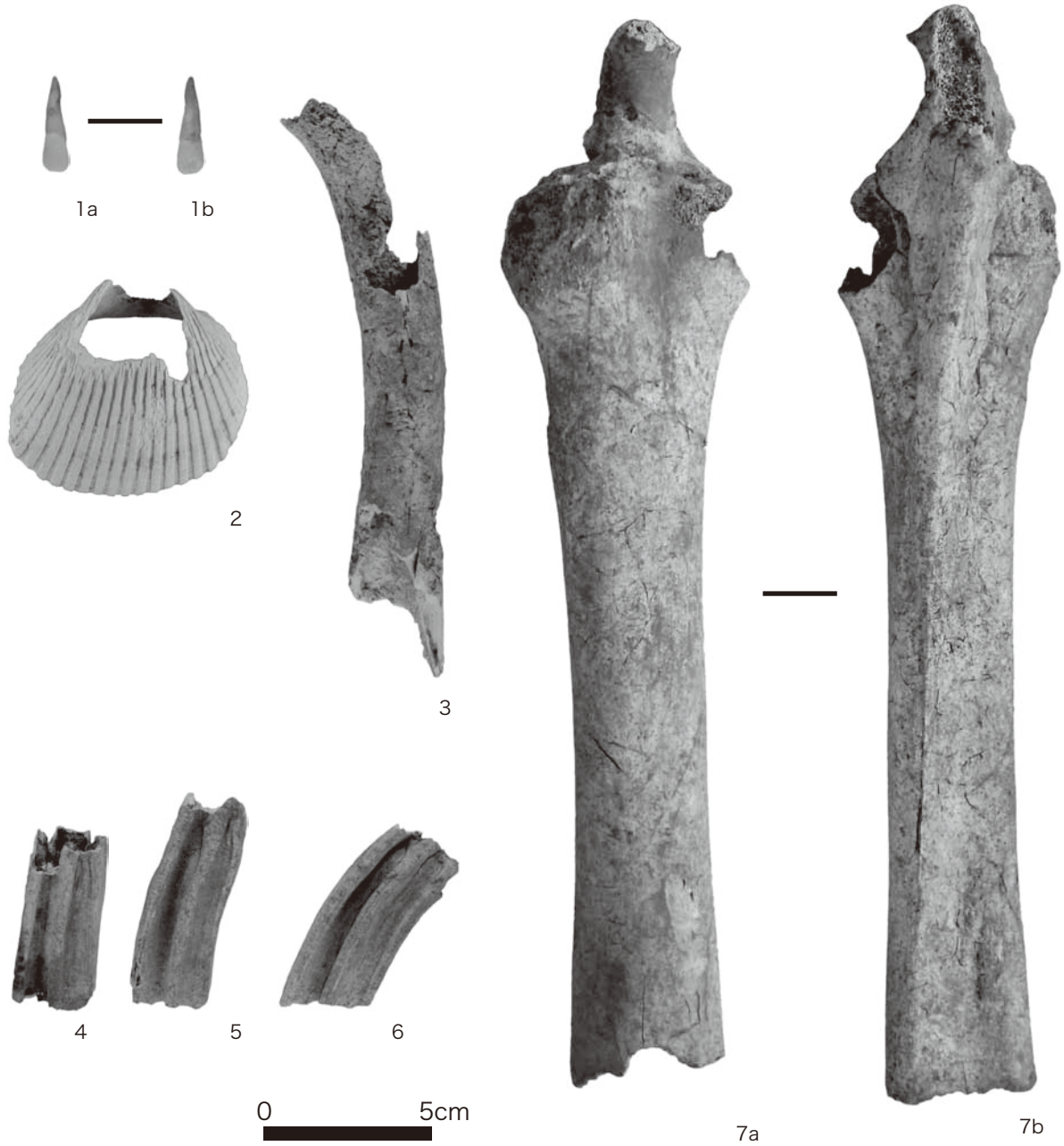
第 60 地点 遺構外出土錢貨



1,2,4-1 1:核(内果皮)
3:種子

- 1-3, 第58地点 165H:遺物No.1021
- 4, 第58地点 165H:遺物No.1300
- 5, 第60地点 211H:遺物No.2883
- 6-7, 第60地点 211H:遺物No.2715
- 8, 第60地点 211H:遺物No.2584
- 9, 第60地点 213H:D区一括
- 10, 第60地点 208H:遺物No.1510
- 11, 第58地点 36M:遺物No.1448

モモ核・種子



1.ヒト右上顎犬歯(Ka58 413D;遺物番号1435) 2.サトウガイ右殻(Ka58 413D;遺物番号貝一括)
3.獣類大腿骨?(Ka60 215H;遺物番号2204) 4.ウマ左上顎第1後臼歯(Ka60 215H;遺物番号2205)
5.ウマ左上顎第2後臼歯(Ka60 215H;遺物番号2206) 6.ウマ左上顎第3後臼歯(Ka60 215H;遺物番号2207)
7.ウマ左橈骨+尺骨(Ka60 496D;遺物番号498)

出土骨貝類

報 告 書 抄 録

ふりがな	しろやまいせきだい 58・60 ちてんはつくつちょうさほうこくしよ		
書名	城山遺跡第 58・60 地点発掘調査報告書		
副書名		巻次	
シリーズ名	志木市遺跡調査会調査報告	巻次	第 17 集
編著者	尾形則敏 藤波啓容 鈴木徹 中村真理		
編集機関	志木市遺跡調査会		
所在地	〒 353 - 0002 埼玉県志木市中宗岡 1 丁目 1 番 1 号 TEL 048 (473) 1111		
発行年月日	平成 20 (2008) 年 12 月 31 日		

ふりがな 所収遺跡名	ふりがな 所在地	コード		北緯 (°'")	東経 (°'")	調査期間	調査面積 (m ²)	調査原因
		市町村	遺跡番号					
しろやまいせき 城山遺跡 だいちてん (第 58 地点)	しきしかしわちやう 志木市柏町 ちやうめ 3 丁目 2946-6 他	11228	003	35° 49'	139° 34'	20060629 ～ 20060828	675.44 (880.77) m ²	道路新設 工事
						20070215 ～ 20070612	2166 (5332.66) m ²	
しろやまいせき 城山遺跡 だいちてん (第 60 地点)	しきしかしわちやう 志木市柏町 ちやうめ 3 丁目 2643-1 他			53"	12"			

所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項
しろやまいせき 城山遺跡 だいちてん (第 58 地点)	集 落	縄文時代	土坑 3 基 炉穴 1 基	土器 土器	185 号住居跡 より土鈴が出土
		古墳時代	住居跡 20 軒	土師器・須恵器・土製品・石器・金属製品	
		奈良・平安時代	掘立柱建 築遺構 2 棟 溝跡 1 本 土坑 72 基	灰釉陶器 土師器・ 土器・陶磁器・土製品・ 石器・金属製品・銭貨	
		中世以降	溝跡 4 本 道路状遺構 1 本 ピット 16 基	陶磁器	
しろやまいせき 城山遺跡 だいちてん (第 60 地点)	集 落	縄文時代	土坑 1 基 炉穴 3 基 集石 3 基	土器 土器 土器	224 号住居跡 より土製鏡形 模造品・勾玉 が出土
		古墳時代	住居跡 32 軒	土師器・須恵器・土製品・石器・金属製品	
		奈良・平安時代	ピット 1 基 住居跡 10 軒	土師器 土師器・須恵器・土製品・石器・金属製品	
		中世以降	ピット 2 基 土坑 141 基	須恵器 土器・陶磁器・石器・ 金属製品・銭貨	
			溝跡 8 本	土器・陶磁器・土製品・ 石器・金属製品・銭貨	
			井戸 5 基 ピット 92 基	土器・陶器 陶器・銭貨	

志木市遺跡調査会調査報告 第17集

城山遺跡第58・60地点

埋蔵文化財発掘調査報告書

発行 埼玉県志木市遺跡調査会

埼玉県志木市中宗岡1丁目1番1号

発行日 平成20(2008)年12月31日

印刷 有限会社 平電子印刷所